

2011(平成23)年9月実施

# 第40回 足立区政に関する世論調査

定住性 / 災害対策 / 東日本大震災 / 耐震診断、耐震改修 /  
浸水被害に備え意識していること / 保健・医療 / 自殺対策 / 高齢者等に対する介護 /  
「ビューティフル・ウィンドウズ運動」 / 人権 / 区政

## はじめに

昨年 9 月、区内 3 千人の皆様にご協力いただいた「世論調査」の結果がまとまりましたのでご報告いたします。

この度の調査では「東日本大震災」発生当日の状況や、その後の震災対策などに関して重点的に伺いました。

震災後、区では備蓄品の充実、耐震対策の強化、老朽危険建築物撤去のための条例制定など、積極的に対策を打ってまいりました。更に、液状化や津波などの対策についても国・都・関係自治体との連携のもと、対応を探っております。

今後も「災害に強いまち 足立」の実現に向け施策を進めてまいります。何といたっても肝心なのは、区民の皆様お一人おひとりの「備え」です。この度の経験を風化させることなく、自助・共助の強化にご協力ください。

区制 80 周年を迎える本年、4 月には東京電機大学の開設、秋には竹ノ塚駅付近の立体化工事着手など、当区はまだまだ変化の真っ只中にあります。単なる「住みやすさ」で終わらない、「誇りの持てるまち」をめざす区政運営に、皆様のご理解・ご協力を心よりお願い申し上げます。

平成 24 年 3 月

足立区長 近藤 やよい

# 目次

---

## はじめに

### 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	調査ブロック	4
5	調査方法	5
6	回収結果	5
7	報告書の見方	7
8	標本構成	10

### 調査結果の要約

1	定住性	15
2	災害対策	16
3	東日本大震災	17
4	耐震診断、耐震改修	19
5	浸水被害に備え意識していること	21
6	保健・医療	21
7	自殺対策	22
8	高齢者等に対する介護	23
9	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	24
10	人権	26
11	区政	26

### 調査結果の分析

1	定住性	
	(1) お住まいの地域についての感じ方	33
	(2) 総合的な暮らしやすさ	70
	(3) 定住・移転意向	75
2	災害対策	
	(1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度	83
	(2) 備蓄や防災用具などの用意	90
	(2-1) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期	93
	(2-2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	95
	(2-3) 家庭での備蓄の量	97
	(3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況	102
	(3-1) 防災訓練へ参加しない理由	105

---

3	東日本大震災	
(1)	3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況	111
(1-1)	帰宅が困難になった際の対応	114
(1-2)	帰宅が困難になった際に困ったこと	117
(2)	震災発生の際に遭遇したこと	119
(3)	震災発生の直後に行ったこと	121
(4)	災害弱者・災害時要援護者の有無	123
(4-1)	災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無	126
(5)	大地震が起きたとき不安に思うこと	129
(6)	大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと	131
4	耐震診断、耐震改修	
(1)	お住まいの建物の建築時期	135
(2)	お住まいの建物の耐震診断の実施状況	139
(2-1)	耐震診断をしていない理由	142
(3)	お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況	144
(3-1)	耐震改修工事をしていない理由	147
(3-2)	耐震診断や耐震改修工事について相談の有無	149
(4)	耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度	151
(5)	耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向	154
(6)	転倒防止対策をしているか	159
(7)	家具転倒防止器具取付工事などの助成制度の認知度	162
5	浸水被害に備え意識していること	
(1)	「足立区洪水ハザードマップ」の認知度	167
(2)	水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について	170
6	保健・医療	
(1)	保健と医療について	177
7	自殺対策	
(1)	自殺についての考え	183
(2)	本気で自殺したいと考えたことがあるか	190
(2-1)	最近1年以内に自殺したいと考えたことがあるか	192
(2-2)	自殺しようと考えたとき相談した相手	194
(3)	身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応	196

# 目次

---

8	高齢者等に対する介護	
(1)	「成年後見制度」の認知度	201
(2)	介護が必要な家族がいるか	203
(2-1)	介護が必要な方との関係	205
(2-2)	介護が必要な方のお住まいの場所	207
(3)	介護をしているか	209
(3-1)	介護をしているなかで困っていること	211
9	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	
(1)	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度	215
(2)	自転車に鍵をかけているか	218
(2-1)	自転車に付いている錠	221
(2-2)	駐輪場を利用しているか	223
(3)	地域の変化についての評価	226
(4)	環境のために心がけていること	234
(5)	「クーリング・オフ」制度の認知度	236
(6)	この1年間に参加された活動	238
(6-1)	引き続き、または今後参加したいと思う活動	241
(7)	区政への参加・協力意向	244
10	人権	
(1)	人権についての関心	249
(2)	男女の地位の平等感	251
11	区政	
(1)	以前と比べてよくなったと思う区の取り組み	255
(1-1)	今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み	258
(2)	区の取り組みについての評価・印象	265
(3)	区政への区民の意見の反映について	271
(4)	区政に対する満足度	274
(5)	区に対する気持ち	278
	使用した調査票	287

# 調査の概要



# 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

## 2 調査の内容

今回の調査では、次の11項目について調査した。

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| (1) 定住性             | (7) 自殺対策               |
| (2) 災害対策            | (8) 高齢者等に対する介護         |
| (3) 東日本大震災          | (9) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」 |
| (4) 耐震診断、耐震改修       | (10) 人権                |
| (5) 浸水被害に備え意識していること | (11) 区政                |
| (6) 保健・医療           |                        |

## 3 調査の設計

- |              |                         |
|--------------|-------------------------|
| (1) 調査地域     | 足立区全域                   |
| (2) 調査対象     | 足立区在住の満20歳以上の男女個人       |
| (3) 標本数      | 3,000 サンプル              |
| (4) 調査対象者の抽出 |                         |
| 抽出台帳         | 足立区住民基本台帳・外国人登録原票       |
| 抽出方法         | 単純無作為抽出法                |
| (5) 調査期間     | 平成23年9月26日(月)～10月26日(水) |
| (6) 調査機関     | (株)エスピー研                |

## 4 調査ブロック

図1 ブロック区分図

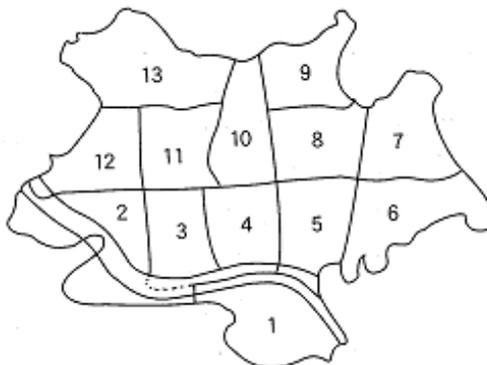


表1 調査ブロック - 町丁目対応表

ブロック名	地 区 町 丁 目 名
第1ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第4ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第7ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第8ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第9ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第10ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第11ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22を除く])
第12ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第13ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興町、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

## 5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法(督促状1回)  
(2) 調査票 章の調査票を使用

## 6 回収結果

- (1) 標本数 3,000 票  
(2) 有効回答数 1,623 票 有効回収率 54.1 %  
(3) 回収不能数 1,377 票 回収不能率 45.9 %

### (4) 地区別回収結果

表2 調査ブロック - 地区別回収結果

ブロック名	20歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	554,673人	100.0%	3,000票	1,623票	54.1%
第1ブロック	61,860	11.2	336	192	57.1
第2ブロック	38,798	7.0	211	100	47.4
第3ブロック	35,745	6.4	194	112	57.7
第4ブロック	46,515	8.4	253	147	58.1
第5ブロック	51,806	9.3	281	158	56.2
第6ブロック	60,133	10.8	327	177	54.1
第7ブロック	45,143	8.1	245	130	53.1
第8ブロック	35,873	6.5	195	106	54.4
第9ブロック	27,060	4.9	147	76	51.7
第10ブロック	47,706	8.6	260	139	53.5
第11ブロック	35,430	6.4	192	107	55.7
第12ブロック	29,754	5.4	162	84	51.9
第13ブロック	38,850	7.0	197	94	47.7
ブロック不明				1	0.0

(20歳以上人口は平成23年4月1日現在)

( 5 ) 性別・年代別回収結果

表 3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000 票	1,623 票	54.1%
男性 (計)	1,482	678	45.7
20 代	213	52	24.4
30 代	329	123	37.4
40 代	275	111	40.4
50 代	196	106	54.1
60 代	246	147	59.8
70 歳以上	223	136	61.0
女性 (計)	1,518	896	59.0
20 代	204	74	36.3
30 代	288	174	60.4
40 代	238	142	59.7
50 代	197	128	65.0
60 代	247	178	72.1
70 歳以上	344	196	57.0
無 回 答		49	

## 7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 基数となるべき実数は、nで表している。nは、回答者総数または該当設問の該当者数である。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 性・年代などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (6) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (7) 問3の定住・移転意向における『定住意向(計)』のように、「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用している。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満20歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の算出式と早見表を示した。

標本誤差および早見表は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,623人のうち39.5%であった。回答者数が1,623人、回答率が40%前後のときの標本誤差は、早見表では±2.43%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満20歳以上の男女全体(母集団)の37.07%から41.93%であると推定できる。

### 標本誤差算出式

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
N = 母集団数(足立区の20歳以上人口)
n = 比率算出の基数(回答者数)
P = 回答の比率(0 ≤ P ≤ 1)

## 早見表

回答の比率 (P) 基 数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,623	± 1.49	± 1.99	± 2.27	± 2.43	± 2.48
1,000	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
800	± 2.12	± 2.83	± 3.24	± 3.46	± 3.54
600	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
400	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
200	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
100	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00

## 早見表 - 性・年代別

回答の比率 (P) 基 数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
全 体	1,623	± 1.49	± 1.99	± 2.27	± 2.43	± 2.48
男性 (計)	678	± 2.30	± 3.07	± 3.52	± 3.76	± 3.84
20 代	52	± 8.32	± 11.09	± 12.71	± 13.59	± 13.87
30 代	123	± 5.41	± 7.21	± 8.26	± 8.83	± 9.02
40 代	111	± 5.69	± 7.59	± 8.70	± 9.30	± 9.49
50 代	106	± 5.83	± 7.77	± 8.90	± 9.52	± 9.71
60 代	147	± 4.95	± 6.60	± 7.56	± 8.08	± 8.25
70 歳以上	136	± 5.14	± 6.86	± 7.86	± 8.40	± 8.57
女性 (計)	896	± 2.00	± 2.67	± 3.06	± 3.27	± 3.34
20 代	74	± 6.97	± 9.30	± 10.65	± 11.39	± 11.62
30 代	174	± 4.55	± 6.06	± 6.95	± 7.43	± 7.58
40 代	142	± 5.04	± 6.71	± 7.69	± 8.22	± 8.39
50 代	128	± 5.30	± 7.07	± 8.10	± 8.66	± 8.84
60 代	178	± 4.50	± 6.00	± 6.87	± 7.34	± 7.50
70 歳以上	196	± 4.29	± 5.71	± 6.55	± 7.00	± 7.14

(注) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1}$  1とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1}=1$ として計算した。

( 9 ) 分類に使用した項目の定義

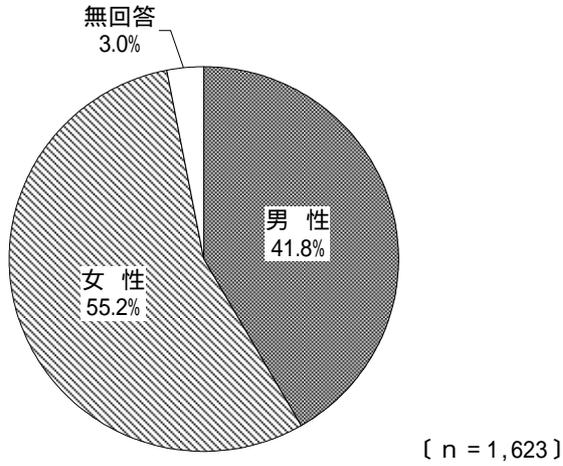
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

地域ブロック別	……	( 13 カテゴリー )
性	別	…… ( 2 カテゴリー )
年代	別	…… ( 6 カテゴリー )
性・年代	別	…… ( 12 カテゴリー )
ライフステージ別	……	( 7 カテゴリー )
・独身期		40 歳未満の独身者
・家族形成期		40 歳未満で子どものいない夫婦、または本人が 64 歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
・家族成長前期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
家族成長小学校期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが小学生の人
家族成長中学校期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが中学生の人
・家族成長後期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
・家族成熟期		本人が 64 歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
・高齢期		本人が 65 歳以上の人
高齢期（ひとり暮らし高齢者）		本人が 65 歳以上でひとり暮らしの人
高齢期（夫婦二人暮らし高齢者）		本人が 65 歳以上で夫婦二人暮らしの人
高齢期（その他の高齢者）		本人が 65 歳以上でひとり暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
・その他壮年期		本人が 40 歳～64 歳で独身、または本人が 40 歳～64 歳で子どものいない夫婦
壮年独身者		本人が 40 歳～64 歳で独身
壮年夫婦のみ者		本人が 40 歳～64 歳で子どものいない夫婦
住居形態別	……	( 9 カテゴリー )
職業	別	…… ( 11 カテゴリー )
就労（就学場所）別	……	( 5 カテゴリー )
居住年数別	……	( 5 カテゴリー )

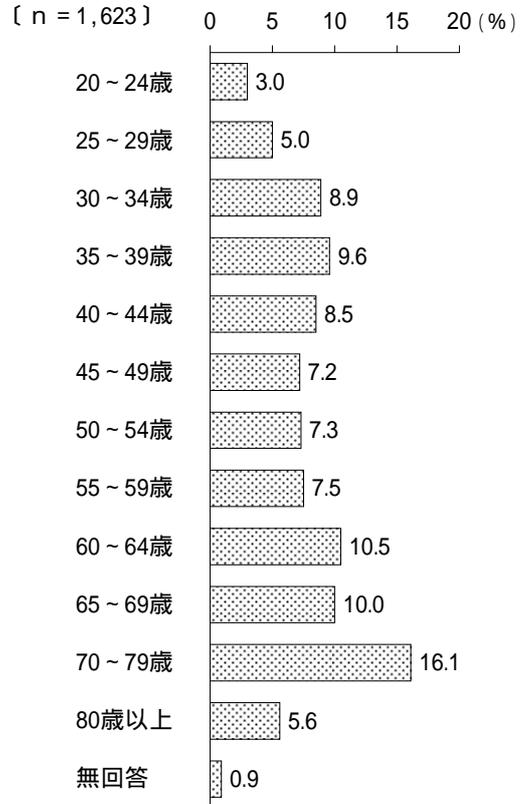
本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

## 8 標本構成

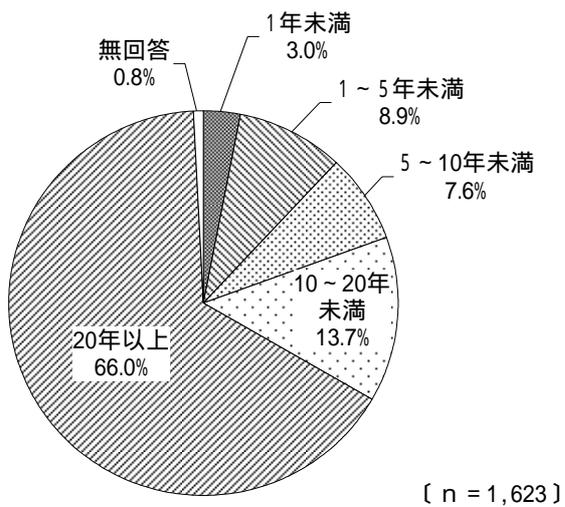
### F 1 性別



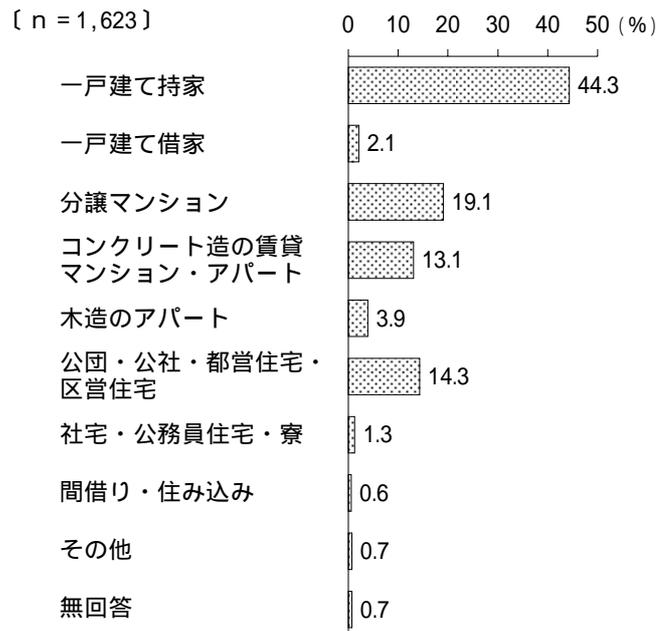
### F 2 年齢



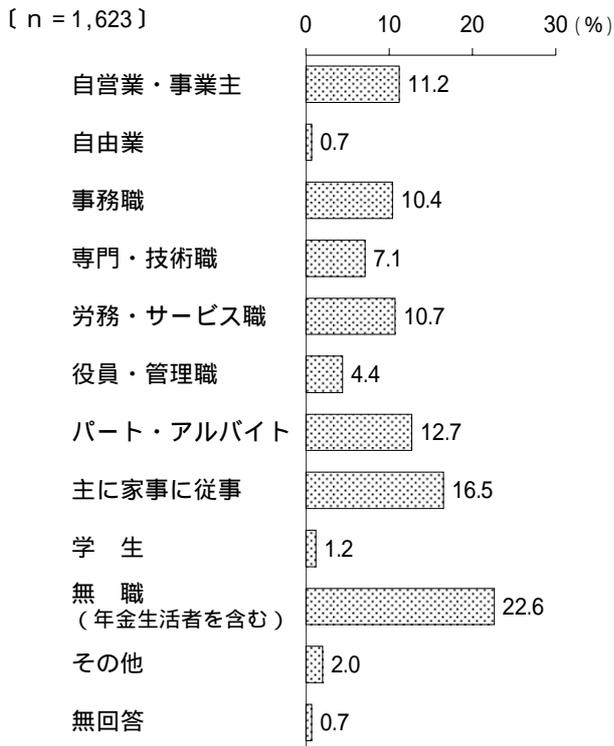
### F 3 居住年数



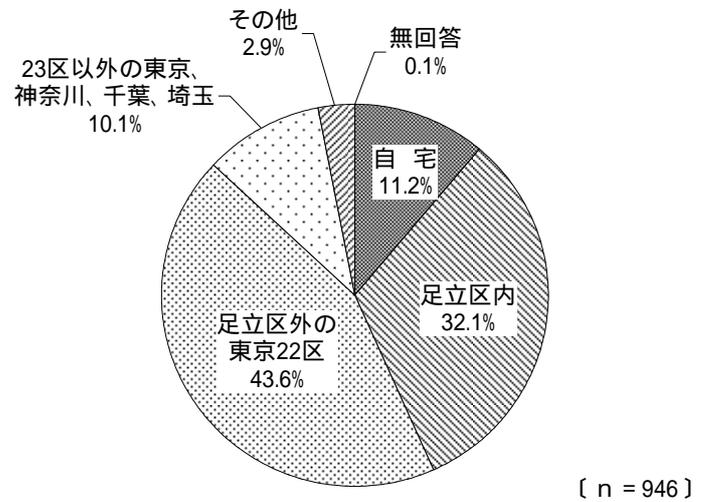
### F 4 住居形態



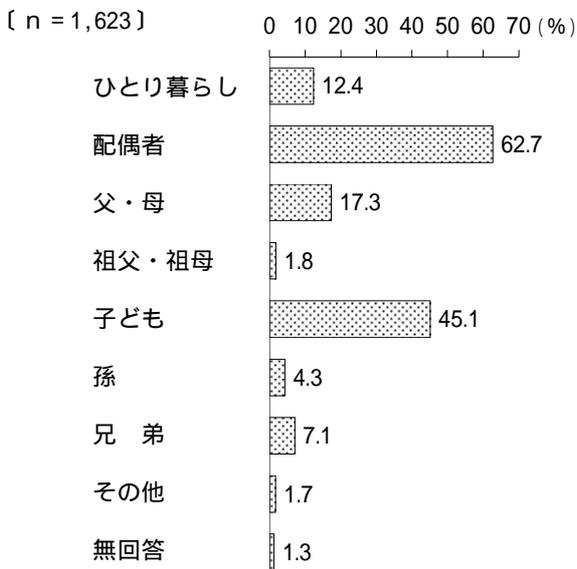
### F 5 職 業



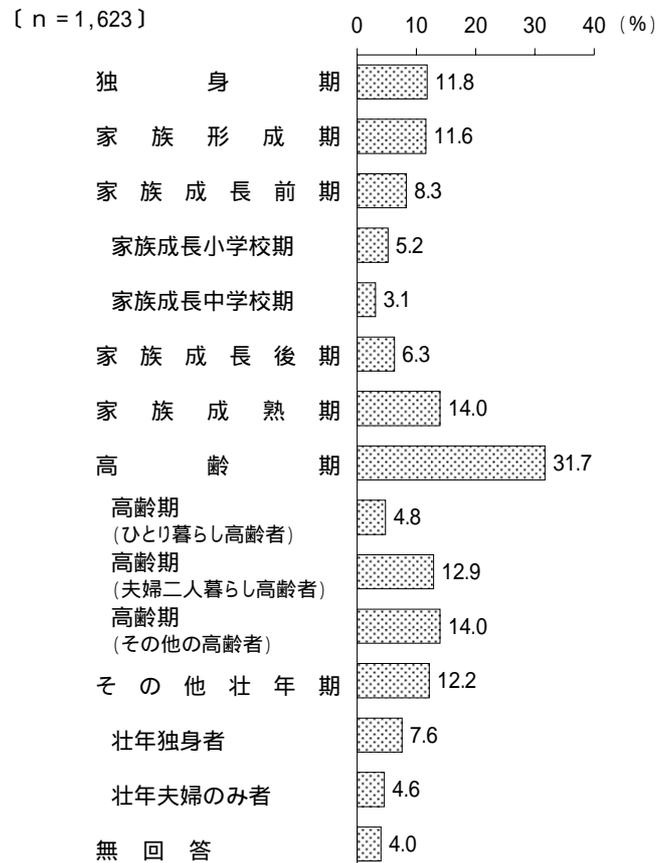
### F 6 就労(就学)場所



### F 7 同居家族



### F 8 ライフステージ





# 調査結果の要約



# 調査結果の要約

## 1 定住性

### (1) お住まいの地域についての感じ方

住まいの地域について、16の項目を挙げて、それぞれに関してどのように感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【普段の買い物が便利である】(77.9%)が8割近くで最も高く、次いで【誰もが利用しやすい公園がある】(72.1%)が7割を超え、【街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い】(68.6%)が7割近くと高くなっている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、【自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている】(72.0%)が7割を超え最も高く、次いで【近所の道路・歩道は、子どもや高齢者でも安全で歩きやすくなっている】(60.0%)が6割、【ごみ出しやペットのふんの始末など、社会生活のマナーはよく守られている】(56.5%)が6割近くと高くなっている。

### (2) 総合的な暮らしやすさ

住まいの地域について、暮らしやすいと感じているか聞いたところ、「暮らしやすい」(21.7%)が2割を超え、これに「どちらかといえば暮らしやすい」(63.0%)を合わせた『暮らしやすい(計)』(84.7%)が8割半ばとなっている。

一方、「暮らしにくい」(2.5%)と「どちらかといえば暮らしにくい」(10.6%)をあわせた『暮らしにくい(計)』(13.1%)が1割を超える程度となっている。

過去の調査と比較すると、「暮らしやすい」は微増傾向にあり、『暮らしやすい(計)』では平成13年以降、8割前後を占めている。

### (3) 定住・移転意向

足立区に今後も住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(39.5%)が4割で、これに「当分は住み続けたい」(37.5%)を合わせた『定住意向(計)』(77.0%)が8割近くとなっている。一方、「区外に転出したい」(8.1%)は1割未満となっている。

過去の調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は微増傾向にあり、『定住意向(計)』では平成13年以降、7割以上を占めている。

## 2 災害対策

### (1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度

一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所を知っているか聞いたところ、「知っている」は【小中学校等の避難所】(53.0%)が5割を超え最も高く、【一時集合場所】(46.5%)が5割近く、【広域避難場所】(37.2%)が4割近くの順となっている。

これに「知っているが、場所はわからない」を合わせた『知っている(計)』でも、【小中学校等の避難所】(59.5%)が6割と最も高く、【一時集合場所】(55.0%)が5割半ば、【広域避難場所】(48.4%)が5割近くの順となっている。

### (2) 備蓄や防災用具などの用意

家庭で災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしているか聞いたところ、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(47.9%)が5割近く、「備蓄や防災用具などを用意している」(25.7%)が2割半ばとなっている。また、「全く用意していない」(23.8%)が2割を超えている。

#### (2-1) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期

家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人(417人)に、備蓄や防災用具などの用意をいつから始めたか聞いたところ、「3月11日の東日本大震災以前から」(65.7%)が6割半ば、「3月11日の東日本大震災を経験してから」(32.6%)が3割を超えている。

#### (2-2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人と、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」人(1,195人)に、備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を聞いたところ、「懐中電灯」(87.4%)が9割近くで最も高く、次いで「飲料水」(81.1%)、「非常食(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」(68.0%)、「携帯ラジオ」(65.7%)、「医薬品(常備薬を含む)」(45.4%)の順になっている。

#### (2-3) 家庭での備蓄の量

家庭で「飲料水」又は「非常食」を買い置きしている人(1,059人)に、家庭での備蓄の量を聞いたところ、【飲料水】は「1人当たり3日以上」(31.4%)と「1人当たり2日分」(31.2%)がともに3割を超え、「1人当たり1日分」(21.3%)が2割を超えている。

【非常食】は「1人当たり2日分」(32.5%)が3割を超え、「1人当たり1日分」(22.7%)が2割を超え、「1人当たり3日以上」(19.8%)が2割となっている。また、「1人当たり3日以上」では、【飲料水】の方が【非常食】より11.6ポイント高く、【飲料水】の方が備蓄の量が多くなっている。

### (3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況

町会や自治会の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎年参加している」(7.3%)と「2～3年に1回程度参加」(12.7%)を合わせた『参加している(計)』(20.0%)が2割となっている。一方、「参加したことはない」(56.6%)が6割近くとなっており、これに「ほとんど参加していない」(20.5%)を合わせた『参加していない(計)』(77.1%)が8割近くとなっている。

#### (3-1) 防災訓練へ参加しない理由

町会や自治会の防災訓練に「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」人(1,252人)に、理由を聞いたところ、「訓練を実施することを知らなかったから」(45.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「訓練に参加したかったが、都合がつかなかったから」(19.2%)がほぼ2割となっている。一方、「防災訓練自体に関心がないから」(7.0%)は1割未満となっている。

## 3 東日本大震災

### (1) 3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況

3月11日の地震発生時の外出の有無、また、勤務先または外出先からの帰宅状況を聞いたところ、「外出せず自宅にいた」(41.3%)が4割を超えている。また、「勤務先または外出先にいたが、特に帰宅が困難にはなっていない」(29.3%)がほぼ3割、「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」(27.5%)が3割近くとなっている。

#### (1-1) 帰宅が困難になった際の対応

3月11日の地震発生時に「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」人(447人)に、どのような対応をとったか聞いたところ、「歩いて帰宅した」(30.6%)がほぼ3割で最も高く、これに「車やタクシーなどで帰宅した」(17.9%)と「自転車を借りて(又は購入して)帰宅した」(2.2%)を合わせた『帰宅した(計)』(50.8%)がほぼ5割となっている。

一方、「職場に留まった」(21.9%)が2割を超え、これに「駅などに留まった」(1.8%)を合わせた『留まった(計)』(23.7%)が2割を超えている。また、「区・都が用意した避難所に避難した」は0.4%となっている。

#### (1-2) 帰宅が困難になった際に困ったこと

3月11日の地震発生時に「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」人(447人)に、帰宅が困難になったときに困ったことを聞いたところ、「電車・バスなどの運行情報の不足」(63.8%)が6割を超え最も高く、次いで「家族等との連絡ができなかった」(57.5%)が6割近くとなっている。次いで、「休憩する場所がなかった」(17.7%)、「夜中の歩行で不安だった」(13.4%)、「避難所の設置情報が得られなかった」(13.2%)の順となっている。

## (2) 震災発生の際に遭遇したこと

震災発生の際に遭遇したことを聞いたところ、「通信手段の途絶（電話・メールなど）」（49.7%）が5割で最も高く、次いで「食器等の落下」（25.4%）、「ガスの停止」（22.1%）、「建物の損傷（変形や亀裂など）」（20.6%）、「家具の転倒」（16.8%）の順となっている。

## (3) 震災発生の直後に行ったこと

震災発生の直後に行ったことを聞いたところ、「テレビ・ラジオなどで情報を収集した」（65.7%）が6割半ばで最も高く、次いで「電話やメールなどで家族の安否を確認した」（51.6%）、「ドアを開けるなど避難経路を確保した」（37.1%）、「家から外に飛び出した」（16.9%）、「テーブルの下などに避難した」（14.5%）の順となっている。

## (4) 災害弱者・災害時要援護者の有無

近隣に災害弱者・災害時要援護者がいるか聞いたところ、「いる」（17.6%）が2割近くで、これに「多分いると思う」（12.2%）を合わせた『いる(計)』（29.8%）が3割となっている。また、「いない」（29.3%）がほぼ3割、「分からない」（36.5%）が4割近くとなっている。

### (4-1) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無

近隣に災害弱者・災害時要援護者が「いる」又は「多分いると思う」人（483人）に、震災が発生した際にその方々へ声掛けをしたか聞いたところ、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」（23.8%）が2割を超え、これに「顔見知り、顔見知りでないにもかかわらず、声掛けして安否を確認した」（8.3%）と「顔見知りではないが、声掛けして安否を確認した」（0.4%）を合わせた『声掛けした(計)』（32.5%）が3割を超えている。また、「自宅にいなかったなので、声掛けできなかった」（39.5%）が4割となっている。

## (5) 大地震が起きたとき不安に思うこと

身近に大地震が起きたとした場合に、特に不安に思うことを聞いたところ、「家族の安否」（77.8%）が8割近くで最も高く、次いで「建物の倒壊」（61.8%）、「停電・断水・ガスの途絶」（56.8%）、「火災の発生」（54.8%）、「食糧・飲料水等の確保」（46.3%）の順となっている。

## (6) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと

大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいと考えていることを聞いたところ、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」（80.2%）が8割で最も高く、次いで「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（66.4%）、「医療体制の確保」（45.0%）、「避難所の施設の充実」（38.4%）、「災害に関する情報提供の充実」（35.7%）の順となっている。

## 4 耐震診断、耐震改修

### (1) お住まいの建物の建築時期

住まいの建物の建築時期を聞いたところ、「昭和 56 年 6 月以降」(57.9%) が 6 割近く、「昭和 56 年 5 月以前」(30.2%) が 3 割となっている。

### (2) お住まいの建物の耐震診断の実施状況

住まいの建物の耐震診断をしているか聞いたところ、「実施している」(20.4%) が 2 割、「実施していない」(38.6%) が 4 割近くとなっている。また、「わからない」(38.7%) が 4 割近くとなっている。

#### (2-1) 耐震診断をしていない理由

住まいの建物の耐震診断を「実施していない」人(626人)に、理由を聞いたところ、「費用がいくらかかるか分からないから」(38.2%) が 4 割近くで最も高く、次いで「建設時に耐震設計が考慮されているから」(26.0%)、「診断費用が無料でない(自己負担がある)から」(23.5%)、「耐震診断をしても耐震改修工事はできないから」(23.0%)、「信頼できる依頼先(耐震診断業者)を知らないから」(18.2%)の順となっている。

### (3) お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況

住まいの建物の耐震改修工事をしているか聞いたところ、「実施している」(14.3%) が 1 割半ば、「実施していない」(44.5%) が 4 割半ばとなっている。また、「わからない」(37.5%) が 4 割近くとなっている。

#### (3-1) 耐震改修工事をしていない理由

耐震改修工事を「実施していない」人(723人)に、理由を聞いたところ、「費用がいくら掛かるか分からないから」(33.9%) が 3 割を超え最も高く、次いで「建設時に耐震設計が考慮されているため」(27.8%)、「費用が掛かりすぎるから」(16.7%)、「借家・賃貸住宅・借地であるから」(14.9%)、「将来、住み替え・建て替えを考えているため」(11.5%)の順となっている。

#### (3-2) 耐震診断や耐震改修工事について相談の有無

耐震診断および耐震改修工事をしていない理由が、「借家・賃貸住宅・借地であるから」の人(132人)に、大家さんや地主さんに耐震診断や耐震改修工事について相談したことがあるか聞いたところ、「相談したことはない」(82.6%) が 8 割を超えている。また、「相談しており、耐震の診断や工事の準備が進んでいる」(1.5%)と「相談したが、耐震の診断や工事は進まなかった」(2.3%)はともに 1 割未満となっている。

( 4 ) 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度

耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度を知っているか聞いたところ、「知らなかった」は【耐震診断費用の助成】(70.1%)と【耐震改修工事費用の助成】(68.8%)がともに7割前後になっている。

( 5 ) 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向

昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者の人(490人)に、足立区の耐震診断費用、耐震改修工事費用に関する助成制度を利用したいと思うか聞いたところ、「今後利用したい」は【耐震診断費用の助成】(21.4%)と【耐震改修工事費用の助成】(22.2%)がともに2割を超えている。また、「わからない」が【耐震診断費用の助成】(26.9%)で3割近く、【耐震改修工事費用の助成】(25.7%)で2割半ばとなっている。

( 6 ) 転倒防止対策をしているか

自宅で、つっぱり棒や壁止め金具などにより、地震の際に家具が転倒することを防止しているか聞いたところ、「家具の転倒防止対策はしていない」(36.5%)が4割近くとなっている。また、「転倒防止対策をしている家具は少ない」(25.8%)が2割半ば、「転倒防止対策をしている家具が多い」(15.7%)が1割半ば、「すべての家具に転倒防止対策をしている」(3.3%)はわずかとなっている。

( 7 ) 家具転倒防止器具取付工事などの助成制度の認知度

家具転倒防止器具取付工事などの助成制度を知っているか聞いたところ、「知らなかった」(73.6%)が7割を超えている。また、「知っており、既に利用した」(0.3%)、「知っているが、利用したことはない」(4.5%)、「知っているが、対象とならないので利用できない」(3.6%)はいずれも1割未満で、これらを合わせた『知っている(計)』(8.4%)でも1割未満となっている。

## 5 浸水被害に備え意識していること

### (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知度

区内の浸水被害の危険を表示した「足立区洪水ハザードマップ」を知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」(9.9%)と「名前は知っているが、内容はわからない」(31.8%)を合わせた『知っている(計)』(41.7%)が4割を超えている一方、「知らない」(55.3%)が5割半ばとなっている。

### (2) 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について

台風やゲリラ豪雨などによる水害に備えた気象情報または水害の危険情報などを取得しているか聞いたところ、【大雨などのおそれがあるときは、携帯電話、パソコンやテレビ、ラジオなどを使って情報を取得している】(77.1%)が8割近くと高くなっている。一方、【Aメール(足立区メール配信サービス)や気象予報会社のサイトなどに登録し、携帯電話で自動的に情報を取得している】(16.2%)が1割半ば、【特に意識して情報を取得していない】(20.8%)がほぼ2割となっている。

## 6 保健・医療

### (1) 保健と医療について

保健と医療などについて、あてはまるものを聞いたところ、「毎年健康診断を受けている」(60.6%)、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(60.4%)がともに6割となっている。次いで、「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」(49.4%)、「栄養バランスを考えた食事をしている」(44.9%)、「自分の健康について心配なことがある」(43.1%)の順となっている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より「安心して受診できる医療機関が身近にある」が11.4ポイント高く、「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」が7.4ポイント高くなっている。

## 7 自殺対策

### (1) 自殺についての考え

自殺についてどのように思うか聞いたところ、【自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない】については、「そう思わない」と「ややそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』(51.4%)が5割を超え、【自殺は、個人の自由な意思や選択の結果である】(47.0%)【生死は最終的に本人の判断に任せるべきである】(43.7%)も『そう思わない(計)』がそれぞれ4割を超えている。一方、【自殺せずに生きていれば良いことがある】は、『そう思う(計)』(66.4%)が6割半ばとなっている。

### (2) 本気で自殺したいと考えたことがあるか

これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがあるか聞いたところ、「自殺したいと思ったことがある」(18.9%)が2割近く、「自殺したいと思ったことはない」(72.7%)が7割を超えている。

#### (2-1) 最近1年以内に自殺したいと考えたことがあるか

これまでの人生のなかで、「自殺したいと思ったことがある」人(307人)に、最近1年以内に自殺したいと思ったことがあるか聞いたところ、「はい」(22.8%)が2割を超え、「いいえ」(76.5%)が8割近くとなっている。

#### (2-2) 自殺しようと考えたとき相談した相手

最近1年以内に自殺したいと思ったことがある人(70人)に、自殺しようと考えたとき、誰かに相談したことがあるか聞いたところ、「相談したことはない」(81.4%)が8割を超えている。また、相談した人の中では、「医師」(7.1%)が最も高く、次いで「同居の親族(家族)」(4.3%)、「友人」と「カウンセラー」(ともに2.9%)の順となっているが、いずれも1割未満となっている。

### (3) 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応

もしも、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、まずはどのように対応するか聞いたところ、【「なぜそのように考えるのか」と理由を尋ねる】(46.8%)が5割近くで最も高く、次いで【「ひたすら耳を傾けて聞く」】(20.6%)、【「がんばって生きよう」と励ます】(7.0%)、【「死んではいけない」と説得する】(6.1%)の順となっている。

## 8 高齢者等に対する介護

### (1) 「成年後見制度」の認知度

高齢者の権利擁護に関係する、「成年後見制度」について知っているか聞いたところ、「内容は分からないが、名前は知っている」(31.8%)が3割を超え、これに「内容まで知っている」(12.2%)を合わせた『知っている(計)』(44.0%)が4割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、「知らない」は平成22年より6.2ポイント高くなっている。

### (2) 介護が必要な家族がいるか

家族に介護が必要な人がいるか聞いたところ、「いない」(61.7%)が6割を超えている。また、「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」(16.0%)が1割半ば、「現在、介護が必要な家族がいる」(12.1%)が1割を超えている。

#### (2-1) 介護が必要な方との関係

家族に「現在、介護が必要な家族がいる」又は「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」人(457人)に、介護が必要な方との関係を聞いたところ、「親」(50.1%)が5割で最も高く、次いで「配偶者」(22.3%)、「祖父母」(14.7%)、「子ども」と「兄弟姉妹」(ともに3.7%)の順となっている。

#### (2-2) 介護が必要な方のお住まいの場所

家族に「現在、介護が必要な家族がいる」又は「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」人(457人)に、介護が必要な方の住まいの場所を聞いたところ、「同居している」(49.9%)が5割で最も高く、次いで「交通機関を利用して1時間以上」(18.8%)、「徒歩圏内」(14.9%)、「交通機関を利用して30分未満」(9.2%)、「交通機関を利用して30分以上1時間未満」(8.1%)の順となっている。

### (3) 介護をしているか

現在、実際に介護をしているか聞いたところ、「介護をしている」が5.9%、「介護をしていない」(85.7%)が8割半ばとなっている。

#### (3-1) 介護をしているなかで困っていること

実際に「介護をしている」人(96人)に、介護をしているなかで困っていることを聞いたところ、「介護にかかわる精神的・身体的負担が重い」(46.9%)が5割近くで最も高く、次いで「介護費用の負担が重い」(28.1%)、「仕事と介護の両立ができない(両立ができないおそれがあるを含む)」(22.9%)、「特別養護老人ホームに入所させたいが、なかなか入所できない」(15.6%)の順となっている。

## 9 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度

足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を知っているか聞いたところ、「知っているが、特に何も行っていない」(14.9%)と「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(14.5%)がともに1割半ばで、これに「知っており、活動を実践している」(4.2%)を合わせた『知っている(計)』(33.6%)が3割を超えている。一方、「知らない(初めて聞いた)」(63.8%)が6割を超えている。

平成22年調査と比較すると、『知っている(計)』は6.8ポイント高くなっている。

### (2) 自転車に鍵をかけているか

自転車を駐車したときに鍵をかけているか聞いたところ、「いつも鍵をかけている」(68.9%)が7割近くとなっている。また、「鍵をかけることが多い(時々鍵をかけ忘れることがあるを含む)」(8.6%)、「鍵をかけることは少ない」(2.3%)、「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」(0.7%)はいずれも1割未満となっている。

#### (2-1) 自転車に付いている錠

自転車を使っている人(1,306人)に、自転車に付いている錠について聞いたところ、「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(プレス錠)が1つ」(34.4%)が3割半ばで最も高い、次いで「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(シリンダー錠)が1つ」(25.5%)、「箱型の錠が1つ」(19.2%)、「ワイヤー又はチェーン状の錠が1つ」(8.3%)、「2個以上の錠が付いている」(5.1%)の順となっている。また、「錠がついていない又は錠が壊れている」(0.5%)はわずかとなっている。

#### (2-2) 駐輪場を利用しているか

自転車を使っている人(1,306人)に、自転車を駐車するときに、駐輪場を利用するか聞いたところ、「いつも駐輪場を利用している」(48.6%)が5割近く、「駐輪場を利用することが多い」(29.7%)が3割となっている。また、「駐輪場を利用することは少ない」(8.3%)と「駐輪場を利用することはない」(6.7%)がともに1割未満となっている。

### (3) 地域の変化についての評価

住まいの地域が以前と比べてどのように変化しているか聞いたところ、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた『減っている(計)』は、【ゴミやタバコのポイ捨て】(52.0%)が5割を超え、【放置自転車】(48.8%)が5割近く、【ペットの糞】(40.7%)がほぼ4割となっている。

また、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた『増えている(計)』は、【まちなかの花や緑】(33.8%)が3割を超え、【防犯パトロール】(26.2%)が2割半ば、【登下校時のあいさつなどの声掛け運動】(14.7%)が1割半ばとなっている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より『減っている(計)』は【ゴミやタバコのポイ捨て】で4.9ポイント高く、【ペットの糞】で4.2ポイント高くなっている。

#### (4) 環境のために心がけていること

環境のために心がけていることを聞いたところ、「ごみと資源の分別を実行している」(89.5%)が9割で最も高く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」(78.6%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(69.6%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(48.7%)、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」(21.2%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「ごみと資源の分別を実行している」、「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」では増加傾向となっている。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は平成22年より14.7ポイント高くなっている。

#### (5) 「クーリング・オフ」制度の認知度

「クーリング・オフ」制度を知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」(32.5%)が3割を超え、「ある程度知っている」(40.5%)がほぼ4割となっている。これに、「名前だけは知っている」(15.2%)を合わせた『知っている(計)』(88.2%)は9割近くとなっている。一方、「知らない」(8.6%)は1割未満となっている。

過去の調査と比較すると、『知っている(計)』は漸増傾向にあるが、「内容まで知っている」は平成22年より18.9ポイント高くなっている。

#### (6) この1年間に参加された活動

この1年間に参加された活動を聞いたところ、「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」(24.1%)が2割半ばで最も高く、次いで「区が主催する各種のイベントや催し物」(15.0%)、「町会や自治会の運営に関する活動」(13.2%)、「集団回収などの、資源のリサイクルなどに関する活動」(11.5%)の順となっている。また、「特に参加していない・特にない」(35.1%)が3割半ばとなっている。

#### (6-1) 引き続き、または今後参加したいと思う活動

この1年間に参加されて引き続き参加したい、または今後参加したいと思う活動を聞いたところ、「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」(22.5%)と「区が主催する各種のイベントや催し物」(22.2%)がともに2割を超えている。次いで、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」(18.5%)、「まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃き、公園の清掃など)」(13.5%)の順となっている。

#### (7) 区政への参加・協力意向

区政への参加・協力についての考えを聞いたところ、「積極的に参加・協力したい」(5.9%)と「ある程度は参加・協力したい」(46.7%)を合わせた『参加・協力したい(計)』(52.6%)が5割を超えている。一方、「参加・協力したくない」(2.8%)と「あまり参加・協力したくない」(9.5%)を合わせた『参加・協力したくない(計)』(12.3%)が1割を超えている。

過去の調査と比べて大きな変化は見られない。

## 10 人権

### (1) 人権についての関心

人権について関心があるか聞いたところ、「非常にある」(16.9%)と「少しある」(39.4%)を合わせた『関心がある(計)』(56.3%)が5割半ばとなっている。一方、「全くない」(2.2%)と「あまりない」(11.0%)を合わせた『関心がない(計)』(13.2%)が1割を超えている。

過去の調査と比較すると、『関心がある(計)』は減少傾向にあり、平成22年より5.1ポイント低くなっている。

### (2) 男女の地位の平等感

社会全体において、男女の地位が平等だと感じるか聞いたところ、「男性のほうに非常に優遇されている」(6.7%)と「どちらかといえば、男性のほうに優遇されている」(43.1%)を合わせた『男性の方が優遇(計)』(49.7%)が5割となっている。一方、「女性のほうに非常に優遇されている」(1.2%)と「どちらかといえば、女性のほうに優遇されている」(9.8%)を合わせた『女性の方が優遇(計)』(11.0%)が1割を超えている。

過去の調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。

## 11 区政

### (1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みを聞いたところ、「都市開発」(34.5%)が3割半ばで最も高く、次いで「資源環境対策」(30.3%)、「自然・緑化対策」(29.5%)、「交通対策」(28.3%)、「情報提供」(19.8%)の順となっている。

#### (1-1) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを聞いたところ、「交通対策」(33.6%)が3割を超え最も高く、次いで「高齢者支援」(33.1%)、「防災対策」(28.8%)、「都市開発」(23.1%)、「子育て支援」(21.9%)の順となっている。「高齢者支援」が2位に下がったのは平成15年(交通対策が1位)以来で、「防災対策」が20%台後半に上がったのは平成17年(28.3%)以来である。

## (2) 区の取り組みについての評価・印象

区の取り組みについての評価・印象を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【快適で安全なまちづくりが進められている】(47.1%)と【区の情報を容易に知ることができる】(46.7%)がともに5割近く、【景観・街並みが魅力的になってきている】(39.2%)がほぼ4割、【区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている】(21.3%)が2割を超え、いずれの取り組みでも『そう思わない(計)』を上回っている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より『そう思う(計)』は【景観・街並みが魅力的になってきている】で16.0ポイント低く、【区の情報を容易に知ることができる】で12.6ポイント低くなっている。また、『そう思わない(計)』でも【景観・街並みが魅力的になってきている】で21.3ポイント高く、【区の情報を容易に知ることができる】で20.4ポイント高くなっており、評価・印象が減少している。

## (3) 区政への区民の意見の反映について

区政に区民の意見が反映されていると思うか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』(22.7%)が2割を超え、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』(28.3%)が3割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、「そう思わない」は増加傾向にあり、平成22年より3.6ポイント高くなっている。

## (4) 区政に対する満足度

現在の足立区政に満足しているか聞いたところ、「満足」(6.0%)と「やや満足」(35.7%)を合わせた『満足層(計)』(41.7%)が4割を超えている。一方、「不満」(8.6%)と「やや不満」(22.4%)を合わせた『不満層(計)』(31.1%)が3割を超えている。

過去の調査と比較すると、『不満層(計)』が平成22年より5.8ポイント高くなっている。また、平成15年調査以外では『満足層(計)』が『不満層(計)』を上回っている。

## (5) 区に対する気持ち

足立区に対する気持ちを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【足立区に愛着をもっている】(71.2%)が7割を超えている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、【足立区に誇りをもっている】(41.5%)が4割を超え、【足立区を人に勧めたい】(38.3%)が4割近くと、『そう思わない(計)』が『そう思う(計)』を上回っている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より『そう思う(計)』は、【足立区に誇りをもっている】が7.2ポイント高く、【足立区に愛着をもっている】が6.5ポイント高く、【足立区を人に勧めたい】が5.5ポイント高く、いずれも平成22年より増加している。



# 調査結果の分析



# 1 定 住 性

- 
- ( 1 ) お住まいの地域についての感じ方
  - ( 2 ) 総合的な暮らしやすさ
  - ( 3 ) 定住・移転意向
-



# 1 定 住 性

## ( 1 ) お住まいの地域についての感じ方

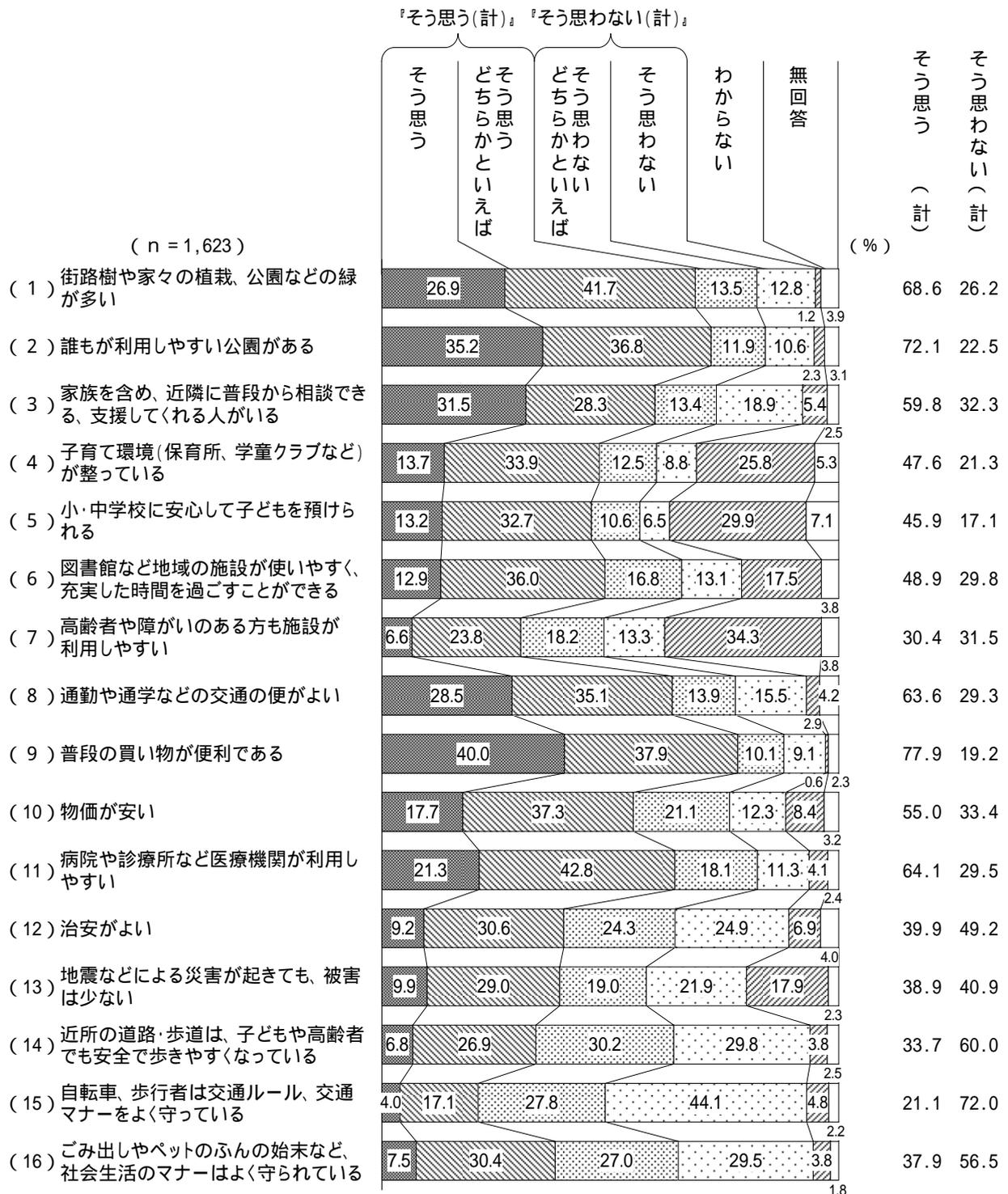
【普段の買い物が便利である】と思う人が8割近く

【自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている】と思わない人が7割を超える

問 1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。

( 〃 は各項目とも1つだけ )

図 1 - 1 - 1 お住まいの地域についての感じ方



住まいの地域について、どのように感じているか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【普段の買い物が便利である】(77.9%)が8割近くで最も高く、次いで【誰もが利用しやすい公園がある】(72.1%)が7割を超え、【街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い】(68.6%)が7割近くと高くなっている。

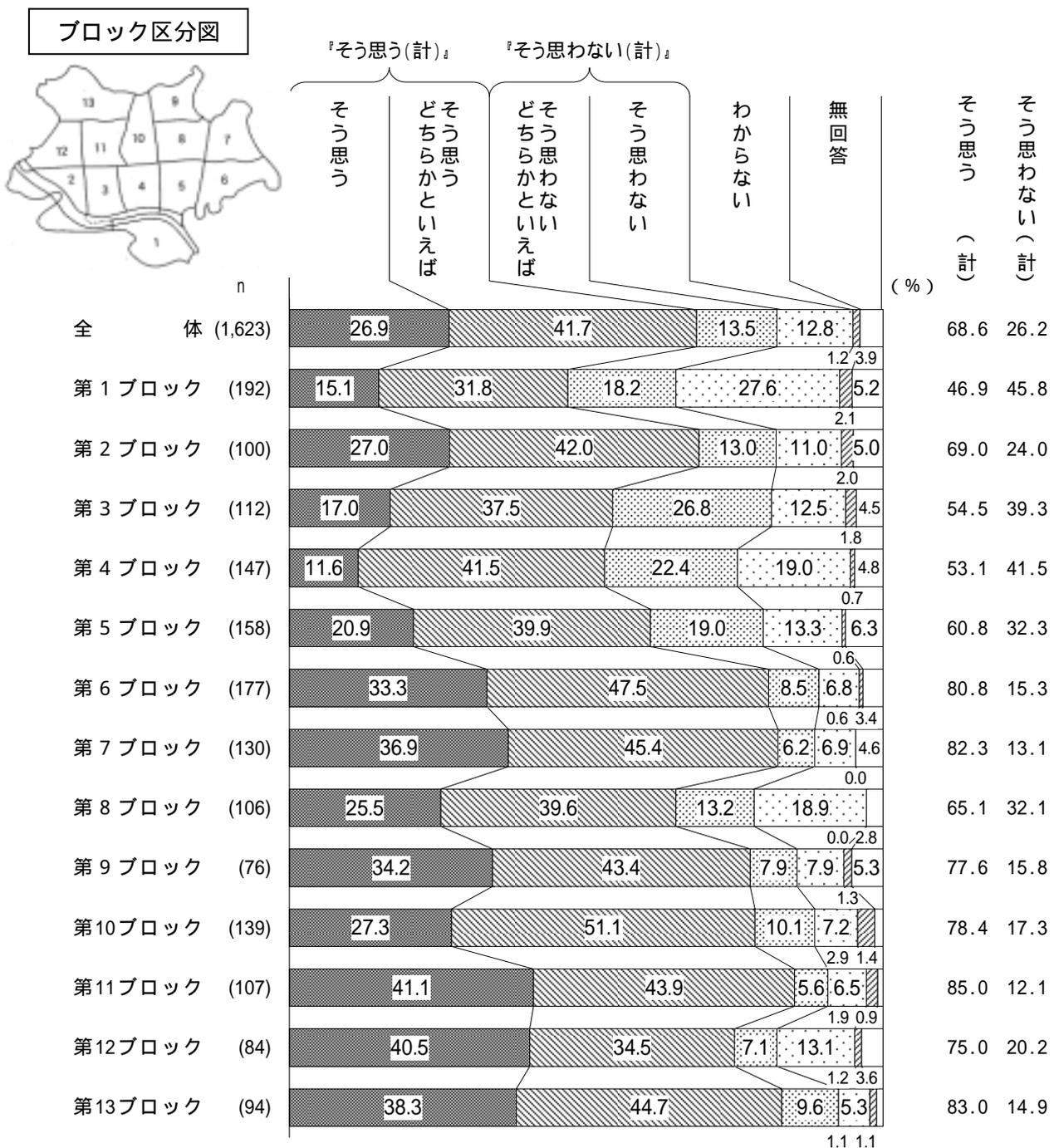
一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、【自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている】(72.0%)が7割を超え最も高く、次いで【近所の道路歩道は、子どもや高齢者でも安全で歩きやすくなっている】(60.0%)が6割、【ごみ出しやペットのふんの始末など、社会生活のマナーはよく守られている】(56.5%)が6割近くと高くなっている。(図1-1-1)

地域ブロック別でみると、「そう思う」は第11ブロック(41.1%)と第12ブロック(40.5%)で4割以上を占めている。また、『そう思う(計)』では第11ブロック(85.0%)、第13ブロック(83.0%)、第7ブロック(82.3%)、第6ブロック(80.8%)で8割以上を占めている。

一方、「そう思わない」は第1ブロック(27.6%)で3割近くと高くなっている。また、『そう思わない(計)』では第1ブロック(45.8%)と第4ブロック(41.5%)で4割以上を占めている。(図1-1-2)

図1-1-2 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(1)

(1) 街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い

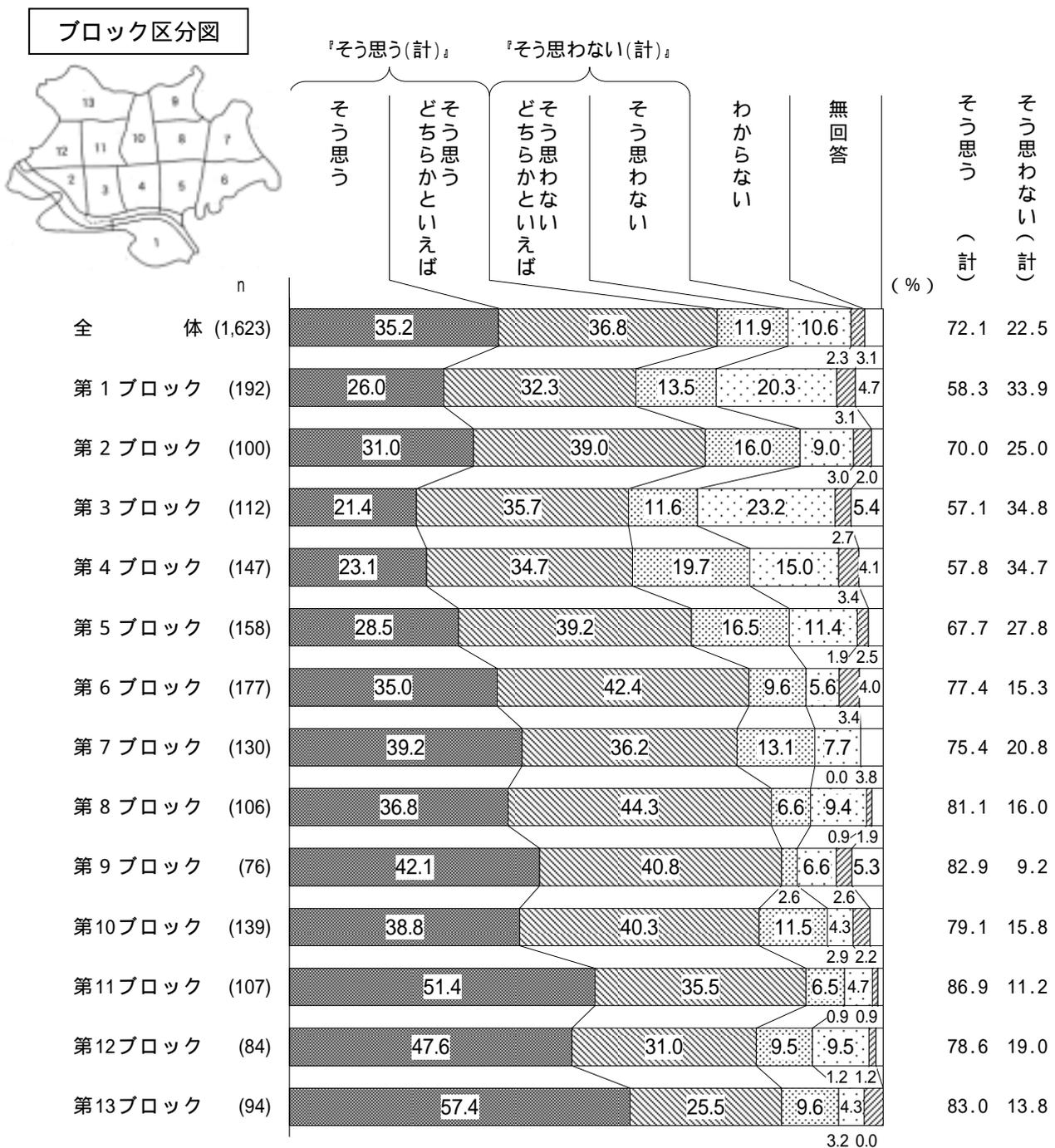


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第13ブロック(57.4%)と第11ブロック(51.4%)で5割以上を占めている。また、『そう思う(計)』では第11ブロック(86.9%)、第13ブロック(83.0%)、第9ブロック(82.9%)、第8ブロック(81.1%)で8割以上を占めている。

一方、「そう思わない」は第3ブロック(23.2%)と第1ブロック(20.3%)で2割以上を占めている。また、『そう思わない(計)』では第3ブロック(34.8%)、第4ブロック(34.7%)、第1ブロック(33.9%)で3割以上を占めている。(図1-1-3)

図1-1-3 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(2)

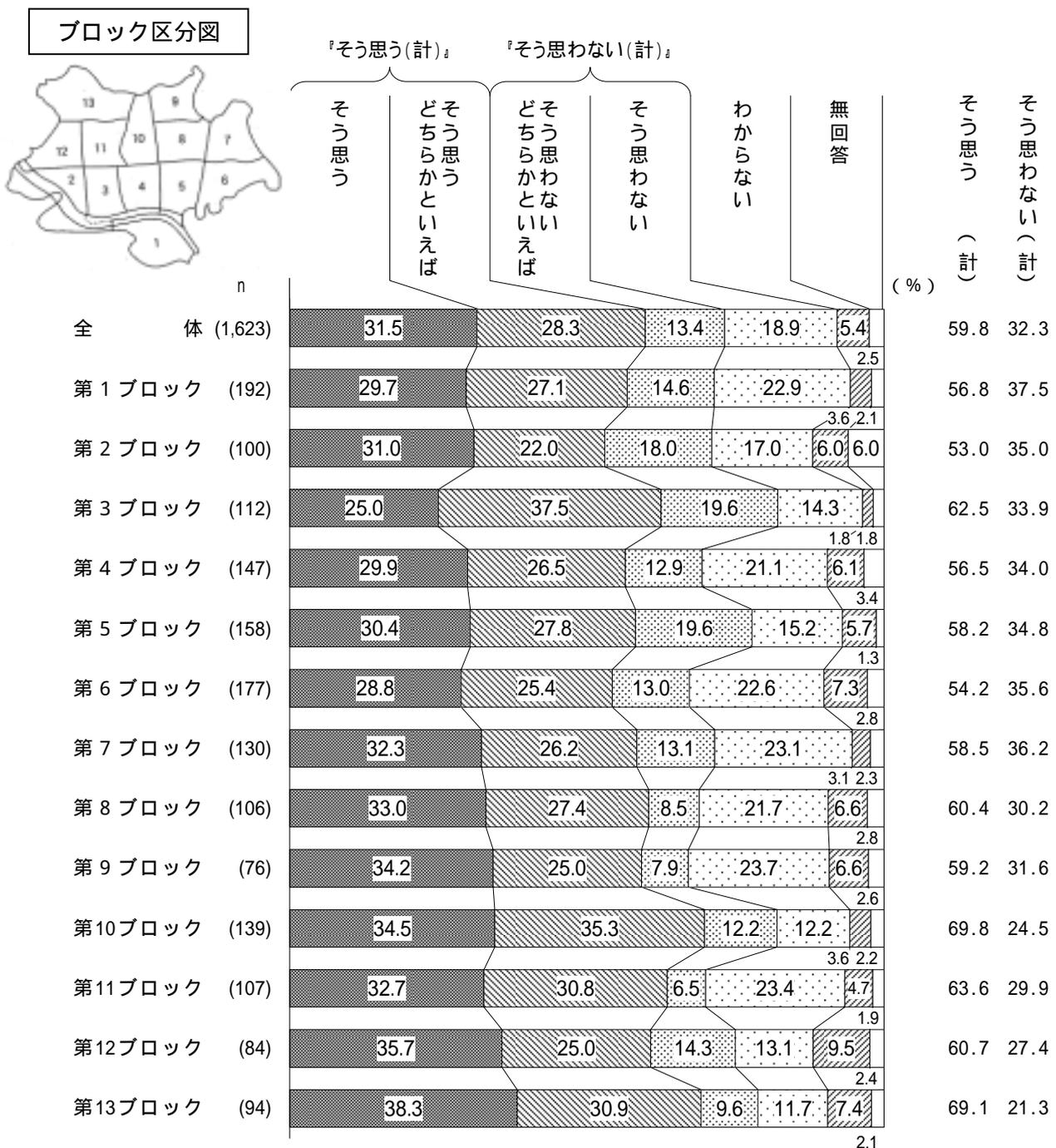
(2) 誰もが利用しやすい公園がある



地域ブロック別でみると、「そう思う」は第13ブロック(38.3%)で4割近くと高くなっている。また、『そう思う(計)』では第10ブロック(69.8%)で7割、第13ブロック(69.1%)でほぼ7割と高くなっている。(図1-1-4)

図1-1-4 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(3)

(3) 家族を含め、近隣に普段から相談できる、支援してくれる人がいる

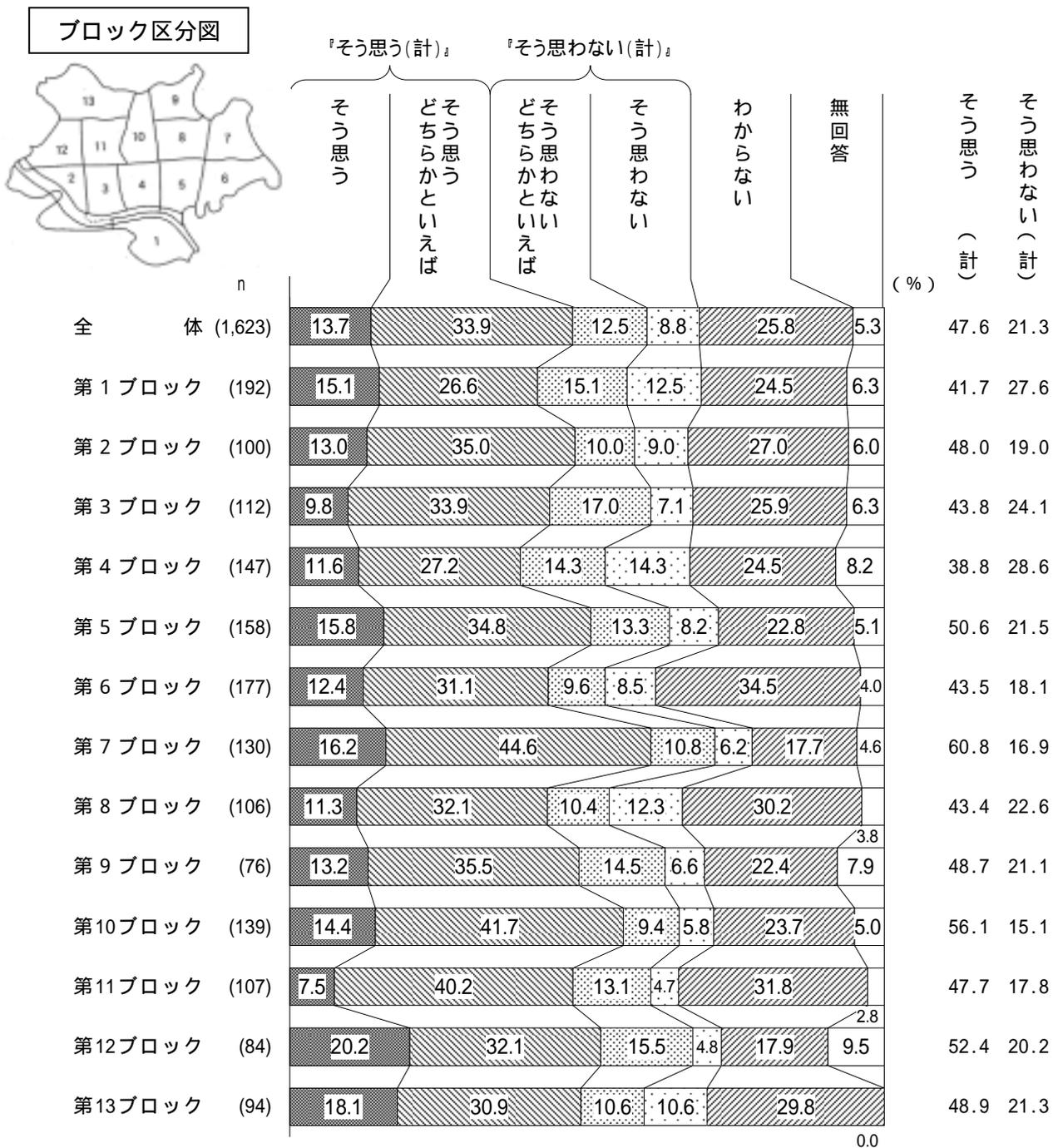


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第7ブロック(60.8%)でほぼ6割、第10ブロック(56.1%)で5割半ばと高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は第4ブロック(28.6%)と第1ブロック(27.6%)で3割近くと高くなっている。(図1-1-5)

図1-1-5 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(4)

(4) 子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている



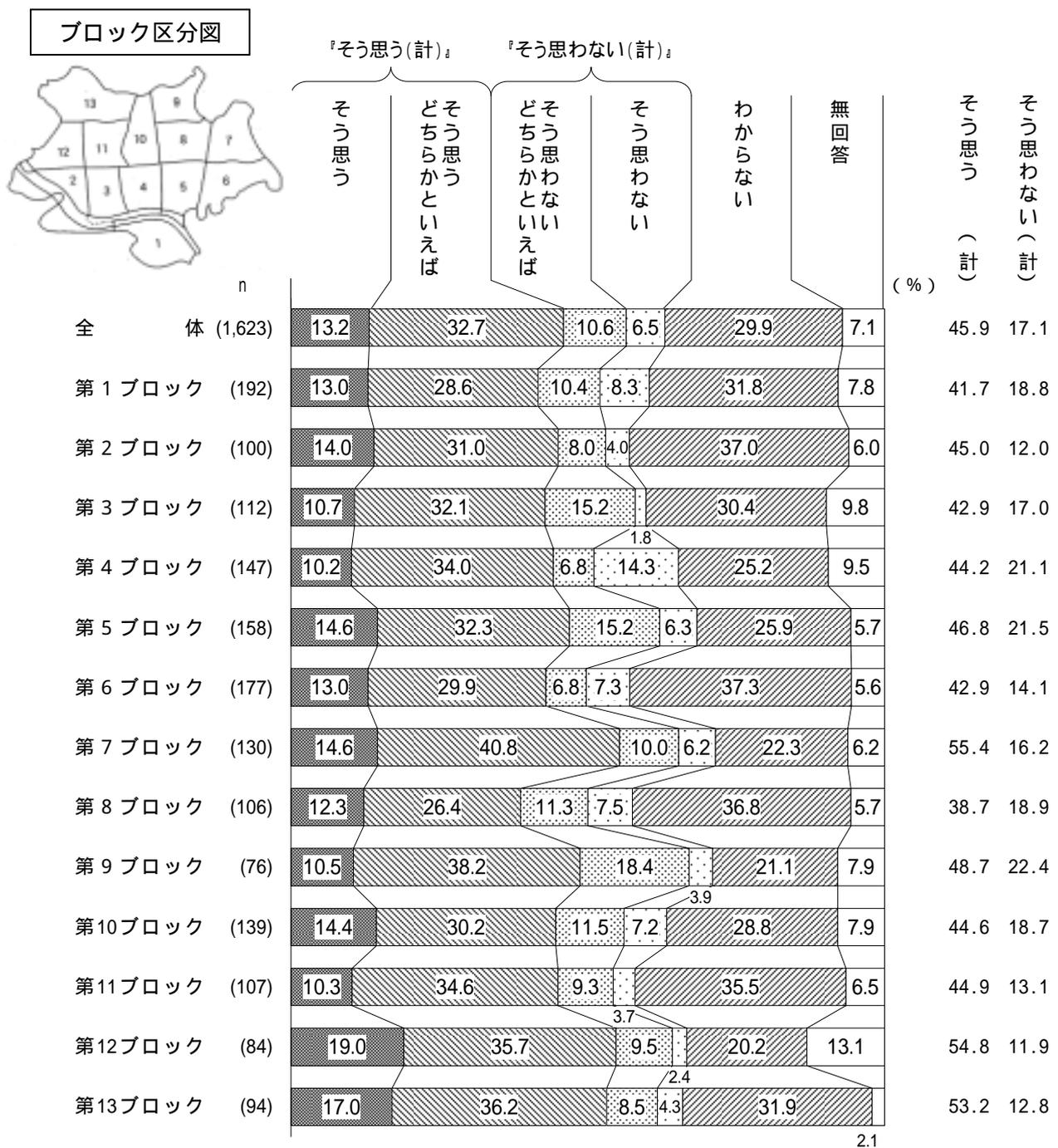
地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第7ブロック(55.4%)、第12ブロック(54.8%)、第13ブロック(53.2%)で5割以上を占めている。

一方、「そう思わない」は第4ブロック(14.3%)で1割半ばと高くなっている。

(図1-1-6)

図1-1-6 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(5)

(5) 小・中学校に安心して子どもを預けられる

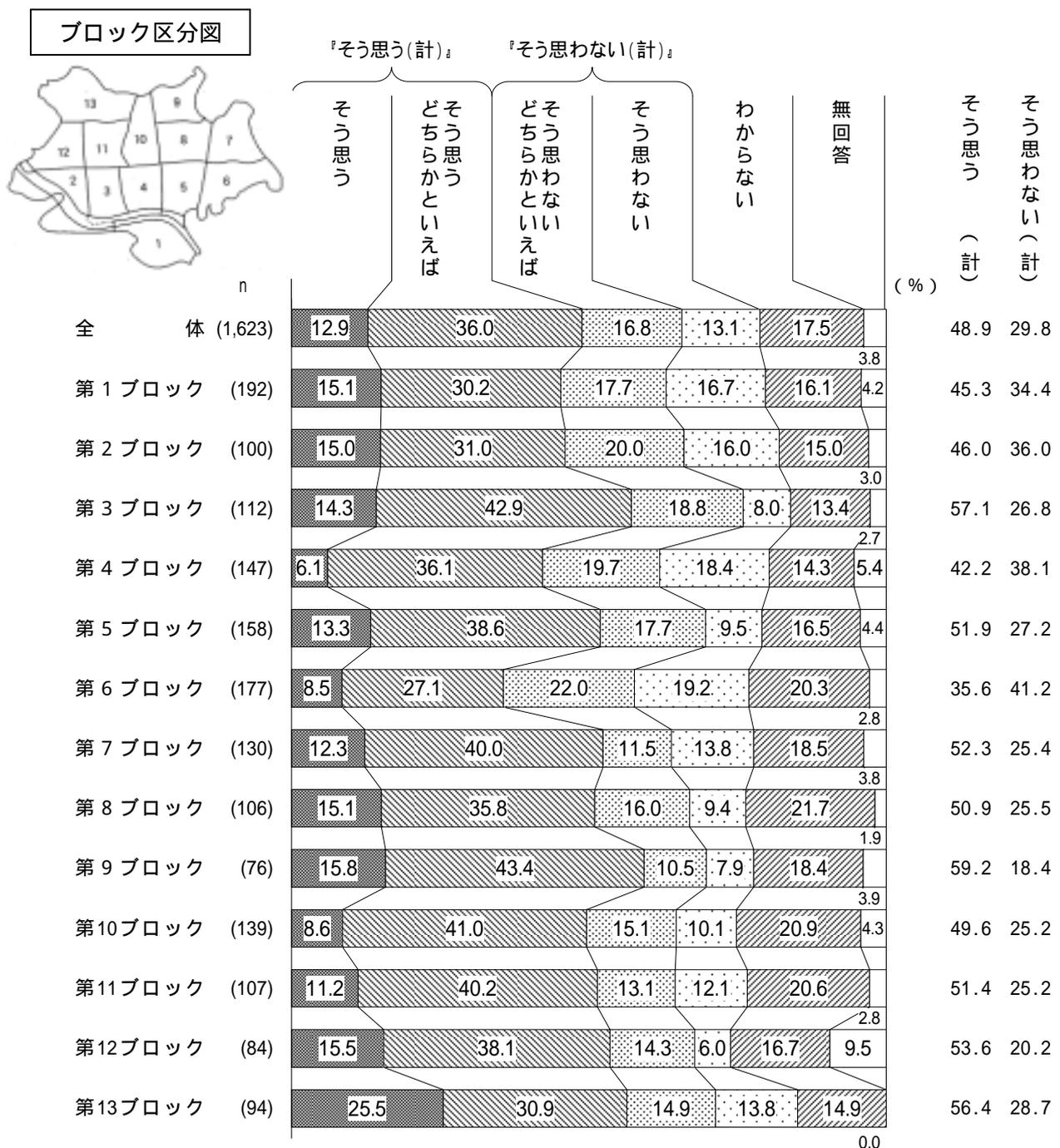


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第9ブロック(59.2%)、第3ブロック(57.1%)、第13ブロック(56.4%)で6割近くと高くなっている。

一方、「そう思わない」は第6ブロック(19.2%)でほぼ2割と高くなっている。また、『そう思わない(計)』では第6ブロック(41.2%)と第4ブロック(38.1%)で4割前後を占めている。(図1-1-7)

図1-1-7 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(6)

(6) 図書館など地域の施設が使いやすく、充実した時間を過ごすことができる



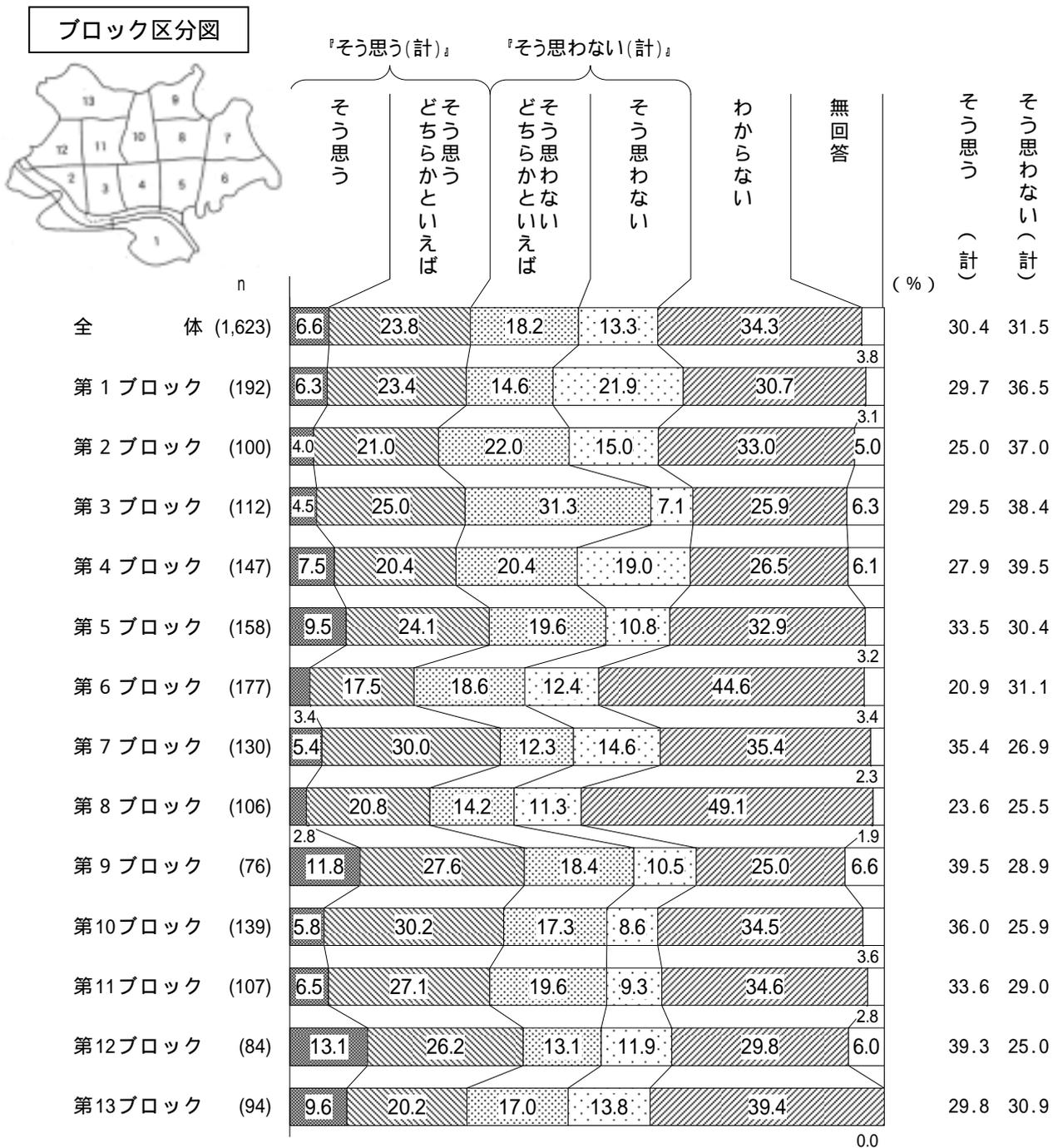
地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第9ブロック(39.5%)で4割、第12ブロック(39.3%)ではほぼ4割と高くなっている。

一方、「そう思わない」は第1ブロック(21.9%)と第4ブロック(19.0%)で2割前後を占めている。また、『そう思わない(計)』では第4ブロック(39.5%)で4割と高くなっている。

(図1-1-8)

図1-1-8 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(7)

(7) 高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい

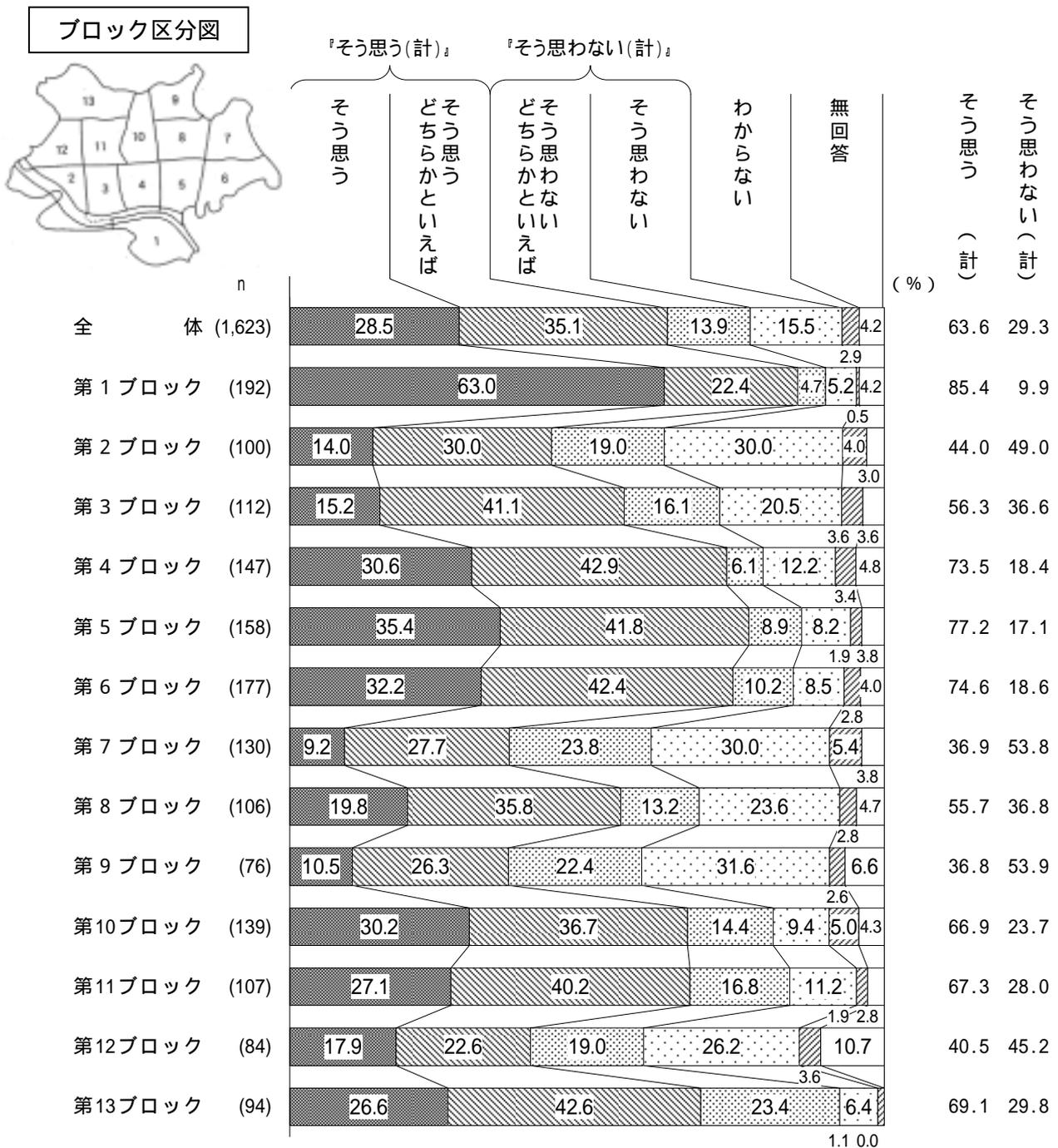


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第1ブロック（63.0%）で6割を超え大幅に高くなっている。また、『そう思う（計）』では第1ブロック（85.4%）で8割半ば、第5ブロック（77.2%）、第6ブロック（74.6%）、第4ブロック（73.5%）で7割台を占めている。

一方、「そう思わない」は第9ブロック（31.6%）、第2ブロックと第7ブロック（ともに30.0%）で3割以上を占めている。また、『そう思わない（計）』では第9ブロック（53.9%）と第7ブロック（53.8%）で5割台、第2ブロック（49.0%）と第12ブロック（45.2%）で4割台と高くなっている。（図1-1-9）

図1-1-9 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（8）

（8）通勤や通学などの交通の便がよい

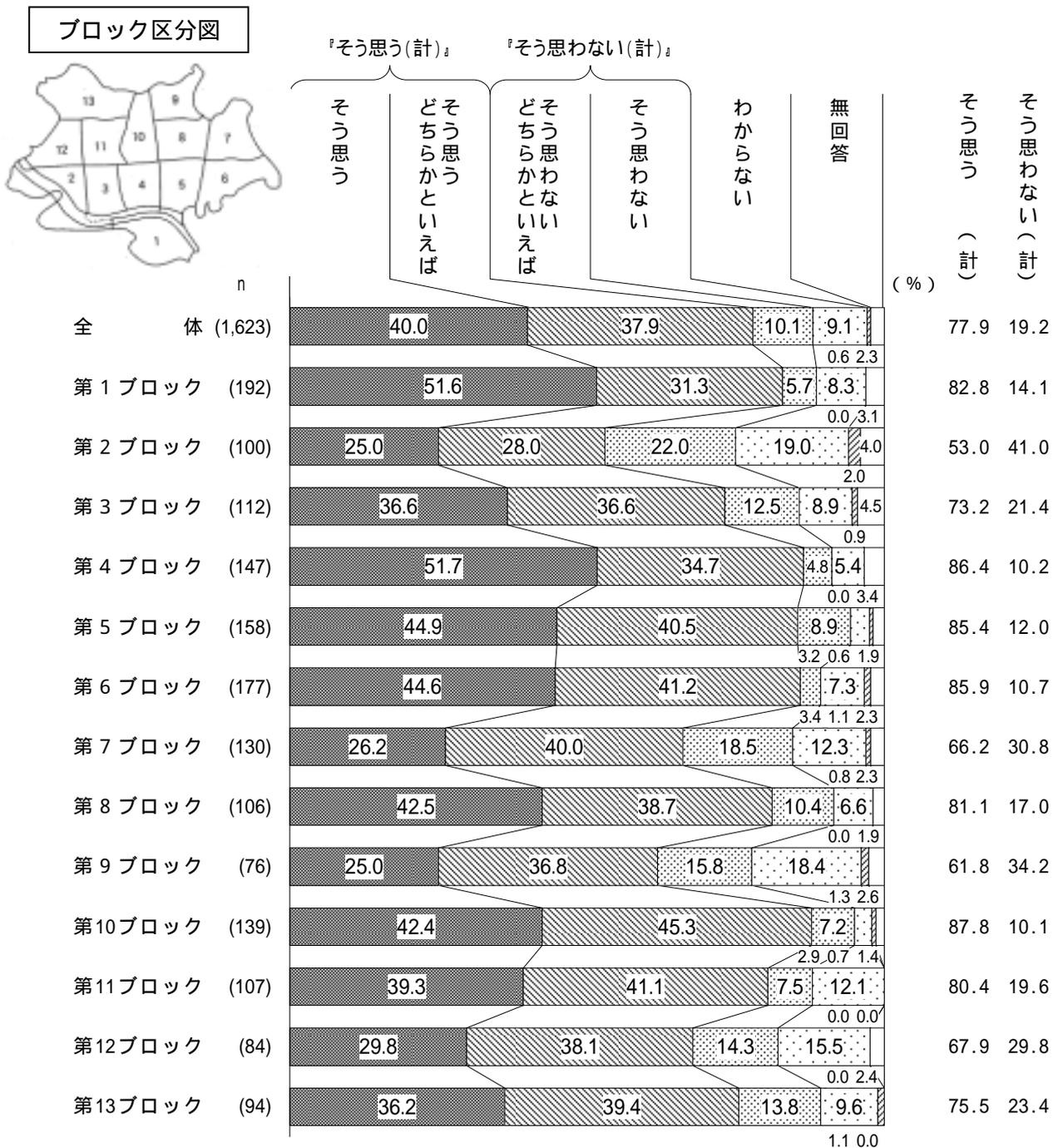


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第4ブロック（51.7%）と第1ブロック（51.6%）で5割を超え高くなっている。また、『そう思う（計）』では第10ブロック（87.8%）で9割近く、第4ブロック（86.4%）、第6ブロック（85.9%）、第5ブロック（85.4%）で8割半ばと高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は第2ブロック（41.0%）で4割を超え、第9ブロック（34.2%）と第7ブロック（30.8%）で3割台と高くなっている。（図1-1-10）

図1-1-10 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（9）

（9）普段の買い物が便利である

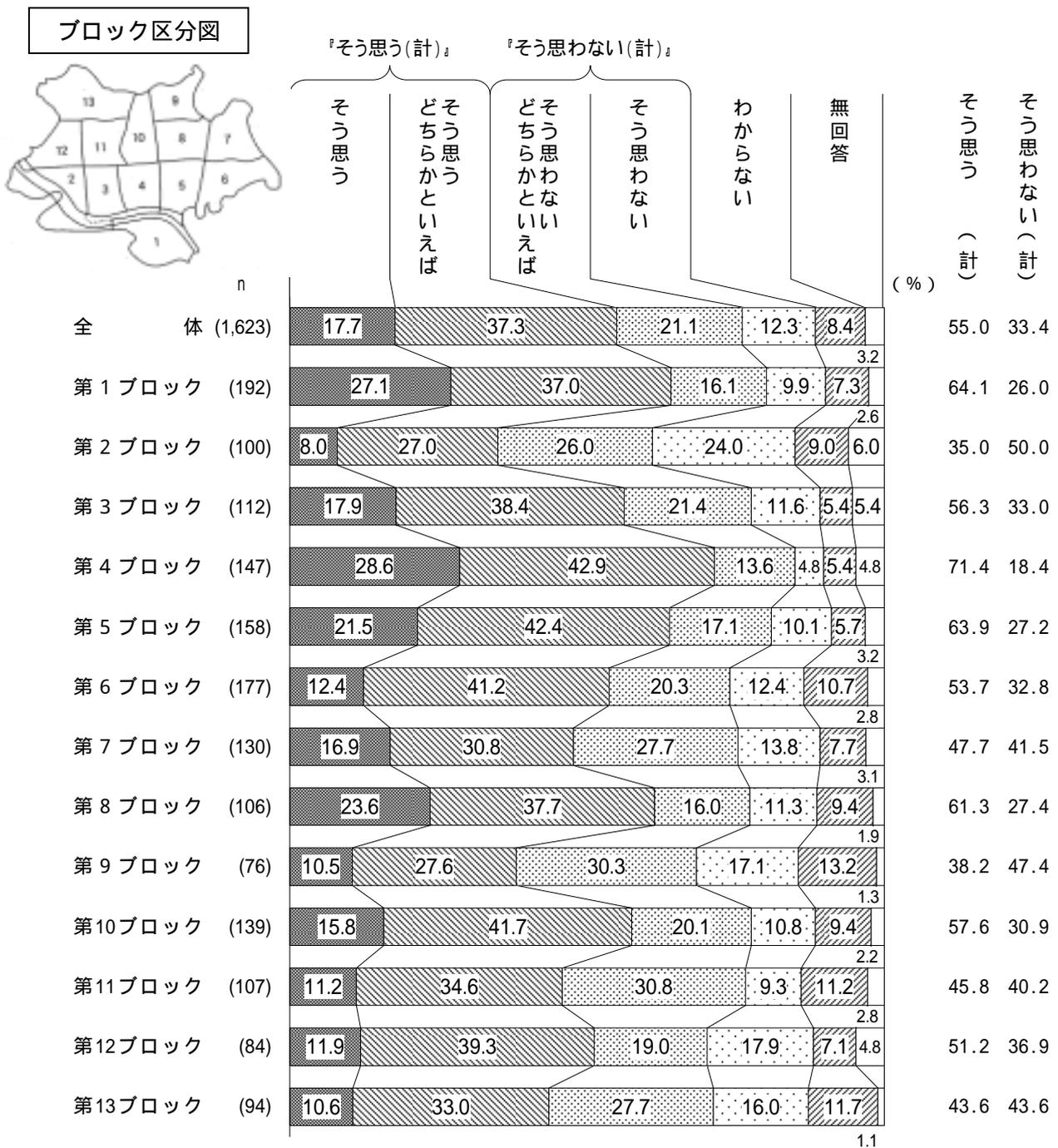


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第4ブロック（28.6%）と第1ブロック（27.1%）で3割近くと高くなっている。また、『そう思う（計）』では第4ブロック（71.4%）で7割を超え高くなっている。

一方、「そう思わない」は第2ブロック（24.0%）で2割半ばと高くなっている。また、『そう思わない（計）』では第2ブロック（50.0%）で5割、第9ブロック（47.4%）で5割近くと高くなっている。（図1-1-11）

図1-1-11 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（10）

（10）物価が安い

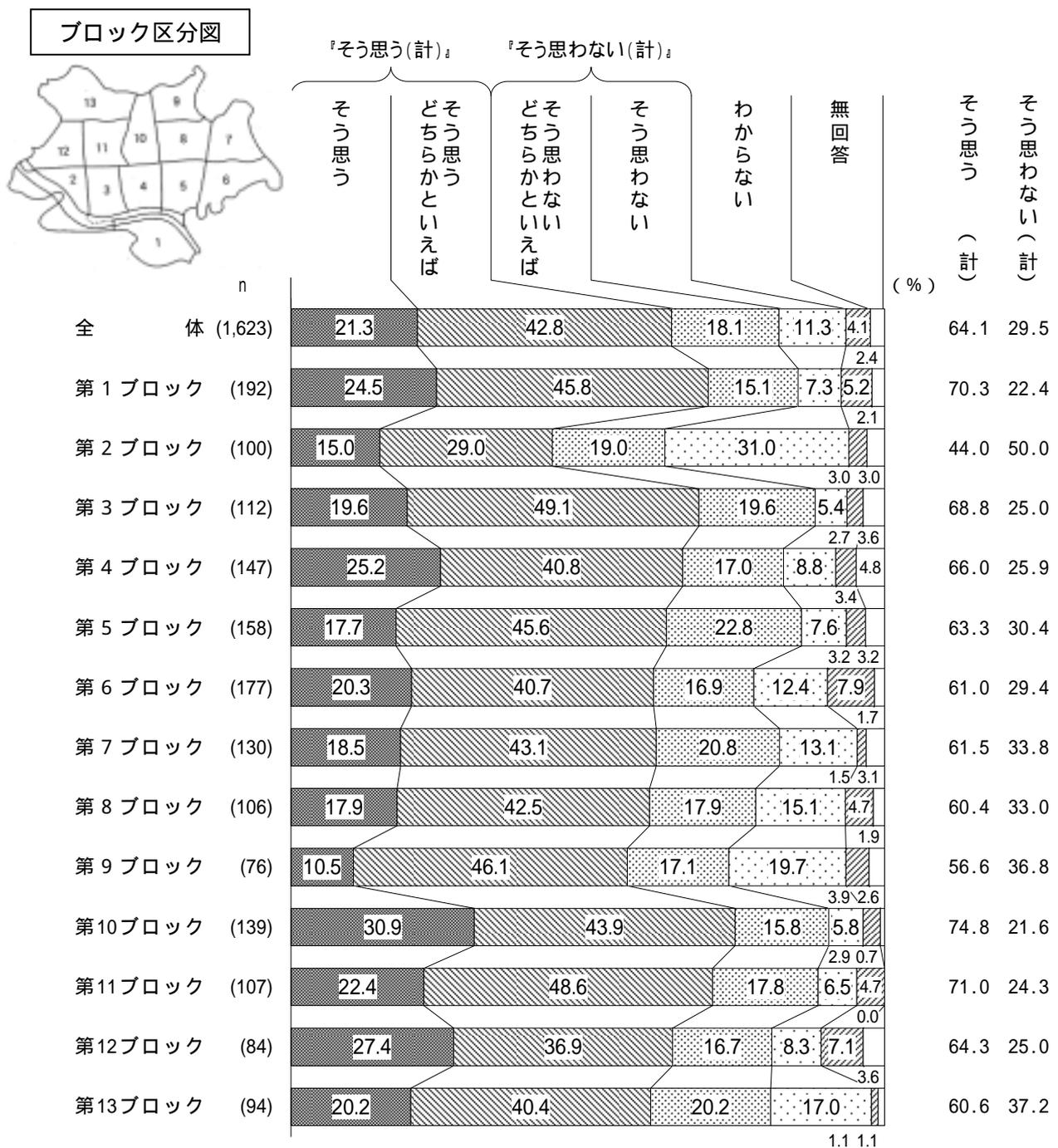


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第10ブロック(30.9%)でほぼ3割と高く、『そう思う(計)』でも第10ブロック(74.8%)で7割半ばと高くなっている。

一方、「そう思わない」は第2ブロック(31.0%)で3割を超え高く、『そう思わない(計)』でも第2ブロック(50.0%)で5割と高くなっている。(図1-1-12)

図1-1-12 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(11)

(11) 病院や診療所など医療機関が利用しやすい

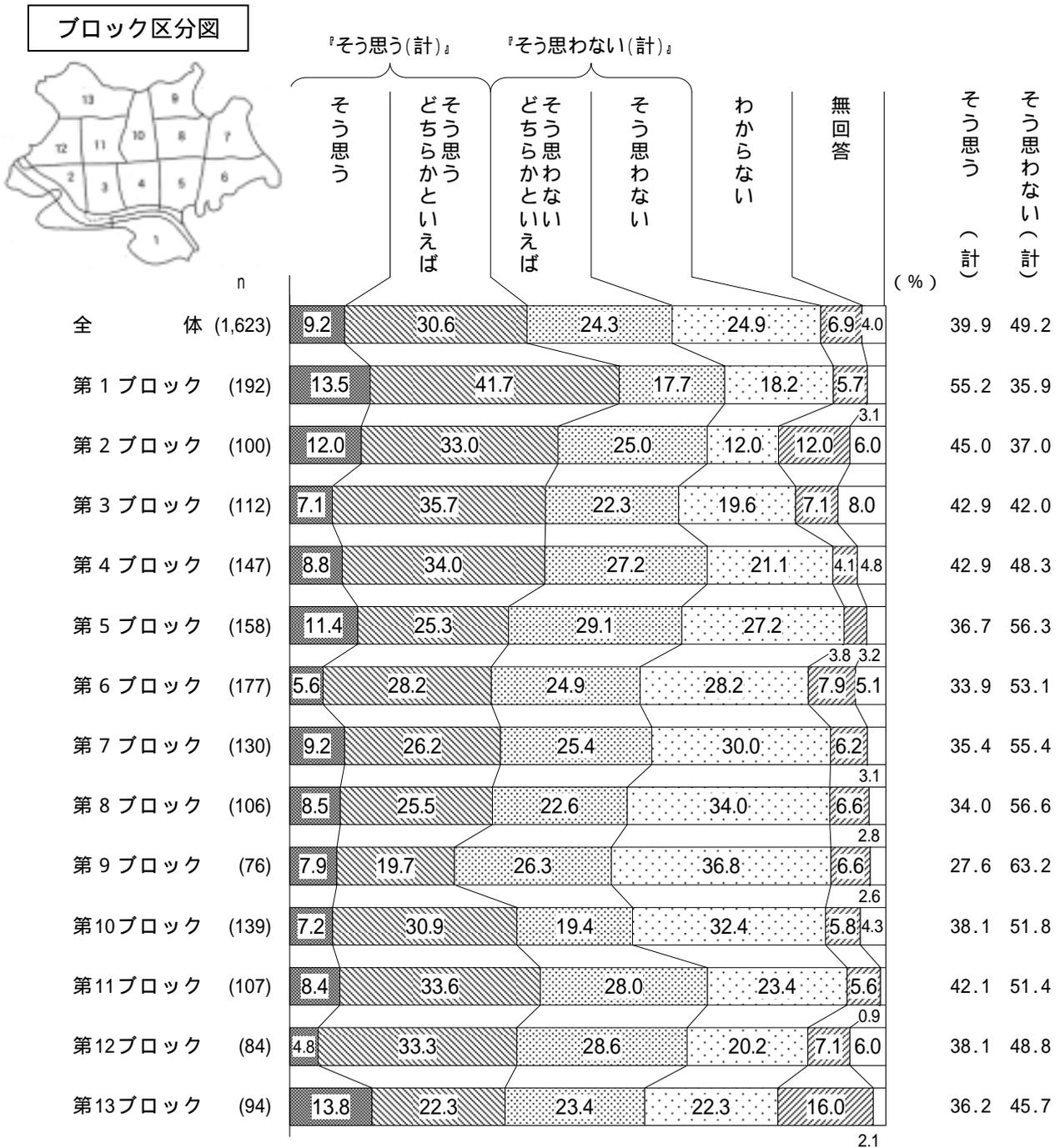


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第1ブロック(55.2%)で5割半ばと高くなっている。

一方、「そう思わない」は第9ブロック(36.8%)と第8ブロック(34.0%)、第10ブロック(32.4%)、第7ブロック(30.0%)で3割以上を占めている。また、『そう思わない(計)』では第9ブロック(63.2%)で6割を超え高くなっている。(図1-1-13)

図1-1-13 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(12)

(12) 治安がよい

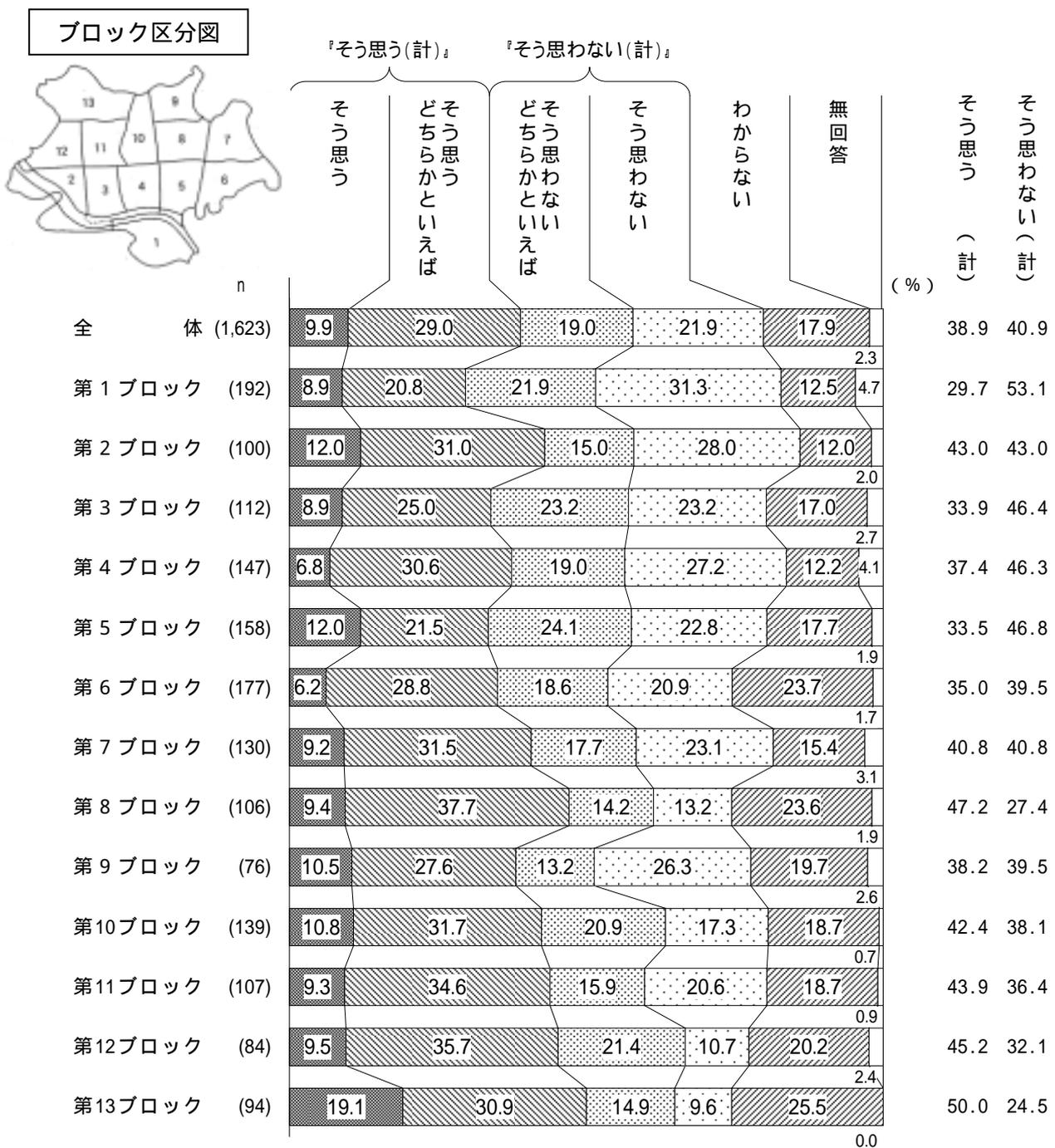


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第13ブロック(19.1%)でほぼ2割と高く、『そう思う(計)』でも第13ブロック(50.0%)で5割と高くなっている。

一方、「そう思わない」は第1ブロック(31.3%)で3割を超え高く、『そう思わない(計)』でも第1ブロック(53.1%)で5割を超え高くなっている。(図1-1-14)

図1-1-14 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(13)

(13) 地震などによる災害が起きても、被害は少ない

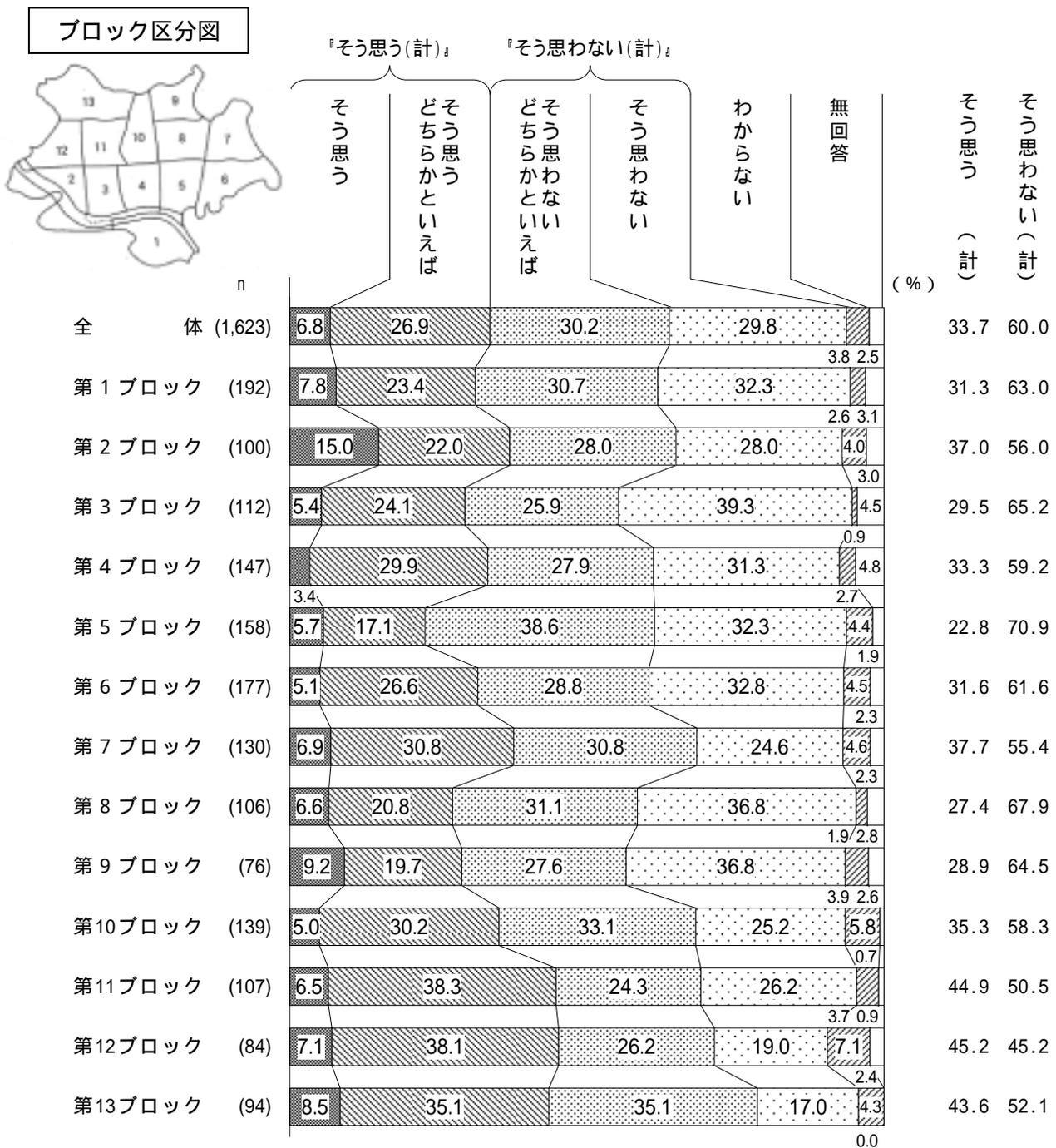


地域ブロック別でみると、「そう思う」は第2ブロック（15.0%）で1割半ばと高くなっている。また、『そう思う（計）』では第12ブロック（45.2%）、第11ブロック（44.9%）、第13ブロック（43.6%）で4割以上を占めている。

一方、「そう思わない」は第3ブロック（39.3%）でほぼ4割と高くなっている。また、『そう思わない（計）』では第5ブロック（70.9%）でほぼ7割と高くなっている。（図1-1-15）

図1-1-15 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（14）

（14）近所の道路・歩道は、子どもや高齢者でも安全で歩きやすくなっている

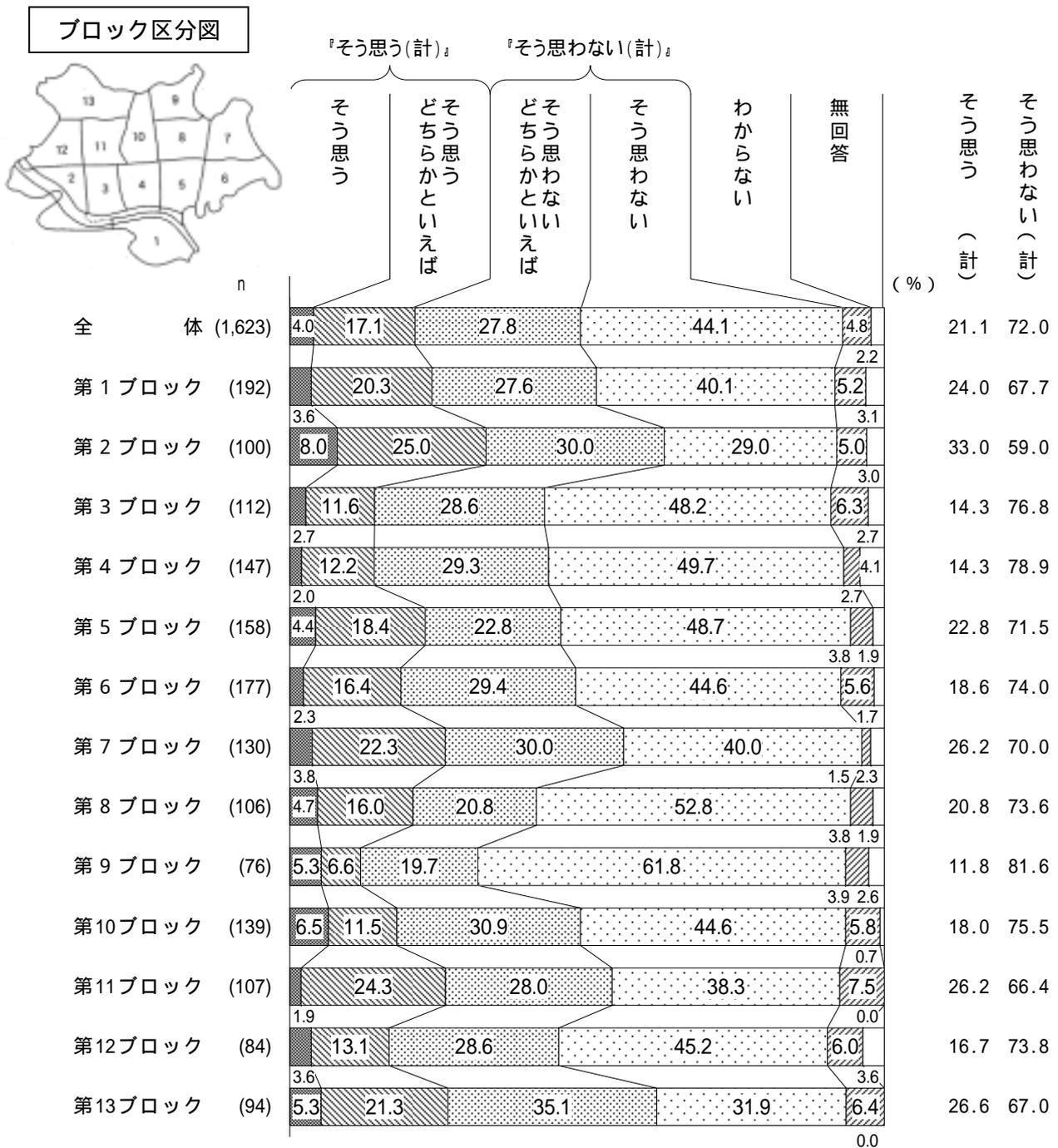


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第2ブロック(33.0%)で3割を超え高くなっている。

一方、「そう思わない」は第9ブロック(61.8%)で6割を超え高く、『そう思わない(計)』でも第9ブロック(81.6%)で8割を超え高くなっている。(図1-1-16)

図1-1-16 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別(15)

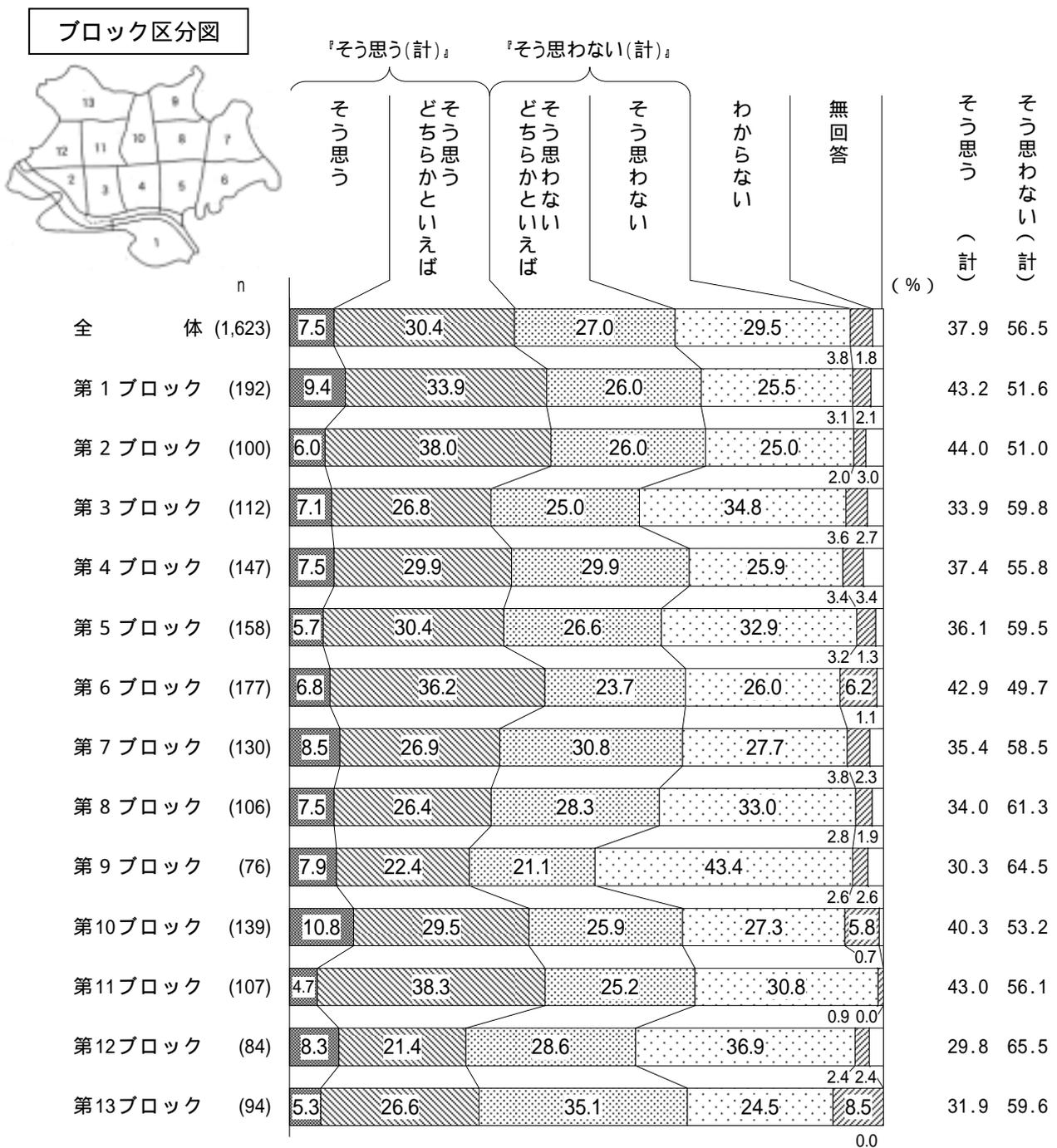
(15) 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



地域ブロック別でみると、「そう思わない」は第9ブロック（43.4%）で4割を超え高くなっている。また、『そう思わない（計）』では第12ブロック（65.5%）と第9ブロック（64.5%）で6割半ばと高くなっている。（図1-1-17）

図1-1-17 お住まいの地域についての感じ方 - 地域ブロック別（16）

（16）ごみ出しやペットのふんの始末など、社会生活のマナーはよく守られている

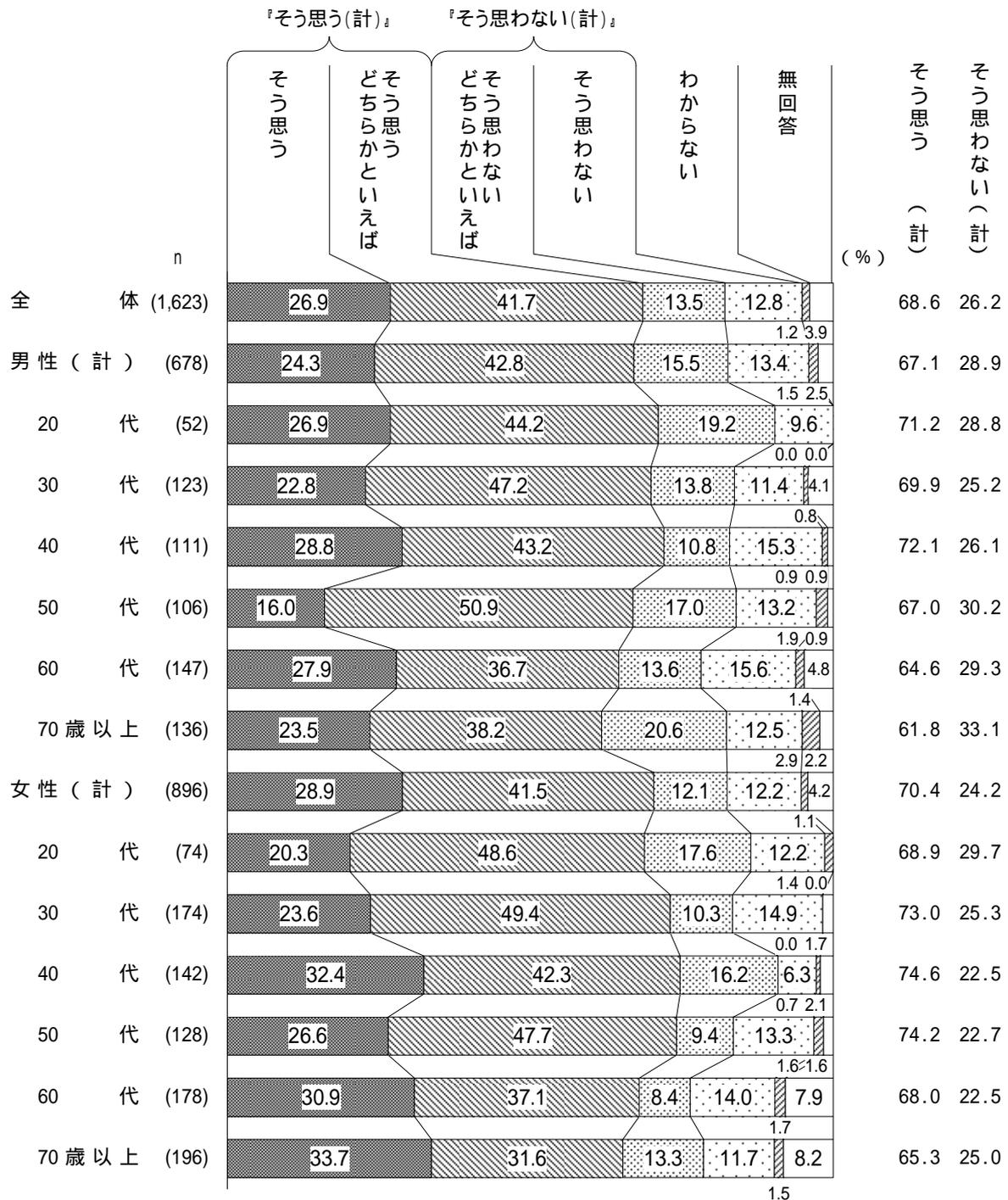


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(28.9%)が女性(24.2%)より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は女性の70歳以上(33.7%)、40代(32.4%)、60代(30.9%)の年代で3割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性70歳以上(33.1%)で3割を超え高くなっている。(図1-1-18)

図1-1-18 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(1)

(1) 街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い



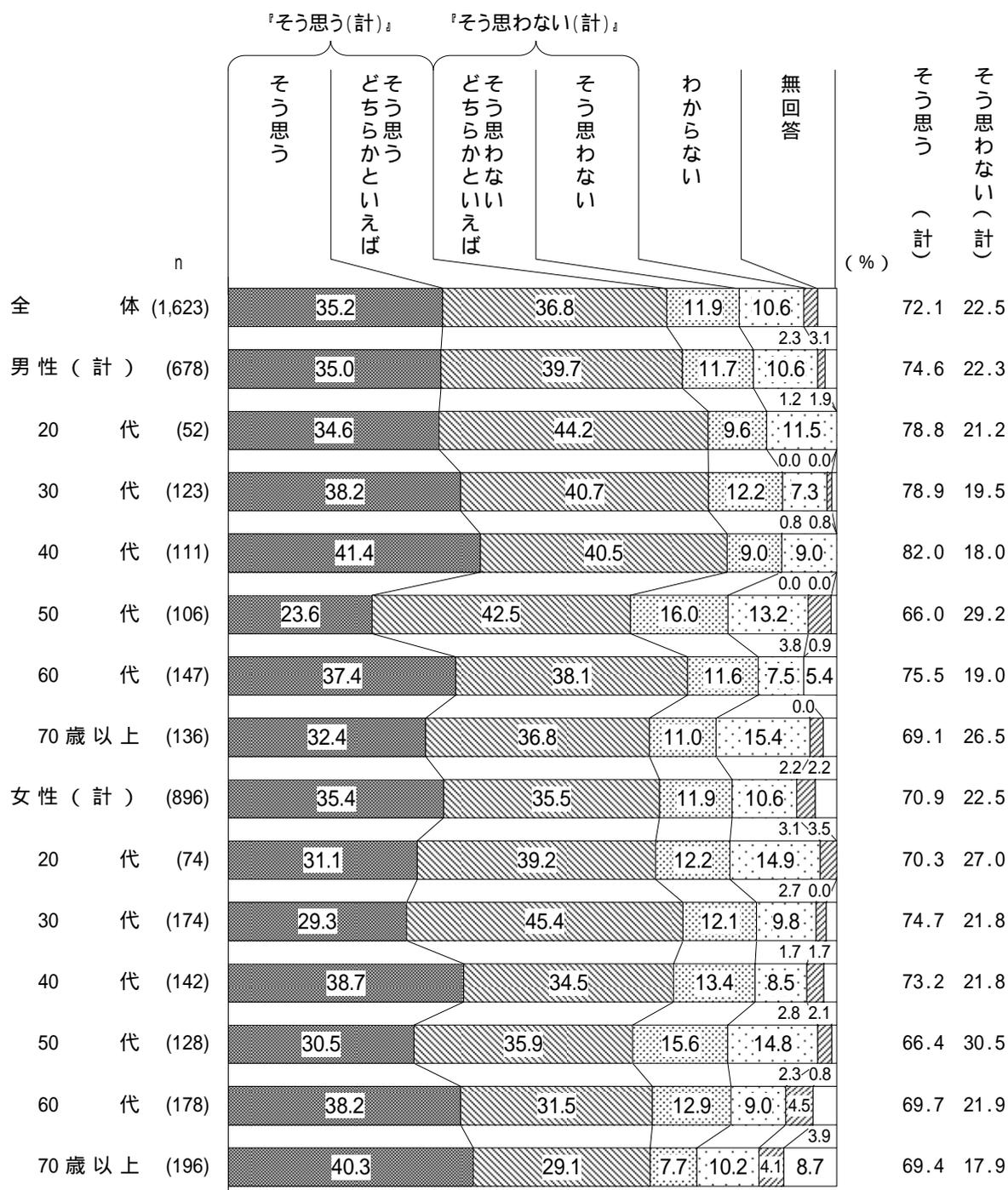
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性40代(82.0%)で8割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は女性50代(30.5%)でほぼ3割と高くなっている。

(図1 - 1 - 19)

図1 - 1 - 19 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(2)

(2) 誰もが利用しやすい公園がある

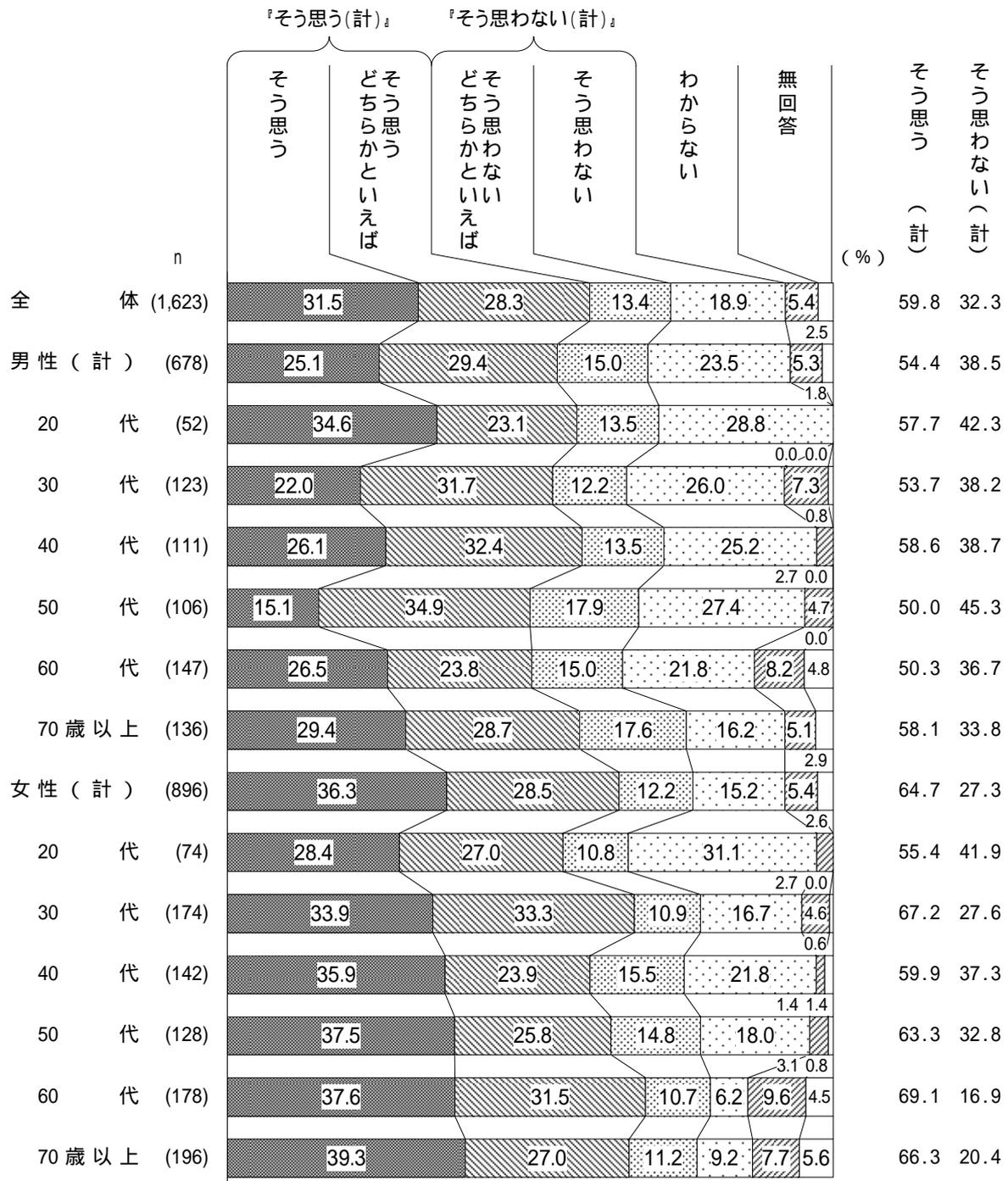


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(38.5%)が女性(27.3%)より11.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性70歳以上(39.3%)でほぼ4割と高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性50代(45.3%)で4割半ばと高くなっている。(図1-1-20)

図1-1-20 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(3)

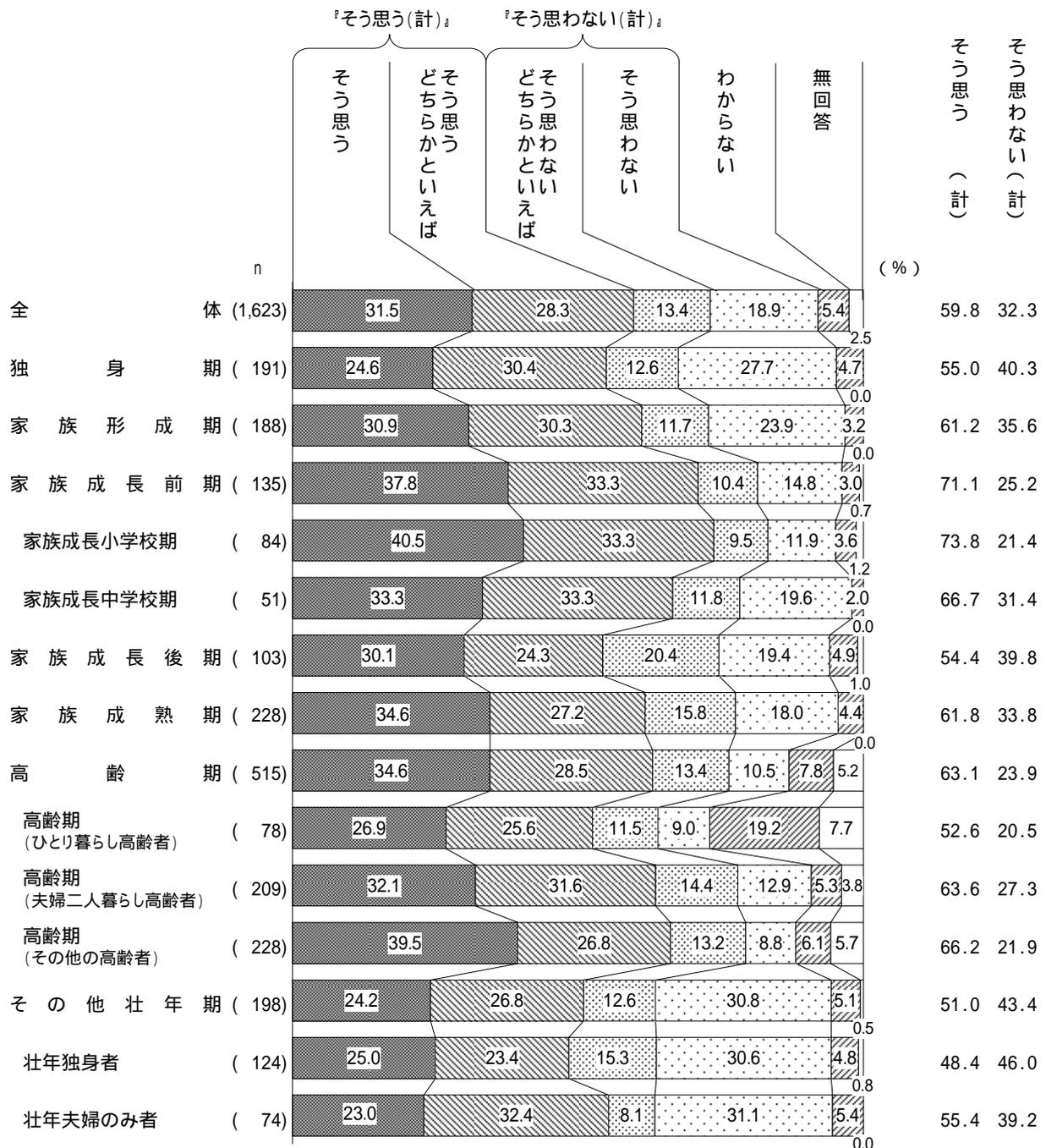
(3) 家族を含め、近隣に普段から相談できる、支援してくれる人がいる



ライフステージ別でみると、『そう思う(計)』は家族成長前期(71.1%)で7割を超え高く、その中でも家族成長小学校期(73.8%)で高くなっている。一方、『そう思わない(計)』はその他壮年期(43.4%)、独身期(40.3%)で4割台と高くなっている。また、「わからない」は高齢期のひとり暮らし高齢者(19.2%)で2割近くと高くなっている。(図1-1-21)

図1-1-21 お住まいの地域についての感じ方 - ライフステージ別(3)

(3) 家族を含め、近隣に普段から相談できる、支援してくれる人がいる

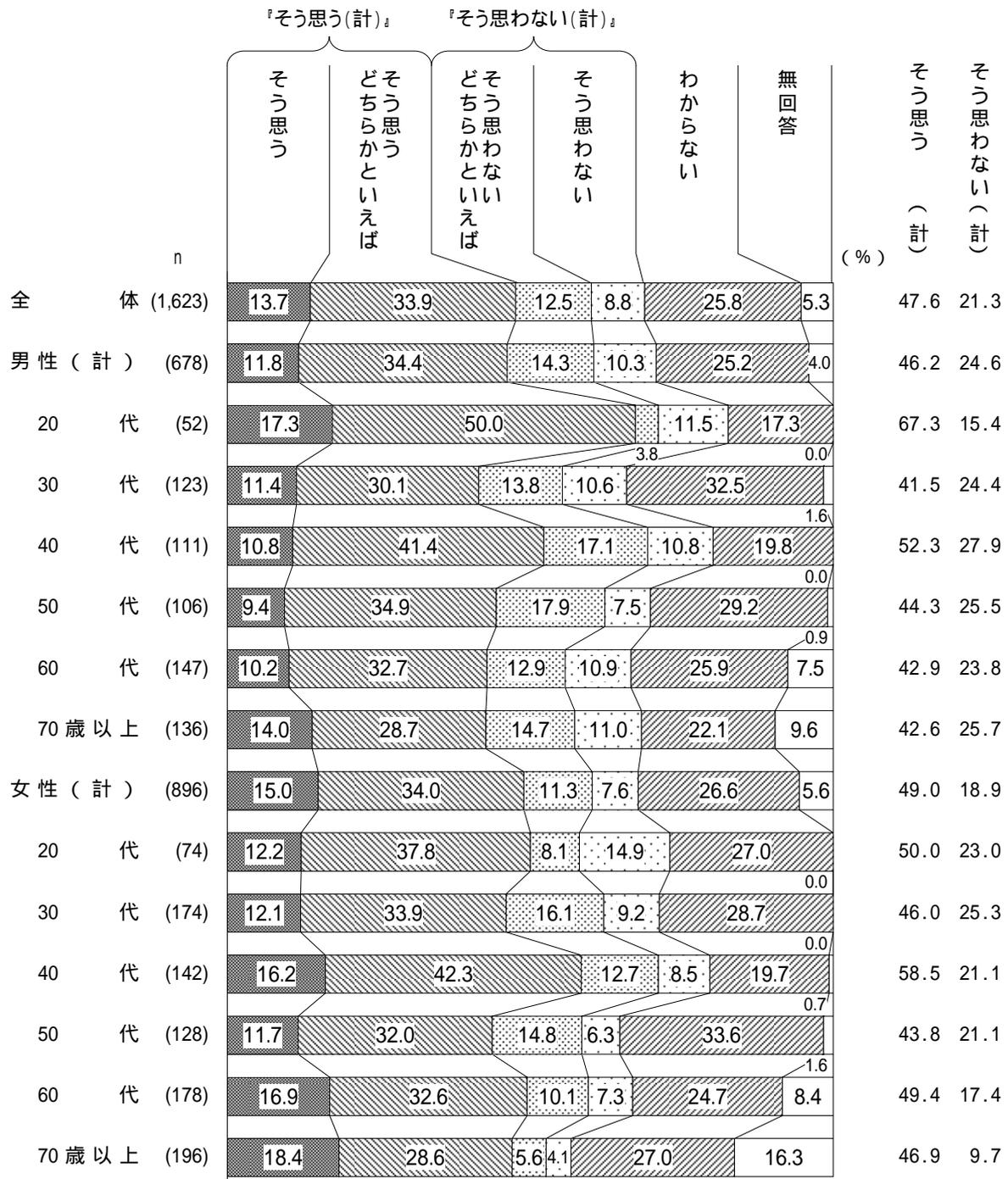


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(24.6%)が女性(18.9%)より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性20代(67.3%)で7割近く、女性40代(58.5%)で6割近くと高くなっている。(図1-1-22)

図1-1-22 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(4)

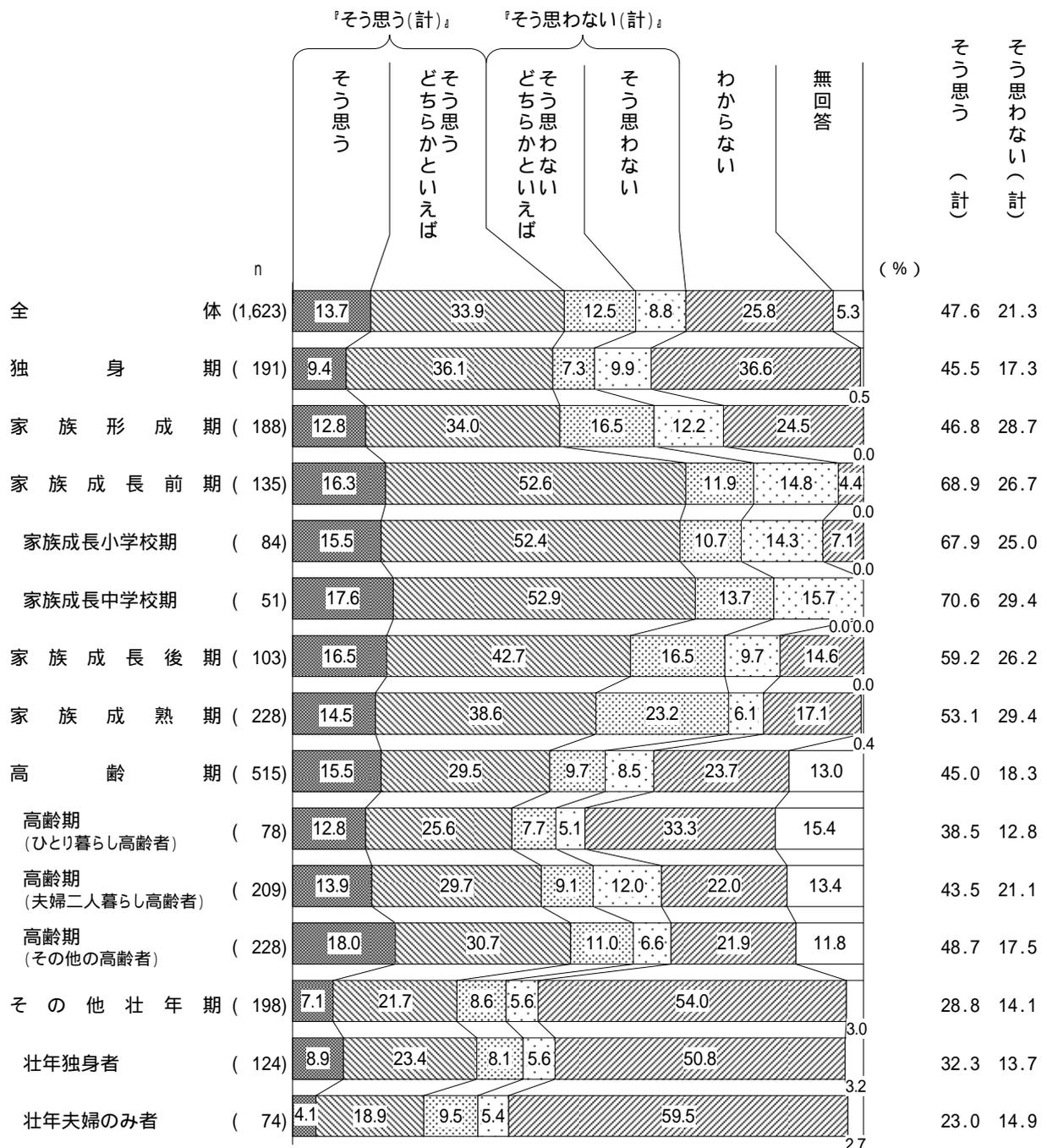
(4) 子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている



ライフステージ別でみると、『そう思う(計)』は家族成長前期(68.9%)で7割近くと高く、その中でも家族成長中学校期(70.6%)でほぼ7割と高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は家族成熟期(29.4%)、家族形成期(28.7%)で3割近くと高くなっている。(図1-1-23)

図1-1-23 お住まいの地域についての感じ方 - ライフステージ別(4)

(4) 子育て環境(保育所、学童クラブなど)が整っている

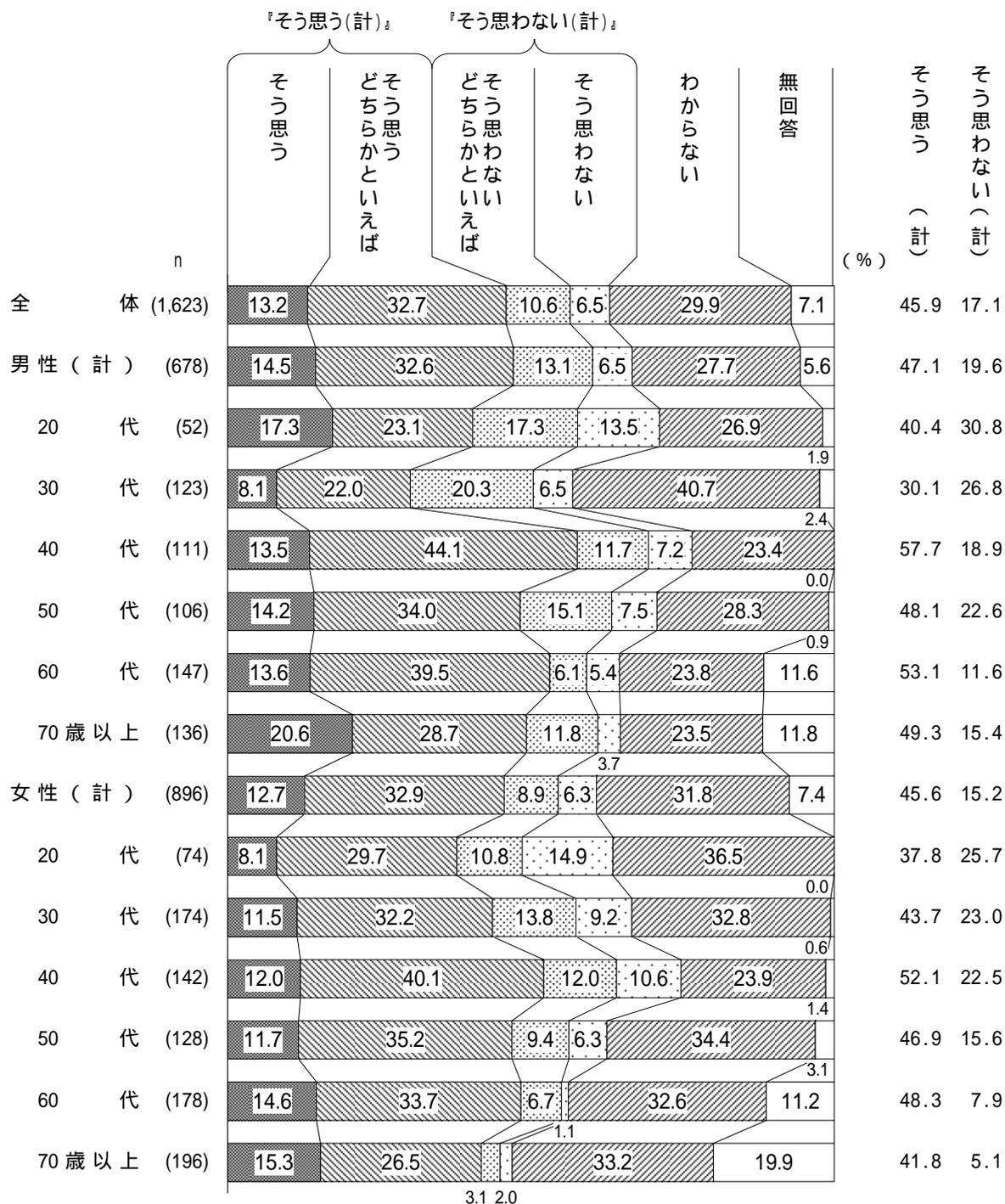


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男性70歳以上（20.6%）でほぼ2割と高くなっている。また、『そう思う（計）』は男性40代（57.7%）で6割近くと高くなっている。一方、「そう思わない」は男女とも20代（男性13.5%・女性14.9%）で高くなっている。また、『そう思わない（計）』は男性20代（30.8%）でほぼ3割と高くなっている。（図1 - 1 - 24）

図1 - 1 - 24 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（5）

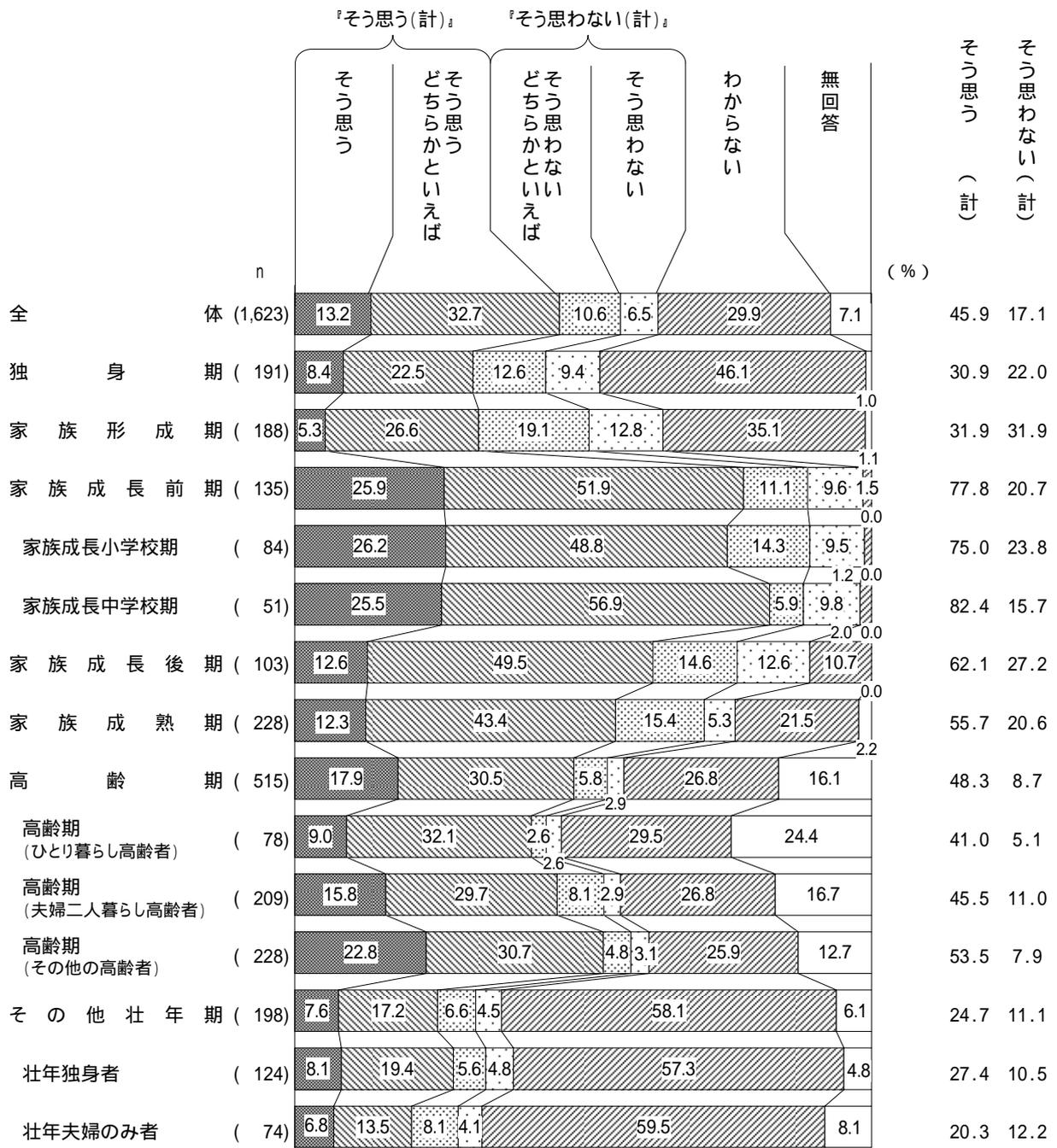
（5）小・中学校に安心して子どもを預けられる



ライフステージ別でみると、『そう思う(計)』は家族成長前期(77.8%)で8割近くと高く、その中でも家族成長中学校期(82.4%)で8割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は家族形成期(31.9%)で3割を超え高くなっている。(図1-1-25)

図1-1-25 お住まいの地域についての感じ方 - ライフステージ別(5)

(5) 小・中学校に安心して子どもを預けられる



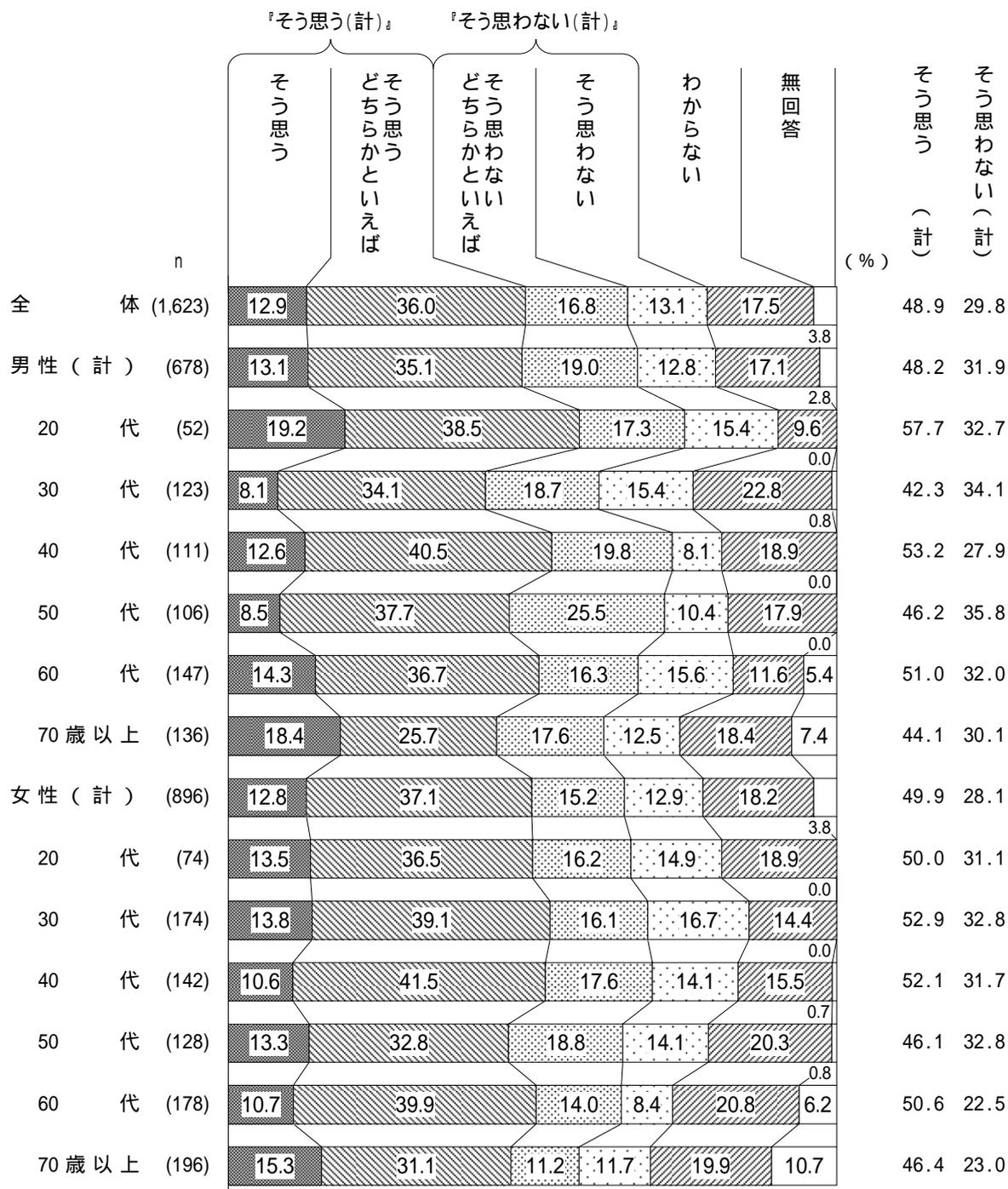
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性20代(57.7%)で6割近くと高くなっている。

(図1 - 1 - 26)

図1 - 1 - 26 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(6)

(6) 図書館など地域の施設が使いやすく、充実した時間を過ごすことができる

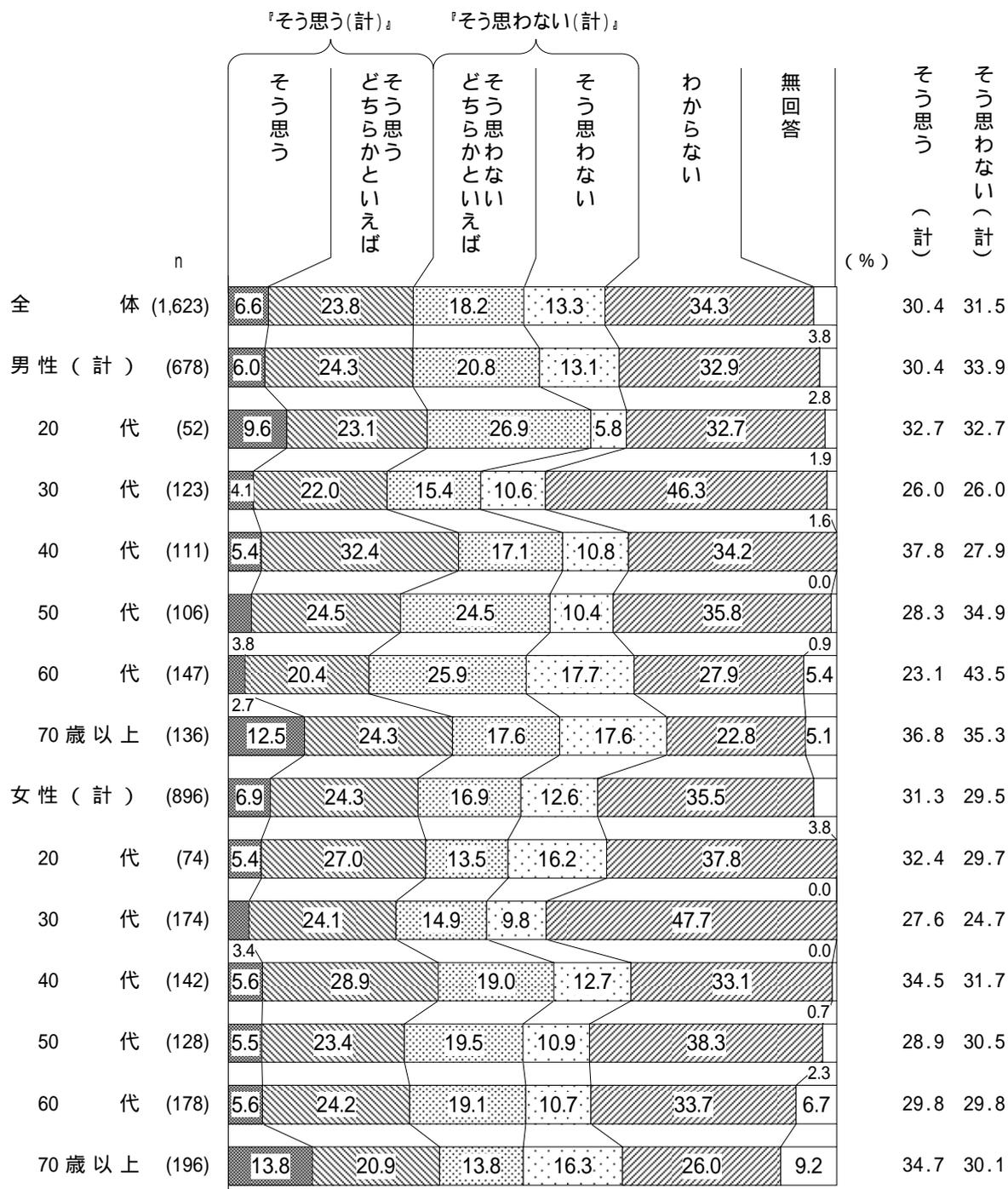


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男女とも70歳以上（男性12.5%・女性13.8%）で1割を超え高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性60代（43.5%）で4割を超え高くなっている。（図1-1-27）

図1-1-27 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（7）

（7）高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい

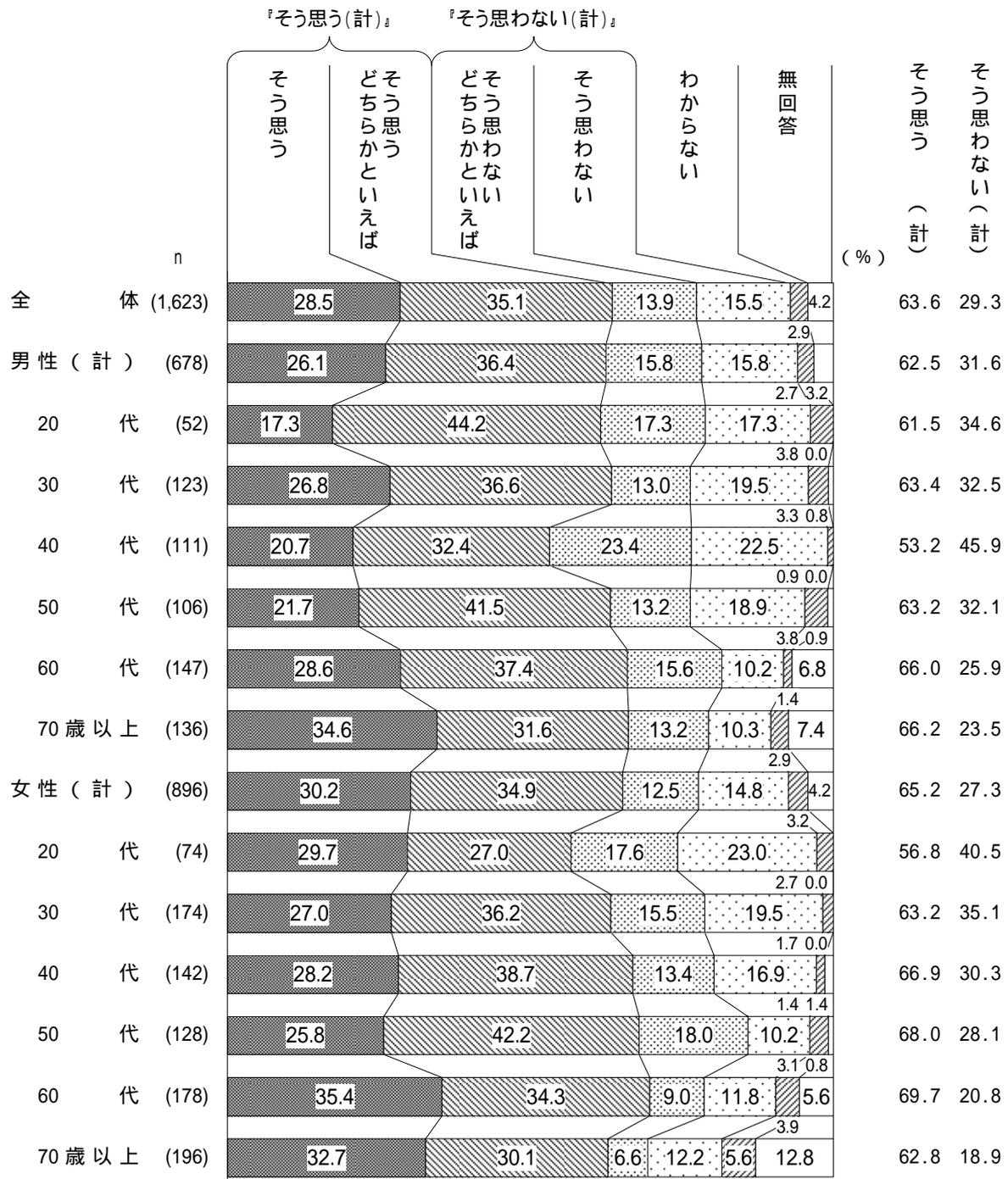


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(31.6%)が女性(27.3%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は女性60代(35.4%)と男性70歳以上(34.6%)で3割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代(45.9%)で4割半ば、女性20代(40.5%)でほぼ4割と高くなっている。(図1-1-28)

図1-1-28 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(8)

(8) 通勤や通学などの交通の便がよい

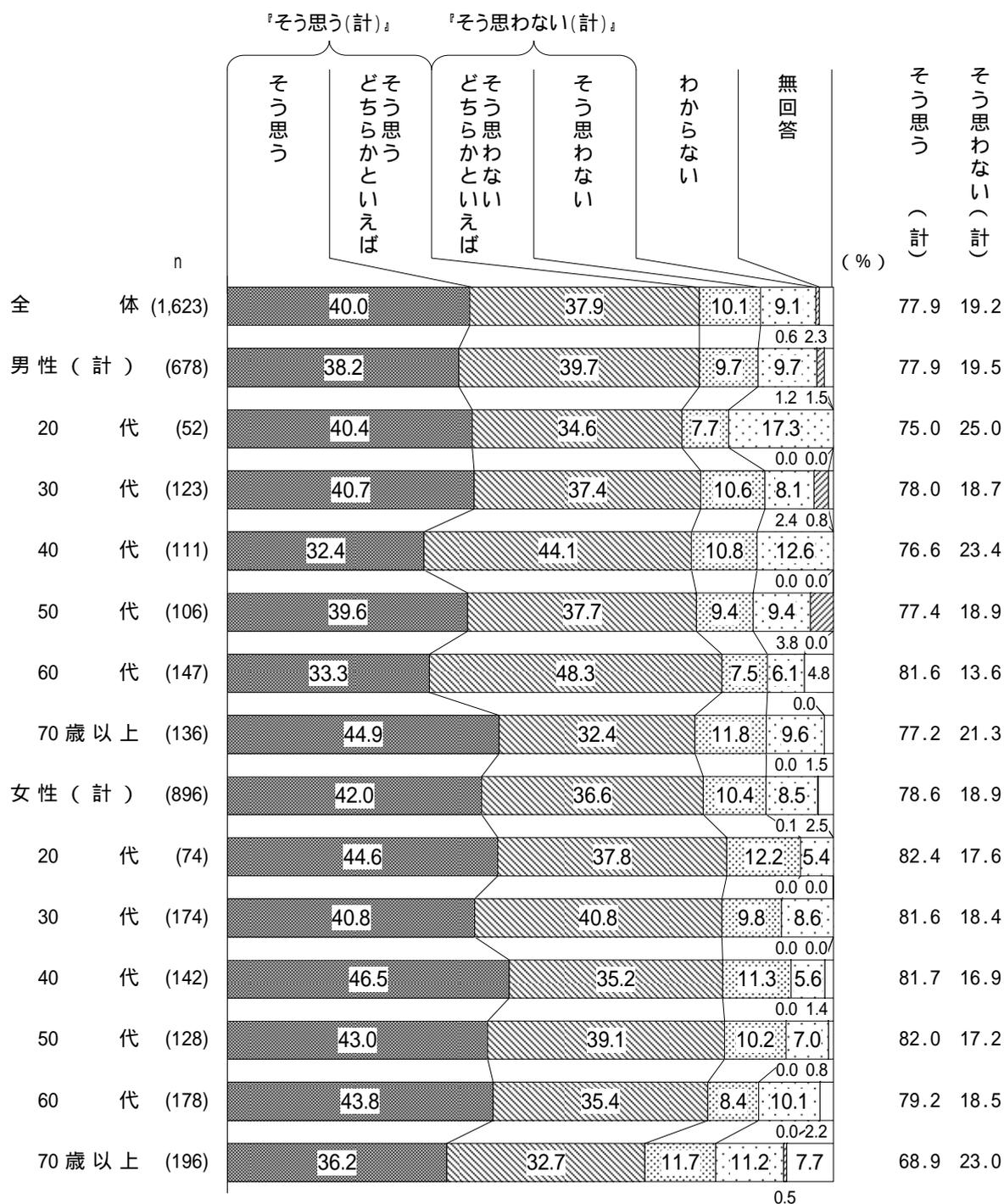


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性70歳以上(68.9%)で7割近くと低くなっているが、他の性年代では7割半ば以上を占めている。一方、「そう思わない」は男性20代(17.3%)で2割近くと高くなっている。(図1-1-29)

図1-1-29 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(9)

(9) 普段の買い物が便利である

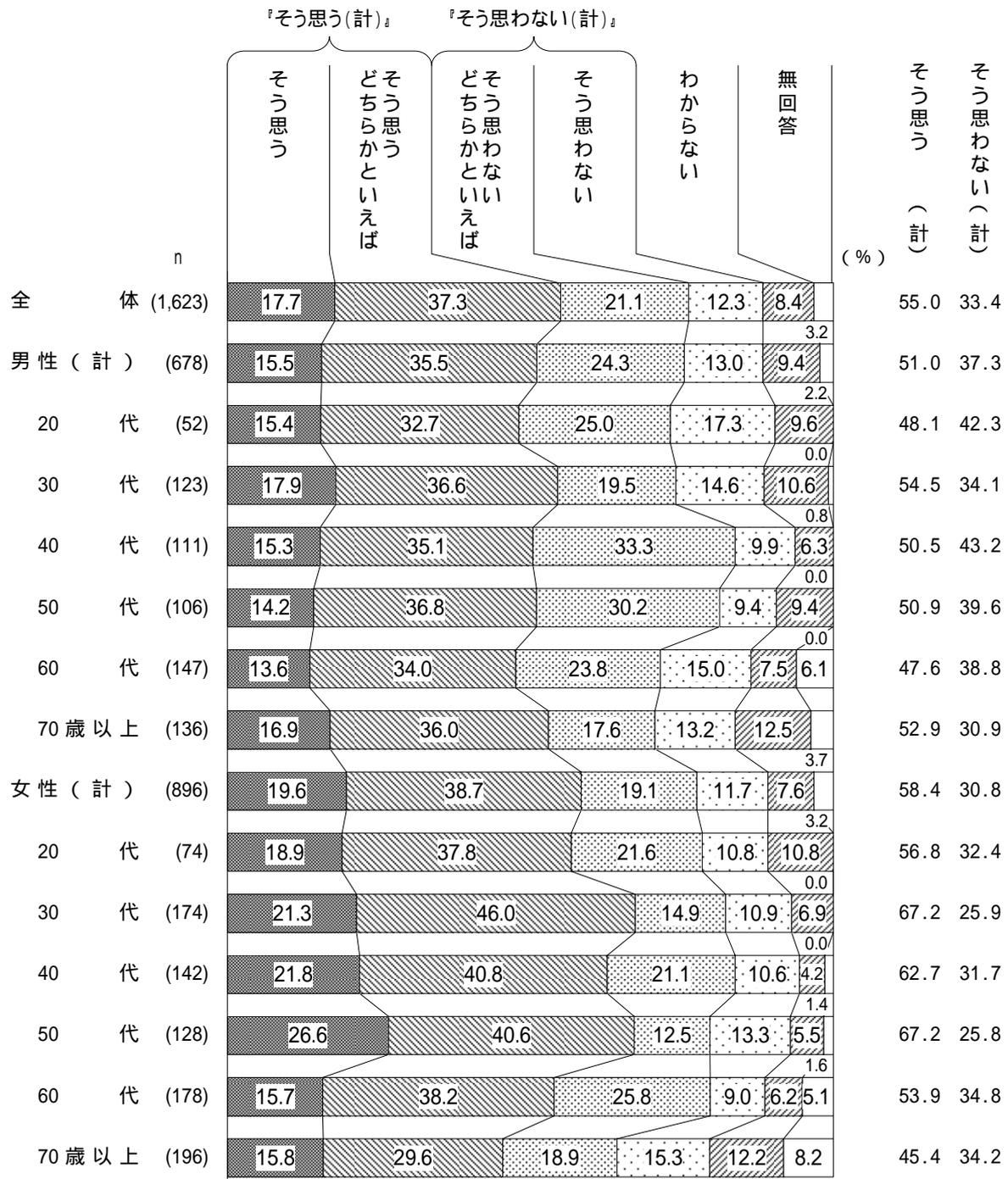


性別で見ると、女性で『そう思う(計)』(58.4%)が男性(51.0%)より7.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は女性50代(26.6%)で3割近くと高くなっている。また、『そう思う(計)』は女性の30代と50代(ともに67.2%)の年代で7割近くと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性の40代(43.2%)と20代(42.3%)の年代で4割を超え高くなっている。(図1-1-30)

図1-1-30 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(10)

(10) 物価が安い

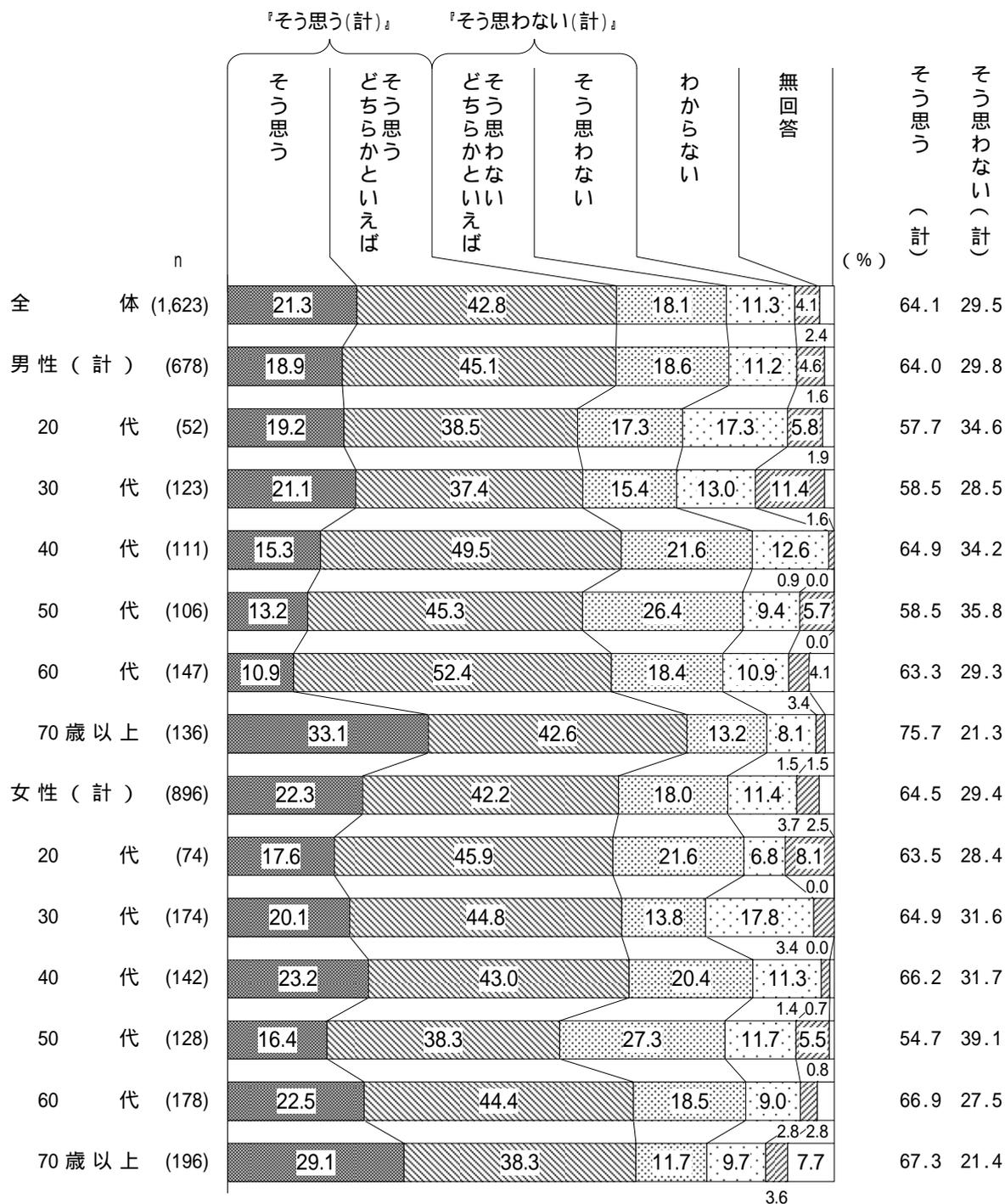


性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、「そう思う」は男女とも70歳以上（男性33.1%・女性29.1%）で3割前後と高くなっている。また、『そう思う（計）』は男性70歳代（75.7%）で7割半ばと高くなっている。一方、「そう思わない」は女性30代（17.8%）で2割近くと高くなっている。また、『そう思わない（計）』は女性50代（39.1%）でほぼ4割と高くなっている。（図1-1-31）

図1-1-31 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（11）

（11）病院や診療所など医療機関が利用しやすい

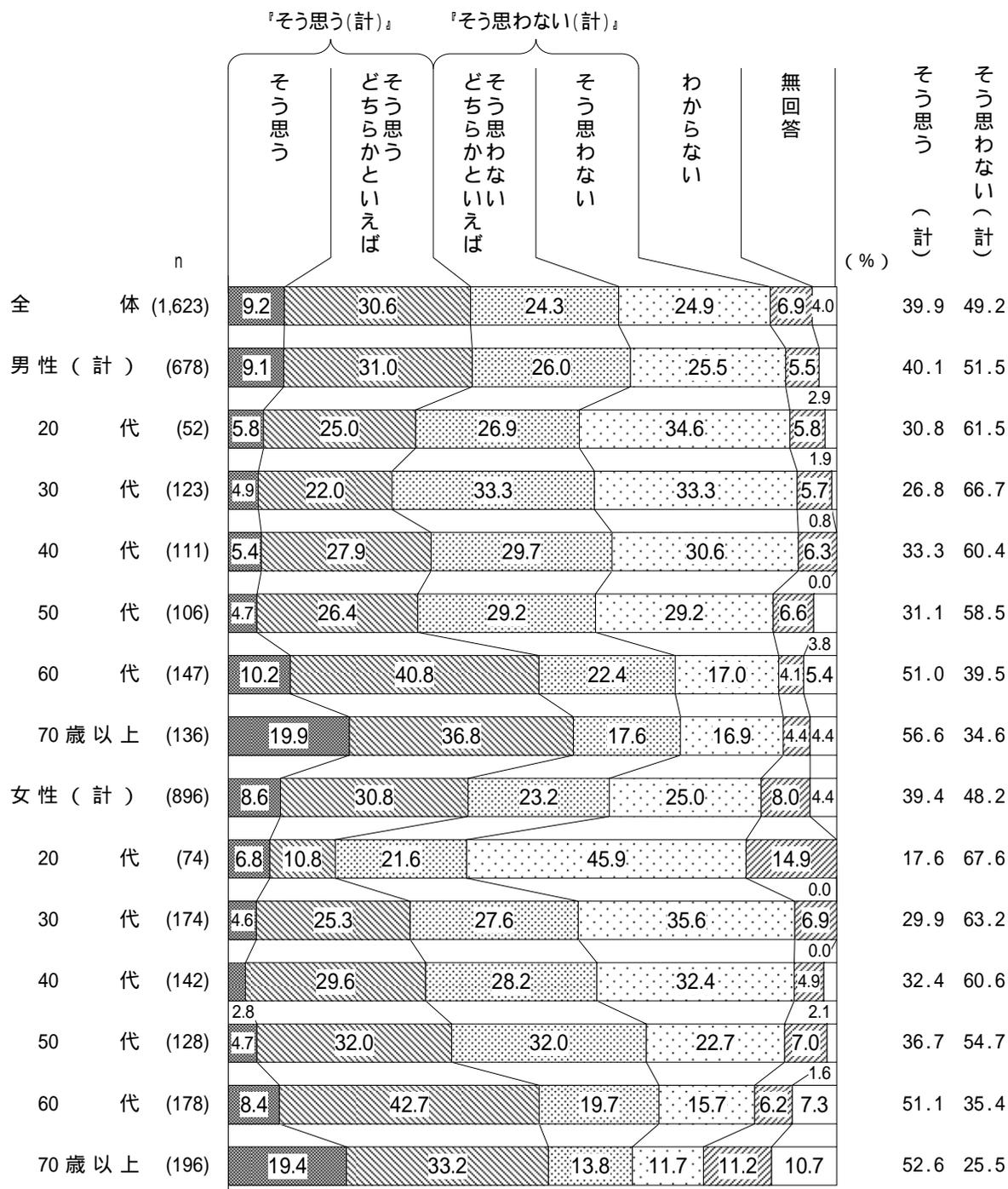


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男女とも70歳以上（男性19.9%・女性19.4%）で高くなっている。また、『そう思う（計）』は男女とも60代と70歳以上の年代で5割以上を占めている。一方、「そう思わない」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（45.9%）で4割半ばと高くなっている。また、『そう思わない（計）』は男性30代（66.7%）と女性20代（67.6%）で7割近くと高くなっている。（図1-1-32）

図1-1-32 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（12）

（12）治安がよい

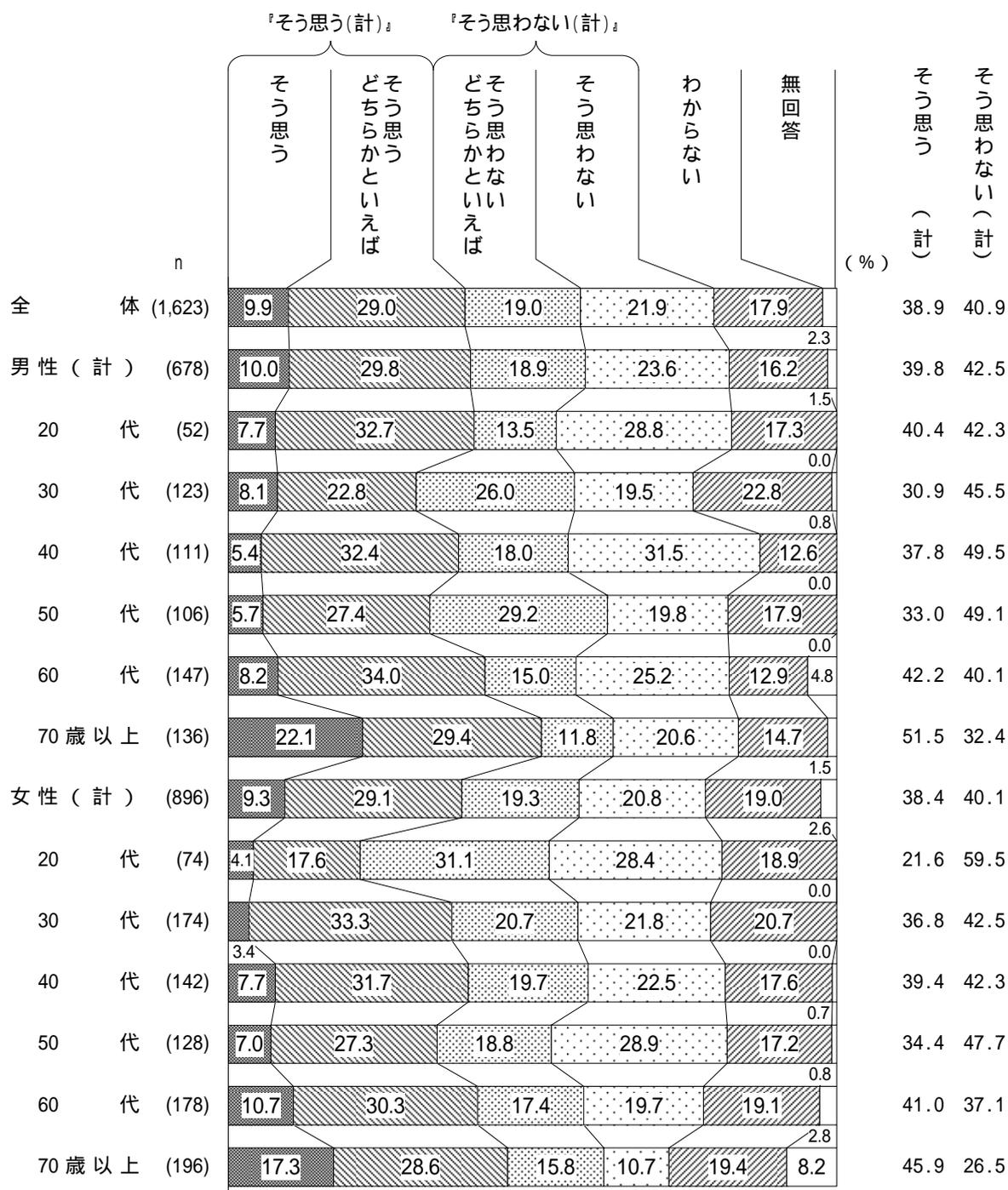


性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、「そう思う」は男女とも70歳以上（男性22.1%・女性17.3%）で2割前後と高くなっている。また、『そう思う（計）』は男性70歳以上（51.5%）で5割を超え高くなっている。一方、「そう思わない」は男性40代（31.5%）で3割を超え高くなっている。また、『そう思わない（計）』は女性20代（59.5%）で6割と高くなっている。（図1-1-33）

図1-1-33 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（13）

（13）地震などによる災害が起きても、被害は少ない

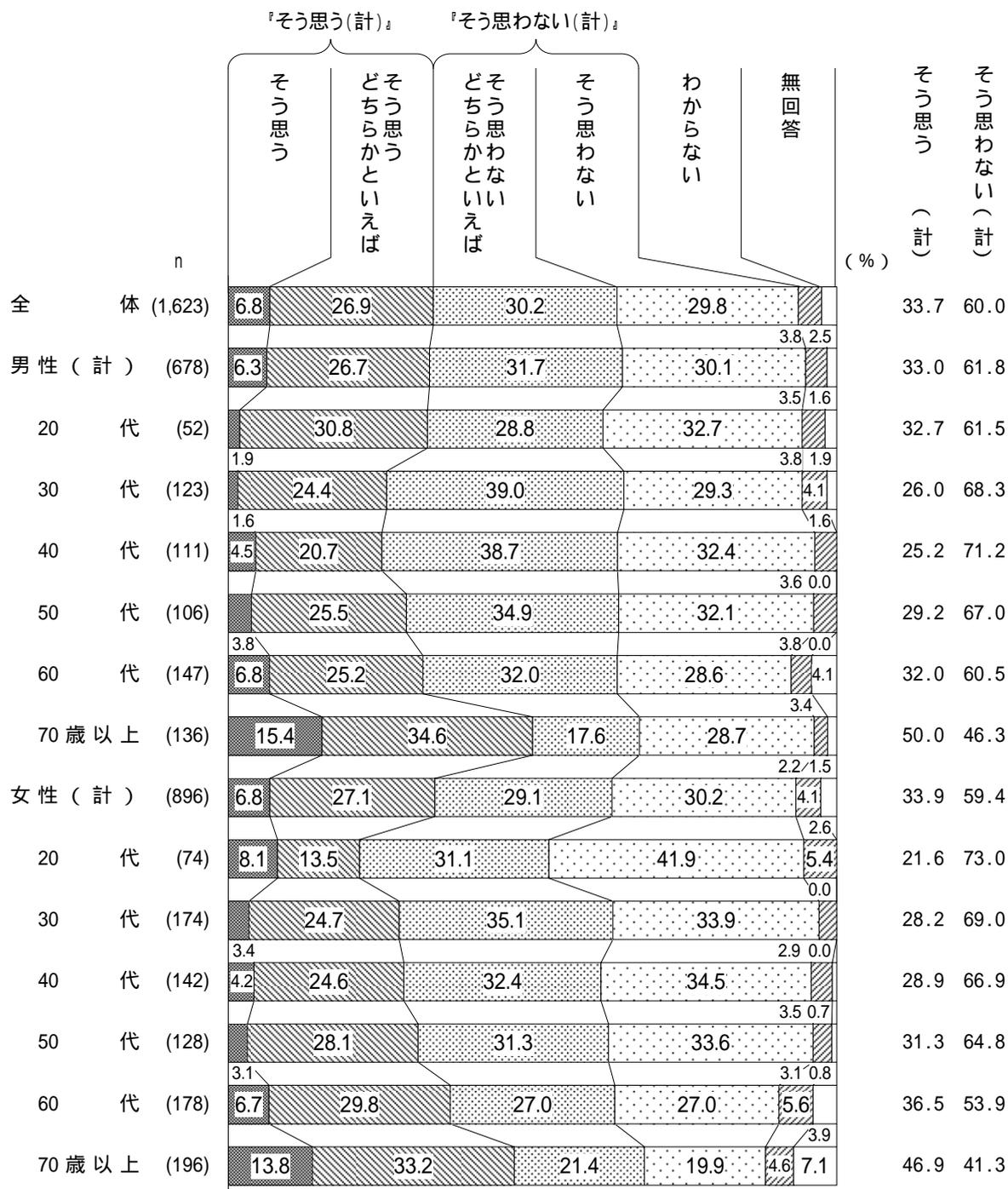


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男女とも70歳以上（男性15.4%・女性13.8%）で1割半ばと高くなっている。また、『そう思う（計）』でも男女とも70歳以上（男性50.0%・女性46.9%）で高くなっている。一方、「そう思わない」は女性20代（41.9%）で4割を超え高くなっている。また、『そう思わない（計）』は男性40代（71.2%）で7割を超え、女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（73.0%）で7割を超え高くなっている。（図1-1-34）

図1-1-34 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（14）

（14）近所の道路・歩道は、子どもや高齢者でも安全で歩きやすくなっている

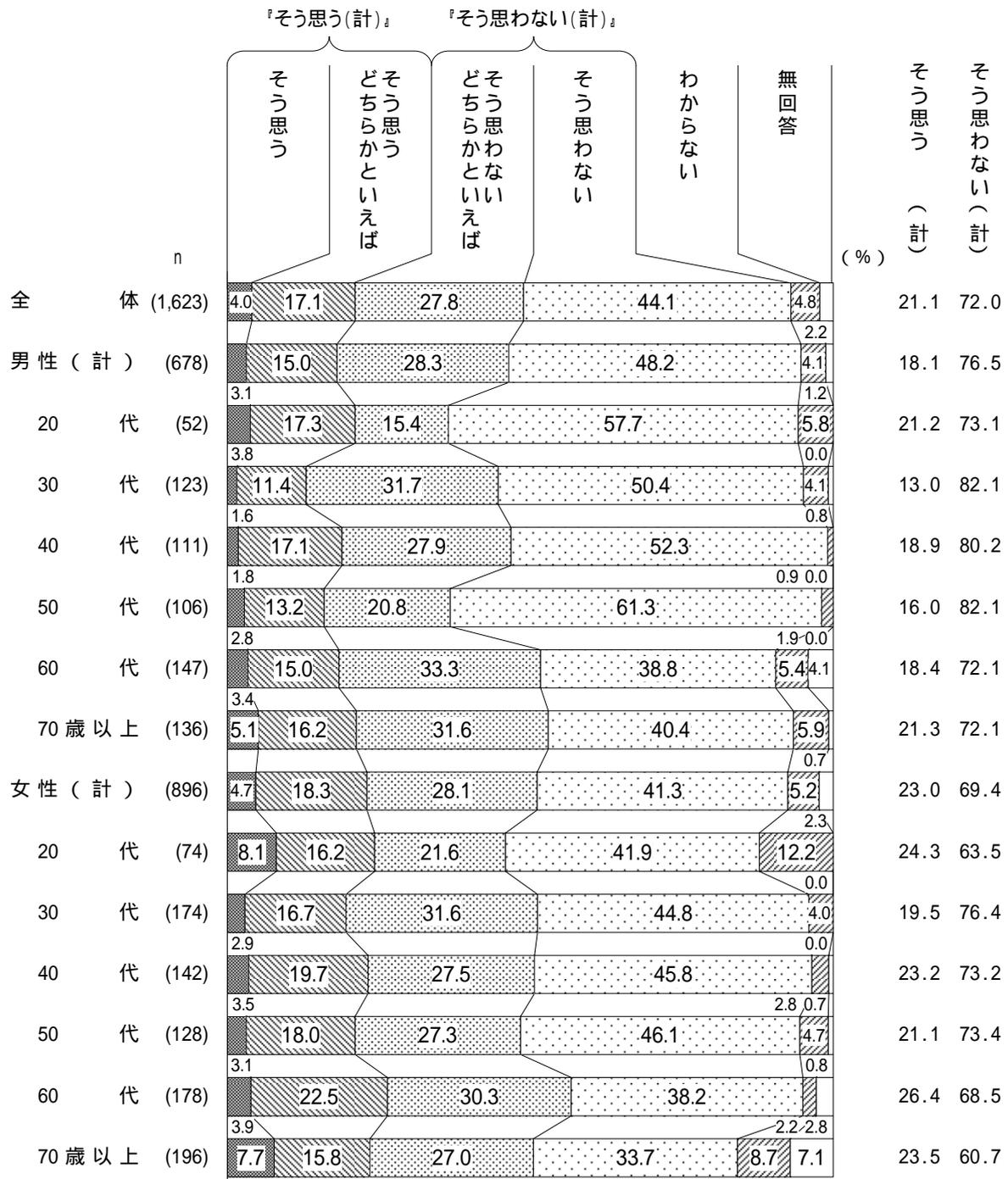


性別で見ると、男性で『そう思わない(計)』(76.5%)が女性(69.4%)より7.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思わない」は男性50代(61.3%)で6割を超え、男性20代(57.7%)で6割近くと高くなっている。また、『そう思わない(計)』は男性の30代(82.1%)、40代(80.2%)、50代(82.1%)の年代で8割台と高くなっている。(図1-1-35)

図1-1-35 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別(15)

(15) 自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている



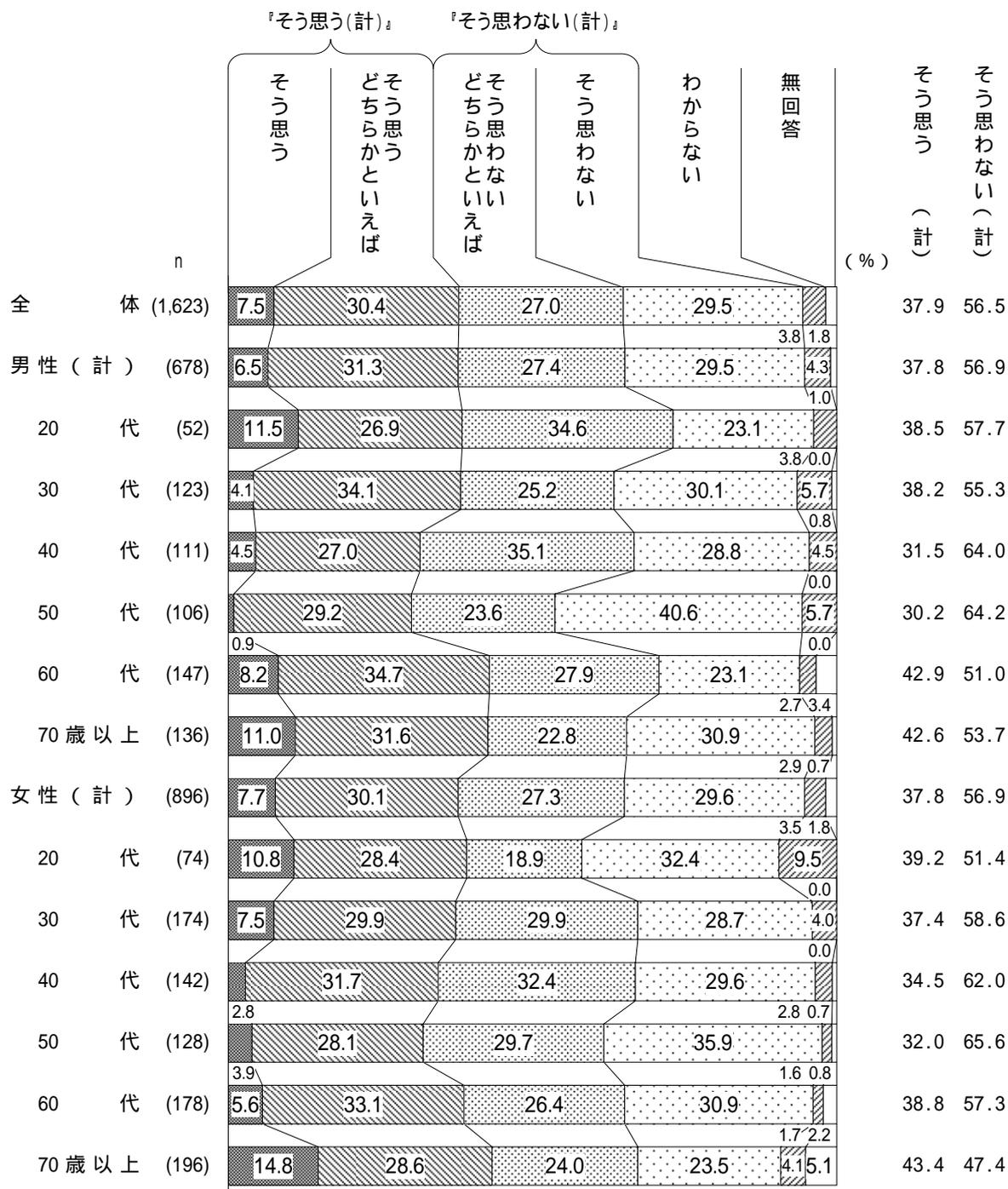
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思わない」は男性50代（40.6%）でほぼ4割と高くなっている。

『そう思う（計）』は男性60代（42.9%）、70歳以上（42.6%）と女性70歳以上（43.4%）で4割を超えている一方、『そう思わない（計）』は男性40代（64.0%）、50代（64.2%）と女性40代（62.0%）、50代（65.6%）が6割を超え高くなっている。（図1 - 1 - 36）

図1 - 1 - 36 お住まいの地域についての感じ方 - 性別、性・年代別（16）

（16）ごみ出しやペットのふんの始末など、社会生活のマナーはよく守られている

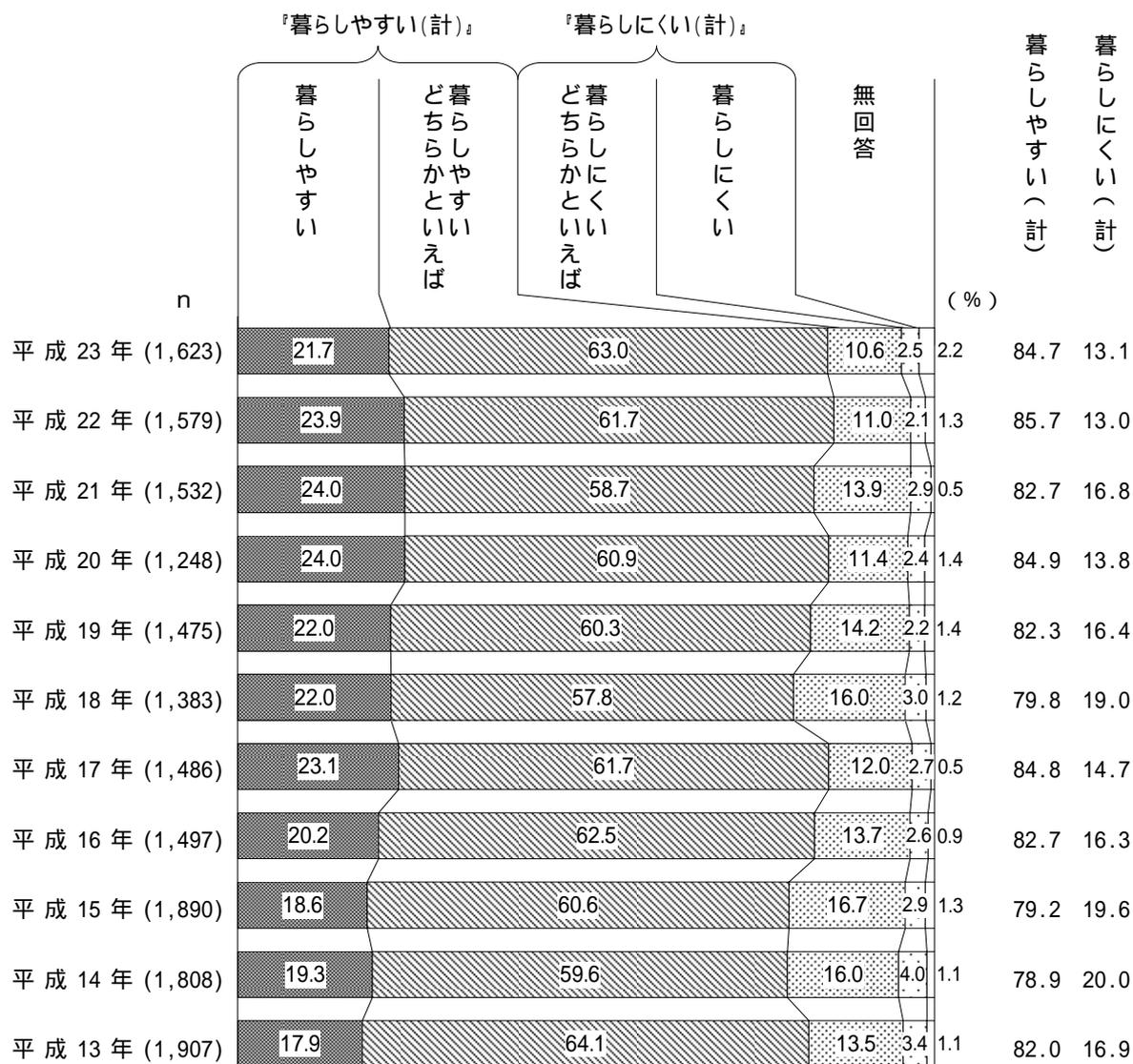


(2) 総合的な暮らしやすさ

『暮らしやすい』と感じている人が8割半ばを占める

問2 【(1) お住まいの地域についての感じ方】を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。( は1つだけ)

図1-2-1 総合的な暮らしやすさ - 過年度比較



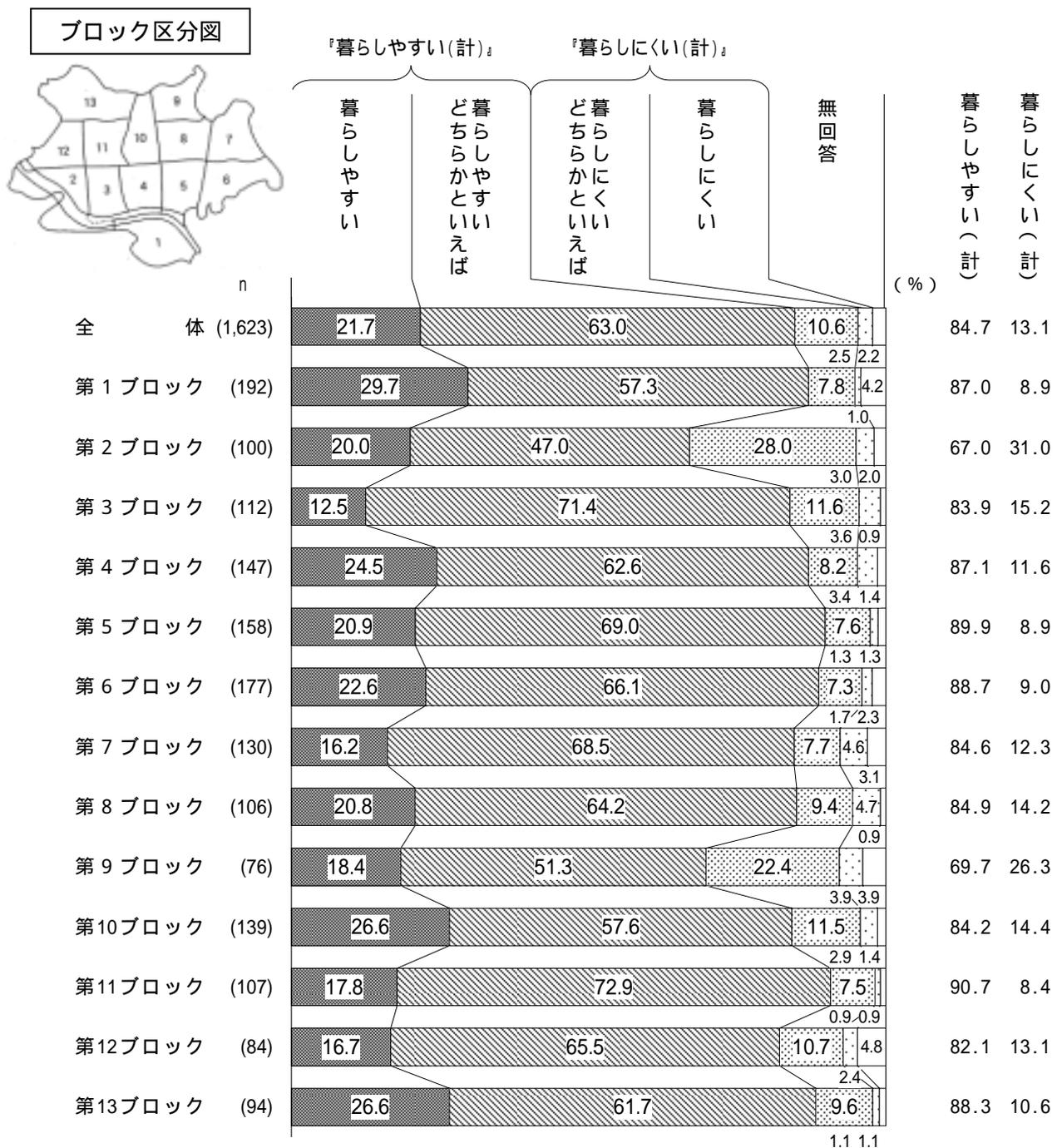
住まいの地域について、暮らしやすいと感じているか聞いたところ、「暮らしやすい」(21.7%) が2割を超え、これに「どちらかといえば暮らしやすい」(63.0%)を合わせた『暮らしやすい(計)』(84.7%)が8割半ばとなっている。

一方、「暮らしにくい」(2.5%)と「どちらかといえば暮らしにくい」(10.6%)をあわせた『暮らしにくい(計)』(13.1%)が1割を超える程度となっている。

過去の調査と比較すると、「暮らしやすい」は微増傾向にあり、『暮らしやすい(計)』では平成13年以降で8割前後を占めている。(図1-2-1)

地域ブロック別でみると、「暮らしやすい」は第1ブロック(29.7%)で3割と高くなっている。一方、『暮らしにくい(計)』は第2ブロック(31.0%)で3割を超え、第9ブロック(26.3%)で2割半ばと高くなっている。(図1-2-2)

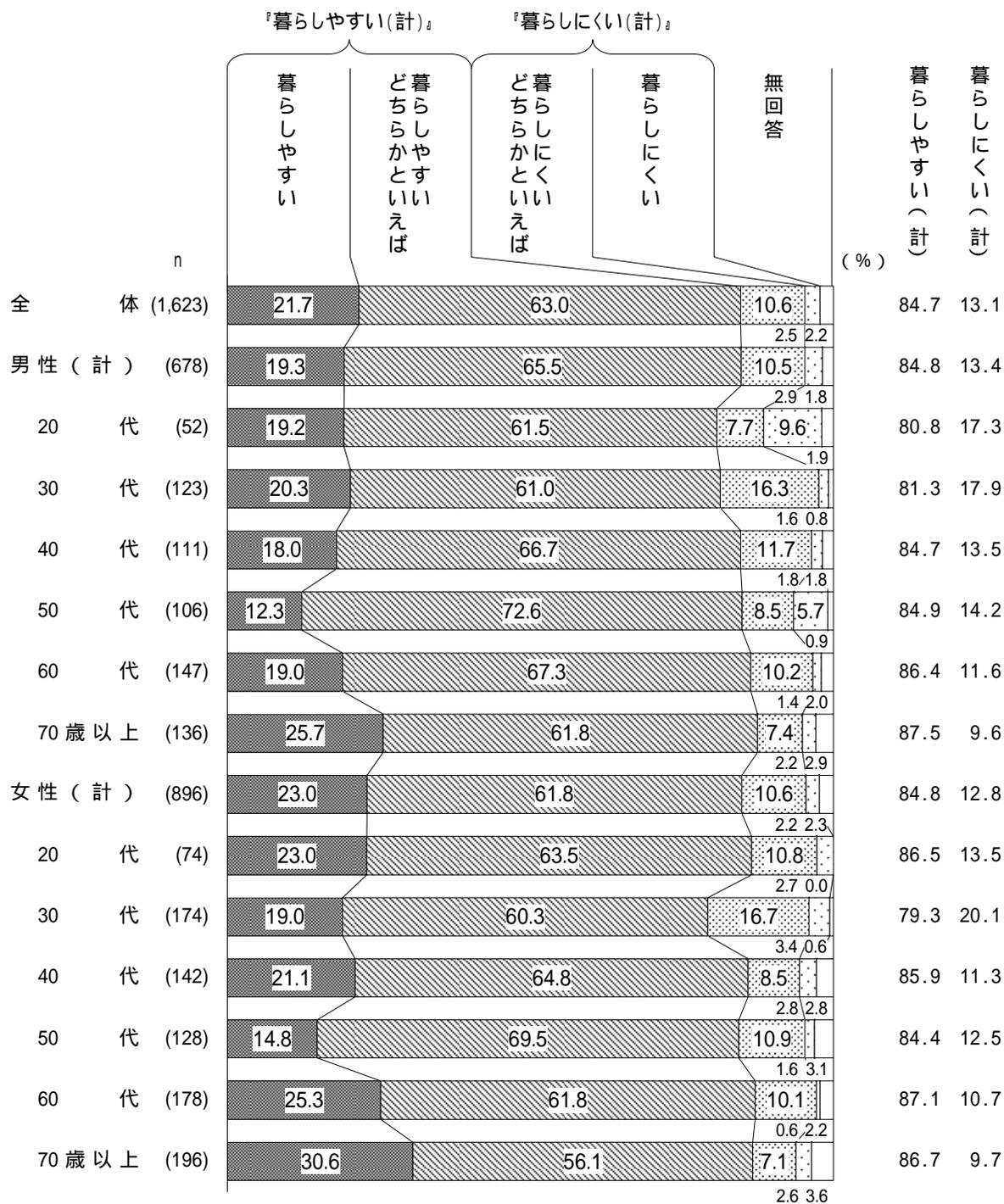
図1-2-2 総合的な暮らしやすさ - 地域ブロック別



性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、「暮らしやすい」は女性70歳以上（30.6%）でほぼ3割と高くなっている。また、『暮らしやすい（計）』は性・年代に関わらず8割前後を占めているが、女性30代では『暮らしにくい（計）』（20.1%）が2割と高くなっている。（図1 - 2 - 3）

図1 - 2 - 3 総合的な暮らしやすさ - 性別、性・年代別



居住年数別でみると、『暮らしやすい(計)』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、20年以上(86.2%)で8割半ばと高くなっている。一方、『暮らしにくい(計)』は1年未満(25.0%)で2割半ばと高くなっている。(図1-2-4)

就労(就学)場所別でみると、『暮らしやすい(計)』は就労(就学)場所に関わらず8割以上を占めている。(図1-2-5)

図1-2-4 総合的な暮らしやすさ - 居住年数別

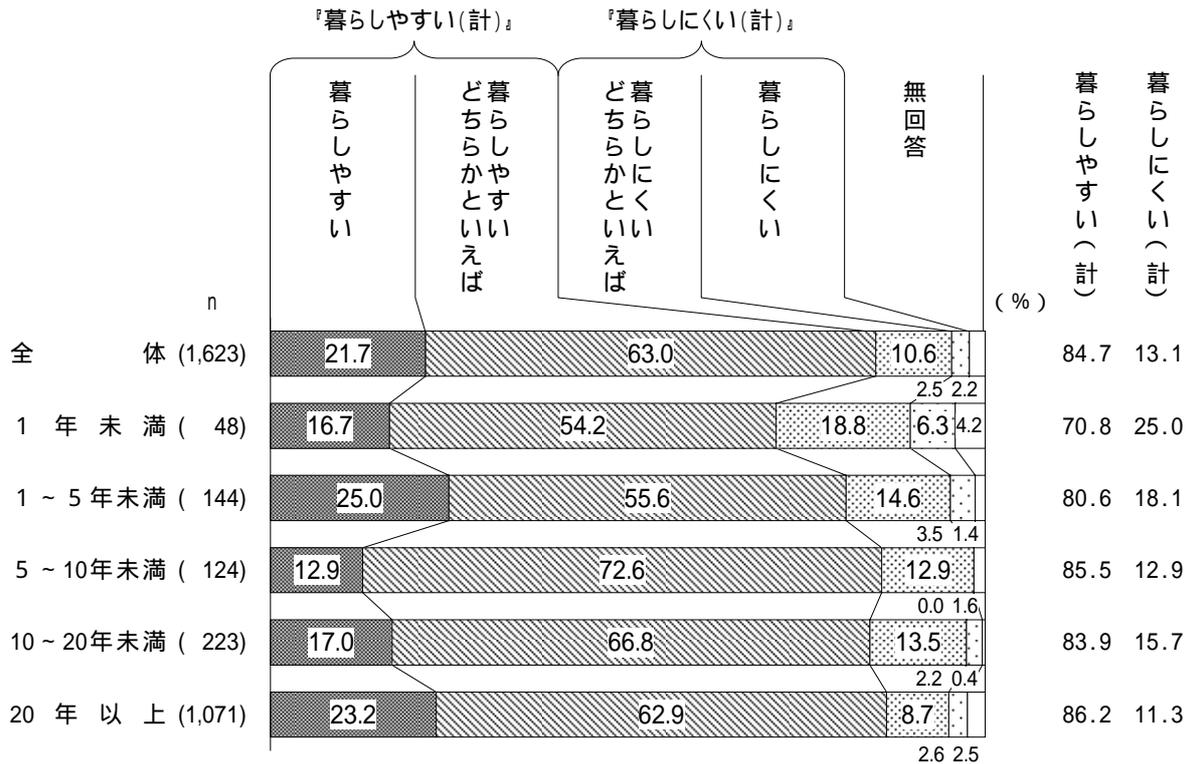
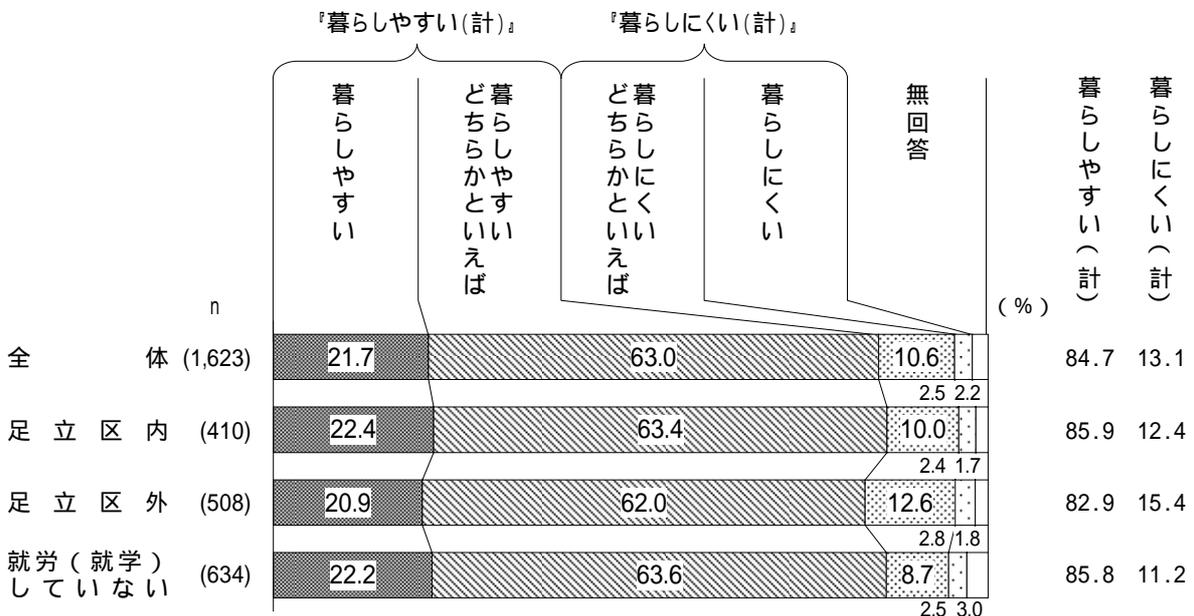
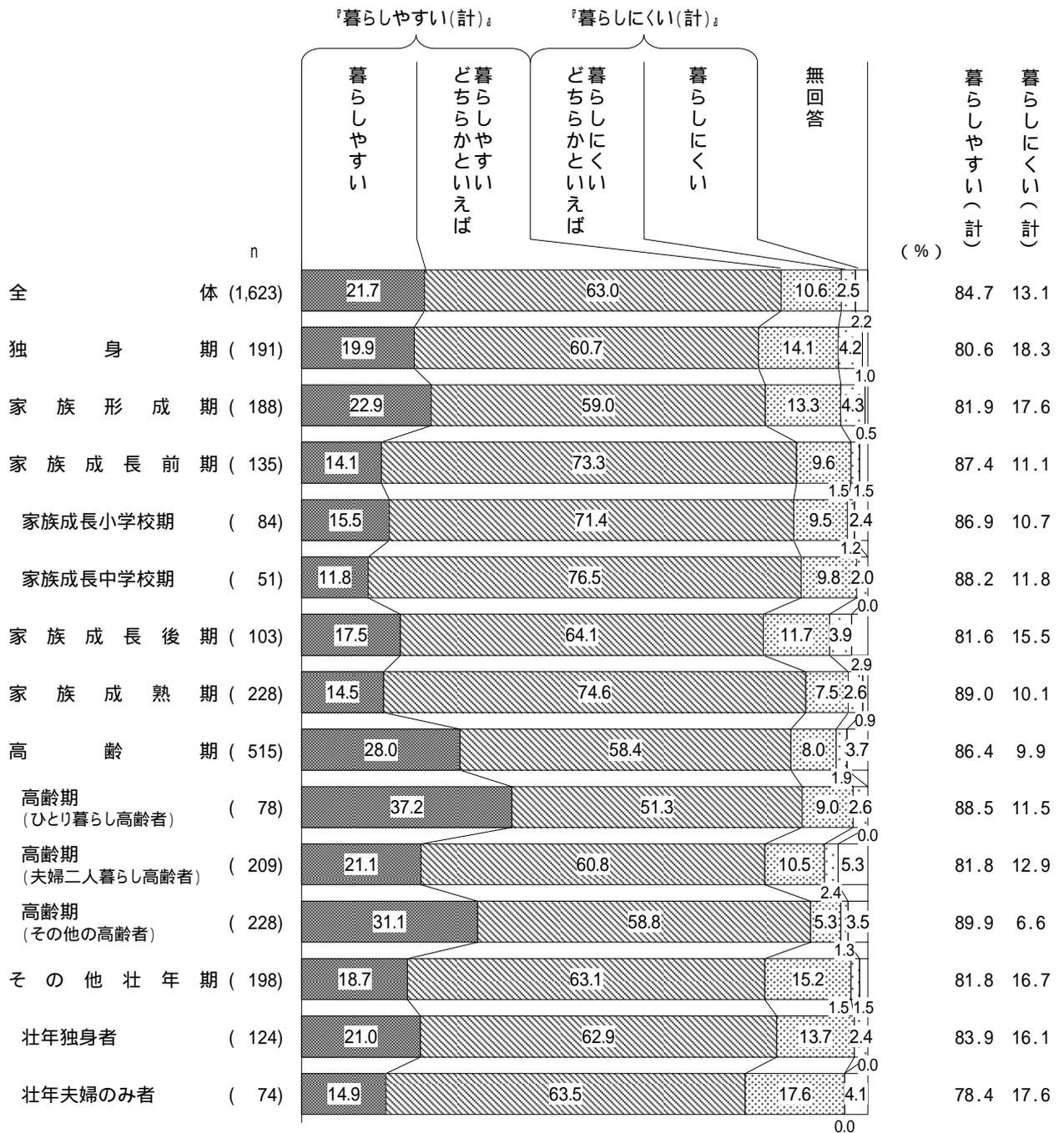


図1-2-5 総合的な暮らしやすさ - 就労(就学)場所別



ライフステージ別でみると、「暮らしやすい」は高齢期（28.0%）で3割近くと高く、その中でもひとり暮らし高齢者（37.2%）で4割近くと高くなっている。また、『暮らしやすい（計）』はいずれのライフステージでも8割以上を占めている。（図1-2-6）

図1-2-6 総合的な暮らしやすさ - ライフステージ別



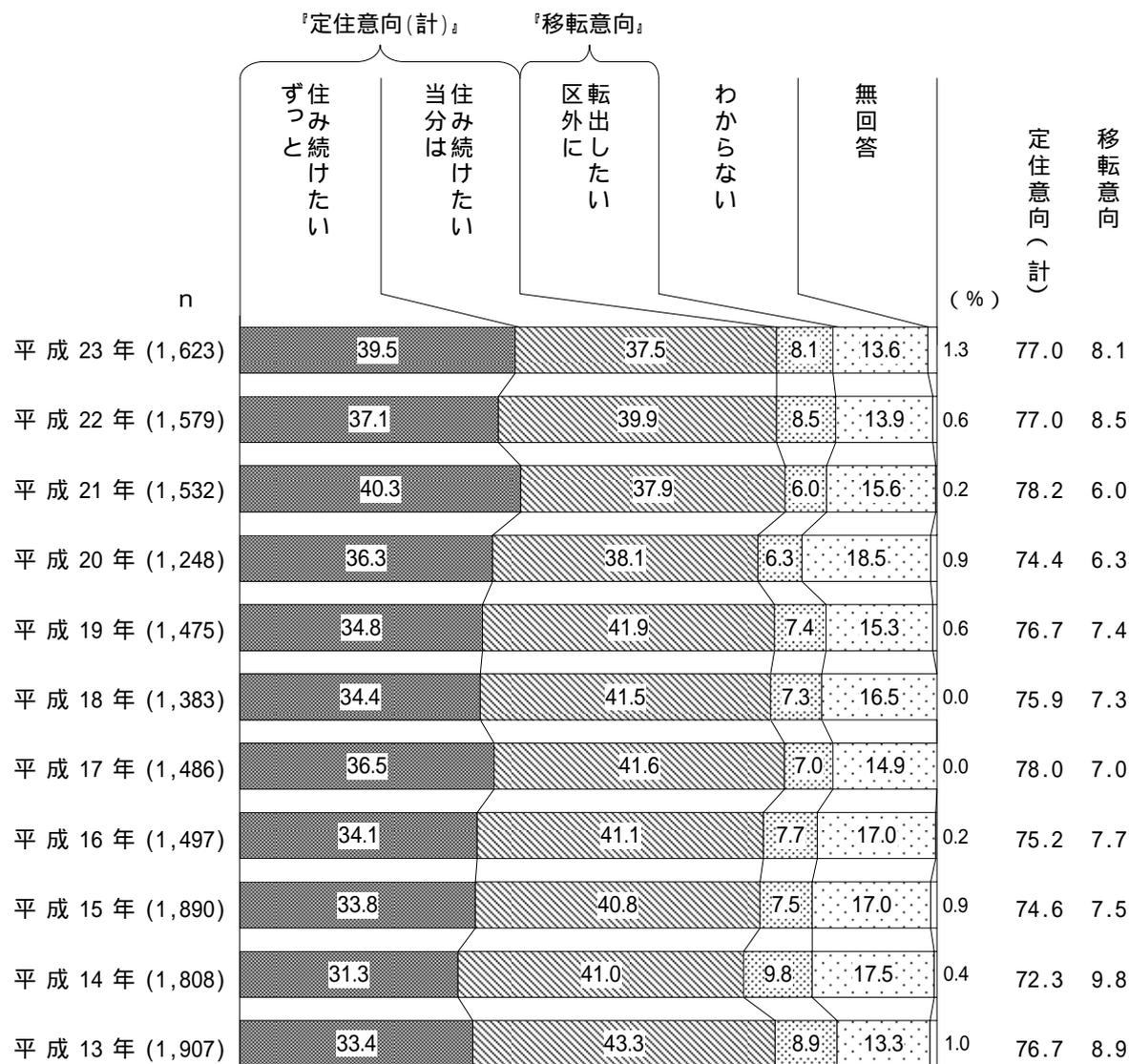
(3) 定住・移転意向

『定住意向』を8割近くの人を持っている

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。( は1つだけ)

図1-3-1 定住・移転意向 - 過年度比較

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)



足立区に今後も住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(39.5%)が4割で、これに「当分は住み続けたい」(37.5%)を合わせた『定住意向(計)』(77.0%)が8割近くとなっている。一方、「区外に出たい」(8.1%)は1割未満となっている。

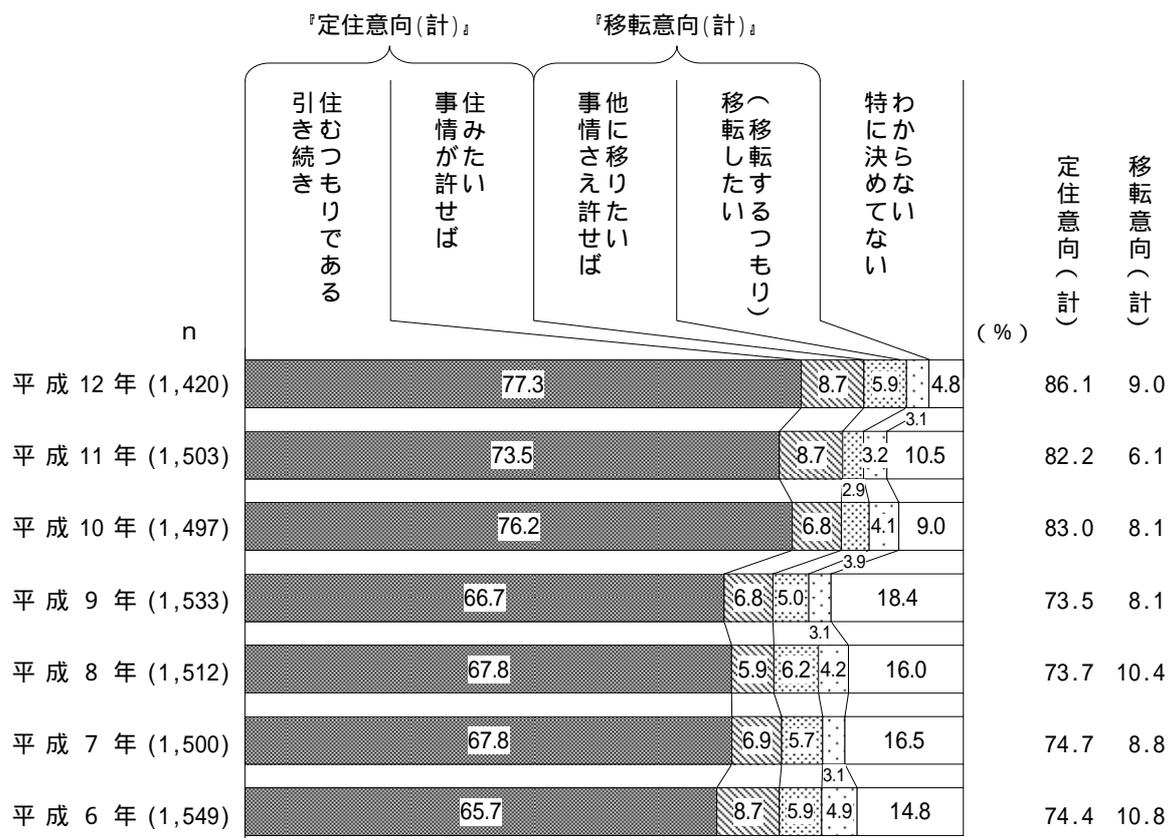
過去の調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は微増傾向にあり、『定住意向(計)』では平成13年以降で7割以上を占めている。(図1-3-1)

<参考> 定住・移転意向の推移

問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。( は1つ)

図1-3-2 定住・移転意向 - 経年変化

(平成12年まで 訪問面接法)

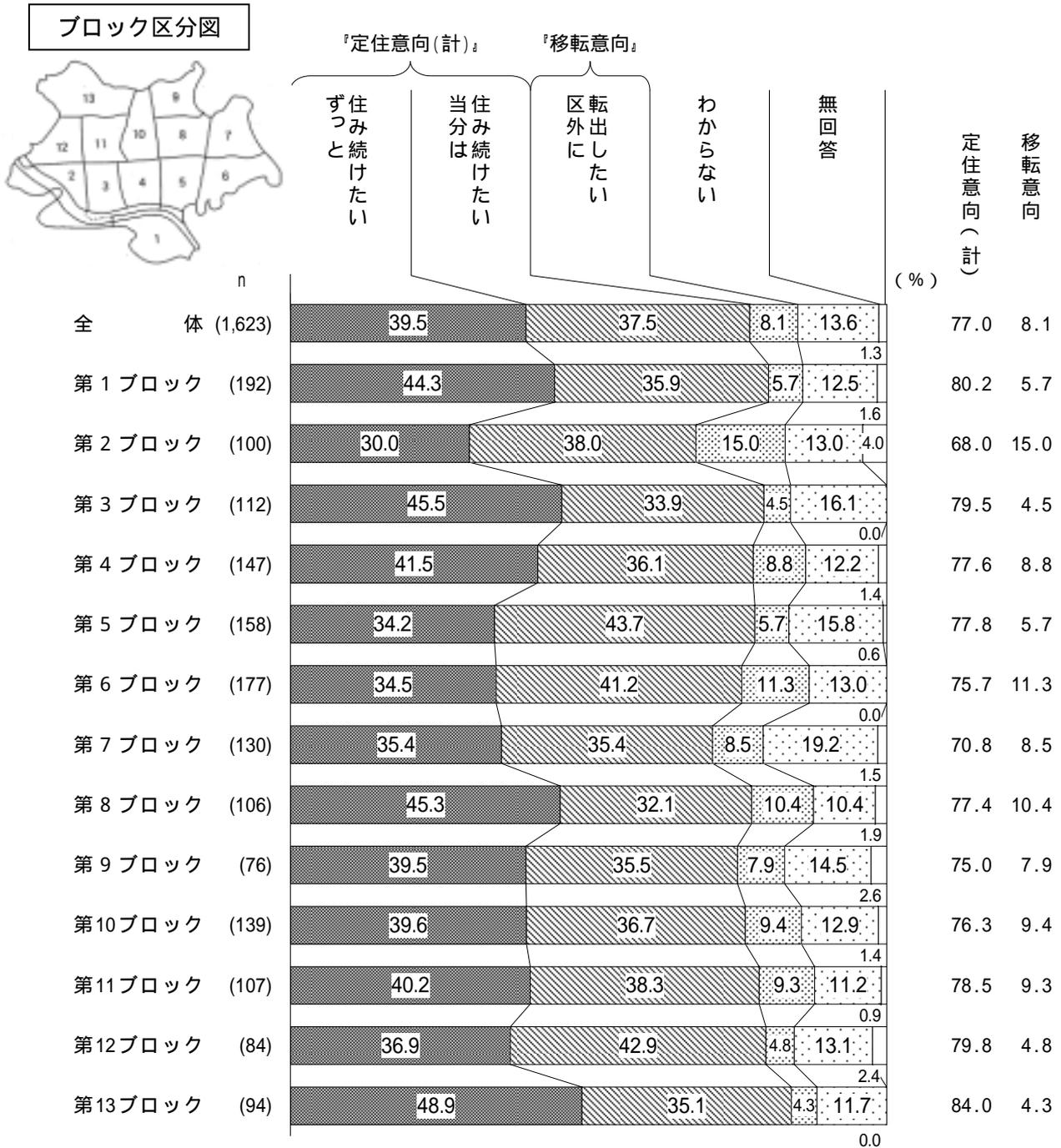


(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別でみると、「ずっと住み続けたい」は第13ブロック(48.9%)で5割近くと高く、『定住意向(計)』でも第13ブロック(84.0%)で8割半ばと高くなっている。

一方、『移転意向』は第2ブロック(15.0%)で1割半ばと高く、また第2ブロックでは『定住意向(計)』(68.0%)が7割近くと他のブロックに比べ低くなっている。(図1-3-3)

図1-3-3 定住・移転意向 - 地域ブロック別

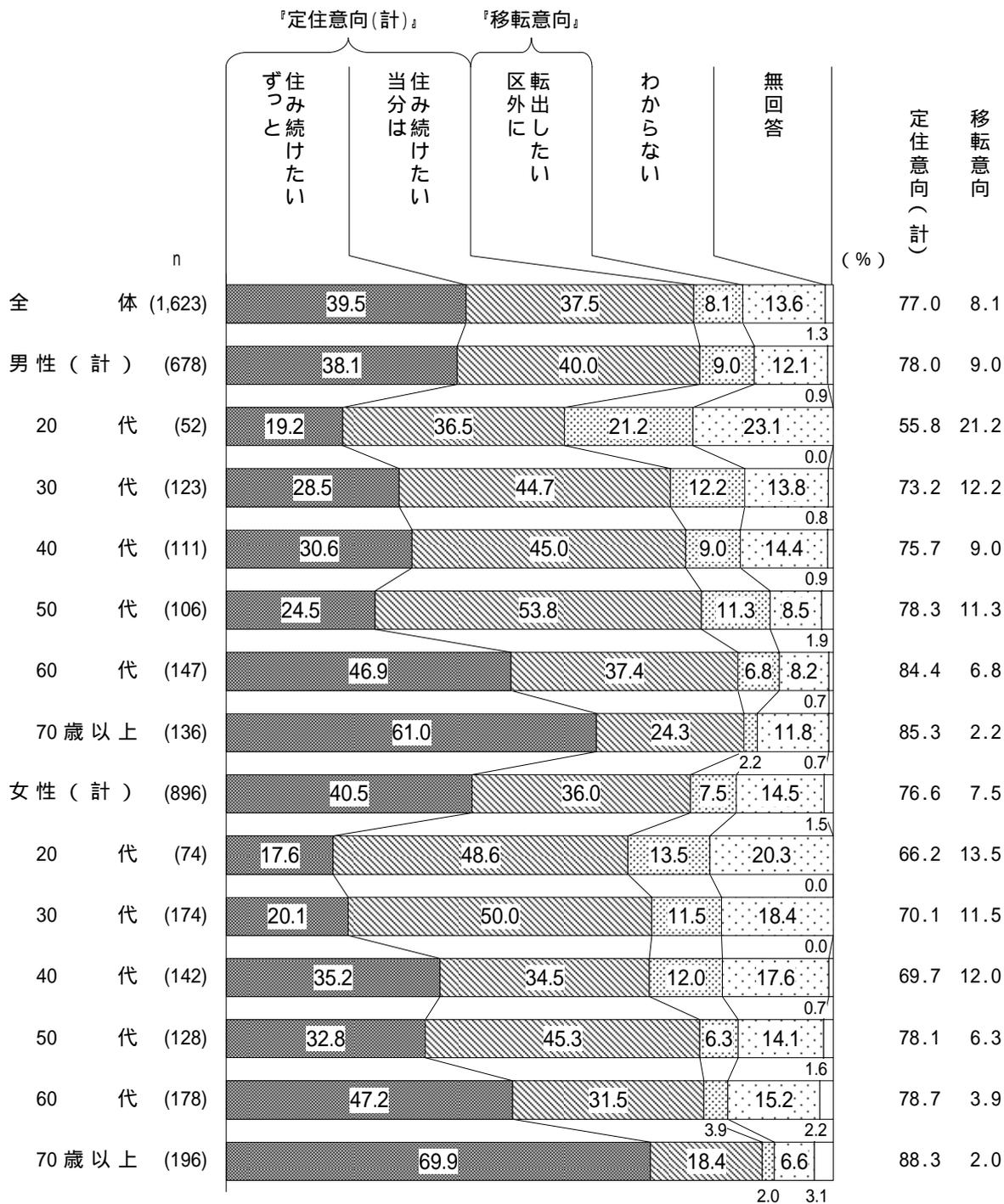


性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、『定住意向(計)』は男女とも高い年代ほど割合が高くなる傾向にあり、女性70歳以上(88.3%)で9割近く、男性70歳以上(85.3%)で8割半ばと高くなっている。

一方、『移転意向』は男性20代(21.2%)で2割を超え高くなっている。(図1-3-4)

図1-3-4 定住・移転意向 - 性別、性・年代別



居住年数別でみると、「ずっと住み続けたい」は20年以上(49.4%)でほぼ5割と高く、『定住意向(計)』でも20年以上(80.2%)で8割と高くなっている。(図1-3-5)

区政に対する満足度別でみると、「ずっと住み続けたい」は区政に満足している人ほど割合が高い傾向にあり、満足している人(74.2%)で7割半ばとなっている。一方、『移転意向』は不満を持っている(35.0%)人で大幅に増加しており、3割半ばとなっている。(図1-3-6)

図1-3-5 定住・移転意向 - 居住年数別

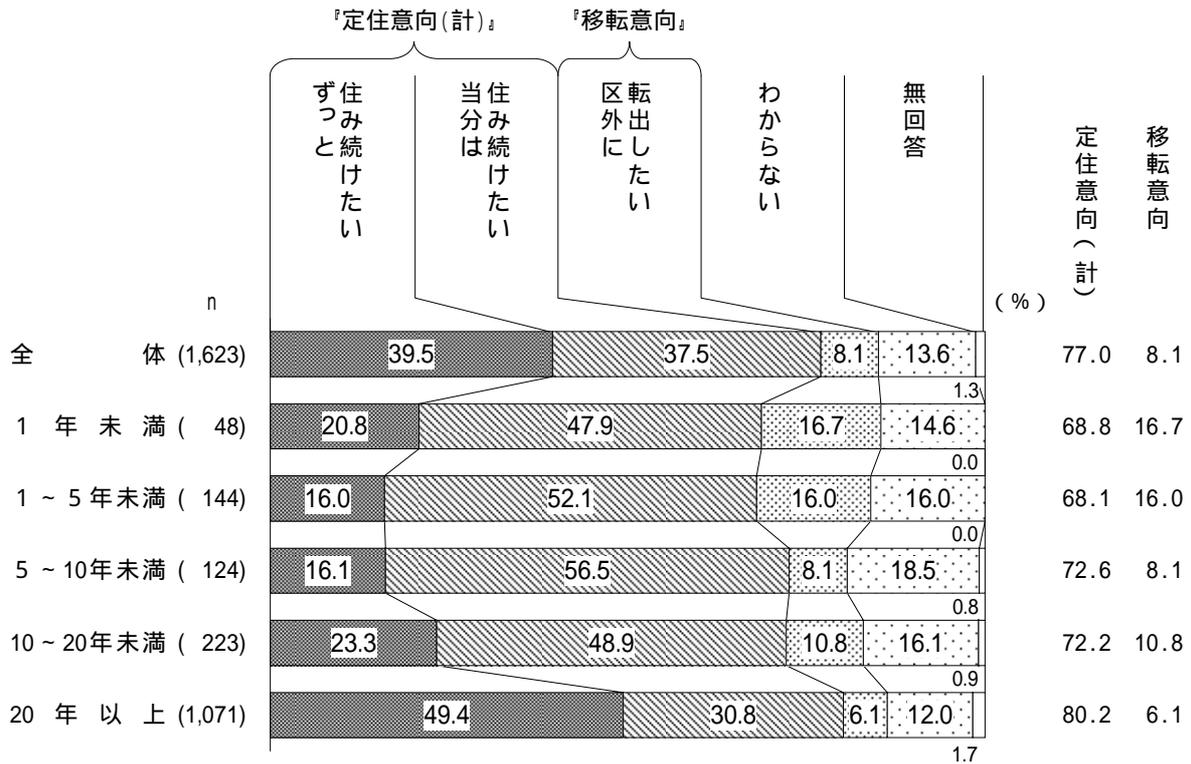
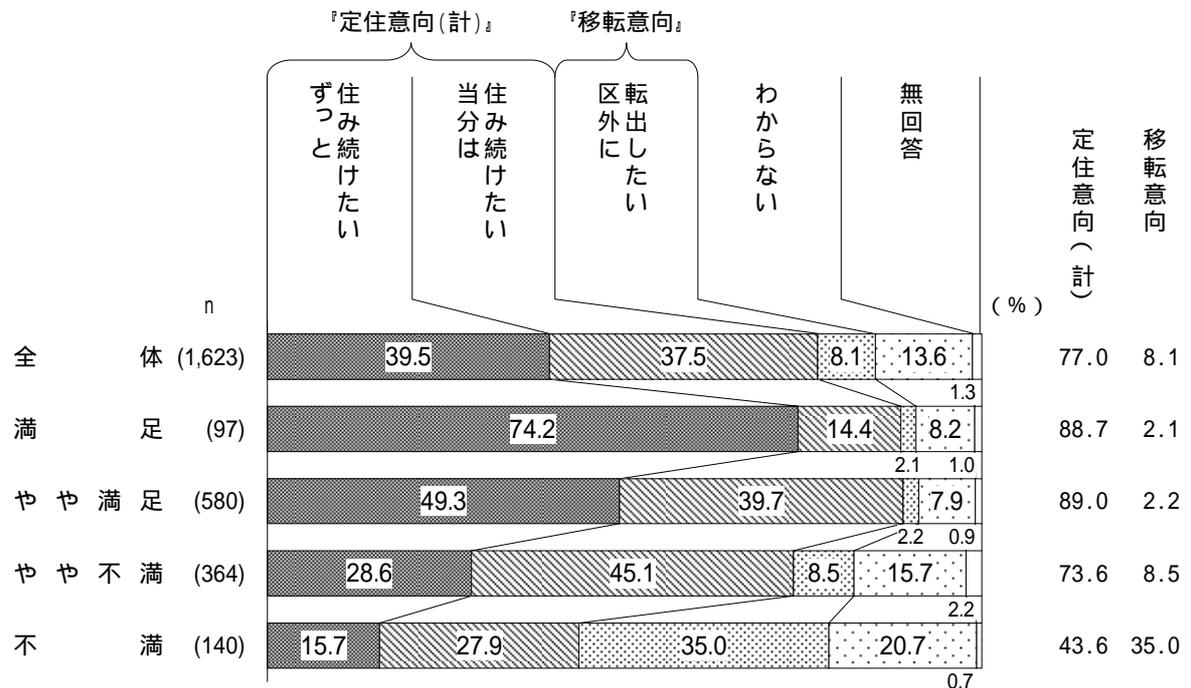
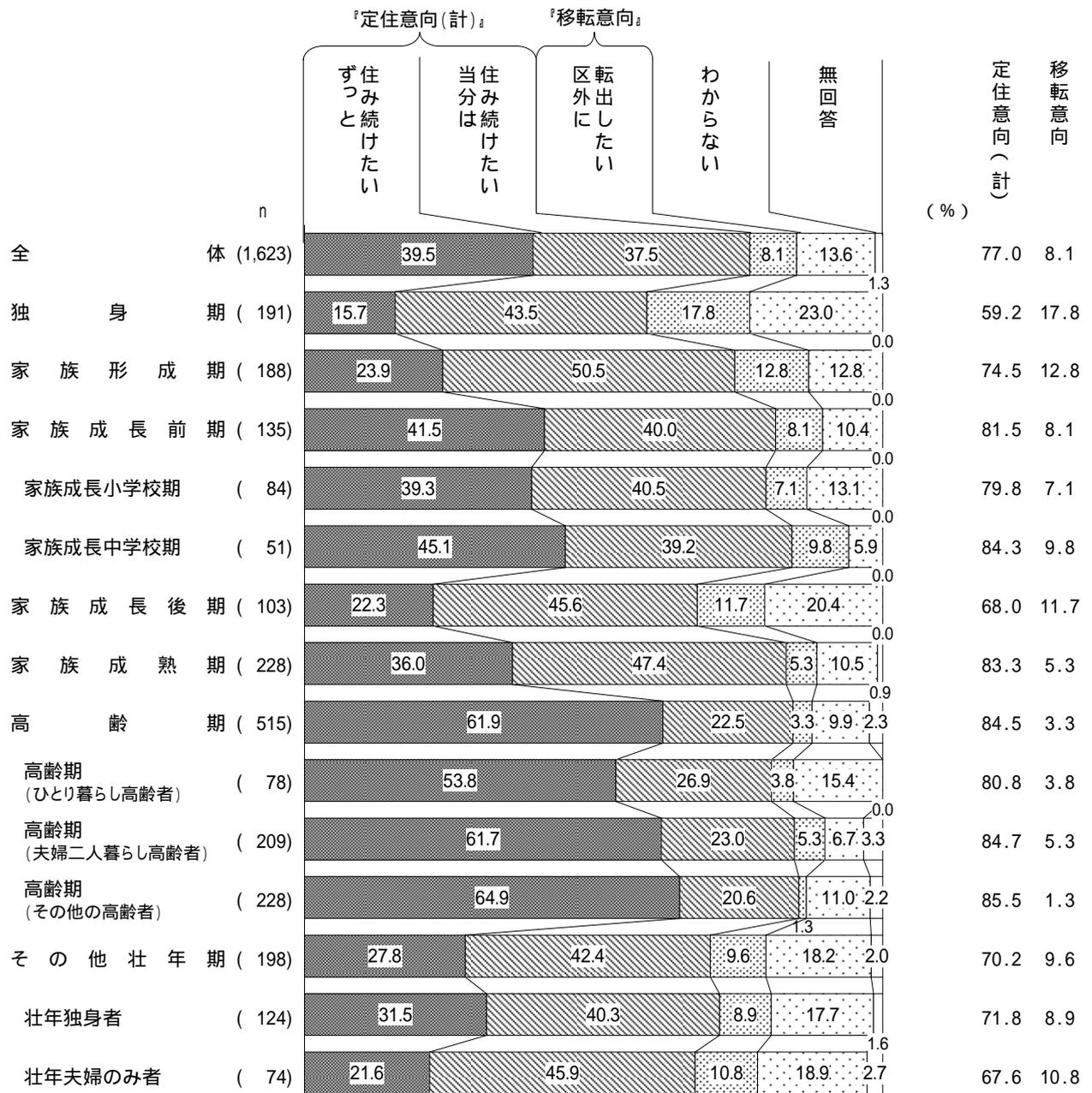


図1-3-6 定住・移転意向 - 区政に対する満足度別



ライフステージ別で見ると、「ずっと住み続けたい」は高齢期（61.9%）で6割を超え高く、その中でもその他の高齢者（64.9%）で6割半ばと高くなっている。また、『定住意向（計）』は、高齢期（84.5%）、家族成熟期（83.3%）、家族成長前期（81.5%）で8割台と高くなっている。一方、『移転意向』は独身期（17.8%）で2割近くと高くなっている。（図1-3-7）

図1-3-7 定住・移転意向 - ライフステージ別



## 2 災 害 対 策

- 
- ( 1 ) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度
  - ( 2 ) 備蓄や防災用具などの用意
    - ( 2 - 1 ) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期
    - ( 2 - 2 ) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
    - ( 2 - 3 ) 家庭での備蓄の量
  - ( 3 ) 町会や自治会の防災訓練への参加状況
    - ( 3 - 1 ) 防災訓練へ参加しない理由
-



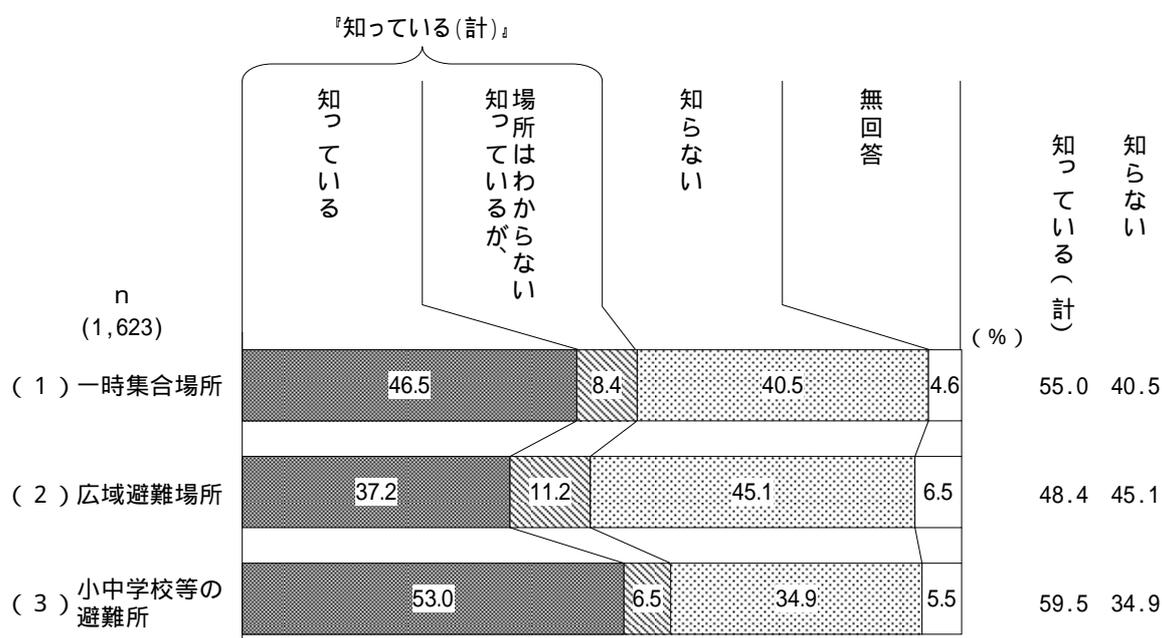
## 2 災害対策

### (1) 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度

『知っている』は、【小中学校等の避難所】が6割、【一時集合場所】が5割半ば、【広域避難場所】が5割近く

問4 あなたは、一時集合場所（町会・自治会などが指定した避難場所）、広域避難場所（都が指定した避難場所）、小中学校等の避難所（区が指定した避難所）を知っていますか。（は各項目とも1つだけ）

図2 - 1 - 1 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度



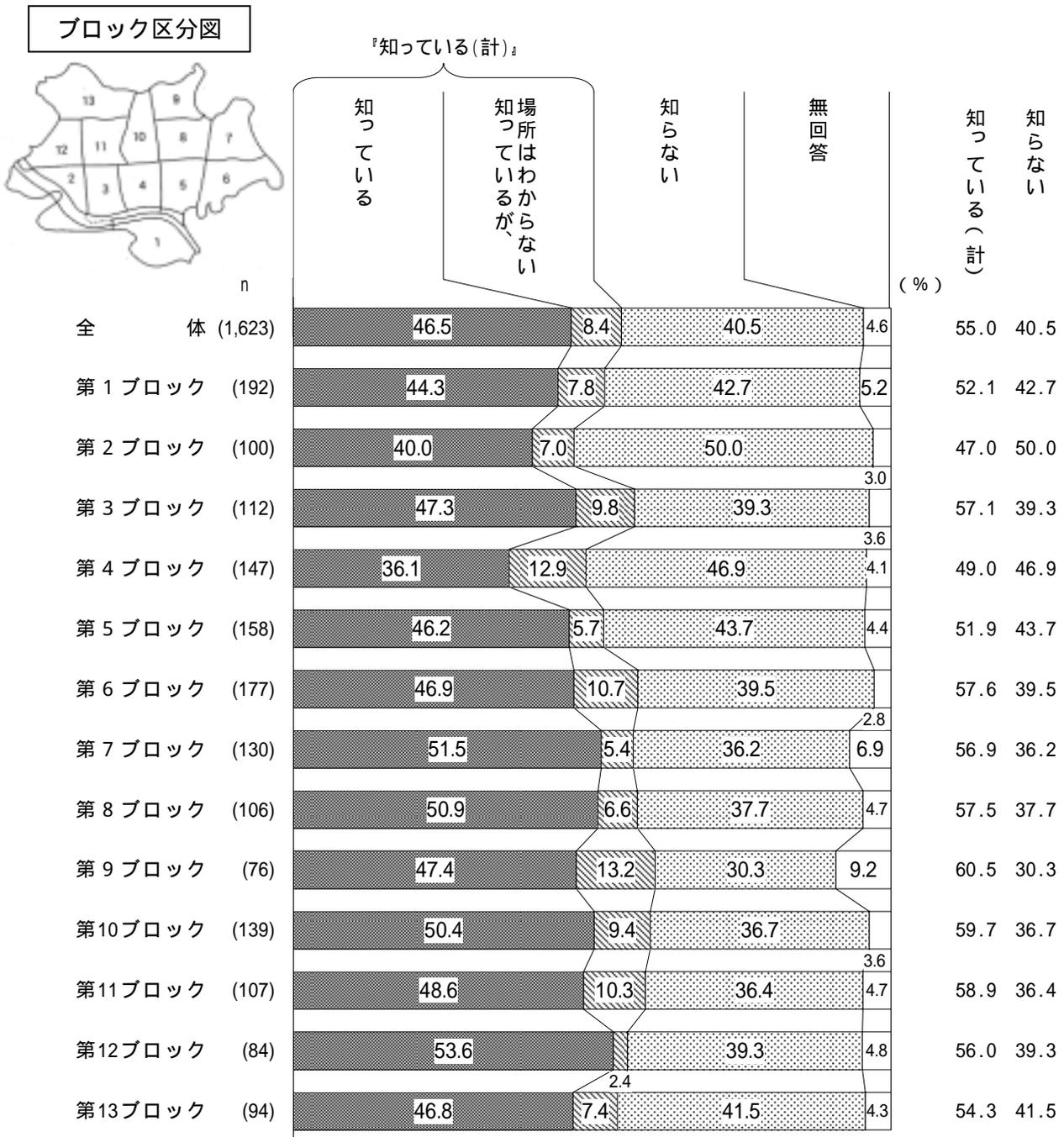
一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所を知っているか聞いたところ、「知っている」は【小中学校等の避難所】(53.0%)が5割を超え最も高く、【一時集合場所】(46.5%)が5割近く、【広域避難場所】(37.2%)が4割近くの順となっている。

これに「知っているが、場所はわからない」を合わせた『知っている(計)』でも、【小中学校等の避難所】(59.5%)が6割と最も高く、【一時集合場所】(55.0%)が5割半ば、【広域避難場所】(48.4%)が5割近くの順となっている。(図2 - 1 - 1)

地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第9ブロック(60.5%)と第10ブロック(59.7%)で6割前後と高くなっている。一方、「知らない」は第2ブロック(50.0%)で5割、第4ブロック(46.9%)で5割近くと高くなっている。(図2-1-2)

図2-1-2 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(1)

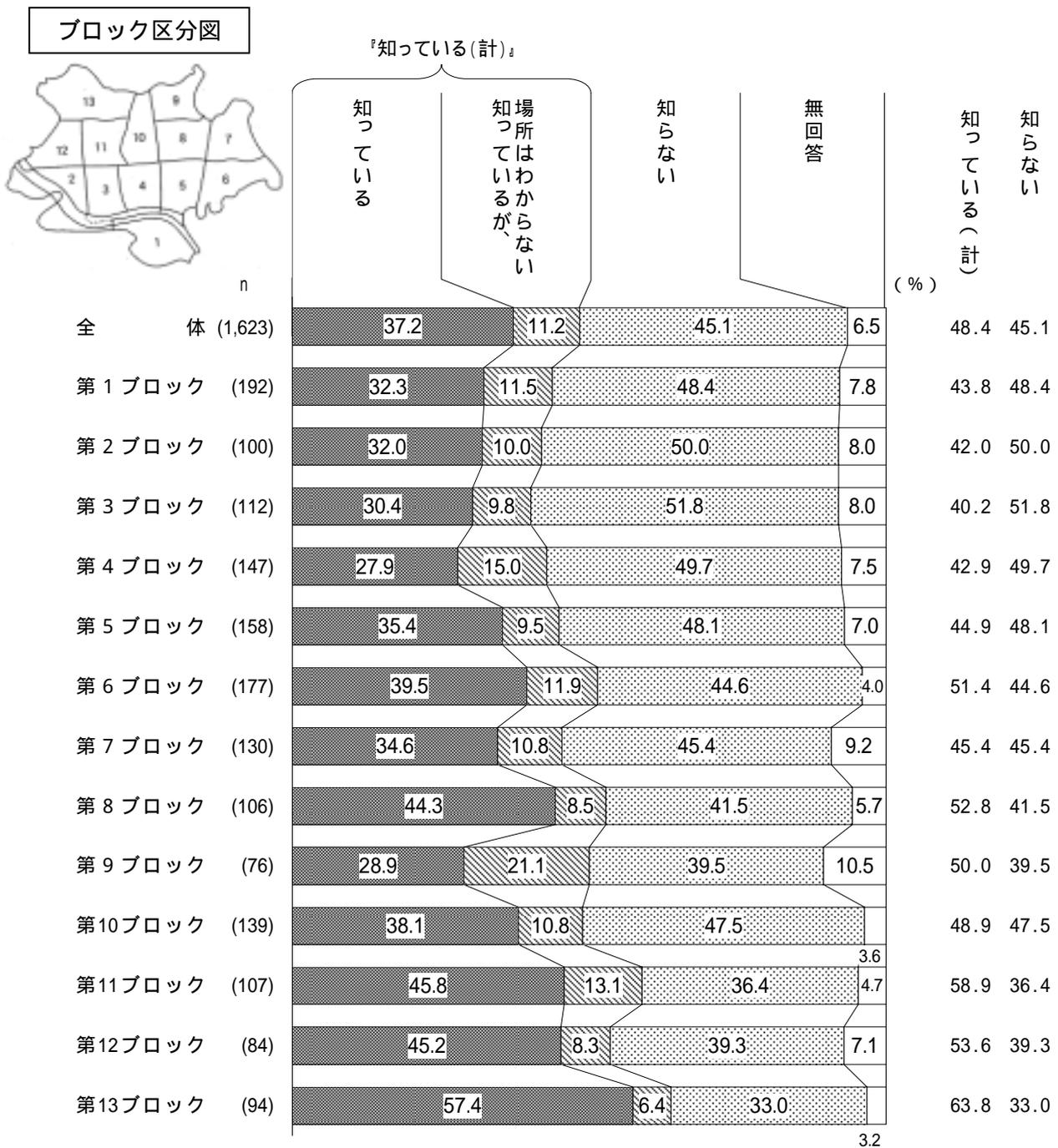
(1) 一時集合場所



地域ブロック別でみると、「知っている」は第13ブロック(57.4%)で6割近くと高く、『知っている(計)』でも第13ブロック(63.8%)が6割を超え高くなっている。(図2-1-3)

図2-1-3 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(2)

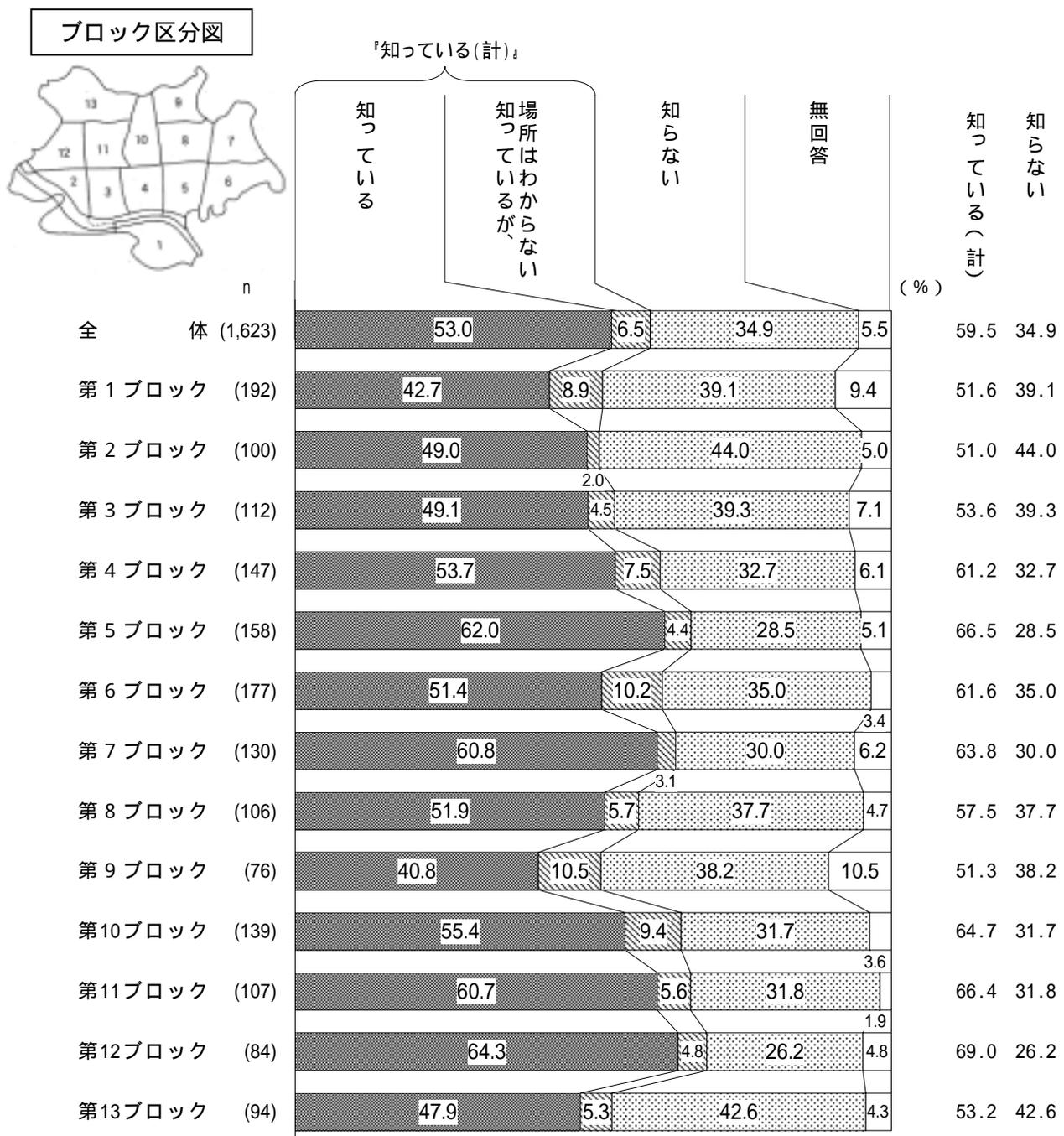
(2) 広域避難場所



地域ブロック別でみると、「知っている」は第12ブロック（64.3%）で6割半ば、第5ブロック（62.0%）で6割を超え高くなっている。一方、「知らない」は第2ブロック（44.0%）で4割半ばと高くなっている。（図2-1-4）

図2-1-4 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 地域ブロック別(3)

(3) 小中学校等の避難所

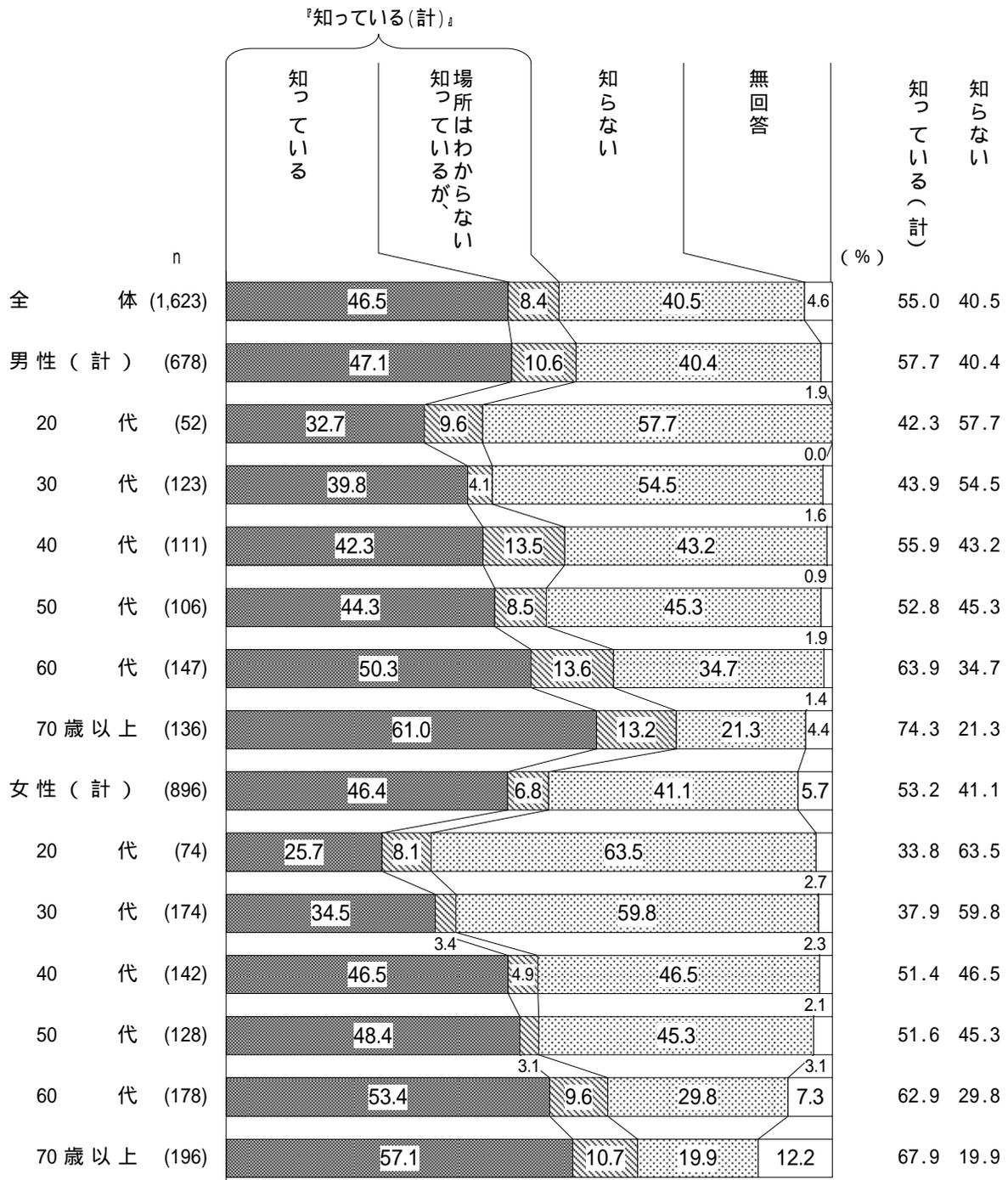


性別で見ると、男性で『知っている（計）』（57.7%）が女性（53.2%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性70歳以上（61.0%）で6割を超え、女性70歳以上（57.1%）で6割近くと高くなっている。また、『知っている（計）』でも男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性70歳以上（74.3%）で7割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性20代（63.5%）で6割を超え高くなっている。（図2-1-5）

図2-1-5 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(1)

(1) 一時集合場所

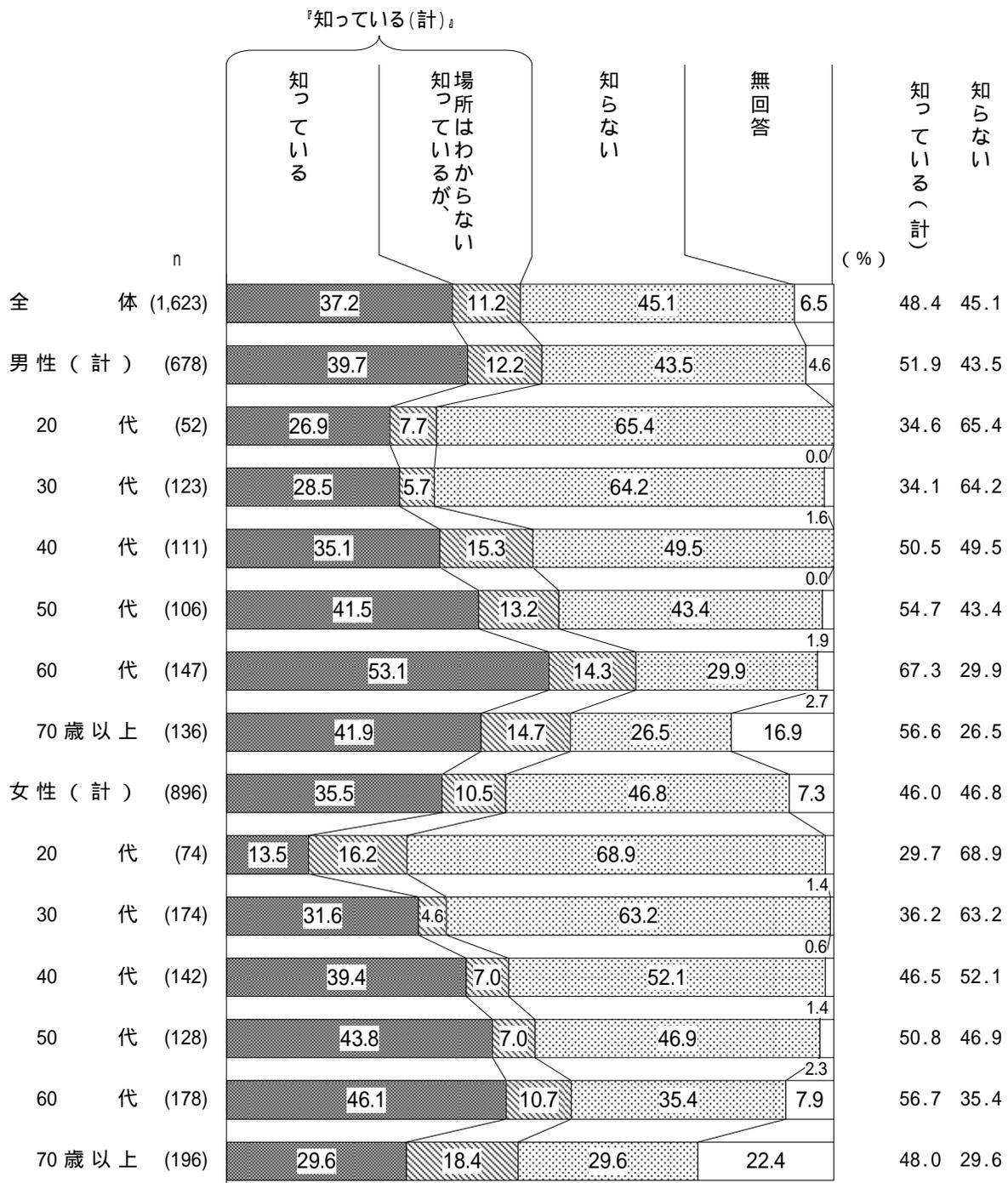


性別で見ると、男性で『知っている（計）』（51.9%）が女性（46.0%）より5.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男女とも60代で高く、男性60代（53.1%）で5割を超え、女性60代（46.1%）で4割半ばと高くなっている。また、『知っている（計）』でも男性60代（67.3%）が7割近く、女性60代（56.7%）が6割近くと高くなっている。一方、「知らない」は男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（68.9%）で7割近く、男性20代（65.4%）で6割半ばと高くなっている。（図2-1-6）

図2-1-6 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(2)

(2) 広域避難場所

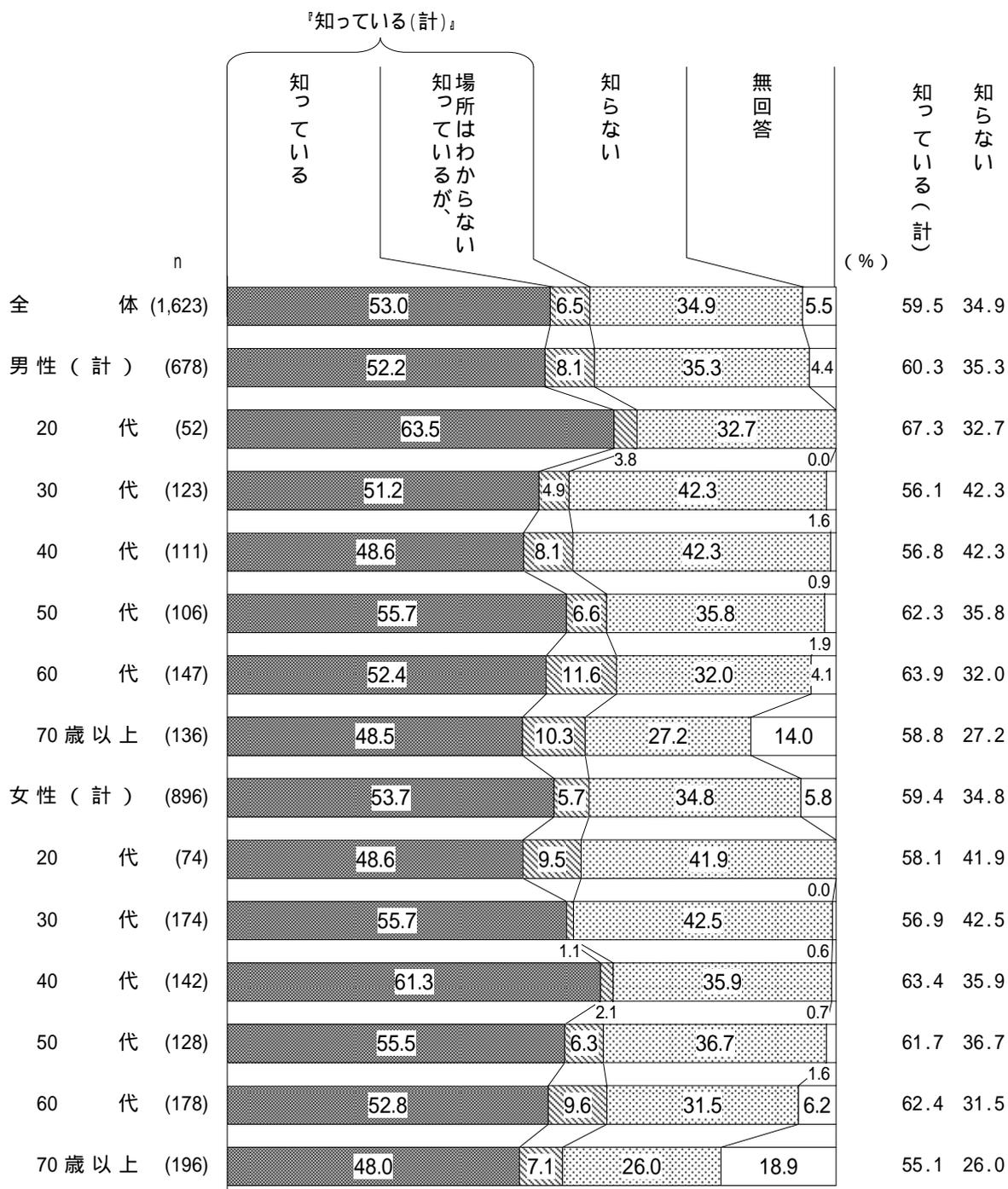


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男性20代（63.5%）と女性40代（61.3%）で6割を超え高くなっている。一方、「知らない」は男性の30代と40代（ともに42.3%）、女性の20代（41.9%）と30代（42.5%）の年代で4割を超え高くなっている。（図2-1-7）

図2-1-7 一時集合場所・広域避難場所・小中学校等の避難所の認知度 - 性別、性・年代別(3)

(3) 小中学校等の避難所

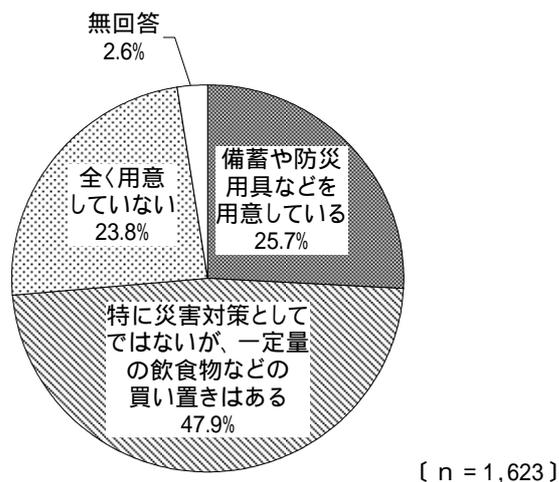


(2) 備蓄や防災用具などの用意

「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が5割近く

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。( は1つだけ)

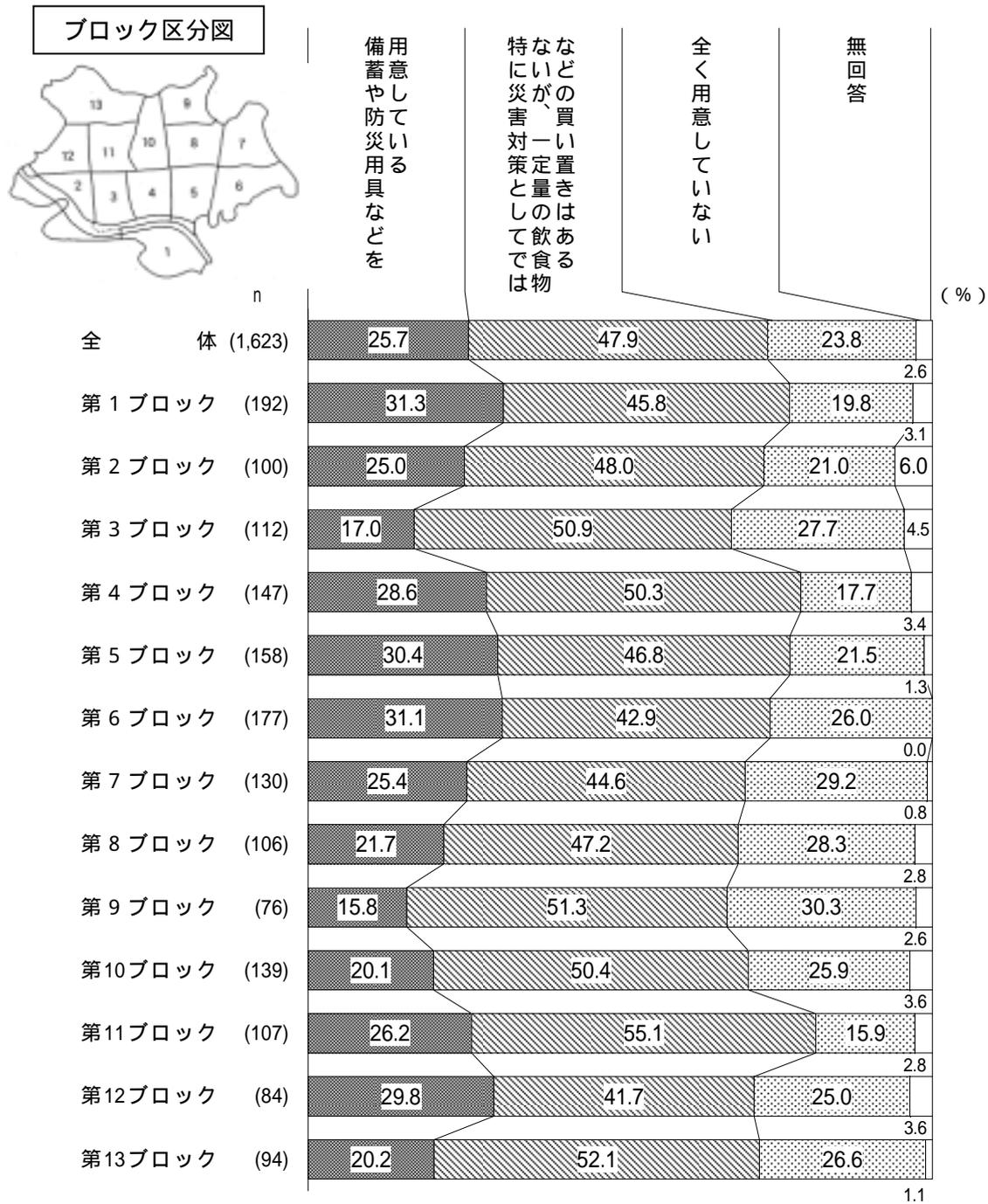
図2 - 2 - 1 備蓄や防災用具などの用意



家庭で災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしているか聞いたところ、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(47.9%)が5割近く、「備蓄や防災用具などを用意している」(25.7%)が2割半ばとなっている。また、「全く用意していない」(23.8%)が2割を超えている。(図2 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、すべてのブロックで「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が最も割合が高く、特に第11ブロック（55.1%）で5割半ばと高くなっている。一方、「全く用意していない」は第9ブロック（30.3%）で3割と高くなっている。（図2-2-2）

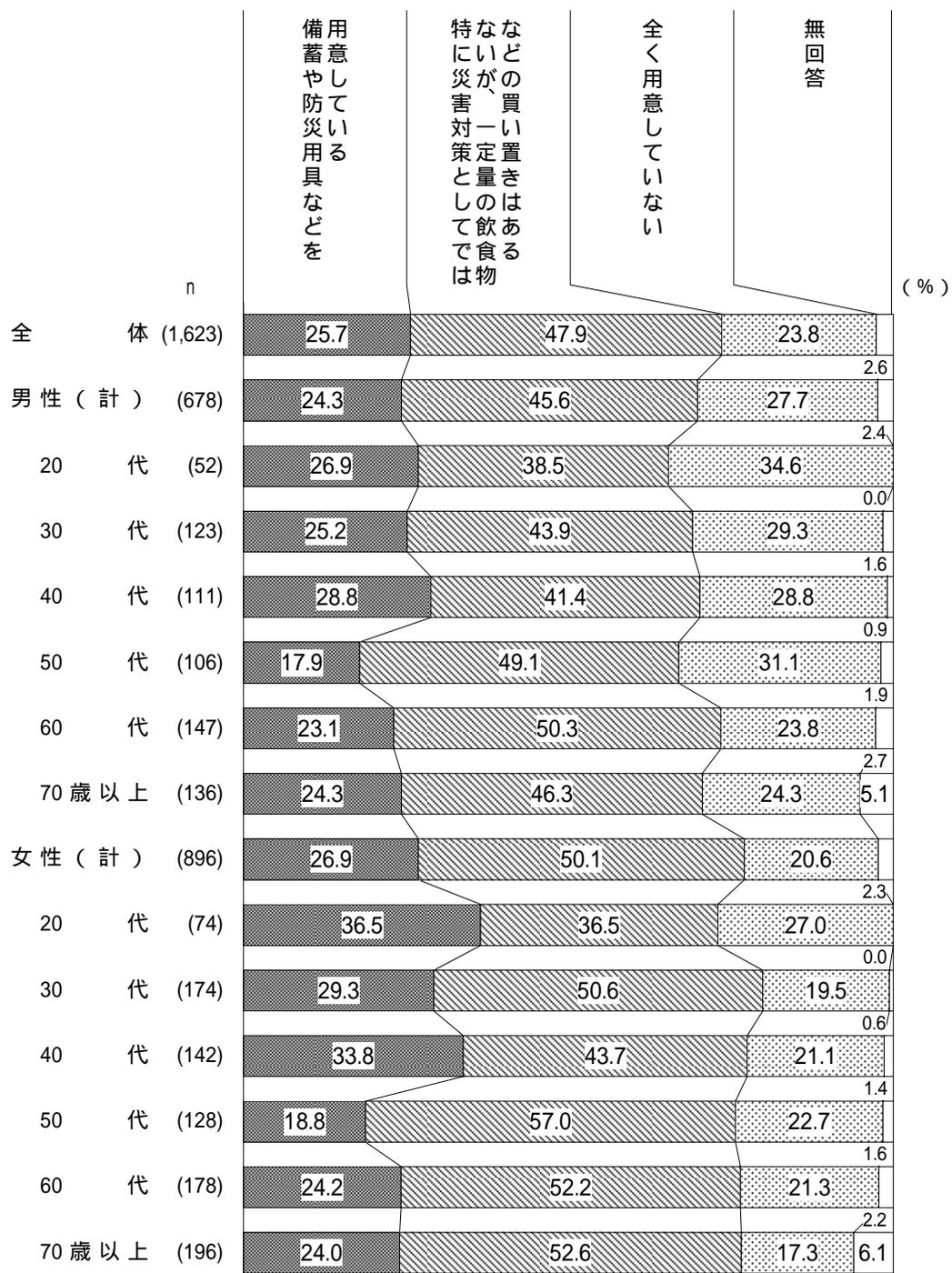
図2-2-2 備蓄や防災用具などの用意 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「全く用意していない」(27.7%)が女性(20.6%)より7.1ポイント高くなっている。一方、女性で「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」(50.1%)が男性(45.6%)より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「備蓄や防災用具などを用意している」は女性20代(36.5%)で4割近くと高く、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は女性50代(57.0%)で6割近くと高くなっている。一方、「全く用意していない」は男性20代(34.6%)で3割半ばと高くなっている。(図2-2-3)

図2-2-3 備蓄や防災用具などの用意 - 性別、性・年代別



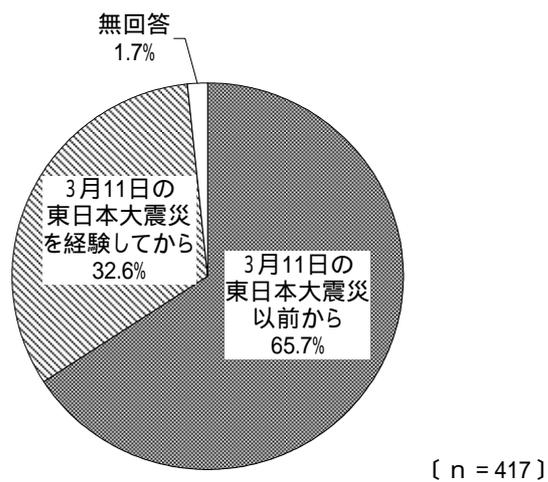
( 2 - 1 ) 備蓄や防災用具などの用意の開始時期

「 3月11日の東日本大震災以前から」が6割半ば、「 3月11日の東日本大震災を経験してから」が3割を超えている

( 問5で「備蓄や防災用具などを用意している」とお答えの方に )

問5 - 1 備蓄や防災用具などの用意はいつから始めましたか。( は1つだけ )

図 2 - 3 - 1 備蓄や防災用具などの用意の開始時期

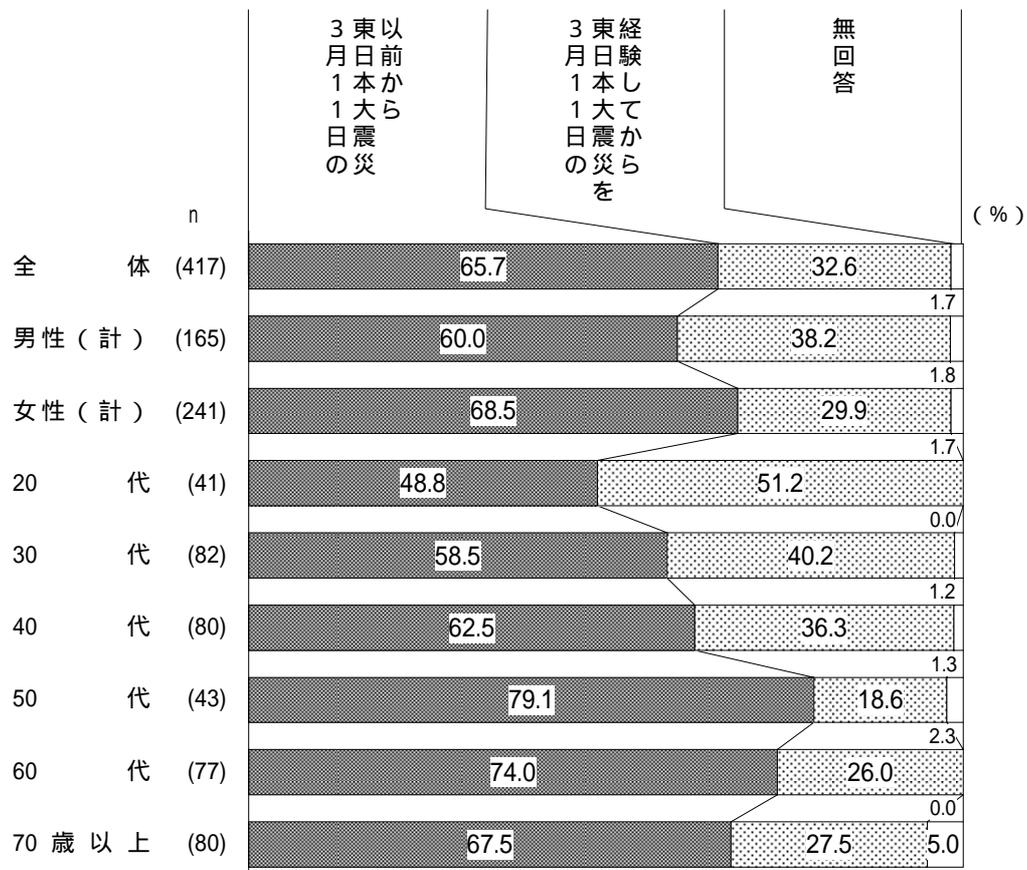


家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人(417人)に、備蓄や防災用具などの用意をいつから始めたか聞いたところ、「 3月11日の東日本大震災以前から」( 65.7% )が6割半ば、「 3月11日の東日本大震災を経験してから」( 32.6% )が3割を超えている。( 図 2 - 3 - 1 )

性別で見ると、女性で「3月11日の東日本大震災以前から」(68.5%)が男性(60.0%)より8.5ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「3月11日の東日本大震災以前から」は50代(79.1%)でほぼ8割、60代(74.0%)で7割半ばと高く、30代以上の年代では「3月11日の東日本大震災以前から」が5割以上を占めている。一方、「3月11日の東日本大震災を経験してから」は20代(51.2%)で5割を超え高くなっている。(図2-3-2)

図2-3-2 備蓄や防災用具などの用意の開始時期 - 性別、年代別



( 2 - 2 ) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

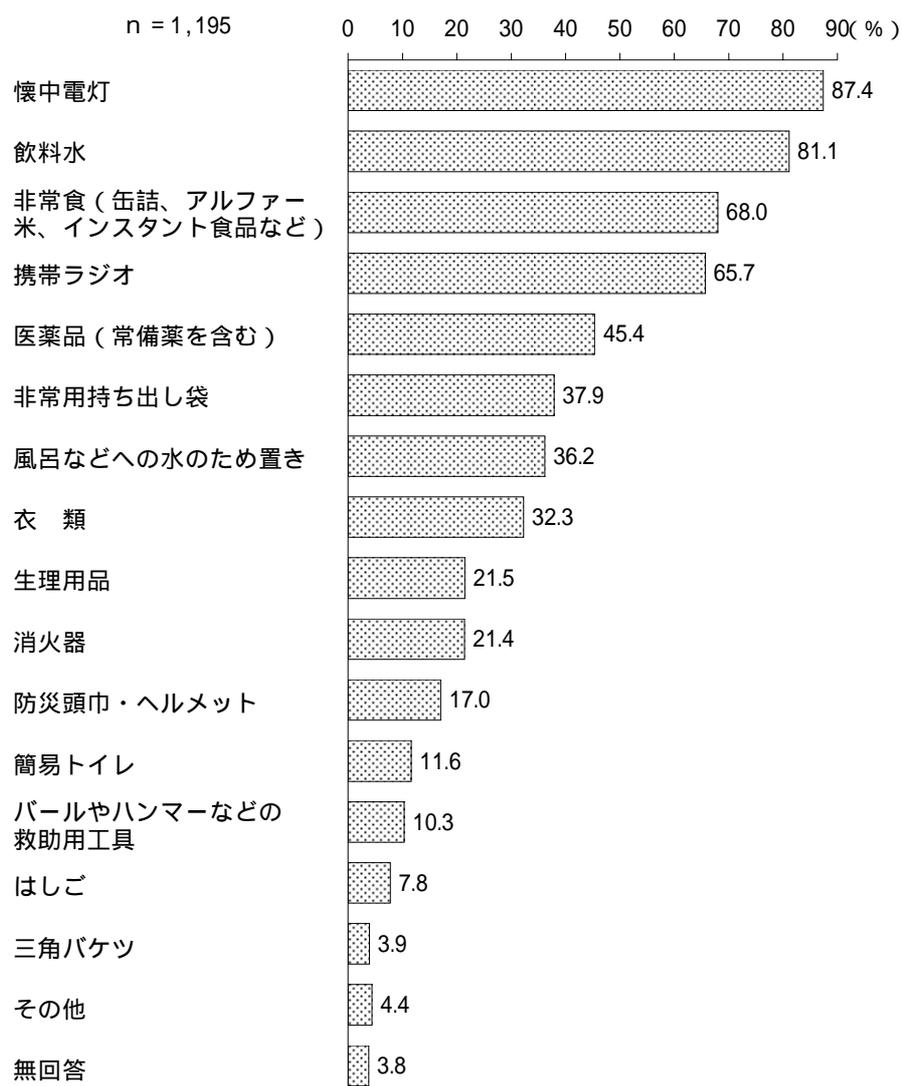
「懐中電灯」が9割近く、「飲料水」が8割を超えている

( 問5で「備蓄や防災用具などを用意している」又は「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」とお答えの方に )

問5 - 2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。

( はあてはまるものすべて )

図2 - 4 - 1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



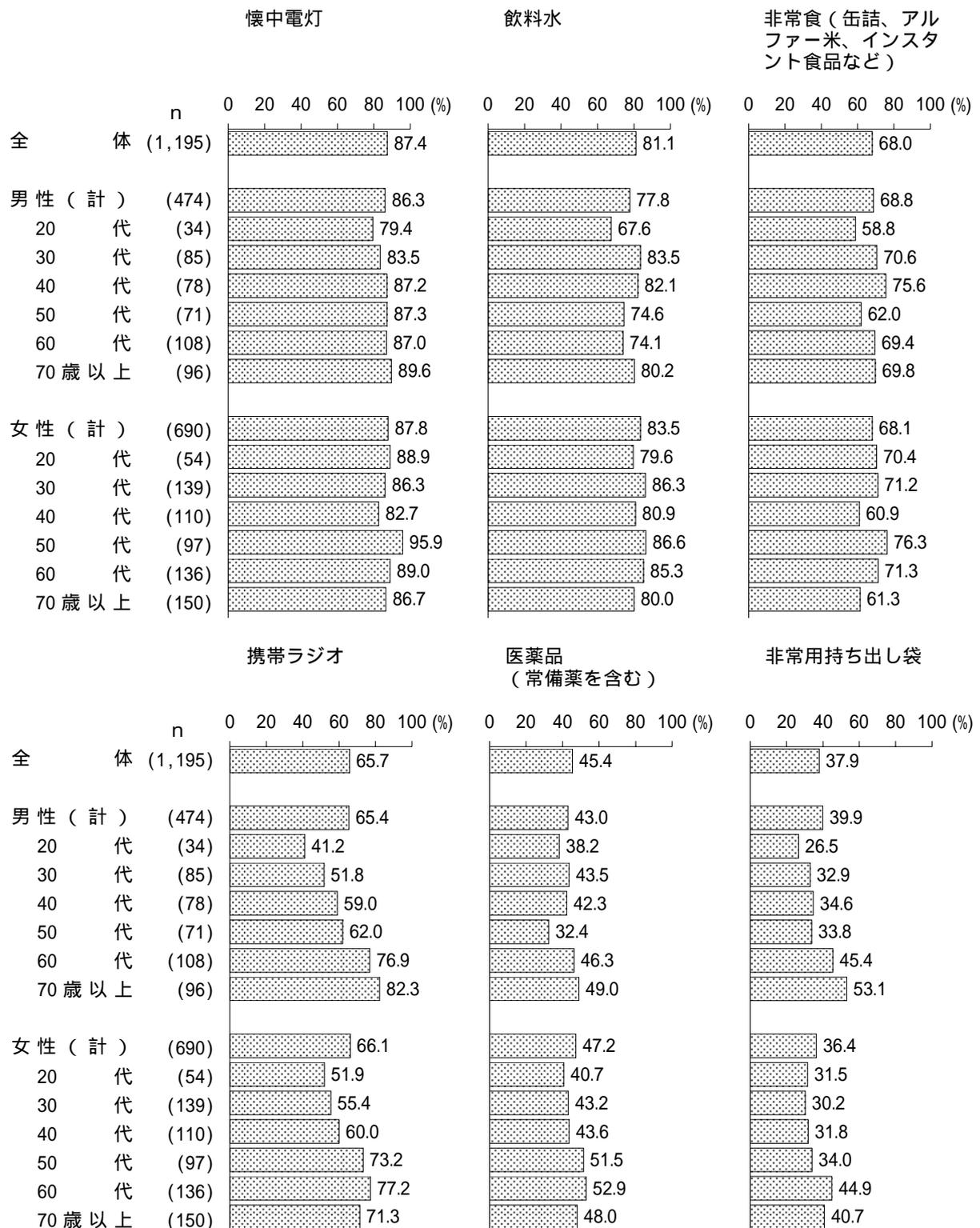
家庭で災害に備えて非常食などの「備蓄や防災用具などを用意している」人と、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」人 (1,195人) に、備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を聞いたところ、「懐中電灯」(87.4%) が9割近くで最も高く、次いで「飲料水」(81.1%)、「非常食(缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など)」(68.0%)、「携帯ラジオ」(65.7%)、「医薬品(常備薬を含む)」(45.4%)の順になっている。

( 図2 - 4 - 1 )

性別でみると、女性で「飲料水」（83.5%）が男性（77.8%）より5.7ポイント高く、「医薬品（常備薬を含む）」（47.2%）で男性（43.0%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「懐中電灯」は女性50代（95.9%）で9割半ばと高くなっている。また、男性では「携帯ラジオ」と「非常用持ち出し袋」で高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性70歳以上で「携帯ラジオ」（82.3%）が8割を超え、「非常用持ち出し袋」（53.1%）が5割を超え高くなっている。（図2-4-2）

図2-4-2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容 - 性別、性・年代別（上位6位）



( 2 - 3 ) 家庭での備蓄の量

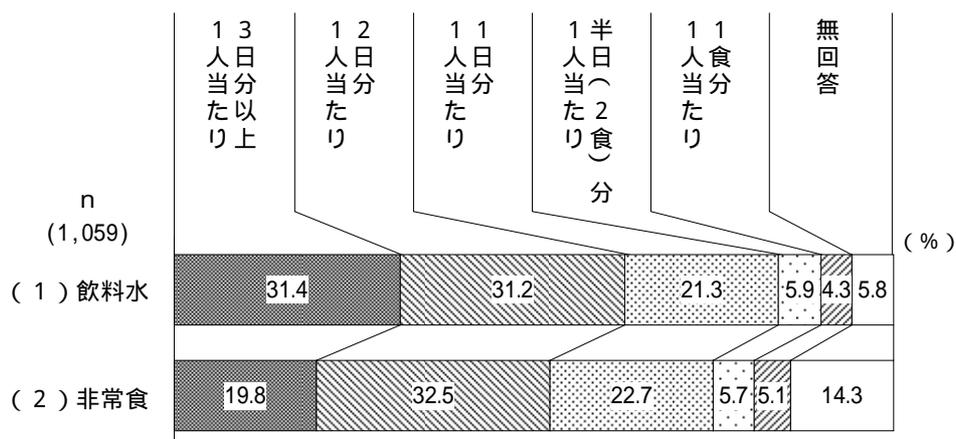
【飲料水】は「1人当たり3日以上」と「1人当たり2日分」がともに3割を超えている  
 【非常食】は「1人当たり2日分」が3割を超えている

( 問5 - 2で「飲料水」又は「非常食」とお答えの方に )

問5 - 3 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。

( は各項目とも1つだけ )

図2 - 5 - 1 家庭での備蓄の量



飲料水は大人1人1日3リットルで計算。飲料水、非常食には日常の買い置きがあるため災害時に活用できるものを含む

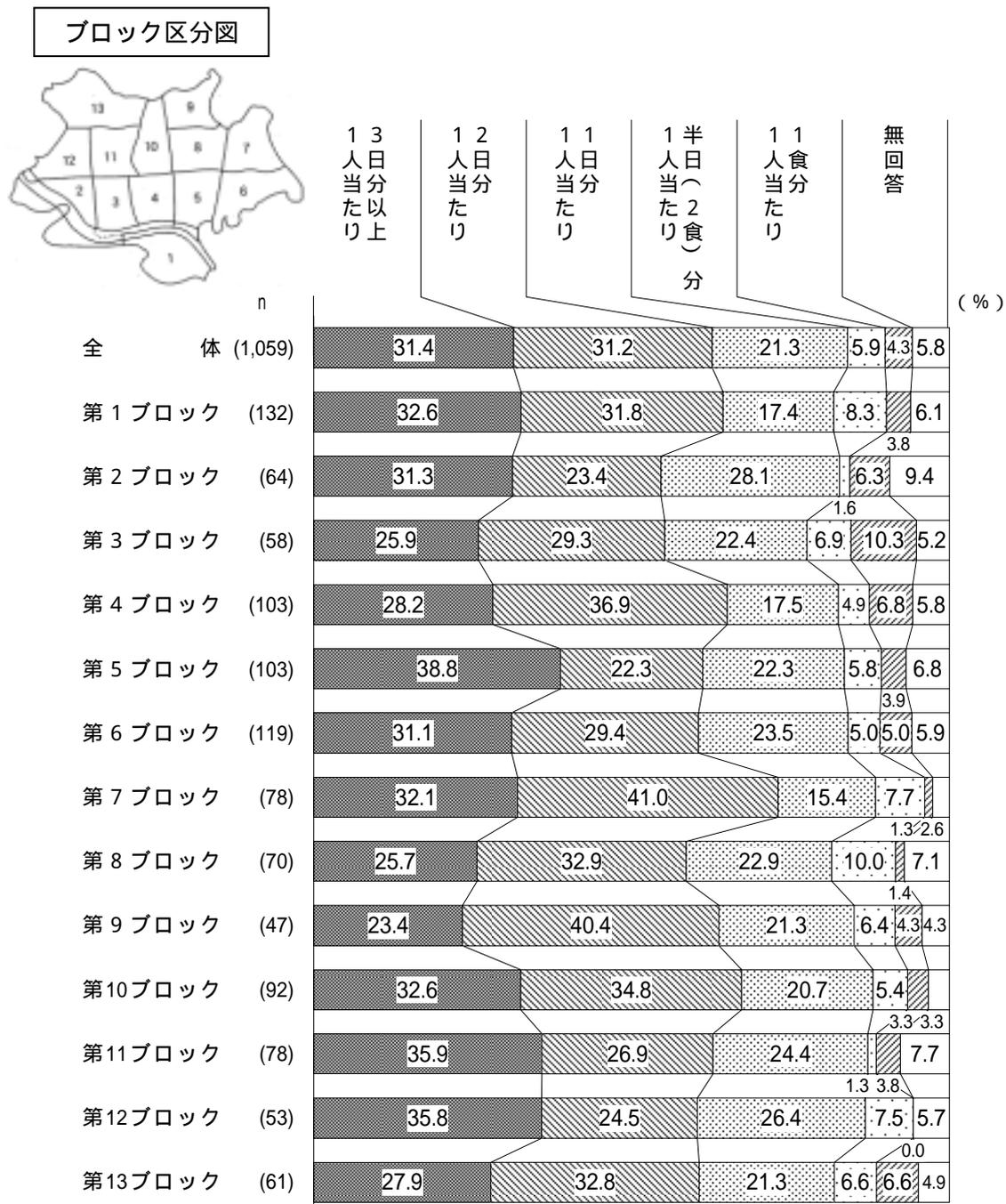
家庭で「飲料水」又は「非常食」を買い置きしている人(1,059人)に、家庭での備蓄の量を聞いたところ、【飲料水】は「1人当たり3日以上」(31.4%)と「1人当たり2日分」(31.2%)がともに3割を超え、「1人当たり1日分」(21.3%)が2割を超えている。

【非常食】は「1人当たり2日分」(32.5%)が3割を超え、「1人当たり1日分」(22.7%)が2割を超え、「1人当たり3日以上」(19.8%)が2割となっている。また、「1人当たり3日以上」では、【飲料水】の方が【非常食】より11.6ポイント高く、【飲料水】の方が備蓄の量が多くなっている。(図2 - 5 - 1)

地域ブロック別でみると、「1人当たり3日分以上」は第5ブロック（38.8%）で4割近くと高く、「1人当たり2日分」は第7ブロック（41.0%）で4割を超え、第9ブロック（40.4%）で4割と高くなっている。（図2-5-2）

図2-5-2 家庭での備蓄の量 - 地域ブロック別（1）

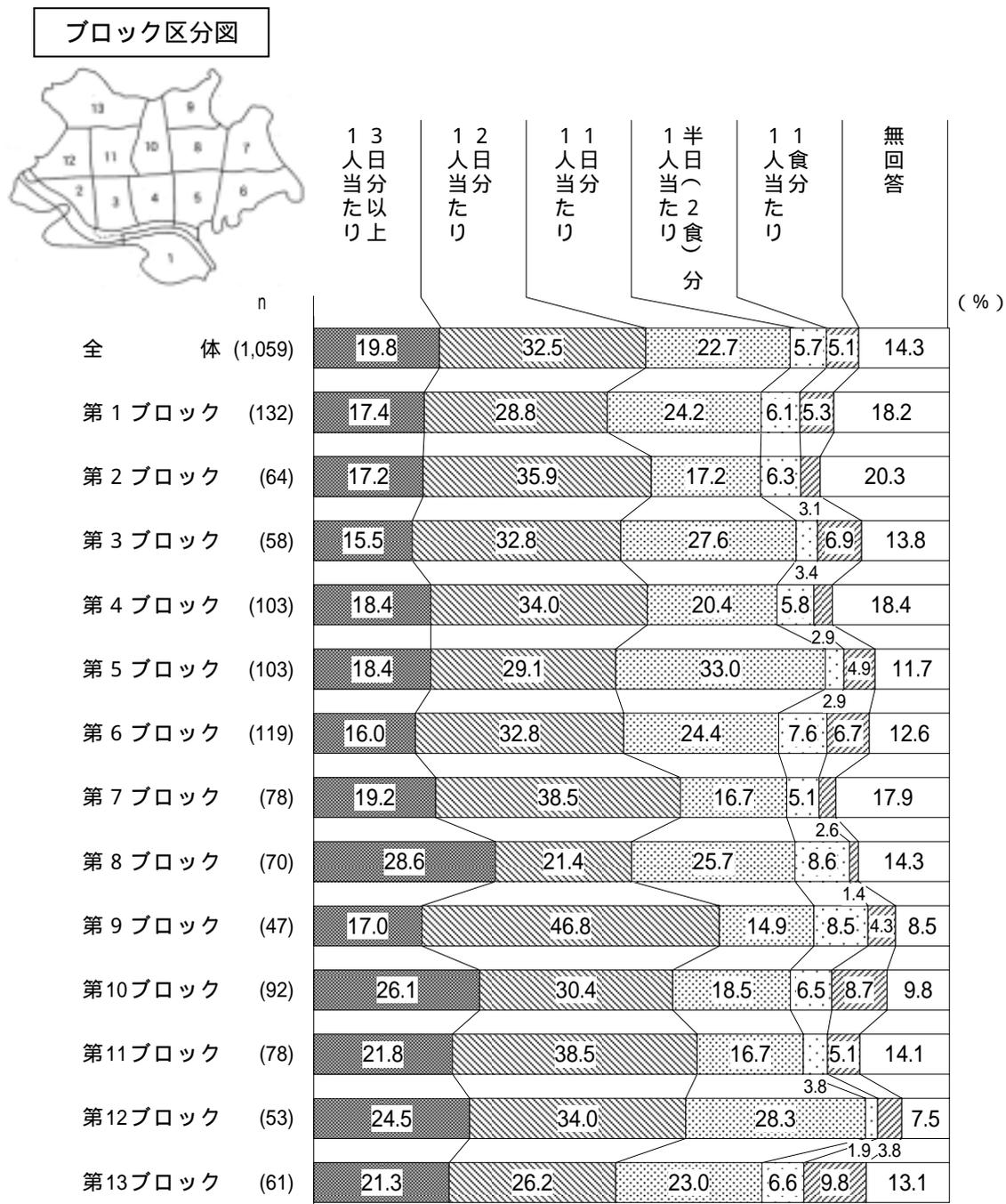
（1）飲料水



地域ブロック別でみると、「1人当たり3日分以上」は第8ブロック（28.6%）で3割近くと高くなっている。また、「1人当たり2日分」は第9ブロック（46.8%）で5割近く、「1人当たり1日分」は第5ブロック（33.0%）で3割を超え高くなっている。（図2-5-3）

図2-5-3 家庭での備蓄の量 - 地域ブロック別（2）

（2）非常食

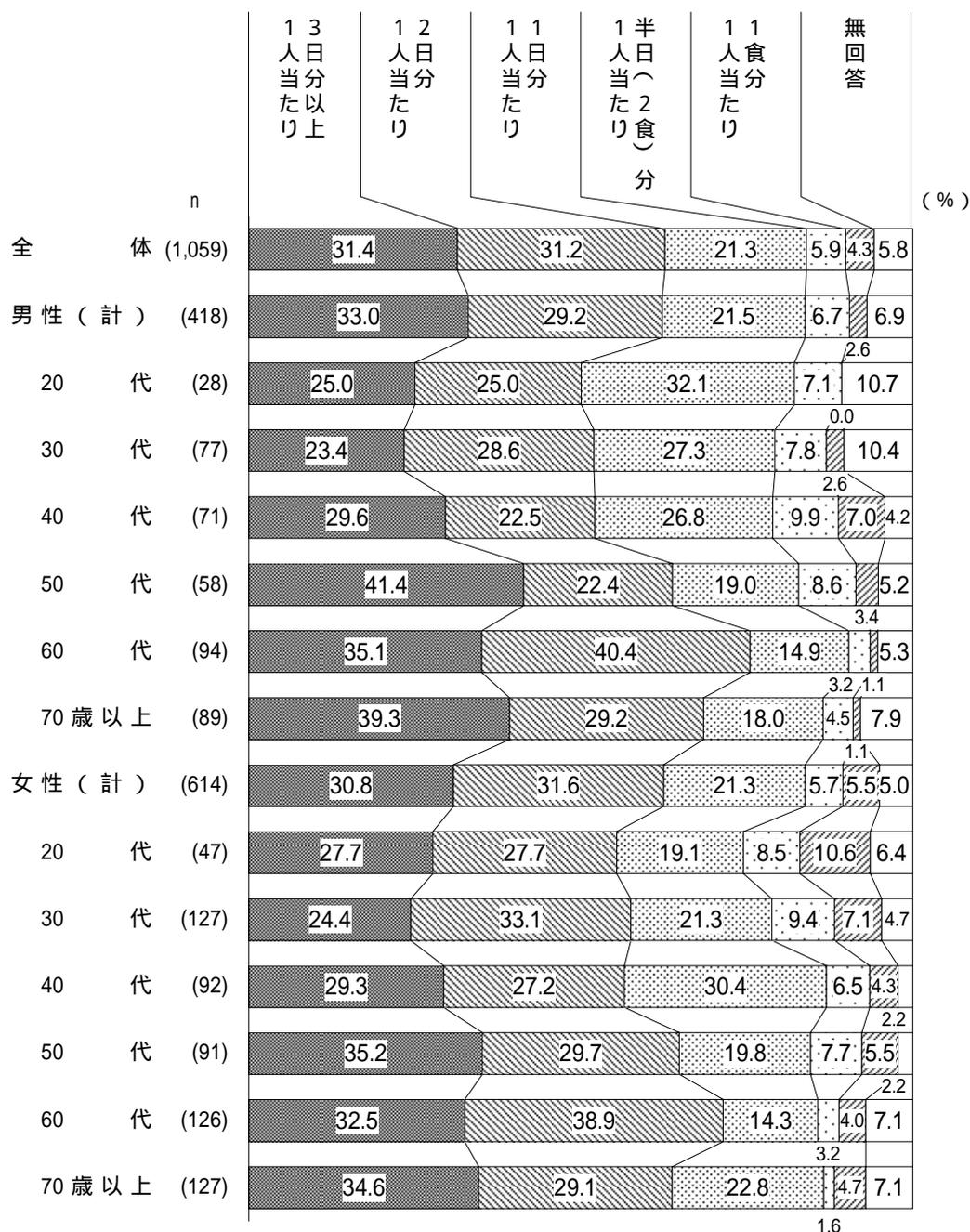


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「1人当たり3日分以上」は男性50代（41.4%）で4割を超え高くなっている。また、「1人当たり2日分」は男性60代（40.4%）で4割、「1人当たり1日分」は男性20代（32.1%）、女性40代（30.4%）で3割を超え高くなっている。（図2-5-4）

図2-5-4 家庭での備蓄の量 - 性別、性・年代別（1）

（1）飲料水

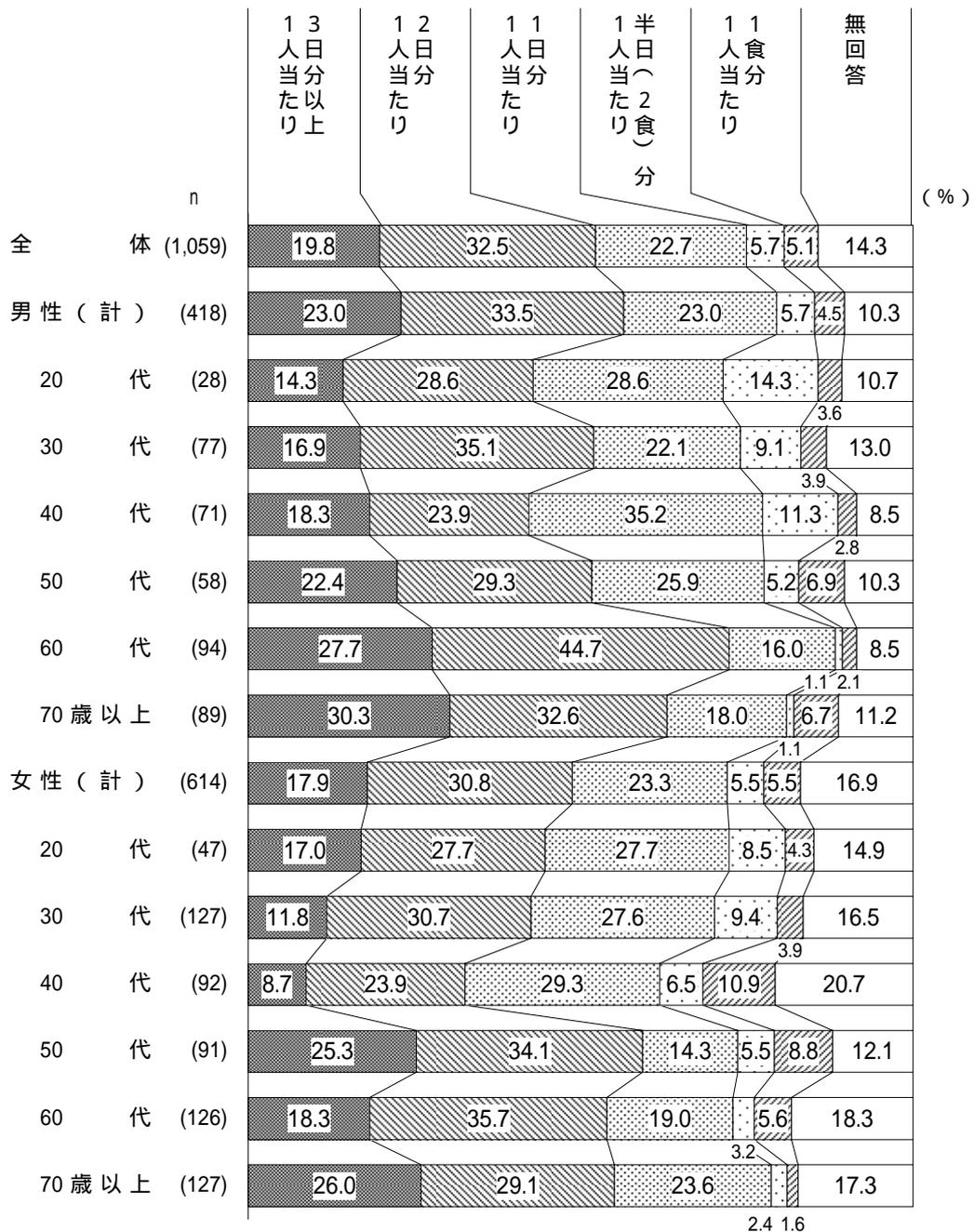


性別で見ると、男女とも備蓄の量の傾向は、ほぼ同じになっている。

性・年代別で見ると、「1人当たり3日分以上」は男性70歳以上（30.3%）で3割と高くなっている。また、「1人当たり2日分」は男性60代（44.7%）で4割半ば、「1人当たり1日分」は男性40代（35.2%）で3割半ばと高くなっている。（図2 - 5 - 5）

図2 - 5 - 5 家庭での備蓄の量 - 性別、性・年代別（2）

（2）非常食

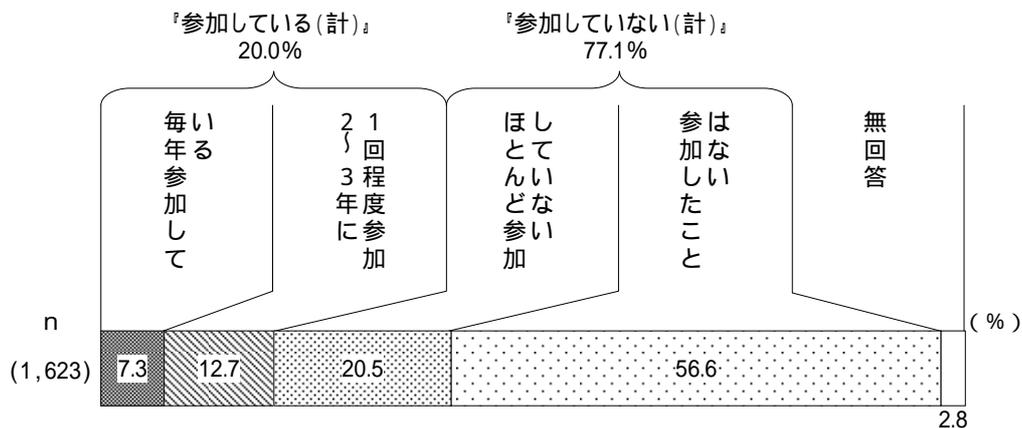


(3) 町会や自治会の防災訓練への参加状況

『参加している』人は2割にとどまる

問6 あなたは、町会や自治会の防災訓練に参加していますか。( は1つだけ)

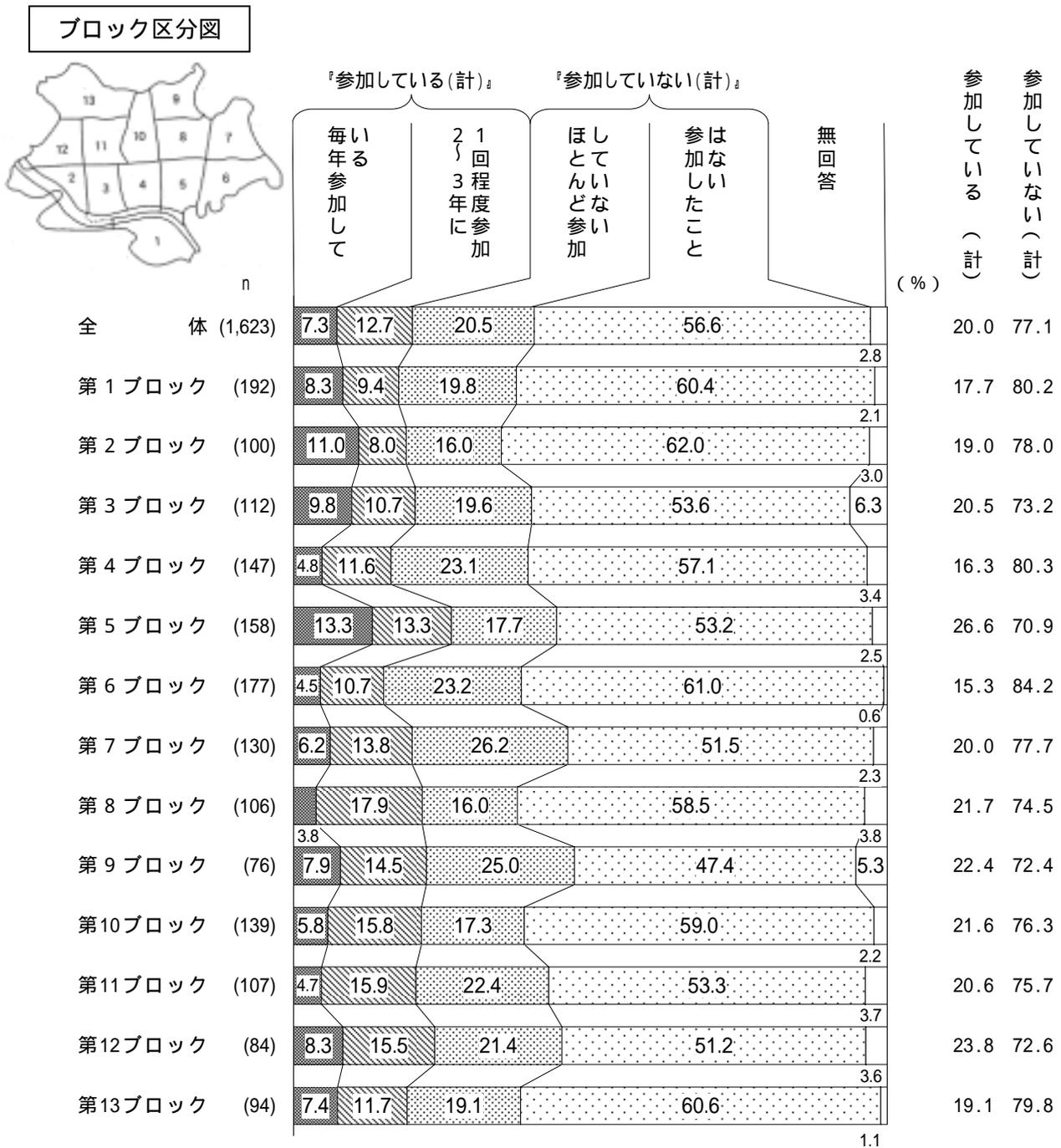
図2-6-1 町会や自治会の防災訓練への参加状況



町会や自治会の防災訓練に参加しているか聞いたところ、「毎年参加している」(7.3%)と「2~3年に1回程度参加」(12.7%)を合わせた『参加している(計)』(20.0%)が2割となっている。一方、「参加したことはない」(56.6%)が6割近くとなっており、これに「ほとんど参加していない」(20.5%)を合わせた『参加していない(計)』(77.1%)が8割近くとなっている。(図2-6-1)

地域ブロック別でみると、「毎年参加している」は第5ブロック(13.3%)で1割を超え高く、『参加している(計)』でも第5ブロック(26.6%)が3割近くと高くなっている。一方、『参加していない(計)』は第6ブロック(84.2%)で8割半ばと高くなっている。(図2-6-2)

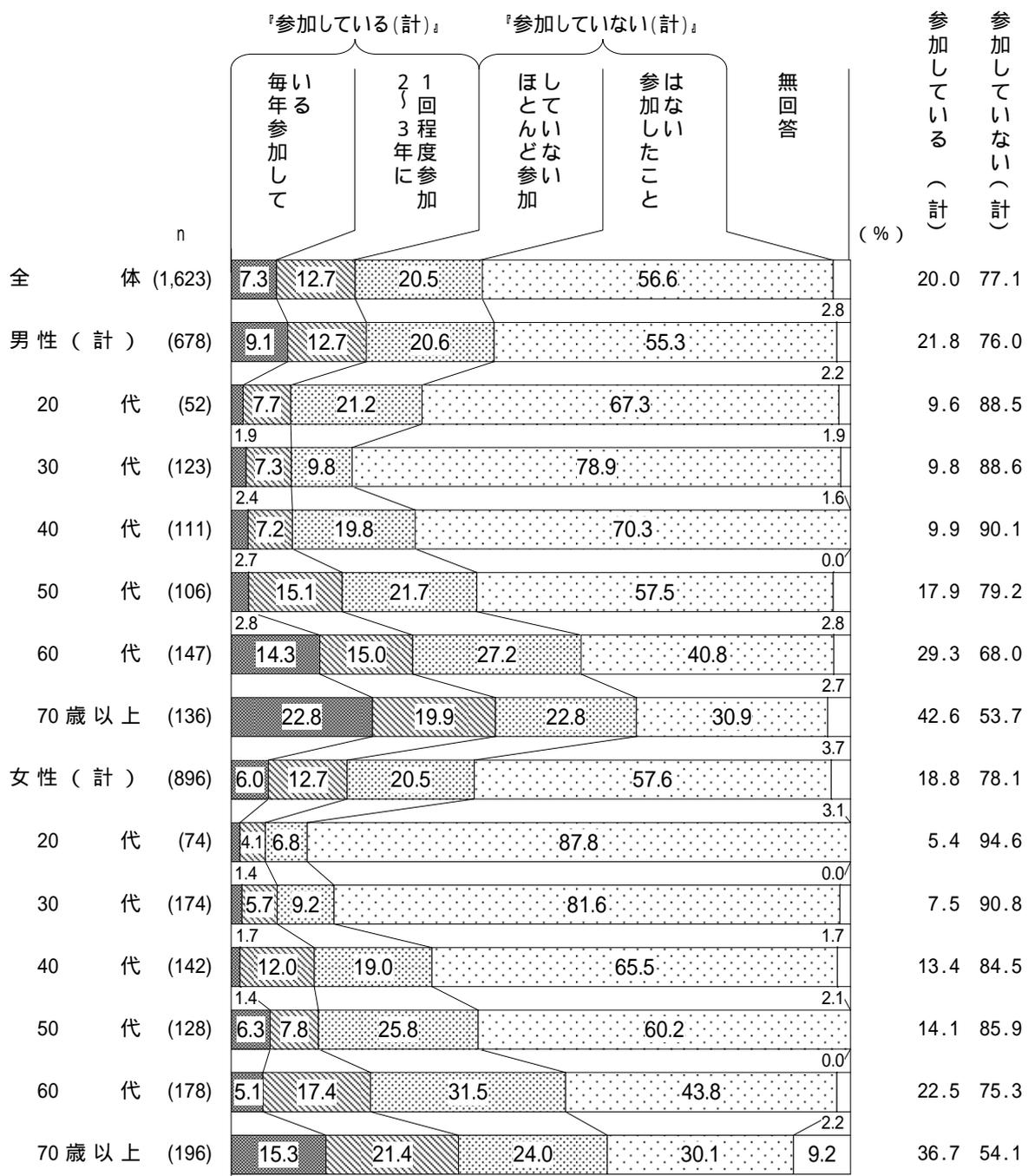
図2-6-2 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「毎年参加している」は男性70歳以上（22.8%）で2割を超え高く、「2～3年に1回程度参加」は女性70歳以上（21.4%）で2割を超え高くなっている。また、『参加している（計）』は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性70歳以上（42.6%）で4割を超え高くなっている。一方、「参加したことはない」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（87.8%）で9割近くと高く、『参加していない（計）』でも女性20代（94.6%）が9割半ばと高くなっている。（図2 - 6 - 3）

図2 - 6 - 3 町会や自治会の防災訓練への参加状況 - 性別、性・年代別



( 3 - 1 ) 防災訓練へ参加しない理由

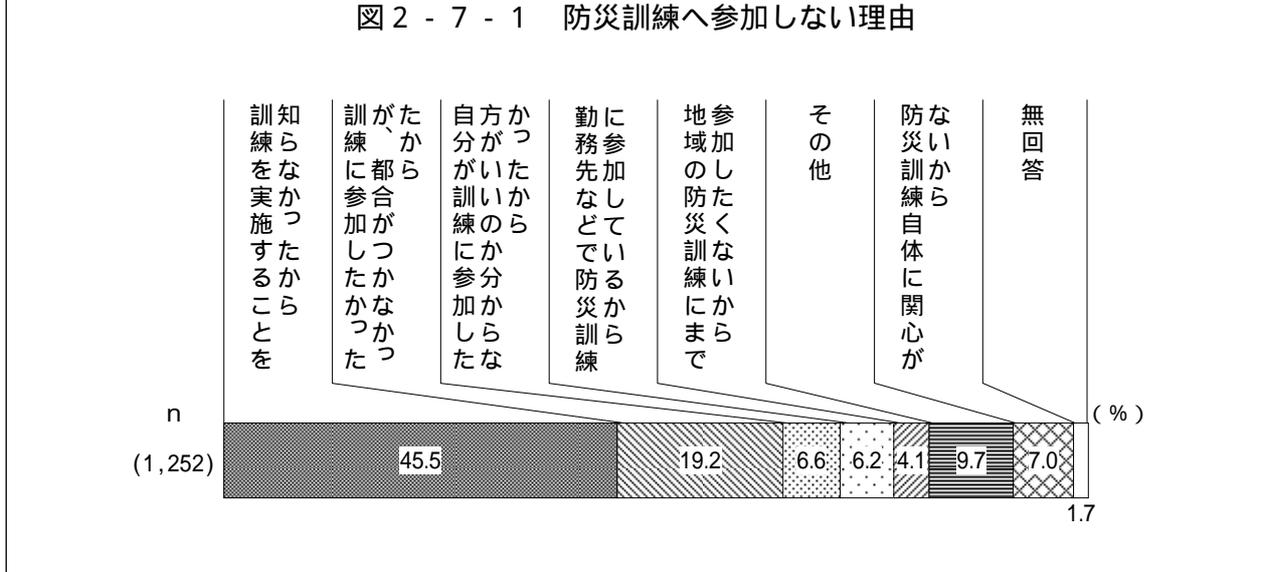
「訓練を実施することを知らなかったから」が4割半ばで最も高い

(問6で「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」とお答えの方に)

問6 - 1 町会や自治会の防災訓練に参加しない理由をお答えください。

( は最もあてはまるもの1つ)

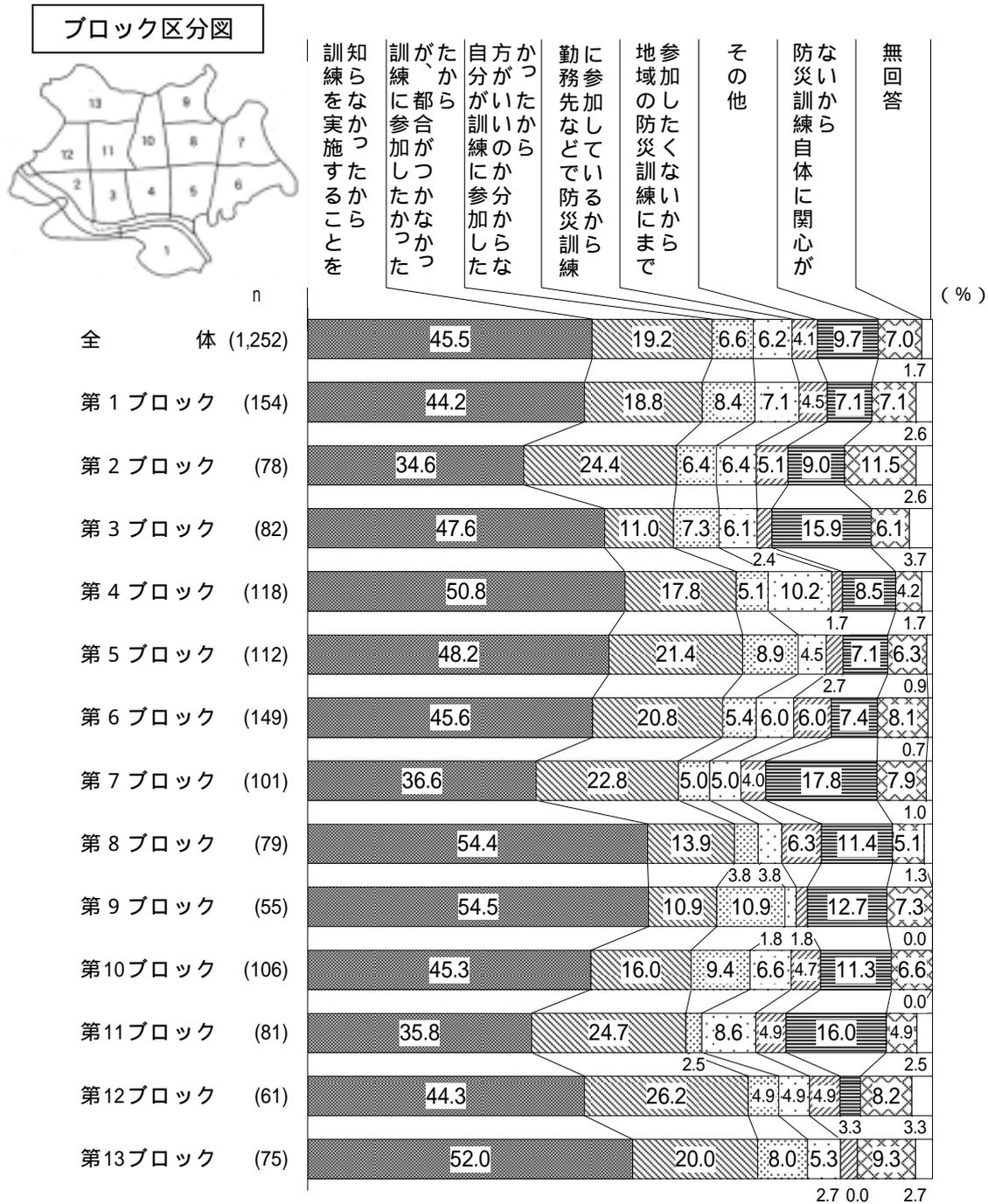
図2 - 7 - 1 防災訓練へ参加しない理由



町会や自治会の防災訓練に「ほとんど参加していない」又は「参加したことはない」人(1,252人)に、理由を聞いたところ、「訓練を実施することを知らなかったから」(45.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「訓練に参加したが、都合がつかなかったから」(19.2%)がほぼ2割となっている。一方、「防災訓練自体に関心がないから」(7.0%)は1割未満となっている。(図2 - 7 - 1)

地域ブロック別でみると、「訓練を実施することを知らなかったから」は第9ブロック(54.5%)と第8ブロック(54.4%)でともに5割半ばと高くなっている。(図2-7-2)

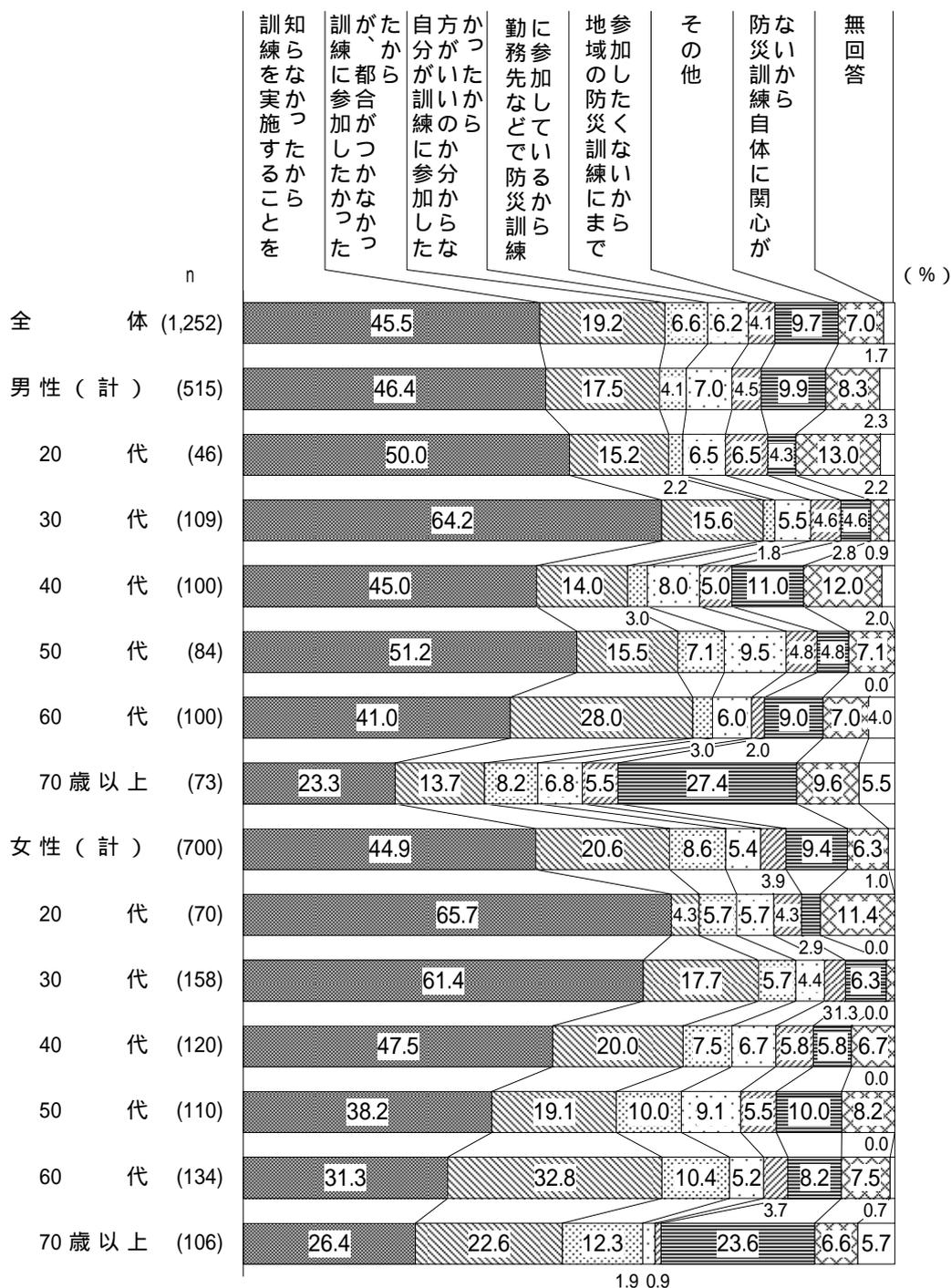
図2-7-2 防災訓練へ参加しない理由 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向となっている。

性・年代別で見ると、「訓練を実施することを知らなかったから」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（65.7%）で6割半ばと高く、男性30代（64.2%）でも6割半ばと高くなっている。また、「訓練に参加したかったが、都合がつかなかったから」は男女とも60代（男性28.0%・女性32.8%）で3割前後と高くなっている。（図2-7-3）

図2-7-3 防災訓練へ参加しない理由 - 性別、性・年代別





### 3 東日本大震災

- 
- ( 1 ) 3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況
    - ( 1 - 1 ) 帰宅が困難になった際の対応
    - ( 1 - 2 ) 帰宅が困難になった際に困ったこと
  - ( 2 ) 震災発生の際に遭遇したこと
  - ( 3 ) 震災発生直後に行ったこと
  - ( 4 ) 災害弱者・災害時要援護者の有無
    - ( 4 - 1 ) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無
  - ( 5 ) 大地震が起きたとき不安に思うこと
  - ( 6 ) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと
-



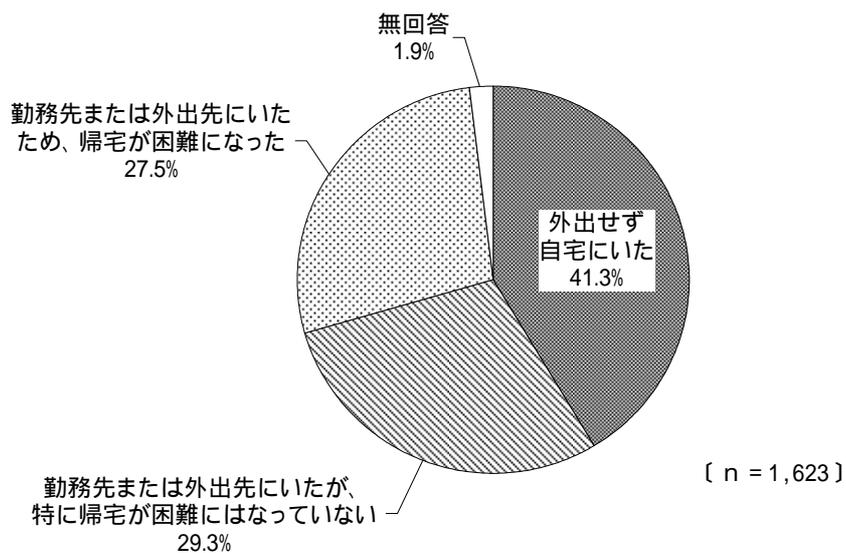
### 3 東日本大震災

#### (1) 3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況

「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」人は3割近く

問7 3月11日の地震発生時の外出の有無、また、勤務先または外出先からの帰宅状況はどうでしたか。( は1つだけ)

図3 - 1 - 1 3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況

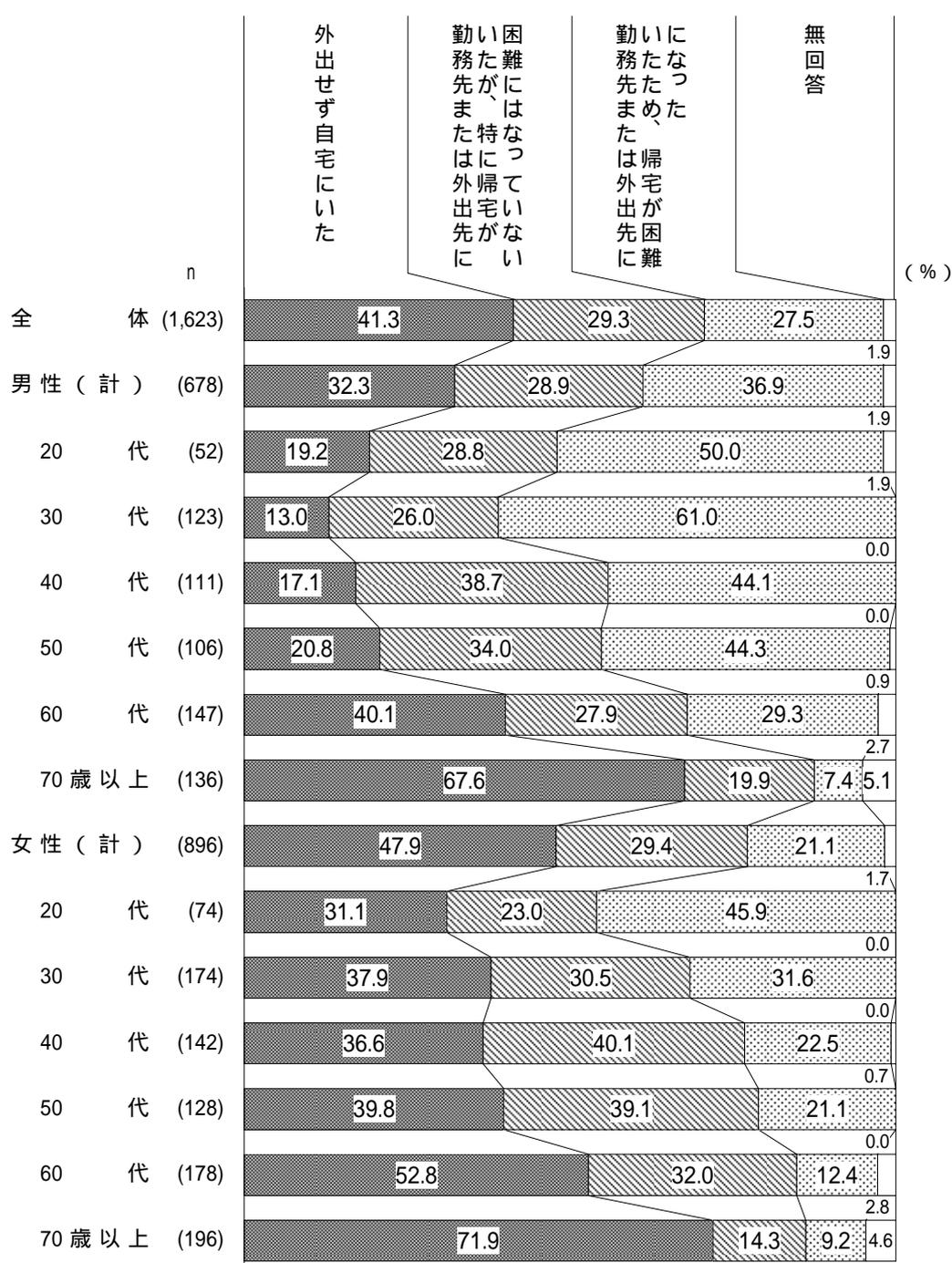


3月11日の地震発生時の外出の有無、また、勤務先または外出先からの帰宅状況を聞いたところ、「外出せず自宅にいた」(41.3%)が4割を超えている。また、「勤務先または外出先にいたが、特に帰宅が困難にはなっていない」(29.3%)がほぼ3割、「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」(27.5%)が3割近くとなっている。(図3 - 1 - 1)

性別で見ると、男性で「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」(36.9%)が女性(21.1%)より15.8ポイント高くなっている。一方、女性で「外出せず自宅にいた」(47.9%)が男性(32.3%)より15.6ポイント高くなっている。

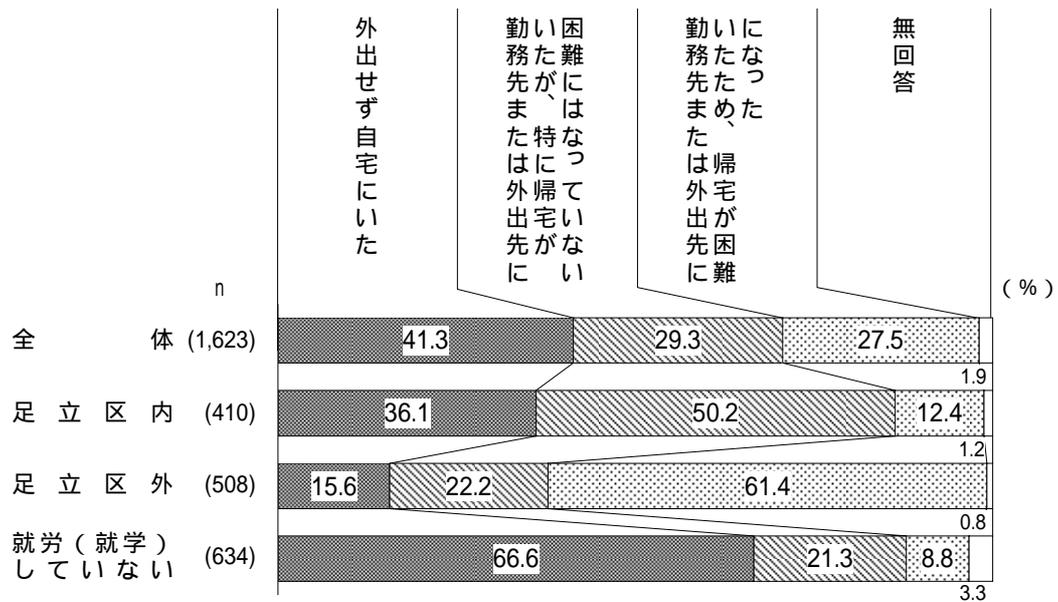
性・年代別で見ると、「外出せず自宅にいた」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性70歳以上(71.9%)で7割を超え、男性70歳以上(67.6%)でも7割近くと高くなっている。また、「勤務先または外出先にいたが、特に帰宅が困難にはなっていない」は男性40代(38.7%)、女性の40代(40.1%)と50代(39.1%)の年代で4割前後と高く、「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」は男性30代(61.0%)で6割を超え高くなっている。(図3-1-2)

図3-1-2 3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況 - 性別、性・年代別



就労（就学）場所別でみると、足立区内に就労（就学）している方で「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」（12.4%）は1割程度に過ぎないが、足立区外に就労（就学）している方（61.4%）では6割を超え、極めて高くなっている。（図3 - 1 - 3）

図3 - 1 - 3 3月11日の地震発生時の外出の有無、帰宅状況 - 就労（就学）場所別



( 1 - 1 ) 帰宅が困難になった際の対応

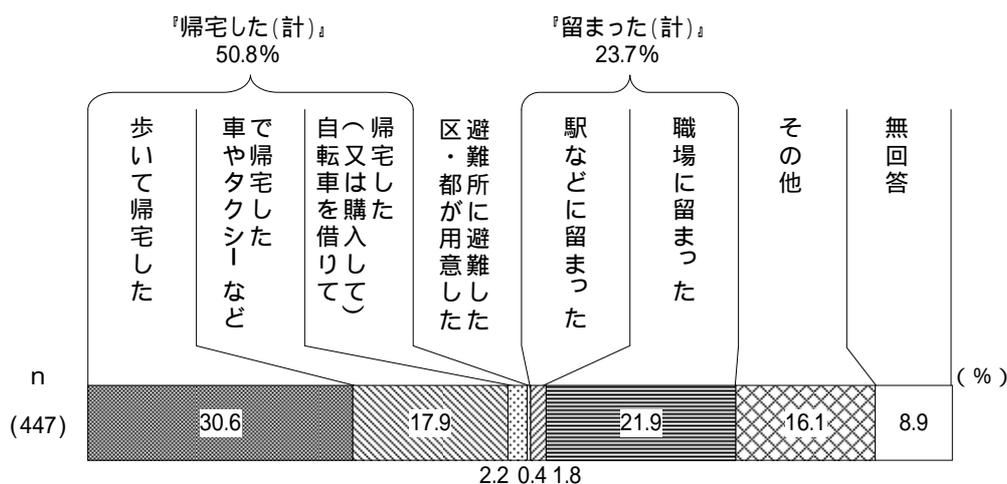
『帰宅した』人がほぼ5割、『留まった』人が2割を超えている

(問7で「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」とお答えの方に)

問7 - 1 あなたは帰宅が困難になった際に、どのような対応をとりましたか。

( は最もあてはまるもの1つ )

図3 - 2 - 1 帰宅が困難になった際の対応



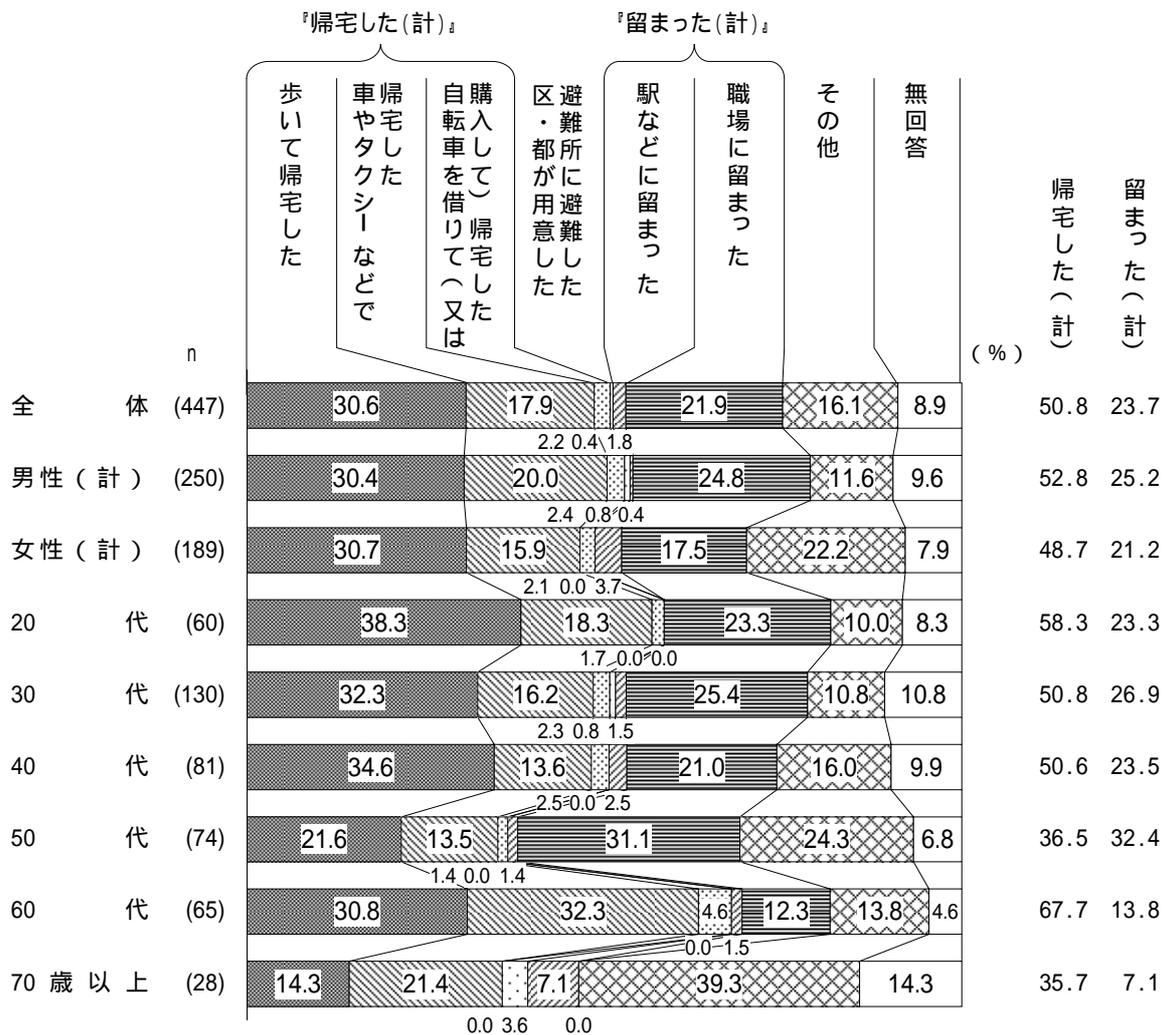
3月11日の地震発生時に「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」人(447人)に、どのような対応をとったか聞いたところ、「歩いて帰宅した」(30.6%)がほぼ3割で最も高く、これに「車やタクシーなどで帰宅した」(17.9%)と「自転車を借りて(又は購入して)帰宅した」(2.2%)を合わせた『帰宅した(計)』(50.8%)がほぼ5割となっている。

一方、「職場に留まった」(21.9%)が2割を超え、これに「駅などに留まった」(1.8%)を合わせた『留まった(計)』(23.7%)が2割を超えている。また、「区・都が用意した避難所に避難した」は0.4%となっている。(図3 - 2 - 1)

性別で見ると、男性で「職場に留まった」(24.8%)が女性(17.5%)より7.3ポイント高く、「車やタクシーなどで帰宅した」(20.0%)が女性(15.9%)より4.1ポイント高くなっている。

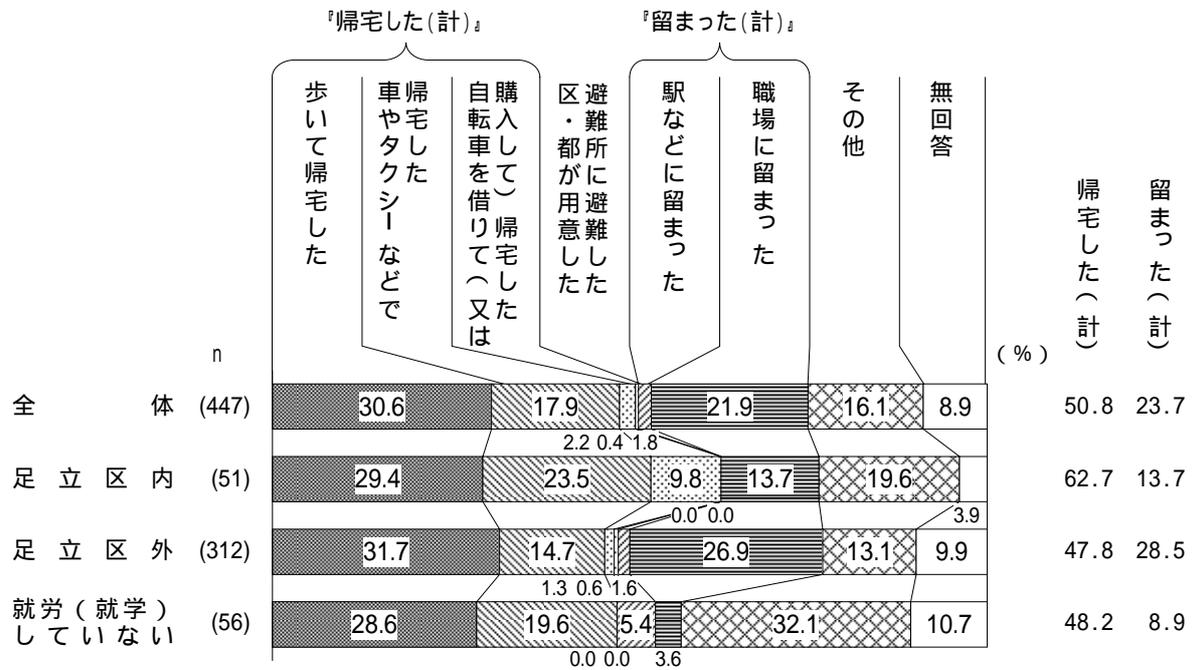
年代別で見ると、「歩いて帰宅した」は20代(38.3%)で4割近くと高く、「車やタクシーなどで帰宅した」は60代(32.3%)で3割を超え高くなっている。一方、「職場に留まった」は50代(31.1%)で3割を超え高くなっている。また、『帰宅した(計)』は60代(67.7%)で7割近く、『留まった(計)』は50代(32.4%)で3割を超え高くなっている。(図3-2-2)

図3-2-2 帰宅が困難になった際の対応 - 性別、年代別



就労（就学）場所別でみると、『帰宅した（計）』は足立区内（62.7%）で6割を超え、『留まった（計）』は足立区外（28.5%）で3割近くと高くなっている。（図3 - 2 - 3）

図3 - 2 - 3 帰宅が困難になった際の対応 - 就労（就学）場所別



( 1 - 2 ) 帰宅が困難になった際に困ったこと

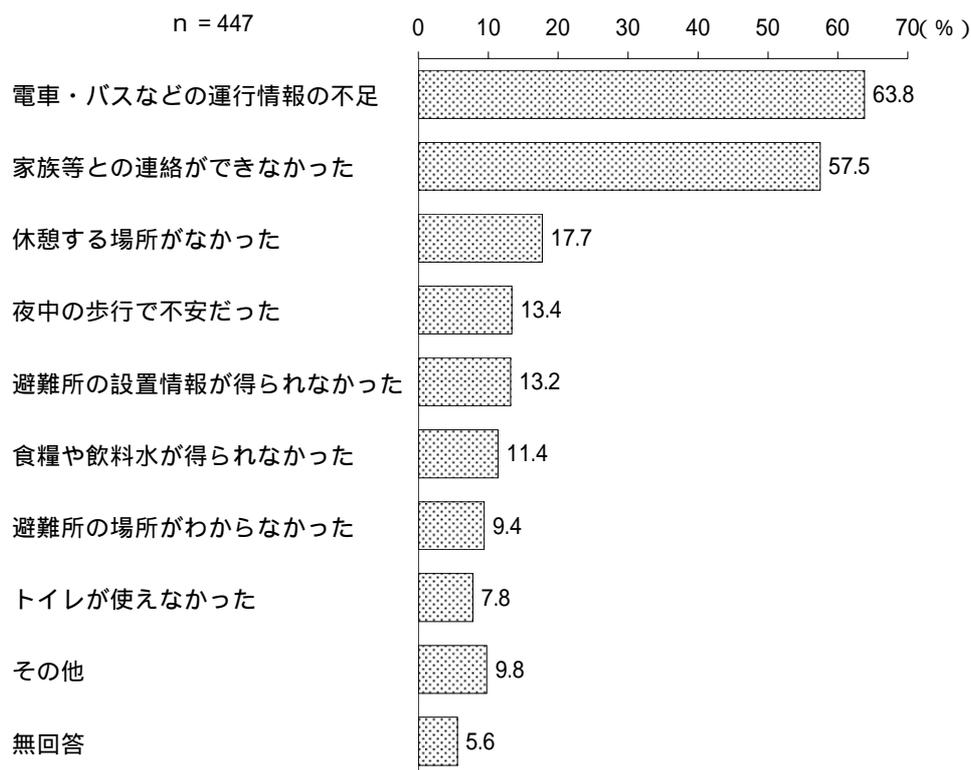
「電車・バスなどの運行情報の不足」が6割、「家族等との連絡ができなかった」が6割近く

( 問7で「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」とお答えの方に )

問7 - 2 帰宅が困難になったときに、困ったことは何ですか。

( はあてはまるものすべて )

図3 - 3 - 1 帰宅が困難になった際に困ったこと



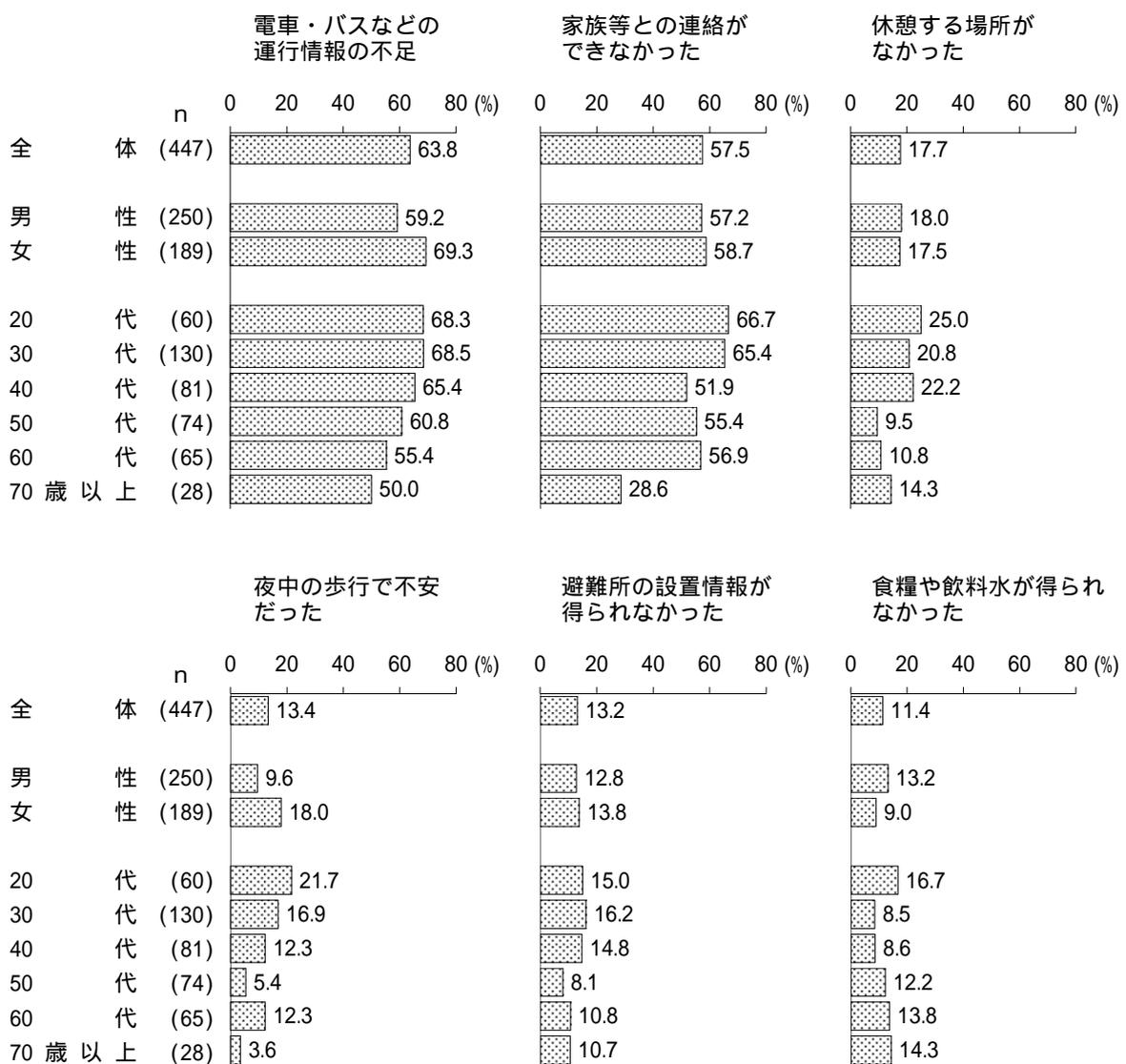
3月11日の地震発生時に「勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」人(447人)に、帰宅が困難になったときに困ったことを聞いたところ、「電車・バスなどの運行情報の不足」(63.8%)が6割を超え最も高く、次いで「家族等との連絡ができなかった」(57.5%)が6割近くとなっている。次いで、「休憩する場所がなかった」(17.7%)、「夜中の歩行で不安だった」(13.4%)、「避難所の設置情報が得られなかった」(13.2%)の順となっている。

( 図3 - 3 - 1 )

性別で見ると、女性で「電車・バスなどの運行情報の不足」(69.3%)が男性(59.2%)より10.1ポイント高く、「夜中の歩行で不安だった」(18.0%)が男性(9.6%)より8.4ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「電車・バスなどの運行情報の不足」は低い年代ほど割合が高い傾向にあり、20代(68.3%)と30代(68.5%)で7割近くと高くなっている。また、「家族等との連絡ができなかった」は20代(66.7%)で7割近く、30代(65.4%)で6割半ばと高く、「夜中の歩行で不安だった」は20代(21.7%)で2割を超え高くなっている。(図3-3-2)

図3-3-2 帰宅が困難になった際に困ったこと - 性別、年代別(上位6位)

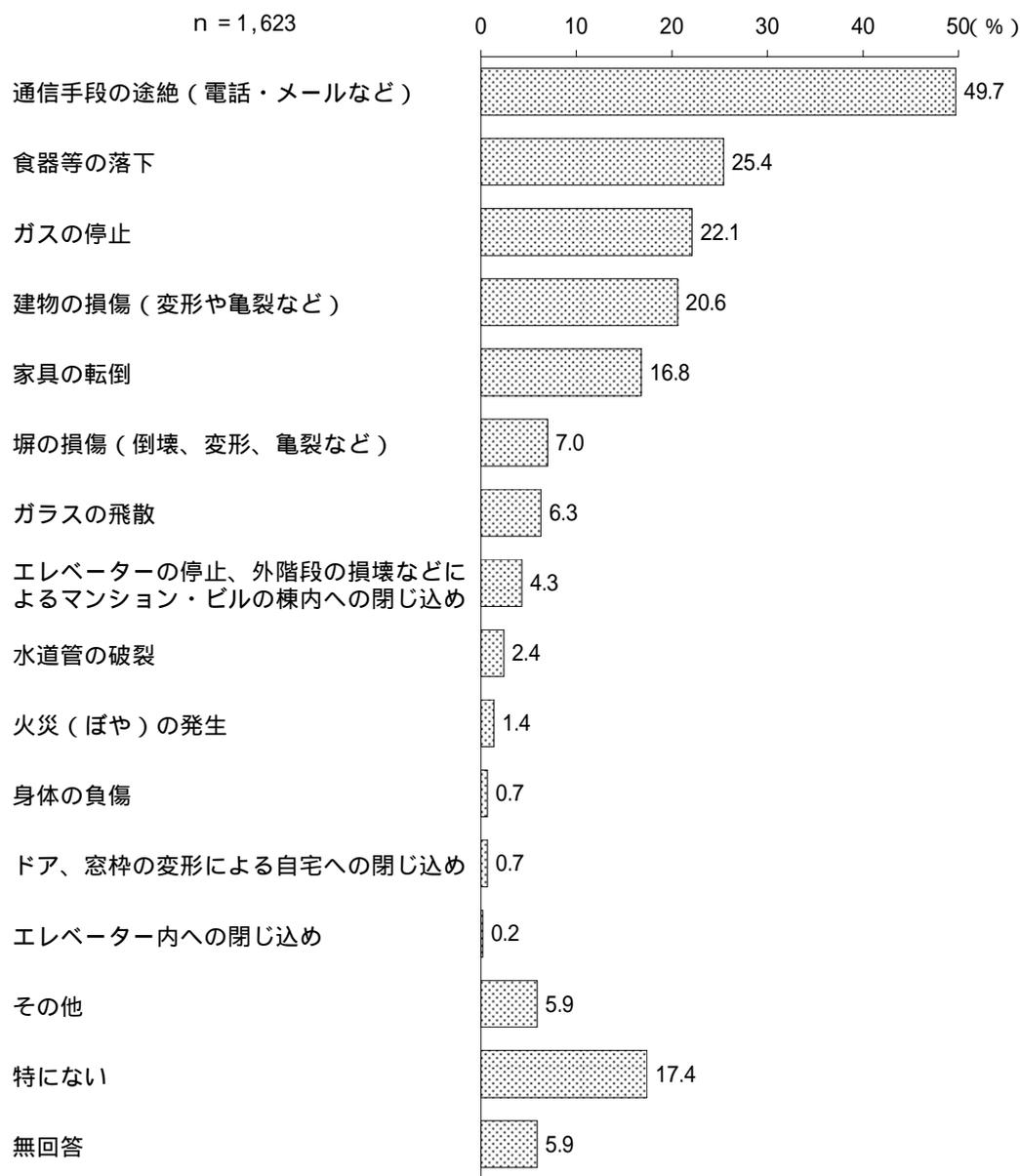


(2) 震災発生の際に遭遇したこと

「通信手段の途絶(電話・メールなど)」が5割で最も高い

問8 震災発生の際に遭遇したことは何ですか。( はあてはまるものすべて)

図3-4-1 震災発生の際に遭遇したこと

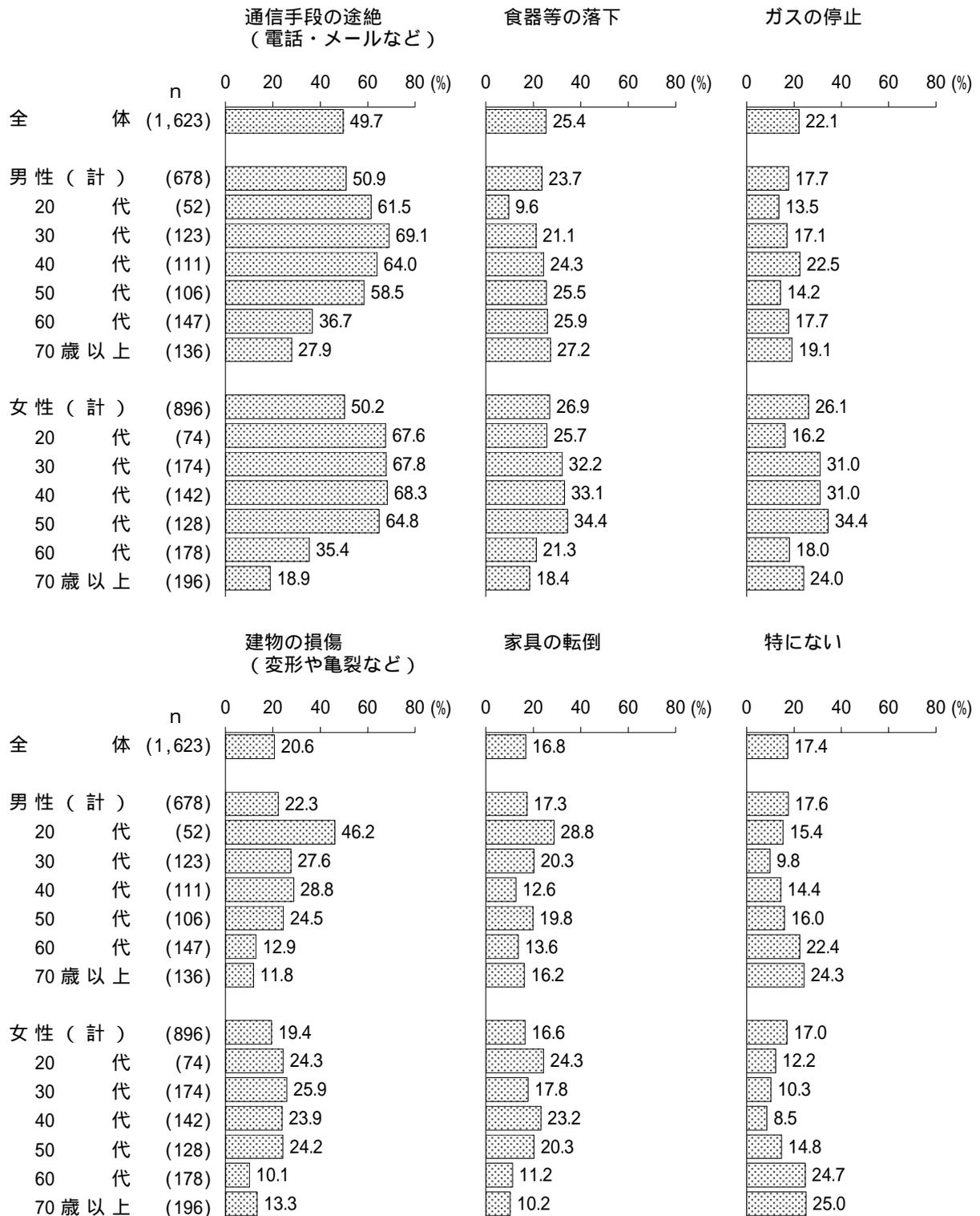


震災発生の際に遭遇したことを聞いたところ、「通信手段の途絶(電話・メールなど)」(49.7%)が5割で最も高く、次いで「食器等の落下」(25.4%)、「ガスの停止」(22.1%)、「建物の損傷(変形や亀裂など)」(20.6%)、「家具の転倒」(16.8%)の順となっている。(図3-4-1)

性別で見ると、女性で「ガスの停止」(26.1%)が男性(17.7%)より8.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「通信手段の途絶(電話・メールなど)」は男性の20代から40代、女性の20代から50代の年代で6割以上を占めている。また、女性の30代から50代の年代では「食器等の落下」と「ガスの停止」で3割以上を占め、「建物の損傷(変形や亀裂など)」は男性20代(46.2%)で4割半ばと高くなっている。(図3-4-2)

図3-4-2 震災発生の際に遭遇したこと - 性別、性・年代別(上位5位+「特にない」)

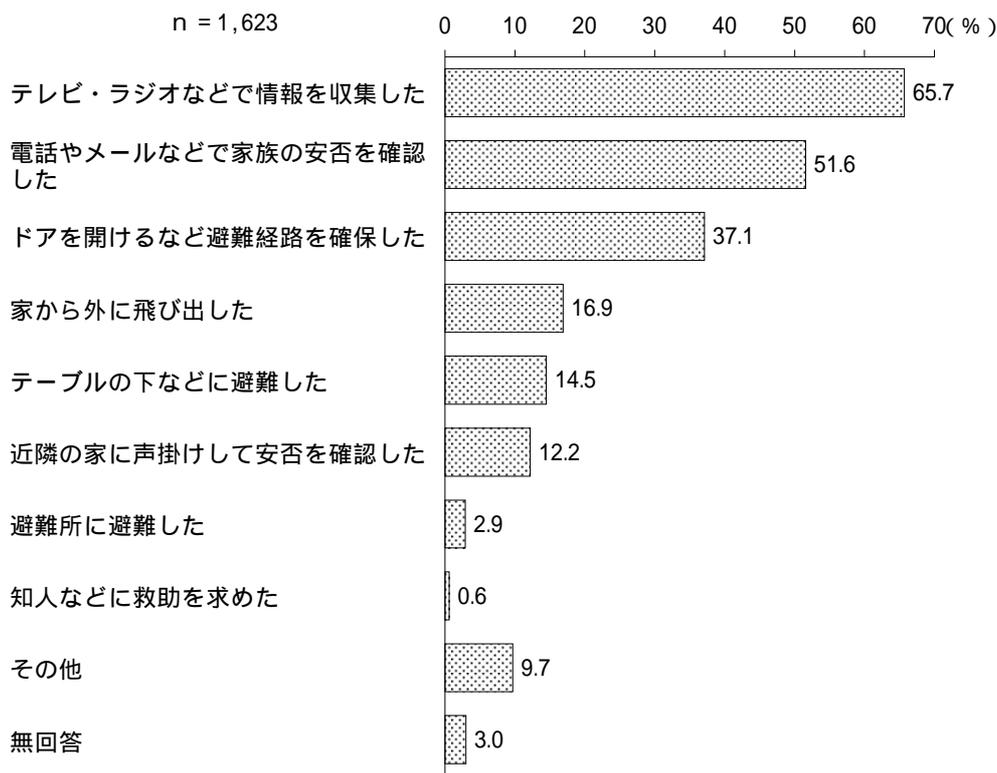


(3) 震災発生直後に行ったこと

「テレビ・ラジオなどで情報を収集した」が6割半ば、「電話やメールなどで家族の安否を確認した」が5割を超えている

問9 震災発生直後にどのようなことをしましたか。( はあてはまるものすべて )

図3-5-1 震災発生直後に行ったこと



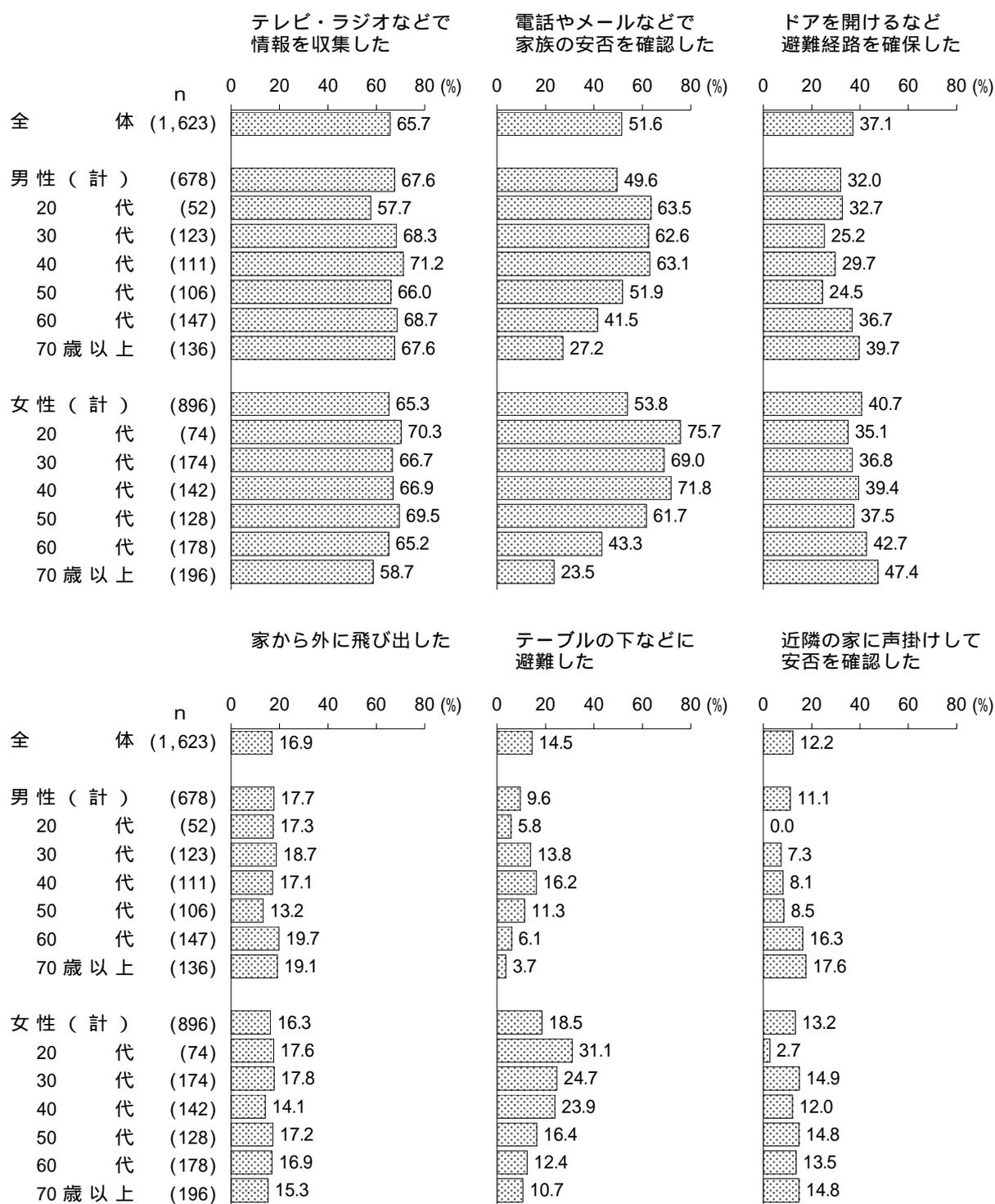
震災発生直後に行ったことを聞いたところ、「テレビ・ラジオなどで情報を収集した」(65.7%)が6割半ばで最も高く、次いで「電話やメールなどで家族の安否を確認した」(51.6%)、「ドアを開けるなど避難経路を確保した」(37.1%)、「家から外に飛び出した」(16.9%)、「テーブルの下などに避難した」(14.5%)の順となっている。(図3-5-1)

性別で見ると、女性で「テーブルの下などに避難した」（18.5%）が男性（9.6%）より 8.9ポイント高く、「ドアを開けるなど避難経路を確保した」（40.7%）が男性（32.0%）より 8.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「電話やメールなどで家族の安否を確認した」は男女とも20代から40代で高く、特に女性20代（75.7%）で7割半ばと高くなっている。また、「ドアを開けるなど避難経路を確保した」は女性70歳以上（47.4%）で5割近く、「テーブルの下などに避難した」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（31.1%）で3割を超え高くなっている。

（図3-5-2）

図3-5-2 震災発生直後に行ったこと - 性別、性・年代別（上位6位）

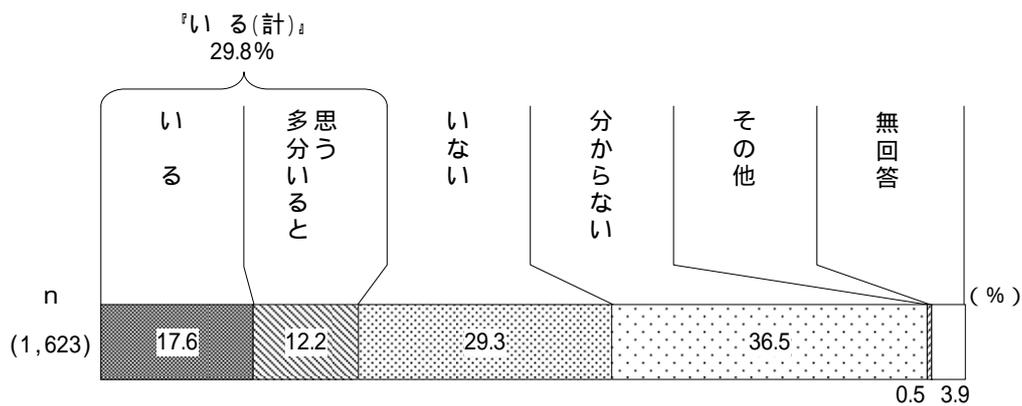


(4) 災害弱者・災害時要援護者の有無

3割の人が『いる』と思っている

問10 あなたの近隣に高齢者のみの世帯、一人暮らしの高齢者、障がい者など災害発生時に自力あるいは家族等の支援を受けても避難することが困難と思われる災害弱者・災害時要援護者といわれる方はいますか。( は1つだけ)

図3-6-1 災害弱者・災害時要援護者の有無

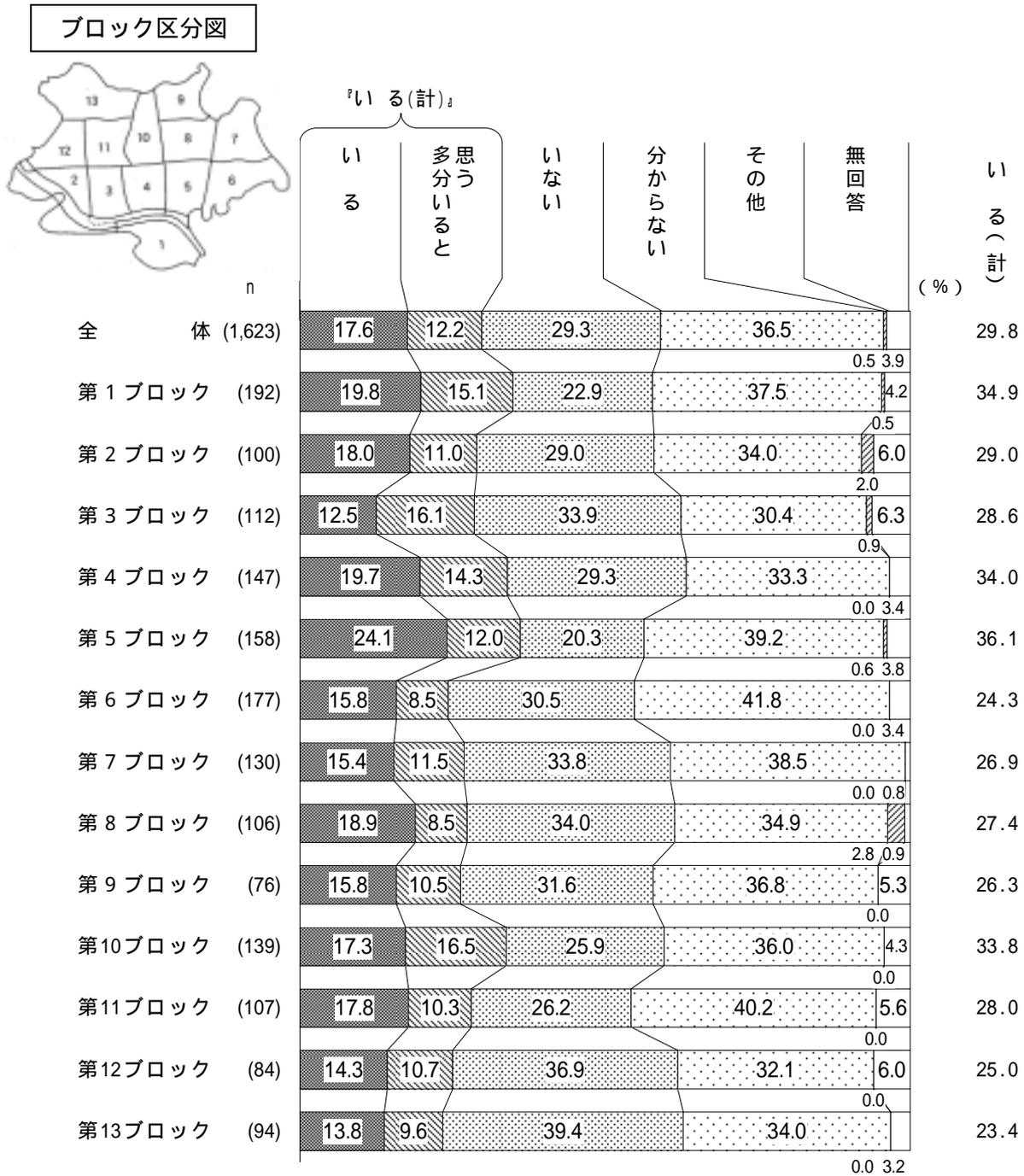


近隣に災害弱者・災害時要援護者がいるか聞いたところ、「いる」(17.6%)が2割近くで、これに「多分いると思う」(12.2%)を合わせた『いる(計)』(29.8%)が3割となっている。また、「いない」(29.3%)がほぼ3割、「分からない」(36.5%)が4割近くとなっている。

(図3-6-1)

地域ブロック別でみると、「いる」は第5ブロック（24.1%）で2割半ばと高くなっている。一方、「いない」は第13ブロック（39.4%）でほぼ4割と高くなっている。（図3 - 6 - 2）

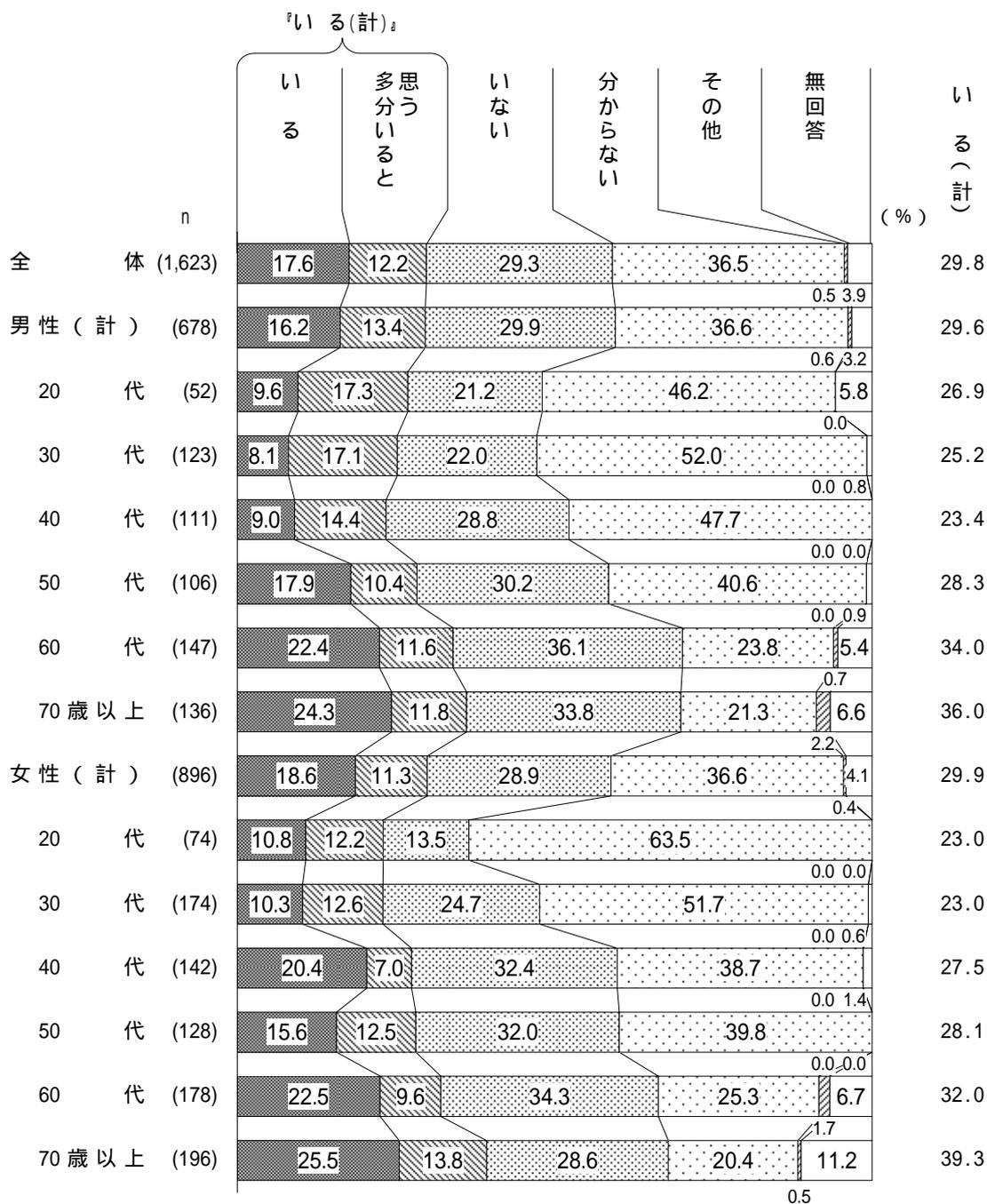
図3 - 6 - 2 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「いる」は男女とも70歳以上（男性24.3%・女性25.5%）で2割半ばと高く、『いる（計）』では女性70歳以上（39.3%）でほぼ4割と高くなっている。また、「分からない」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代（63.5%）で6割を超え高くなっている。（図3 - 6 - 3）

図3 - 6 - 3 災害弱者・災害時要援護者の有無 - 性別、性・年代別



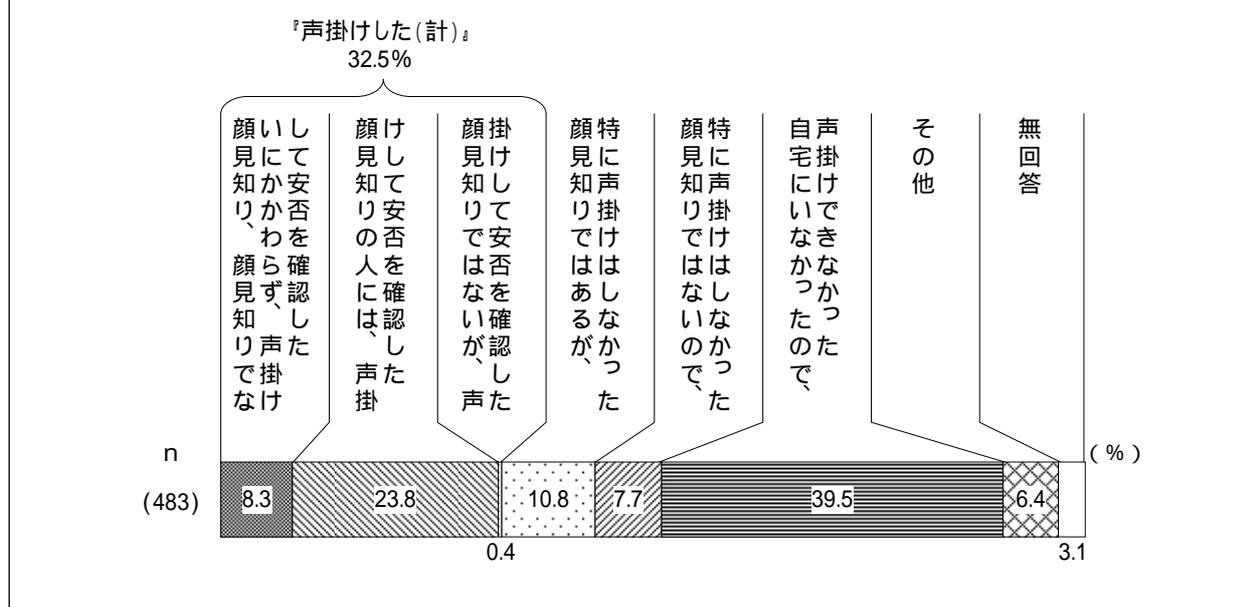
( 4 - 1 ) 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無

『声掛けした』人が3割を超えている。また、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」人が4割

( 問10で「いる」又は「多分いると思う」とお答えの方に )

問10 - 1 震災が発生した際に災害弱者・災害時要援護者といわれる方に声掛けをしましたか。( は1つだけ )

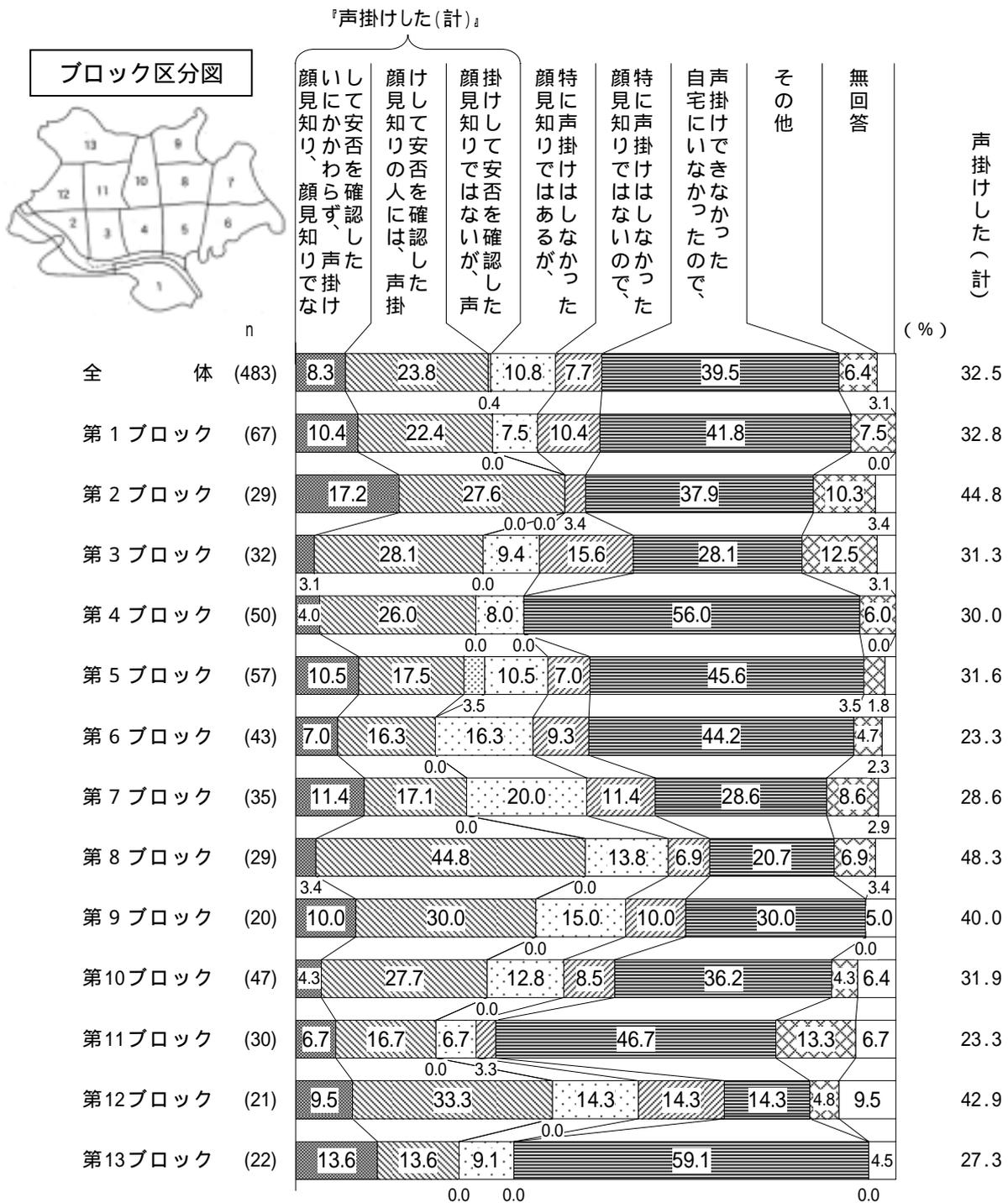
図3 - 7 - 1 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無



近隣に災害弱者・災害時要援護者が「いる」又は「多分いると思う」人(483人)に、震災が発生した際にその方々へ声掛けをしたか聞いたところ、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」(23.8%)が2割を超え、これに「顔見知り、顔見知りでないにもかかわらず、声掛けして安否を確認した」(8.3%)と「顔見知りではないが、声掛けして安否を確認した」(0.4%)を合わせた『声掛けした(計)』(32.5%)が3割を超えている。また、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」(39.5%)が4割となっている。(図3 - 7 - 1)

地域ブロック別でみると、「顔見知り、顔見知りでないにかかわらず、声掛けして安否を確認した」は第2ブロック(17.2%)で2割近く、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」は第8ブロック(44.8%)で4割半ばと高くなっている。また、『声掛けした(計)』は第8ブロック(48.3%)で5割近く、第2ブロック(44.8%)で4割半ばと高くなっている。一方、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」は第13ブロック(59.1%)でほぼ6割、第4ブロック(56.0%)で5割半ばと高くなっている。(図3-7-2)

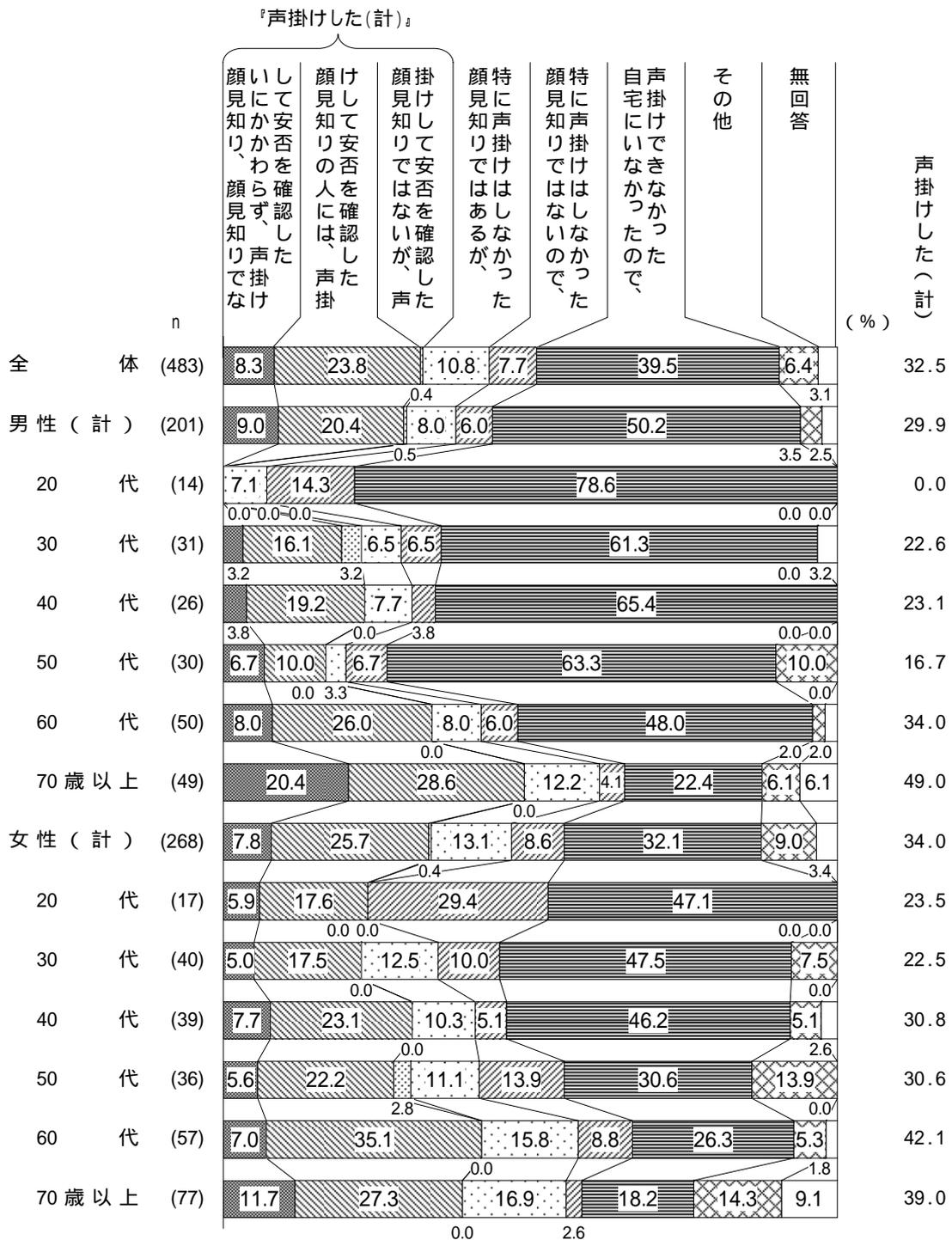
図3-7-2 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」(50.2%)が女性(32.1%)より18.1ポイント高くなっている。一方、女性で「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」(25.7%)が男性(20.4%)より5.3ポイント高く、「顔見知りではあるが、特に声掛けはしなかった」(13.1%)が男性(8.0%)より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「顔見知り、顔見知りでないにかかわらず、声掛けして安否を確認した」は男性70歳以上(20.4%)で2割、「顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した」は女性60代(35.1%)で3割半ばと高くなっている。また、「顔見知りではないので、特に声掛けはしなかった」は女性20代(29.4%)でほぼ3割、「自宅にいなかったので、声掛けできなかった」は男性の20代から50代の年代で6割以上を占めている。(図3-7-3)

図3-7-3 災害弱者・災害時要援護者への声掛けの有無 - 性別、性・年代別

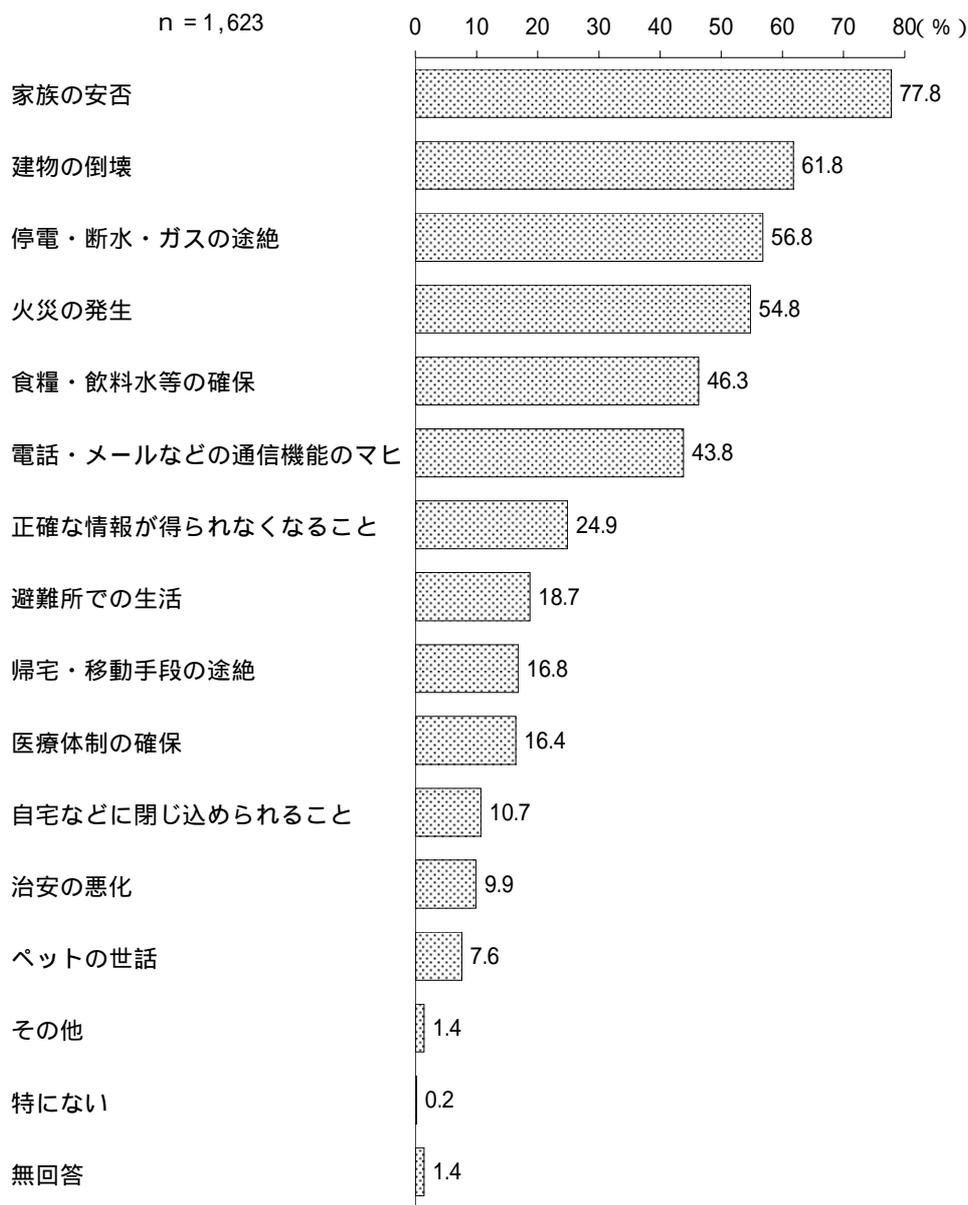


(5) 大地震が起きたとき不安に思うこと  
 「家族の安否」が8割近くで最も高い

問11 身近に大地震が起きたとした場合に、あなたが特に不安に思うことは何ですか。

( は最大5つまで)

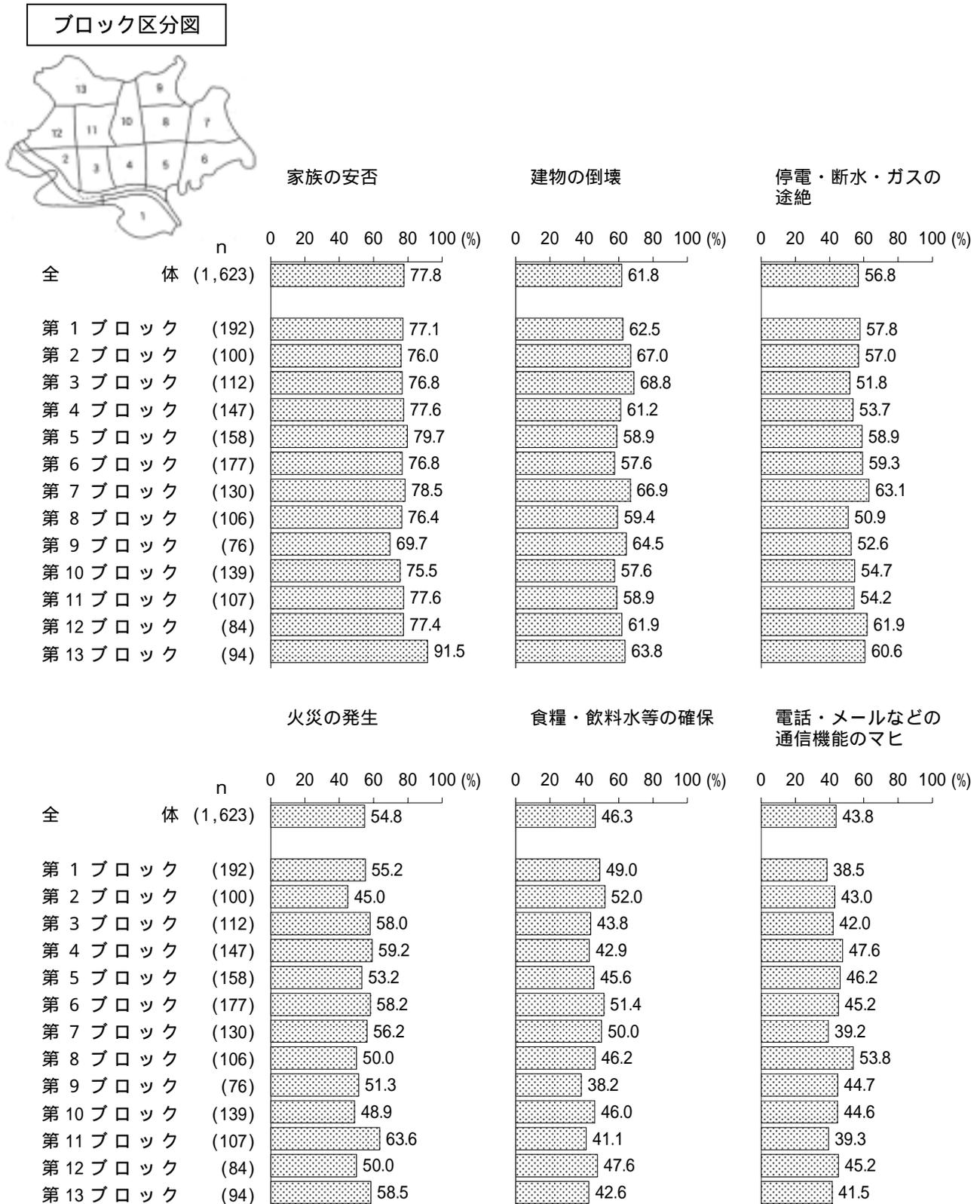
図3 - 8 - 1 大地震が起きたとき不安に思うこと



身近に大地震が起きたとした場合に、特に不安に思うことを聞いたところ、「家族の安否」(77.8%)が8割近くで最も高く、次いで「建物の倒壊」(61.8%)、「停電・断水・ガスの途絶」(56.8%)、「火災の発生」(54.8%)、「食糧・飲料水等の確保」(46.3%)の順となっている。(図3 - 8 - 1)

地域ブロック別でみると、「家族の安否」は第13ブロック(91.5%)で9割を超え高く、「火災の発生」は第11ブロック(63.6%)で6割を超え高くなっている。また、「電話・メールなどの通信機能のマヒ」は第8ブロック(53.8%)で5割を超え高くなっている。(図3-8-2)

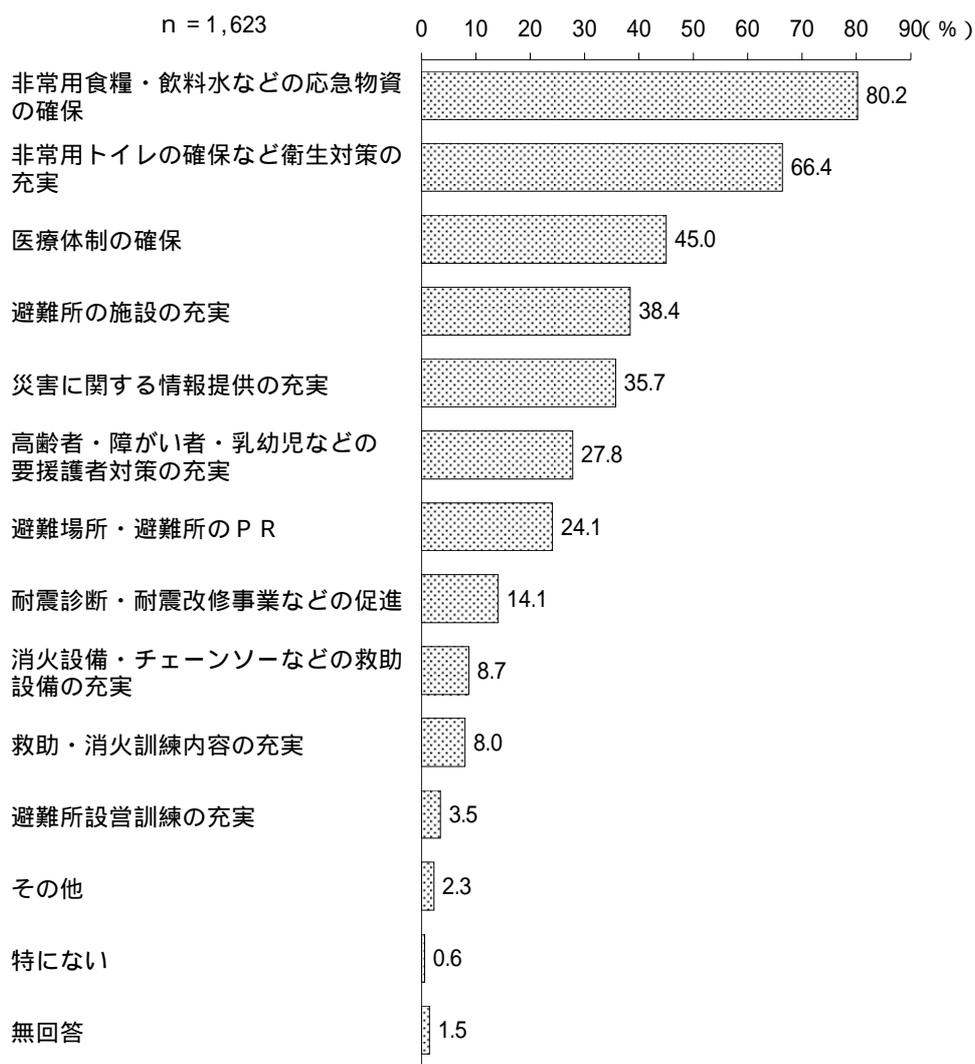
図3-8-2 大地震が起きたとき不安に思うこと - 地域ブロック別(上位6位)



( 6 ) 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと  
 「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」が8割で最も高い

問12 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。( は最大4つまで)

図3 - 9 - 1 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと



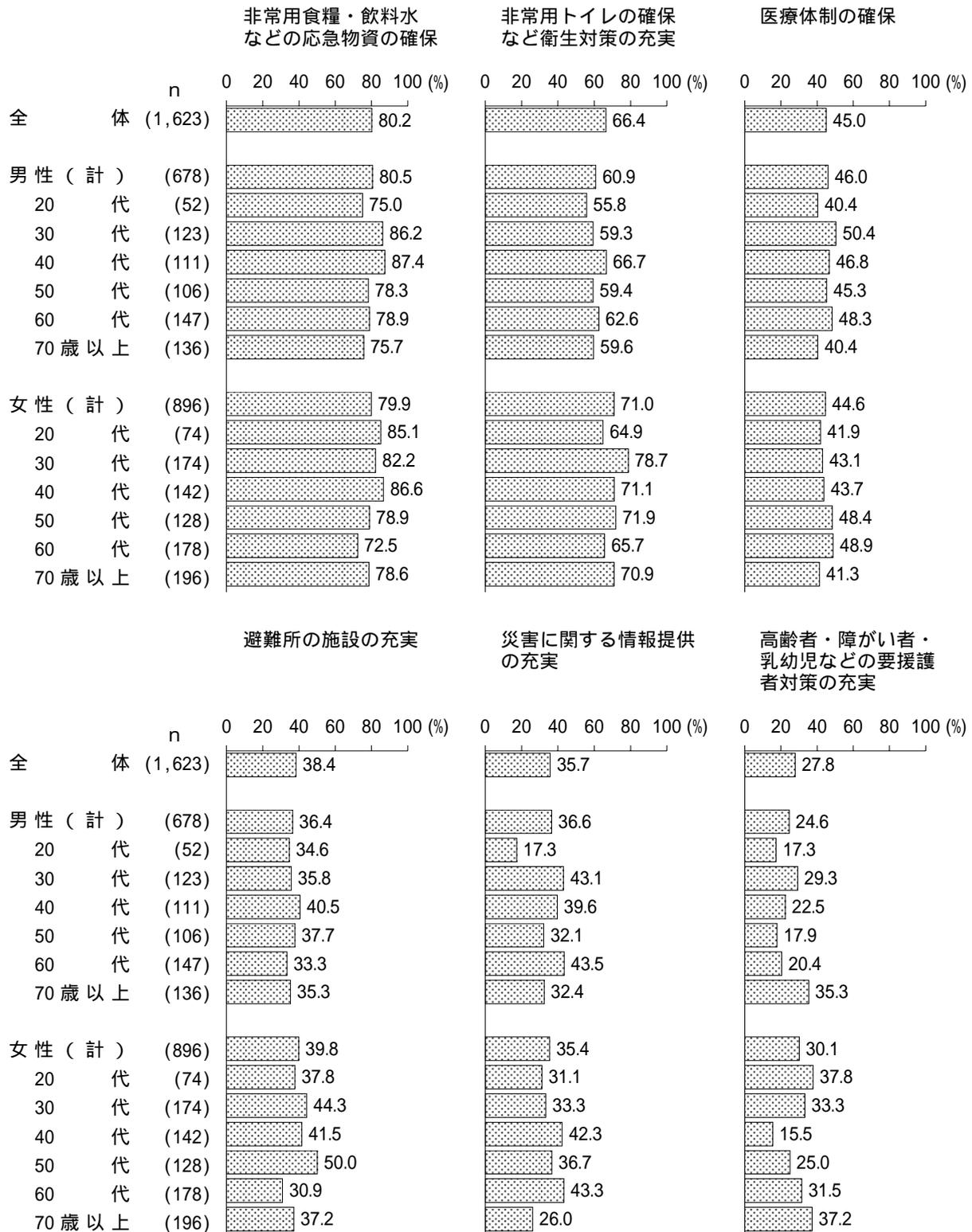
大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいと考えていることを聞いたところ、「非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保」(80.2%)が8割で最も高く、次いで「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(66.4%)、「医療体制の確保」(45.0%)、「避難所の施設の充実」(38.4%)、「災害に関する情報提供の充実」(35.7%)の順となっている。

( 図3 - 9 - 1 )

性別で見ると、女性で「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（71.0%）が男性（60.9%）より 10.1 ポイント高く、「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」（30.1%）で男性（24.6%）より 5.5 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は女性30代（78.7%）で8割近く、「避難所の施設の充実」は女性50代（50.0%）で5割と高くなっている。（図3-9-2）

図3-9-2 大地震の際の防災対策として区に特に力を入れてほしいこと  
- 性別、性・年代別（上位6位）



## 4 耐震診断、耐震改修

- 
- ( 1 ) お住まいの建物の建築時期
  - ( 2 ) お住まいの建物の耐震診断の実施状況
    - ( 2 - 1 ) 耐震診断をしていない理由
  - ( 3 ) お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況
    - ( 3 - 1 ) 耐震改修工事をしていない理由
    - ( 3 - 2 ) 耐震診断や耐震改修工事について相談の有無
  - ( 4 ) 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度
  - ( 5 ) 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向
  - ( 6 ) 転倒防止対策をしているか
  - ( 7 ) 家具転倒防止器具取付工事などの助成制度の認知度
-



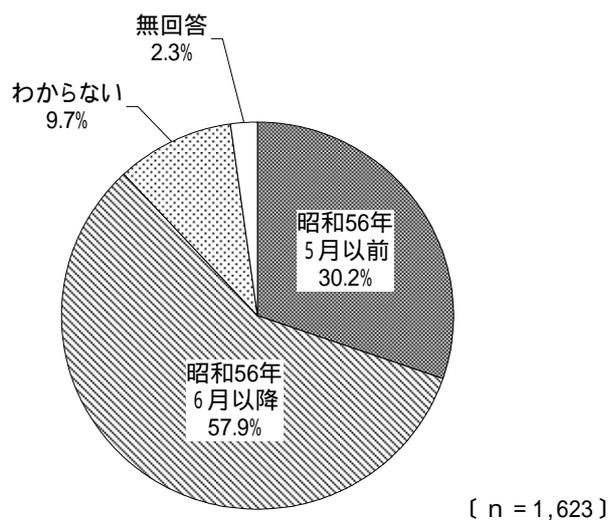
## 4 耐震診断、耐震改修

### (1) お住まいの建物の建築時期

「昭和56年6月以降」が6割近く、「昭和56年5月以前」が3割

問13 あなたがお住まいの建物は、いつ建てられたものですか。( は1つだけ)

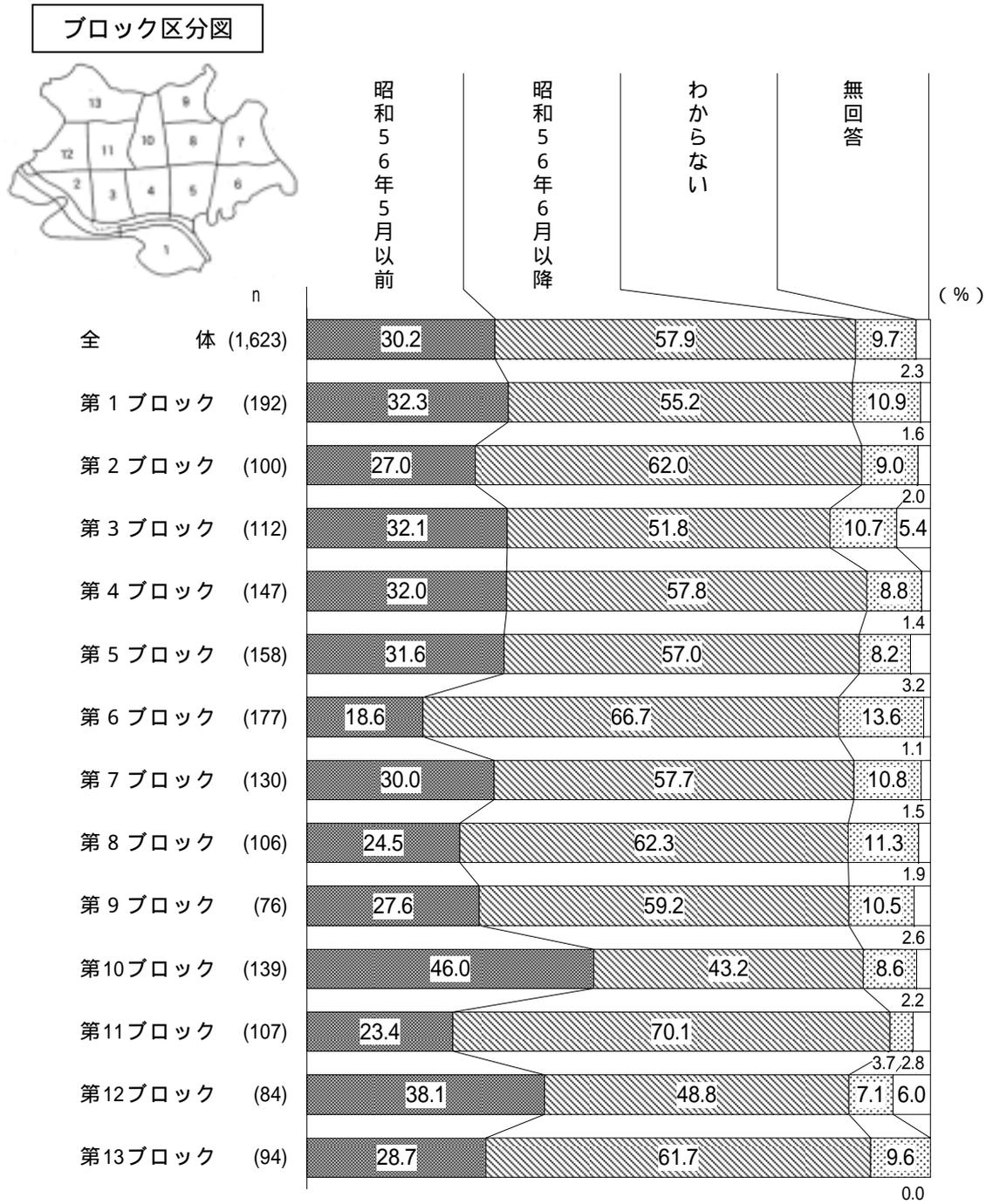
図4 - 1 - 1 お住まいの建物の建築時期



住まいの建物の建築時期を聞いたところ、「昭和56年6月以降」(57.9%)が6割近く、「昭和56年5月以前」(30.2%)が3割となっている。(図4 - 1 - 1)

地域ブロック別でみると、「昭和 56 年 5 月以前」は第 10 ブロック (46.0%) で 4 割半ば、第 12 ブロック (38.1%) で 4 割近くと高くなっている。一方、「昭和 56 年 6 月以降」は第 11 ブロック (70.1%) で 7 割、第 6 ブロック (66.7%) で 7 割近くと高くなっている。(図 4 - 1 - 2)

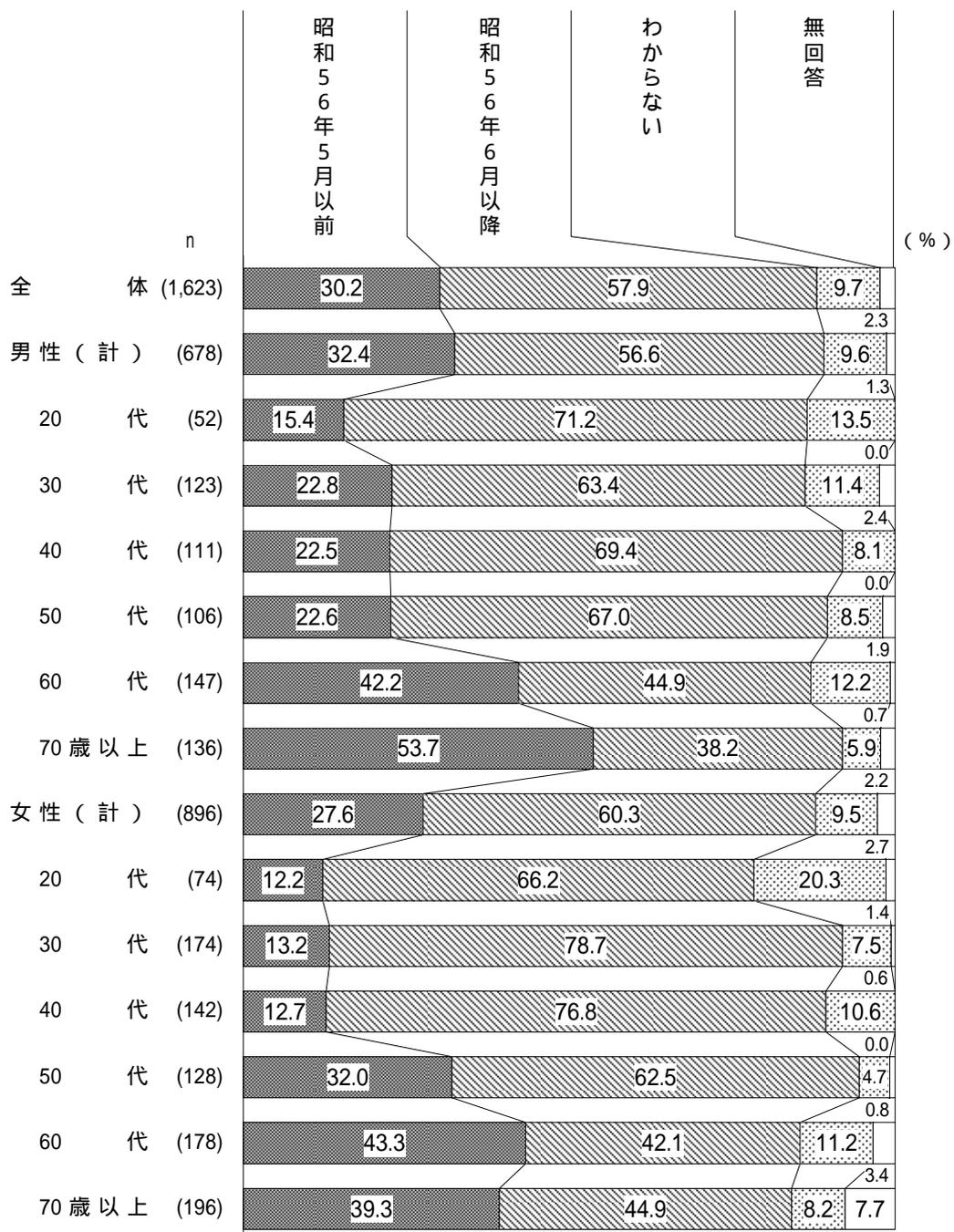
図 4 - 1 - 2 お住まいの建物の建築時期 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「昭和 56 年 5 月以前」（32.4%）が女性（27.6%）より 4.8 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「昭和56年 5 月以前」は男性70歳以上（53.7%）で 5 割を超え、男女とも60代（男性42.2%・女性43.3%）で 4 割を超え高くなっている。一方、「昭和56年 6 月以降」は女性の30代と40代（30代78.7%・ 40代76.8%）で 8 割近くと高くなっている。（図 4 - 1 - 3）

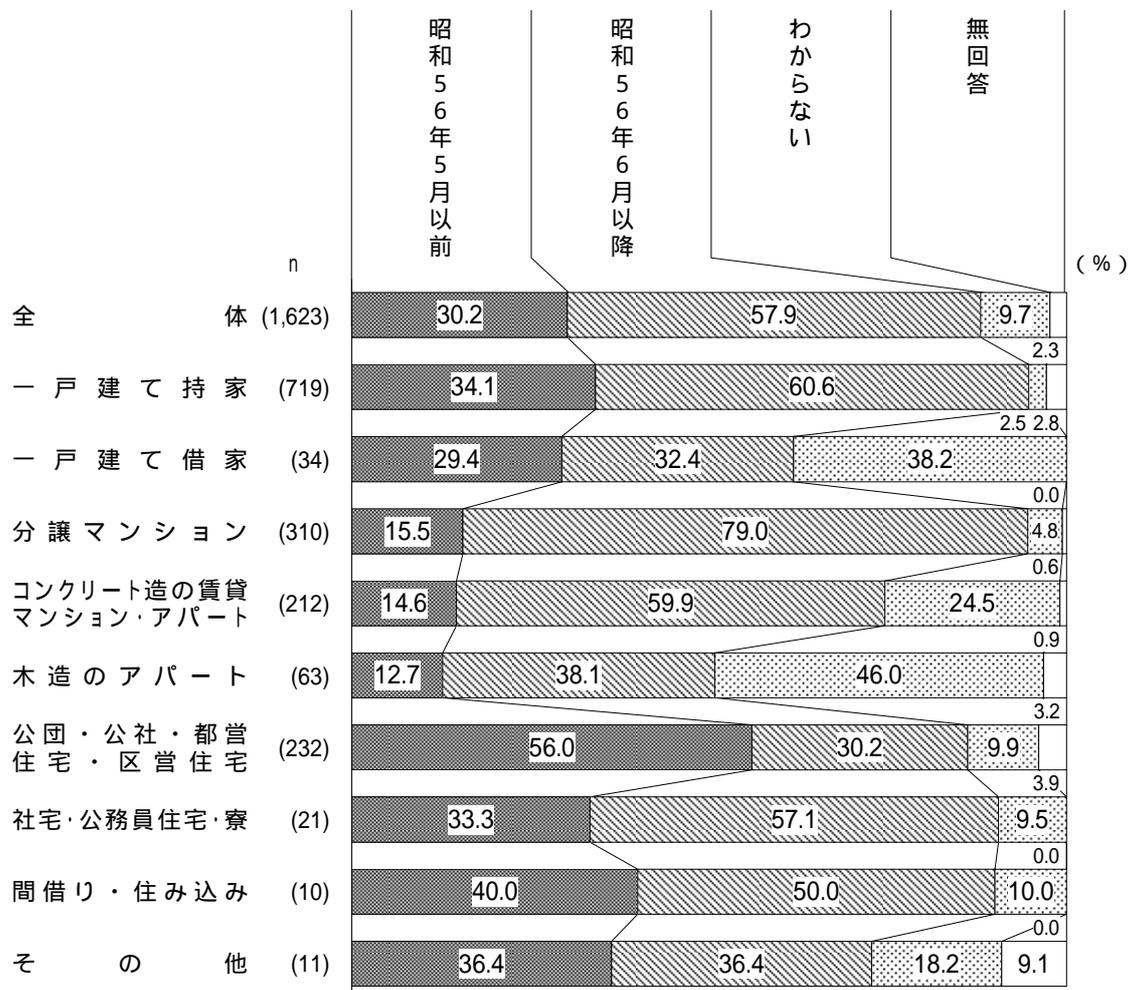
図 4 - 1 - 3 お住まいの建物の建築時期 - 性別、性・年代別



住居形態別でみると、「昭和56年5月以前」は公団・公社・都営住宅・区営住宅（56.0%）で5割半ば、一戸建て持家（34.1%）で3割半ばと高くなっている。一方、「昭和56年6月以降」は分譲マンション（79.0%）でほぼ8割と高くなっている。また、「わからない」は木造のアパート（46.0%）で4割半ば、一戸建て借家（38.2%）で4割近くと高くなっている。

( 図 4 - 1 - 4 )

図 4 - 1 - 4 お住まいの建物の建築時期 - 住居形態別

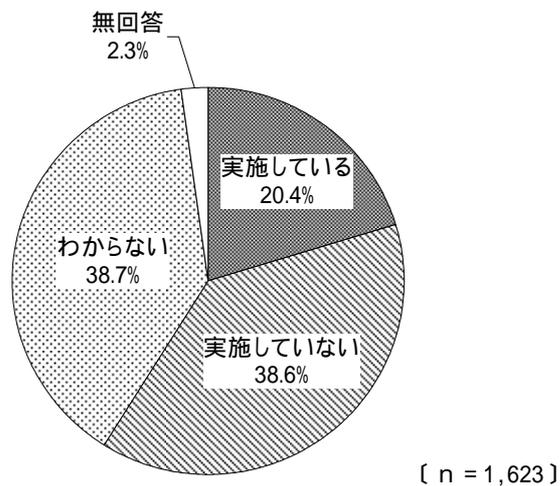


( 2 ) お住まいの建物の耐震診断の実施状況

「実施している」人は2割程度

問14 あなたのお住まいの建物に関して、耐震診断はしていますか。( は1つだけ)

図4 - 2 - 1 お住まいの建物の耐震診断の実施状況

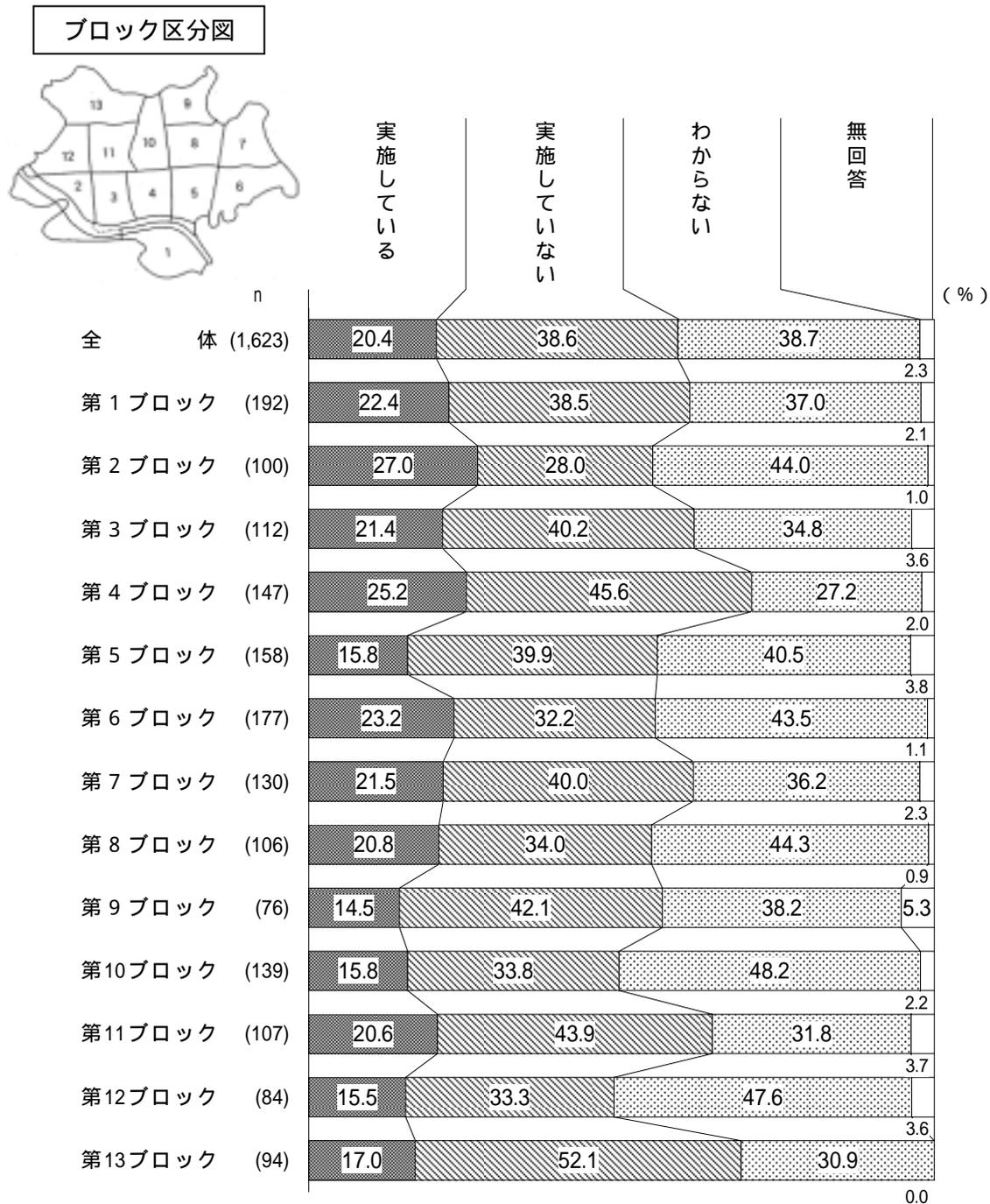


住まいの建物の耐震診断をしているか聞いたところ、「実施している」(20.4%)が2割、「実施していない」(38.6%)が4割近くとなっている。また、「わからない」(38.7%)が4割近くとなっている。(図4 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、「実施している」は全てのブロックで2割前後となっている。一方、「実施していない」は第13ブロック（52.1%）で5割を超え高くなっている。また、「わからない」は第10ブロック（48.2%）と第12ブロック（47.6%）で5割近くと高くなっている。

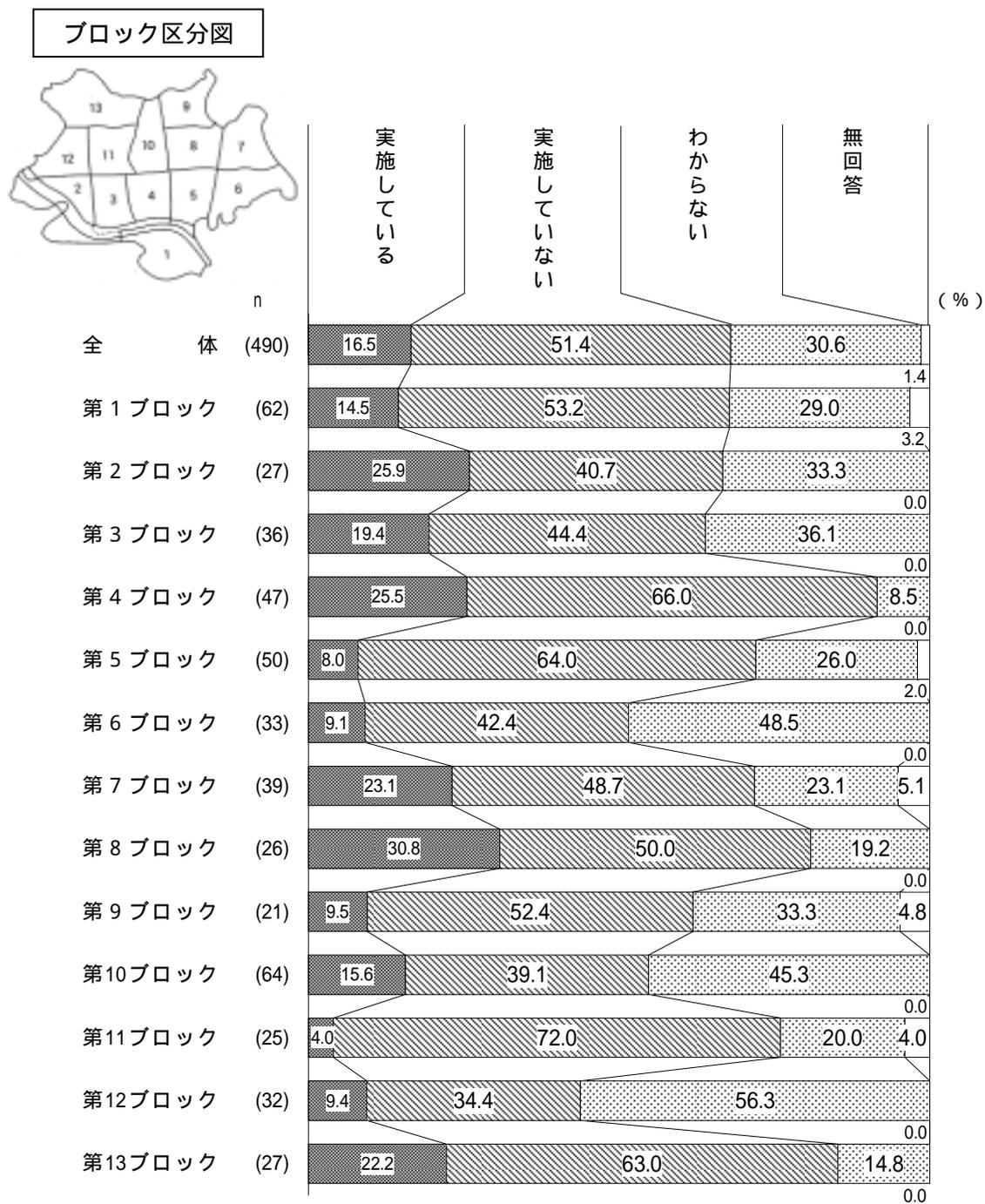
（図4-2-2）

図4-2-2 お住まいの建物の耐震診断の実施状況 - 地域ブロック別



昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者の人(490人)を地域ブロック別でみると、「実施している」は第8ブロック(30.8%)でほぼ3割と高くなっている。一方、「実施していない」は第11ブロック(72.0%)で7割を超え、第4ブロック(66.0%)、第5ブロック(64.0%)、第13ブロック(63.0%)で6割台と高くなっている。また、「わからない」は第12ブロック(56.3%)で5割半ばと高くなっている。(図4-2-3)

図4-2-3 お住まいの建物の耐震診断の実施状況 - 地域ブロック別  
(昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者)



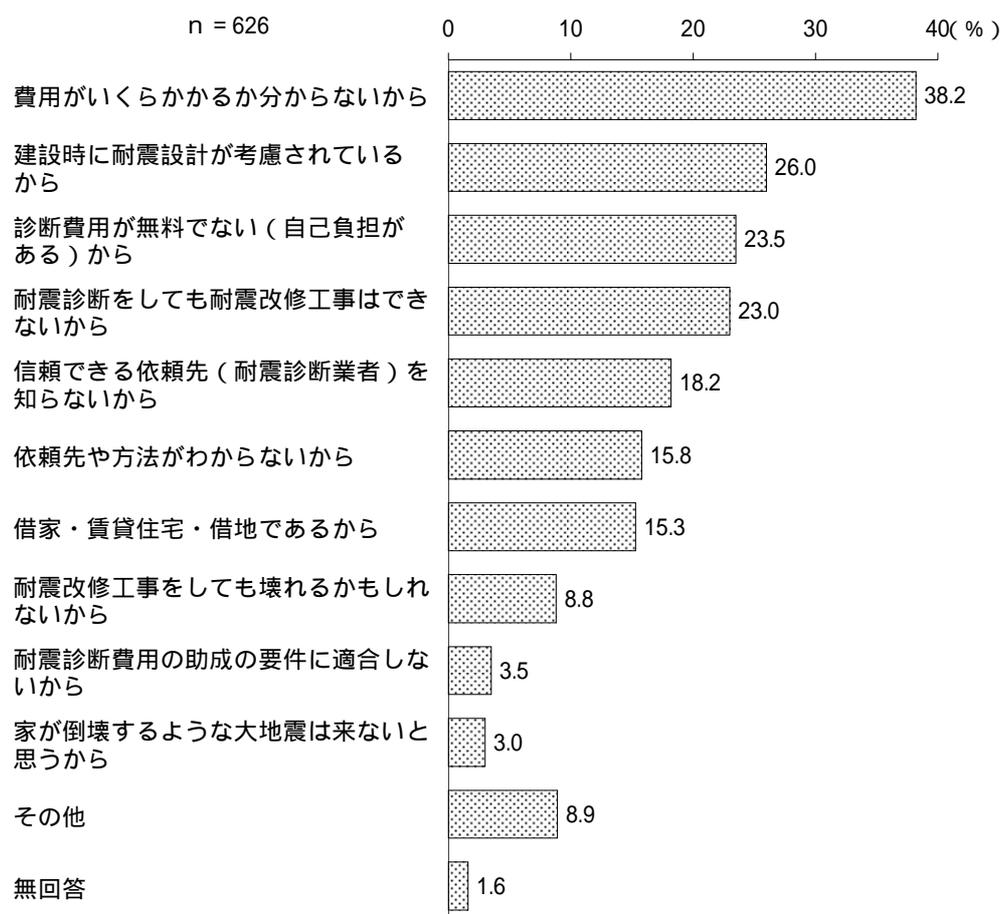
## ( 2 - 1 ) 耐震診断をしていない理由

「費用がいくらかかるか分からないから」が4割近くで最も高い

( 問14で「実施していない」とお答えの方に )

問14 - 1 耐震診断をしていない理由は何ですか。( は最大3つまで )

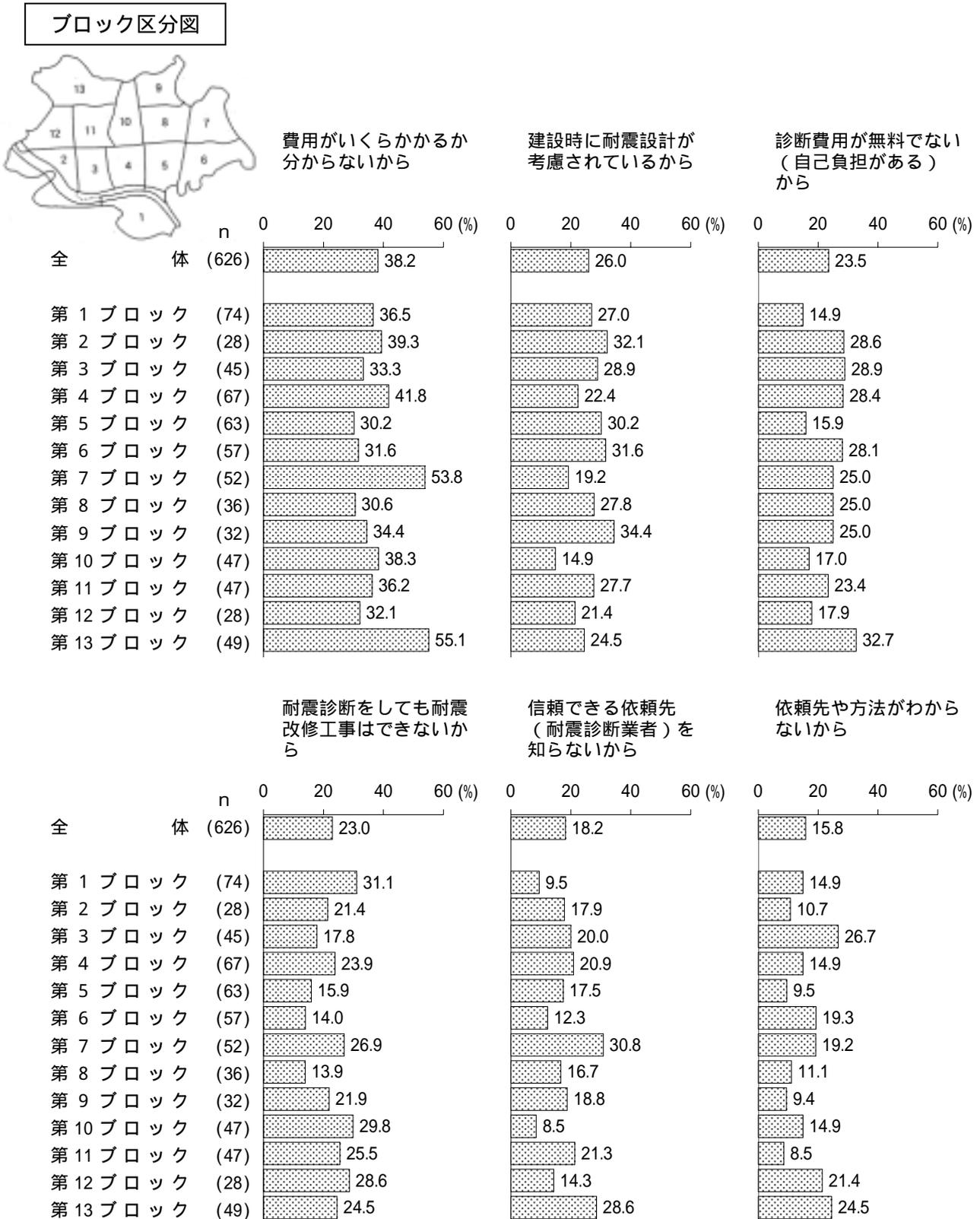
図 4 - 3 - 1 耐震診断をしていない理由



住まいの建物の耐震診断を「実施していない」人(626人)に、理由を聞いたところ、「費用がいくらかかるか分からないから」(38.2%)が4割近くで最も高く、次いで「建設時に耐震設計が考慮されているから」(26.0%)、「診断費用が無料でない(自己負担がある)から」(23.5%)、「耐震診断をしても耐震改修工事はできないから」(23.0%)、「信頼できる依頼先(耐震診断業者)を知らないから」(18.2%)の順となっている。(図4-3-1)

地域ブロック別でみると、「費用がいくらかかるかわからないから」は第13ブロック(55.1%)で5割半ば、第7ブロック(53.8%)で5割を超え高くなっている。また、「信頼できる依頼先(耐震診断業者)を知らないから」は第7ブロック(30.8%)でほぼ3割、「依頼先や方法がわからないから」は第3ブロック(26.7%)で3割近くと高くなっている。(図4-3-2)

図4-3-2 耐震診断をしていない理由 - 地域ブロック別(上位6位)

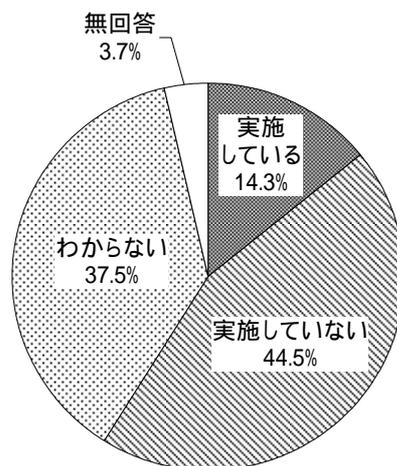


(3) お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況

「実施している」人は1割半ばにとどまる

問15 あなたのお住まいの建物に関して、耐震改修工事はしていますか。( は1つだけ)

図4-4-1 お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況

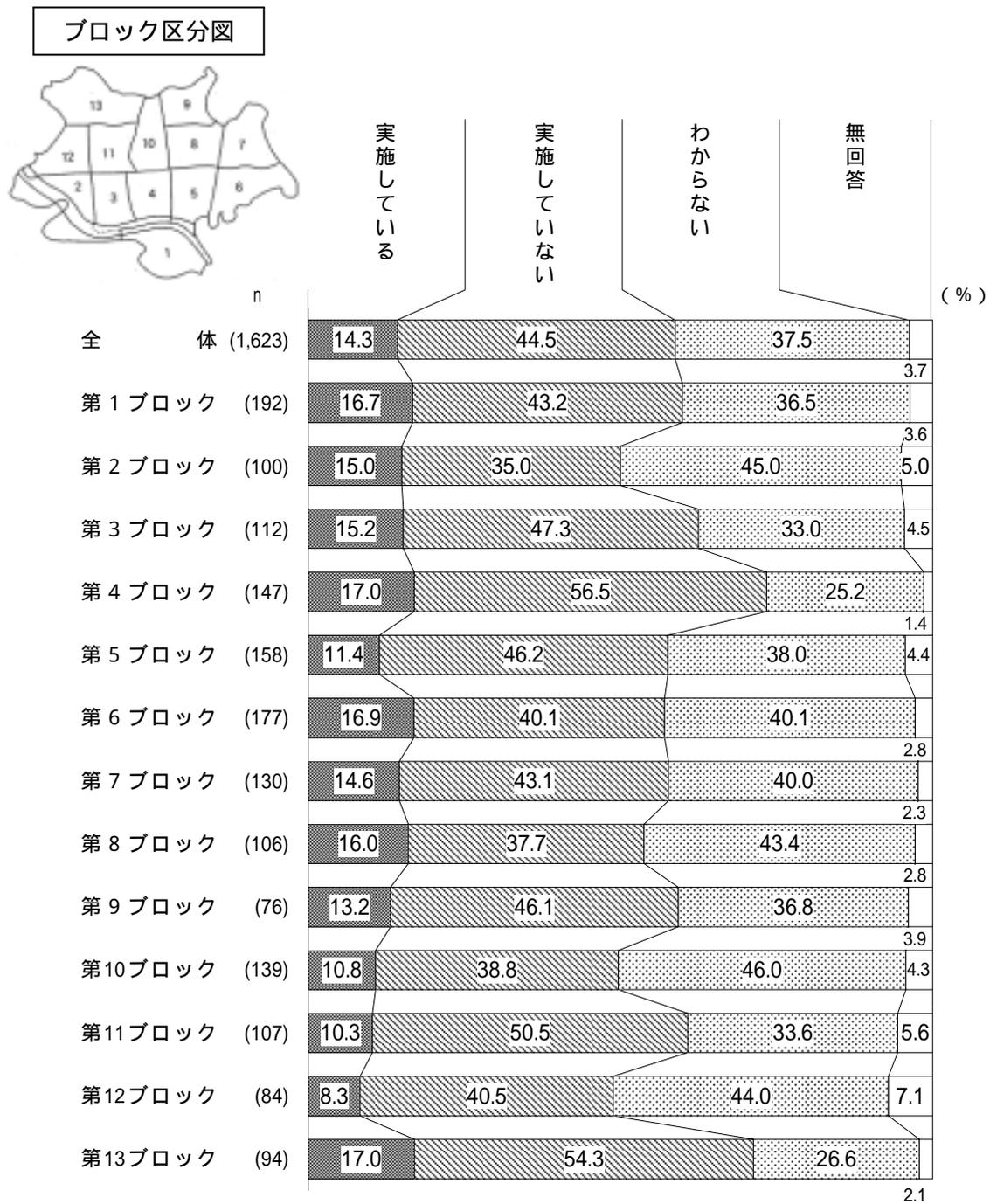


{ n = 1,623 }

住まいの建物の耐震改修工事をしているか聞いたところ、「実施している」(14.3%)が1割半ば、「実施していない」(44.5%)が4割半ばとなっている。また、「わからない」(37.5%)が4割近くとなっている。(図4-4-1)

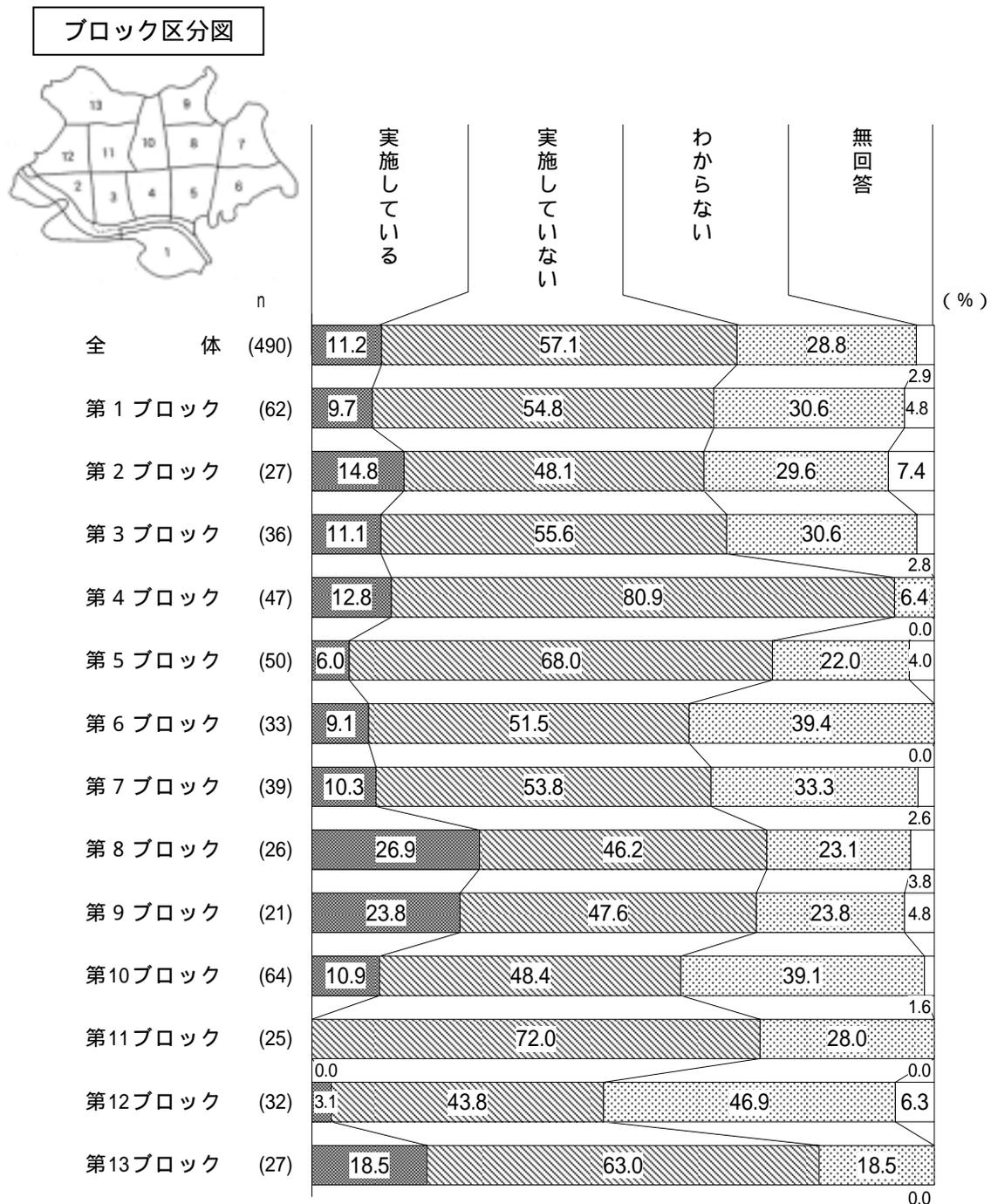
地域ブロック別でみると、「実施している」は全てのブロックで2割未満となっている。一方、「実施していない」は第4ブロック（56.5%）で6割近く、第13ブロック（54.3%）で5割半ばと高くなっている。（図4-4-2）

図4-4-2 お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況 - 地域ブロック別



昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者の人(490人)を地域ブロック別で見ると、「実施している」は第8ブロック(26.9%)、第9ブロック(23.8%)で2割台と高くなっている。一方、「実施していない」は第4ブロック(80.9%)でほぼ8割、第11ブロック(72.0%)で7割を超え高くなっている。また、「わからない」は第12ブロック(46.9%)で5割近くと高くなっている。(図4-4-3)

図4-4-3 お住まいの建物の耐震改修工事の実施状況 - 性別、性・年代別  
(昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者)



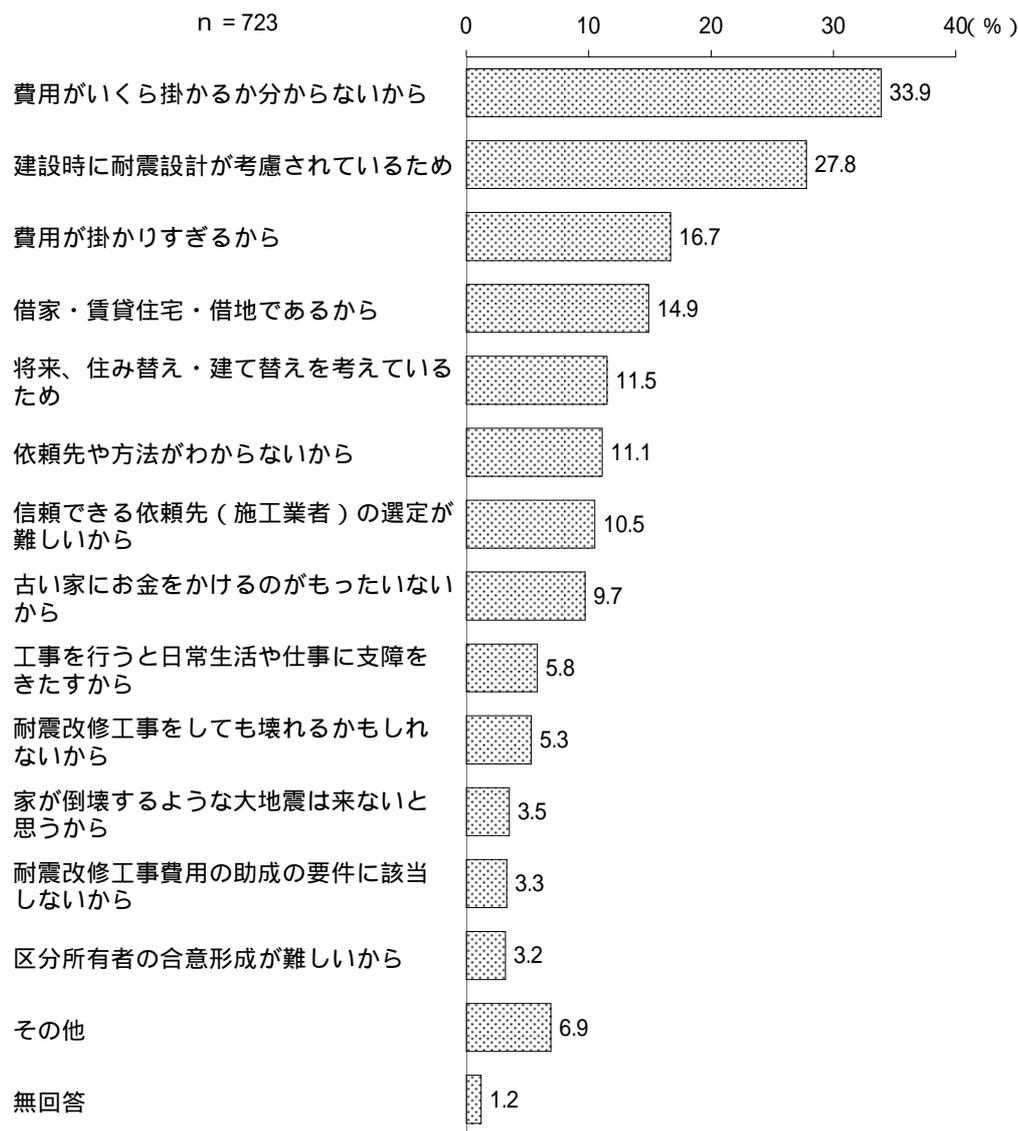
( 3 - 1 ) 耐震改修工事をしていない理由

「費用がいくら掛かるか分からないから」が3割を超え最も高い

( 問15で「実施していない」とお答えの方に )

問15 - 1 耐震改修工事をしていない理由は何ですか。( は最大3つまで )

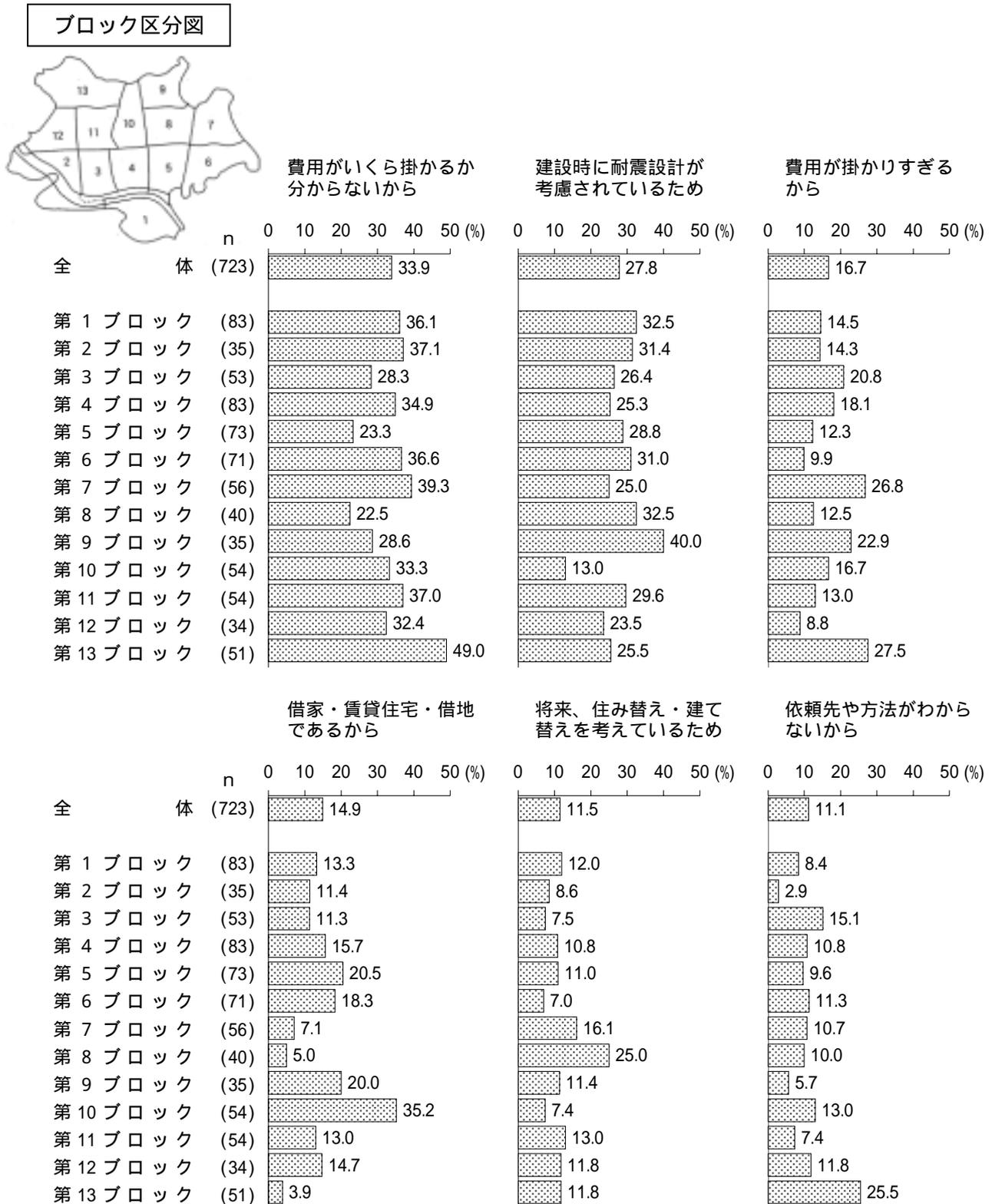
図 4 - 5 - 1 耐震改修工事をしていない理由



耐震改修工事を「実施していない」人(723人)に、理由を聞いたところ、「費用がいくら掛かるか分からないから」(33.9%)が3割を超え最も高く、次いで「建設時に耐震設計が考慮されているため」(27.8%)、「費用が掛かりすぎるから」(16.7%)、「借家・賃貸住宅・借地であるから」(14.9%)、「将来、住み替え・建て替えを考えているため」(11.5%)の順となっている。(図4-5-1)

地域ブロック別でみると、「費用がいくら掛かるか分からないから」は第13ブロック(49.0%)でほぼ5割と高く、「借家・賃貸住宅・借地であるから」は第10ブロック(35.2%)で3割半ばと高くなっている。また、「将来、住み替え・建て替えを考えているため」は第8ブロック(25.0%)で2割半ば、「依頼先や方法がわからないから」は第13ブロック(25.5%)で2割半ばと高くなっている。(図4-5-2)

図4-5-2 耐震改修工事をしていない理由 - 地域ブロック別(上位6位)



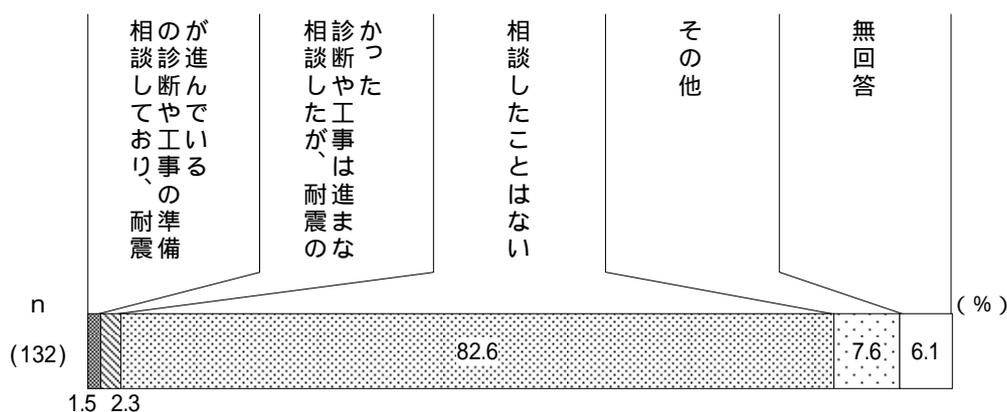
( 3 - 2 ) 耐震診断や耐震改修工事について相談の有無

「相談したことはない」が8割を超えている

(問14 - 1で「借家・賃貸住宅・借地であるから」又は、問15 - 1で「借家・賃貸住宅・借地であるから」とお答えの方に)

問15 - 2 大家さんや地主さんに耐震診断や耐震改修工事について相談したことがありますか。( は1つだけ)

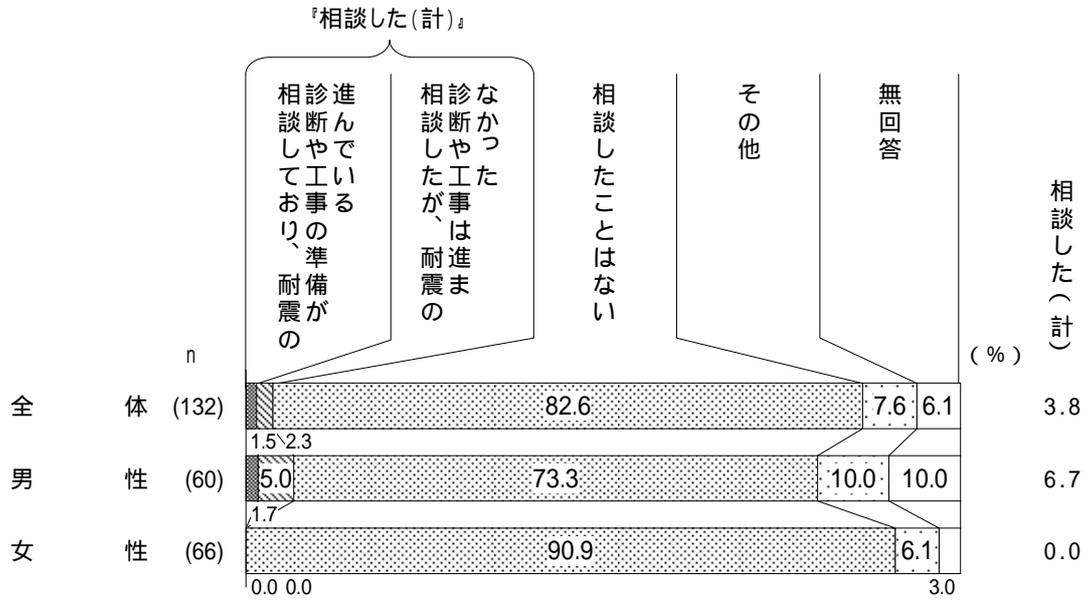
図4 - 6 - 1 耐震診断や耐震改修工事について相談の有無



耐震診断および耐震改修工事をしていない理由が、「借家・賃貸住宅・借地であるから」の人(132人)に、大家さんや地主さんに耐震診断や耐震改修工事について相談したことがあるか聞いたところ、「相談したことはない」(82.6%)が8割を超えている。また、「相談しており、耐震の診断や工事の準備が進んでいる」(1.5%)と「相談したが、耐震の診断や工事は進まなかった」(2.3%)はともに1割未満となっている。(図4 - 6 - 1)

性別で見ると、女性で「相談したことはない」(90.9%)が男性(73.3%)より17.6ポイント高くなっている。(図4-6-2)

図4-6-2 耐震診断や耐震改修工事について相談の有無 - 性別

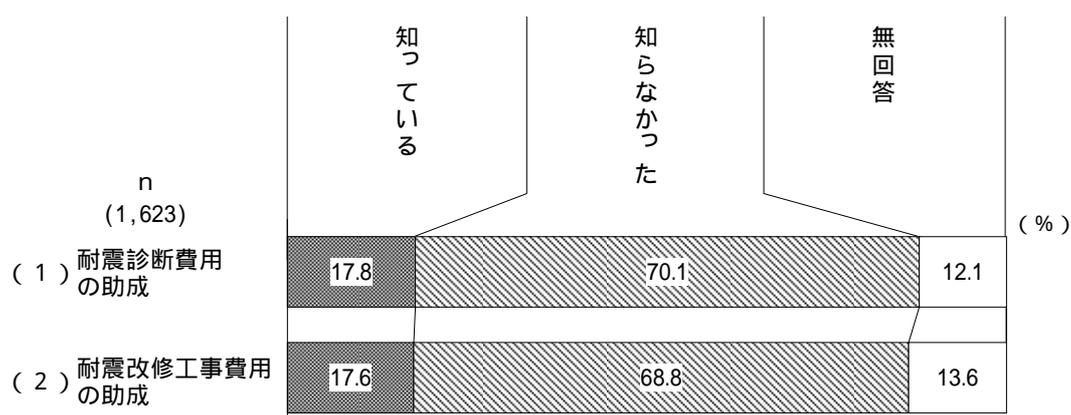


(4) 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度

【耐震診断費用の助成】と【耐震改修工事費用の助成】の認知度は2割近くにとどまる

問16 足立区では災害に強いまちづくりを進めるため、昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者に対して、その住宅の耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度を設けています。あなたはこの制度をご存知ですか。( は各項目とも1つだけ)

図4-7-1 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度



【足立区の住宅耐震診断、耐震改修工事助成制度について】

耐震診断費用の助成について

助成対象建築物 昭和56年5月以前の	助成率	助成額
木造戸建住宅	-	上限10万円
非木造戸建住宅	-	上限30万円
木造共同住宅	診断費用の2分の1	上限500万円(ただし戸数×10万円以下)
非木造共同住宅	診断費用の2分の1	上限500万円(ただし戸数×10万円以下)

耐震改修工事費用の助成について

助成対象建築物 昭和56年5月以前の	助成率	助成額
木造戸建住宅	改修工事費の2分の1	上限80万円(特例100万円)
非木造戸建住宅	改修工事費の2分の1	上限100万円(特例120万円)
木造共同住宅	改修工事費の3分の1	上限3000万円
非木造共同住宅	改修工事費の3分の1	上限3000万円

耐震診断費用の助成、耐震改修工事費用の助成のいずれもその他に条件があります。

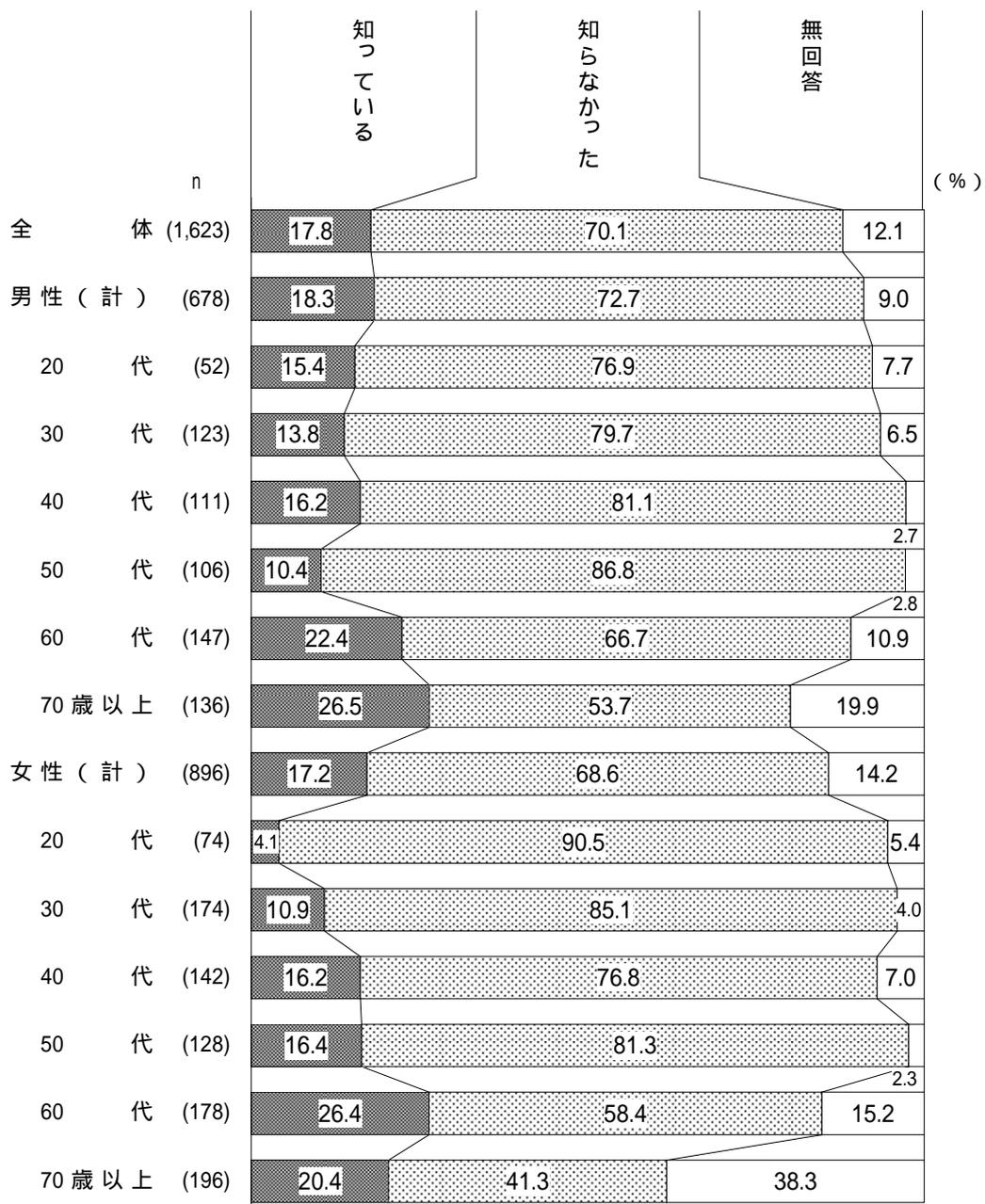
耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度を知っているか聞いたところ、「知っている」は【耐震診断費用の助成】(17.8%)と【耐震改修工事費用の助成】(17.6%)がともに2割近くとなっている。(図4-7-1)

性別で見ると、男性で「知らなかった」(72.7%)が女性(68.6%)より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は男性70歳以上(26.5%)で3割近く、女性60代(26.4%)で2割半ばと高くなっている。一方、「知らなかった」は女性20代(90.5%)でほぼ9割、男性50代(86.8%)で9割近く、女性30代(85.1%)で8割半ばと高くなっている。(図4-7-2)

図4-7-2 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度 - 性別、性・年代別(1)

(1) 耐震診断費用の助成



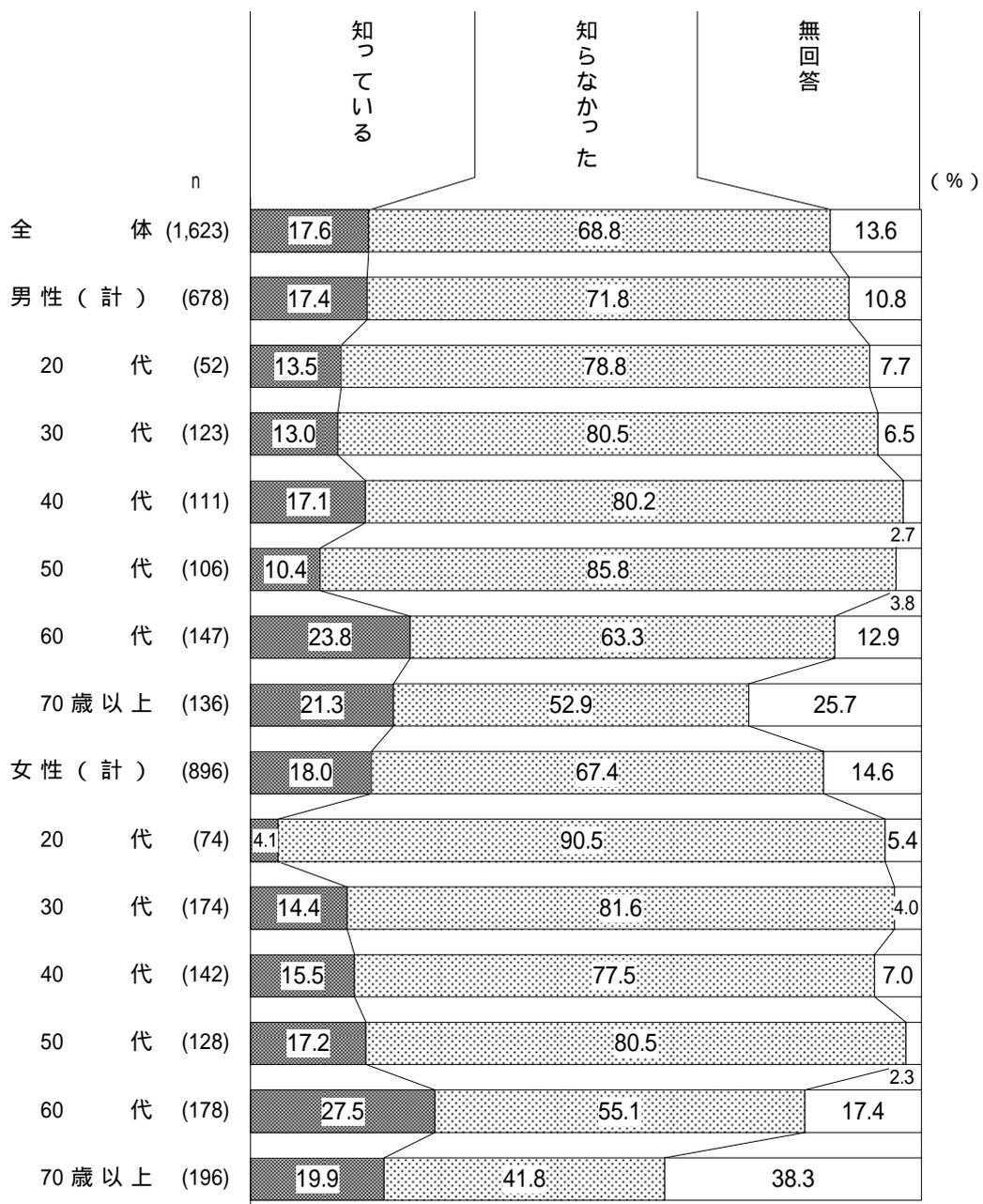
性別で見ると、男性で「知らなかった」(71.8%)が女性(67.4%)より4.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「知っている」は女性60代(27.5%)で3割近くと高くなっている。

一方、「知らなかった」は女性20代(90.5%)ではほぼ9割、男性50代(85.8%)で8割半ばと高くなっている。(図4-7-3)

図4-7-3 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の認知度 - 性別、性・年代別(2)

(2) 耐震改修工事費用の助成



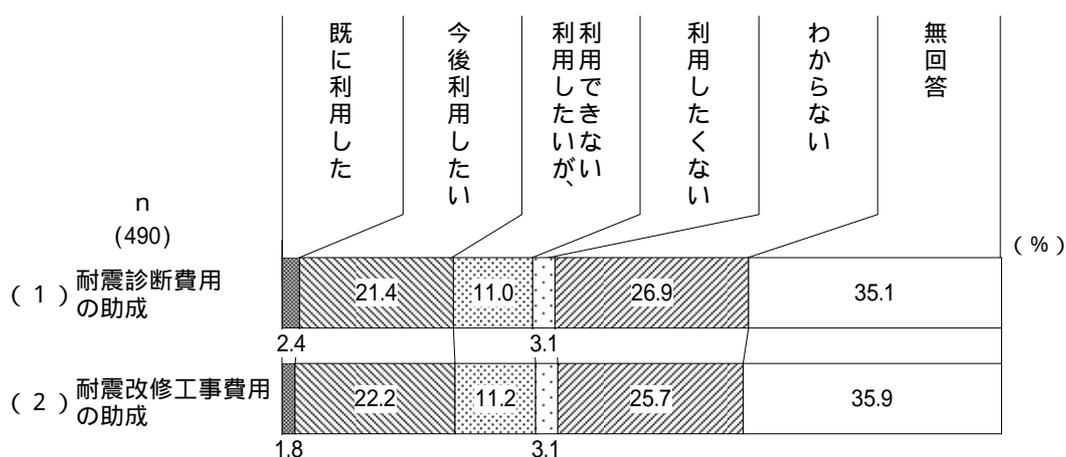
(5) 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向

「今後利用したい」人は、【耐震診断費用の助成】と【耐震改修工事費用の助成】がともに2割を超えている

(昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者の方にお伺いします)

問17 足立区の耐震診断費用、耐震改修工事費用に関する助成制度を利用したいと思いませんか。( は各項目とも1つだけ)

図4-8-1 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向

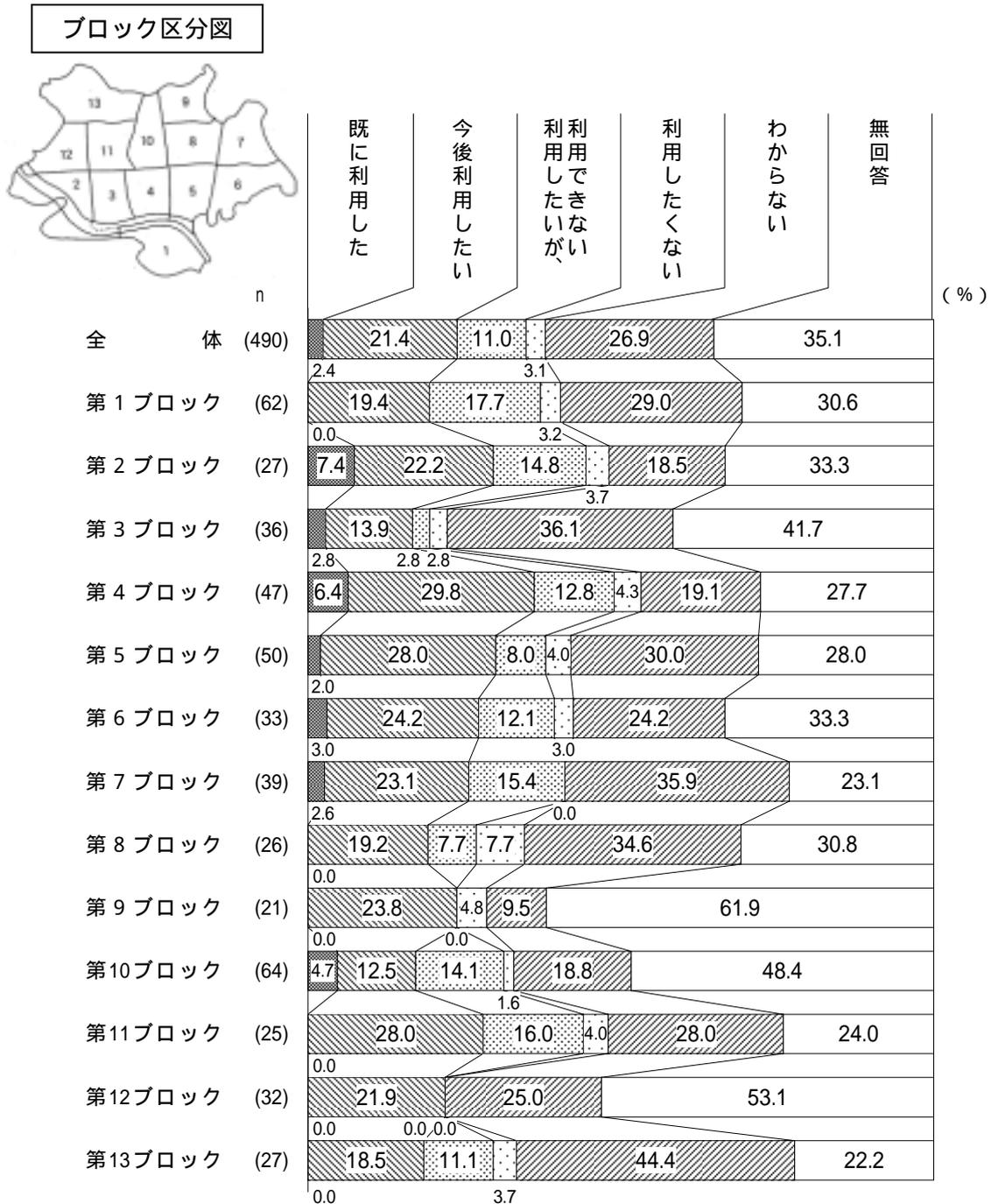


昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者の人(490人)に、足立区の耐震診断費用、耐震改修工事費用に関する助成制度を利用したいと思うか聞いたところ、「今後利用したい」は【耐震診断費用の助成】(21.4%)と【耐震改修工事費用の助成】(22.2%)がともに2割を超えている。また、「わからない」が【耐震診断費用の助成】(26.9%)で3割近く、【耐震改修工事費用の助成】(25.7%)で2割半ばとなっている。(図4-8-1)

地域ブロック別でみると、「今後利用したい」は第4ブロック（29.8%）で3割、第5ブロックと第11ブロック（ともに28.0%）で3割近くと高くなっている。（図4-8-2）

図4-8-2 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向 - 地域ブロック別（1）

（1）耐震診断費用の助成

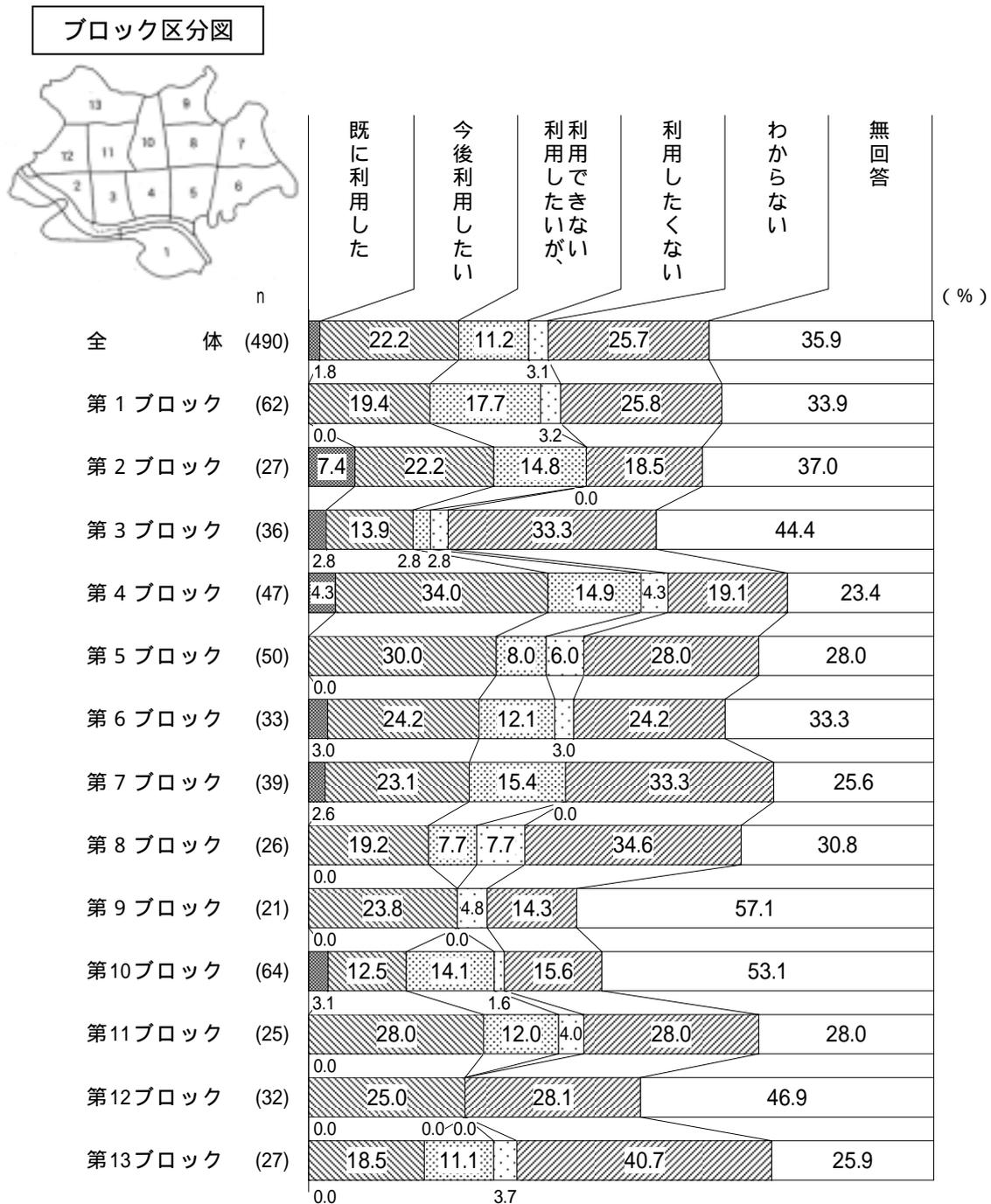


地域ブロック別でみると、「今後利用したい」は第4ブロック（34.0%）で3割半ばと高くなっている。また、「わからない」は第13ブロック（40.7%）でほぼ4割と高くなっている。

（図4-8-3）

図4-8-3 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向 - 地域ブロック別（2）

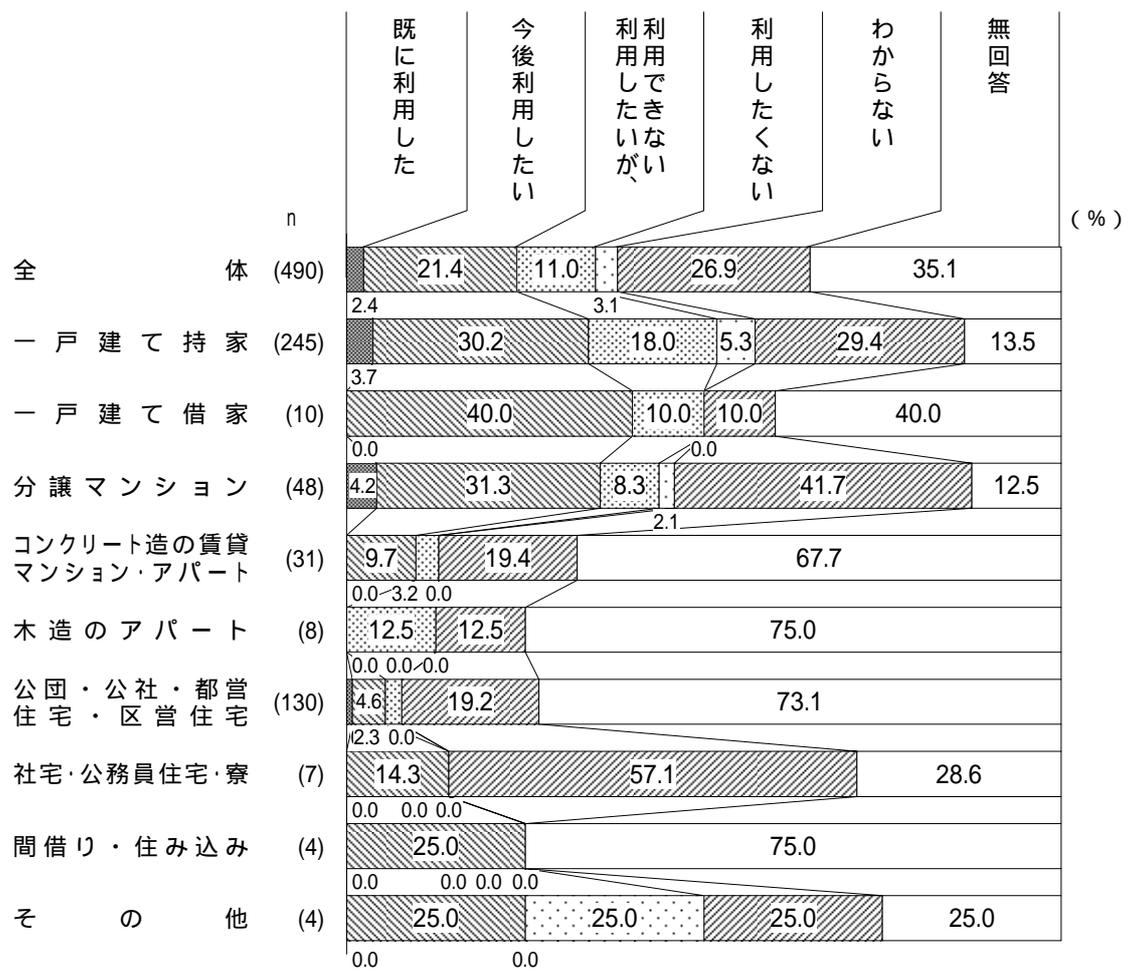
（2）耐震改修工事費用の助成



住居形態別でみると、「今後利用したい」は分譲マンション（31.3%）で3割を超え、一戸建て持家（30.2%）で3割と高くなっている。また、「利用したいが、利用できない」は一戸建て持家（18.0%）で2割近くと高くなっている。（図4-8-4）

図4-8-4 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向 - 住居形態別（1）

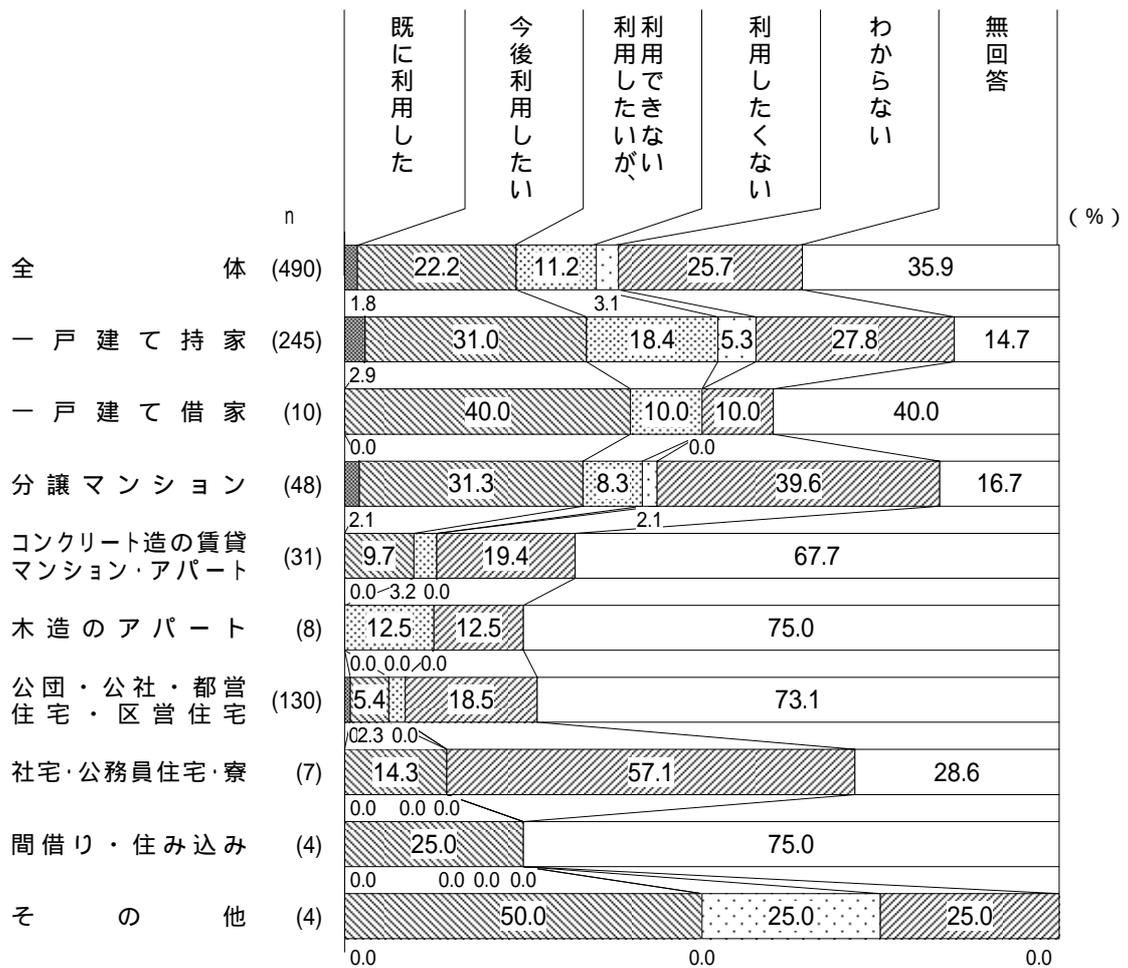
（1）耐震診断費用の助成



住居形態別でみると、「今後利用したい」は分譲マンション（31.3%）で3割を超え、一戸建て持家（31.0%）で3割を超えている。また、「利用したいが、利用できない」は一戸建て持家（18.4%）で2割近くと高くなっている。（図4-8-5）

図4-8-5 耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度の利用意向 - 住居形態別（2）

（2）耐震改修工事費用の助成

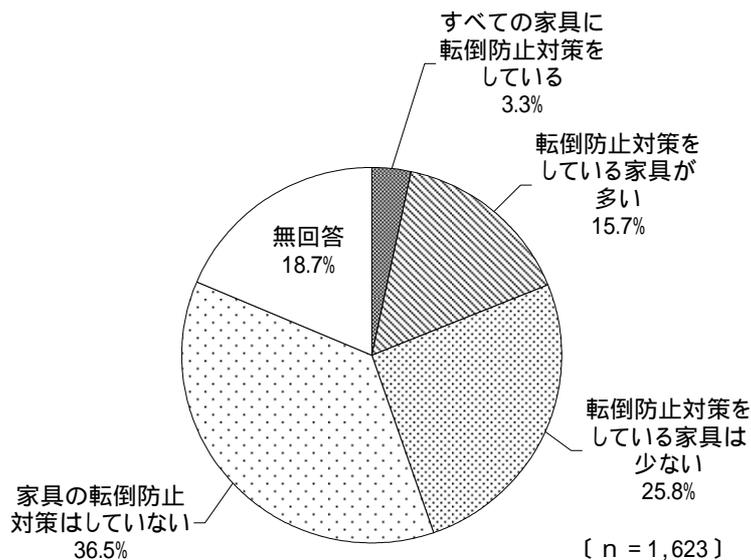


(6) 転倒防止対策をしているか

「家具の転倒防止対策はしていない」が4割近く

問18 あなたのご自宅では、つっぱり棒や壁止め金具などにより、地震の際に家具が転倒することを防止していますか。( は1つだけ)

図4-9-1 転倒防止対策をしているか

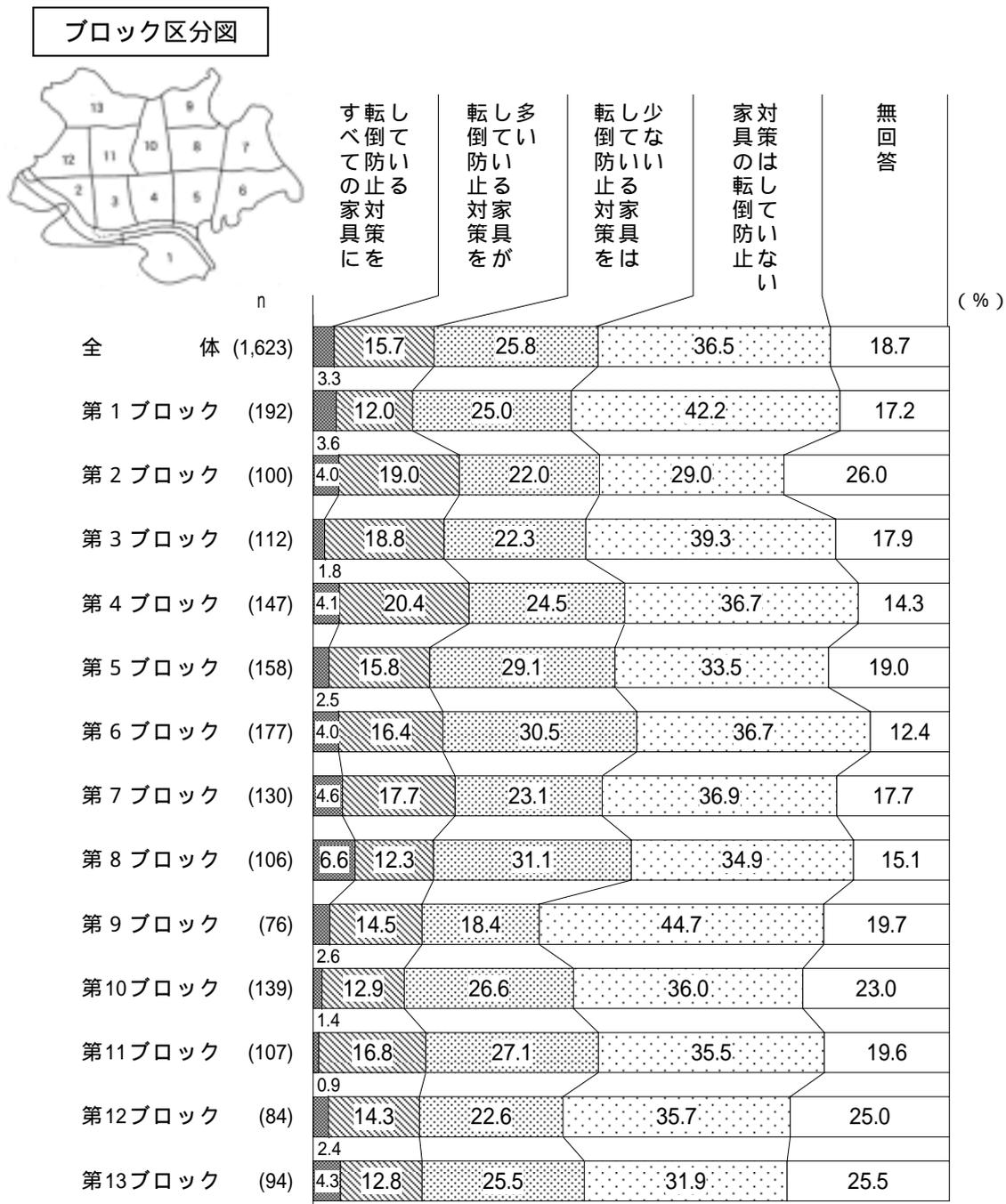


自宅で、つっぱり棒や壁止め金具などにより、地震の際に家具が転倒することを防止しているか聞いたところ、「家具の転倒防止対策はしていない」(36.5%)が4割近くとなっている。また、「転倒防止対策をしている家具は少ない」(25.8%)が2割半ば、「転倒防止対策をしている家具が多い」(15.7%)が1割半ば、「すべての家具に転倒防止対策をしている」(3.3%)はわずかとなっている。(図4-9-1)

地域ブロック別でみると、「転倒防止対策をしている家具は少ない」は第8ブロック（31.1%）と第6ブロック（30.5%）で3割以上を占め、「家具の転倒防止対策はしていない」は第9ブロック（44.7%）で4割半ば、第1ブロック（42.2%）で4割を超え高くなっている。

( 図 4 - 9 - 2 )

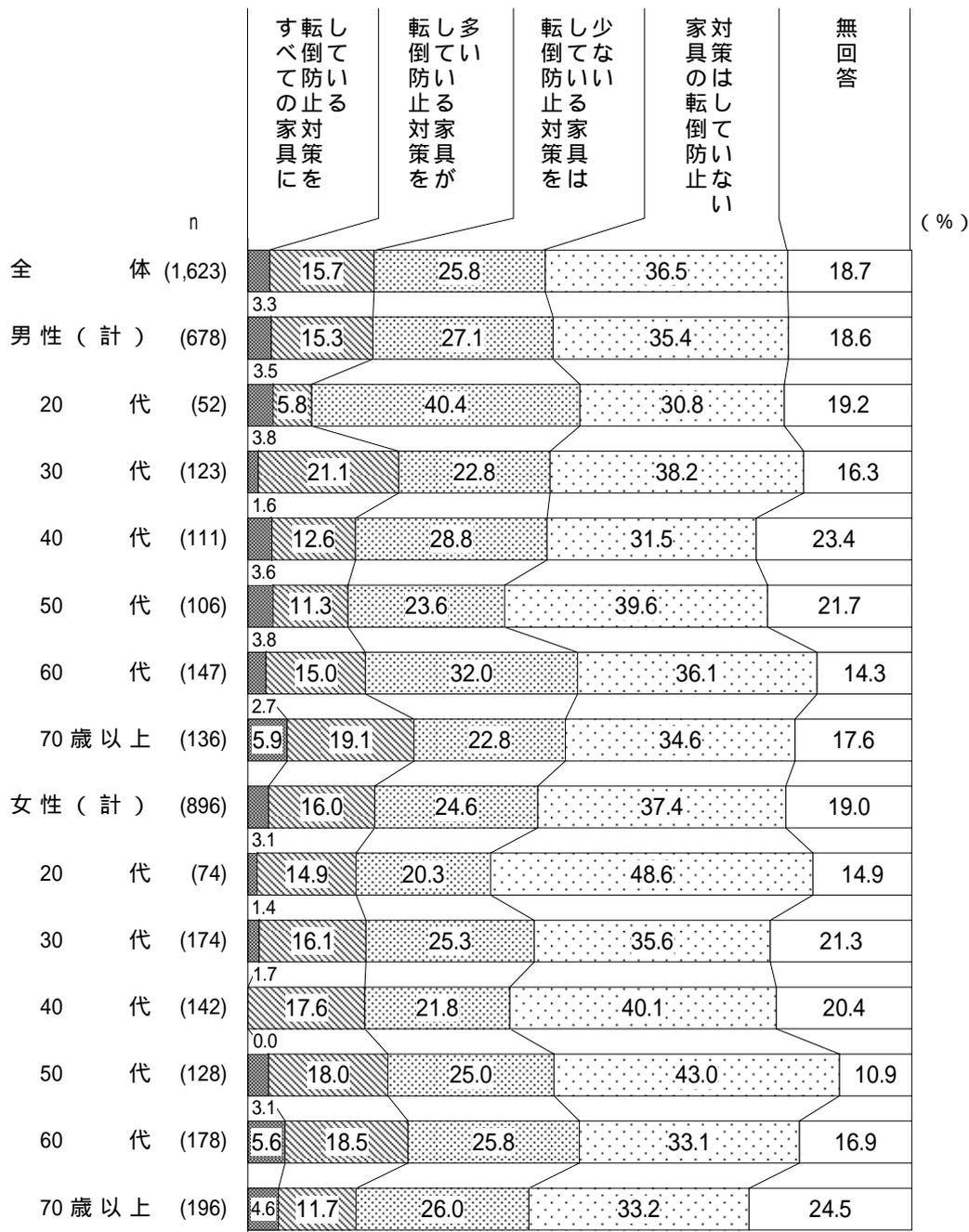
図 4 - 9 - 2 転倒防止対策をしているか - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「転倒防止対策をしている家具は少ない」は男性20代（40.4%）で4割と高くなっている。また、「家具の転倒防止対策はしていない」は女性20代（48.6%）で5割近くと高くなっている。（図4 - 9 - 3）

図4 - 9 - 3 転倒防止対策をしているか - 性別、性・年代別



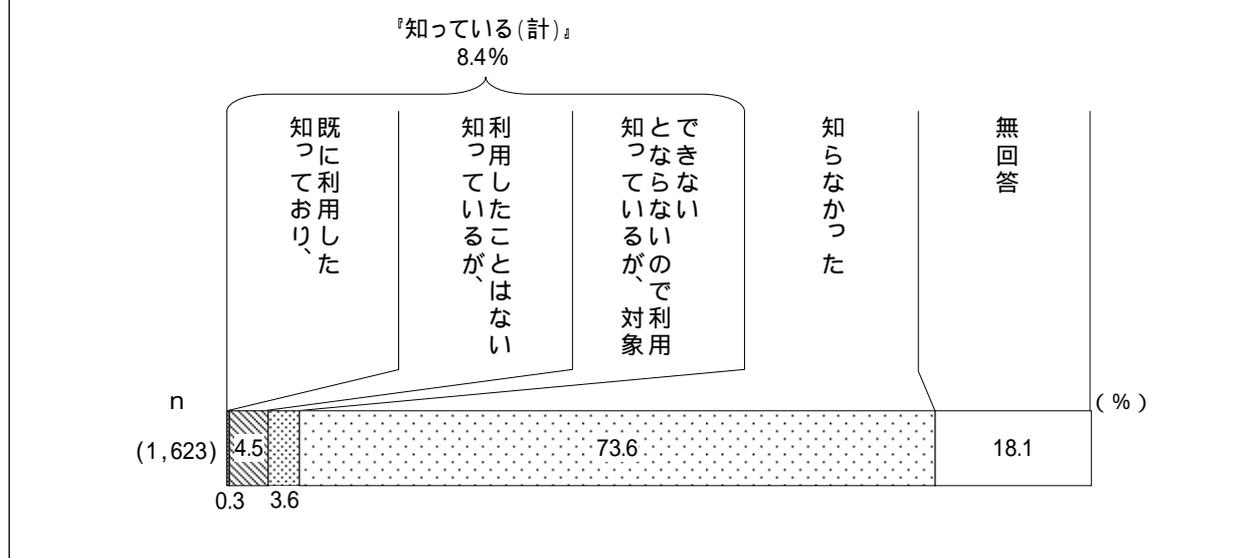
(7) 家具転倒防止器具取付工事などの助成制度の認知度

「知らなかった」が7割を超えている

問19 足立区では、60歳以上の方を含む世帯、一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯に対しては、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度がありますが、これらの助成制度についてご存知ですか。

(は1つだけ)

図4-10-1 家具転倒防止器具取付工事などの助成制度の認知度

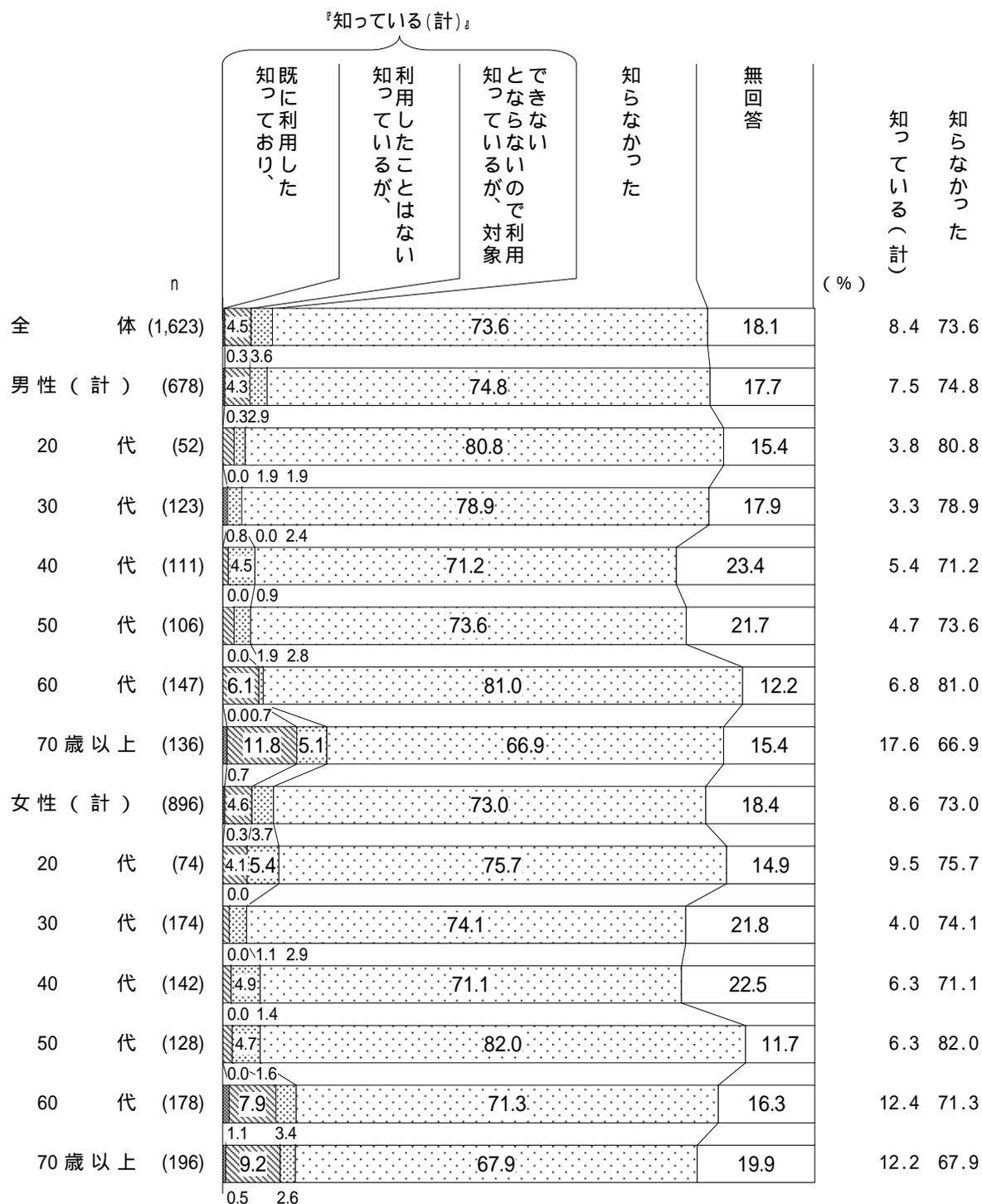


家具転倒防止器具取付工事などの助成制度を知っているか聞いたところ、「知らなかった」(73.6%)が7割を超えている。また、「知っており、既に利用した」(0.3%)、「知っているが、利用したことはない」(4.5%)、「知っているが、対象とならないので利用できない」(3.6%)はいずれも1割未満で、これらを合わせた『知っている(計)』(8.4%)でも1割未満となっている。(図4-10-1)

性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、『知っている（計）』は男性70歳以上（17.6%）で2割近くと高くなっている。一方、「知らなかった」は女性50代（82.0%）と男性60代（81.0%）で8割を超え、男性20代（80.8%）でほぼ8割と高くなっている。（図4 - 10 - 2）

図4 - 10 - 2 家具転倒防止器具取付工事などの助成制度の認知度 - 性別、性・年代別





## 5 浸水被害に備え意識していること

---

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知度

(2) 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について

---



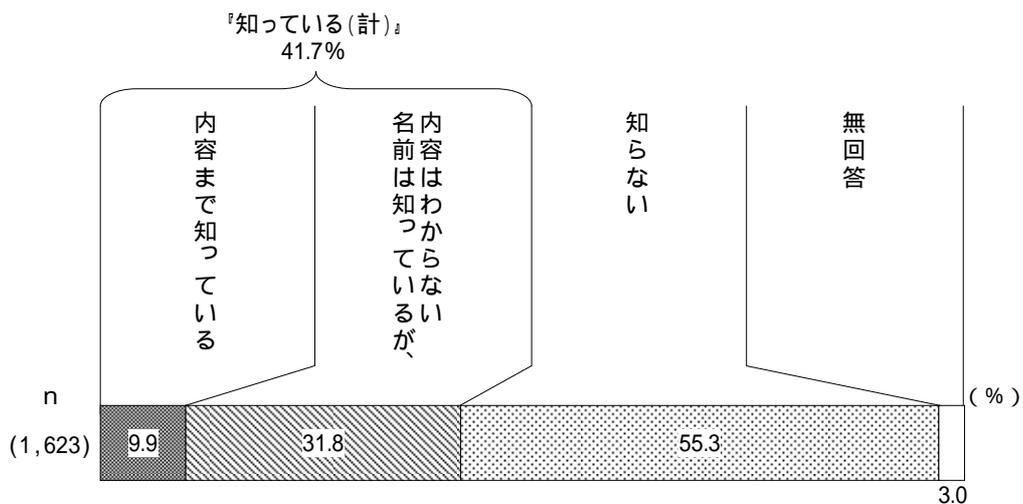
## 5 浸水被害に備え意識していること

### (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知度

『知っている』人が4割を超えている

問20 区内の浸水被害の危険を表示した「足立区洪水ハザードマップ」について、ご存知ですか。( は1つだけ)

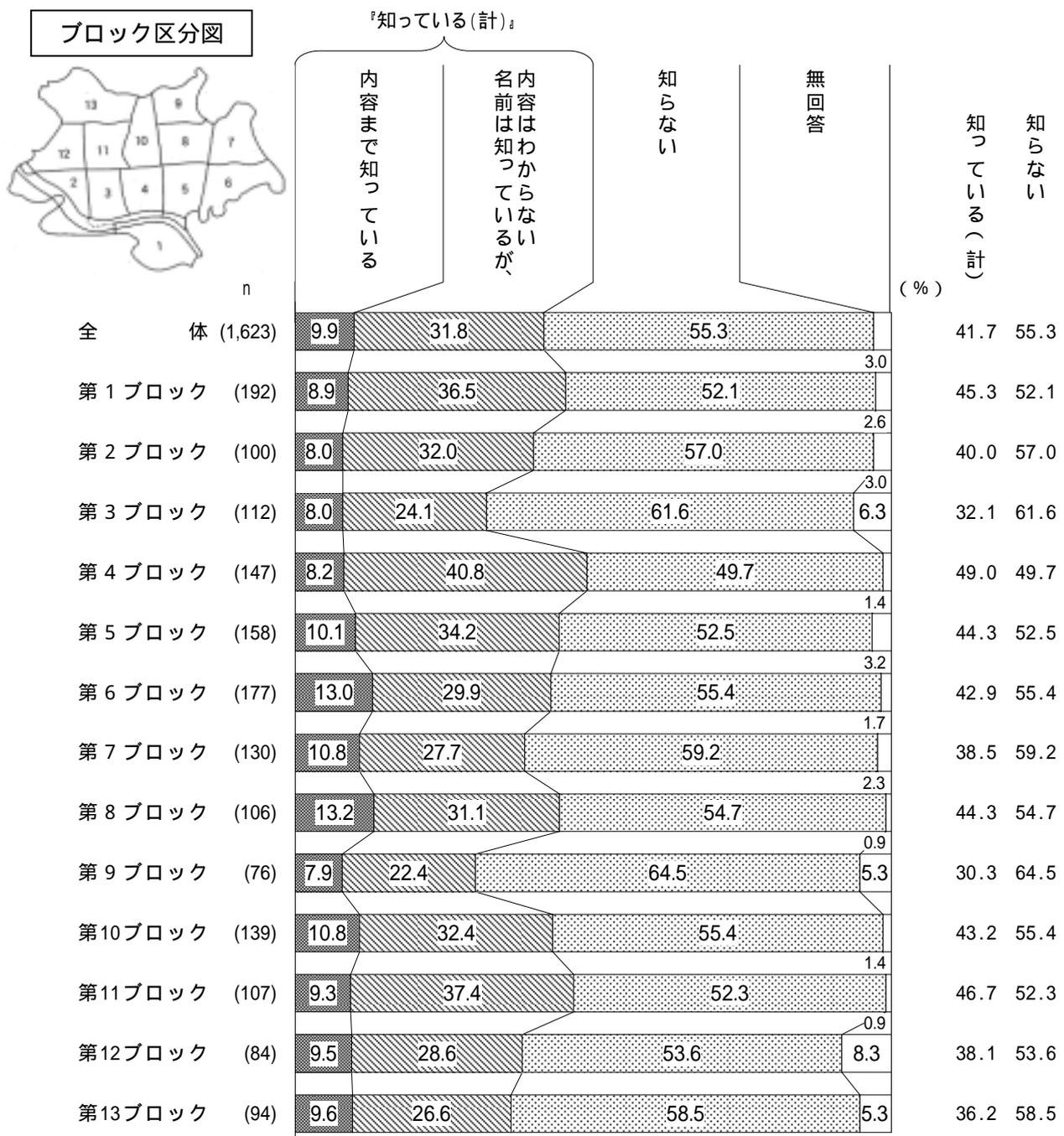
図5 - 1 - 1 「足立区洪水ハザードマップ」の認知度



区内の浸水被害の危険を表示した「足立区洪水ハザードマップ」を知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」(9.9%)と「名前は知っているが、内容はわからない」(31.8%)を合わせた『知っている(計)』(41.7%)が4割を超えている。また、「知らない」(55.3%)が5割半ばとなっている。(図5 - 1 - 1)

地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第4ブロック(49.0%)でほぼ5割と高くなっている。一方、「知らない」は第9ブロック(64.5%)で6割半ば、第3ブロック(61.6%)で6割を超え高くなっている。(図5-1-2)

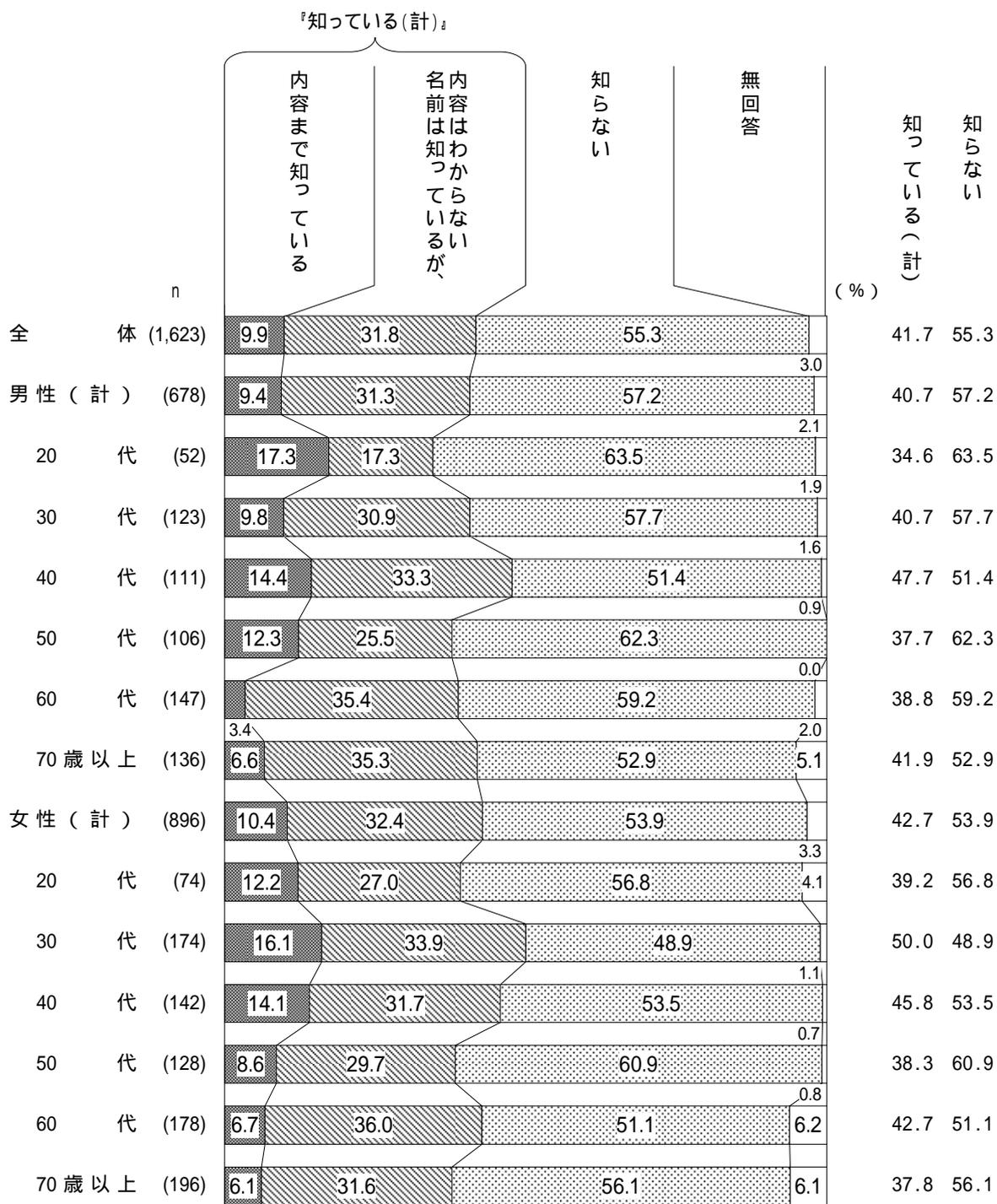
図5-1-2 「足立区洪水ハザードマップ」の認知度 - 地域ブロック別



性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性年代別で見ると、「内容まで知っている」は男性20代(17.3%)で2割近く、女性30代(16.1%)で1割半ばと高くなっている。また、『知っている(計)』は女性30代(50.0%)で5割と高く、唯一『知っている(計)』が「知らない」を上回っている。(図5-1-3)

図5-1-3 「足立区洪水ハザードマップ」の認知度 - 性別、性・年代別

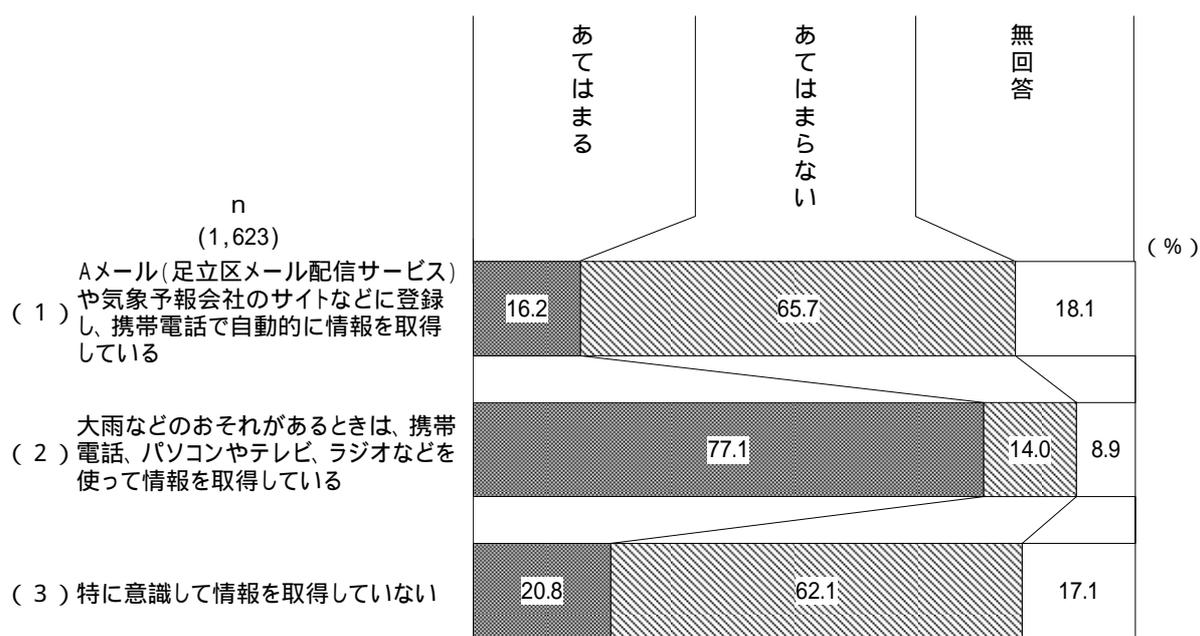


(2) 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について

【大雨などのおそれがあるときは、携帯電話、パソコンやテレビ、ラジオなどを使って情報を取得している】人が8割近く

問21 台風やゲリラ豪雨などによる水害に備えた気象情報または水害の危険情報などの取得についておたずねします。( は各項目とも1つだけ)

図5-2-1 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について



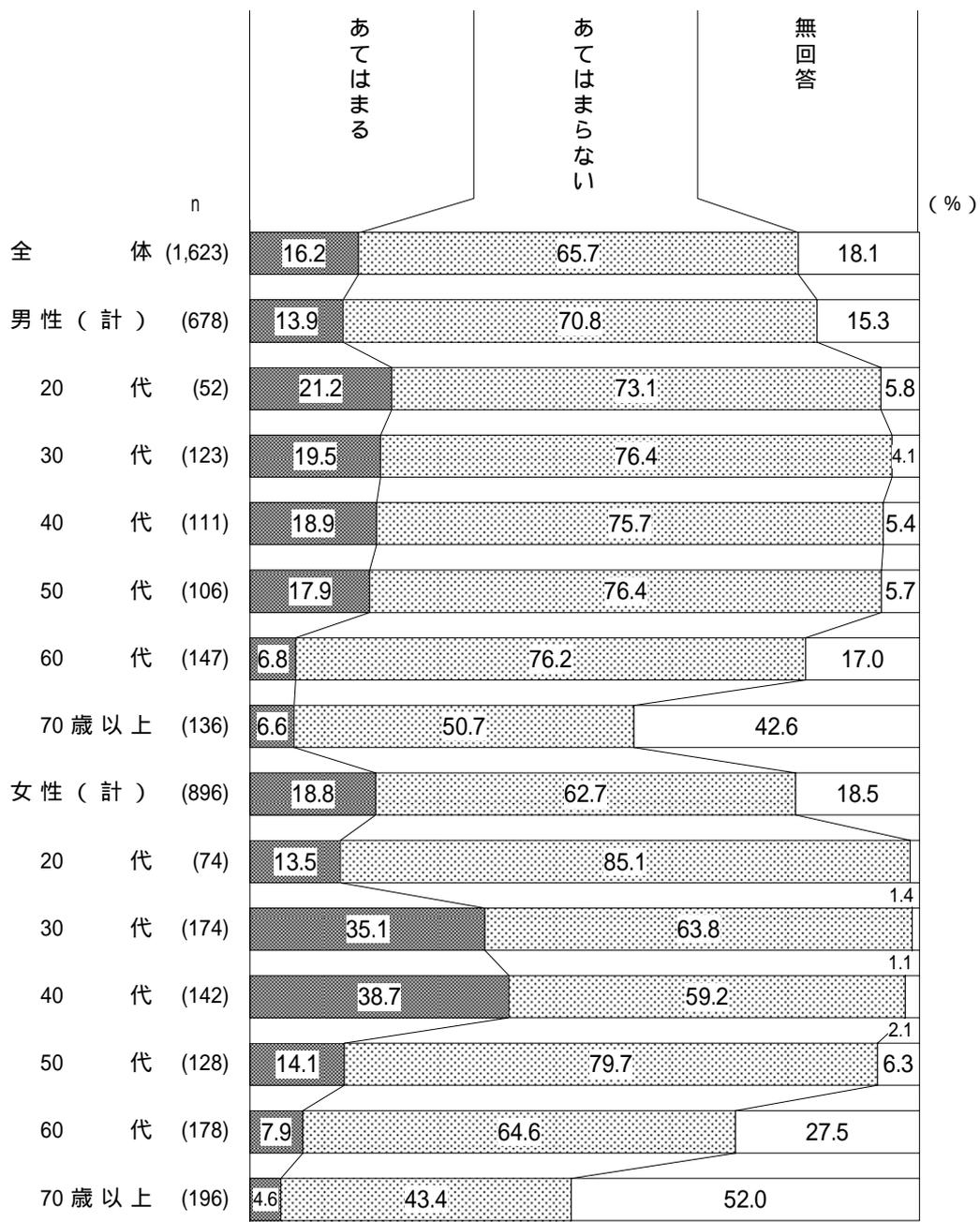
台風やゲリラ豪雨などによる水害に備えた気象情報または水害の危険情報などを取得しているか聞いたところ、【大雨などのおそれがあるときは、携帯電話、パソコンやテレビ、ラジオなどを使って情報を取得している】(77.1%)が8割近くと高くなっている。一方、【Aメール(足立区メール配信サービス)や気象予報会社のサイトなどに登録し、携帯電話で自動的に情報を取得している】(16.2%)が1割半ば、【特に意識して情報を取得していない】(20.8%)がほぼ2割となっている。(図5-2-1)

性別で見ると、男性で「あてはまらない」（70.8%）が女性（62.7%）より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は女性40代（38.7%）で4割、女性30代（35.1%）で3割半ばと高くなっている。一方、「あてはまらない」は女性20代（85.1%）で8割半ば、女性50代（79.7%）で8割と高くなっている。（図5 - 2 - 2）

図5 - 2 - 2 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について - 性別、性・年代別（1）

（1）Aメール（足立区メール配信サービス）や気象予報会社のサイトなどに登録し、携帯電話で自動的に情報を取得している

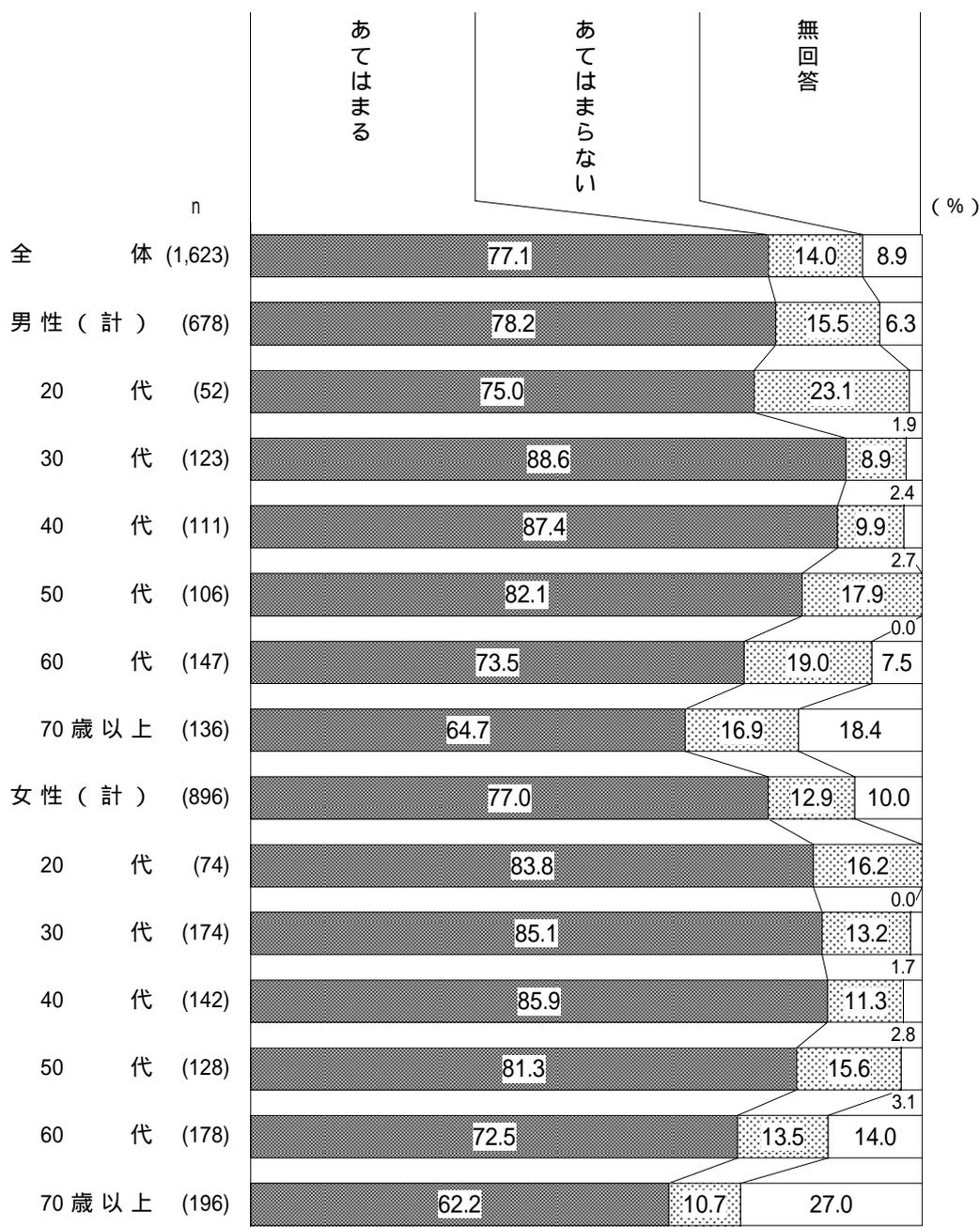


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は男性の30代から50代、女性の20代から50代の年代で8割以上を占めている。一方、「あてはまらない」は男性20代（23.1%）で2割を超え高くなっている。（図5 - 2 - 3）

図5 - 2 - 3 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について - 性別、性・年代別（2）

（2）大雨などのおそれがあるときは、携帯電話、パソコンやテレビ、ラジオなどを使って情報を取得している



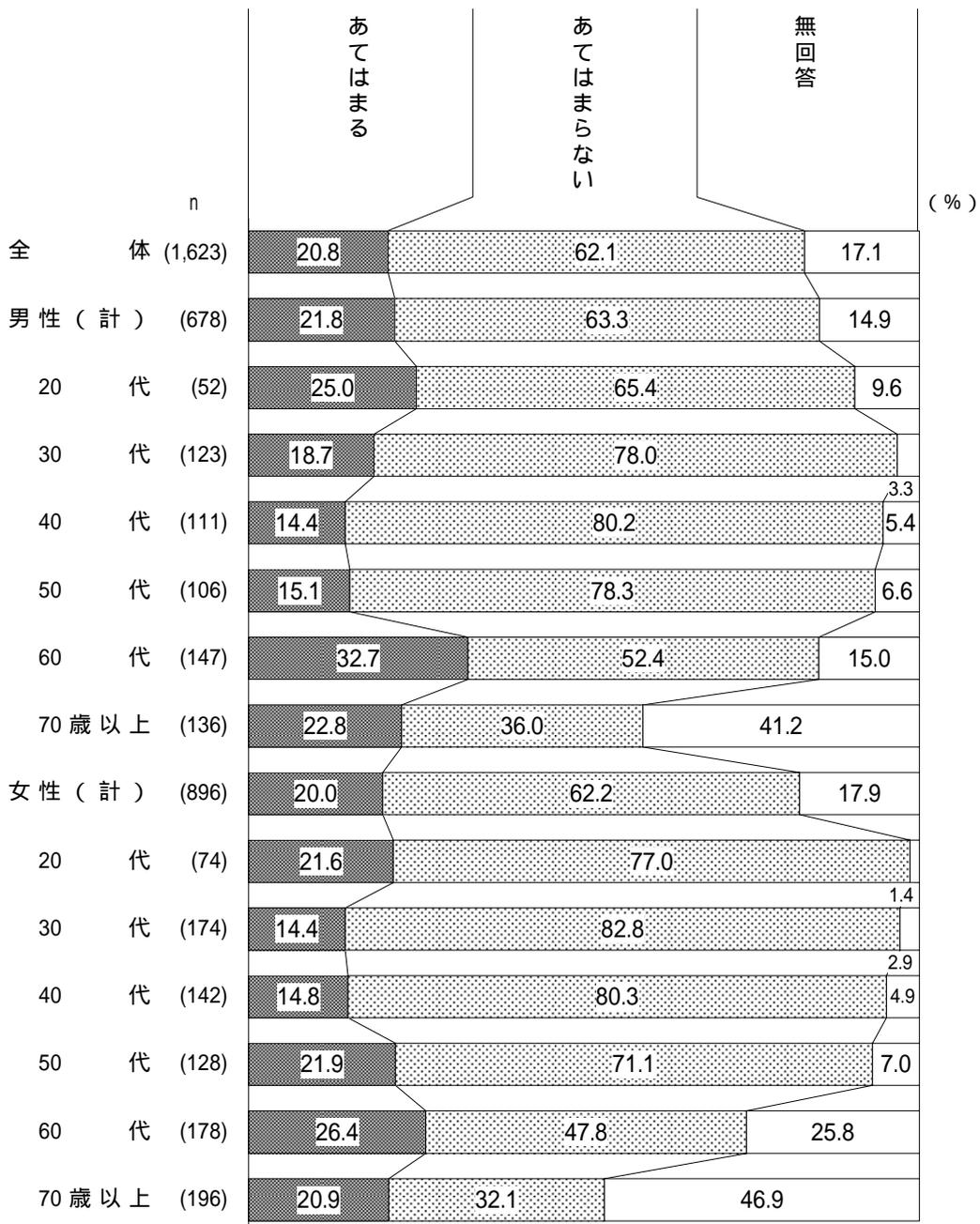
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「あてはまる」は男性60代（32.7%）で3割を超え高くなっている。

一方、「あてはまらない」は男性の30代から50代、女性の20代から40代で8割前後と高くなっている。（図5 - 2 - 4）

図5 - 2 - 4 水害に備えた気象情報・水害の危険情報などの取得について - 性別、性・年代別(3)

(3) 特に意識して情報を取得していない





## 6 保健・医療

---

( 1 ) 保健と医療について

---



## 6 保健・医療

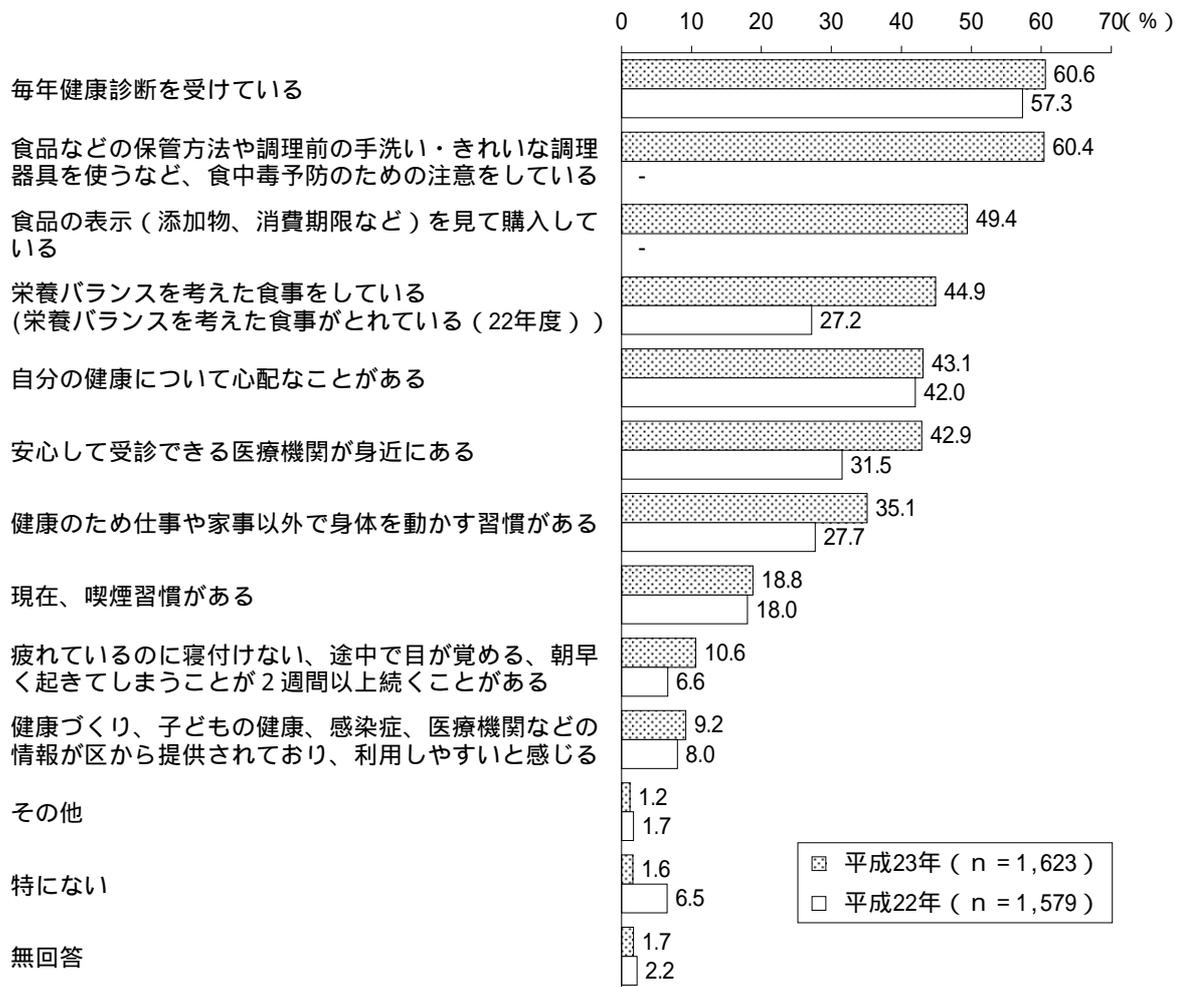
### (1) 保健と医療について

「毎年健康診断を受けている」がほぼ6割、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」が6割

問22 保健と医療などについて、あなた自身にあてはまるものをすべてお答えください。

( はあてはまるものすべて )

図6 - 1 - 1 保健と医療について - 過年度比較



(注) 平成23年調査では、「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」と「食品の表示 (添加物、消費期限など) を見て購入している」が選択肢に追加されている。

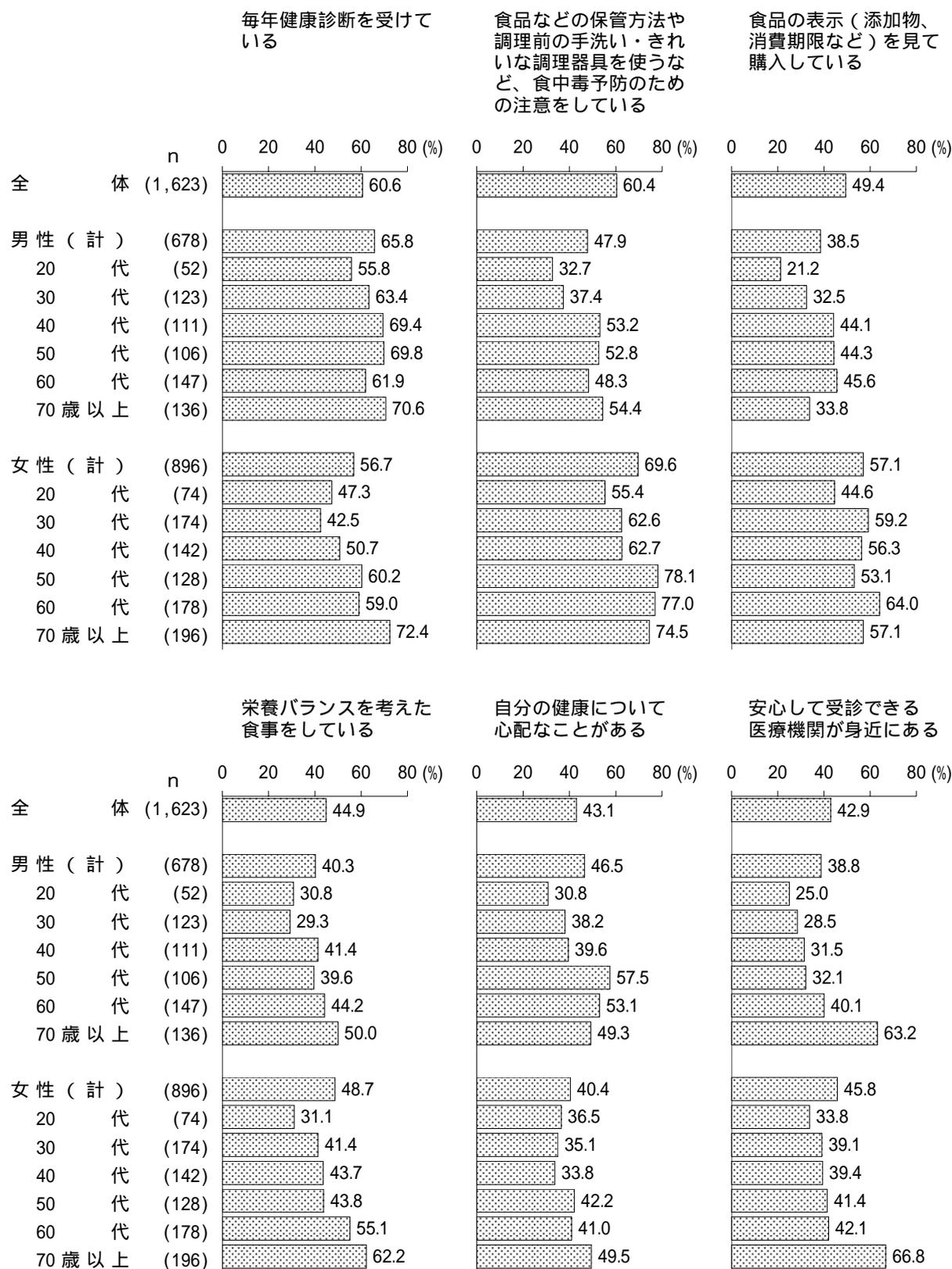
保健と医療などについて、あてはまるものを聞いたところ、「毎年健康診断を受けている」(60.6%)がほぼ6割で最も高く、次いで「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(60.4%)が6割となっている。次いで、「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」(49.4%)、「栄養バランスを考えた食事をしている」(44.9%)、「自分の健康について心配なことがある」(43.1%)の順となっている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より「安心して受診できる医療機関が身近にある」が11.4ポイント高く、「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」が7.4ポイント高くなっている。(図6-1-1)

性別でみると、女性で「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」(69.6%)が男性(47.9%)より21.7ポイント高く、「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」(57.1%)が男性(38.5%)より18.6ポイント高くなっている。一方、「毎年健康診断を受けている」は女性(56.7%)が男性(65.8%)より9.1ポイント低く、「自分の健康について心配なことがある」は女性(40.4%)が男性(46.5%)より6.1ポイント低くなっている。

性・年代別でみると、「毎年健康診断を受けている」は女性の30代(42.5%)、40代(50.7%)が男性の30代(63.4%)、40代(69.4%)と比べて2割前後低くなっている。「食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている」は女性の50代以上の年代で7割以上を占め、「食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している」は女性60代(64.0%)で6割半ばと高くなっている。また、「栄養バランスを考えた食事をしている」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性70歳以上(62.2%)で6割を超え、「自分の健康について心配なことがある」は男性50代(57.5%)で6割近く、「安心して受診できる医療機関が身近にある」は男女とも70歳以上(男性63.2%・女性66.8%)で6割以上を占めている。(図6-1-2)

図6-1-2 保健と医療について - 性別、性・年代別（上位6位）





## 7 自 殺 対 策

- 
- ( 1 ) 自殺についての考え
  - ( 2 ) 本気で自殺したいと考えたことがあるか
    - ( 2 - 1 ) 最近 1 年以内に自殺したいと考えたことがあるか
    - ( 2 - 2 ) 自殺しようと考えたとき相談した相手
  - ( 3 ) 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応
-



## 7 自殺対策

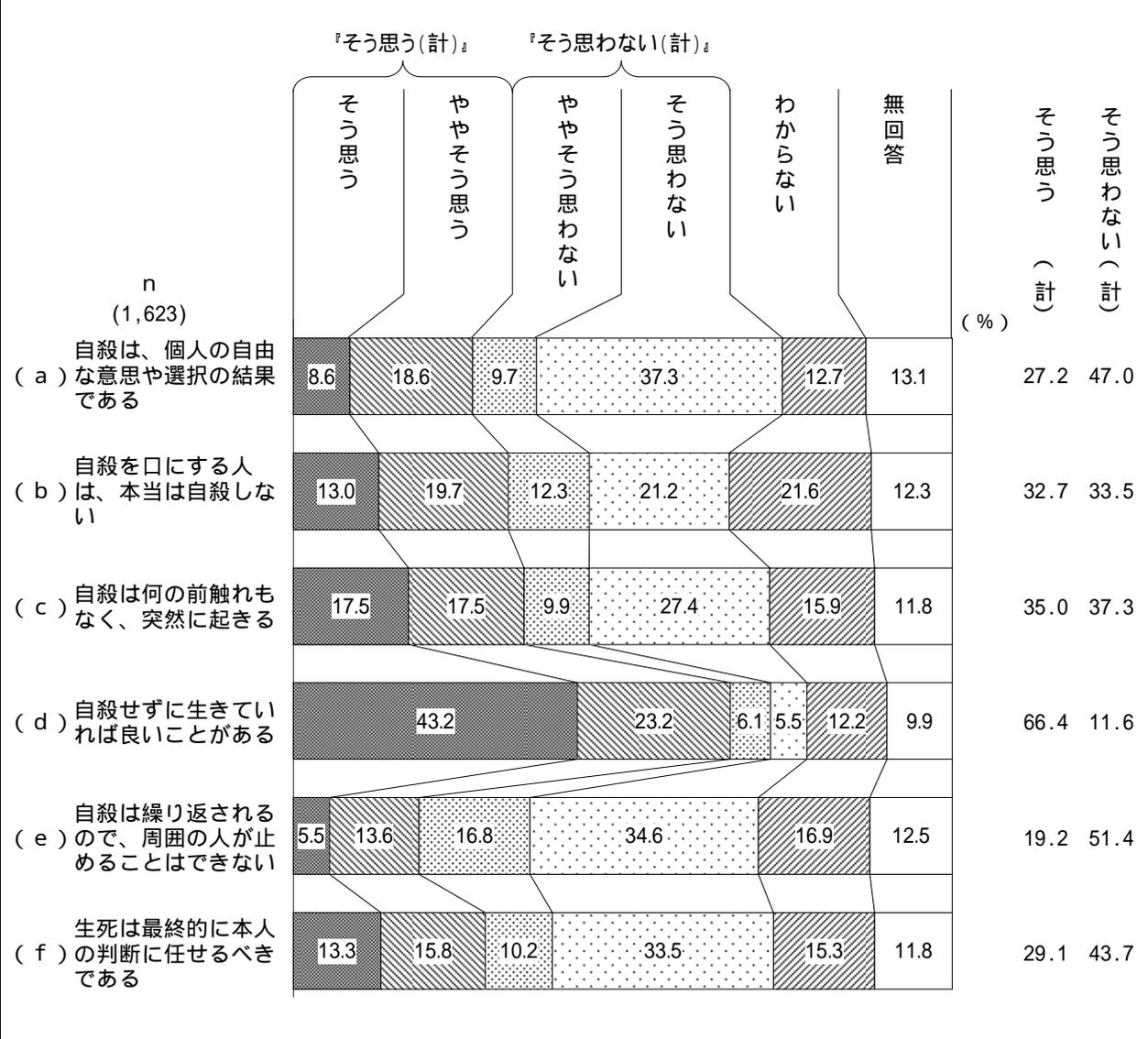
### (1) 自殺についての考え

【自殺せずに生きていれば良いことがある】と思う人が6割半ば

【自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない】とは思わない人が5割を超える

問23 あなたは、自殺についてどのように思いますか。次のaからfについて、あなたの考えに近いものにをつけてください。( は各項目とも1つだけ)

図7-1-1 自殺についての考え



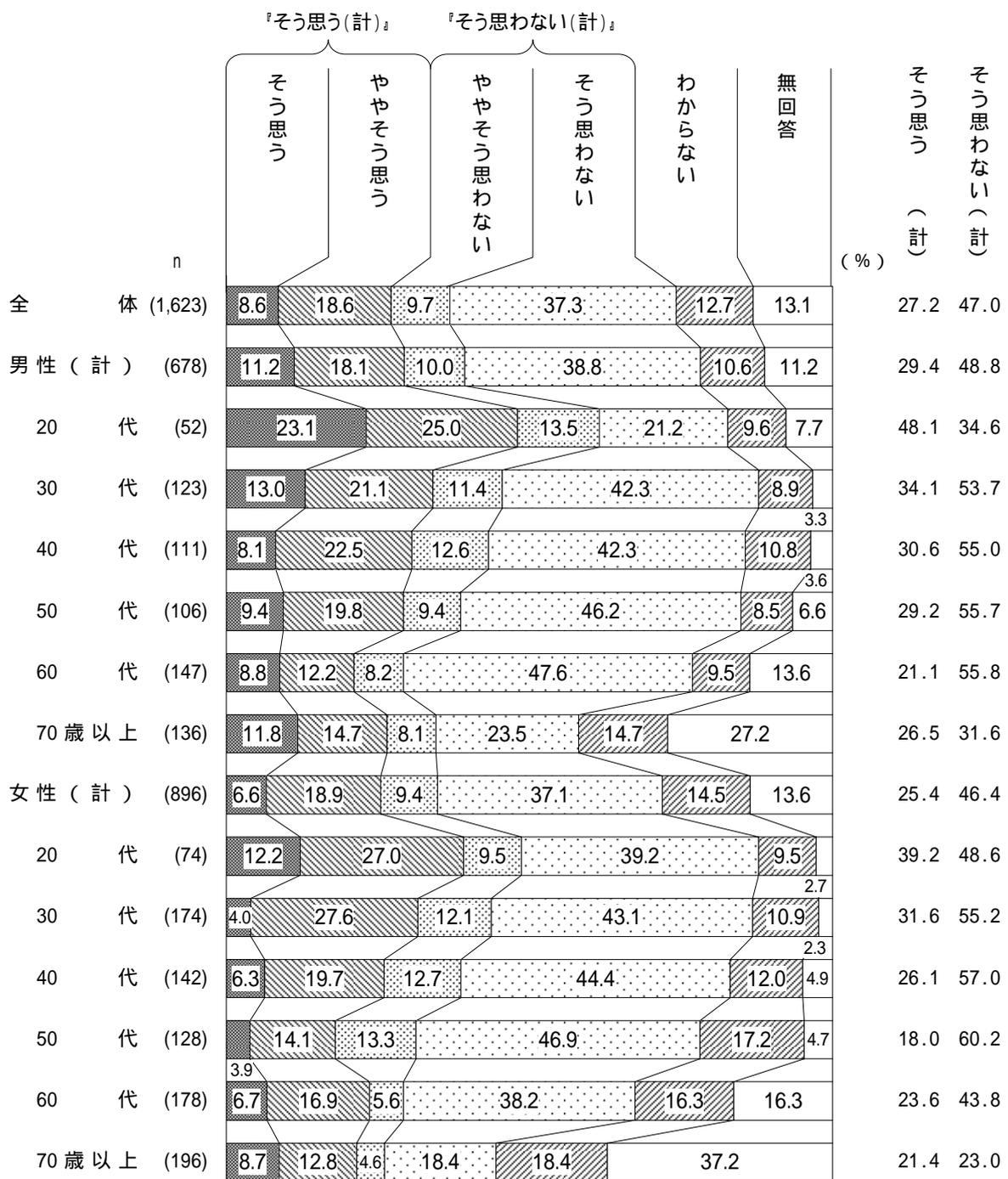
自殺についてどのように思うか聞いたところ、【自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない】については、「そう思わない」と「ややそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』(51.4%)が5割を超え、【自殺は、個人の自由な意思や選択の結果である】(47.0%)、【生死は最終的に本人の判断に任せるべきである】(43.7%)も『そう思わない(計)』がそれぞれ4割を超えている。一方、【自殺せずに生きていれば良いことがある】は、『そう思う(計)』(66.4%)が6割半ばとなっている。(図7-1-1)

性別で見ると、男性で「そう思う」（11.2%）が女性（6.6%）より4.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男女とも20代（23.1%、12.2%）が最も高く、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う（計）』でも、若い年代ほど高い傾向がある。一方、『そう思わない（計）』は、男女とも70歳以上（31.6%、23.0%）で最も低くなっているが、無回答（27.2%、37.2%）も最も多くなっている。（図7-1-2）

図7-1-2 自殺についての考え - 性別、性・年代別（1）

（a）自殺は、個人の自由な意思や選択の結果である

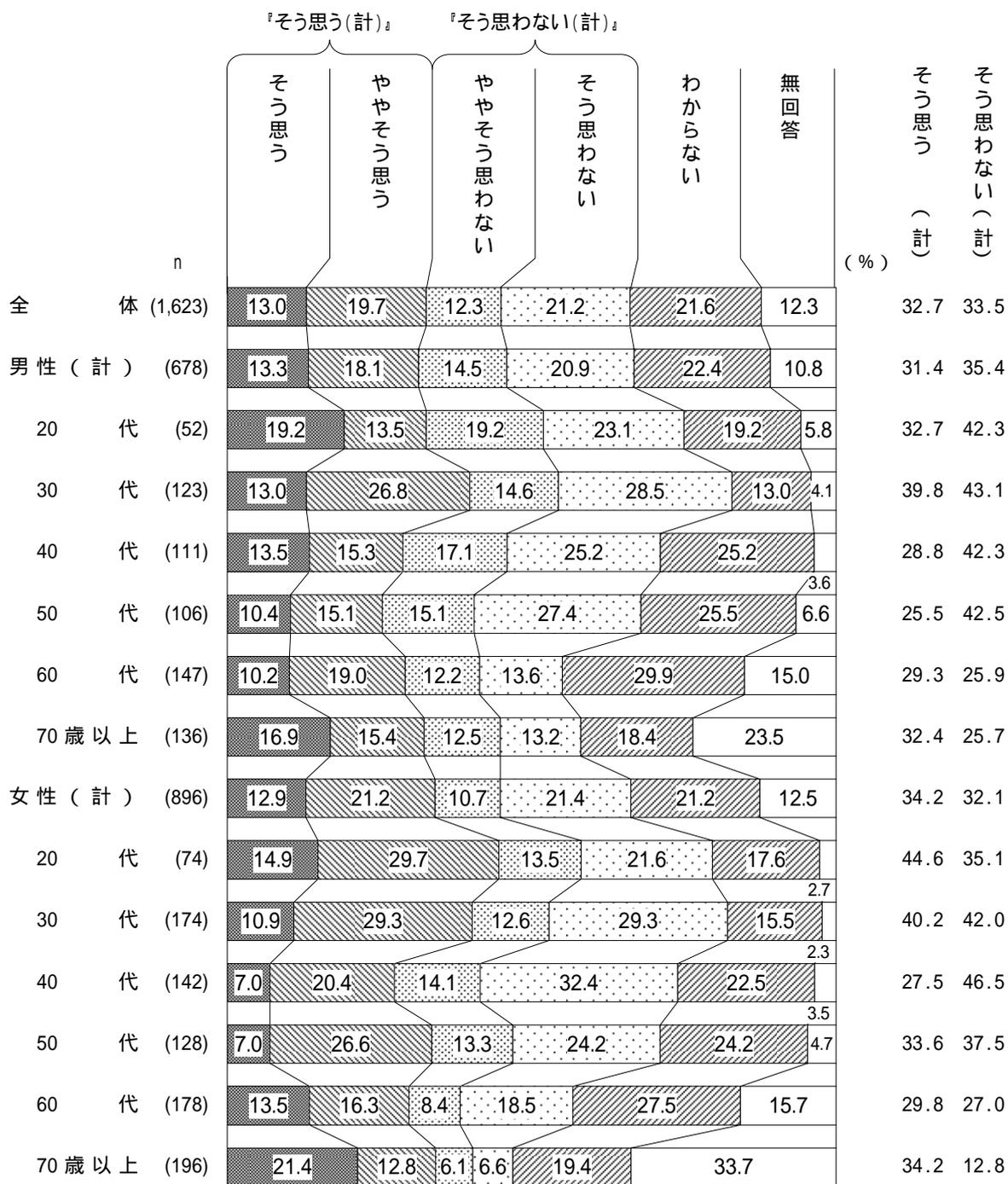


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は女性70歳以上(21.4%)で2割を超え、『そう思う(計)』は女性20代(44.6%)で4割半ばと高くなっている。男性では「そう思う」は20代(19.2%)が最も高く、『そう思う(計)』は30代(39.8%)が最も高くなっている。一方、「そう思わない」は女性40代(32.4%)で3割を超え、『そう思わない(計)』でも女性40代(46.5%)で5割近くと高くなっている。(図7-1-3)

図7-1-3 自殺についての考え - 性別、性・年代別(2)

(b) 自殺を口にする人は、本当は自殺しない

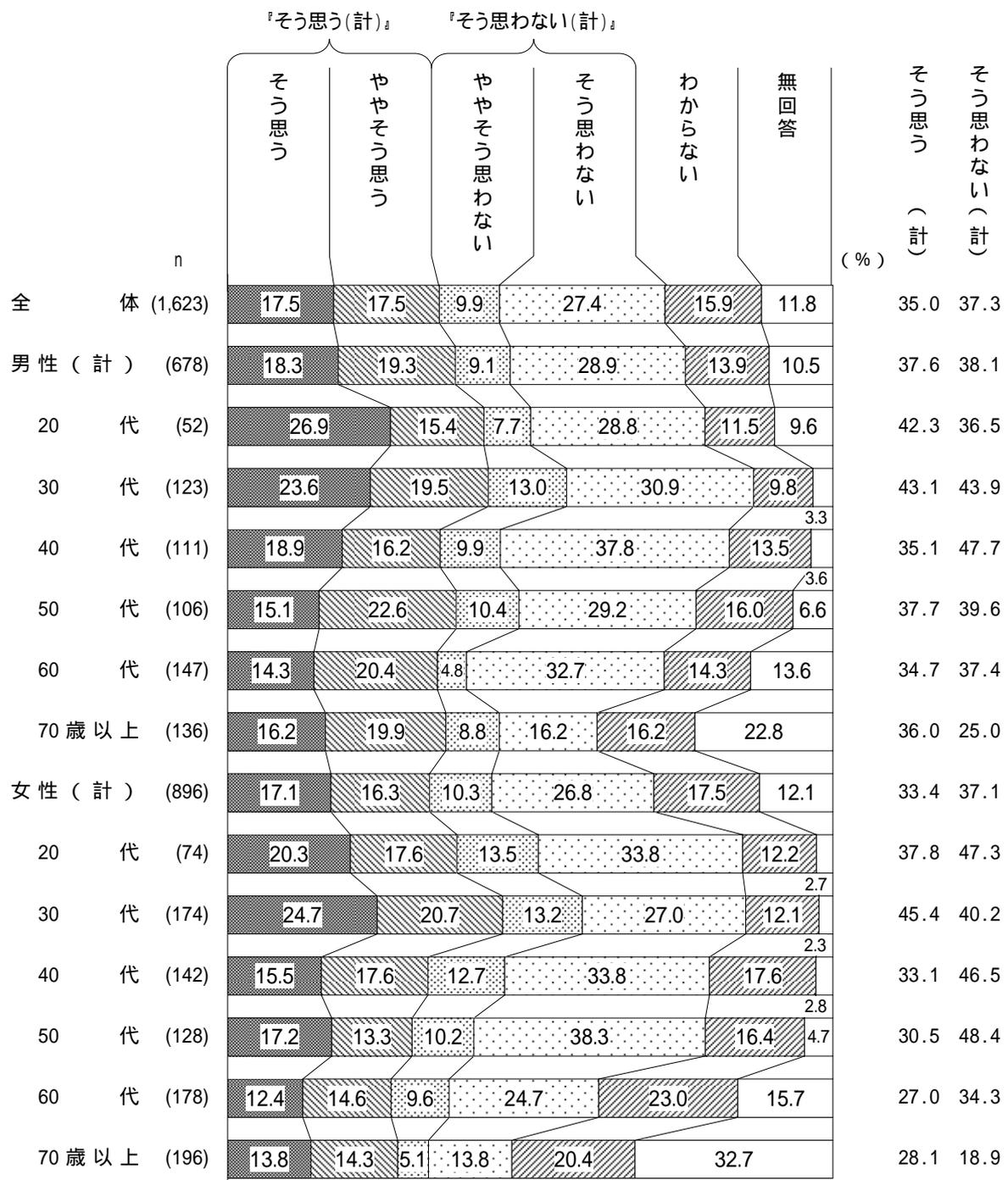


性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(37.6%)が女性(33.4%)より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性30代(45.4%)、男性20代(42.3%)、30代(43.1%)で4割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代(47.7%)、女性20代(47.3%)、女性50代(48.4%)で5割近くと高くなっている。(図7-1-4)

図7-1-4 自殺についての考え - 性別、性・年代別(3)

(c) 自殺は何の前触れもなく、突然に起きる

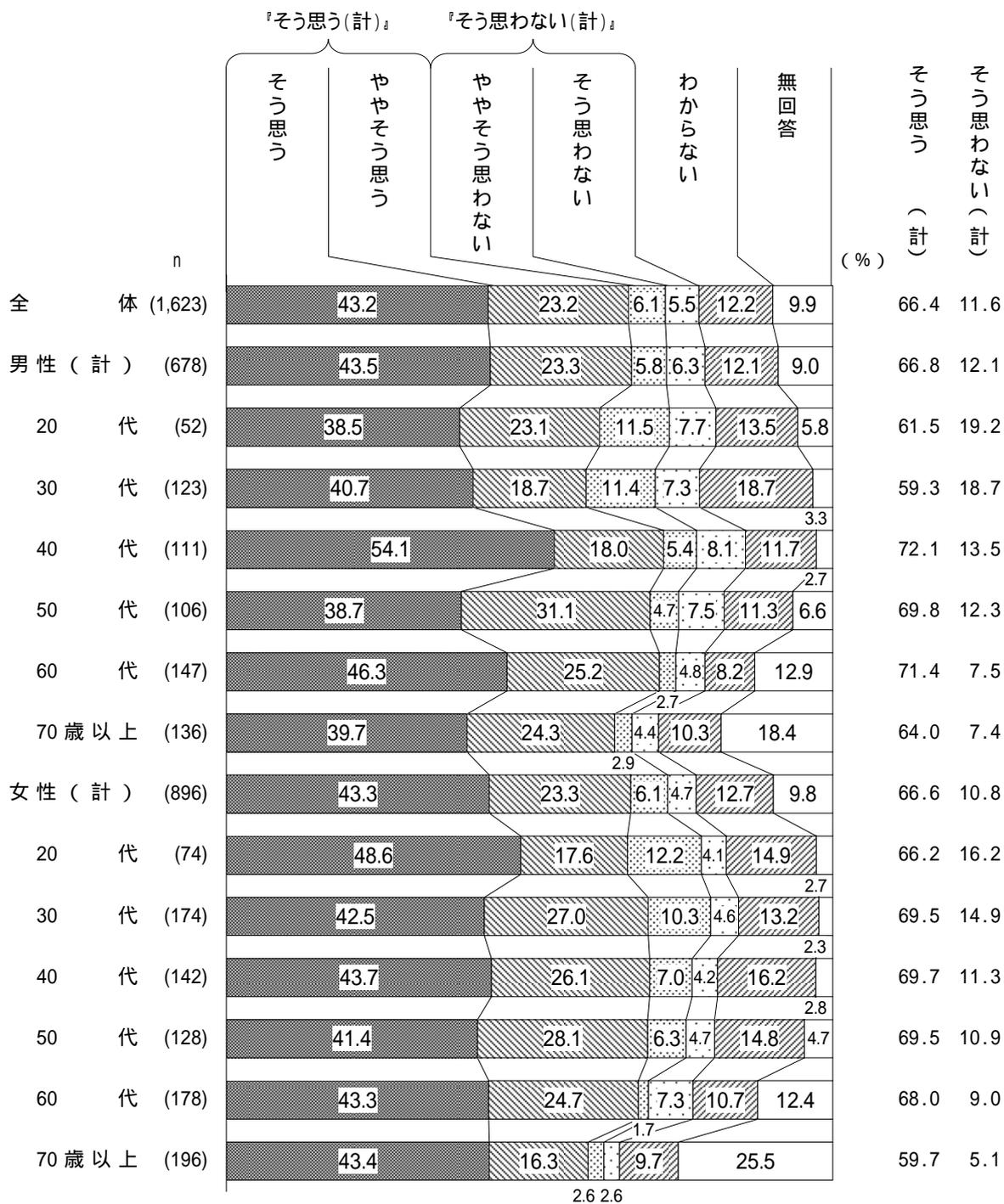


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男性40代(54.1%)で5割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(19.2%)でほぼ2割、男性30代(18.7%)で2割近くと高くなっている。(図7-1-5)

図7-1-5 自殺についての考え - 性別、性・年代別(4)

(d) 自殺せずに生きていれば良いことがある

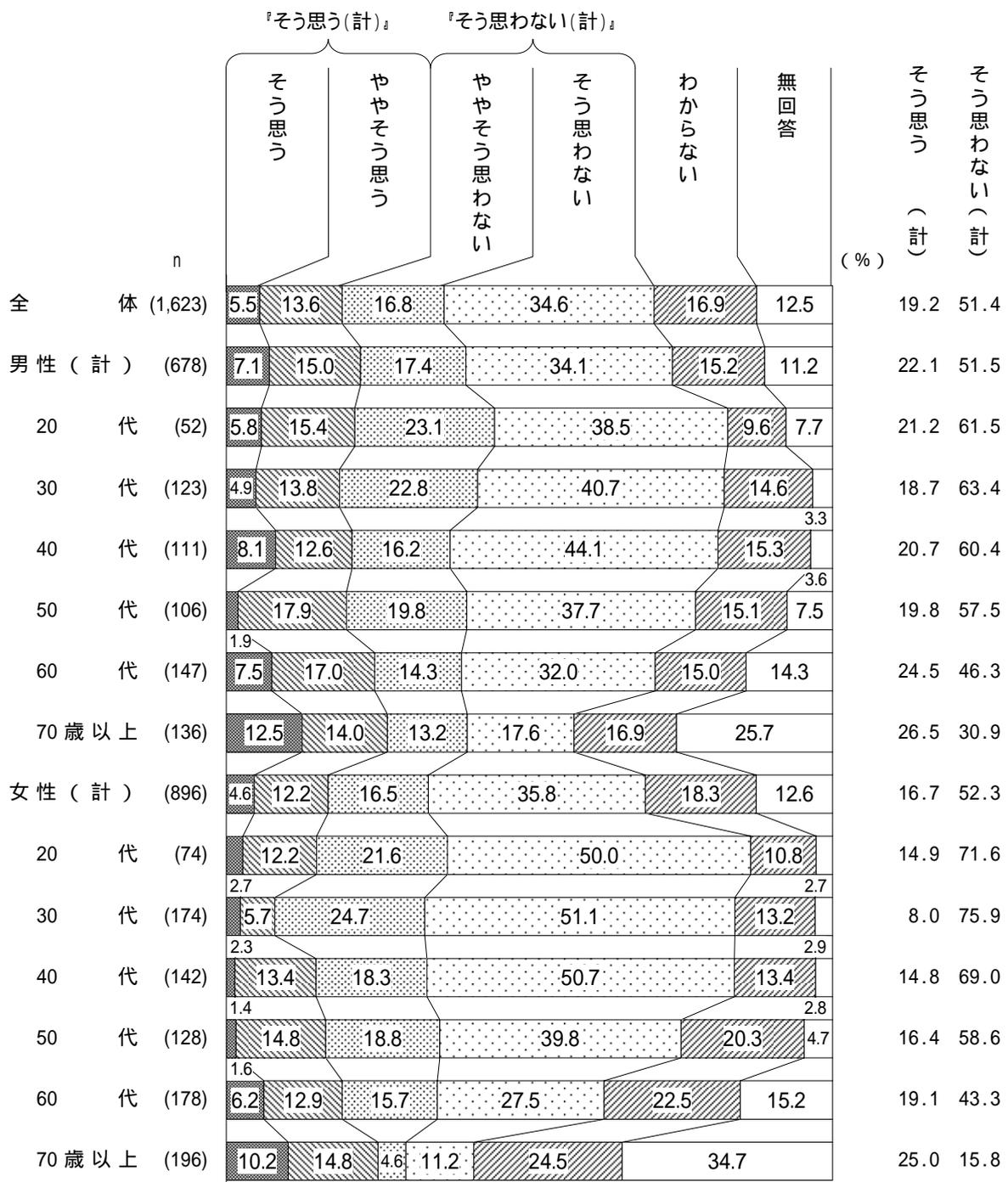


性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(22.1%)が女性(16.7%)より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思わない」は女性の20代から40代の年代で5割以上を占め、『そう思わない(計)』でも女性30代(75.9%)が7割半ば、女性20代(71.6%)と女性40代(69.0%)が7割前後と高くなっている。(図7-1-6)

図7-1-6 自殺についての考え - 性別、性・年代別(5)

(e) 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない

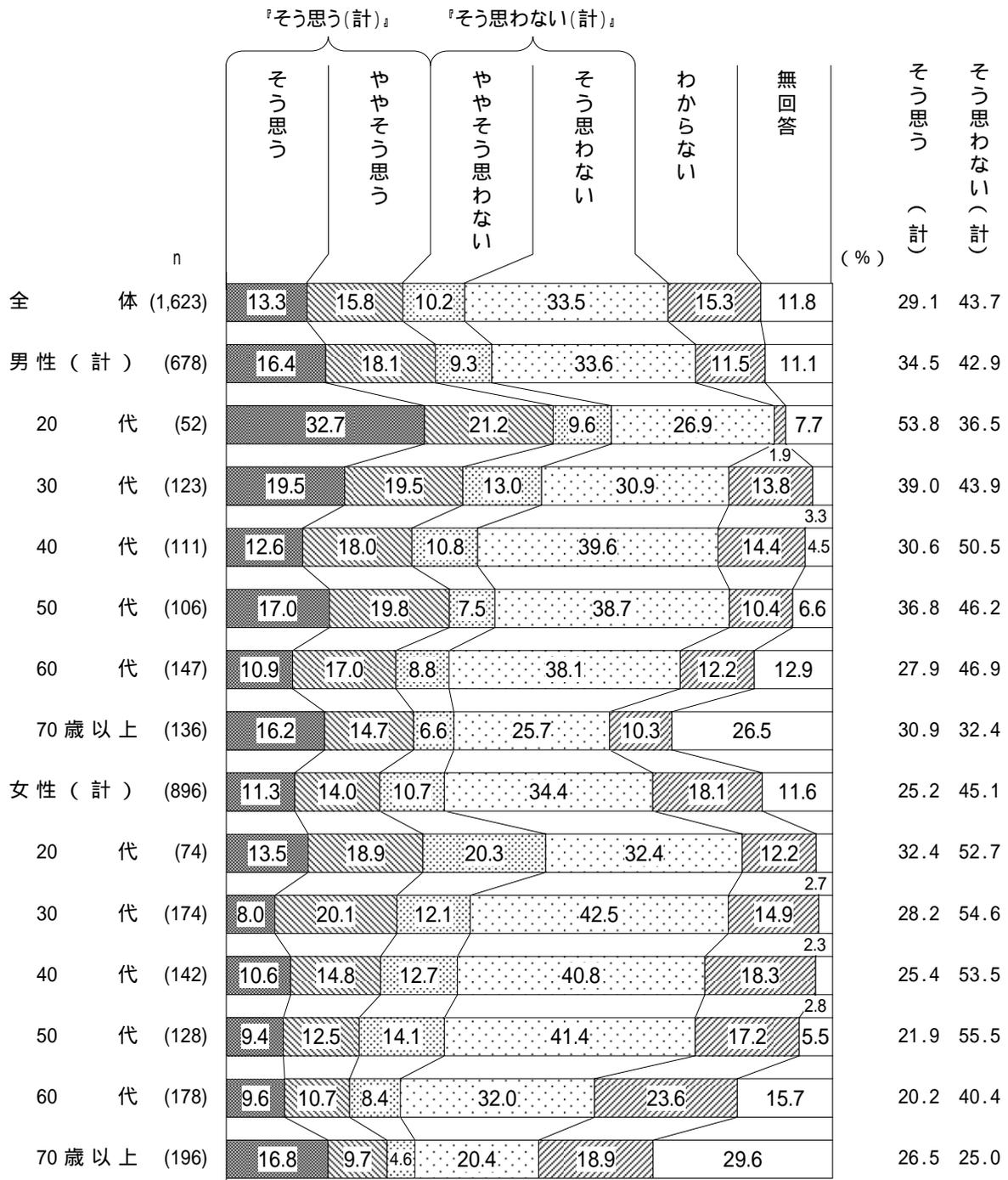


性別で見ると、男性で『そう思う(計)』(34.5%)が女性(25.2%)より9.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「そう思う」は男性20代(32.7%)で3割を超え、『そう思う(計)』でも男性20代(53.8%)が5割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代、女性の20代から50代の年代で5割以上を占めている。(図7-1-7)

図7-1-7 自殺についての考え - 性別、性・年代別(6)

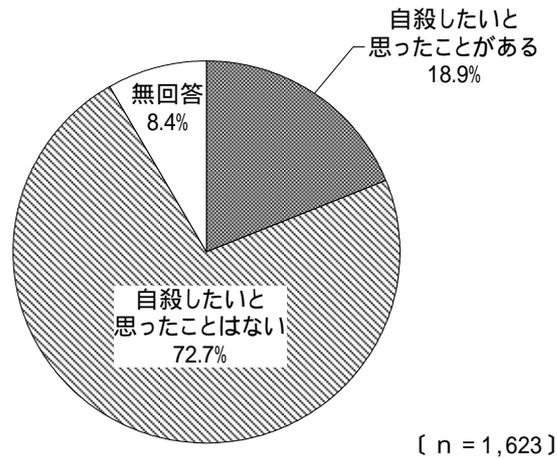
(f) 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである



( 2 ) 本気で自殺したいと考えたことがあるか  
「自殺したいと思ったことがある」人は2割近く

問24 あなたは、これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがありますか。  
あなたの考えに近いものに をつけてください。( は1つだけ)

図7 - 2 - 1 本気で自殺したいと考えたことがあるか

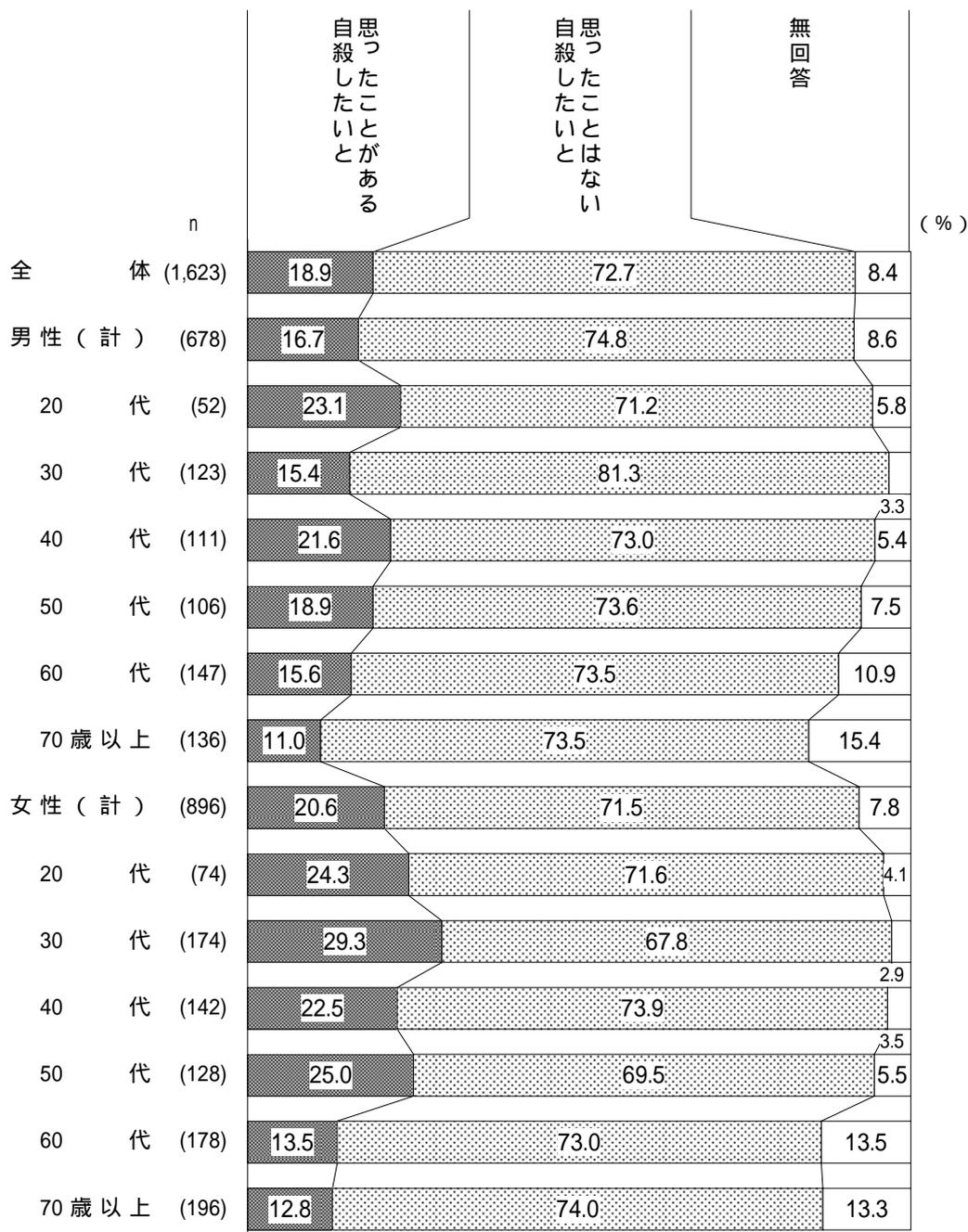


これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがあるか聞いたところ、「自殺したいと思ったことがある」(18.9%)が2割近く、「自殺したいと思ったことはない」(72.7%)が7割を超えている。(図7 - 2 - 1)

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「自殺したいと思ったことがある」は女性30代（29.3%）でほぼ3割と高くなっている。一方、「自殺したいと思ったことはない」は男性30代（81.3%）で8割を超え高くなっている。（図7 - 2 - 2）

図7 - 2 - 2 本気で自殺したいと考えたことがあるか - 性別、性・年代別

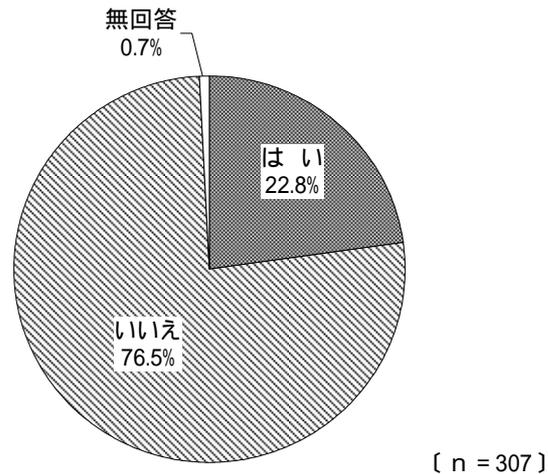


( 2 - 1 ) 最近 1 年以内に自殺したいと考えたことがあるか  
自殺したいと考えたことがある人は 2 割を超えている

( 問24で「自殺したいと思ったことがある」とお答えの方に )

問24 - 1 最近 1 年以内に自殺したいと思ったことがありますか。( は 1 つだけ )

図 7 - 3 - 1 最近 1 年以内に自殺したいと考えたことがあるか

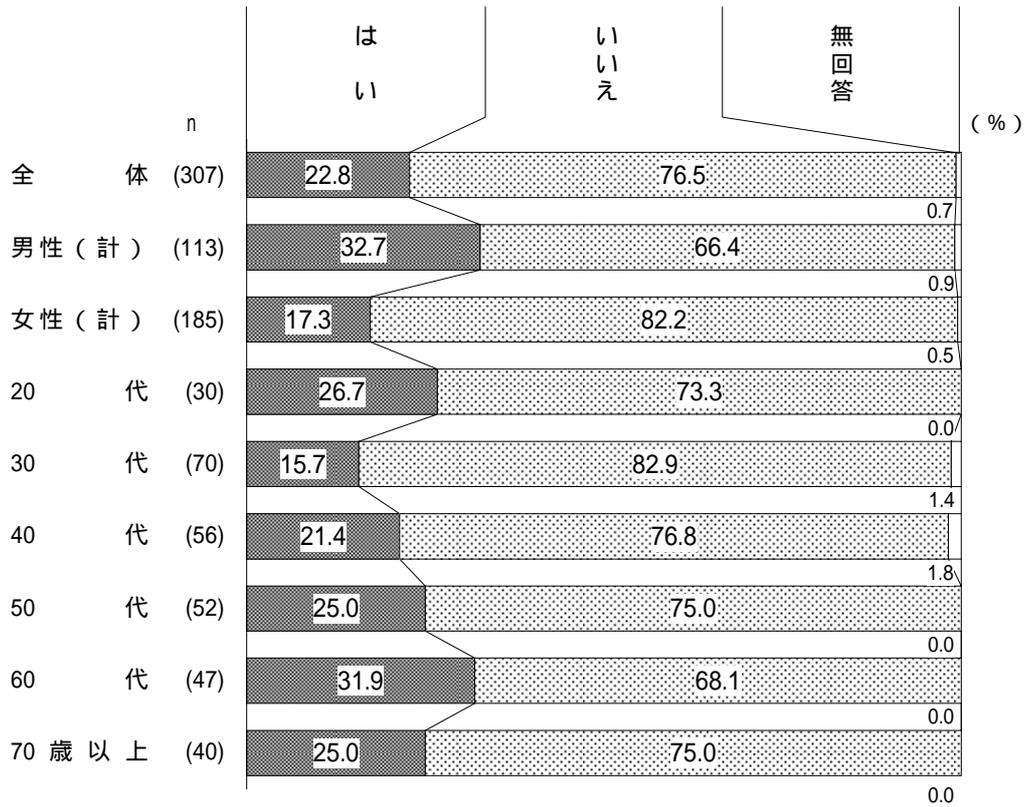


これまでの人生のなかで、「自殺したいと思ったことがある」人( 307 人 )に、最近 1 年以内に自殺したいと思ったことがあるか聞いたところ、「はい」( 22.8% )が 2 割を超え、「いいえ」( 76.5% )が 8 割近くとなっている。( 図 7 - 3 - 1 )

性別で見ると、男性で「はい」（32.7%）が女性（17.3%）より 15.4 ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「はい」は60代（31.9%）で3割を超え高くなっている。一方、「いいえ」は30代（82.9%）で8割を超え高くなっている。（図7 - 3 - 2）

図7 - 3 - 2 最近1年以内に自殺したいと考えたことがあるか - 性別、年代別



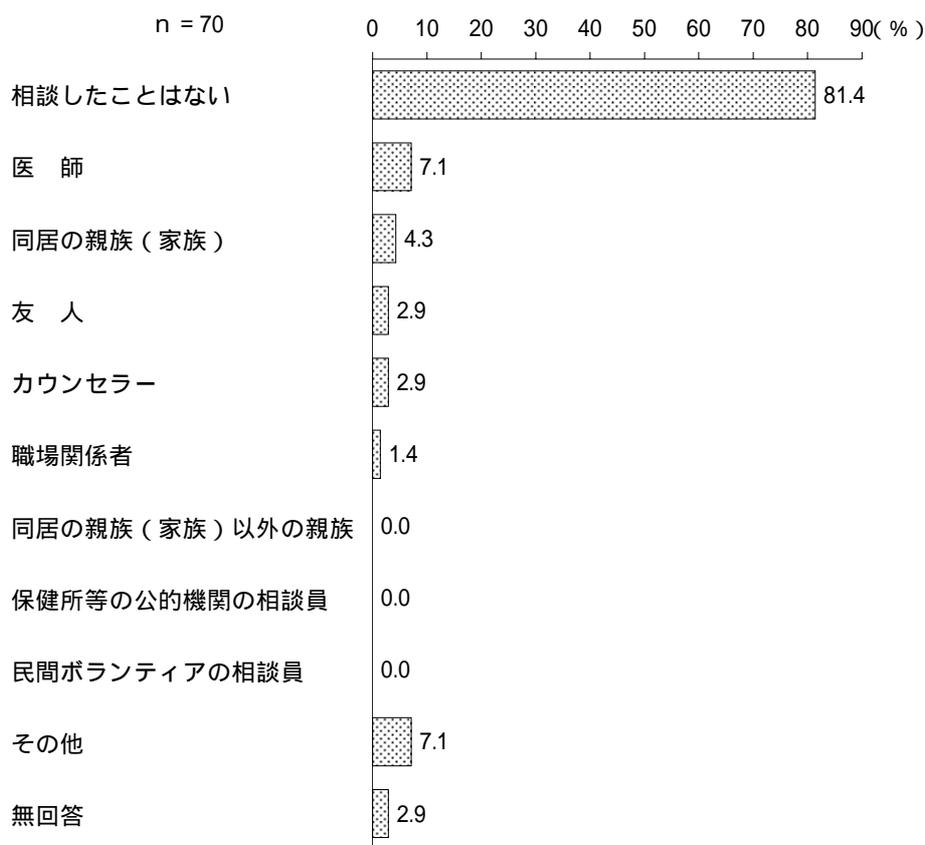
( 2 - 2 ) 自殺しようと考えたとき相談した相手  
「相談したことはない」が8割を超えている

( 問24 - 1で「はい」とお答えの方に )

問24 - 2 自殺しようと考えたとき、誰かに相談したことがありますか。相談した相手の方について、以下の中で該当するものにつけてください。

( はあてはまるものすべて )

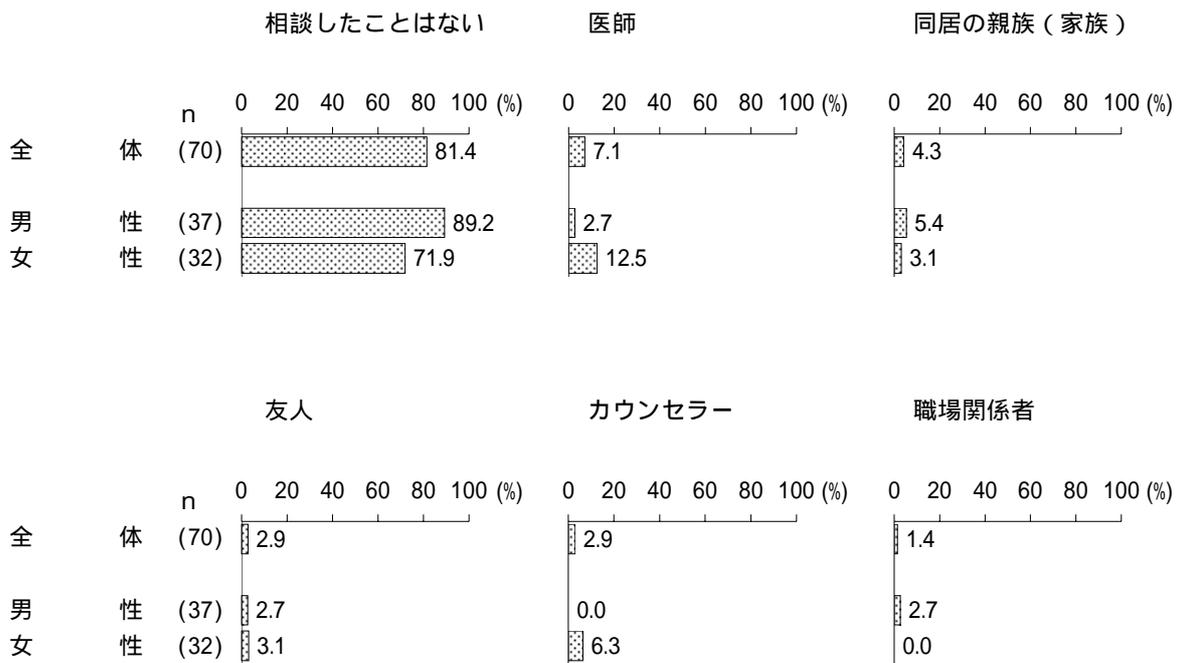
図7 - 4 - 1 自殺しようと考えたとき相談した相手



最近1年以内に自殺したいと思ったことがある人(70人)に、自殺しようと考えたとき、誰かに相談したことがあるか聞いたところ、「相談したことはない」(81.4%)が8割を超えている。また、相談した人の中では、「医師」(7.1%)が最も高く、次いで「同居の親族(家族)」(4.3%)、「友人」と「カウンセラー」(ともに2.9%)の順となっているが、いずれも1割未満となっている。(図7 - 4 - 1)

性別で見ると、男性で「相談したことはない」(89.2%)は女性(71.9%)より17.3ポイント高くなっている。一方、女性で「医師」(12.5%)が男性(2.7%)より9.8ポイント高くなっている。(図7-4-2)

図7-4-2 自殺しようと思ったとき相談した相手 - 性別(上位6位)



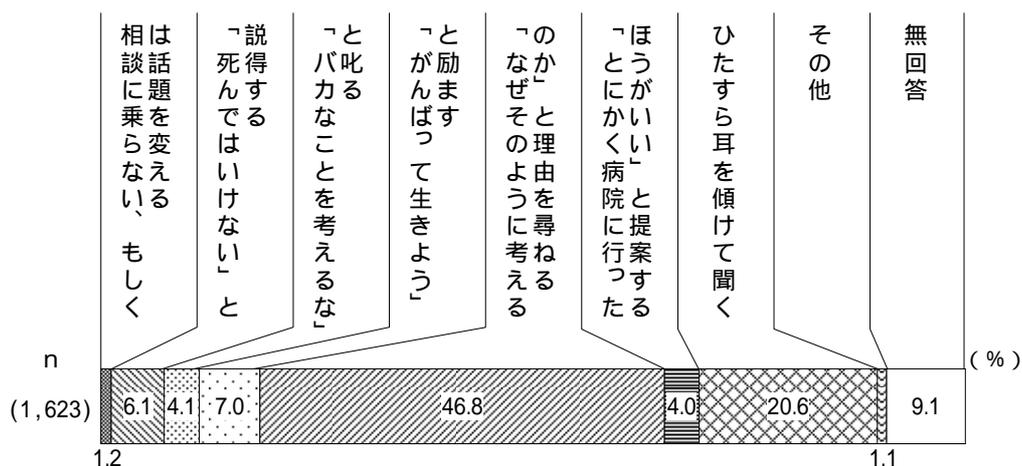
(3) 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応

【「なぜそのように考えるのか」と理由を尋ねる】が5割近くで最も高い

問25 もしも、あなたが身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、まずはどのように対応しますか。あなたの考えに最も近いもの一つだけに をつけてください。

( は1つだけ)

図7-5-1 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応

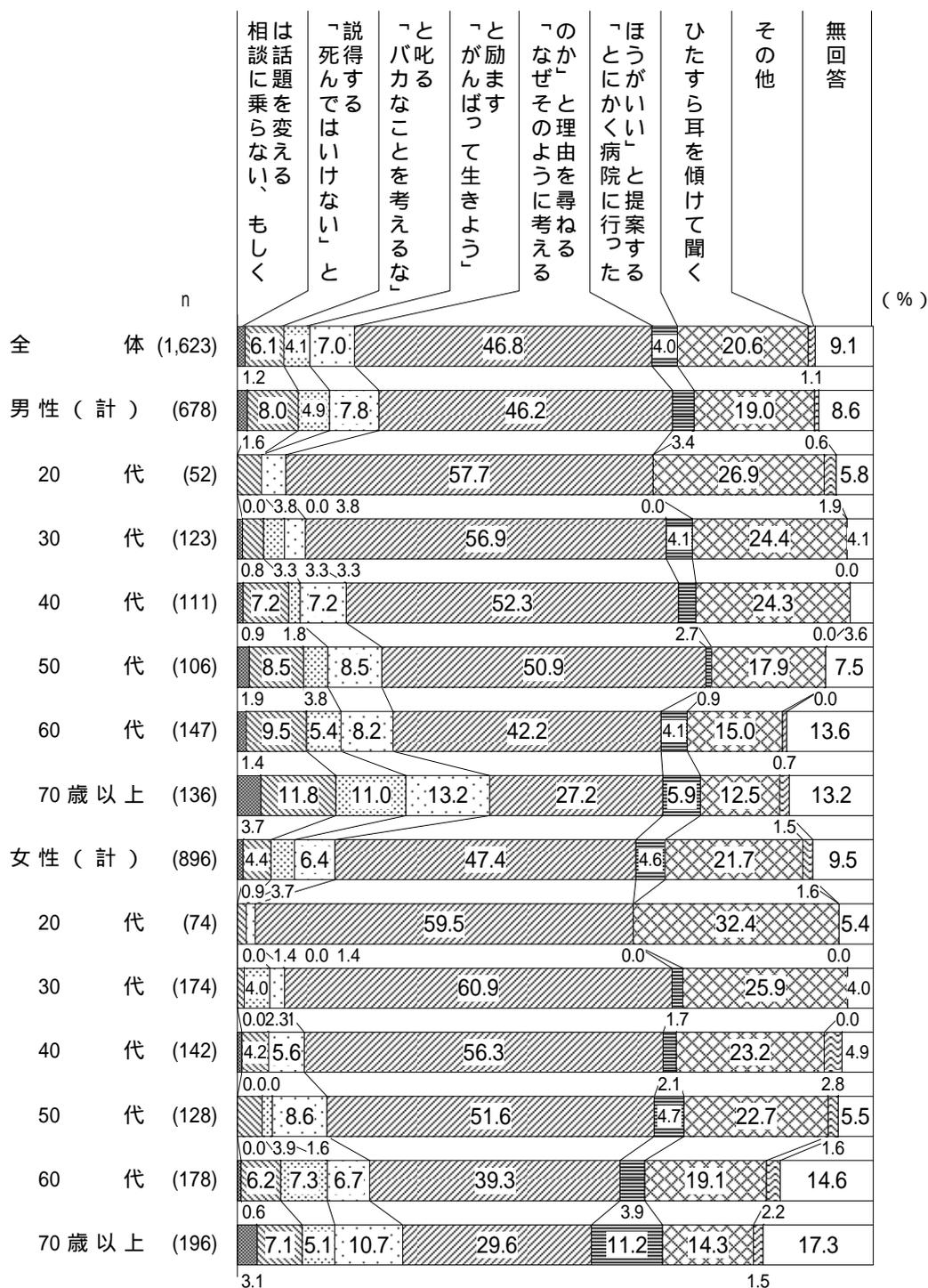


もしも、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、まずはどのように対応するか聞いたところ、【「なぜそのように考えるのか」と理由を尋ねる】(46.8%)が5割近くで最も高く、次いで【ひたすら耳を傾けて聞く】(20.6%)、【「がんばって生きよう」と励ます】(7.0%)【「死んではいけない」と説得する】(6.1%)の順となっている。(図7-5-1)

性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、【「なぜそのような考えるのか」と理由を尋ねる】は女性20代（59.5%）と女性30代（60.9%）で6割前後、男性20代（57.7%）、30代（56.9%）で6割近くと高くなっている。また、【ひたすら耳を傾けて聞く】は女性20代（32.4%）で3割を超え高くなっている。（図7-5-2）

図7-5-2 身近な人から「死にたい」と打ち明けられたときの対応 - 性別、性・年代別





## 8 高齢者等に対する介護

- 
- ( 1 ) 「成年後見制度」の認知度
  - ( 2 ) 介護が必要な家族がいるか
    - ( 2 - 1 ) 介護が必要な方との関係
    - ( 2 - 2 ) 介護が必要な方のお住まいの場所
  - ( 3 ) 介護をしているか
    - ( 3 - 1 ) 介護をしているなかで困っていること
-



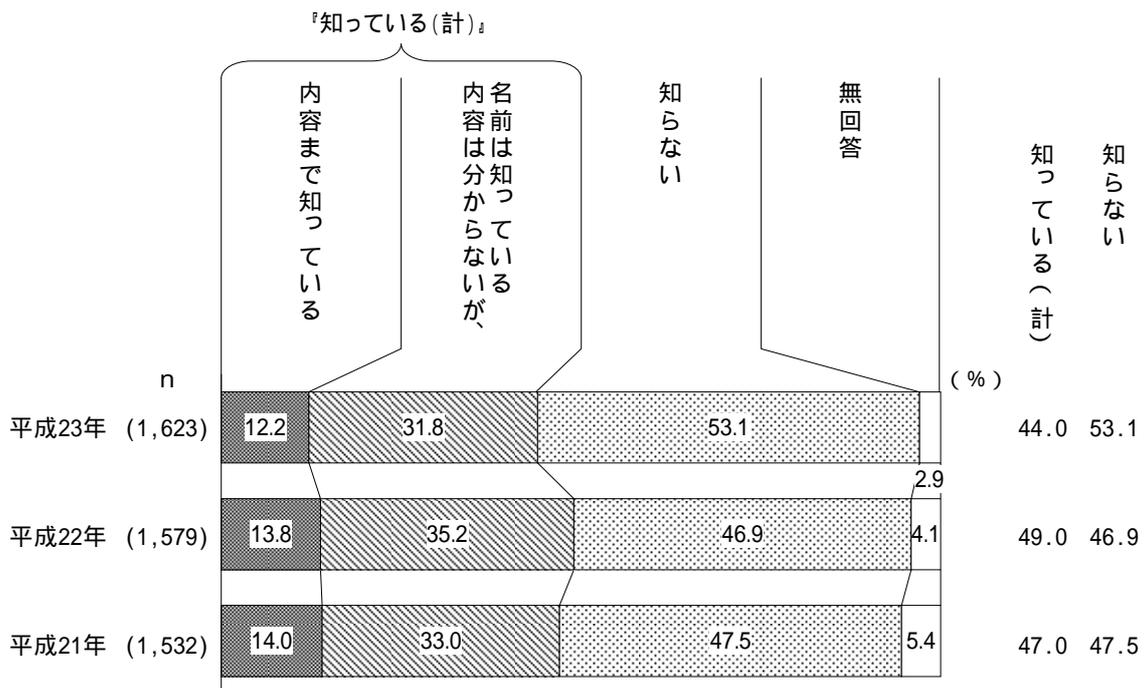
## 8 高齢者等に対する介護

### (1) 「成年後見制度」の認知度

『知っている』人は4割半ば

問26 あなたは、高齢者の権利擁護に関する、「成年後見制度」についてご存知ですか。  
(は1つだけ)

図8-1-1 「成年後見制度」の認知度 - 過年度比較



高齢者の権利擁護に関する、「成年後見制度」について知っているか聞いたところ、「内容は分らないが、名前は知っている (31.8%)」が3割を超え、これに「内容まで知っている (12.2%)」を合わせた『知っている(計)』(44.0%)が4割半ばとなっている。

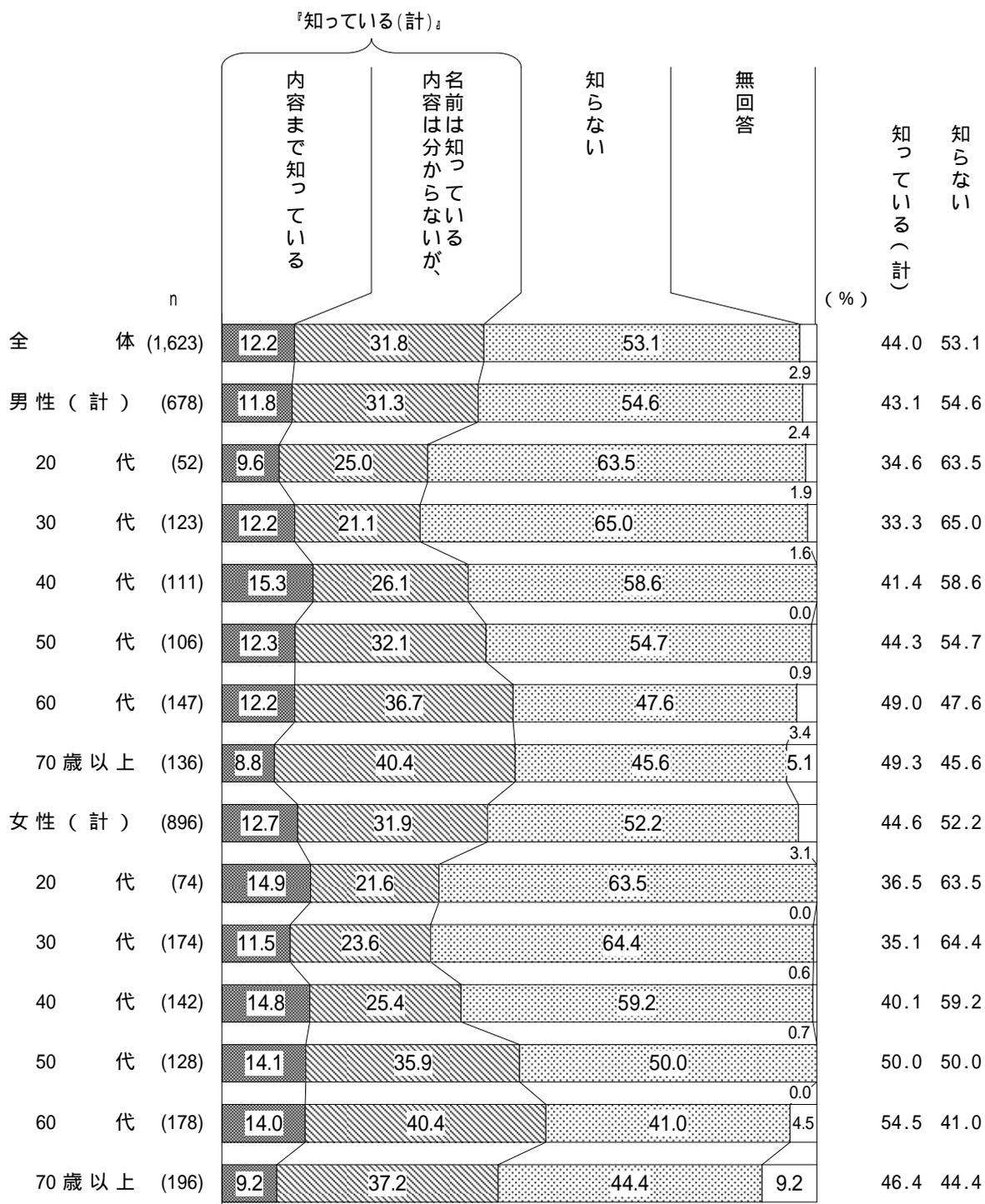
過去の調査と比較すると、「知らない」は平成22年より6.2ポイント高くなっている。

(図8-1-1)

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『知っている（計）』は女性60代（54.5%）で5割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は男女とも20代と30代の年代で6割以上を占めている。（図8-1-2）

図8-1-2 「成年後見制度」の認知度 - 性別、性・年代別



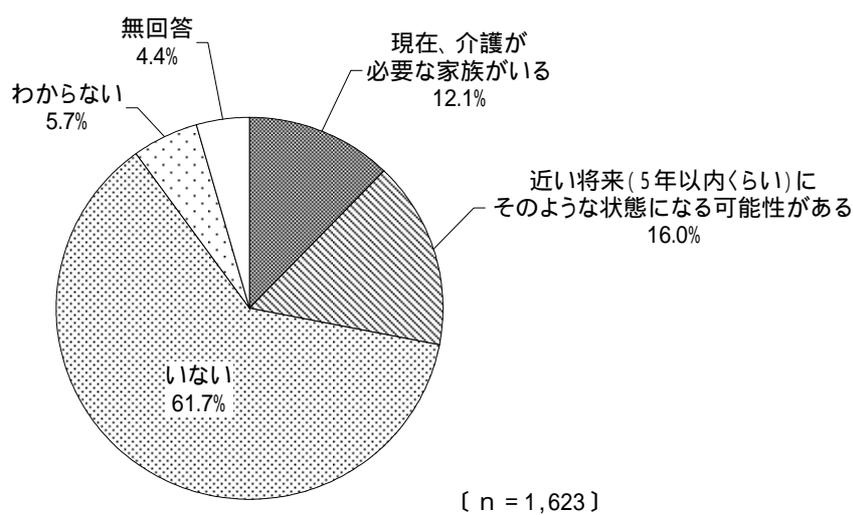
(2) 介護が必要な家族がいるか

「現在、介護が必要な家族がいる」人が1割を超え、「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」人が1割半ば

問27 あなたのご家族には、ご自身を除いて介護が必要な方がいらっしゃいますか。

( は1つだけ )

図8 - 2 - 1 介護が必要な家族がいるか

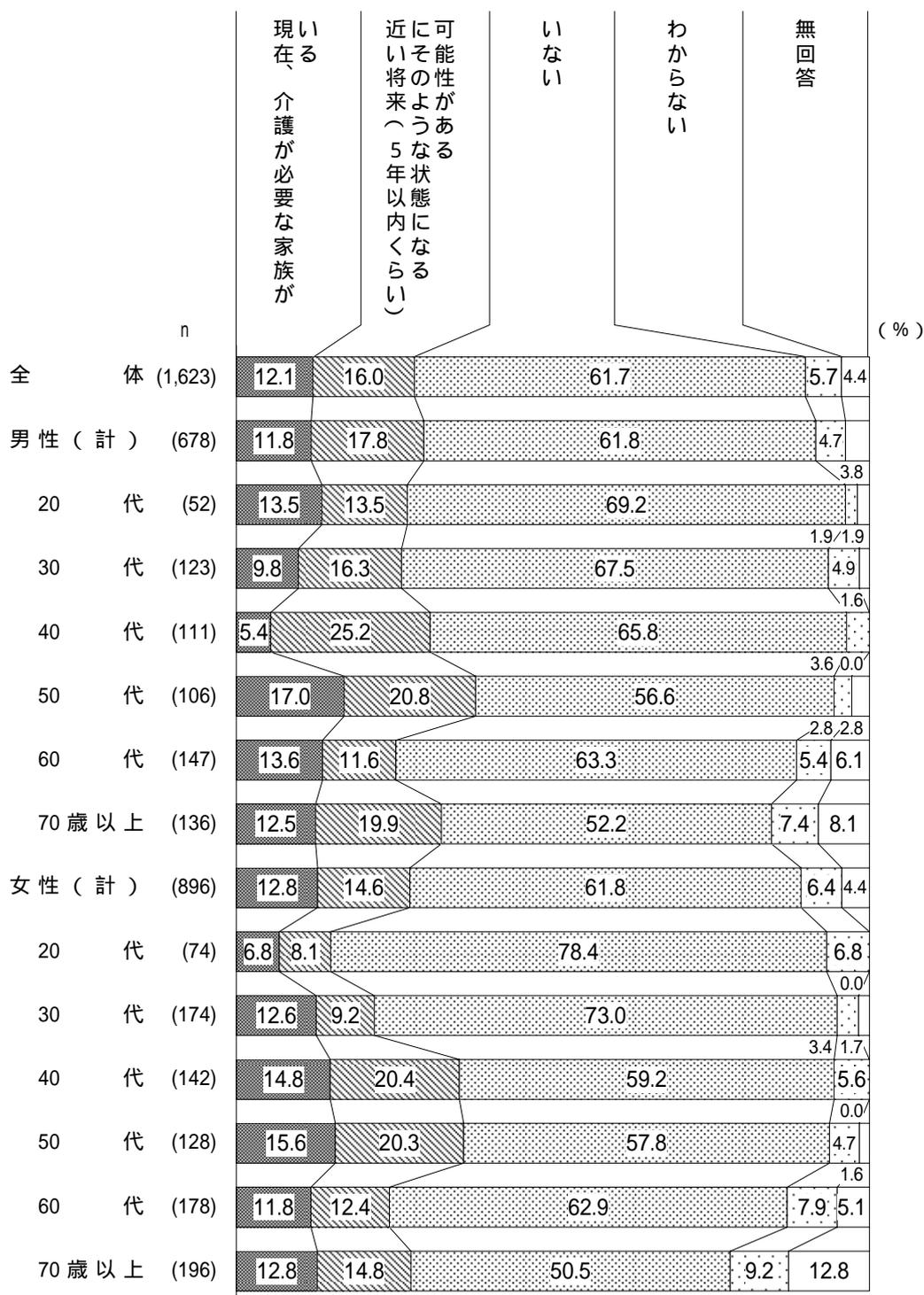


家族に介護が必要な人がいるか聞いたところ、「いない」(61.7%)が6割を超えている。また、「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」(16.0%)が1割半ば、「現在、介護が必要な家族がいる」(12.1%)が1割を超えている。(図8 - 2 - 1)

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「近い将来（5年以内くらい）にそのような状態になる可能性がある」は男女とも40代、50代で2割を超えているが、特に男性40代（25.2%）で2割半ばと高くなっている。一方、「いない」は女性20代（78.4%）で8割近く、女性30代（73.0%）で7割を超え高くなっている。（図8-2-2）

図8-2-2 介護が必要な家族がいるか - 性別、性・年代別



( 2 - 1 ) 介護が必要な方との関係

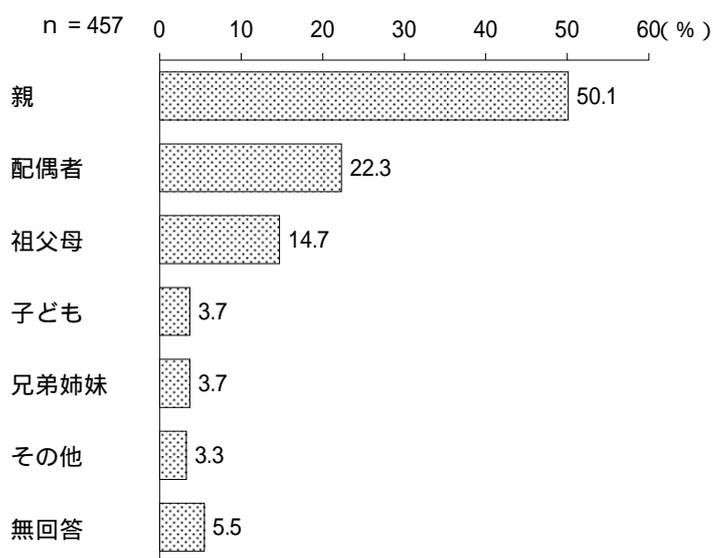
「親」が5割、「配偶者」が2割を超えている

( 問27で「現在、介護が必要な家族がいる」又は「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」とお答えの方に )

問27 - 1 あなたの介護が必要な方との関係はどのようなものですか。

( はあてはまるものすべて )

図 8 - 3 - 1 介護が必要な方との関係

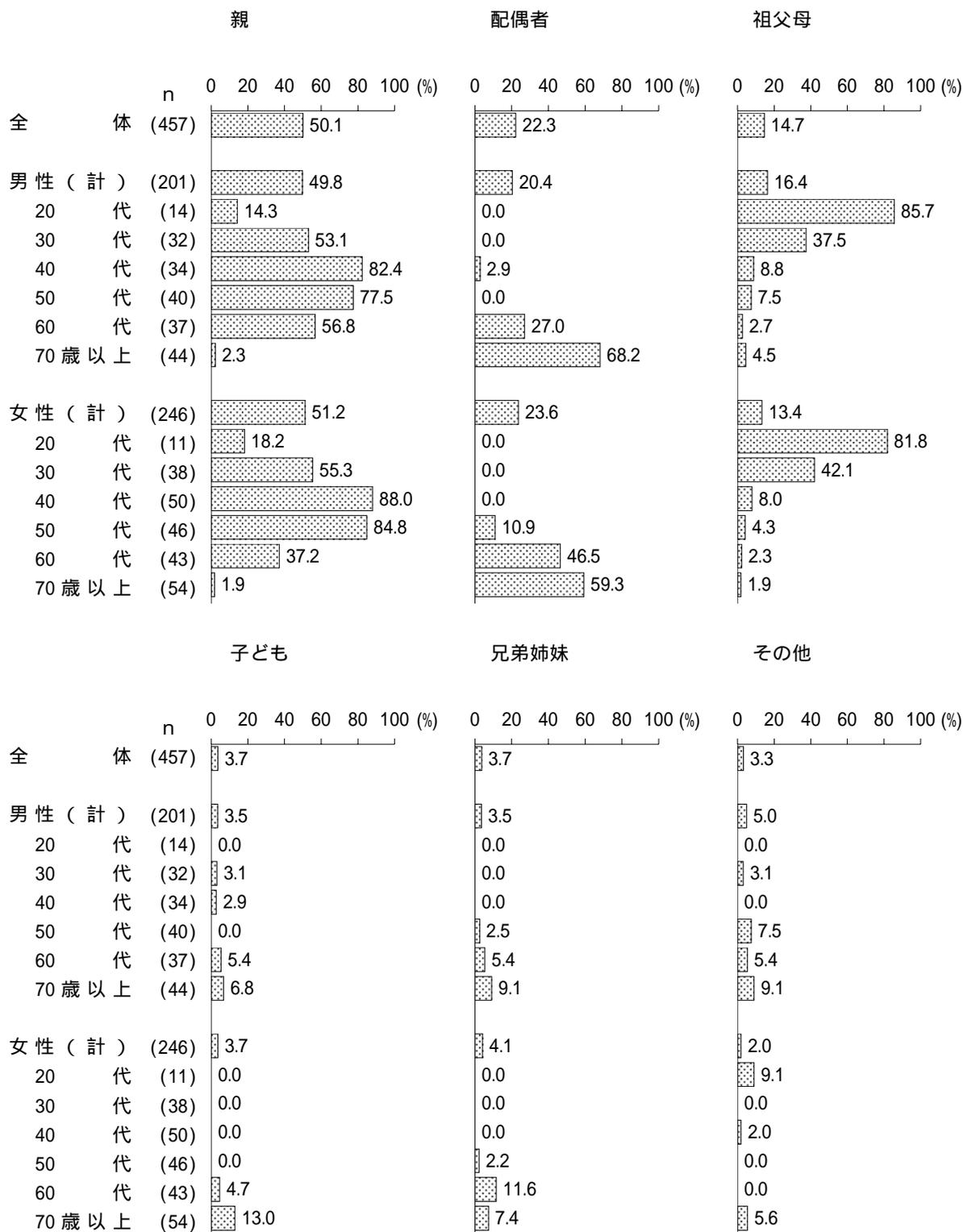


家族に「現在、介護が必要な家族がいる」又は「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」人(457人)に、介護が必要な方との関係を聞いたところ、「親」(50.1%)が5割で最も高く、次いで「配偶者」(22.3%)、「祖父母」(14.7%)、「子ども」と「兄弟姉妹」(ともに3.7%)の順となっている。(図8-3-1)

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「親」が男女とも40代と50代の年代で7割以上を占めている。また、「配偶者」は男性70歳以上(68.2%)で7割近く、女性70歳以上(59.3%)でほぼ6割、女性60代(46.5%)で5割近くと高く、「祖父母」は男女とも20代(男性85.7%・女性81.8%)で8割以上を占めている。(図8-3-2)

図8-3-2 介護が必要な方との関係 - 性別、性・年代別



( 2 - 2 ) 介護が必要な方のお住まいの場所

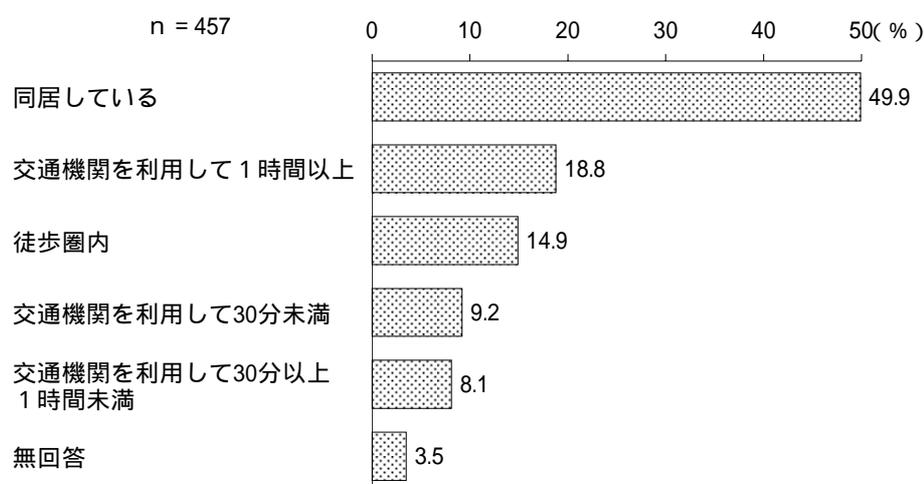
「同居している」が5割

( 問27で「現在、介護が必要な家族がいる」又は「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」とお答えの方に )

問27 - 2 あなたの介護が必要な方のお住まいの場所はどちらになりますか。

( はあてはまるものすべて )

図 8 - 4 - 1 介護が必要な方のお住まいの場所

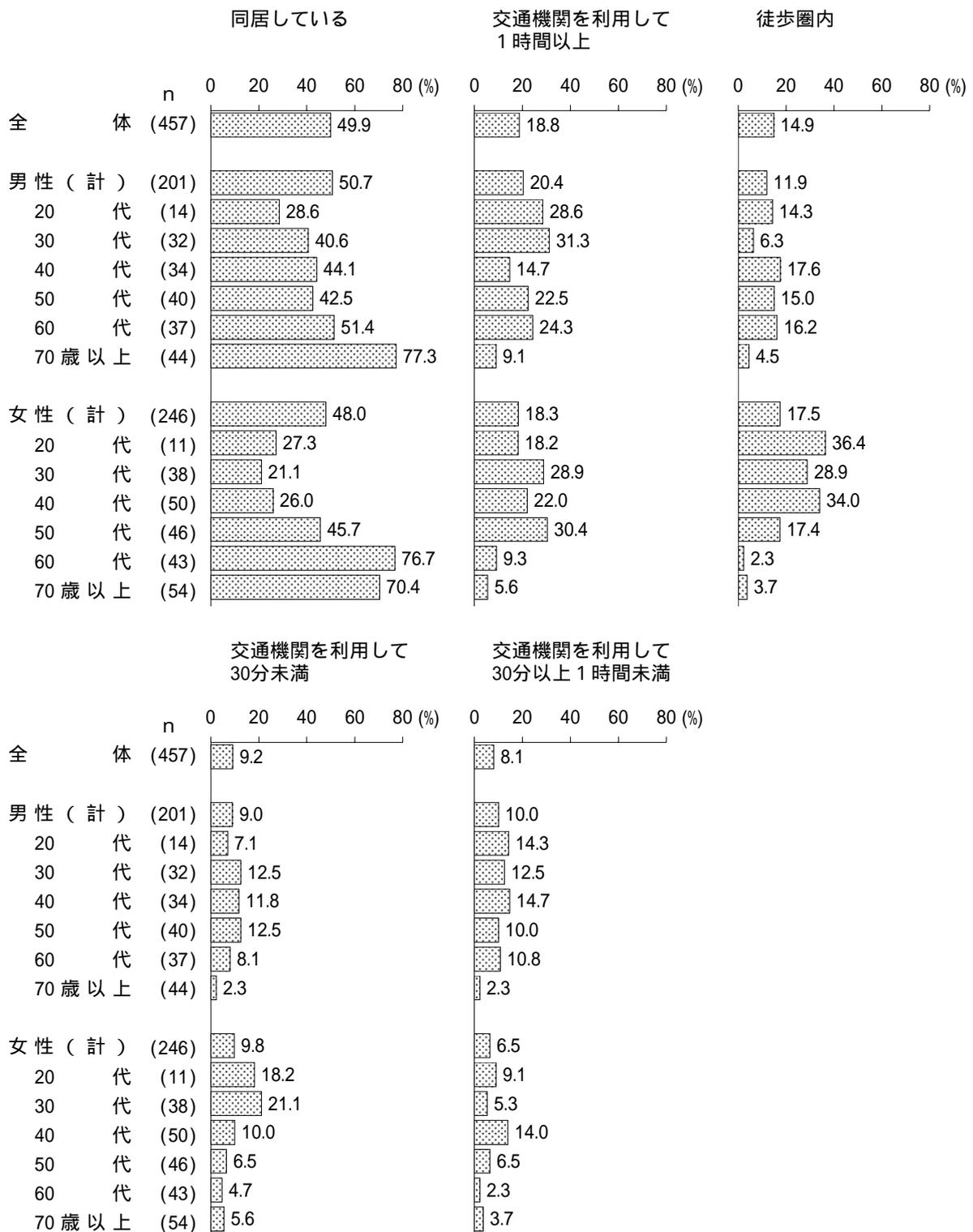


家族に「現在、介護が必要な家族がいる」又は「近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」人(457人)に、介護が必要な方の住まいの場所を聞いたところ、「同居している」(49.9%)が5割で最も高く、次いで「交通機関を利用して1時間以上」(18.8%)、「徒歩圏内」(14.9%)、「交通機関を利用して30分未満」(9.2%)、「交通機関を利用して30分以上1時間未満」(8.1%)の順となっている。(図8-4-1)

性別で見ると、女性で「徒歩圏内」(17.5%)が男性(11.9%)より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「同居している」は男性70歳以上(77.3%)と女性60代(76.7%)で8割近く、女性70歳以上(70.4%)で7割と高くなっている。また、「徒歩圏内」は女性20代(36.4%)と女性40代(34.0%)で3割半ばと高くなっている。(図8-4-2)

図8-4-2 介護が必要な方のお住まいの場所 - 性別、性・年代別

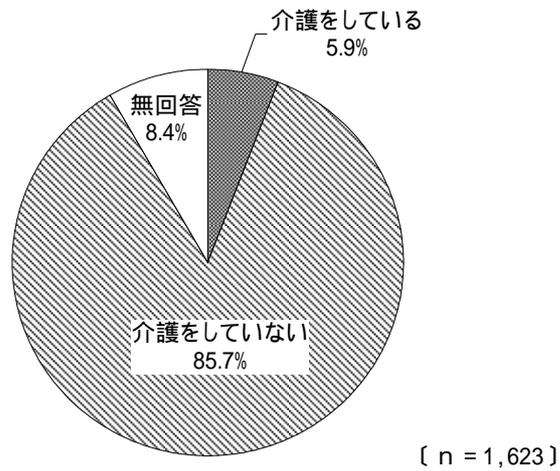


(3) 介護をしているか

「介護をしていない」人が8割半ば

問28 現在、あなたは実際に介護をしていますか。( は1つだけ)

図8 - 5 - 1 介護をしているか

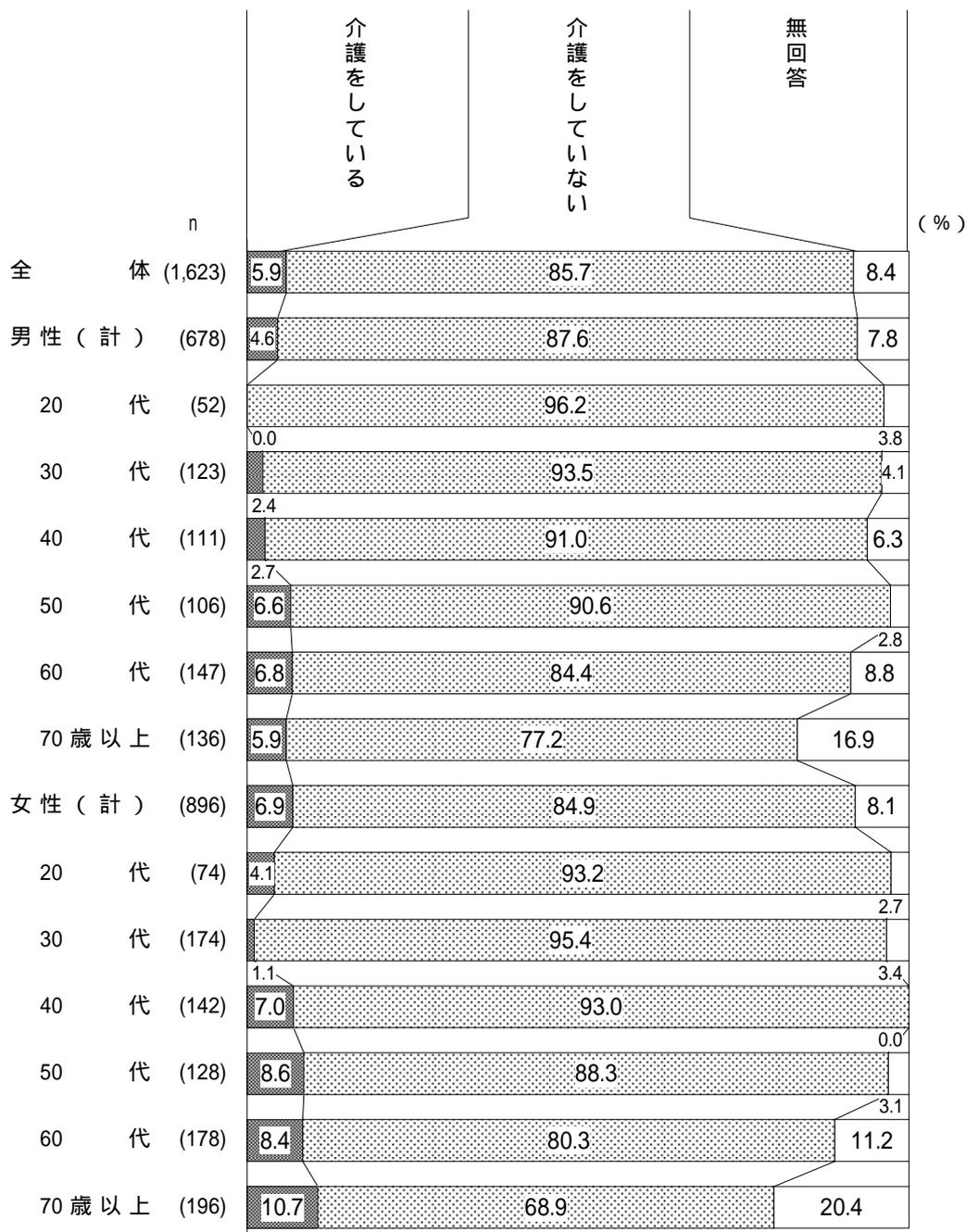


現在、実際に介護をしているか聞いたところ、「介護をしている」が5.9%、「介護をしていない」(85.7%)が8割半ばとなっている。(図8 - 5 - 1)

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「介護をしている」は女性70歳以上（10.7%）でほぼ1割と高くなっている。また、「介護をしていない」は男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男女とも60代以下の年代では8割以上を占めている。（図8 - 5 - 2）

図8 - 5 - 2 介護をしているか - 性別、性・年代別



( 3 - 1 ) 介護をしているなかで困っていること

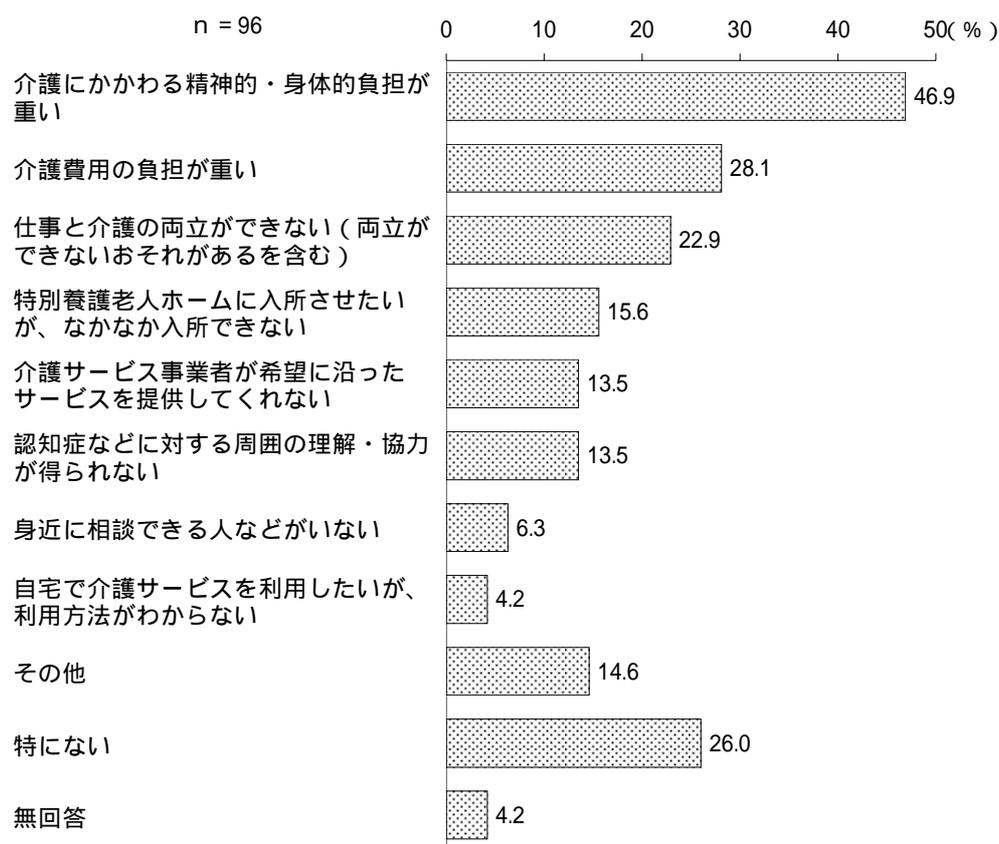
「介護にかかわる精神的・身体的負担が重い」が5割近くで最も高い

( 問28で「介護をしている」とお答えの方に )

問28 - 1 介護をしているなかで困っていることはどんなことですか。

( はあてはまるものすべて )

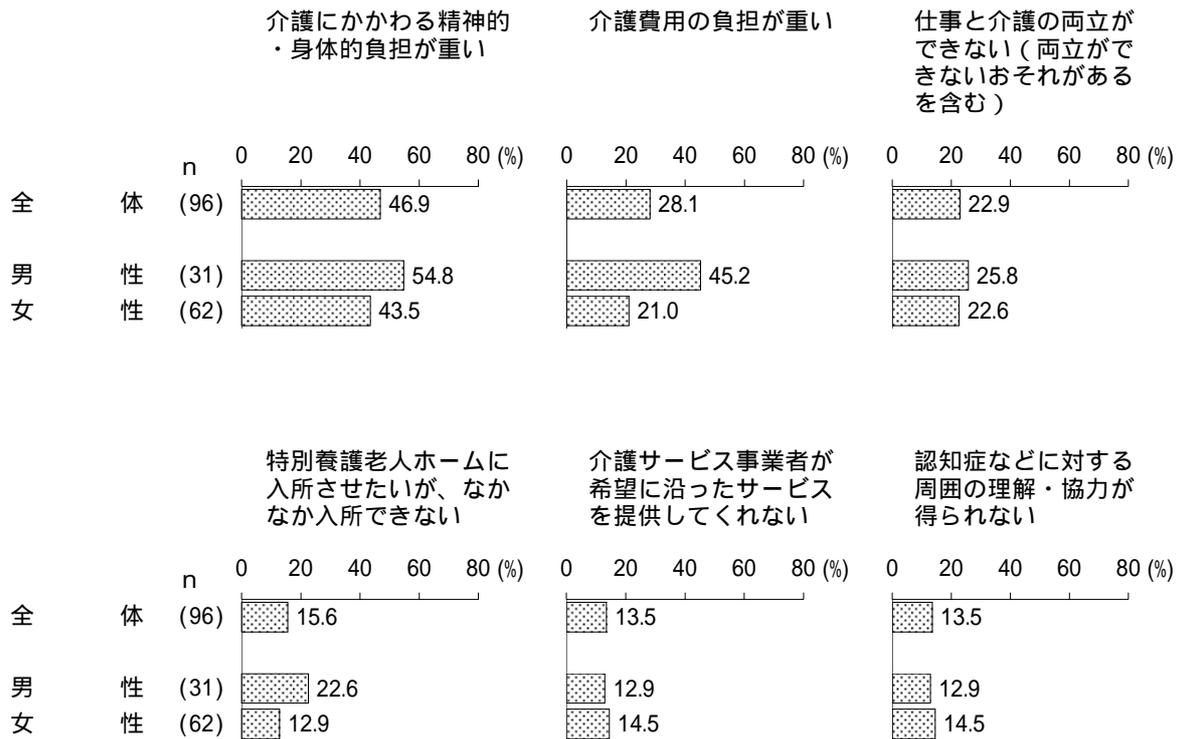
図 8 - 6 - 1 介護をしているなかで困っていること



実際に「介護をしている」人(96人)に、介護をしているなかで困っていることを聞いたところ、「介護にかかわる精神的・身体的負担が重い」(46.9%)が5割近くで最も高く、次いで「介護費用の負担が重い」(28.1%)、「仕事と介護の両立ができない(両立ができないおそれがあるを含む)」(22.9%)、「特別養護老人ホームに入所させたいが、なかなか入所できない」(15.6%)の順となっている。(図8-6-1)

性別で見ると、男性で「介護費用の負担が重い」(45.2%)が女性(21.0%)より24.2ポイント高く、「介護にかかわる精神的・身体的負担が重い」(54.8%)が女性(43.5%)より11.3ポイント高く、「特別養護老人ホームに入所させたいが、なかなか入所できない」(22.6%)が女性(12.9%)より9.7ポイント高くなっている。(図8-6-2)

図8-6-2 介護をしているなかで困っていること - 性別(上位6位)



## 9 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

- 
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度
  - (2) 自転車に鍵をかけているか
    - (2 - 1) 自転車に付いている錠
    - (2 - 2) 駐輪場を利用しているか
  - (3) 地域の変化についての評価
  - (4) 環境のために心がけていること
  - (5) 「クーリング・オフ」制度の認知度
  - (6) この1年間に参加された活動
    - (6 - 1) 引き続き、または今後参加したいと思う活動
  - (7) 区政への参加・協力意向
-



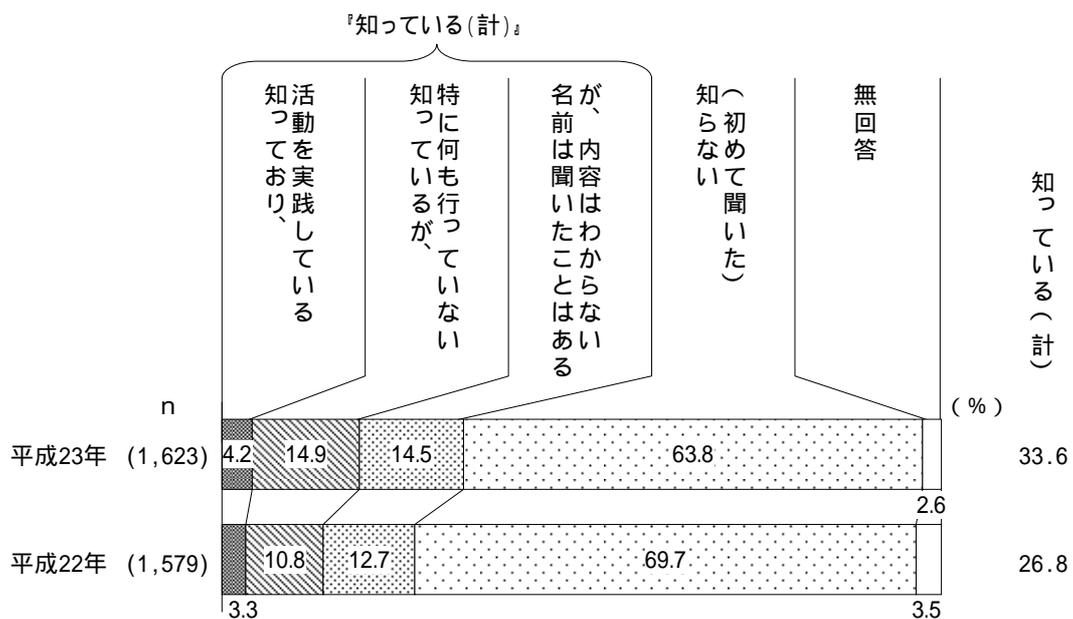
## 9 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

### (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度

『知っている』人が3割を超えている

問29 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動( )」  
という取り組みを知っていますか。( は1つだけ)

図9 - 1 - 1 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度 - 過年度比較



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

足立区が取り組んでいる「ビューティフルウィンドウズ運動」を知っているか聞いたところ、「知っているが、特に何も行ってない」(14.9%)と「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(14.5%)がともに1割半ばで、これに「知っており、活動を実践している」(4.2%)を合わせた『知っている(計)』(33.6%)が3割を超えている。一方、「知らない(初めて聞いた)」(63.8%)が6割を超えている。

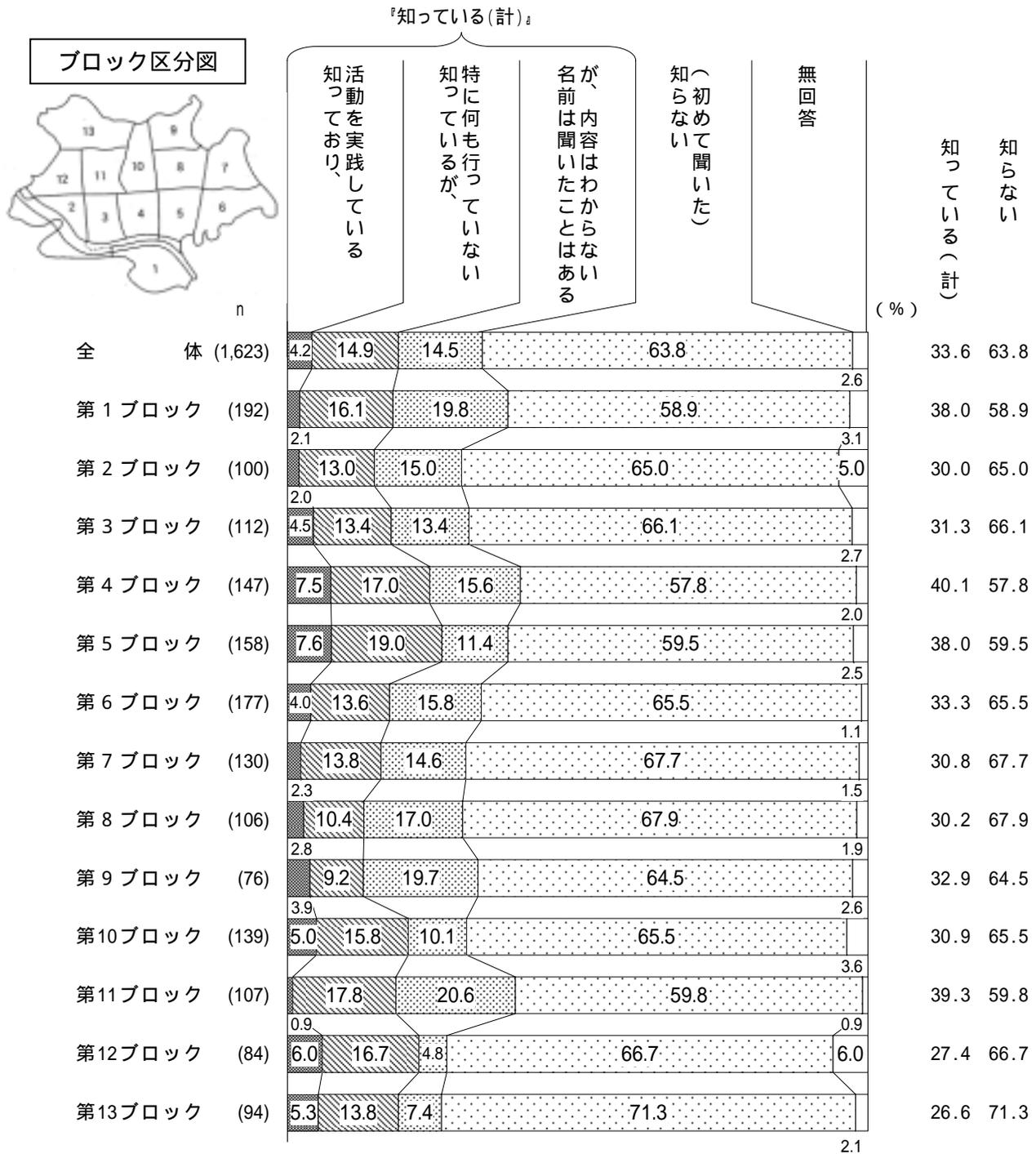
平成22年調査と比較すると、『知っている(計)』は6.8ポイント高くなっている。

(図9 - 1 - 1)

地域ブロック別でみると、『知っている(計)』は第1ブロック(38.0%)、第4ブロック(40.1%)、第5ブロック(38.0%)、第11ブロック(39.3%)で4割前後と高くなっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は第13ブロック(71.3%)で7割を超え高くなっている。

(図9-1-2)

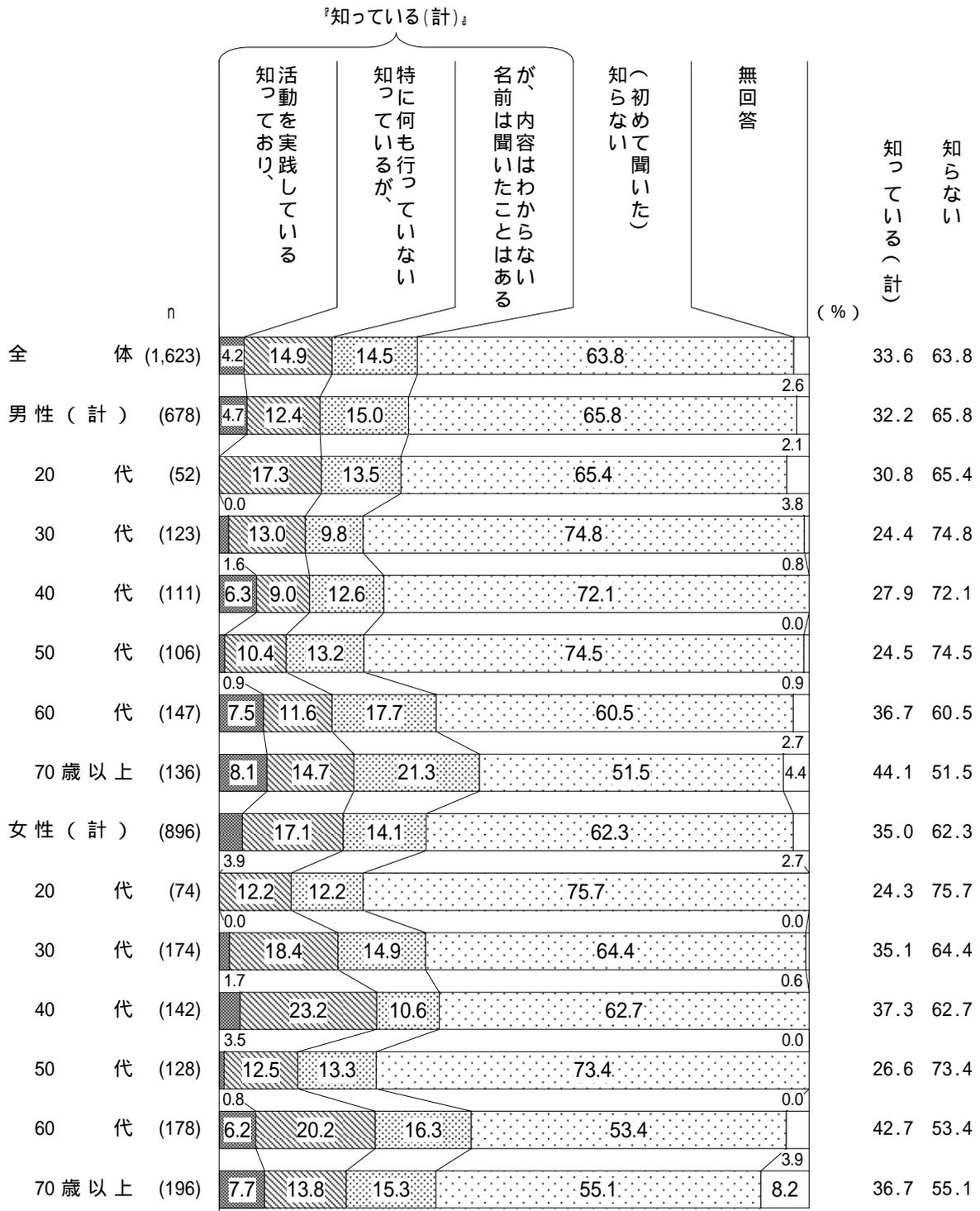
図9-1-2 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度 - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で「知っているが、特に何も行ってない」(17.1%)が男性(12.4%)より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『知っている(計)』は男性70歳以上(44.1%)で4割半ば、女性60代(42.7%)で4割を超え高くなっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は女性20代(75.7%)、男性30代(74.8%)、男性50代(74.5%)で7割半ばと高くなっている。(図9-1-3)

図9-1-3 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度 - 性別、性・年代別

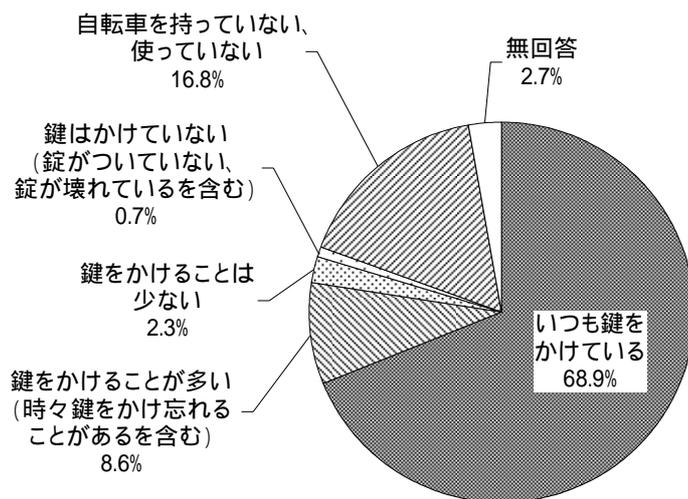


(2) 自転車に鍵をかけているか  
「いつも鍵をかけている」人が7割近く

問30 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。

( は1つだけ )

図9 - 2 - 1 自転車に鍵をかけているか



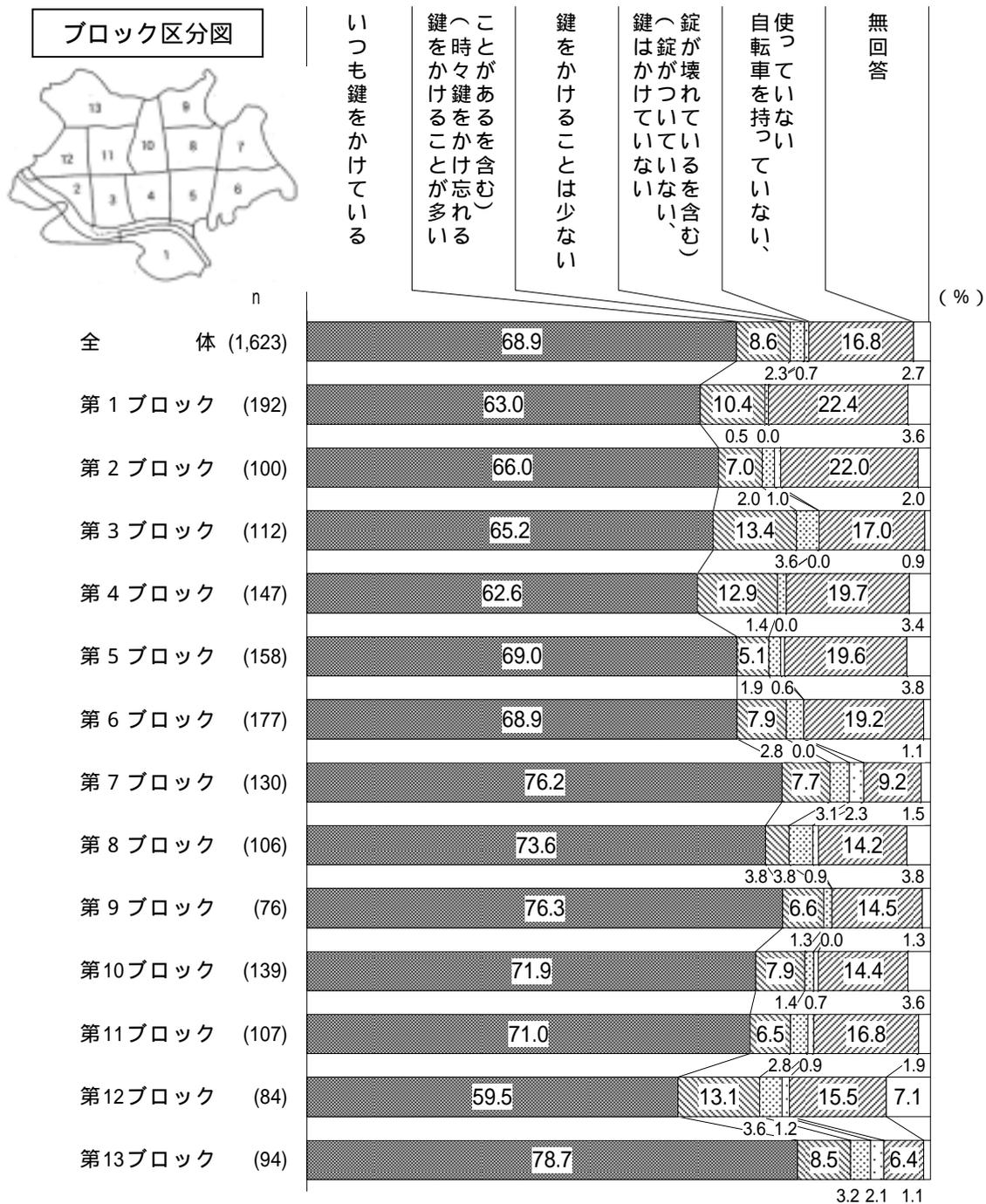
[ n = 1,623 ]

自転車を駐車したときに鍵をかけているか聞いたところ、「いつも鍵をかけている」(68.9%)が7割近くとなっている。また、「鍵をかけることが多い(時々鍵をかけ忘れることがあるを含む)」(8.6%)、「鍵をかけることは少ない」(2.3%)、「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」(0.7%)はいずれも1割未満となっている。(図9 - 2 - 1)

地域ブロック別でみると、「いつも鍵をかけている」は第13ブロック(78.7%)で8割近く、第9ブロック(76.3%)と第7ブロック(76.2%)で7割半ばと高くなっている。一方、第12ブロック(59.5%)は、6割に達していない。また、「自転車を持っていない、使っていない」は第1ブロック(22.4%)と第2ブロック(22.0%)で2割を超え高くなっている。

(図9-2-2)

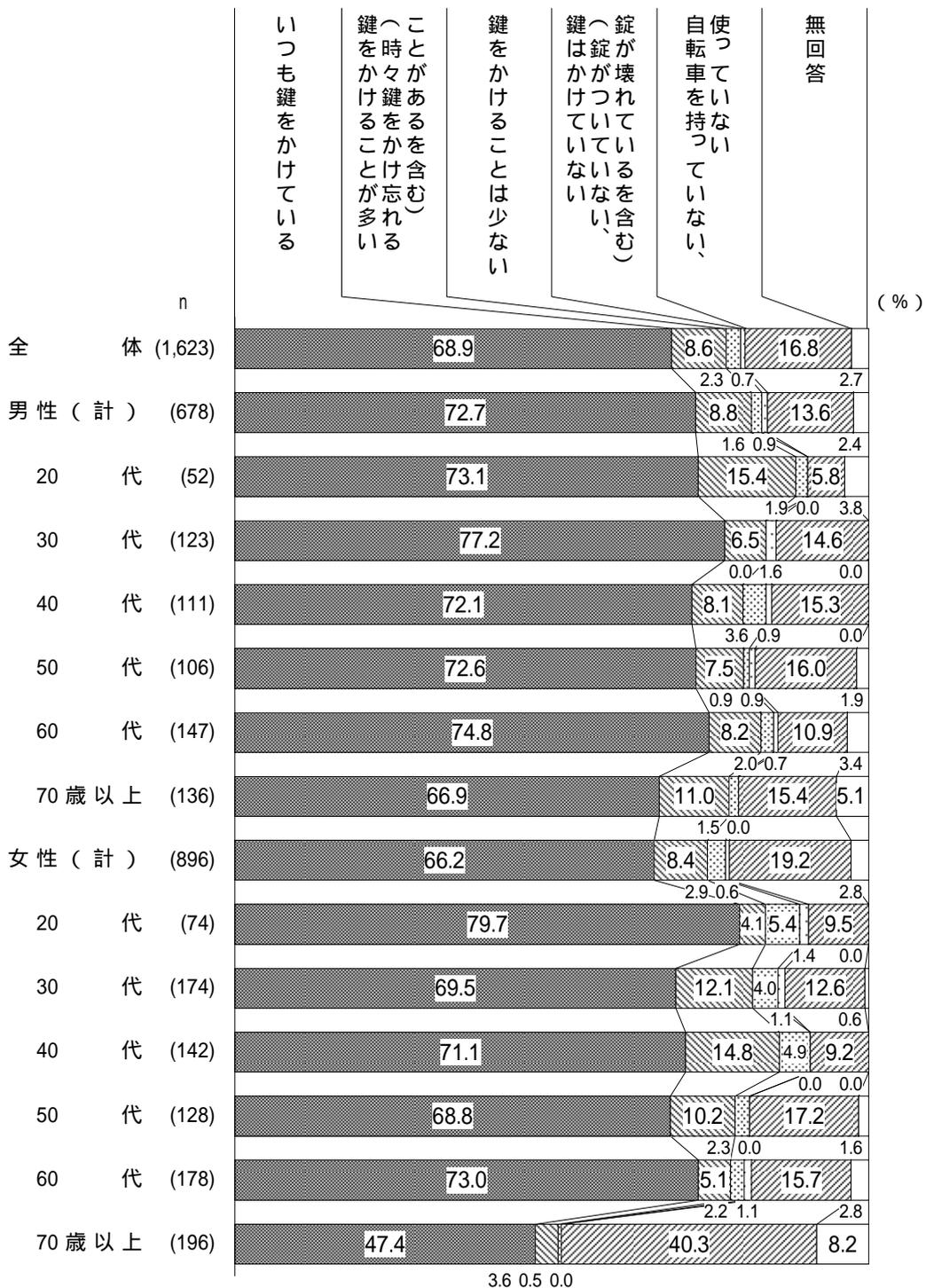
図9-2-2 自転車に鍵をかけているか - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で「いつも鍵をかけている」(72.7%)が女性(66.2%)より6.5ポイント高くなっている。一方、女性で「自転車を持っていない、使っていない」(19.2%)が男性(13.6%)より5.6ポイント高くなっている。

性年代別で見ると、「いつも鍵をかけている」は女性20代(79.7%)で8割、男性30代(77.2%)で8割近くと高くなっている。また、「自転車を持っていない、使っていない」は女性70歳以上(40.3%)で4割と高くなっている。(図9-2-3)

図9-2-3 自転車に鍵をかけているか - 性別、性・年代別



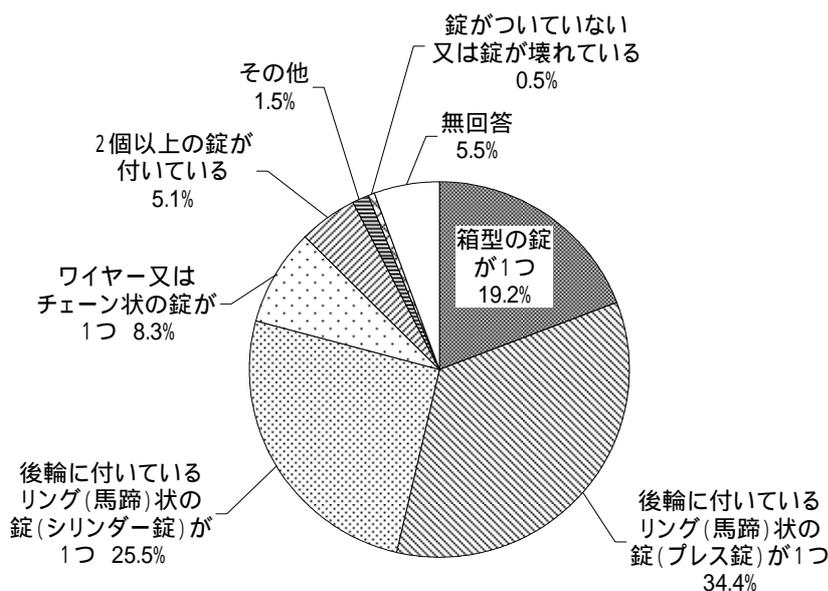
( 2 - 1 ) 自転車に付いている錠

「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(プレス錠)が1つ」が3割半ばで最も高い

(問30で「いつも鍵をかけている」～「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」とお答えの、自転車を使っている方にうかがいます)

問30 - 1 あなたの自転車に付いている錠について教えてください。( は1つだけ)

図9 - 3 - 1 自転車に付いている錠



[ n = 1,306 ]

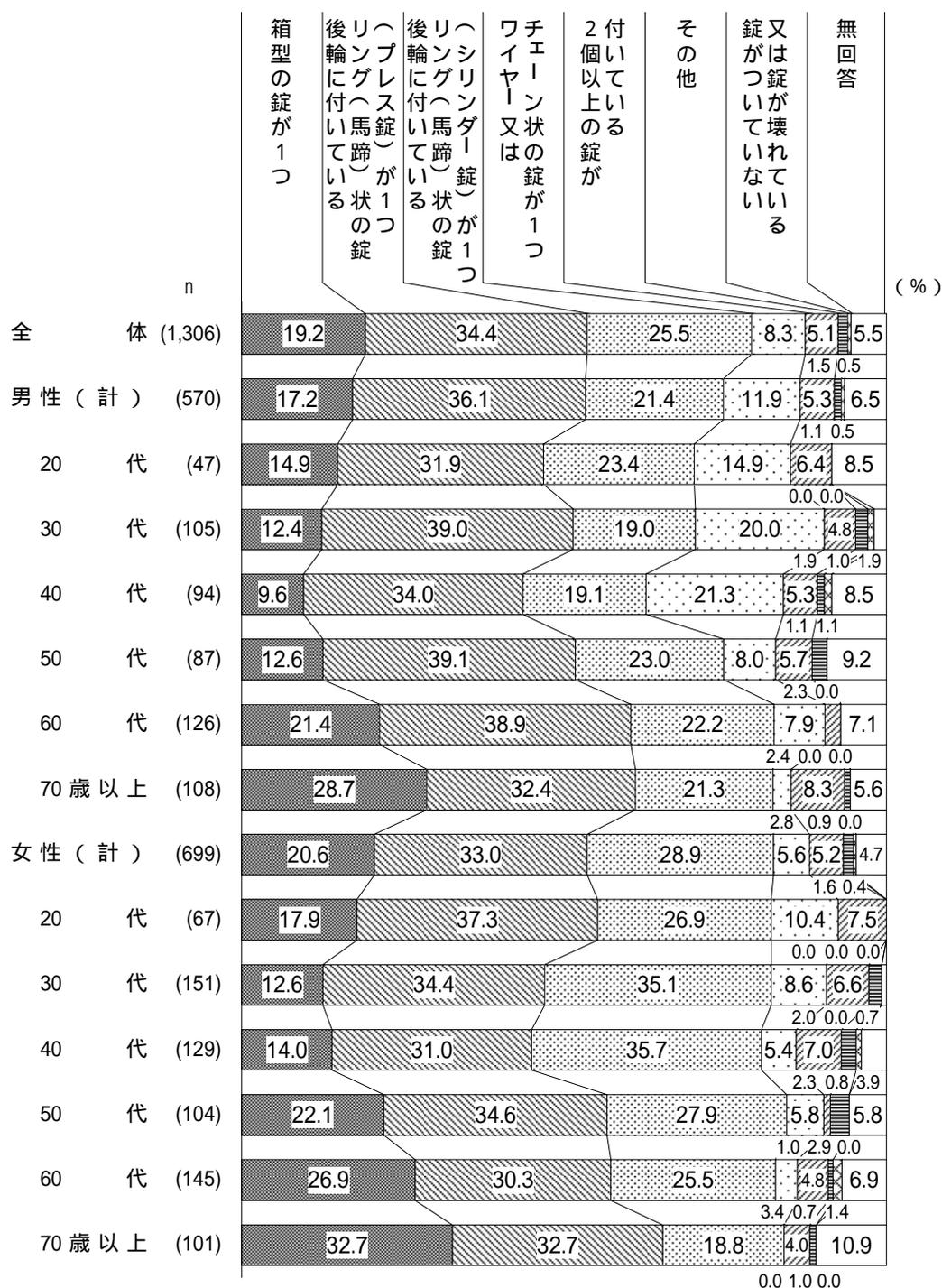
- 箱型の錠.....鍵を入れるとワンタッチで開くタイプ
- プレス錠.....鍵は箱型と同じでワンタッチで開くもの
- シリンダー錠.....入れた鍵を回して開けるタイプのもの

自転車を使っている人(1,306人)に、自転車に付いている錠について聞いたところ、「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(プレス錠)が1つ」(34.4%)が3割半ばで最も高い、次いで「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(シリンダー錠)が1つ」(25.5%)、「箱型の錠が1つ」(19.2%)、「ワイヤー又はチェーン状の錠が1つ」(8.3%)、「2個以上の錠が付いている」(5.1%)の順となっている。また、「錠がついていない又は錠が壊れている」(0.5%)はわずかとなっている。(図9 - 3 - 1)

性別で見ると、女性で「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(シリンダー錠)が1つ」(28.9%)が男性(21.4%)より7.5ポイント高くなっている。一方、男性で「ワイヤー又はチェーン状の錠が1つ」(11.9%)が女性(5.6%)より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「箱型の錠が1つ」は男女とも70歳以上(男性28.7%・女性32.7%)で3割前後と高くなっている。また、「後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠(プレス錠)が1つ」は男性30代(39.0%)、50代(39.1%)、60代(38.9%)と女性20代(37.3%)で4割近くと高く、「ワイヤー又はチェーン状の錠が1つ」は男性40代(21.3%)で2割を超え、男性30代(20.0%)で2割と高くなっている。(図9-3-2)

図9-3-2 自転車に付いている錠 - 性別、性・年代別



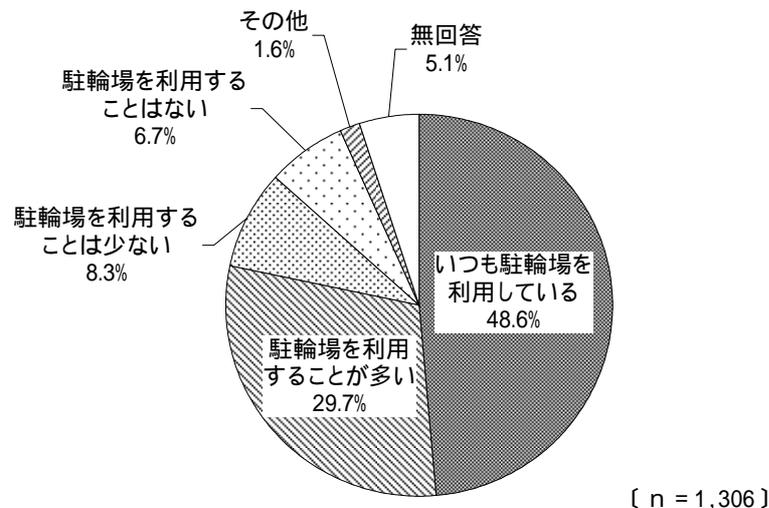
( 2 - 2 ) 駐輪場を利用しているか  
「いつも駐輪場を利用している」人が5割近く

( 問30で「いつも鍵をかけている」～「鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)」とお答えの、自転車を使っている方にかがいます )

問30 - 2 あなたは自転車を駐車するときに、駐輪場を利用していますか。

( は1つだけ )

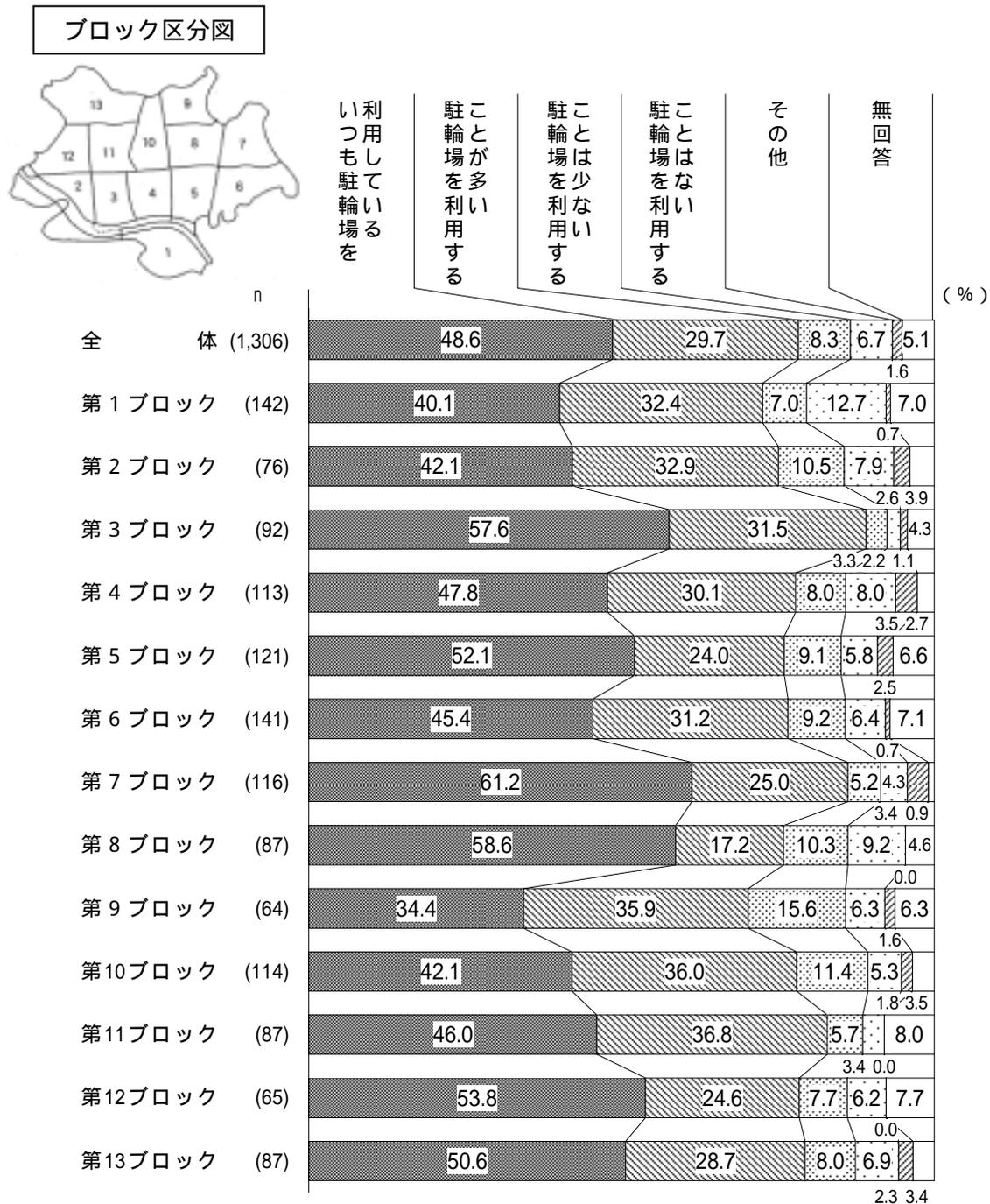
図9 - 4 - 1 駐輪場を利用しているか



自転車を使っている人(1,306人)に、自転車を駐車するときに、駐輪場を利用するか聞いたところ、「いつも駐輪場を利用している」(48.6%)が5割近く、「駐輪場を利用することが多い」(29.7%)が3割となっている。また、「駐輪場を利用することは少ない」(8.3%)と「駐輪場を利用することはない」(6.7%)がともに1割未満となっている。(図9 - 4 - 1)

地域ブロック別でみると、「いつも駐輪場を利用している」は第7ブロック(61.2%)で6割を超え、第8ブロック(58.6%)と第3ブロック(57.6%)で6割近くと高くなっている。また、「駐輪場を利用することは少ない」は第9ブロック(15.6%)で1割半ば、「駐輪場を利用することはない」は第1ブロック(12.7%)で1割を超え高くなっている。(図9-4-2)

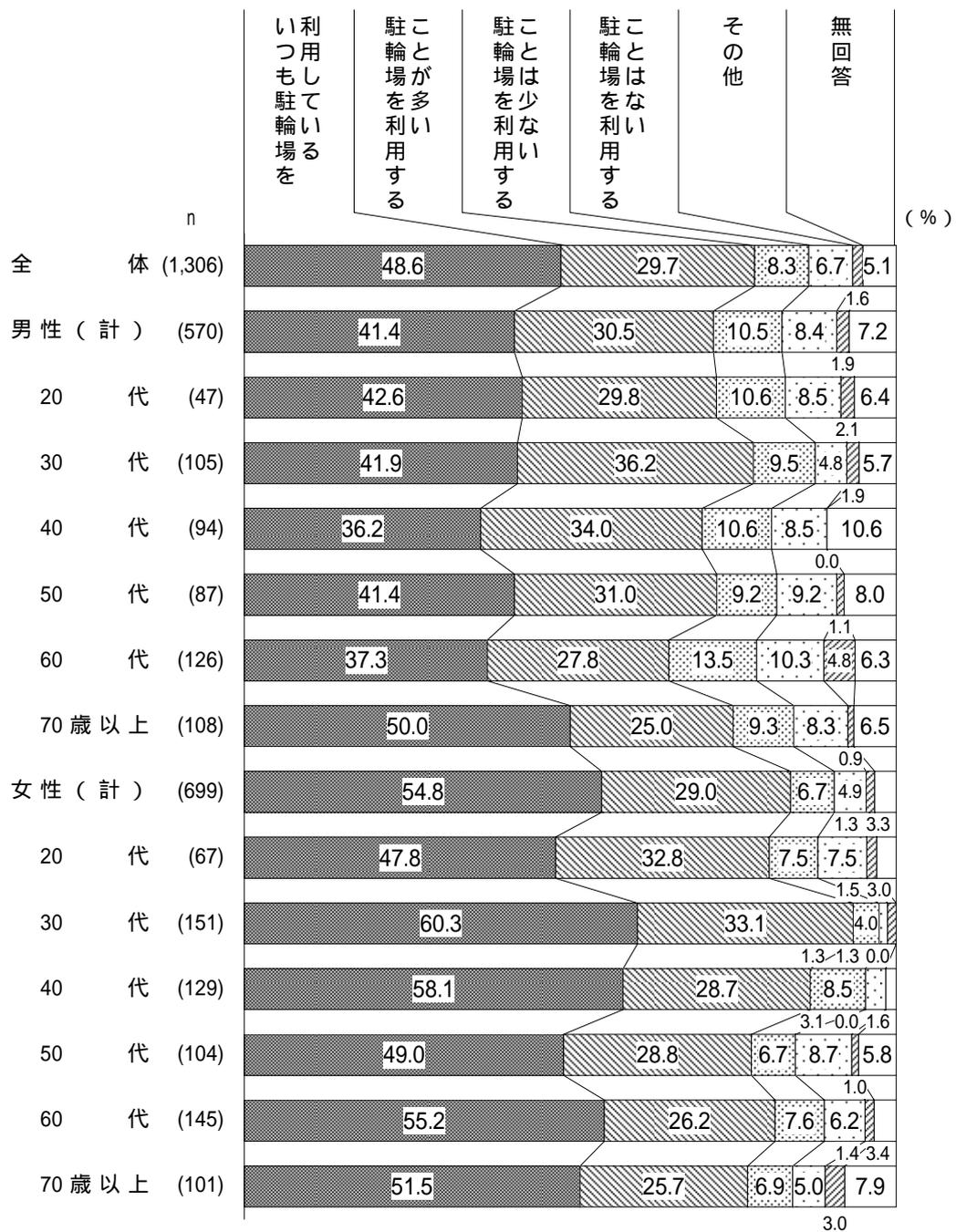
図9-4-2 駐輪場を利用しているか - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で「いつも駐輪場を利用している」(54.8%)が男性(41.4%)より13.4ポイント高くなっている。

性年代別で見ると、「いつも駐輪場を利用している」は女性30代(60.3%)と女性40代(58.1%)で6割前後と高くなっている。また、「駐輪場を利用することが多い」は男性30代(36.2%)で3割半ばと高くなっている。(図9-4-3)

図9-4-3 駐輪場を利用しているか - 性別、性・年代別

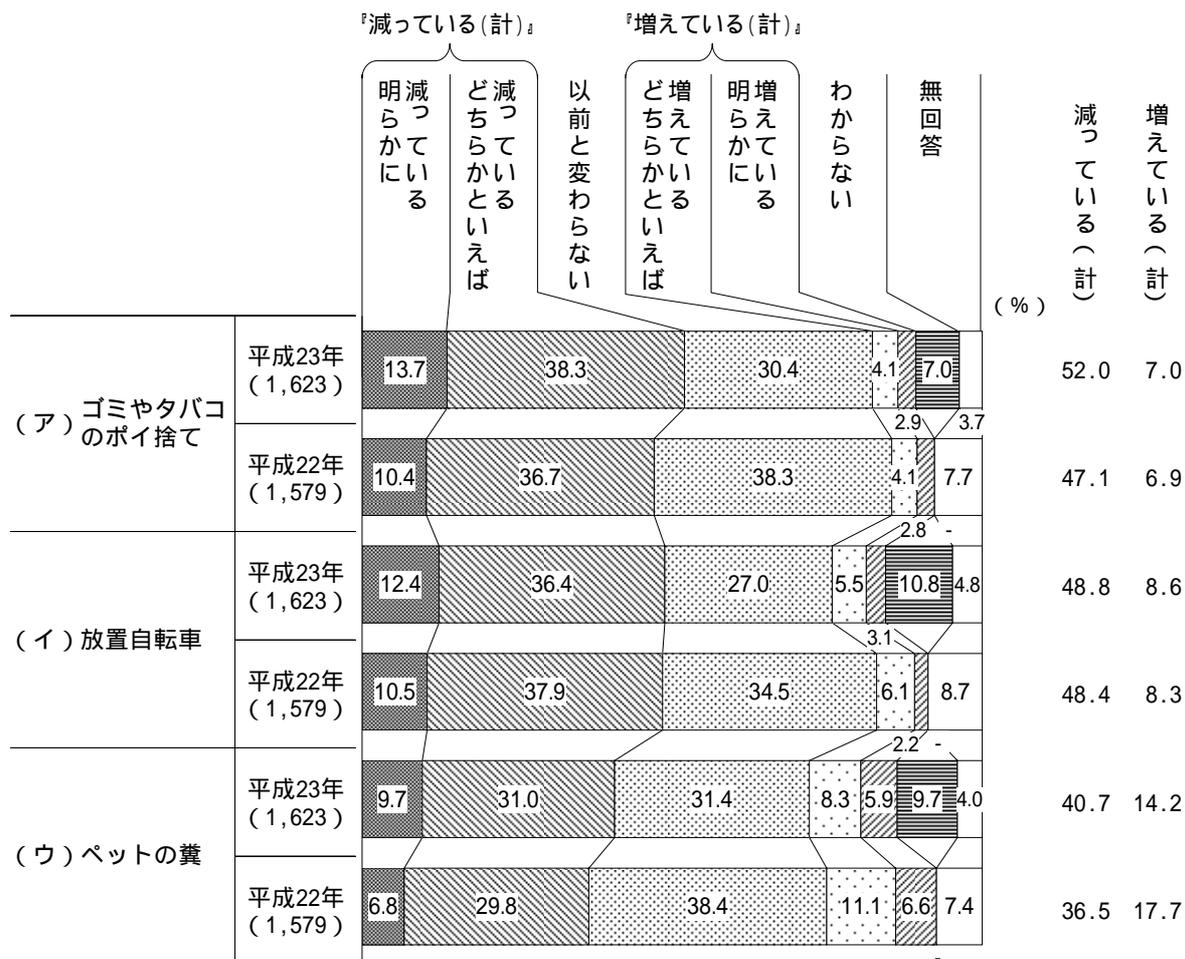


(3) 地域の変化についての評価

『減っている』は【ゴミやタバコのポイ捨て】が5割を超え、【放置自転車】が5割近く  
『増えている』は【まちなかの花や緑】が3割を超え、【防犯パトロール】が2割半ば

問31 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下の項目について、現在は以前と比べてどのように感じになっていますか。( は各項目とも1つだけ)

図9-5-1 地域の変化についての評価 - 過年度比較

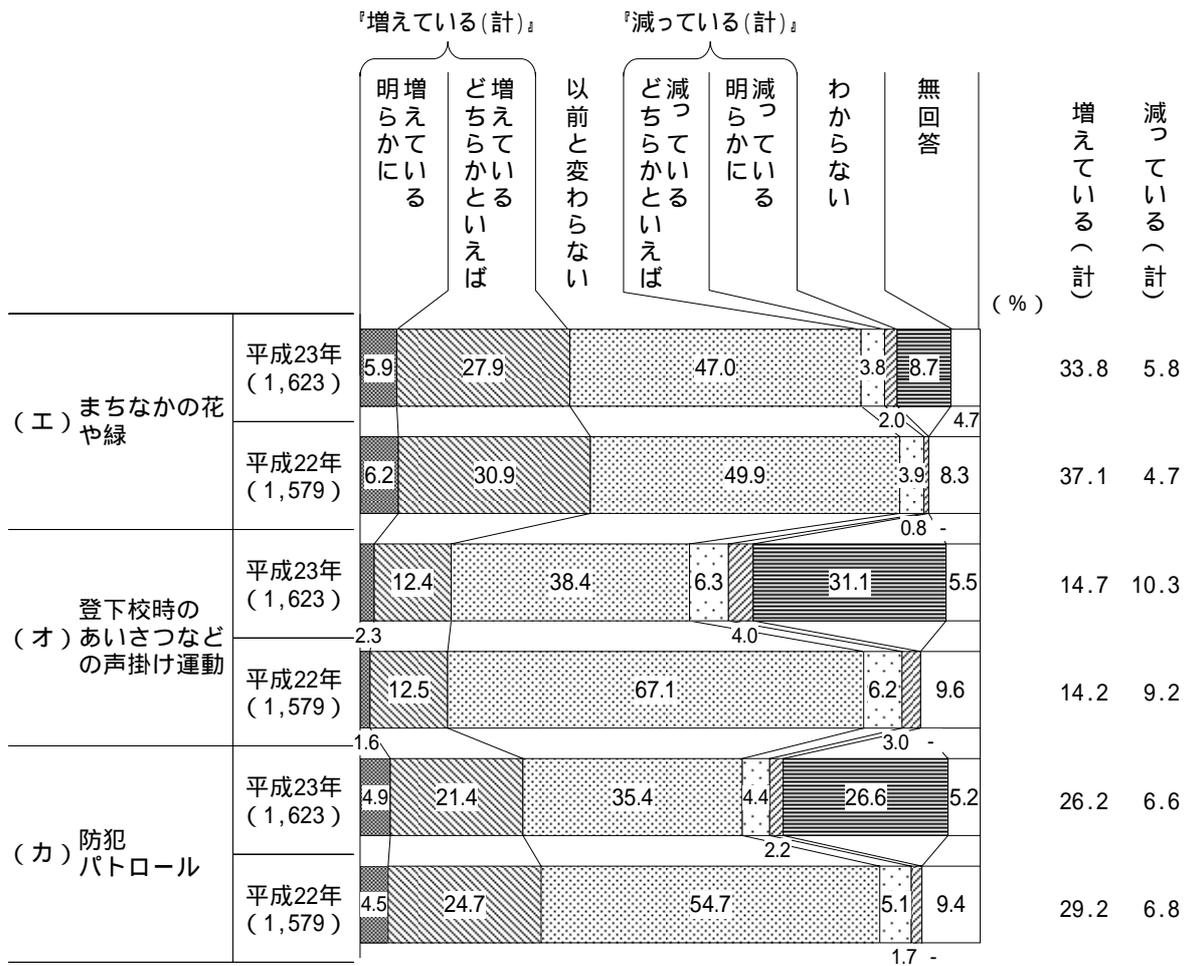


(注) 平成23年調査では、「わからない」が選択肢に追加されている。

住まいの地域が以前と比べてどのように変化しているか聞いたところ、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた『減っている(計)』は、【ゴミやタバコのポイ捨て】(52.0%)が5割を超え、【放置自転車】(48.8%)が5割近く、【ペットの糞】(40.7%)がほぼ4割となっている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より『減っている(計)』は【ゴミやタバコのポイ捨て】で4.9ポイント高く、【ペットの糞】で4.2ポイント高くなっている。(図9-5-1)

図9 - 5 - 2 地域の変化についての評価 - 過年度比較



(注) 平成 23 年調査では、「わからない」が選択肢に追加されている。

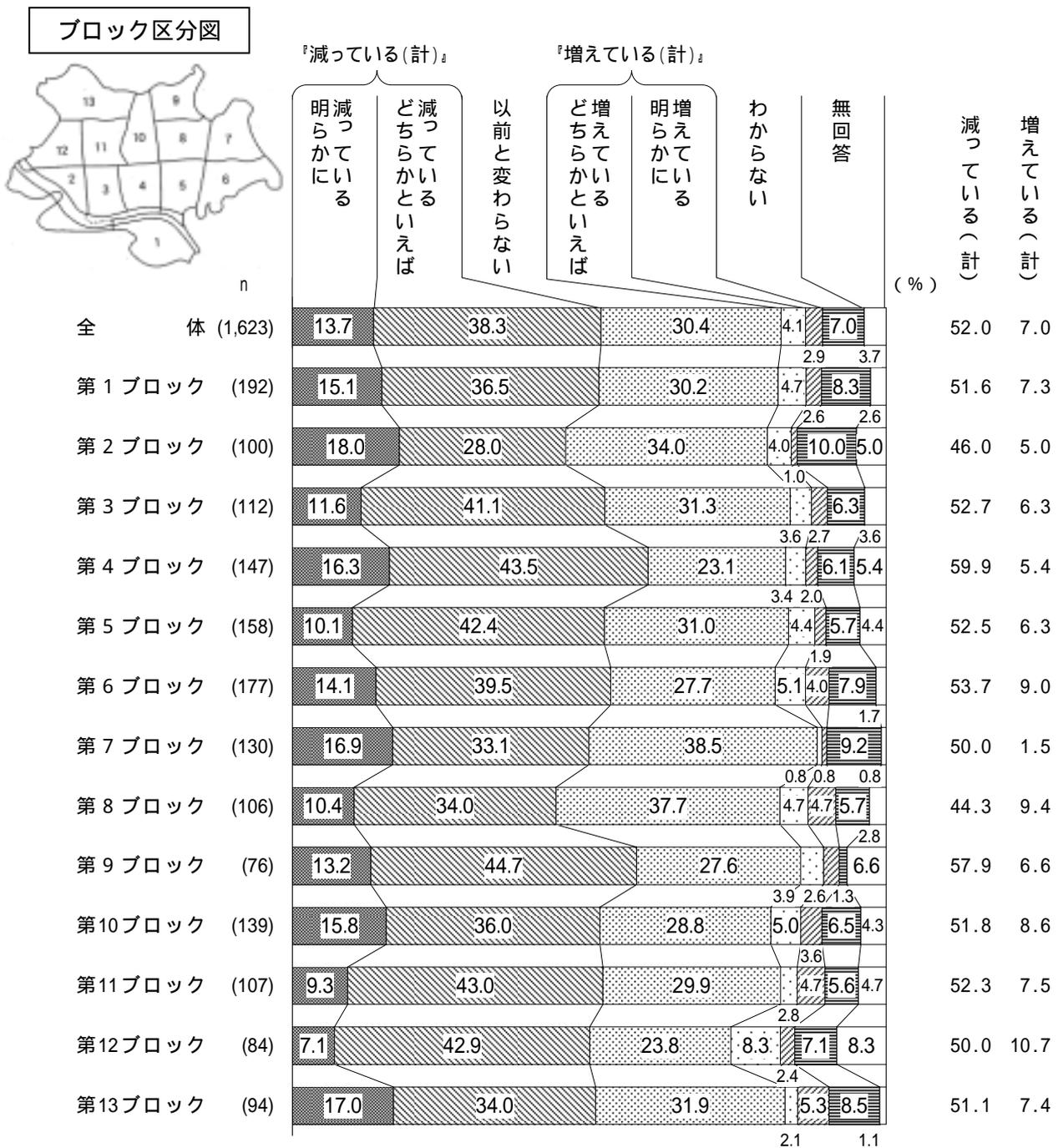
住まいの地域が以前と比べてどのように変化しているか聞いたところ、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた『増えている(計)』は、【まちなかの花や緑】(33.8%)が3割を超え、【防犯パトロール】(26.2%)が2割半ば、【登下校時のあいさつなどの声掛け運動】(14.7%)が1割半ばとなっている。

平成 22 年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっている。(図9 - 5 - 2)

地域ブロック別でみると、『減っている(計)』は第4ブロック(59.9%)で6割、第9ブロック(57.9%)で6割近くと高くなっている。また、「以前と変わらない」は第7ブロック(38.5%)で4割近くと高くなっている。(図9-5-3)

図9-5-3 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(1)

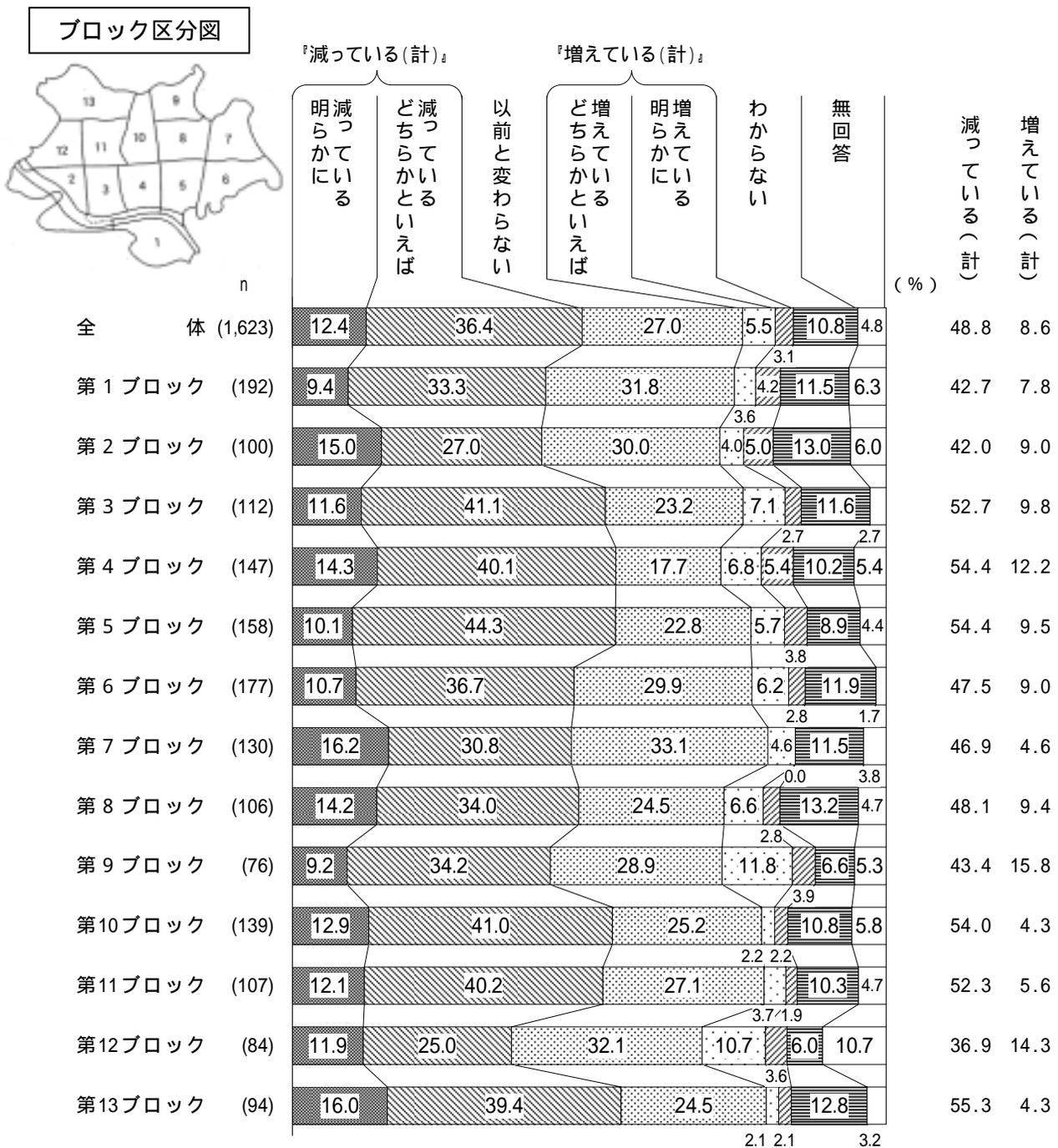
(ア) ゴミやタバコのポイ捨て



地域ブロック別でみると、『減っている(計)』は第13ブロック(55.3%)、第4ブロックと第5ブロック(ともに54.4%)、第10ブロック(54.0%)で5割半ばと高くなっている。また、『増えている(計)』は第9ブロック(15.8%)と第12ブロック(14.3%)で1割半ばと高くなっている。(図9-5-4)

図9-5-4 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(2)

(イ) 放置自転車

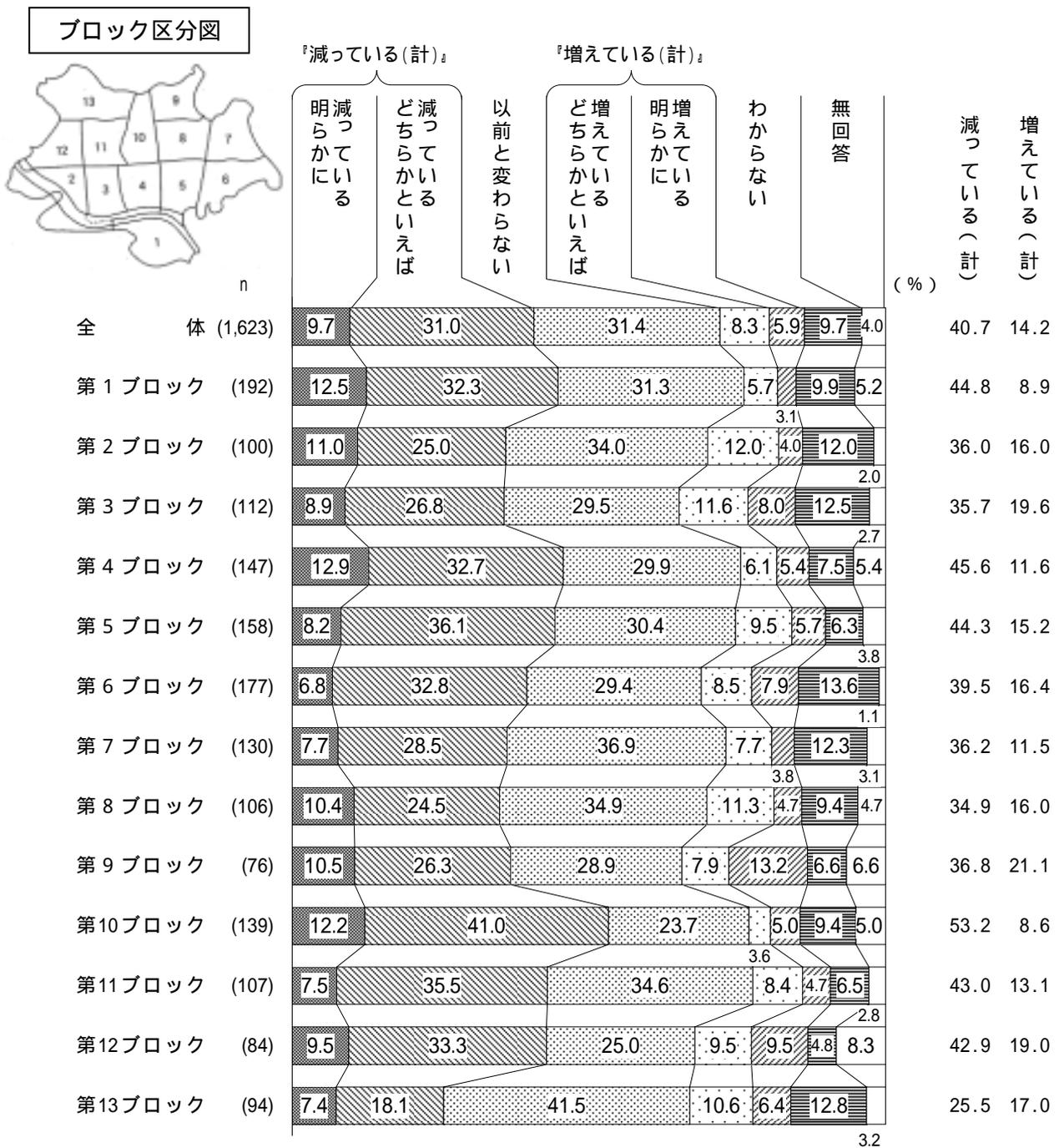


地域ブロック別でみると、『減っている(計)』は第10ブロック(53.2%)で5割を超え高くなっている。一方、『増えている(計)』は第9ブロック(21.1%)で2割を超え高くなっている。また、「以前と変わらない」は第13ブロック(41.5%)で4割を超え高くなっている。

(図9-5-5)

図9-5-5 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(3)

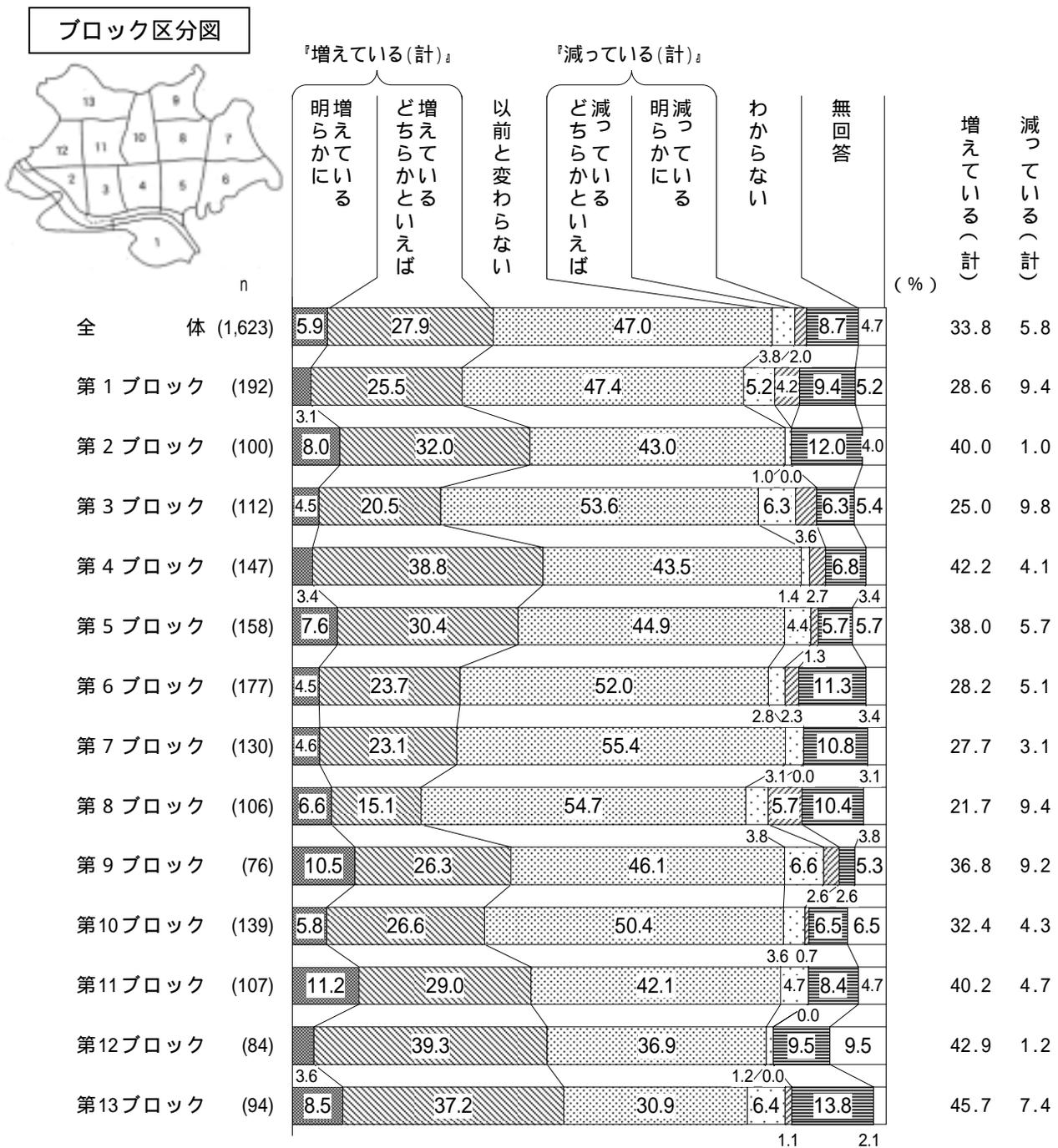
(ウ) ペットの糞



地域ブロック別でみると、『増えている(計)』は第13ブロック(45.7%)で4割半ばと高くなっている。また、「以前と変わらない」は第7ブロック(55.4%)と第8ブロック(54.7%)で5割半ばと高くなっている。(図9-5-6)

図9-5-6 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(4)

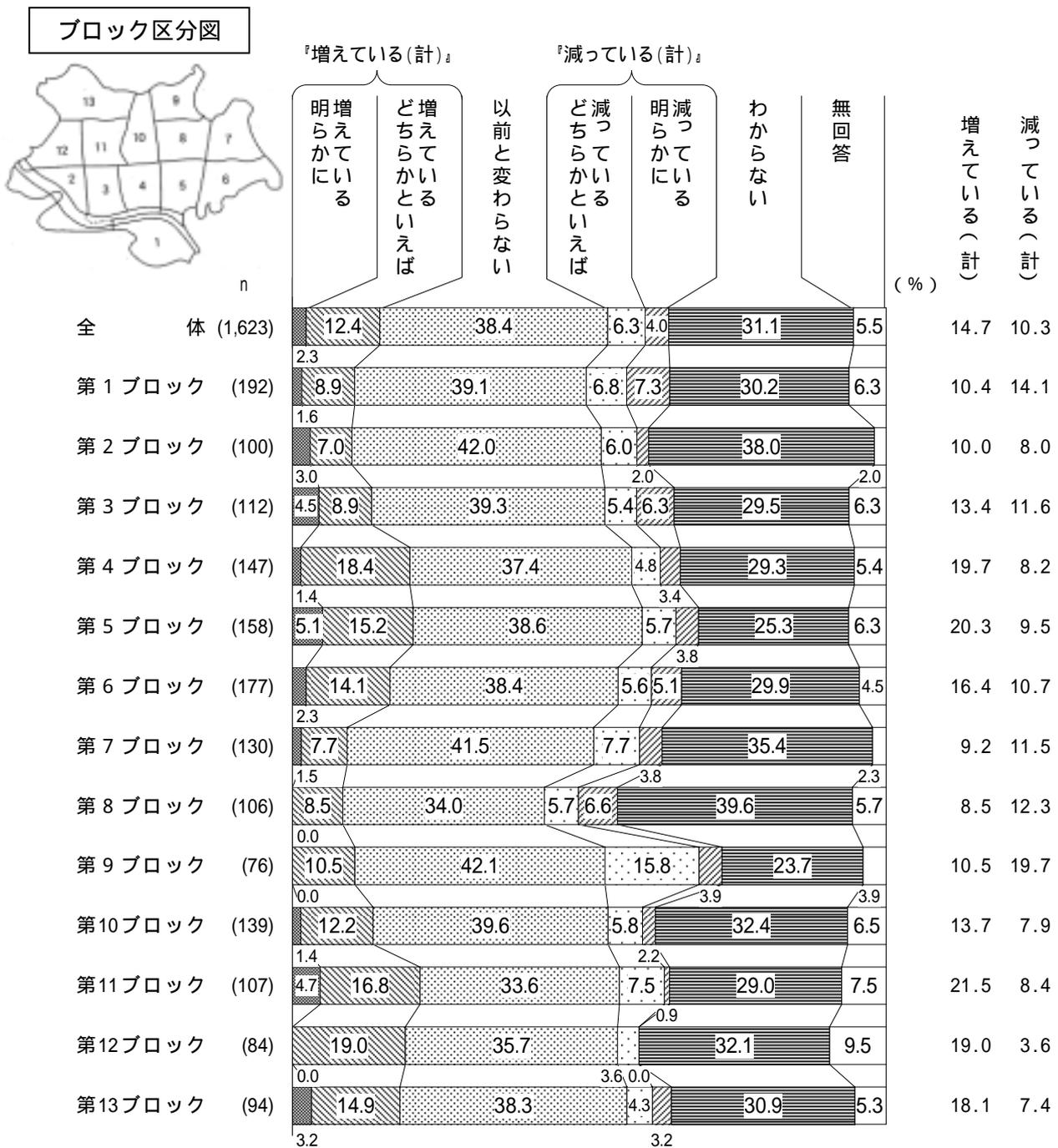
(エ) まちなかの花や緑



地域ブロック別でみると、『増えている(計)』は第11ブロック(21.5%)で2割を超え、第5ブロック(20.3%)で2割と高くなっている。一方、『減っている(計)』は第9ブロック(19.7%)で2割と高くなっている。(図9-5-7)

図9-5-7 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(5)

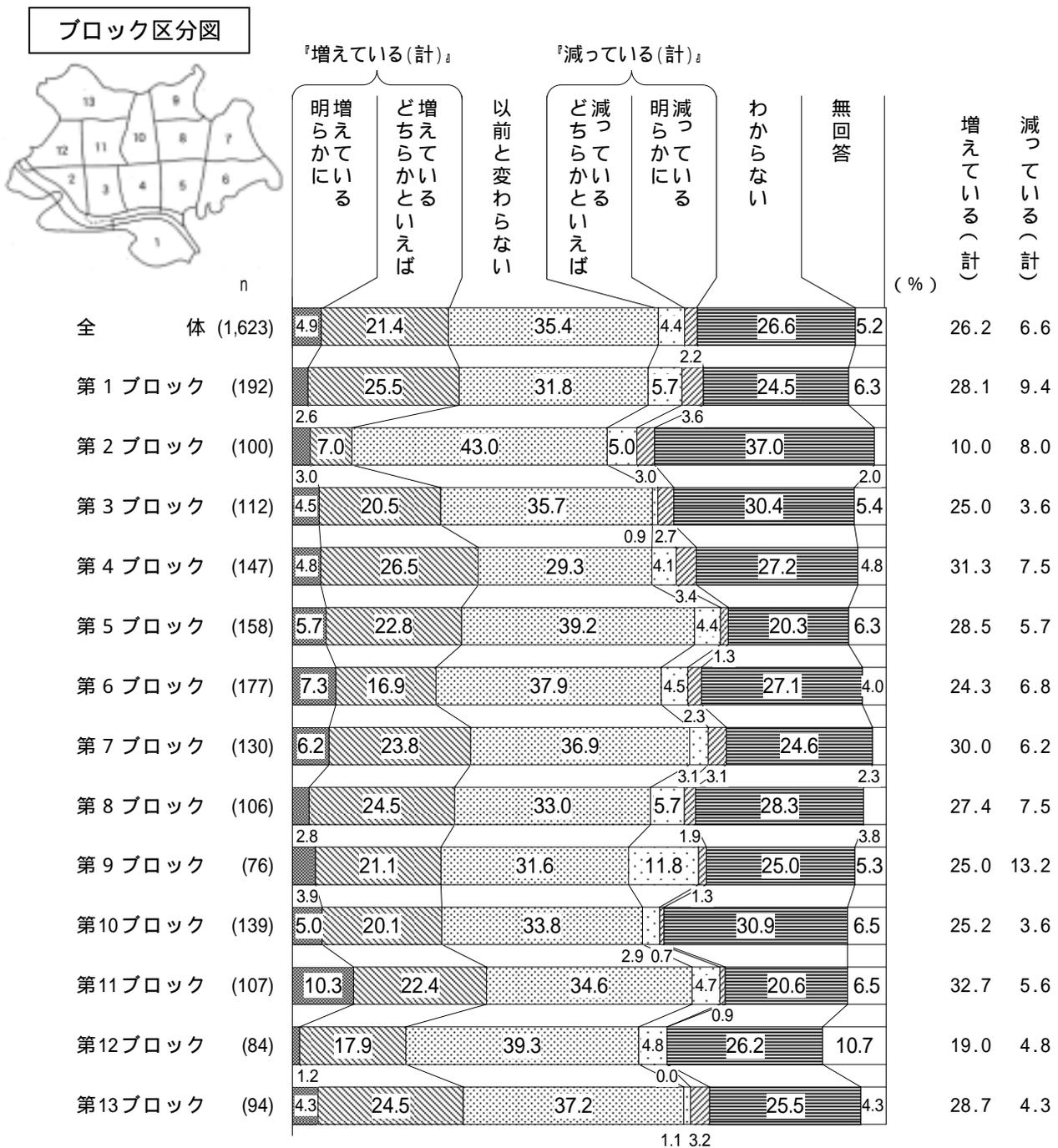
(オ) 登下校時のあいさつなどの声掛け運動



地域ブロック別でみると、『増えている(計)』は第11ブロック(32.7%)と第4ブロック(31.3%)で3割を超え高くなっている。一方、『減っている(計)』は第9ブロック(13.2%)で1割を超え高くなっている。また、『以前と変わらない』は第2ブロック(43.0%)で4割を超え高くなっている。(図9-5-8)

図9-5-8 地域の変化についての評価 - 地域ブロック別(6)

(カ) 防犯パトロール

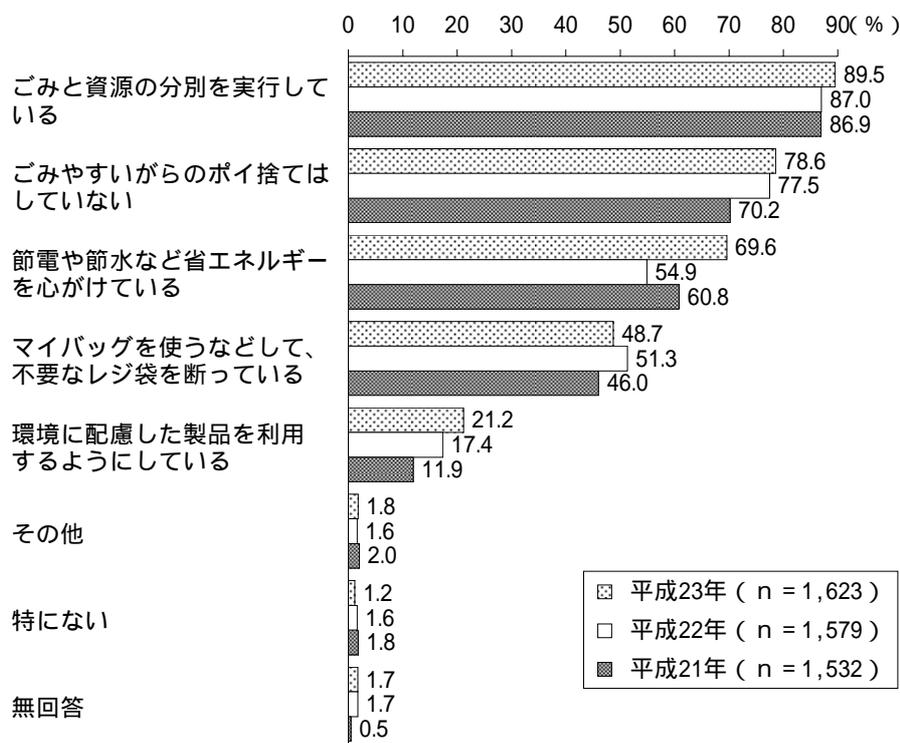


(4) 環境のために心がけていること

「ごみと資源の分別を実行している」人が9割を占める

問32 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。( はあてはまるものすべて)

図9-6-1 環境のために心がけていること - 過年度比較



(注) 平成21年調査では、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」は、「できるだけエコマーク製品(再生品)を利用するようにしている」で調査を行っている。

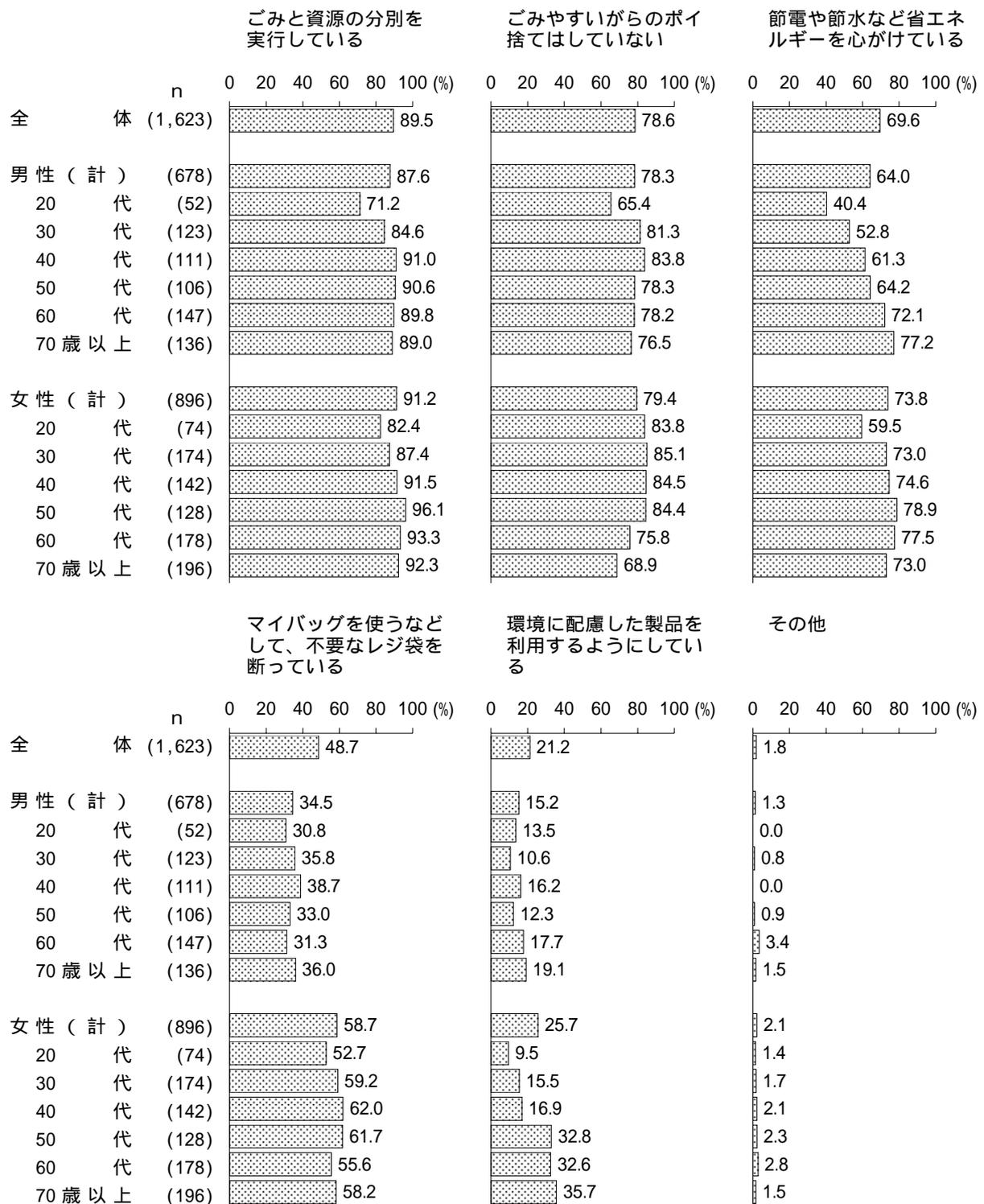
環境のために心がけていることを聞いたところ、「ごみと資源の分別を実行している」(89.5%)が9割で最も高く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」(78.6%)、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(69.6%)、「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」(48.7%)、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」(21.2%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「ごみと資源の分別を実行している」、「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」では増加傾向となっている。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は平成22年より14.7ポイント高くなっている。(図9-6-1)

性別で見ると、いずれにおいても女性が男性を上回っているが、特に「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（58.7%）が男性（34.5%）より 24.2 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「ごみと資源の分別を実行している」は男女とも40代以上の年代で9割前後と高くなっている。また、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、「環境に配慮した製品を利用するようにしている」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向になっている。（図9 - 6 - 2）

図9 - 6 - 2 環境のために心がけていること - 性別、性・年代別（上位6位）

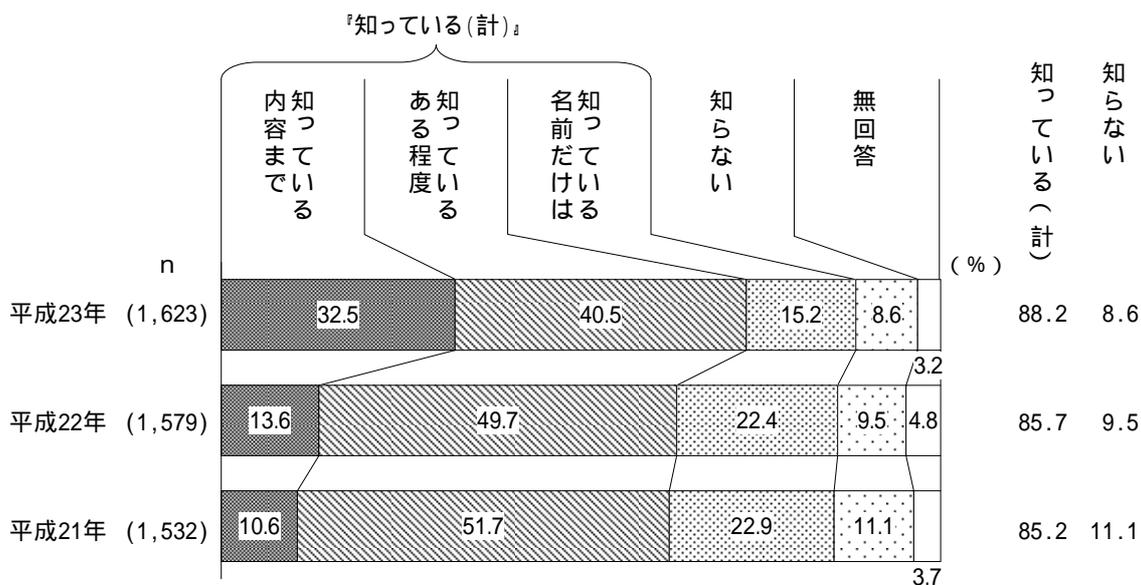


(5) 「クーリング・オフ」制度の認知度

『知っている』人は9割近く

問33 消費者トラブルから消費者を守る制度に『クーリング・オフ』がありますが、この制度について知っていますか。( は1つだけ)

図9 - 7 - 1 「クーリング・オフ」制度の認知度 - 過年度比較



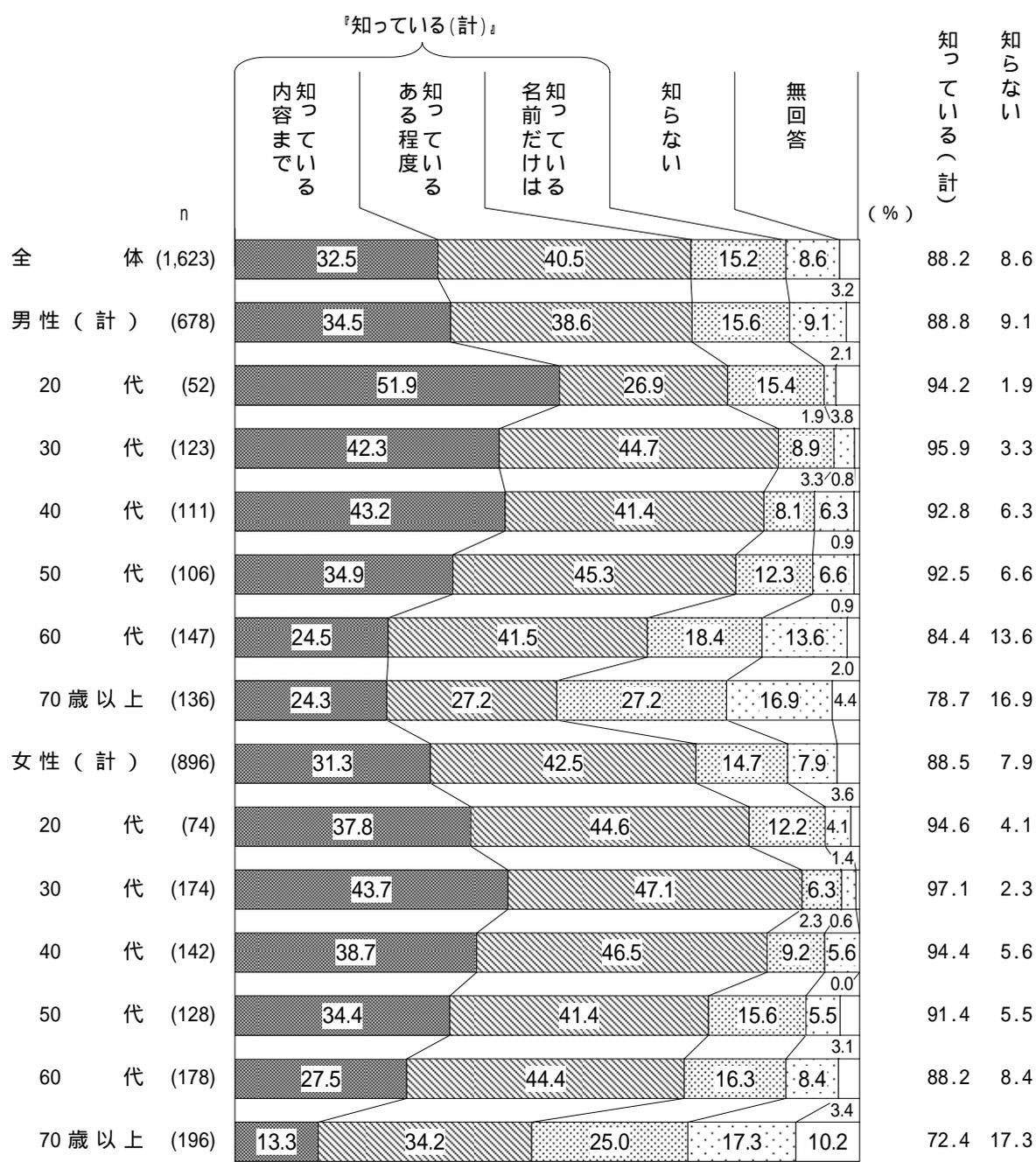
「クーリング・オフ」制度を知っているか聞いたところ、「内容まで知っている」(32.5%)が3割を超え、「ある程度知っている」(40.5%)がほぼ4割となっている。これに、「名前だけは知っている」(15.2%)を合わせた『知っている(計)』(88.2%)は9割近くとなっている。一方、「知らない」(8.6%)は1割未満となっている。

過去の調査と比較すると、『知っている(計)』は漸増傾向にあるが、「内容まで知っている」は平成22年より18.9ポイント高くなっている。(図9 - 7 - 1)

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、「内容まで知っている」は男性20代（51.9%）で5割を超え、女性30代（43.7%）で4割を超え高くなっている。また、『知っている（計）』は男女とも20代から50代の年代で9割以上を占めている。一方、「知らない」は男女とも70歳以上（男性16.9%・女性17.3%）で2割近くと高くなっている。（図9-7-2）

図9-7-2 「クーリング・オフ」制度の認知度 - 性別、性・年代別



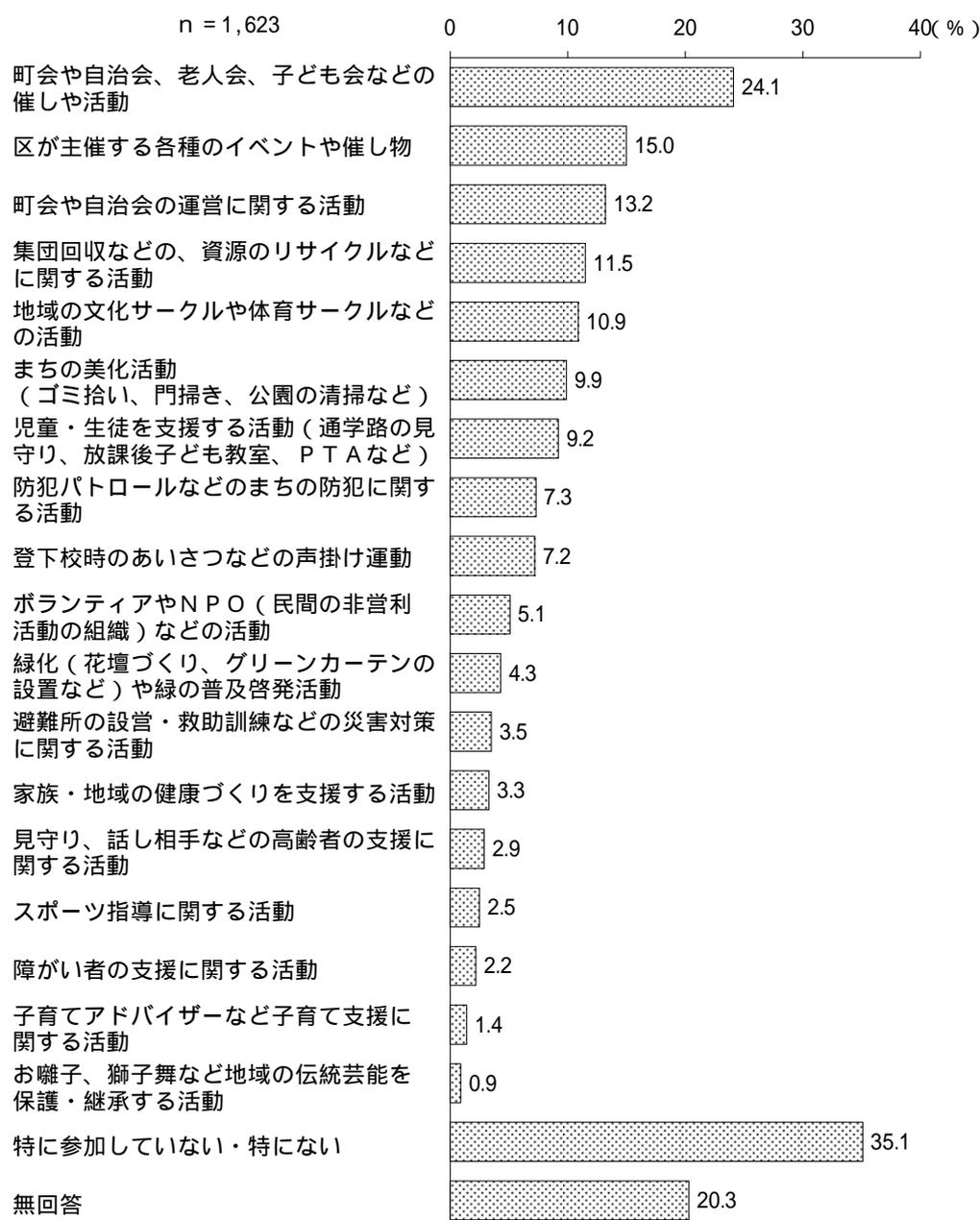
(6) この1年間に参加された活動

「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」が2割半ばで最も高い

問34(1) あなたがこの1年間に参加された活動はどれですか。

( はあてはまるものすべて )

図9-8-1 この1年間に参加された活動



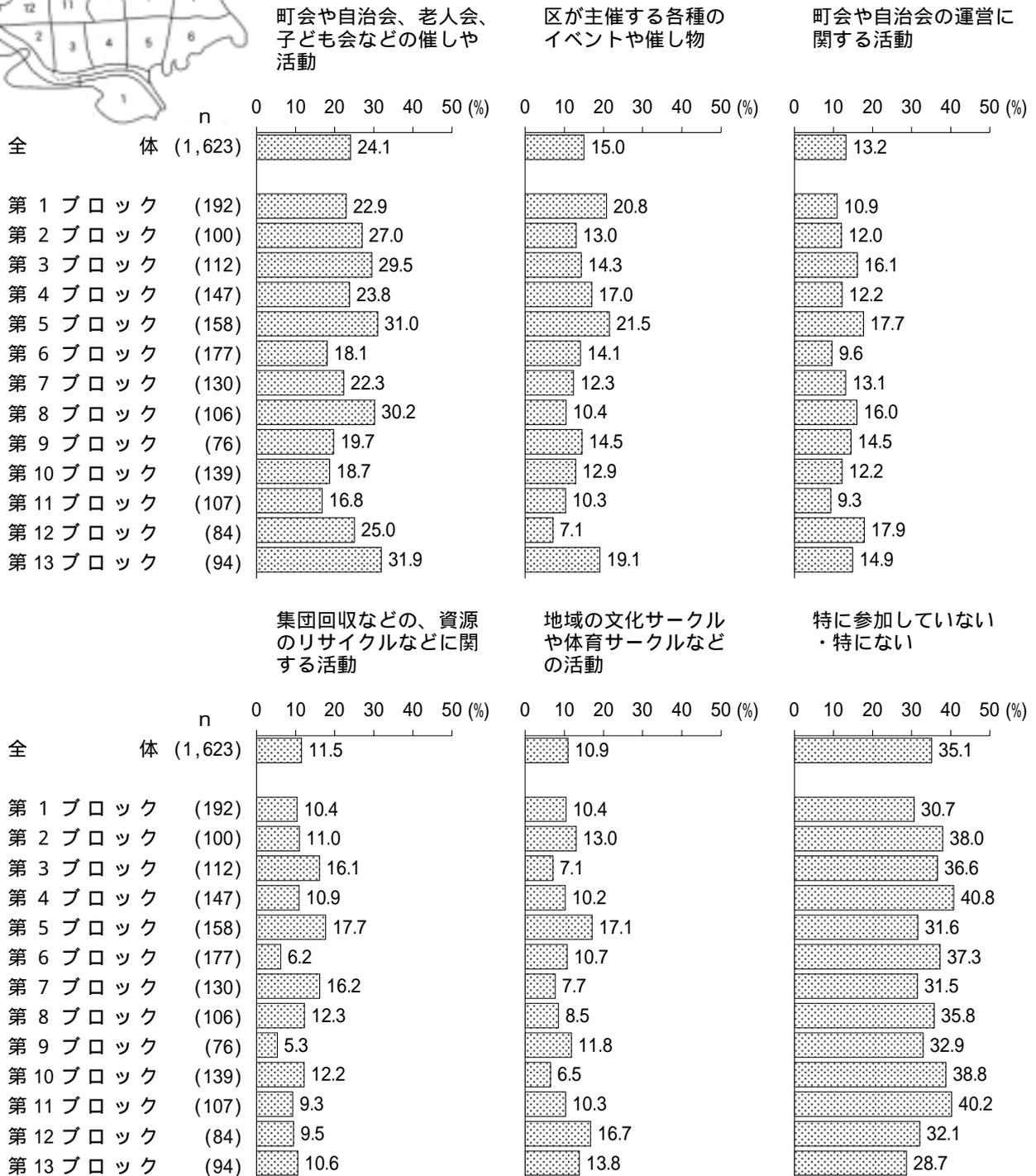
この1年間に参加された活動を聞いたところ、「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」(24.1%)が2割半ばで最も高く、次いで「区が主催する各種のイベントや催し物」(15.0%)、「町会や自治会の運営に関する活動」(13.2%)、「集団回収などの、資源のリサイクルなどに関する活動」(11.5%)の順となっている。また、「特に参加していない・特にない」(35.1%)が3割半ばとなっている。(図9-8-1)

地域ブロック別でみると、「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」は第13ブロック(31.9%)、第5ブロック(31.0%)、第8ブロック(30.2%)で3割を超え高くなっている。また、「区が主催する各種のイベントや催し物」は第5ブロック(21.5%)と第1ブロック(20.8%)で2割以上を占めている。(図9-8-2)

図9-8-2 この1年間に参加された活動 - 地域ブロック別

(上位5位+「特に参加していない・特にない」)

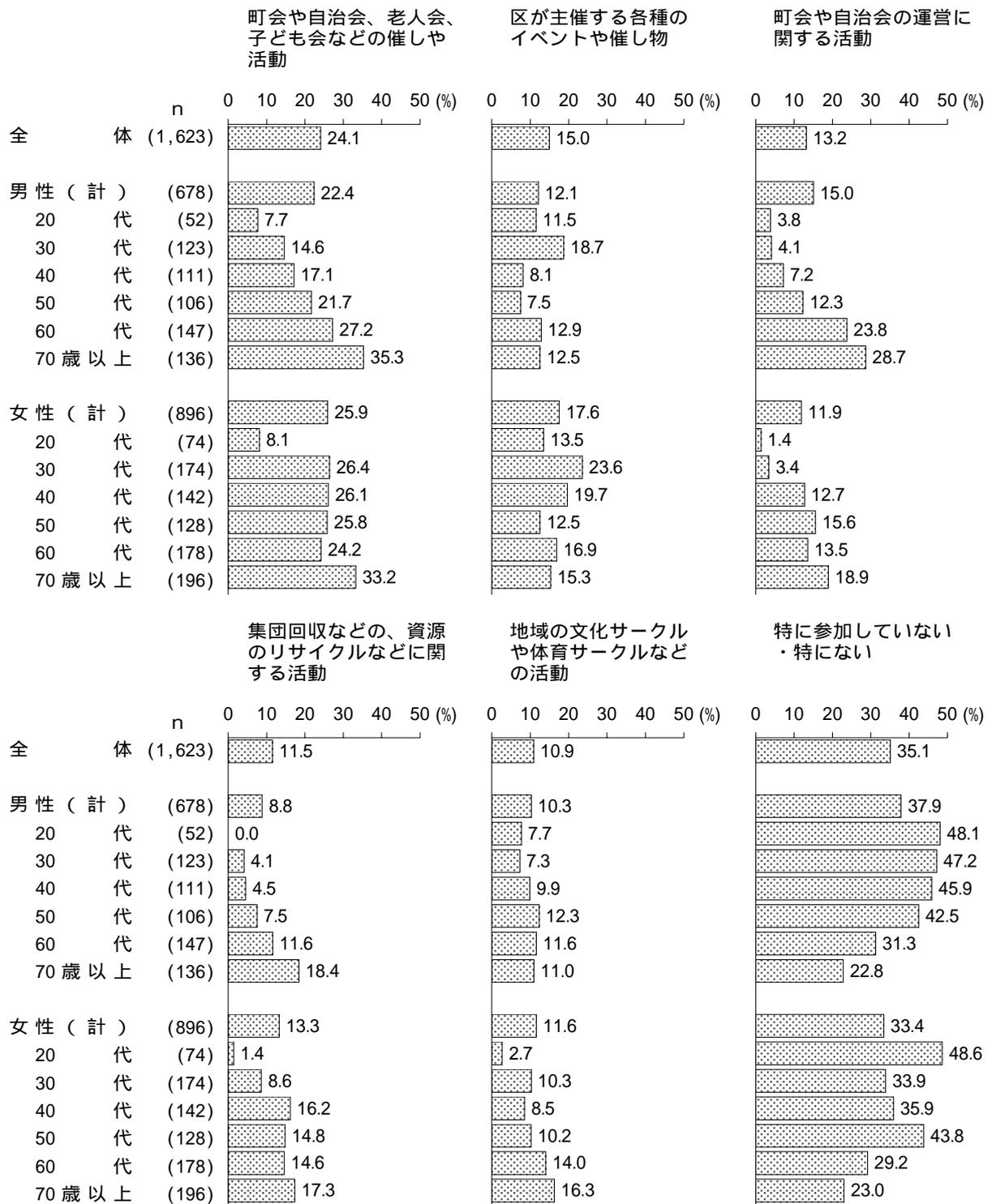
ブロック区分図



性別で見ると、女性で「区が主催する各種のイベントや催し物」(17.6%)が男性(12.1%)より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性では「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」、「町会や自治会の運営に関する活動」、「集団回収などの、資源のリサイクルなどに関する活動」で高い年代ほど割合が高い傾向になっている。一方、「特に参加していない・特にない」は男性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性20代(48.1%)で5割近く、女性20代(48.6%)でも5割近くと高くなっている。(図9-8-3)

図9-8-3 この1年間に参加された活動 - 性別、性・年代別  
(上位5位+「特に参加していない・特にない」)

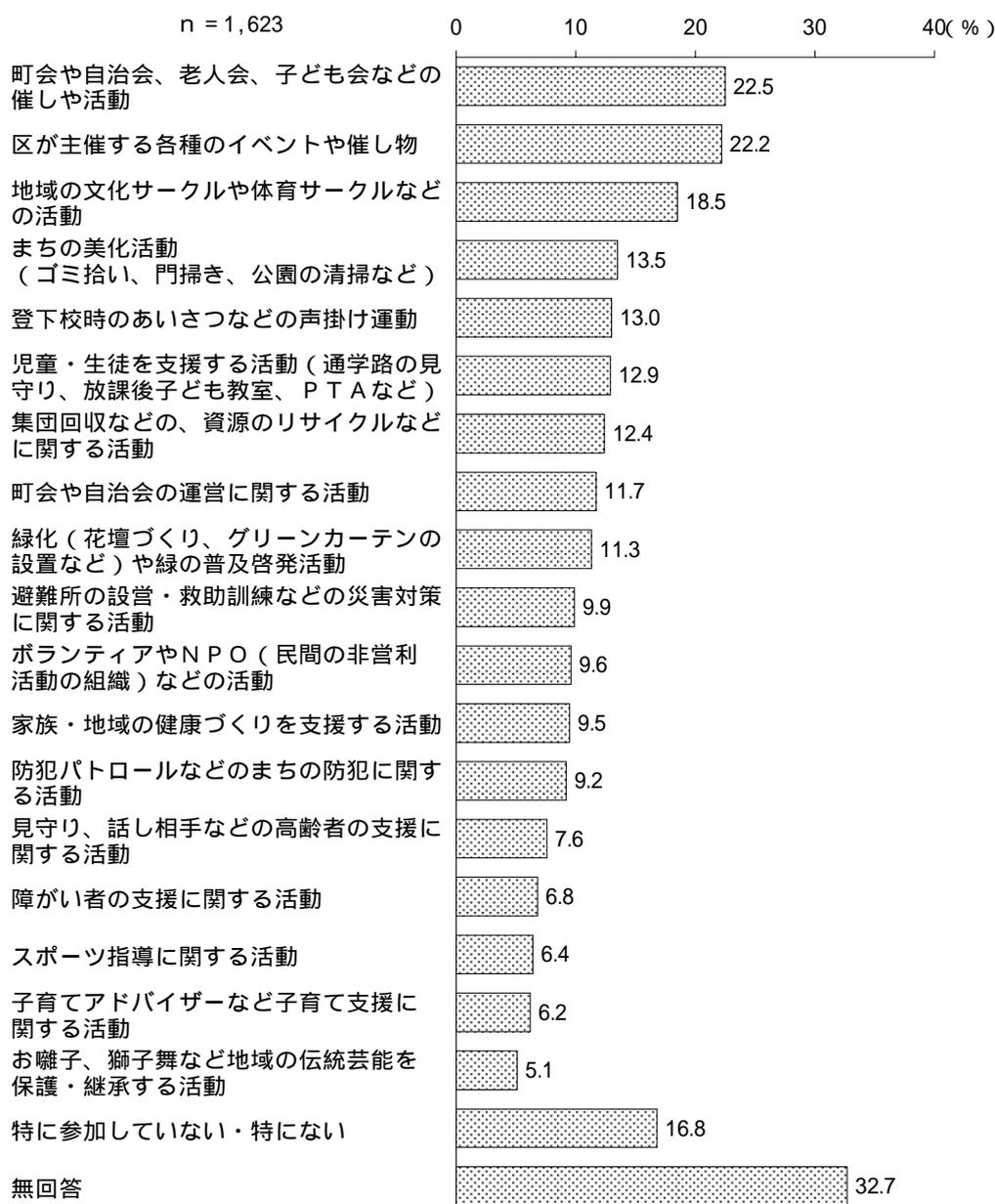


( 6 - 1 ) 引き続き、または今後参加したいと思う活動

「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」と「区が主催する各種のイベントや催し物」が2割を超えている

問34(2) あなたがこの1年間に参加されて引き続き参加したい、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか。( はあてはまるものすべて)

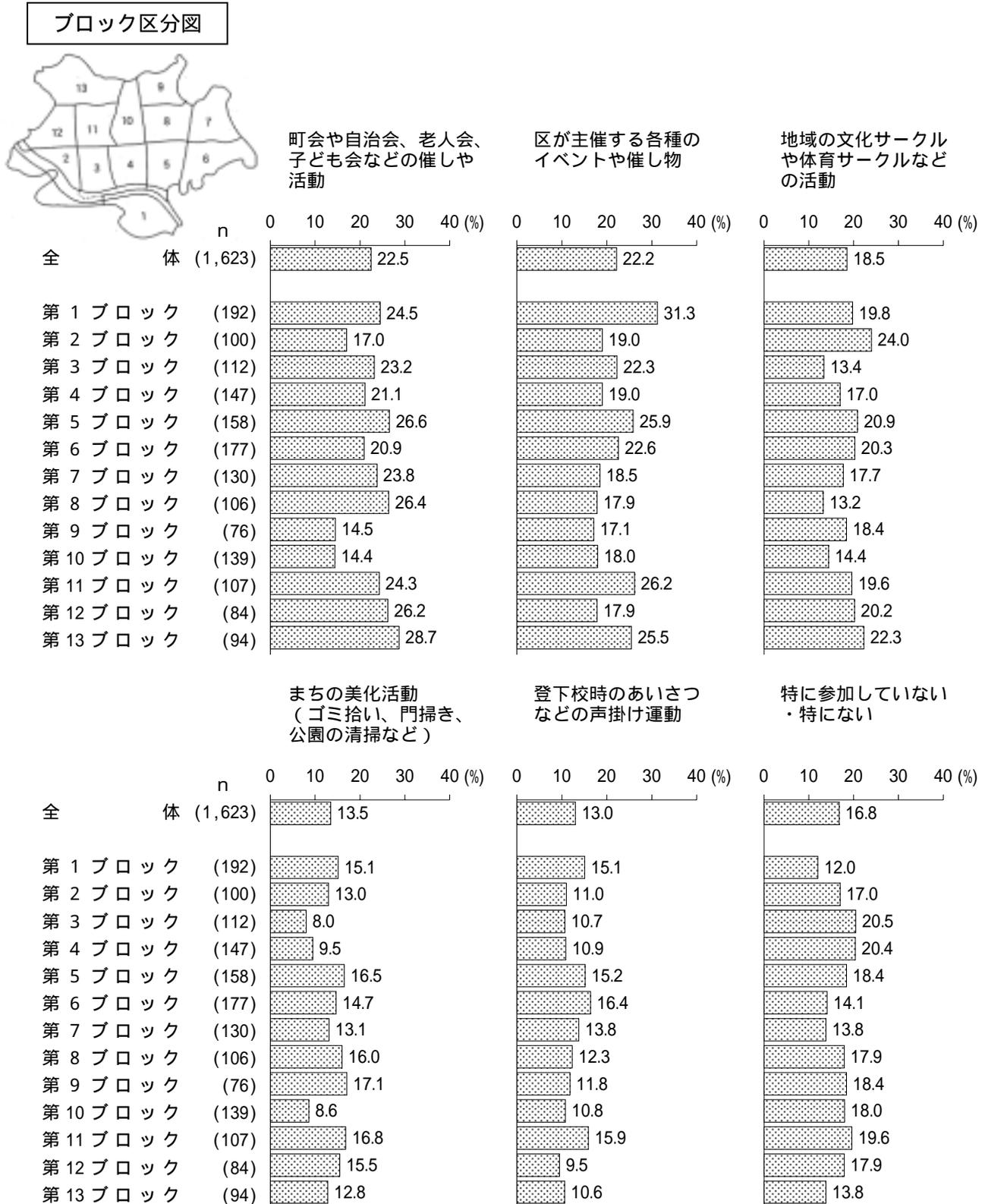
図9-9-1 引き続き、または今後参加したいと思う活動



この1年間に参加されて引き続き参加したい、または今後参加したいと思う活動を聞いたところ、「町会や自治会、老人会、子ども会などの催しや活動」(22.5%)と「区が主催する各種のイベントや催し物」(22.2%)がともに2割を超えている。次いで、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」(18.5%)、「まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃き、公園の清掃など)」(13.5%)の順となっている。(図9-9-1)

地域ブロック別でみると、「区が主催する各種のイベントや催し物」は第1ブロック（31.3%）で3割を超え高くなっている。（図9-9-2）

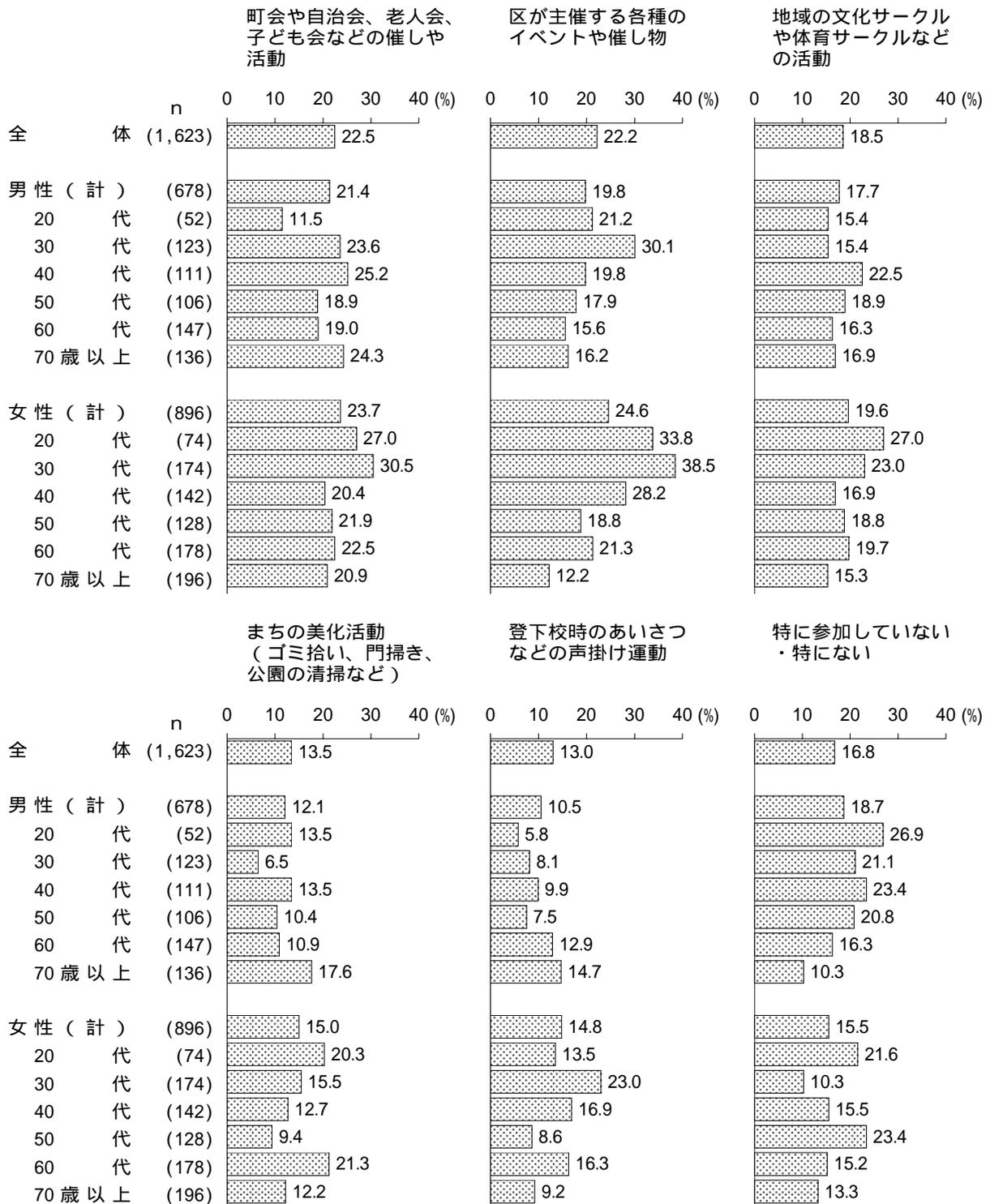
図9-9-2 引き続き、または今後参加したいと思う活動 - 地域ブロック別  
（上位5位+「特に参加していない・特にない」）



性別で見ると、女性で「区が主催する各種のイベントや催し物」(24.6%)が男性(19.8%)より4.8ポイント高く、「登下校時のあいさつなどの声掛け運動」(14.8%)が男性(10.5%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「区が主催する各種のイベントや催し物」は女性30代(38.5%)で4割近く、女性20代(33.8%)で3割を超え高く、「登下校時のあいさつなどの声掛け運動」は女性30代(23.0%)で2割を超え高くなっている。一方、「特に参加していない・特にない」は男性20代(26.9%)で3割近くと高くなっている。(図9-9-3)

図9-9-3 引き続き、または今後参加したいと思う活動 - 性別、性・年代別  
(上位5位+「特に参加していない・特にない」)

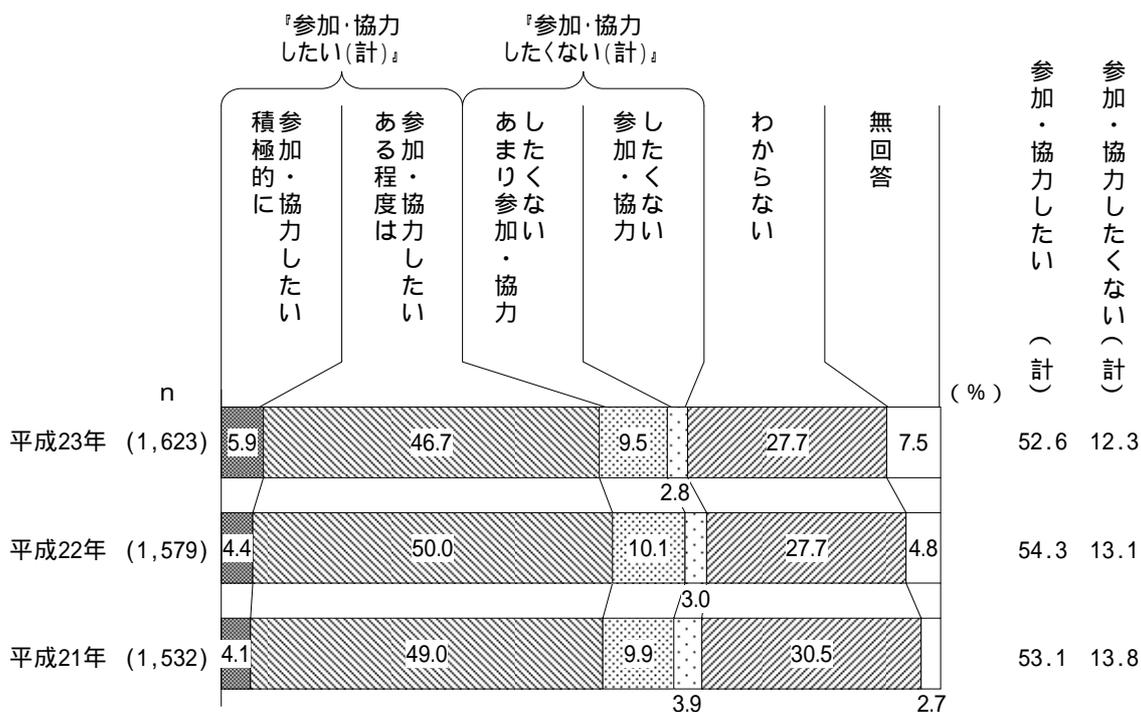


(7) 区政への参加・協力意向

『参加・協力したい』人が5割を超えている

問35 あなたは、区政への参加・協力についてどのようにお考えですか。(は1つだけ)

図9-10-1 区政への参加・協力意向 - 過年度比較

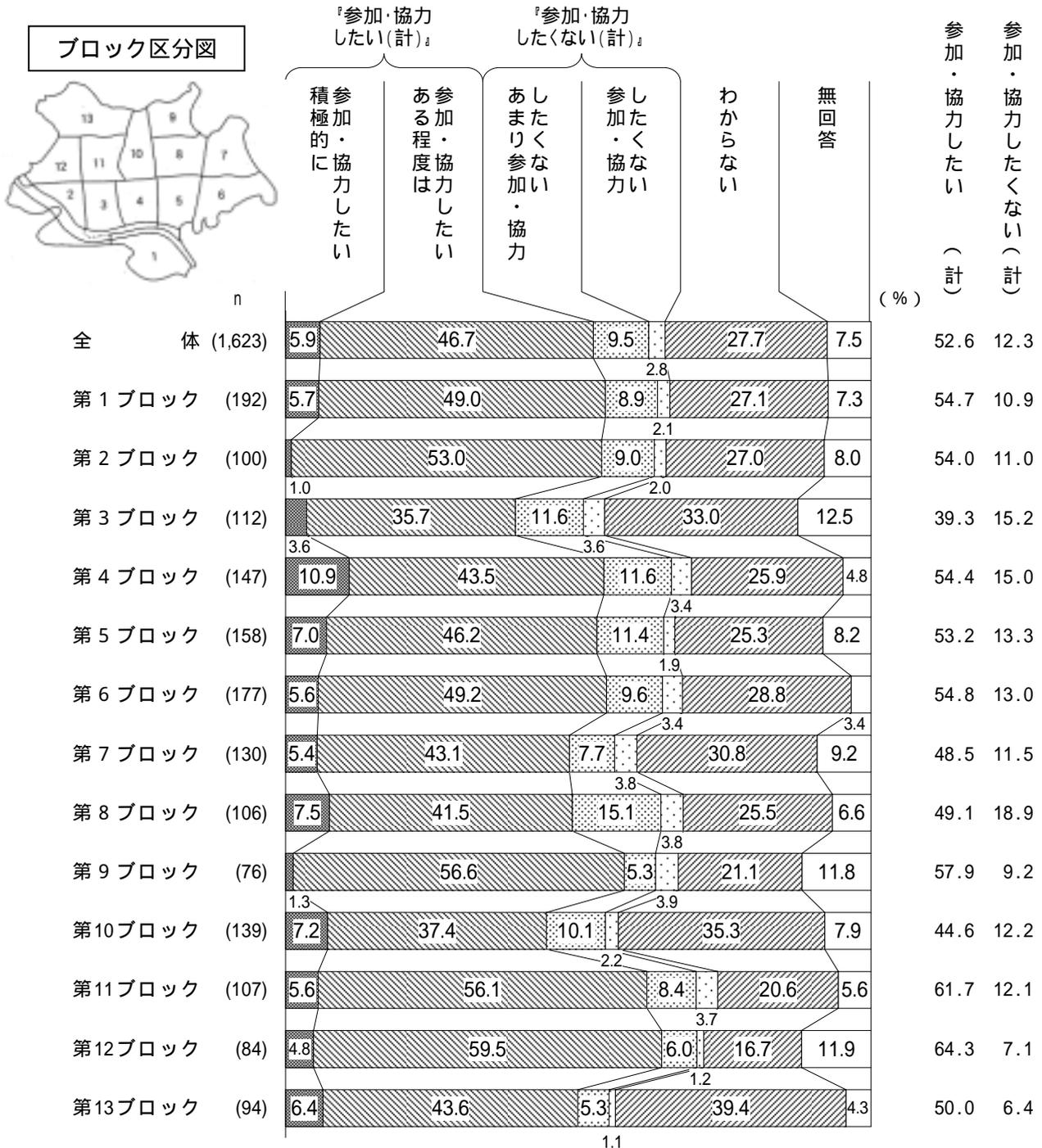


区政への参加・協力についての考えを聞いたところ、「積極的に参加・協力したい」(5.9%)と「ある程度は参加・協力したい」(46.7%)を合わせた『参加・協力したい(計)』(52.6%)が5割を超えている。一方、「参加・協力したくない」(2.8%)と「あまり参加・協力したくない」(9.5%)を合わせた『参加・協力したくない(計)』(12.3%)が1割を超えている。

過去の調査と比べて大きな変化は見られない。(図9-10-1)

地域ブロック別でみると、『参加・協力したい(計)』は第12ブロック(64.3%)で6割半ばと高くなっている。一方、『参加・協力したくない(計)』は第8ブロック(18.9%)で2割近くと高くなっている。また、「わからない」は第13ブロック(39.4%)でほぼ4割、第10ブロック(35.3%)で3割半ばと高くなっている。(図9-10-2)

図9-10-2 区政への参加・協力意向 - 地域ブロック別

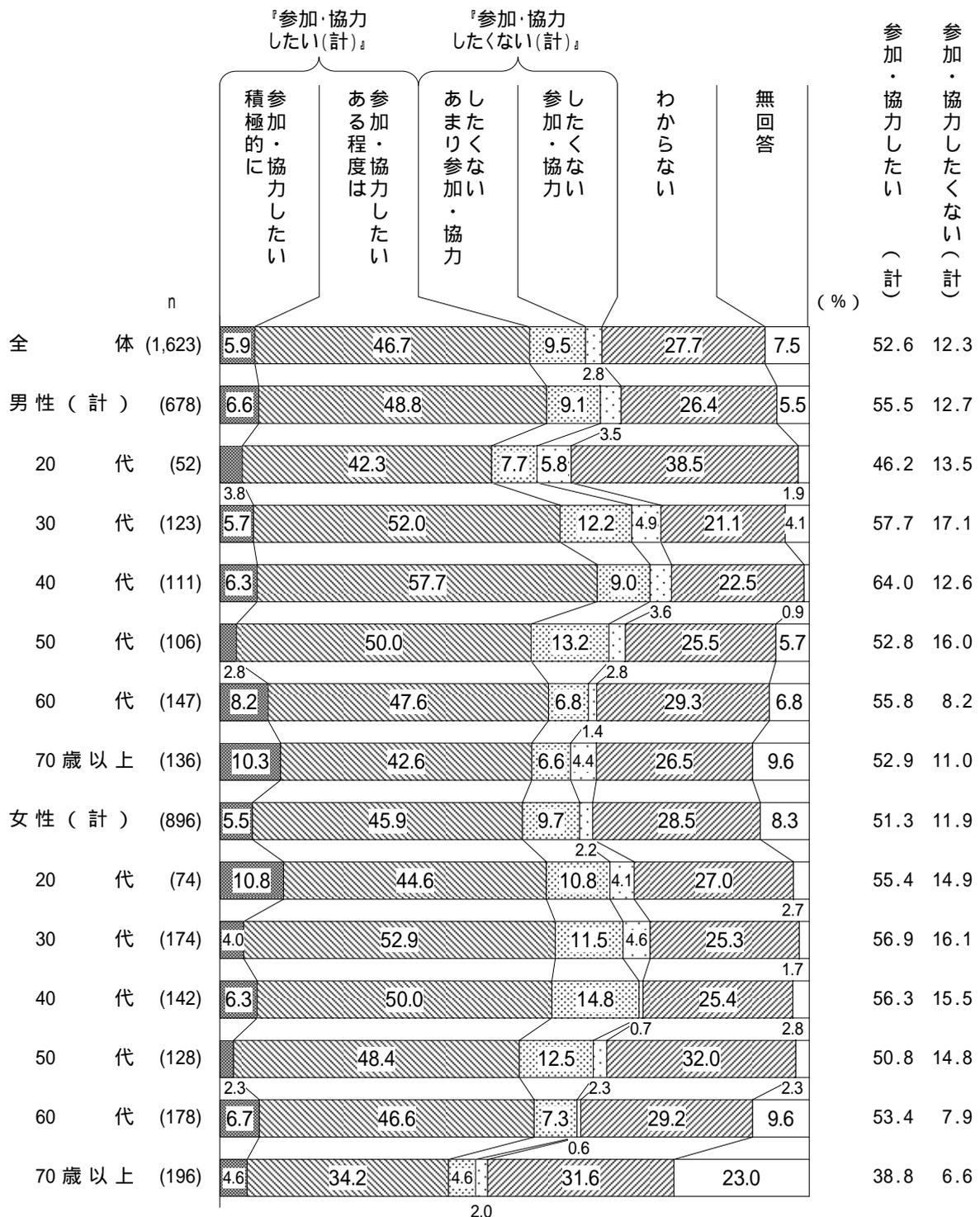


性別で見ると、男性で『参加・協力したい(計)』(55.5%)が女性(51.3%)より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『参加・協力したい(計)』は男性40代(64.0%)で6割半ばと高くなっている。また、「わからない」は男性20代(38.5%)で4割近くと高くなっている。

(図9 - 10 - 3)

図9 - 10 - 3 区政への参加・協力意向 - 性別、性・年代別



# 10 人 権

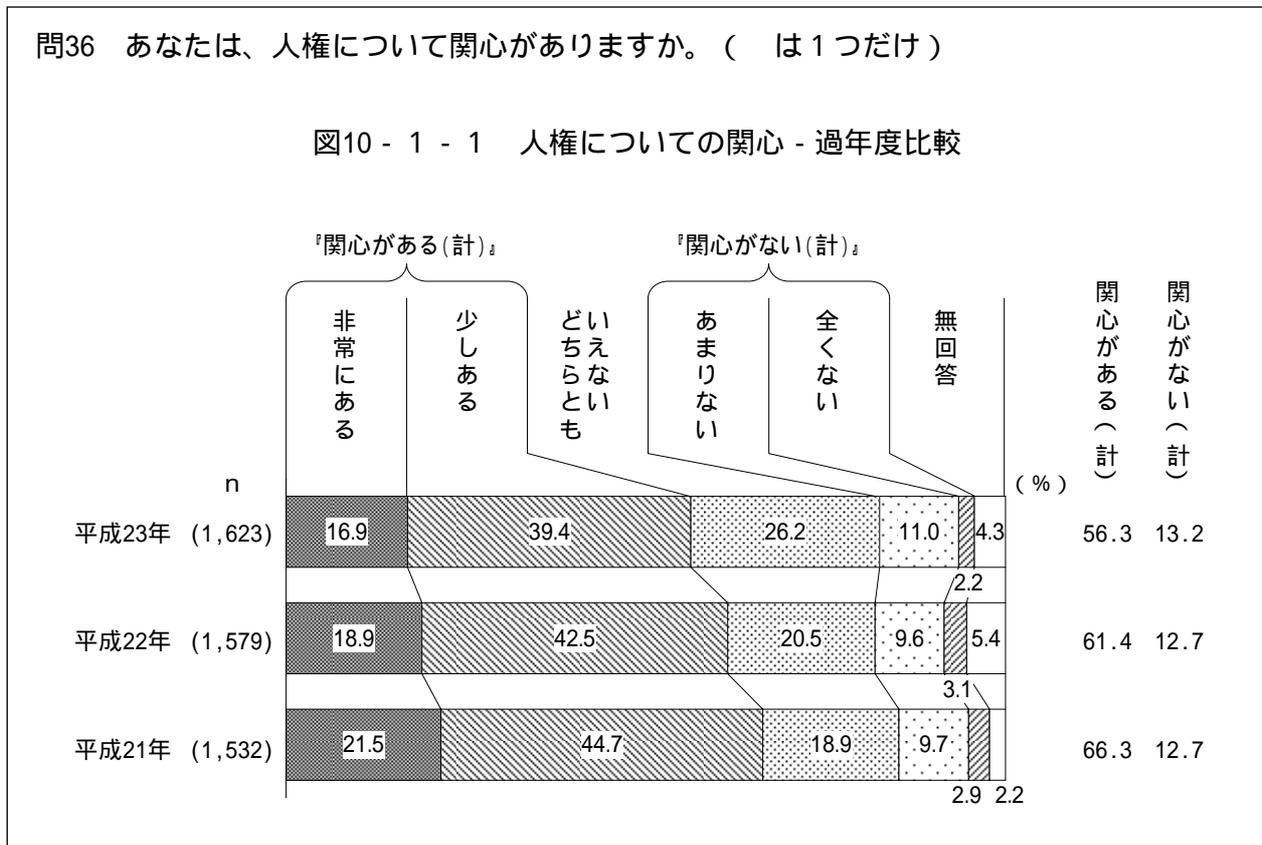
- 
- ( 1 ) 人権についての関心
  - ( 2 ) 男女の地位の平等感
-



## 10 人権

### (1) 人権についての関心

『関心がある』人が5割半ばで、減少傾向にある



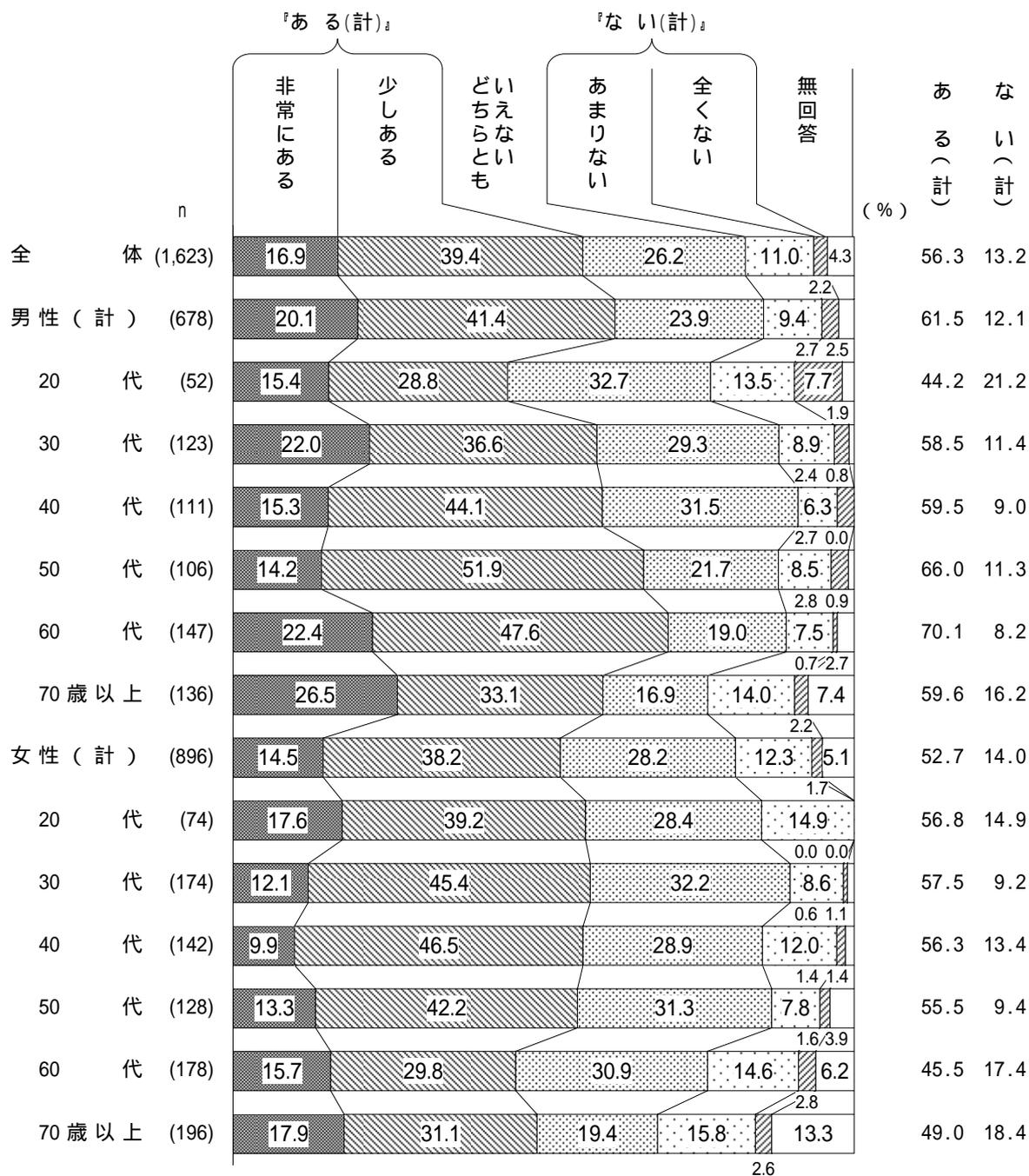
人権について関心があるか聞いたところ、「非常にある」(16.9%)と「少しある」(39.4%)を合わせた『関心がある(計)』(56.3%)が5割半ばとなっている。一方、「全くない」(2.2%)と「あまりない」(11.0%)を合わせた『関心がない(計)』(13.2%)が1割を超えている。

過去の調査と比較すると、『関心がある(計)』は減少傾向にあり、平成22年より5.1ポイント低くなっている。(図10-1-1)

性別で見ると、男性で「ある」(61.5%)が女性(52.7%)より8.8ポイント高くなっている。性・年代別で見ると、「ある」は男性70歳以上(26.5%)で3割近くと高くなっている。また、「ある(計)」は男性60代(70.1%)で7割、男性50代(66.0%)で6割半ばと高くなっている。

(図10-1-2)

図10-1-2 人権についての関心 - 性別、性・年代別

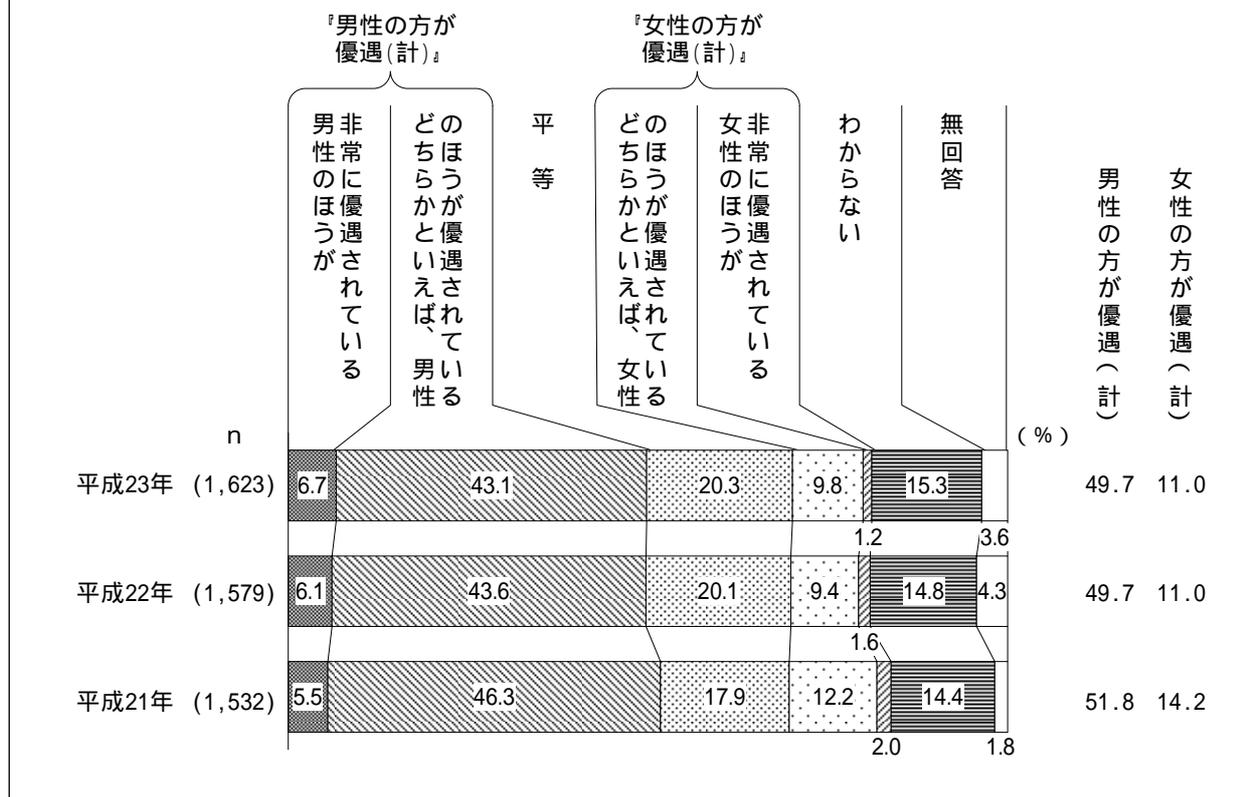


(2) 男女の地位の平等感

『男性の方が優遇』と感じる人が5割を占める

問37 あなたは、社会全体において、男女の地位が平等だと感じますか。(は1つだけ)

図10-2-1 男女の地位の平等感 - 過年度比較



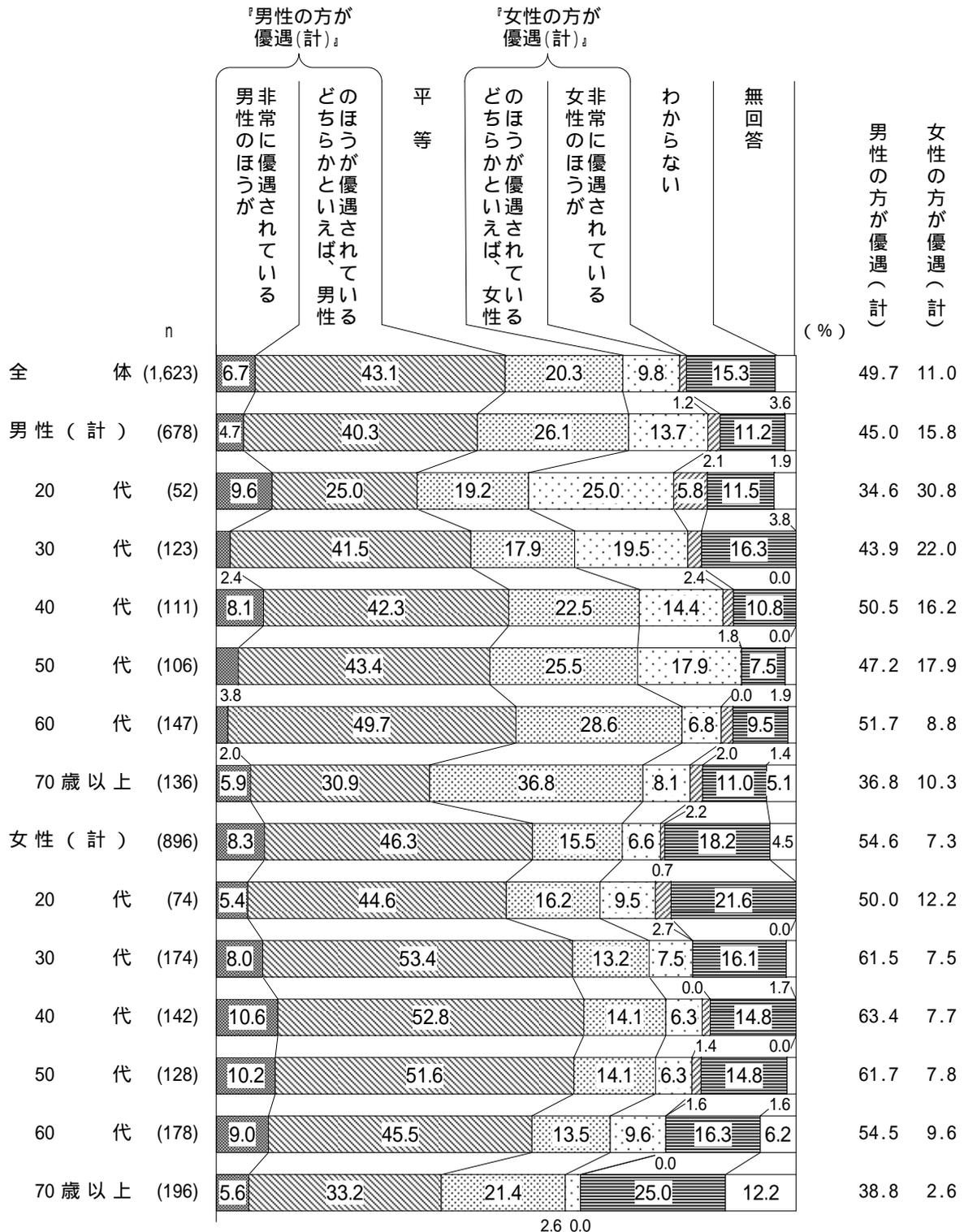
社会全体において、男女の地位が平等だと感じるか聞いたところ、「男性のほうが非常に優遇されている」(6.7%)と「どちらかといえば、男性のほうが優遇されている」(43.1%)を合わせた『男性の方が優遇(計)』(49.7%)が5割となっている。一方、「女性のほうが非常に優遇されている」(1.2%)と「どちらかといえば、男性のほうが優遇されている」(9.8%)を合わせた『女性の方が優遇(計)』(11.0%)が1割を超えている。

過去の調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図10-2-1)

性別で見ると、男性で「平等」（26.1%）が女性（15.5%）より 10.6 ポイント高く、『女性の方が優遇（計）』（15.8%）が女性（7.3%）より 8.5 ポイント高くなっている。一方、女性で『男性の方が優遇（計）』（54.6%）が男性（45.0%）より 9.6 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『男性の方が優遇（計）』は女性の30代から50代の年代で6割以上を占めている。一方、『女性の方が優遇（計）』は男性20代（30.8%）でほぼ3割と高くなっている。また、「平等」は男性70歳以上（36.8%）で4割近く、男性60代（28.6%）で3割近くと高くなっている。（図10-2-2）

図10-2-2 男女の地位の平等感 - 性別、性・年代別



## 11 区 政

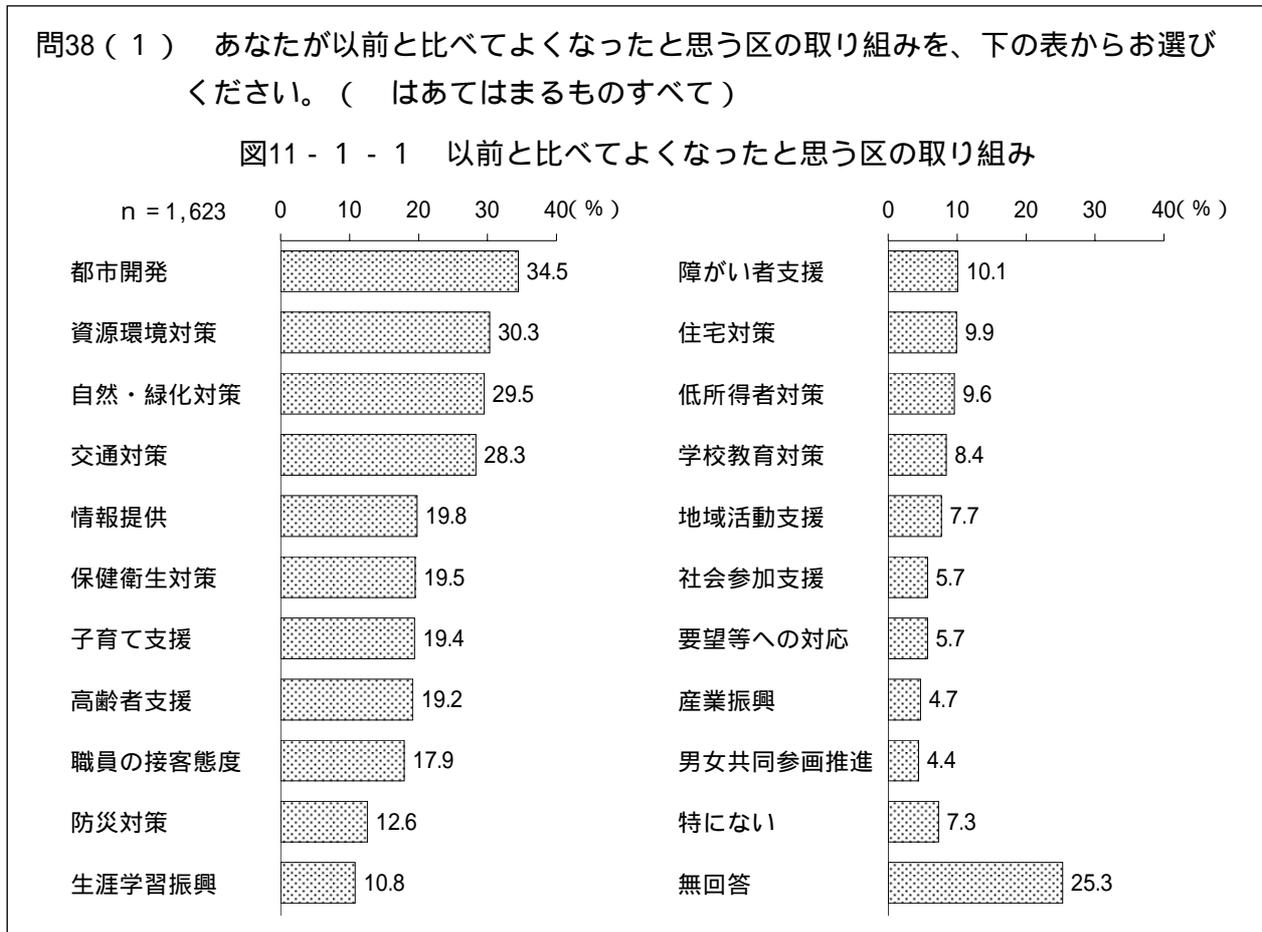
- 
- ( 1 ) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み
    - ( 1 - 1 ) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み
  - ( 2 ) 区の取り組みについての評価・印象
  - ( 3 ) 区政への区民の意見の反映について
  - ( 4 ) 区政に対する満足度
  - ( 5 ) 区に対する気持ち
-



# 11 区 政

## (1) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み

「都市開発」が3割半ばで最も高い



区 の 取 り 組 み	内 容	区 の 取 り 組 み	内 容
都 市 開 発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	生 涯 学 習 振 興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
資 源 環 境 対 策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	障 が い 者 支 援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
自 然 ・ 緑 化 対 策	公園や緑地、河川の整備など	住 宅 対 策	良質な住宅の供給支援など
交 通 対 策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	低 所 得 者 対 策	生活の援助や自立支援など
情 報 提 供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	学 校 教 育 対 策	教育内容の充実、施設の改修など
保 健 衛 生 対 策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	地 域 活 動 支 援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
子 育 て 支 援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	社 会 参 加 支 援	NPOやボランティアの育成や支援など
高 齢 者 支 援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	要 望 等 へ の 対 応	区民の声、担当課あてメールなどによる要望への対応など
職 員 の 接 客 態 度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	産 業 振 興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
防 災 対 策	防災活動の充実、都市の不燃化など	男 女 共 同 参 画 推 進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みを聞いたところ、「都市開発」(34.5%)が3割半ばで最も高く、次いで「資源環境対策」(30.3%)、「自然緑化対策」(29.5%)、「交通対策」(28.3%)、「情報提供」(19.8%)の順となっている。(図11-1-1)

地域ブロック別でみると、「都市開発」は13ブロック中8ブロックで第1位（同率を含む）を占め、その他のブロックでも第3位までに入っている。また、第2ブロックでは「自然・緑化対策」が第1位、第5ブロックと第6ブロックでは「資源環境対策」が第1位、第9ブロックでは「資源環境対策」が同率で第1位、第10ブロックでは「交通対策」が第1位となっている。

（表11-1-1）

ブロック区分図



表11-1-1 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み - 地域ブロック別（上位5位）

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,623	都 市 開 発 (34.5)	資 源 環 境 対 策 (30.3)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (29.5)	交 通 対 策 (28.3)	情 報 提 供 (19.8)
第1ブロック	192	都 市 開 発 (37.5)	資 源 環 境 対 策 (31.8)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (23.4)	交 通 対 策 (22.9)	保 健 衛 生 対 策 (21.4)
第2ブロック	100	自 然 ・ 緑 化 対 策 (35.0)	都 市 開 発 / 交 通 対 策 (31.0)		資 源 環 境 対 策 (27.0)	職 員 の 接 客 態 度 / 子 育 て 支 援 (19.0)
第3ブロック	112	都 市 開 発 (38.4)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (35.7)	資 源 環 境 対 策 (32.1)	交 通 対 策 (29.5)	情 報 提 供 / 保 健 衛 生 対 策 (22.3)
第4ブロック	147	都 市 開 発 (41.5)	資 源 環 境 対 策 (32.7)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (29.9)	交 通 対 策 (27.9)	情 報 提 供 (25.2)
第5ブロック	158	資 源 環 境 対 策 (36.1)	都 市 開 発 (32.3)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (29.1)	交 通 対 策 (27.8)	高 齢 者 支 援 (24.7)
第6ブロック	177	資 源 環 境 対 策 (26.6)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (26.0)	都 市 開 発 (24.9)	交 通 対 策 / 子 育 て 支 援 (19.2)	
第7ブロック	130	都 市 開 発 (33.1)	資 源 環 境 対 策 / 自 然 ・ 緑 化 対 策 / 交 通 対 策 (30.0)			子 育 て 支 援 (23.8)
第8ブロック	106	交 通 対 策 (37.7)	都 市 開 発 (29.2)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (27.4)	資 源 環 境 対 策 (23.6)	情 報 提 供 (20.8)
第9ブロック	76	都 市 開 発 / 資 源 環 境 対 策 (32.9)		自 然 ・ 緑 化 対 策 (28.9)	交 通 対 策 (23.7)	職 員 の 接 客 態 度 (21.1)
第10ブロック	139	交 通 対 策 (28.1)	都 市 開 発 / 自 然 ・ 緑 化 対 策 (25.9)		資 源 環 境 対 策 (22.3)	職 員 の 接 客 態 度 / 情 報 提 供 (18.0)
第11ブロック	107	都 市 開 発 (45.8)	資 源 環 境 対 策 (37.4)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (34.6)	交 通 対 策 (31.8)	高 齢 者 支 援 / 保 健 衛 生 対 策 (27.1)
第12ブロック	84	都 市 開 発 (41.7)	交 通 対 策 (33.3)	資 源 環 境 対 策 / 自 然 ・ 緑 化 対 策 (31.0)		高 齢 者 支 援 / 情 報 提 供 / 子 育 て 支 援 (19.0)
第13ブロック	94	都 市 開 発 (41.5)	交 通 対 策 (36.2)	自 然 ・ 緑 化 対 策 (35.1)	資 源 環 境 対 策 (30.9)	高 齢 者 支 援 / 保 健 衛 生 対 策 (22.3)

性別で見ると、「都市開発」が男女とも第1位となっている。また、第2位は男性では「交通対策」、女性では「資源環境対策」と差異が生じている。

性・年代別で見ると、「都市開発」は男性では30代から60代の年代で第1位となっているが、男性20代では第4位、男性70歳以上では第2位となっている。また、女性では20代から40代の年代で第1位となっているが、女性50代では第2位、女性の60代と70歳以上では第3位となっている。(表11-1-2)

表11-1-2 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み - 性別、性・年代別(上位5位)

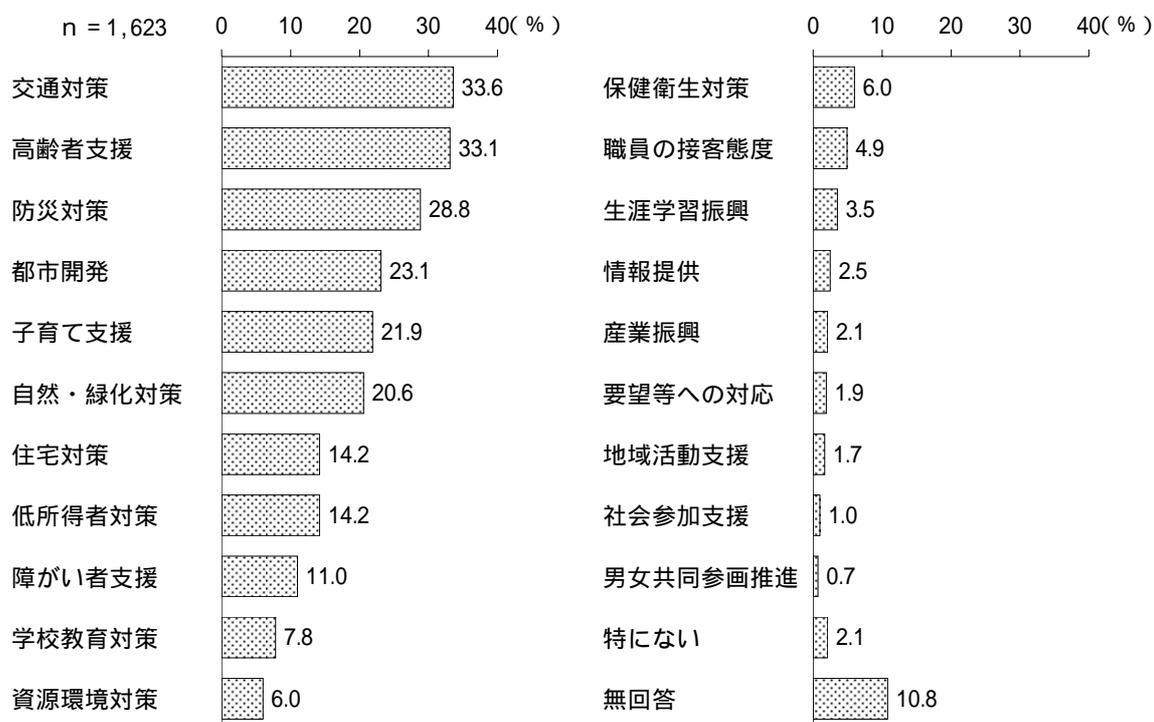
(%)						
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	1,623	都市開発 (34.5)	資源環境対策 (30.3)	自然・緑化対策 (29.5)	交通対策 (28.3)	情報提供 (19.8)
男性(計)	678	都市開発 (33.6)	交通対策 (29.8)	自然・緑化対策 (29.4)	資源環境対策 (28.8)	高齢者支援 (19.9)
20代	52	交通対策 / 自然・緑化対策 (32.7)		資源環境対策 (26.9)	都市開発 (25.0)	子育て支援 (21.2)
30代	123	自然・緑化対策 / 都市開発 (29.3)		交通対策 (24.4)	資源環境対策 (19.5)	子育て支援 (17.9)
40代	111	都市開発 / 交通対策 (29.7)		資源環境対策 (26.1)	子育て支援 (18.9)	自然・緑化対策 (18.0)
50代	106	都市開発 (31.1)	交通対策 / 自然・緑化対策 (24.5)		資源環境対策 (23.6)	情報提供 (17.9)
60代	147	都市開発 (39.5)	自然・緑化対策 (38.1)	資源環境対策 (30.6)	交通対策 (28.6)	高齢者支援 (23.8)
70歳以上	136	資源環境対策 (41.9)	都市開発 (39.7)	交通対策 (39.0)	高齢者支援 / 保健衛生対策 (35.3)	
女性(計)	896	都市開発 (35.5)	資源環境対策 (31.5)	自然・緑化対策 (29.8)	交通対策 (27.0)	子育て支援 (21.3)
20代	74	都市開発 (33.8)	交通対策 (32.4)	自然・緑化対策 (25.7)	資源環境対策 (17.6)	情報提供 (16.2)
30代	174	都市開発 (43.1)	子育て支援 (29.3)	自然・緑化対策 (24.1)	交通対策 (23.6)	資源環境対策 / 情報提供 (20.7)
40代	142	都市開発 (38.0)	資源環境対策 (31.7)	子育て支援 (31.0)	交通対策 (26.8)	自然・緑化対策 (24.6)
50代	128	資源環境対策 (35.2)	都市開発 (31.3)	自然・緑化対策 (28.9)	交通対策 (26.6)	子育て支援 (22.7)
60代	178	自然・緑化対策 (41.0)	資源環境対策 (37.6)	都市開発 (33.7)	保健衛生対策 (28.7)	交通対策 (27.0)
70歳以上	196	資源環境対策 (38.3)	保健衛生対策 (32.7)	都市開発 (32.1)	自然・緑化対策 (30.1)	交通対策 (29.1)

( 1 - 1 ) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み

「交通対策」、「高齢者支援」が3割を超える一方、「防災対策」が急増している

問38(2) あなたが今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを、下の表からお選びください。( は3つまで)

図11-2-1 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み



区の取り組み	内 容	区の取り組み	内 容
交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など
都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など
子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
住宅対策	良質な住宅の供給支援など	要望等への対応	区民の声、担当課あてメールなどによる要望への対応など
低所得者対策	生活の援助や自立支援など	地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを聞いたところ、「交通対策」(33.6%)が3割を超え最も高く、次いで「高齢者支援」(33.1%)、「防災対策」(28.8%)、「都市開発」(23.1%)、「子育て支援」(21.9%)の順となっている。(図11-2-1)

平成 22 年調査と比べると、前回第 2 位の「交通対策」が 5.8 ポイント上昇して第 1 位となっている。また、前回第 7 位だった「防災対策」が 12.0 ポイントと大きく上昇して第 3 位に、前回第 5 位の「都市開発」が 5.0 ポイント上昇して第 4 位となっている。「高齢者支援」が 2 位に下がったのは平成 15 年（交通対策が 1 位）以来で、「防災対策」が 20% 台後半に上がったのは平成 17 年（28.3%）以来である。（表 11 - 2 - 1）

表11 - 2 - 1 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 上位 5 位の推移（対前年調査）

区の取り組み	平成23年の上位 5 位		平成22年の順位		平成23年と平成22年の差
	順位	(%)	順位	(%)	
交通対策	第 1 位	33.6	第 2 位	27.8	+ 5.8
高齢者支援	第 2 位	33.1	第 1 位	36.2	- 3.1
防災対策	第 3 位	28.8	第 7 位	16.8	+ 12.0
都市開発	第 4 位	23.1	第 5 位	18.1	+ 5.0
子育て支援	第 5 位	21.9	第 3 位	20.3	+ 1.6

（注）「防災対策」は、前回調査までは「災害対策」となっている。

調査が始まった平成 13 年調査と比べると、平成 13 年に第 2 位の「交通対策」が 4.5 ポイント上昇して第 1 位、平成 13 年に第 7 位だった「防災対策」が 13.9 ポイントと大きく上昇して第 3 位になっている。また、「都市開発」は 6.2 ポイント上昇、「子育て支援」は 5.1 ポイント上昇している。（表 11 - 2 - 2）

表11 - 2 - 2 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 上位 5 位の推移（対平成13年調査）

区の取り組み	平成23年の上位 5 位		平成13年の順位		平成23年と平成13年の差
	順位	(%)	順位	(%)	
交通対策	第 1 位	33.6	第 2 位	29.1	+ 4.5
高齢者支援	第 2 位	33.1	第 1 位	35.9	- 2.8
防災対策	第 3 位	28.8	第 7 位	14.9	+ 13.9
都市開発	第 4 位	23.1	第 3 位	16.9	+ 6.2
子育て支援	第 5 位	21.9	第 4 位	16.8	+ 5.1

（注）「防災対策」は、前回調査までは「災害対策」となっている。

地域ブロック別でみると、13ブロック中で「交通対策」は6ブロックで第1位を占め、その他のブロックでも第3位までに入っている。また、「高齢者対策」は5ブロックで第1位を占め、その他のブロックでも第3位までに入り、「防災対策」は第1ブロックと第11ブロックの2ブロックで第1位を占め、その他のブロックでも第4位までに入っている。(表11-2-3)

ブロック区分図



表11-2-3 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 地域ブロック別 (上位5位)  
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,623	交通対策 (33.6)	高齢者支援 (33.1)	防災対策 (28.8)	都市開発 (23.1)	子育て支援 (21.9)
第1ブロック	192	防災対策 (35.9)	高齢者支援 (31.3)	交通対策 (26.6)	都市開発 / 自然・緑化対策 (26.0)	
第2ブロック	100	交通対策 (39.0)	防災対策 (30.0)	高齢者支援 (25.0)	都市開発 / 自然・緑化対策 (24.0)	
第3ブロック	112	高齢者支援 (38.4)	交通対策 (34.8)	都市開発 (26.8)	防災対策 / 自然・緑化対策 (24.1)	
第4ブロック	147	高齢者支援 (40.8)	交通対策 (30.6)	防災対策 (28.6)	都市開発 (25.2)	自然・緑化対策 (21.8)
第5ブロック	158	交通対策 (32.3)	高齢者支援 (30.4)	防災対策 (29.7)	子育て支援 (25.9)	都市開発 (22.8)
第6ブロック	177	交通対策 (36.2)	高齢者支援 (32.2)	防災対策 (31.1)	都市開発 (26.6)	子育て支援 (24.3)
第7ブロック	130	交通対策 (40.8)	高齢者支援 (32.3)	子育て支援 (27.7)	防災対策 (25.4)	自然・緑化対策 (19.2)
第8ブロック	106	交通対策 (37.7)	高齢者支援 (34.9)	都市開発 (27.4)	防災対策 / 自然・緑化対策 (26.4)	
第9ブロック	76	高齢者支援 (38.2)	交通対策 (32.9)	防災対策 (28.9)	自然・緑化対策 / 低所得者対策 (21.1)	
第10ブロック	139	高齢者支援 (34.5)	交通対策 (29.5)	子育て支援 (23.0)	防災対策 (20.1)	都市開発 (18.7)
第11ブロック	107	防災対策 (40.2)	交通対策 (35.5)	高齢者支援 (34.6)	都市開発 (30.8)	自然・緑化対策 (18.7)
第12ブロック	84	交通対策 (41.7)	高齢者支援 (27.4)	住宅対策 (21.4)	防災対策 (20.2)	都市開発 / 自然・緑化対策 (15.5)
第13ブロック	94	高齢者支援 (30.9)	防災対策 (27.7)	交通対策 (25.5)	都市開発 (23.4)	子育て支援 (22.3)

性別で見ると、「交通対策」と「高齢者対策」が男女とも第2位までを占めている。

性・年代別で見ると、男女とも「交通対策」は20代、40代と50代で第1位、「子育て支援」は30代で第1位、「高齢者対策」は60代と70歳以上で第1位になっている。(表11-2-4)

表11-2-4 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - 性別、性・年代別(上位5位)

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,623	交通対策 (33.6)	高齢者支援 (33.1)	防災対策 (28.8)	都市開発 (23.1)	子育て支援 (21.9)
男性(計)	678	交通対策 (33.3)	高齢者支援 (32.7)	都市開発 (27.0)	防災対策 (26.7)	子育て支援 (20.6)
20 代	52	交通対策 / 都市開発 (34.6)		子育て支援 (28.8)	防災対策 (25.0)	自然・緑化対策 (23.1)
30 代	123	子育て支援 (37.4)	交通対策 / 都市開発 (35.8)		防災対策 (25.2)	自然・緑化対策 (19.5)
40 代	111	交通対策 (39.6)	高齢者支援 (31.5)	防災対策 (29.7)	子育て支援 / 都市開発 (23.4)	
50 代	106	交通対策 (34.9)	都市開発 (30.2)	防災対策 (29.2)	高齢者支援 (26.4)	自然・緑化対策 / 低所得者対策 (17.0)
60 代	147	高齢者支援 (42.2)	交通対策 (28.6)	防災対策 (25.2)	自然・緑化対策 / 低所得者対策 (20.4)	
70 歳以上	136	高齢者支援 (49.3)	交通対策 (29.4)	防災対策 (26.5)	都市開発 (24.3)	自然・緑化対策 (22.1)
女性(計)	896	高齢者支援 / 交通対策 (33.8)		防災対策 (30.7)	子育て支援 (23.3)	自然・緑化対策 (21.3)
20 代	74	交通対策 (40.5)	子育て支援 (33.8)	防災対策 (27.0)	自然・緑化対策 (23.0)	都市開発 (17.6)
30 代	174	子育て支援 (49.4)	防災対策 (37.9)	交通対策 (37.4)	自然・緑化対策 (27.0)	都市開発 (23.0)
40 代	142	交通対策 (37.3)	防災対策 (30.3)	子育て支援 (29.6)	高齢者支援 (28.2)	都市開発 (24.6)
50 代	128	交通対策 (41.4)	防災対策 (39.1)	高齢者支援 (37.5)	自然・緑化対策 (23.4)	都市開発 (21.1)
60 代	178	高齢者支援 (43.8)	防災対策 (31.5)	交通対策 (25.8)	都市開発 (19.7)	住宅対策 / 低所得者対策 / 障がい者支援 (19.1)
70 歳以上	196	高齢者支援 (48.5)	交通対策 (28.6)	防災対策 (19.9)	自然・緑化対策 (17.9)	都市開発 / 低所得者対策 (16.3)

ライフステージ別でみると、「交通対策」は独身期と家族成長後期で第1位、「高齢者支援」は家族成熟期と高齢期で第1位、「子育て支援」は家族形成期と家族成長前期で第1位となっている。(表11-2-5)

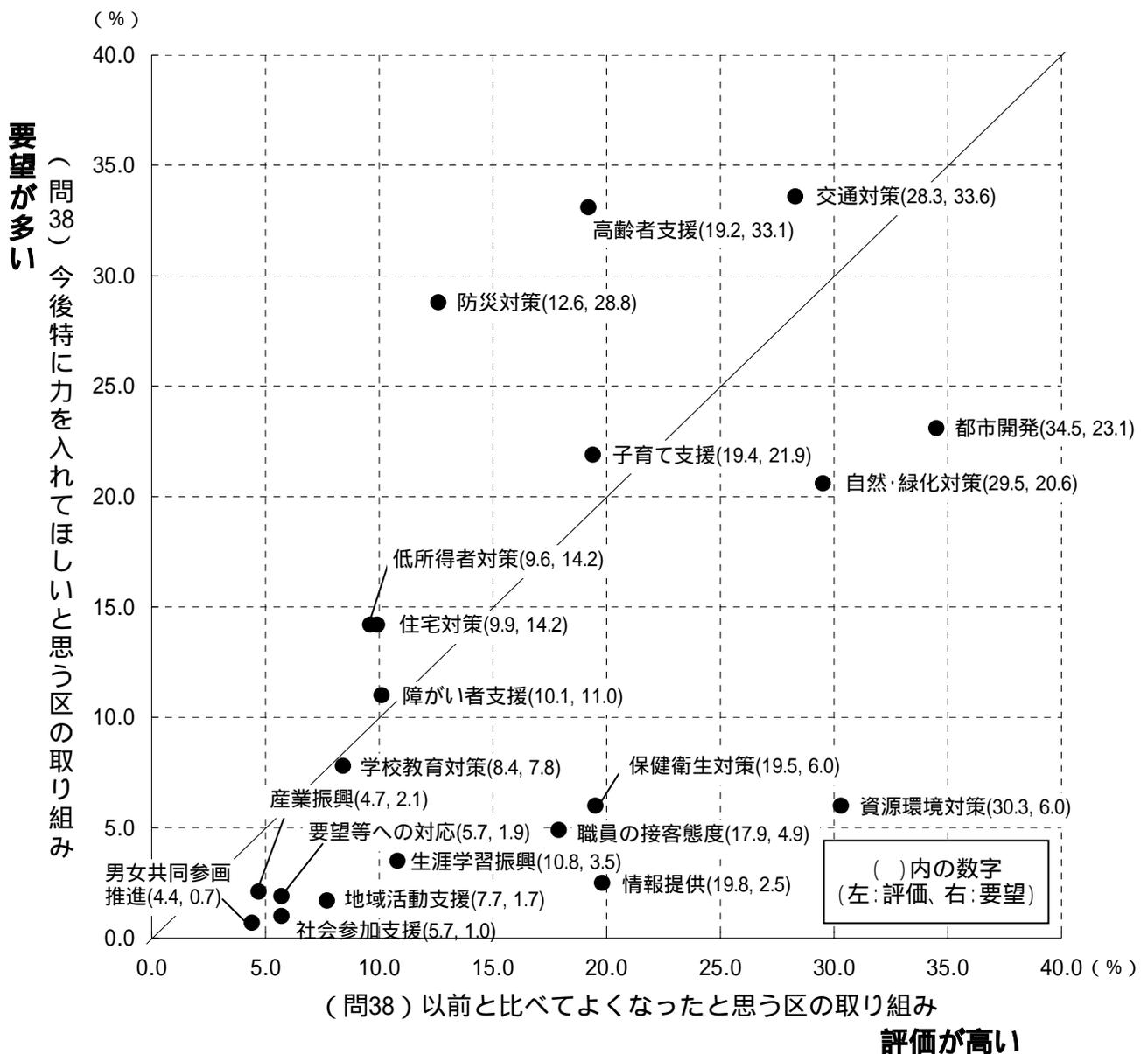
表11-2-5 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み - ライフステージ別(上位5位)

							(%)
	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
全体	1,623	交通対策 (33.6)	高齢者支援 (33.1)	防災対策 (28.8)	都市開発 (23.1)	子育て支援 (21.9)	
独身期	191	交通対策 (34.6)	防災対策 (28.3)	都市開発 (26.7)	子育て支援/自然・緑化対策 (21.5)		
家族形成期	188	子育て支援 (60.1)	交通対策 (39.9)	防災対策 (33.0)	都市開発 (28.7)	自然・緑化対策 (23.4)	
家族成長前期	135	子育て支援 (50.4)	交通対策 (37.8)	防災対策 (28.9)	学校教育対策 (25.9)	高齢者支援 (24.4)	
家族成長小学校期	84	子育て支援 (56.0)	交通対策/防災対策 (35.7)		都市開発 (26.2)	自然・緑化対策/ 高齢者支援 (25.0)	
家族成長中学校期	51	交通対策/子育て支援 (41.2)		学校教育対策 (33.3)	高齢者支援 (23.5)	都市開発/ 自然・緑化対策 (19.6)	
家族成長後期	103	交通対策 (48.5)	防災対策 (33.0)	都市開発 (26.2)	自然・緑化対策 (24.3)	高齢者支援 (21.4)	
家族成熟期	228	高齢者支援 (38.2)	交通対策 (33.8)	防災対策 (29.8)	都市開発 (24.1)	自然・緑化対策 (20.2)	
高齢期	515	高齢者支援 (46.4)	交通対策 (29.1)	防災対策 (23.7)	都市開発 (20.0)	自然・緑化対策 (19.8)	
高齢期 (ひとり暮らし高齢者)	78	高齢者支援 (55.1)	防災対策 (24.4)	住宅対策/低所得者対策 (20.5)		障がい者支援 (16.7)	
高齢期 (夫婦二人暮らし高齢者)	209	高齢者支援 (49.3)	交通対策 (34.4)	都市開発 (24.4)	自然・緑化対策 (22.5)	防災対策 (22.0)	
高齢期 (その他の高齢者)	228	高齢者支援 (40.8)	交通対策 (29.8)	防災対策 (25.0)	自然・緑化対策 (19.7)	都市開発 (17.5)	
その他壮年期	198	防災対策 (38.4)	高齢者支援 (36.4)	交通対策 (29.3)	低所得者対策 (22.2)	都市開発 (20.7)	
壮年独身者	124	高齢者支援 (37.9)	防災対策 (37.1)	交通対策 (25.8)	自然・緑化対策 (21.8)	都市開発/ 低所得者対策 (21.0)	
壮年夫婦のみ者	74	防災対策 (40.5)	交通対策 (35.1)	高齢者支援 (33.8)	低所得者対策 (24.3)	都市開発/ 住宅対策 (20.3)	

問38の「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」と「今後力を入れてほしいと思う取り組み」の比較を以下の図に示した。

評価が20%を下回り、要望が20%を超える項目は「高齢者支援」、「防災対策」、「子育て支援」となっている。また、評価は20%を超えているが、要望が20%を下回る項目は「資源環境対策」で、評価と要望がともに20%を超えている項目は、「交通対策」、「都市開発」、「自然・緑化対策」となっている。(図11-2-2)

図11-2-2 「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」と「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」の比較



<参考> 今後力を入れてほしいと思う区の取り組みの推移

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

問 あなたが今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを次の中から3つまで選んでください。(は3つまで)

(%)

調査年度	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成23年	1,623	交通対策 (33.6)	高齢者支援 (33.1)	防災対策 (28.8)	都市開発 (23.1)	子育て支援 (21.9)
平成22年	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発/ 学校教育対策 (18.1)
平成21年	1,532	高齢者支援 (38.3)	交通対策 (25.7)	低所得者対策 (18.2)	子育て支援 (18.0)	災害対策 (17.7)
平成20年	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)
平成19年	1,475	高齢者支援 (39.1)	交通対策 (29.2)	災害対策 (22.2)	自然・緑化対策 (22.1)	都市開発 (19.9)
平成18年	1,383	高齢者支援 (34.8)	交通対策 (27.6)	災害対策 (20.2)	自然・緑化対策 (18.9)	子育て支援 (17.9)
平成17年	1,486	高齢者支援 (34.1)	交通対策 (30.0)	災害対策 (28.3)	子育て支援 (21.7)	自然・緑化対策 (18.7)
平成16年	1,497	高齢者支援 (38.5)	交通対策 (31.1)	子育て支援 (21.2)	自然・緑化対策 (19.6)	都市開発 (16.8)
平成15年	1,890	交通対策 (33.9)	高齢者支援 (33.1)	自然・緑化対策 (20.6)	都市開発 (20.0)	子育て支援 (19.8)
平成14年	1,808	高齢者支援 (36.6)	交通対策 (33.4)	都市開発 (20.4)	資源環境対策 (19.1)	自然・緑化対策 (18.0)
平成13年	1,907	高齢者支援 (35.9)	交通対策 (29.1)	都市開発 (16.9)	子育て支援 (16.8)	住宅対策 (16.7)

(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(平成12年まで 訪問面接法)

問 区で最も力を入れてやってほしい対策を、この中から2つまでお答えください。

(は2つまで)

(%)

調査年度	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成12年	1,420	高齢者福祉 (37.7)	保健医療の実 充 (16.9)	ごみ・リサイ クル対策 (16.2)	交通網の整備 (10.7)	幼児・児童 福祉 (9.5)
平成11年	1,503	高齢者福祉 (45.4)	保健医療の実 充 (17.2)	ごみ・リサイ クル対策 (15.0)	幼児・児童 福祉 (10.4)	交通網の整備 (9.8)
平成10年	1,497	高齢者福祉 (39.3)	保健医療の実 充 (19.9)	交通網の整備 (12.6)	住宅対策 (10.8)	道路の整備 (9.2)
平成9年	1,533	高齢者福祉 (42.3)	保健医療の実 充 (23.7)	交通網の整備 (12.2)	防災対策 (10.8)	住宅対策 (8.8)
平成8年	1,512	高齢者福祉 (43.9)	保健医療の実 充 (20.0)	ごみ・リサイ クル対策 (16.5)	交通網の整備 (14.1)	住宅対策 (14.0)
平成7年	1,500	高齢者福祉 (36.9)	ごみ・リサイ クル対策 (16.3)	防災対策 (15.1)	交通網の整備 (13.0)	住宅対策 (12.1)
平成6年	1,549	高齢者福祉 (41.8)	ごみ・リサイ クル対策 (17.0)	住宅対策 (15.2)	交通網の整備 (14.3)	保健医療の 実 充 (13.2)

(2) 区の取り組みについての評価・印象

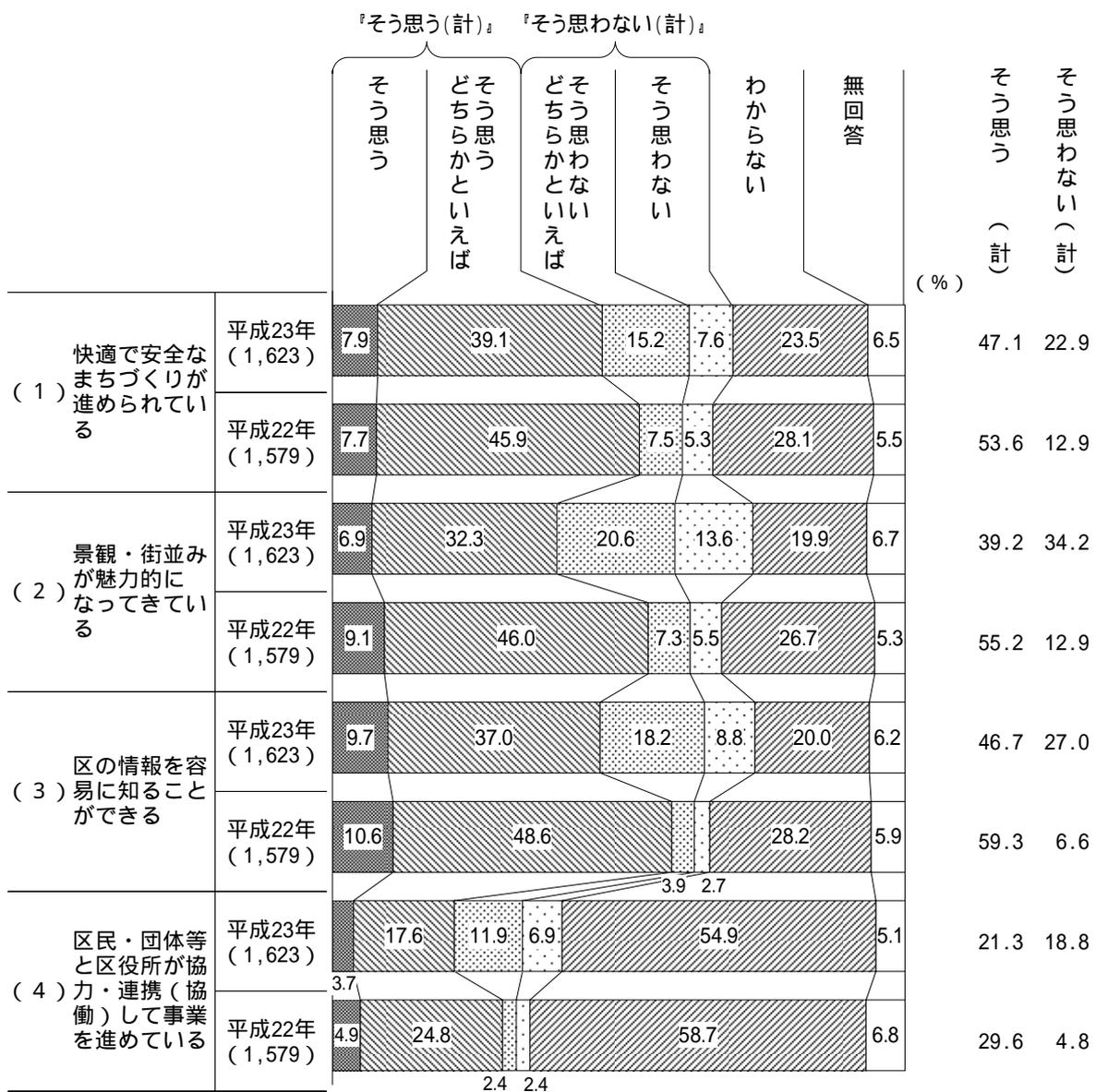
【快適で安全なまちづくりが進められている】、【区の情報を容易に知ることができる】  
 と思っている人が5割近く

【景観・街並みが魅力的になってきている】、【区の情報を容易に知ることができる】は  
 評価・印象が減少している

問39 次の区の実践について、あなたはどのように感じていますか。

(1) ~ (4) のそれぞれについてお答えください。( はそれぞれ1つずつ)

図11-3-1 区の実践についての評価・印象 - 過年度比較



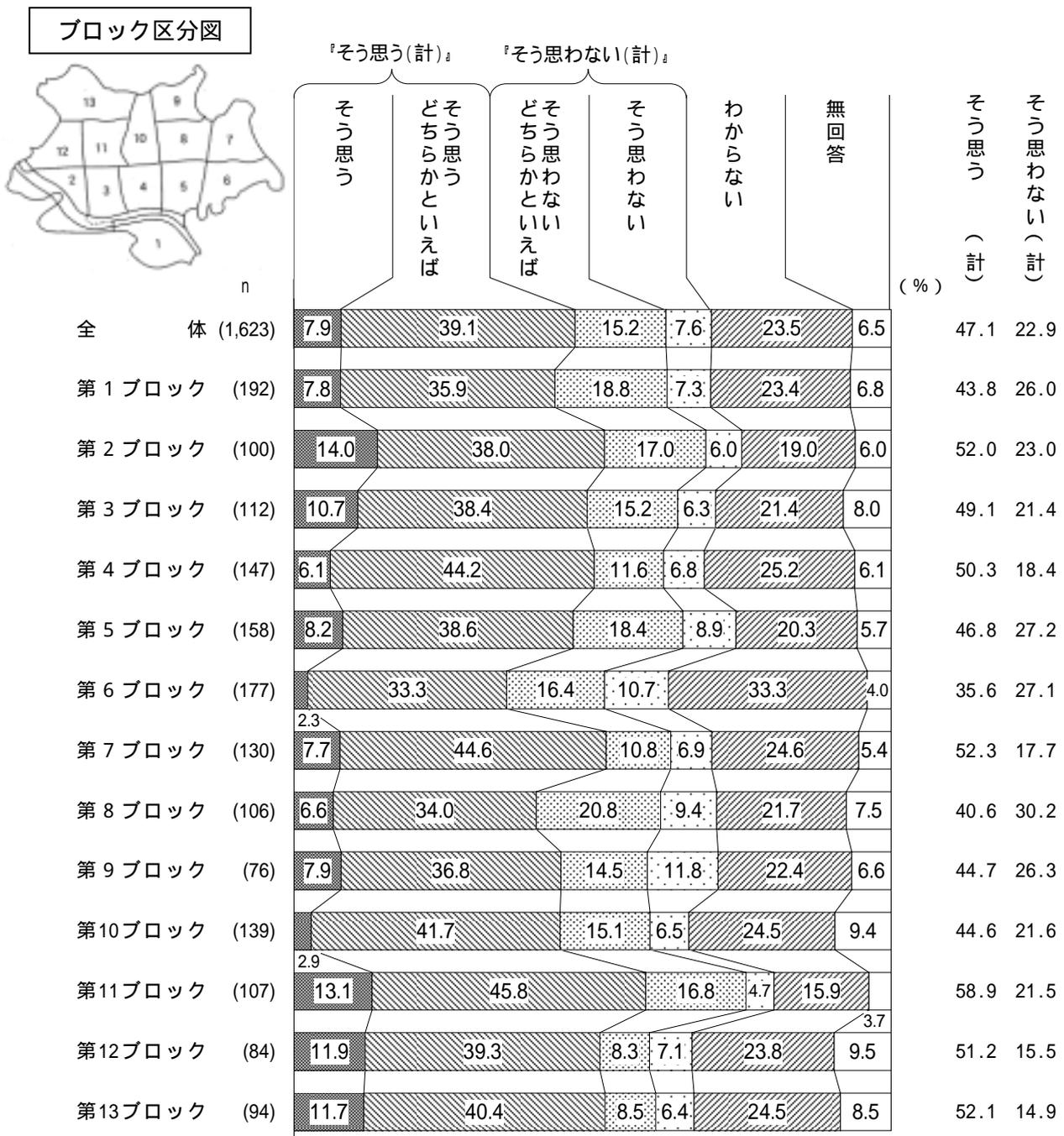
区の取り組みについての評価・印象を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【快適で安全なまちづくりが進められている】(47.1%)と【区の情報を容易に知ることができる】(46.7%)がともに5割近く、【景観・街並みが魅力的になってきている】(39.2%)がほぼ4割、【区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている】(21.3%)が2割を超え、いずれの取り組みでも『そう思わない(計)』を上回っている。

平成22年調査と比較すると、平成22年より『そう思う(計)』は【景観・街並みが魅力的になってきている】で16.0ポイント低く、【区の情報を容易に知ることができる】で12.6ポイント低くなっている。また、『そう思わない(計)』でも【景観・街並みが魅力的になってきている】で21.3ポイント高く、【区の情報を容易に知ることができる】で20.4ポイント高くなっており、評価・印象が減少している。(図11-3-1)

地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第11ブロック(58.9%)で6割近くと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第8ブロック(30.2%)で3割と高くなっている。また、「わからない」は第6ブロック(33.3%)で3割を超え高くなっている。(図11-3-2)

図11-3-2 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(1)

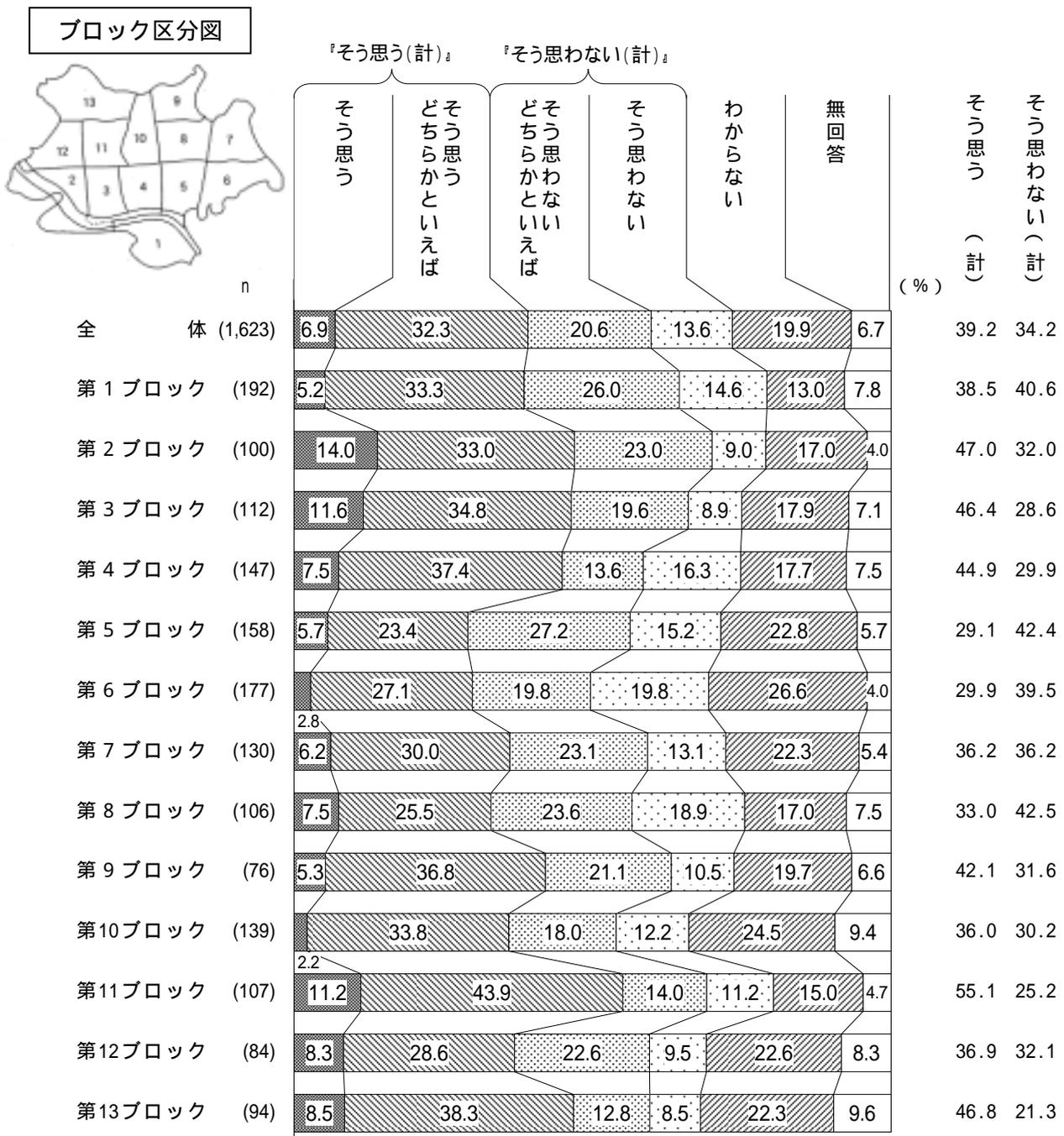
(1) 快適で安全なまちづくりが進められている



地域ブロック別でみると、「そう思う」は第2ブロック（14.0%）で1割半ばと高く、『そう思う（計）』は第11ブロック（55.1%）で5割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は第8ブロック（42.5%）と第5ブロック（42.4%）で4割を超え、第1ブロック（40.6%）でほぼ4割と高くなっている。（図11-3-3）

図11-3-3 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別（2）

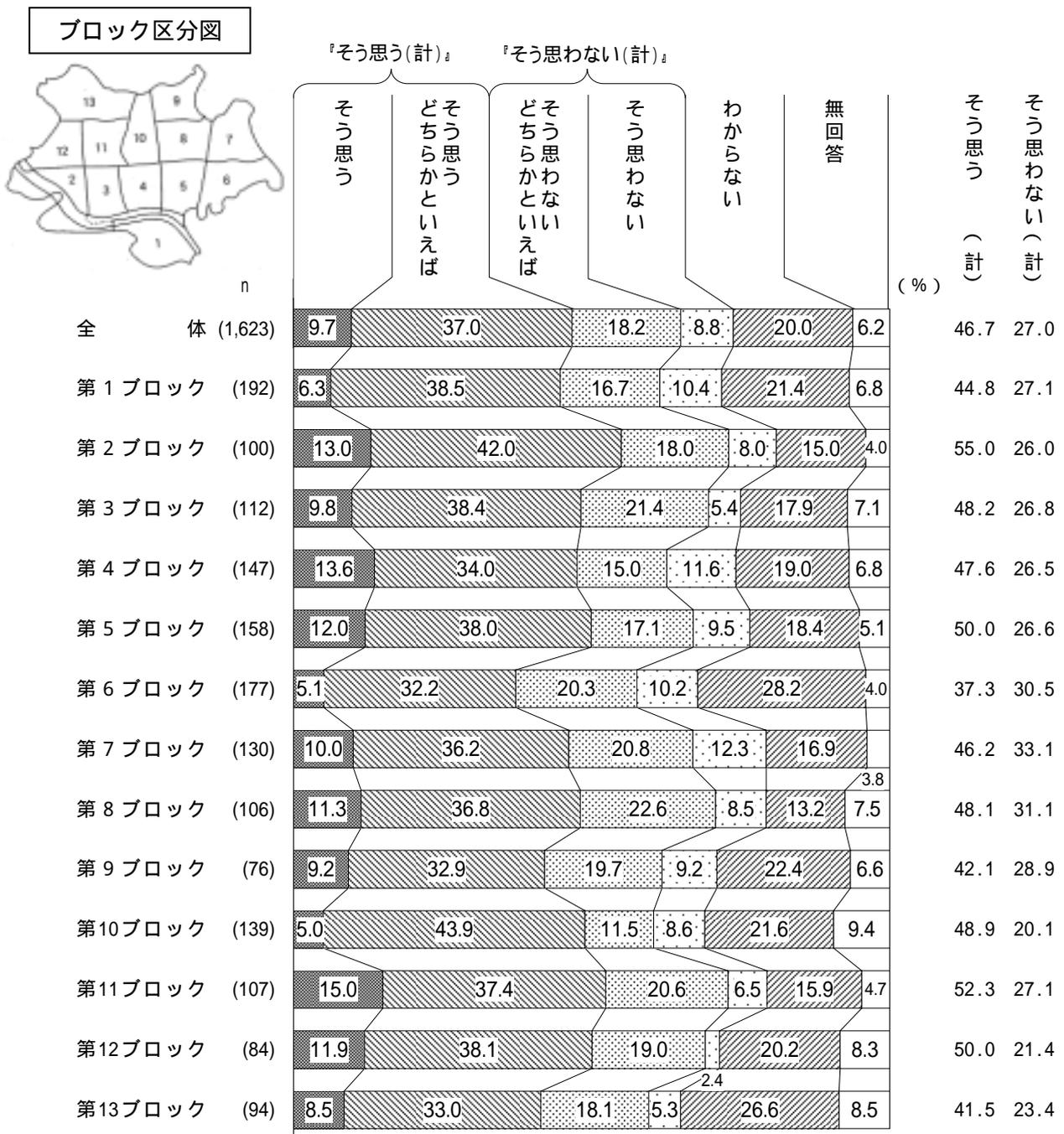
（2）景観・街並みが魅力的になってきている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第2ブロック(55.0%)で5割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第7ブロック(33.1%)と第8ブロック(31.1%)で3割を超え高くなっている。(図11-3-4)

図11-3-4 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(3)

(3) 区の情報を知ることができる

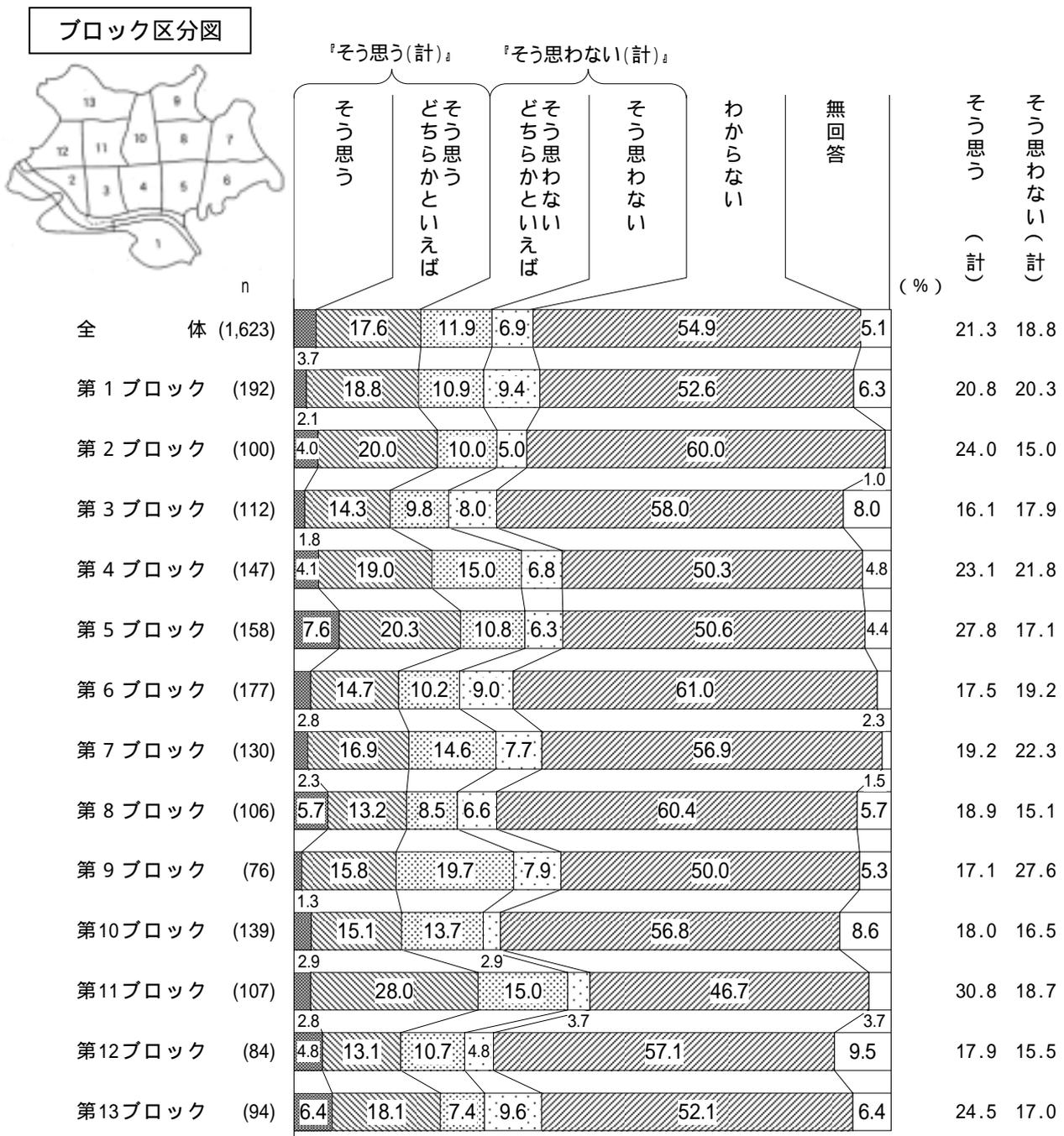


地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第11ブロック(30.8%)でほぼ3割と高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第9ブロック(27.6%)で3割近くと高くなっている。

(図11-3-5)

図11-3-5 区の取り組みについての評価・印象 - 地域ブロック別(4)

(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている

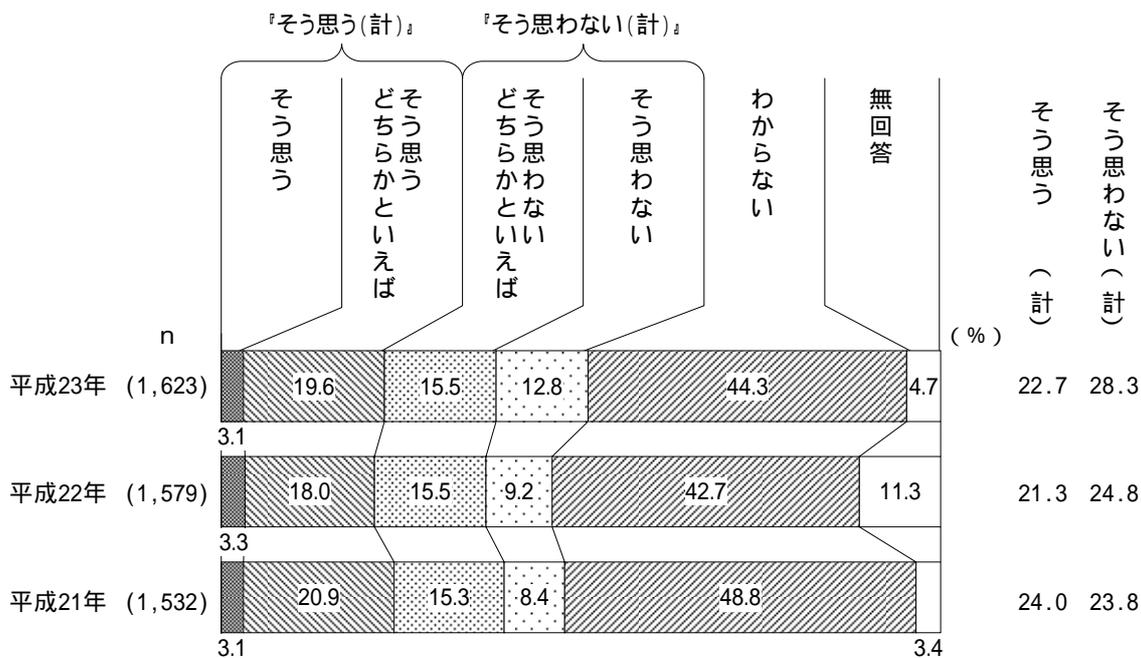


(3) 区政への区民の意見の反映について

『そう思う』人が2割を超え、『そう思わない』人が3割近く

問40 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると思いますか。( は1つだけ)

図11-4-1 区政への区民の意見の反映について - 過年度比較

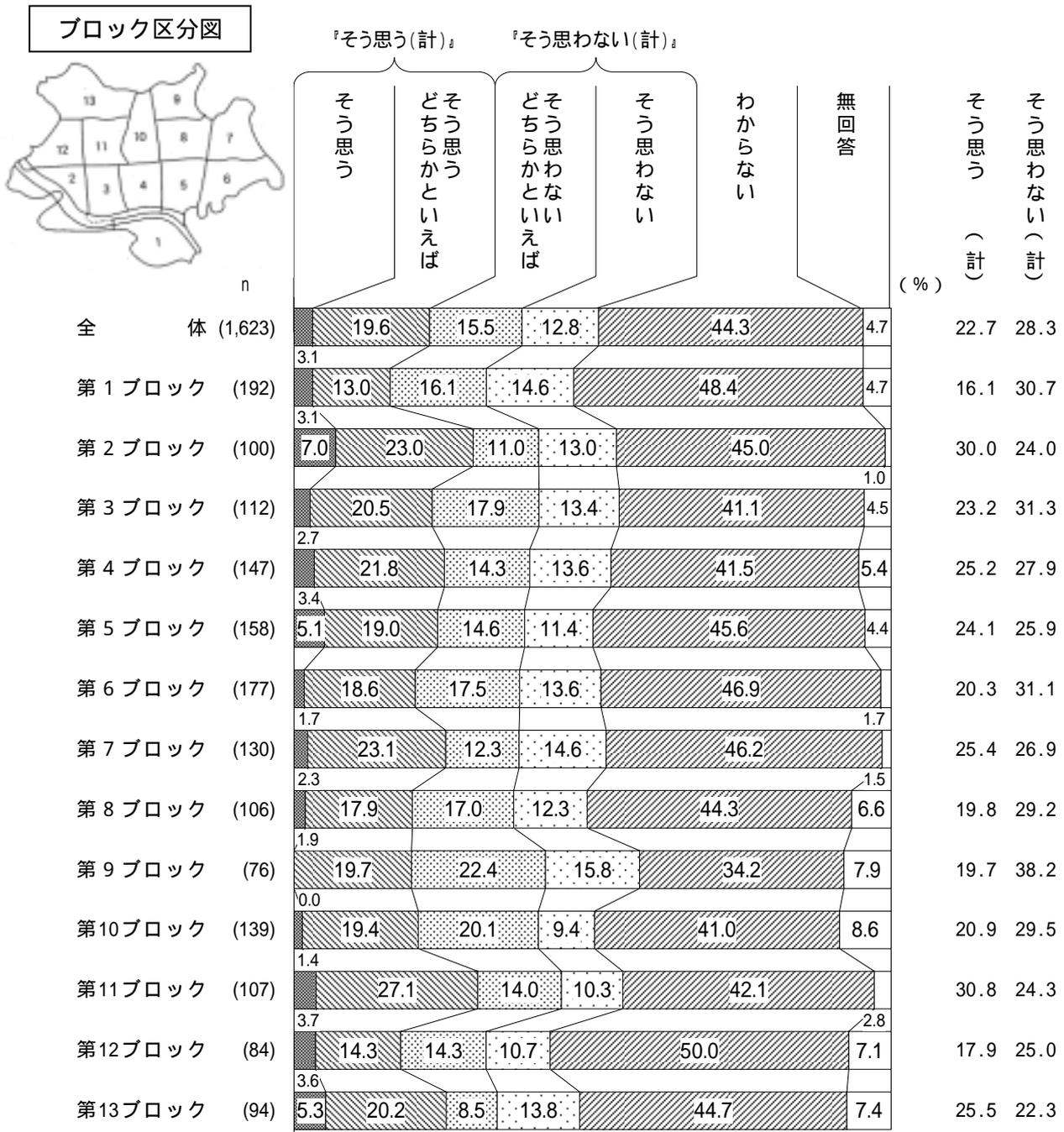


区政に区民の意見が反映されていると思うか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえはそう思う」を合わせた『そう思う(計)』(22.7%)が2割を超え、「そう思わない」と「どちらかといえはそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』(28.3%)が3割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、「そう思わない」は増加傾向にあり、平成22年より3.6ポイント高くなっている。(図11-4-1)

地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第11ブロック(30.8%)でほぼ3割、第2ブロック(30.0%)で3割、第13ブロック(25.5%)で2割半ばと高くなっており、この3ブロックでは『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』を上回っている。一方、『そう思わない(計)』は第9ブロック(38.2%)で4割近くと高くなっている。(図11-4-2)

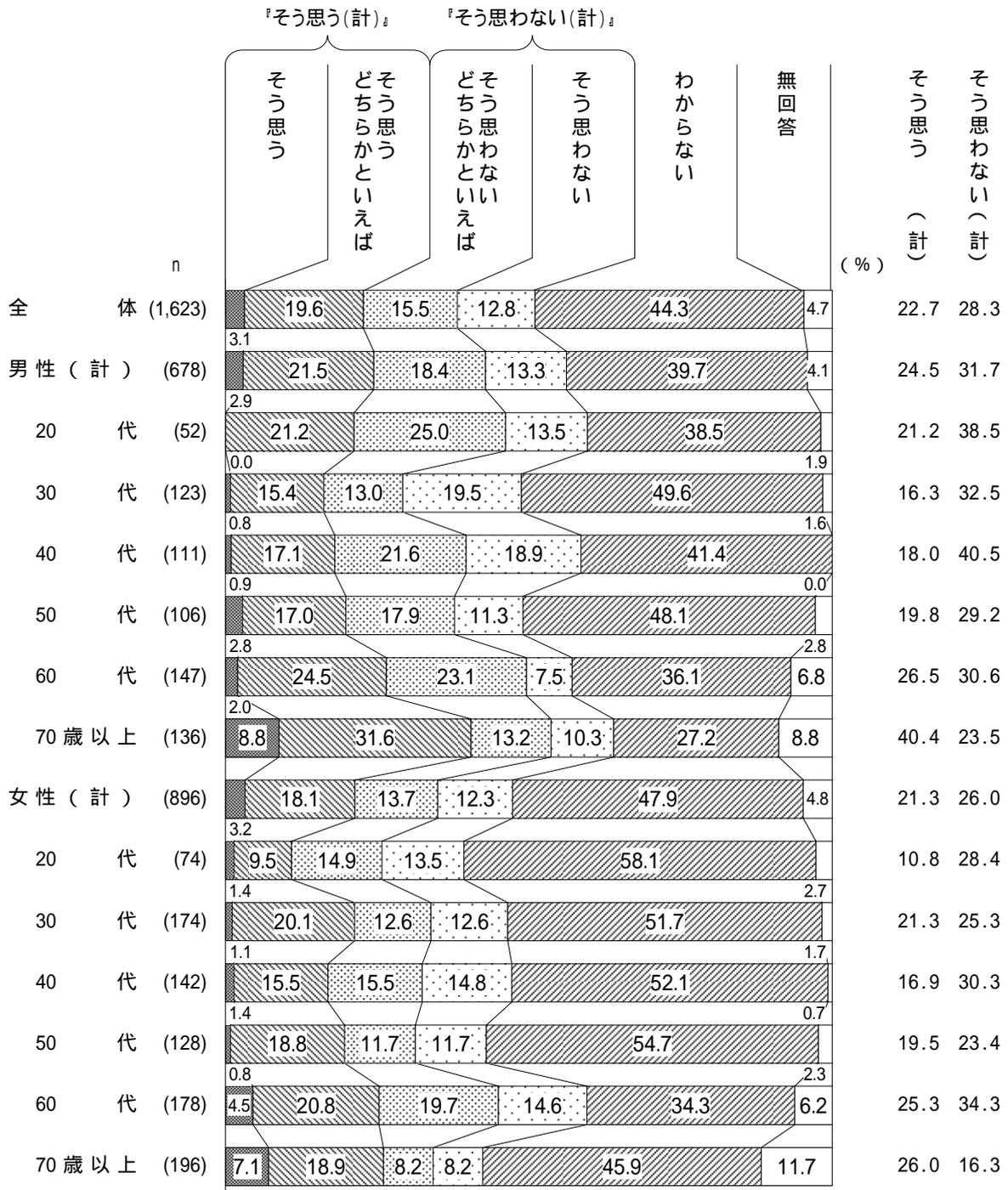
図11-4-2 区政への区民の意見の反映について - 地域ブロック別



性別で見ると、女性で「わからない」(47.9%)が男性(39.7%)より8.2ポイント高くなっている。一方、男性で『そう思わない(計)』(31.7%)が女性(26.0%)より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性70歳以上(40.4%)が4割と高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性40代(40.5%)でほぼ4割、男性20代(38.5%)で4割近くと高くなっている。また、「わからない」は女性20代(58.1%)で6割近くと高くなっている。(図11-4-3)

図11-4-3 区政への区民の意見の反映について - 性別、性・年代別



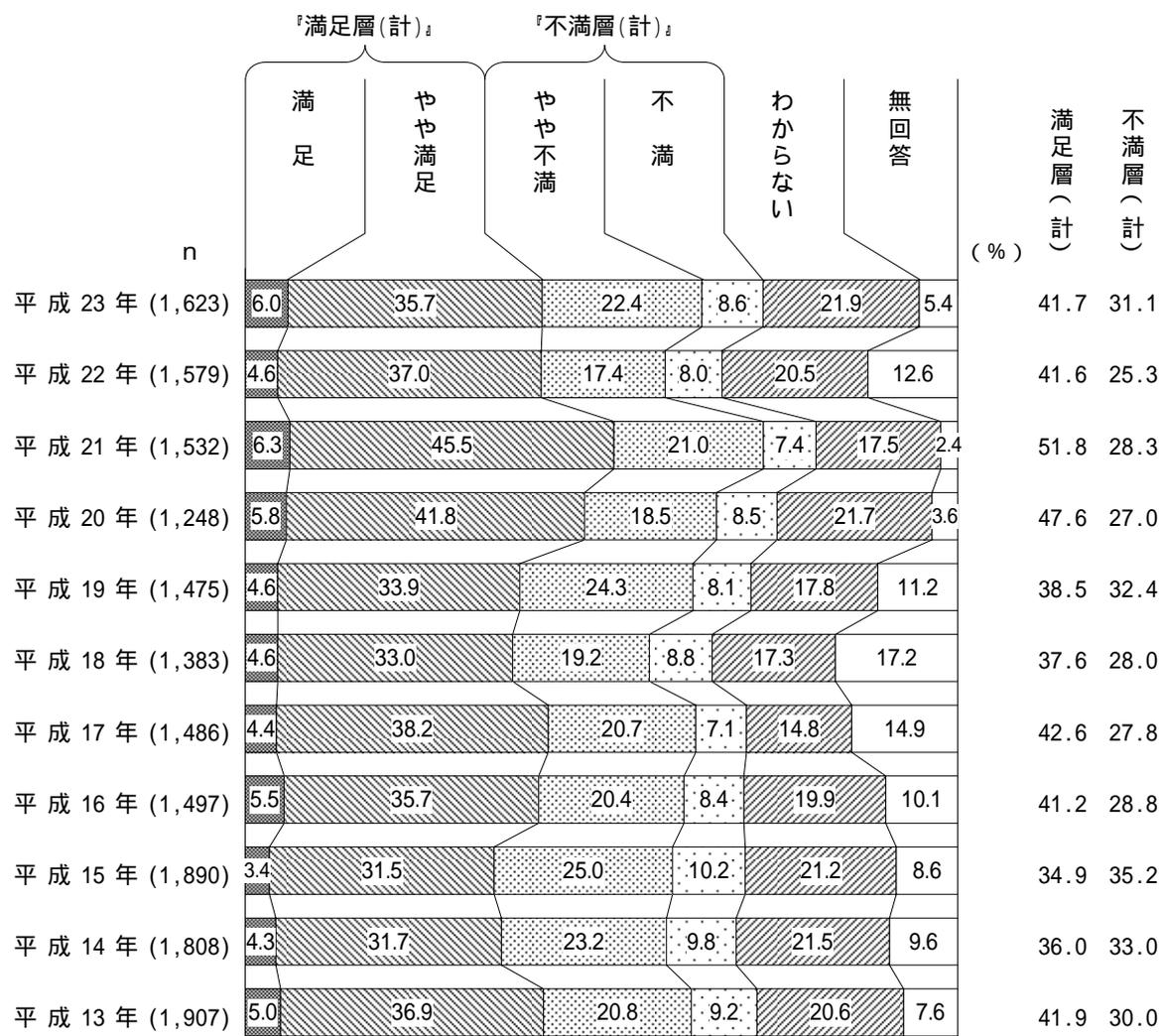
(4) 区政に対する満足度

『満足層』が4割を超え、『不満層』が3割を超えている

問41 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。( は1つだけ)

図11-5-1 区政に対する満足度 - 過年度比較

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)



現在の足立区政に満足しているか聞いたところ、「満足」(6.0%)と「やや満足」(35.7%)を合わせた『満足層(計)』(41.7%)が4割を超えている。一方、「不満」(8.6%)と「やや不満」(22.4%)を合わせた『不満層(計)』(31.1%)が3割を超えている。

過去の調査と比較すると、『不満層(計)』が平成22年より5.8ポイント高くなっている。また、平成15年調査以外では『満足層(計)』が『不満層(計)』を上回っている。

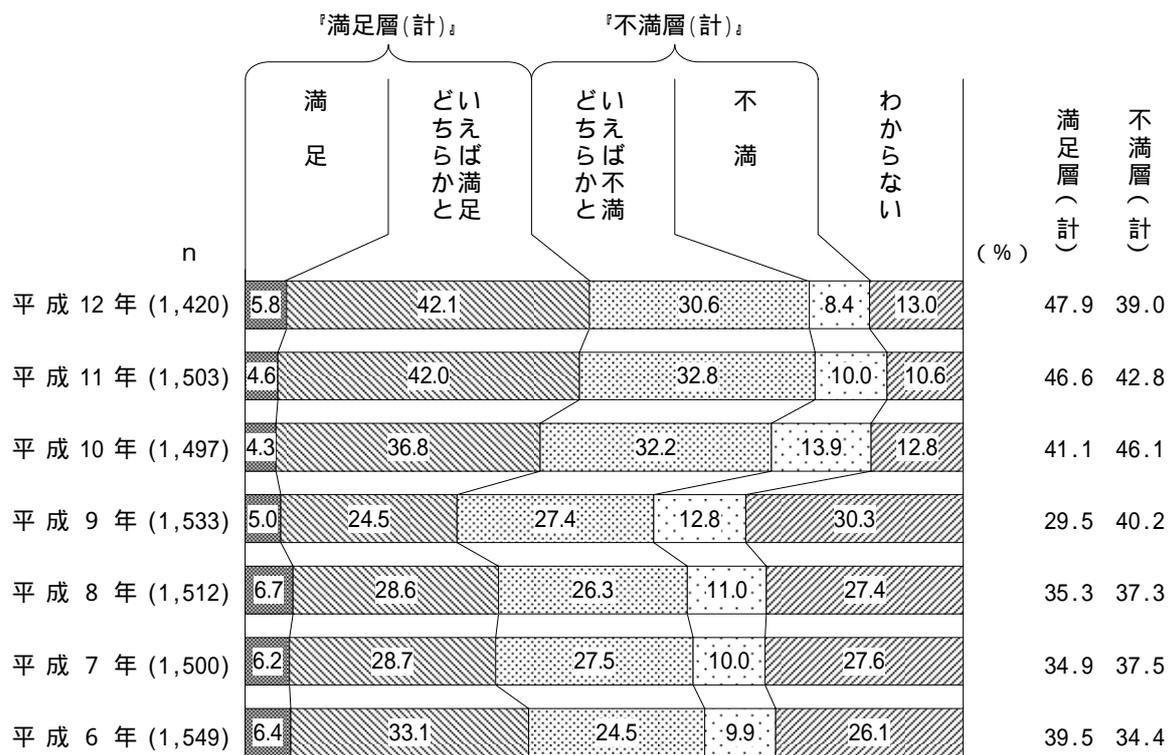
(図11-5-1)

<参考> 区政に対する満足度の推移

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。この中から1つお答えください。  
( は1つ)

図11 - 5 - 2 区政に対する満足度 - 経年変化

(平成12年まで 訪問面接法)

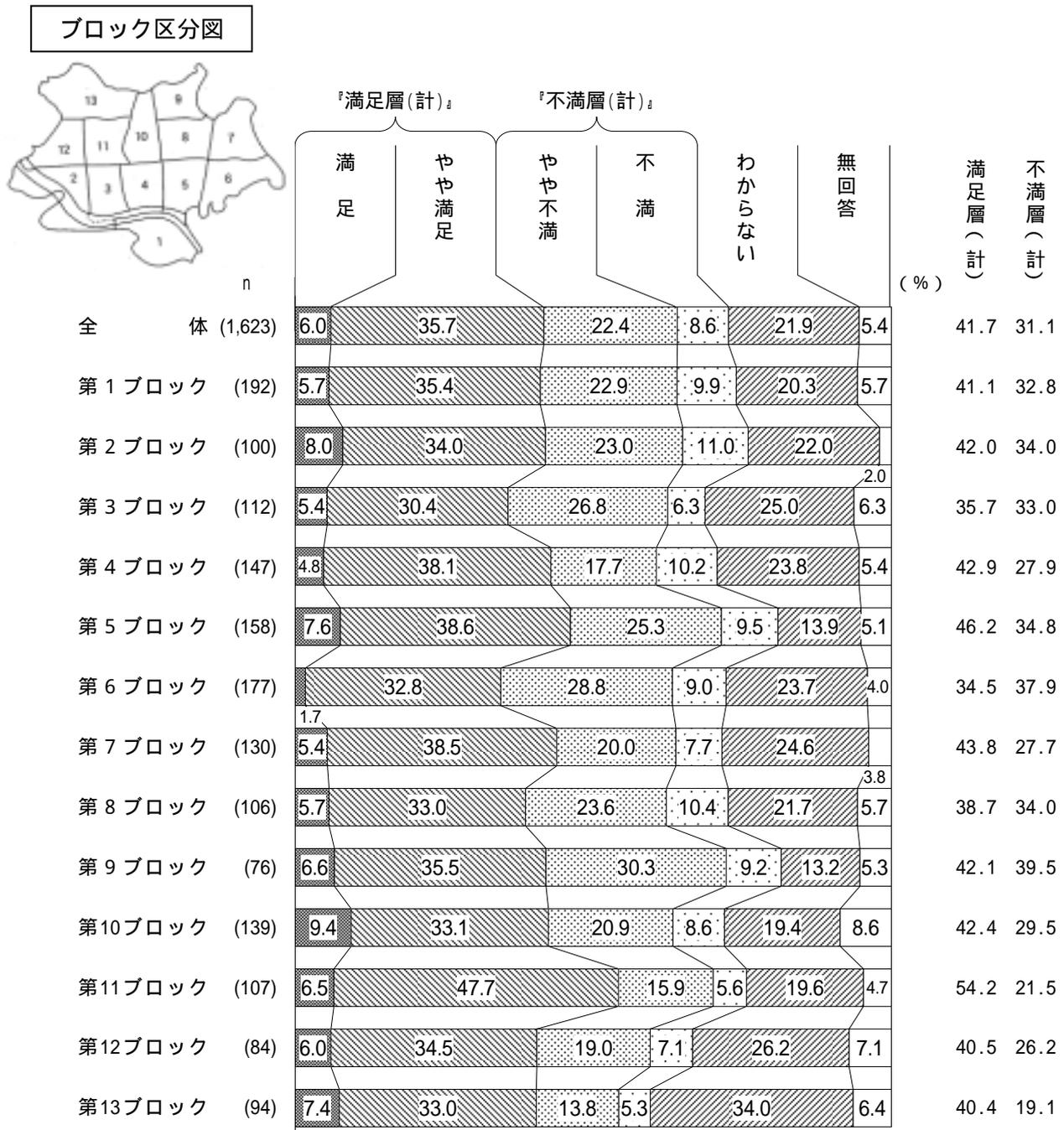


(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、平成13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別で見ると、『満足層(計)』は第11ブロック(54.2%)で5割半ばと高くなっている。一方、『不満層(計)』は第9ブロック(39.5%)で4割、第6ブロック(37.9%)で4割近くと高く、特に第6ブロックでは『不満層(計)』が『満足層(計)』を上回っている。

(図11-5-3)

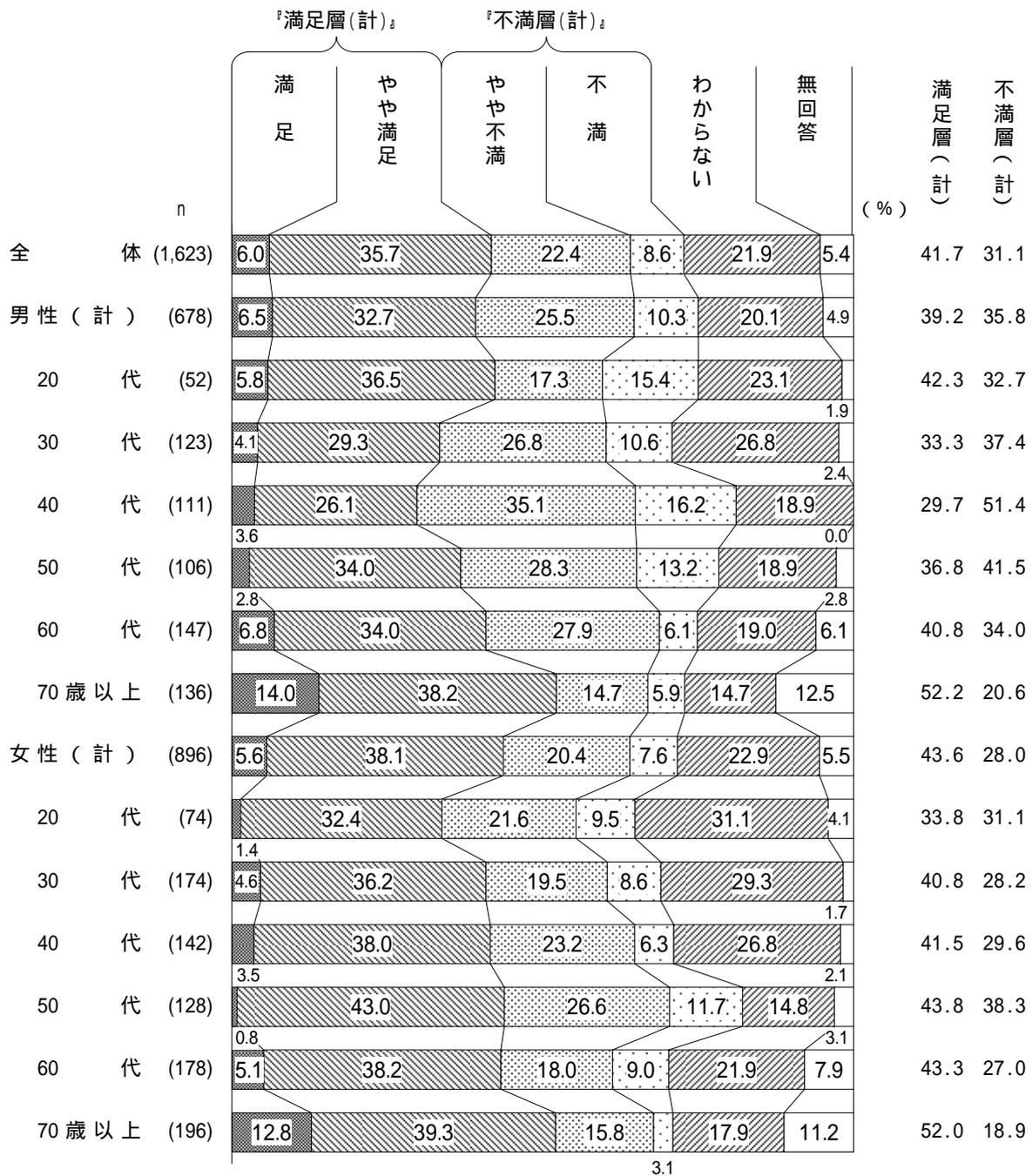
図11-5-3 区政に対する満足度 - 地域ブロック別



性別で見ると、男性で『不満層（計）』（35.8%）が女性（28.0%）より7.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『満足層（計）』は男女とも70歳以上（男性52.2%・女性52.0%）で5割を超え高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性40代（51.4%）で5割を超え高くなっている。（図11-5-4）

図11-5-4 区政に対する満足度 - 性別、性・年代別



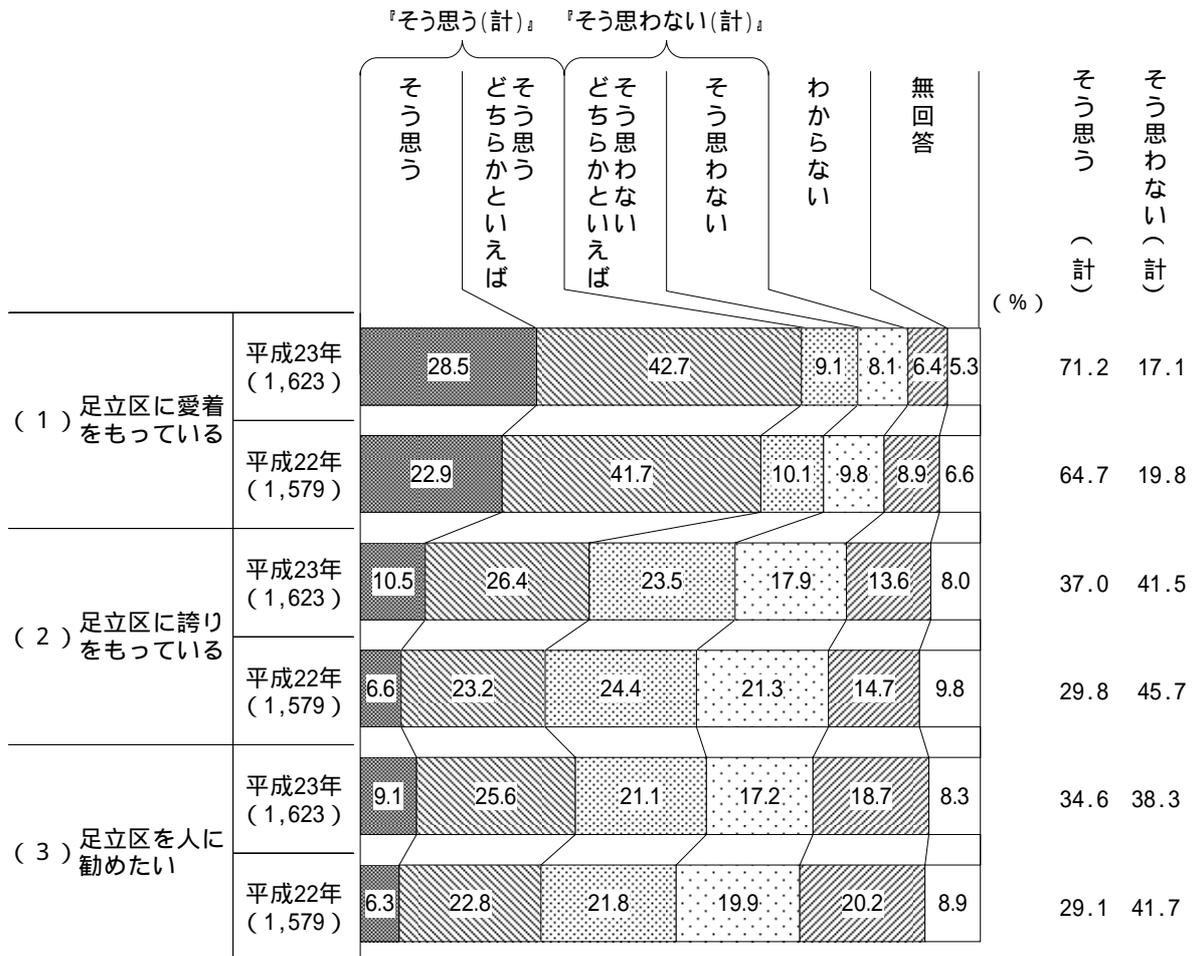
(5) 区に対する気持ち

【足立区に愛着をもっている】と思う人が7割を超えている

【足立区に誇りをもっている】と思わない人が4割を超え、【足立区を人に勧めたい】と思わない人が4割近く

問42 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。  
( は各項目とも1つだけ)

図11-6-1 区に対する気持ち - 過年度比較



足立区に対する気持ちを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、【足立区に愛着をもっている】(71.2%)が7割を超えている。

一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、【足立区に誇りをもっている】(41.5%)が4割を超え、【足立区を人に勧めたい】(38.3%)が4割近くと、『そう思わない(計)』が『そう思う(計)』を上回っている。

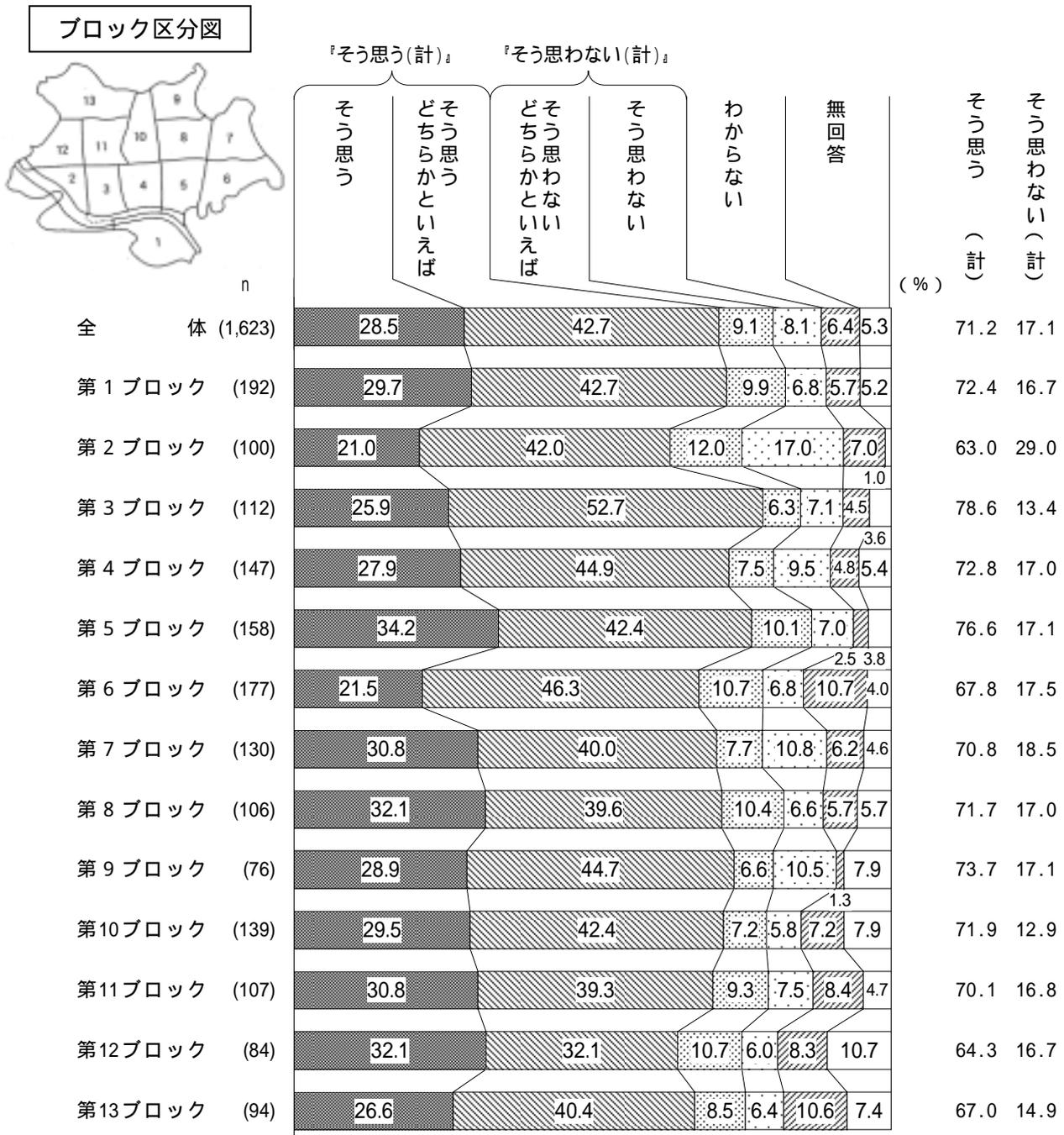
平成22年調査と比較すると、平成22年より『そう思う(計)』は、【足立区に誇りをもっている】が7.2ポイント高く、【足立区に愛着をもっている】が6.5ポイント高く、【足立区を人に勧めたい】が5.5ポイント高く、いずれも平成22年より増加している。(図11-6-1)

地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』はいずれのブロックでも6割以上を占めている。一方、『そう思わない(計)』は第2ブロック(29.0%)でほぼ3割と高くなっている。

(図11-6-2)

図11-6-2 区に対する気持ち - 地域ブロック別(1)

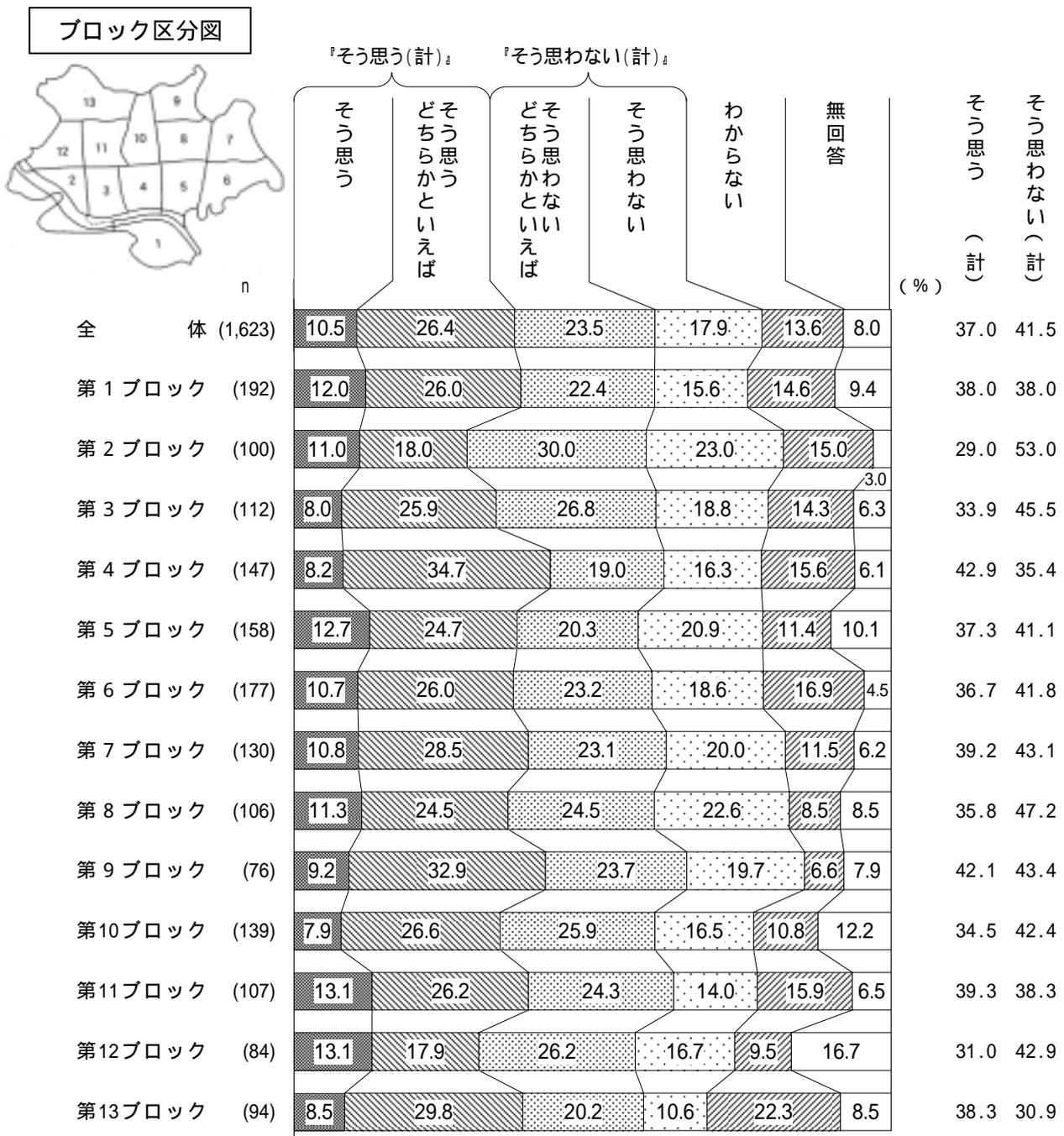
(1) 足立区に愛着をもっている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第4ブロック(42.9%)と第9ブロック(42.1%)で4割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第2ブロック(53.0%)で5割を超え高くなっている。(図11-6-3)

図11-6-3 区に対する気持ち - 地域ブロック別(2)

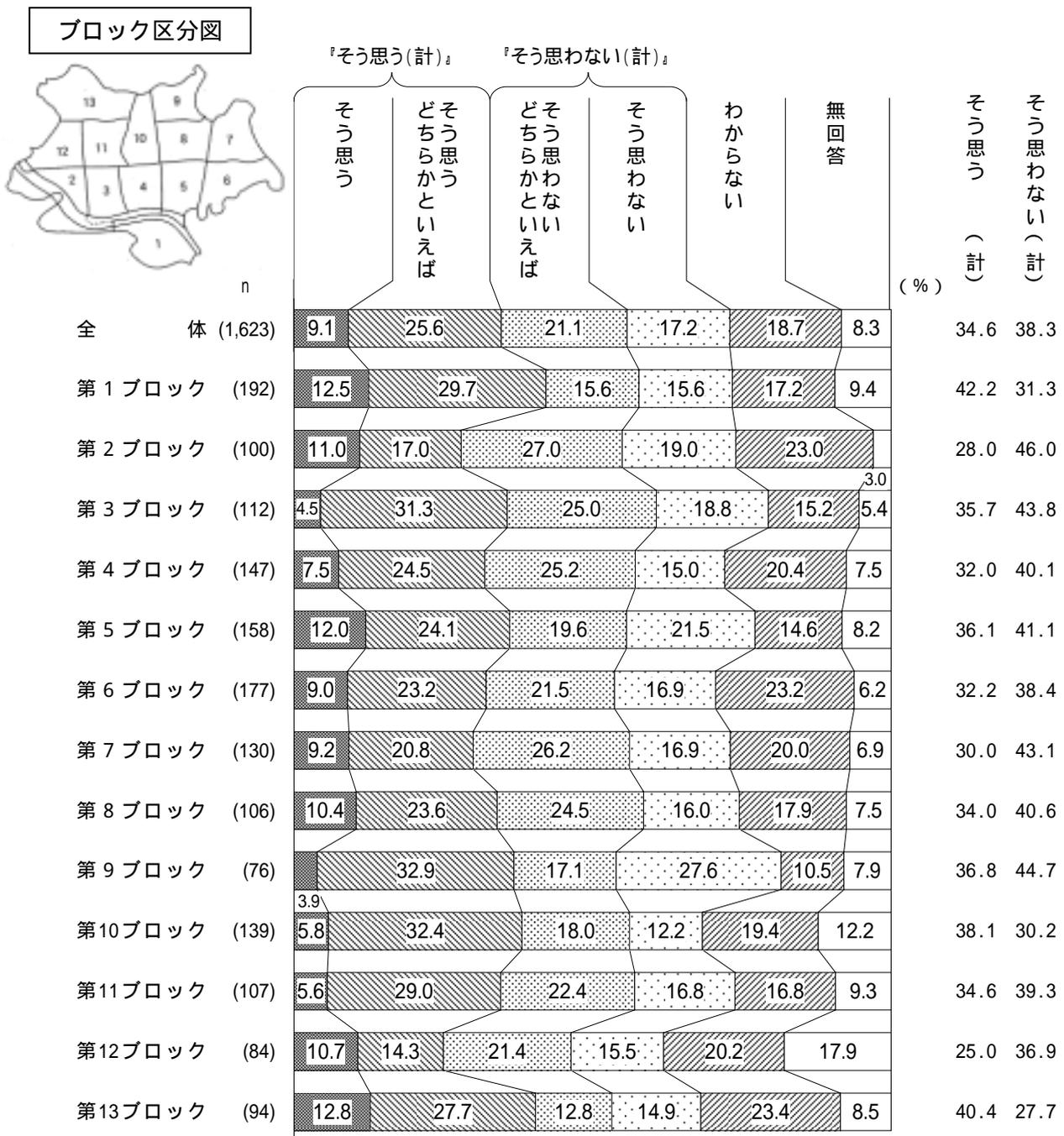
(2) 足立区に誇りをもっている



地域ブロック別でみると、『そう思う(計)』は第1ブロック(42.2%)で4割を超え高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は第2ブロック(46.0%)と第9ブロック(44.7%)で4割半ばと高くなっている。(図11-6-4)

図11-6-4 区に対する気持ち - 地域ブロック別(3)

(3) 足立区を人に勧めたい

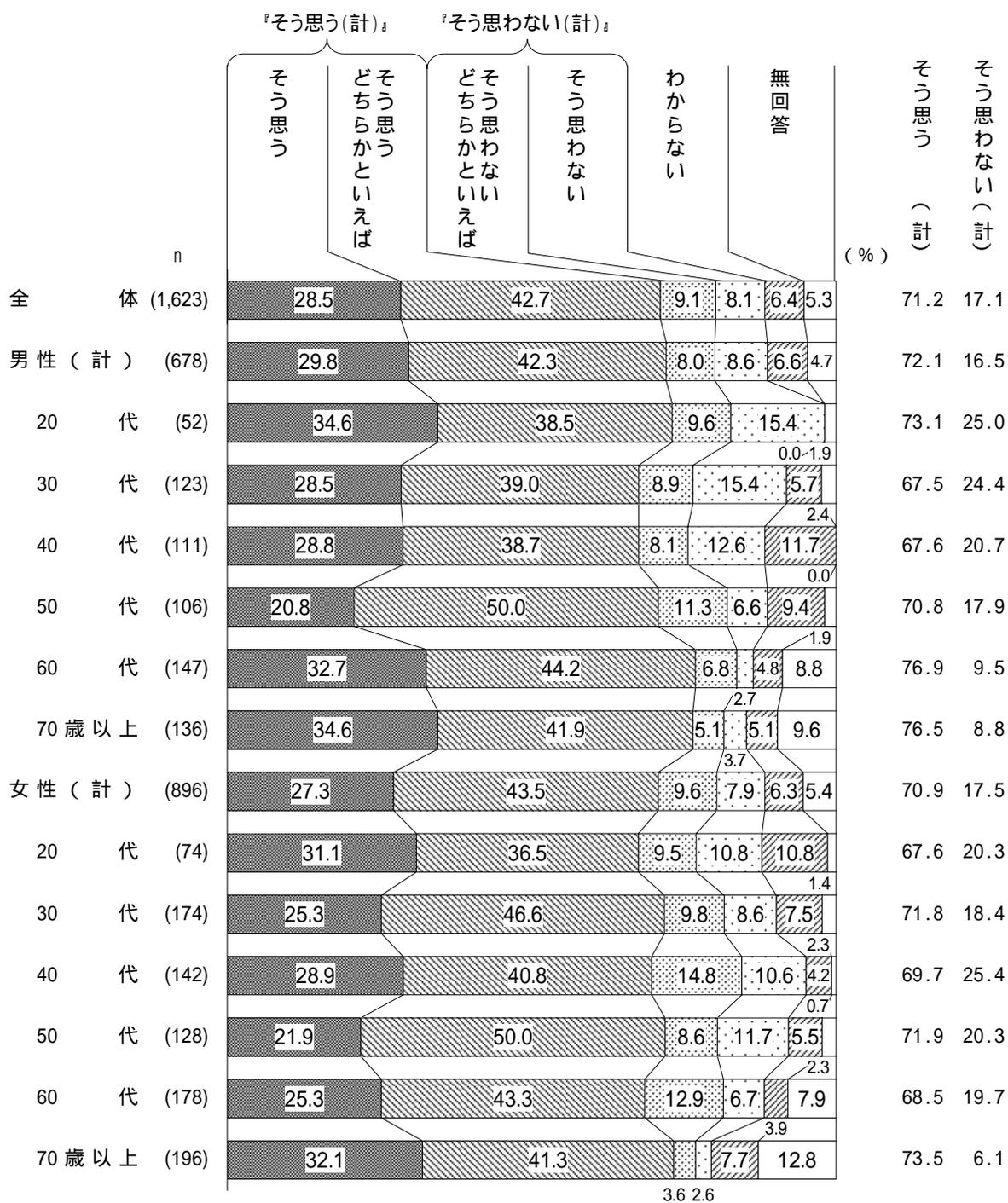


性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』はいずれの性・年代でも6割以上を占めている。一方、『そう思わない(計)』は男性20代(25.0%)、男性30代(24.4%)、女性40代(25.4%)で2割半ばと高くなっている。(図11-6-5)

図11-6-5 区に対する気持ち - 性別、性・年代別(1)

(1) 足立区に愛着をもっている

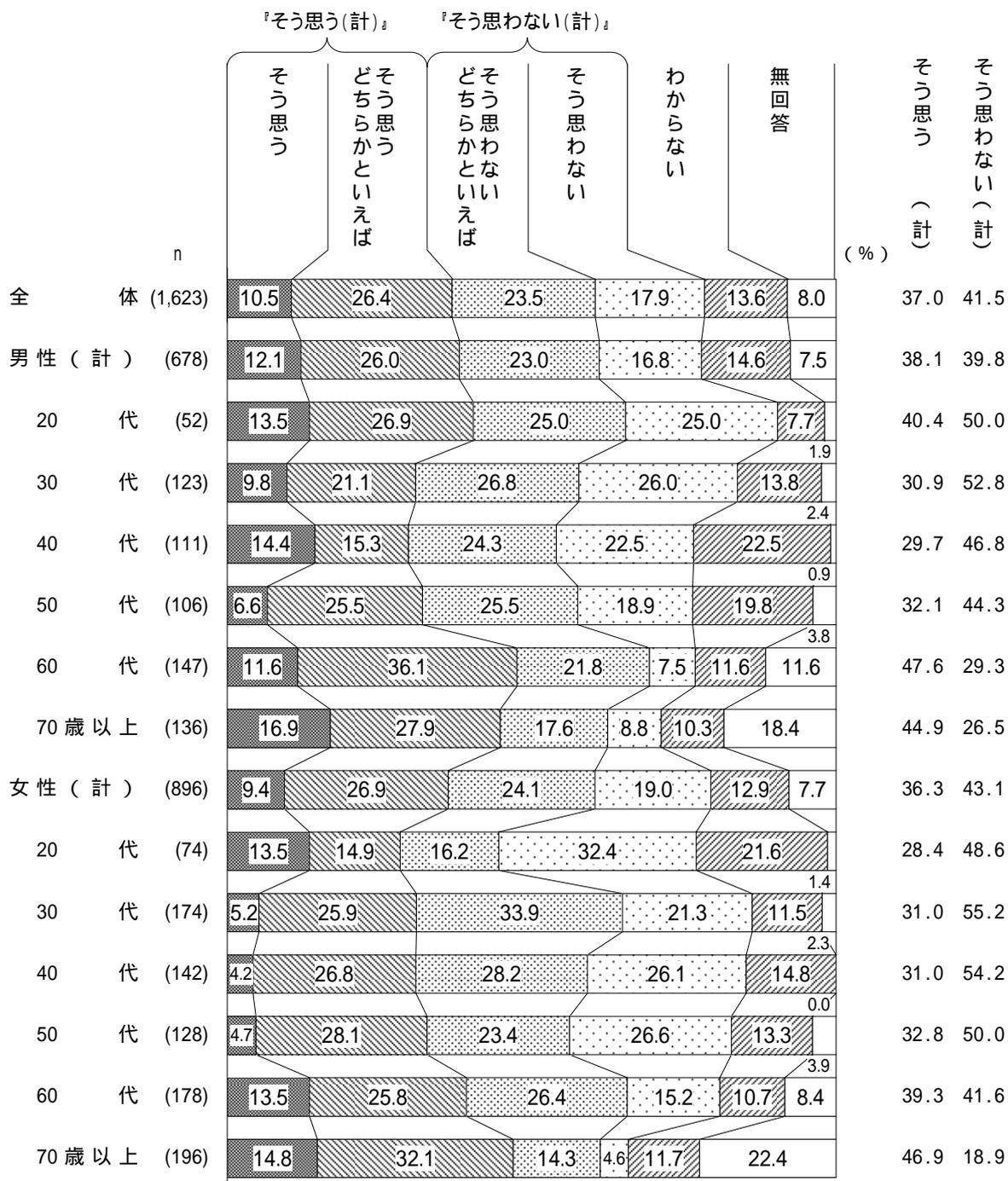


性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別でみると、『そう思う(計)』は男性60代(47.6%)と女性70歳以上(46.9%)で5割近くと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は女性30代(55.2%)と女性40代(54.2%)で5割半ば、男性30代(52.8%)で5割を超え高くなっている。(図11-6-6)

図11-6-6 区に対する気持ち - 性別、性・年代別(2)

(2) 足立区に誇りをもっている



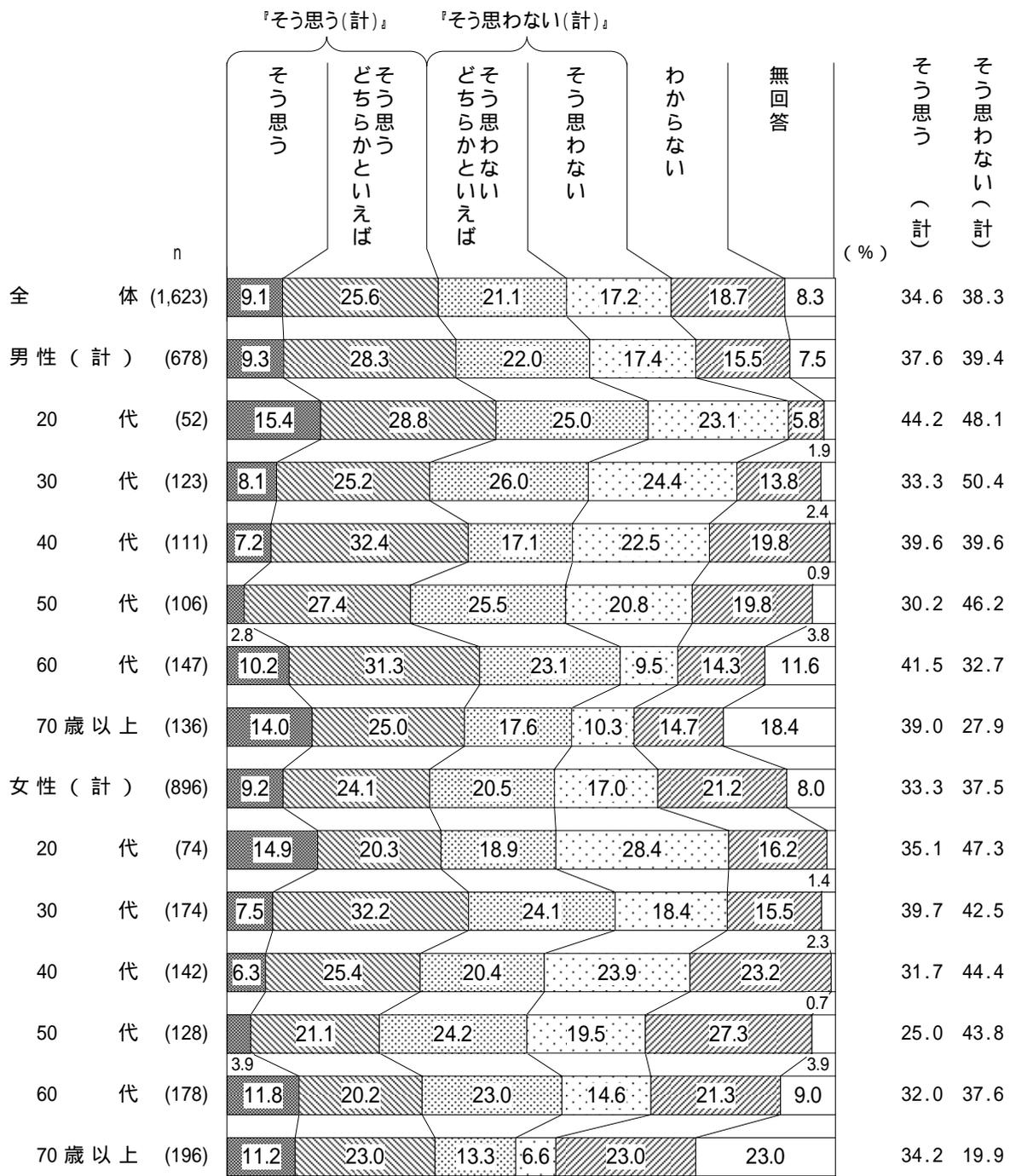
性別で見ると、女性で「わからない」(21.2%)が男性(15.5%)より5.7ポイント高くなっている。一方、男性で『そう思う(計)』(37.6%)が女性(33.3%)より4.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男性20代(44.2%)で4割半ばと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性30代(50.4%)で5割と高くなっている。

(図11-6-7)

図11-6-7 区に対する気持ち - 性別、性・年代別(3)

(3) 足立区を人に勧めたい



# 使用した調査票



## 平成23年度（第40回）足立区政に関する世論調査

～ 調査ご協力のお願い～

この調査は、区民の皆様のご意見や日頃感じていらっしゃることをお聞きし、今後の区政に役立てるため毎年実施しております。

調査にあたりまして、区内にお住まいの20歳以上の方々の中から無作為に3,000名 を選ばせていただきました。

お聞かせいただいたご意見は、統計的にとりまとめます。そのためお名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ご安心ください。

また、このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前や住所が判明するということはありません。

なお、この調査のことは区のお知らせ『あだち広報8月25日号』に掲載していますので、ご覧ください。

ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成23年9月

足立区

### ご回答にあたってのお願い

1. この調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. 回答は最初から1問ずつ、最後までお答えください。ただし、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、( )内等の指示・ことわり書きをよくお読みください。
4. お答えは、あてはまる番号に 印をつけてください。
5. 質問によって、をつける数を「1つだけ」「あてはまるものすべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えくださるようお願いいたします。
6. 「その他」にあてはまる場合は、( )内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。

### ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、10月26日(水)までにご投函ください(切手を貼る必要はありません)。なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。

[調査主体] 足立区政策経営部広報室長付区民の声相談課  
担 当：相談係

足立区中央本町1-17-1

[お問合せ先] お問い合わせコール あだち

3 8 8 0 - 0 0 3 9

(受付時間:午前8時～午後7時/年中無休)

[調査受託機関] 株式会社 エスピー研

この調査票は、無記名式となっています。お名前をご記入いただく必要はありません。返信用封筒にも、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることはありませんので、ありのままをお答えください。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか。( は1つだけ) n = 1,623

1	男性	41.8%	2	女性	55.2	無回答	3.0
---	----	-------	---	----	------	-----	-----

F 2 あなたは何歳ですか。( は1つだけ) n = 1,623

1	20～24歳	3.0%	5	40～44歳	8.5	9	60～64歳	10.5
2	25～29歳	5.0	6	45～49歳	7.2	10	65～69歳	10.0
3	30～34歳	8.9	7	50～54歳	7.3	11	70～79歳	16.1
4	35～39歳	9.6	8	55～59歳	7.5	12	80歳以上	5.6
							無回答	0.9

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	1年未満	3.0%	3	5～10年未満	7.6	5	20年以上	66.0
2	1～5年未満	8.9	4	10～20年未満	13.7		無回答	0.8

F 4 あなたのお住まい(住居)は次のどれにあたりますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	一戸建て持家	44.3%	5	木造のアパート	3.9
2	一戸建て借家	2.1	6	公団・公社・都営住宅・区営住宅	14.3
3	分譲マンション	19.1	7	社宅・公務員住宅・寮	1.3
4	コンクリート造の賃貸 マンション・アパート	13.1	8	間借り・住み込み	0.6
			9	その他( )	0.7
				無回答	0.7

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	自営業・事業主	11.2%
2	自由業(開業医、弁護士、作家、芸術家など)	0.7
3	事務職(一般事務職、オペレーターなど)	10.4
4	専門・技術職(勤務医師、研究者、技術者、裁判官など)	7.1
5	労務・サービス職(販売員、工場などの生産工程従業者、運転手など)	10.7
6	役員・管理職	4.4
7	パート・アルバイト	12.7
8	主に家事に従事(専業主婦など)	16.5
9	学生	1.2
10	無職(年金生活を含む)	22.6
11	その他( )	2.0
	無回答	0.7

F 6 あなたの就労場所（就学場所）は次のどれにあたりますか。（ は1つだけ） n = 946

1 自宅	11.2%	4 23区以外の東京、神奈川、千葉、埼玉	10.1
2 足立区内	32.1	5 その他（ ）	2.9
3 足立区外の東京22区	43.6	無回答	0.1

F 7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。（ はあてはまるものすべて）

n = 1,623

1 ひとり暮らし	12.4%	4 祖父・祖母	1.8	7 兄弟	7.1
2 配偶者	62.7	5 子ども	45.1	8 その他（ ）	1.7
3 父・母	17.3	6 孫	4.3	無回答	1.3

F 8 あなたご自身は、この中のどれにあたりますか。 「子ども」は同居・別居を問いません  
（ は1つだけ） n = 1,623

1 独身	24.2%
2 子どものいない夫婦	11.2
3 子どもがいる（一番上の子どもが小学校入学前）	8.0
4 子どもがいる（一番上の子どもが小学生）	5.2
5 子どもがいる（一番上の子どもが中学生）	3.3
6 子どもがいる（一番上の子どもが高校・大学生）	7.0
7 子どもがいる（一番上の子どもが学校卒業）	27.2
8 その他（ ）	8.4
無回答	5.5

次のページからも引き続きお答えください

## お住まいの地域について、おうかがいいたします

問1 あなたはお住まいの地域について、どのように感じていますか。( は各項目とも1つだけ)

n = 1,623

	そう 思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わか らない	無回答
回答例 ----->	1	②	3	4	5	
(1)街路樹や家々の植栽、公園などの緑が多い	26.9%	41.7	13.5	12.8	1.2	3.9
(2)誰もが利用しやすい公園がある	35.2	36.8	11.9	10.6	2.3	3.1
(3)家族を含め、近隣に普段から相談できる、 支援してくれる人がいる	31.5	28.3	13.4	18.9	5.4	2.5
(4)子育て環境(保育所、学童クラブなど)が 整っている	13.7	33.9	12.5	8.8	25.8	5.3
(5)小・中学校に安心して子どもを預けられる	13.2	32.7	10.6	6.5	29.9	7.1
(6)図書館など地域の施設が使いやすく、充実 した時間を過ごすことができる	12.9	36.0	16.8	13.1	17.5	3.8
(7)高齢者や障がいのある方も施設が利用しや すい	6.6	23.8	18.2	13.3	34.3	3.8
(8)通勤や通学などの交通の便がよい	28.5	35.1	13.9	15.5	2.9	4.2
(9)普段の買い物が便利である	40.0	37.9	10.1	9.1	0.6	2.3
(10)物価が安い	17.7	37.3	21.1	12.3	8.4	3.2
(11)病院や診療所など医療機関が利用しやすい	21.3	42.8	18.1	11.3	4.1	2.4
(12)治安がよい	9.2	30.6	24.3	24.9	6.9	4.0
(13)地震などによる災害が起きてても、被害は少 ない	9.9	29.0	19.0	21.9	17.9	2.3
(14)近所の道路・歩道は、子どもや高齢者でも 安全で歩きやすくなっている	6.8	26.9	30.2	29.8	3.8	2.5
(15)自転車、歩行者は交通ルール、交通マナー をよく守っている	4.0	17.1	27.8	44.1	4.8	2.2
(16)ごみ出しやペットのふんの始末など、社会 生活のマナーはよく守られている	7.5	30.4	27.0	29.5	3.8	1.8

問2 以上のことを踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 暮らしやすい	21.7%	3 どちらかといえば暮らしにくい	10.6
2 どちらかといえば暮らしやすい	63.0	4 暮らしにくい	2.5
		無回答	2.2

(問2で「3 どちらかといえば暮らしにくい」又は「4 暮らしにくい」とお答えの方に)

問2-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか。(自由にお書きください)

問3 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 ずっと住み続けたい	39.5%	3 区外に転出したい	8.1
2 当分は住み続けたい	37.5	4 わからない	13.6
		無回答	1.3

### 大震災などの災害に備えていることについて、おうかがいいたします

問4 あなたは、一時集合場所(町会・自治会などが指定した避難場所)、広域避難場所(都が指定した避難場所)、小中学校等の避難所(区が指定した避難所)を知っていますか。

( は各項目とも1つだけ)

n = 1,623

	知っている	知っているが、 場所はわからない	知らない	無回答
回答例 ---▶	①	2	3	
(1) 一時集合場所 (町会・自治会などが指定した 避難場所)	46.5%	8.4	40.5	4.6
(2) 広域避難場所 (都が指定した避難場所)	37.2	11.2	45.1	6.5
(3) 小中学校等の避難所 (区が指定した避難所)	53.0	6.5	34.9	5.5

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて非常食などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか。

( は1つだけ)

n = 1,623

1 備蓄や防災用具などを用意している	25.7%	3 全く用意していない	23.8	問6へ
2 澁★嶮り桜★★★★★★★★★份洵 縗★但撒暖★★★狄★歎★★★★	47.9	程★潭	2.6	

(問5で「1 備蓄や防災用具などを用意している」とお答えの方に)

→ 問5 - 1 備蓄や防災用具などの用意はいつから始めましたか。( は1つだけ) n = 417

1 3月11日の東日本大震災以前から	65.7%
2 3月11日の東日本大震災を経験してから	32.6
無回答	1.7

(問5で「1 備蓄や防災用具などを用意している」又は「2 特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」とお答えの方に)

→ 問5 - 2 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。( はあてはまるものすべて)

n = 1,195

1 飲料水	81.1%	9 非常用持ち出し袋	37.9
2 非常食(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)	68.0	10 消火器	21.4
3 懐中電灯	87.4	11 三角バケツ	3.9
4 携帯ラジオ	65.7	12 風呂などへの水のため置き	36.2
5 医薬品(常備薬を含む)	45.4	13 パールやハンマーなどの救助用工具	10.3
6 衣類	32.3	14 防災頭巾・ヘルメット	17.0
7 生理用品	21.5	15 はしご	7.8
8 簡易トイレ	11.6	16 その他( )	4.4
		無回答	3.8

(問5 - 2で「1 飲料水」又は「2 非常食」とお答えの方に)

→ 問5 - 3 あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。( は各項目とも1つだけ)

n = 1,059

	1人当たり 3日分以上	1人当たり 2日分	1人当たり 1日分	1人当たり 半日(2食)分	1人当たり 1食分	無回答
回答例 ->	1	2	③	4	5	
1 飲料水	31.4%	31.2	21.3	5.9	4.3	5.8
2 非常食	19.8	32.5	22.7	5.7	5.1	14.3

( 飲料水は大人1人1日3リットルで計算。飲料水、非常食には日常の買い置きがあるため災害時に活用できるものを含む)

問6 あなたは、町会や自治会の防災訓練に参加していますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 毎年参加している	7.3%	3 ほとんど参加していない	20.5
2 2～3年に1回程度参加	12.7	4 参加したことはない	56.6
		無回答	2.8

(問6で「3 ほとんど参加していない」又は「4 参加したことはない」とお答えの方に)

問6-1 町会や自治会の防災訓練に参加しない理由をお答えください。

( は最もあてはまるもの1つ)

n = 1,252

1 訓練を実施することを知らなかったから	45.5%
2 訓練に参加したかったが、都合がつかなかったから	19.2
3 自分が訓練に参加した方がいいのか分からなかったから	6.6
4 勤務先などで防災訓練に参加しているから	6.2
5 地域の防災訓練にまで参加したくないから	4.1
6 その他( )	9.7
7 防災訓練自体に関心がないから	7.0
無回答	1.7

### 3月11日に発生した東日本大震災について、おうかがいいたします

問7 3月11日の地震発生時の外出の有無、また、勤務先または外出先からの帰宅状況はどうでしたか。

( は1つだけ)

n = 1,623

1 外出せず自宅にいた	41.3%
2 勤務先または外出先にいたが、特に帰宅が困難にはなっていない	29.3
3 勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった	27.5
無回答	1.9

(問7で「3 勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」とお答えの方に)

→ 問7-1 あなたは帰宅が困難になった際に、どのような対応をとりましたか。

( は最もあてはまるもの1つ)

n = 447

1 歩いて帰宅した	30.6%	5 駅などに留まった	1.8
2 車やタクシーなどで帰宅した	17.9	6 職場に留まった	21.9
3 自転車を借りて(又は購入して)帰宅した	2.2	7 その他( )	16.1
4 区・都が用意した避難所に避難した	0.4	無回答	8.9

→ 問7-2へ

(問7で「3 勤務先または外出先にいたため、帰宅が困難になった」とお答えの方に)

問7-2 啓梓★嶸焜★★★★★★★嶸★★★★★儼★★★★( はあてはまるものすべて)

n = 447

1	電車・バスなどの運行情報の不足	63.8%	6	休憩する場所がなかった	17.7
2	避難所の設置情報が得られなかった	13.2	7	家族等との連絡ができなかった	57.5
3	避難所の場所がわからなかった	9.4	8	夜中の歩行で不安だった	13.4
4	食糧や飲料水が得られなかった	11.4	9	その他( )	9.8
5	トイレが使えなかった	7.8		無回答	5.6

問8 震災発生の際に遭遇したことは何ですか。( はあてはまるものすべて)

n = 1,623

1	火災(ぼや)の発生	1.4%	9	身体の負傷	0.7
2	建物の損傷(変形や亀裂など)	20.6	10	通信手段の途絶(電話・メールなど)	49.7
3	塀の損傷 (倒壊、変形、亀裂など)	7.0	11	ドア、窓枠の変形による自宅への閉じ込め	0.7
4	水道管の破裂	2.4	12	エレベーター内への閉じ込め	0.2
5	ガスの停止	22.1	13	エレベーターの停止、外階段の損壊などに よるマンション・ビルの棟内への閉じ込め	4.3
6	家具の転倒	16.8	14	その他	5.9
7	ガラスの飛散	6.3	15	特になし	17.4
8	食器等の落下	25.4		無回答	5.9

(問8で「14 その他」とお答えの方に)

問8-1 その他の内容を具体的にお書きください。

問9 震災発生の直後にどのようなことをしましたか。( はあてはまるものすべて)

n = 1,623

1	テーブルの下などに避難した	14.5%	6	近隣の家へ声掛けして安否を確認した	12.2
2	家から外に飛び出した	16.9	7	知人などに救助を求めた	0.6
3	ドアを開けるなど避難経路を確保した	37.1	8	避難所に避難した	2.9
4	電話やメールなどで家族の安否を確認した	51.6	9	その他( )	9.7
5	テレビ・ラジオなどで情報を収集した	65.7		無回答	3.0

問10 あなたの近隣に高齢者のみの世帯、一人暮らしの高齢者、障がい者など災害発生時に自力あるいは家族等の支援を受けても避難することが困難と思われる災害弱者・災害時要援護者といわれる方はいますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 いる	17.6%	3 いない	29.3	5 その他 ( )	0.5
2 多分いると思う	12.2	4 分からない	36.5	無回答	3.9

(問10で「1 いる」又は「2 多分いると思う」とお答えの方に)

→ 問10-1 震災が発生した際に災害弱者・災害時要援護者といわれる方に声掛けをしましたか。( は1つだけ) n = 483

1 顔見知り、顔見知りでないにかかわらず、声掛けして安否を確認した	8.3%
2 顔見知りの人には、声掛けして安否を確認した	23.8
3 顔見知りではないが、声掛けして安否を確認した	0.4
4 顔見知りではあるが、特に声掛けはしなかった	10.8
5 顔見知りではないので、特に声掛けはしなかった	7.7
6 自宅にいなかったので、声掛けできなかった	39.5
7 その他 ( )	6.4
無回答	3.1

問11 身近に大地震が起きたとした場合に、あなたが特に不安に思うことは何ですか。

( は最大5つまで)

n = 1,623

1 建物の倒壊	61.8%	9 電話・メールなどの通信機能のマヒ	43.8
2 火災の発生	54.8	10 正確な情報が得られなくなる	24.9
3 家族の安否	77.8	11 避難所での生活	18.7
4 停電・断水・ガスの途絶	56.8	12 治安の悪化	9.9
5 自宅などに閉じ込められること	10.7	13 ペットの世話	7.6
6 食糧・飲料水等の確保	46.3	14 その他 ( )	1.4
7 帰宅・移動手段の途絶	16.8	15 特にない	0.2
8 医療体制の確保	16.4	無回答	1.4

問12 あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか。( は最大4つまで) n = 1,623

1 非常用食糧・飲料水などの応急物資の確保	80.2%	8 災害に関する情報提供の充実	35.7
2 非常用トイレの確保など衛生対策の充実	66.4	9 医療体制の確保	45.0
3 消火設備・チェーンソーなどの救助設備の充実	8.7	10 高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実	27.8
4 救助・消火訓練内容の充実	8.0	11 耐震診断・耐震改修事業などの促進	14.1
5 避難所設営訓練の充実	3.5	12 その他 ( )	2.3
6 避難所の施設の充実	38.4	13 特にない	0.6
7 避難場所・避難所のPR	24.1	無回答	1.5

耐震診断、耐震改修などについて、おうかがいたします

問13 あなたがお住まいの建物は、いつ建てられたものですか。( は1つだけ) n = 1,623

1	昭和56年5月以前	30.2%	3	わからない	9.7
2	昭和56年6月以降	57.9		無回答	2.3

問14 あなたのお住まいの建物に関して、耐震診断はしていますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	実施している	20.4%	3	わからない	38.7
2	実施していない	38.6		無回答	2.3

(問14で「2 実施していない」とお答えの方に)

→ 問14 - 1 耐震診断をしていない理由は何ですか。( は最大3つまで) n = 626

1	建設時に耐震設計が考慮されているから	26.0%
2	診断費用が無料でない(自己負担がある)から	23.5
3	費用がいくらかかるか分からないから	38.2
4	耐震診断費用の助成の要件に適合しないから	3.5
5	耐震診断をしても耐震改修工事はできないから	23.0
6	依頼先や方法がわからないから	15.8
7	信頼できる依頼先(耐震診断業者)を知らないから	18.2
8	耐震改修工事をしても壊れるかもしれないから	8.8
9	家が倒壊するような大地震は来ないと思うから	3.0
10	借家・賃貸住宅・借地であるから	15.3
11	その他( )	8.9
	無回答	1.6

問15 あなたのお住まいの建物に関して、耐震改修工事はしていますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 実施している	14.3%	3 わからない	37.5
2 実施していない	44.5	無回答	3.7

(問15で「2 実施していない」とお答えの方に)

→ 問15 - 1 耐震改修工事をしていない理由は何ですか。( は最大3つまで) n = 723

1 建設時に耐震設計が考慮されているため	27.8%
2 将来、住み替え・建て替えを考えているため	11.5
3 費用がいくら掛かるか分からないから	33.9
4 費用が掛かりすぎるから	16.7
5 古い家にお金をかけるのがもったいないから	9.7
6 耐震改修工事費用の助成の要件に該当しないから	3.3
7 耐震改修工事をしても壊れるかもしれないから	5.3
8 工事を行うと日常生活や仕事に支障をきたすから	5.8
9 依頼先や方法がわからないから	11.1
10 信頼できる依頼先(施工業者)の選定が難しいから	10.5
11 区分所有者の合意形成が難しいから	3.2
12 家が倒壊するような大地震は来ないと思うから	3.5
13 借家・賃貸住宅・借地であるから	14.9
14 その他( )	6.9
無回答	1.2

(問14 - 1で「10 借家・賃貸住宅・借地であるから」又は、  
問15 - 1で「13 借家・賃貸住宅・借地であるから」とお答えの方に)

→ 問15 - 2 大家さんや地主さんに耐震診断や耐震改修工事について相談したことがありますか。

( は1つだけ) n = 132

1 相談しており、耐震の診断や工事の準備が進んでいる	1.5%
2 相談したが、耐震の診断や工事は進まなかった	2.3
3 相談したことはない	82.6
4 その他( )	7.6
無回答	6.1

問16 足立区では災害に強いまちづくりを進めるため、昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者に対して、その住宅の耐震診断費用や耐震改修工事費用の助成制度を設けています。あなたはこの制度をご存知ですか。（ は各項目とも1つだけ） n = 1,623

	知っている	知らなかった	無回答
回答例 ---▶	①	2	
(1) 耐震診断費用の助成	17.8%	70.1	12.1
(2) 耐震改修工事費用の助成	17.6	68.8	13.6

【足立区の住宅耐震診断、耐震改修工事助成制度について】

耐震診断費用の助成について

助成対象建築物 昭和56年5月以前の	助成率	助成額
木造戸建住宅	-	上限10万円
非木造戸建住宅	-	上限30万円
木造共同住宅	診断費用の2分の1	上限500万円（ただし戸数×10万円以下）
非木造共同住宅	診断費用の2分の1	上限500万円（ただし戸数×10万円以下）

耐震改修工事費用の助成について

助成対象建築物 昭和56年5月以前の	助成率	助成額
木造戸建住宅	改修工事費の2分の1	上限80万円（特例100万円）
非木造戸建住宅	改修工事費の2分の1	上限100万円（特例120万円）
木造共同住宅	改修工事費の3分の1	上限3000万円
非木造共同住宅	改修工事費の3分の1	上限3000万円

耐震診断費用の助成、耐震改修工事費用の助成のいずれもその他に条件があります。

（昭和56年5月以前に建てられた住宅の所有者の方にお伺いします）

問17 足立区の耐震診断費用、耐震改修工事費用に関する助成制度を利用したいと思いますか。

（ は各項目とも1つだけ）

n = 490

	既に利用した	今後利用したい	利用したいが、利用できない	利用したくない	わからない	無回答
回答例 ---▶	1	2	③	4	5	
(1) 耐震診断費用の助成	2.4%	21.4	11.0	3.1	26.9	35.1
(2) 耐震改修工事費用の助成	1.8	22.2	11.2	3.1	25.7	35.9

問18 あなたのご自宅では、つっぱり棒や壁止め金具などにより、地震の際に家具が転倒することを防止していますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	すべての家具に転倒防止対策をしている	3.3%
2	転倒防止対策をしている家具が多い	15.7
3	転倒防止対策をしている家具は少ない	25.8
4	家具の転倒防止対策はしていない	36.5
	無回答	18.7

問19 足立区では、60歳以上の方を含む世帯、一定の障がいをお持ちの方を含む世帯、世帯全員が非課税の世帯、のいずれかに該当する世帯に対しては、家具転倒防止器具取付工事、ブロック塀倒壊防止工事、窓ガラス飛散防止工事について、3万円を限度に助成する制度がありますが、これらの助成制度についてご存知ですか。( は1つだけ) n = 1,623

1	知っており、既に利用した	0.3%	4	知らなかった	73.6
2	知っているが、利用したことはない	4.5		無回答	18.1
3	知っているが、対象とならないので利用できない	3.6			

あなたが洪水などの浸水被害に備え意識していることを、おうかがいいたします

問20 区内の浸水被害の危険を表示した「足立区洪水ハザードマップ」について、ご存知ですか。( は1つだけ) n = 1,623

1	内容まで知っている	9.9%	3	知らない	55.3
2	名前は知っているが、内容はわからない	31.8		無回答	3.0

問21 台風やゲリラ豪雨などによる水害に備えた気象情報または水害の危険情報などの取得についておたずねします。( は各項目とも1つだけ) n = 1,623

	あてはまる	あてはまらない	無回答
回答例 ---▶	①	2	
(1) Aメール(足立区メール配信サービス)や気象予報会社のサイトなどに登録し、携帯電話で自動的に情報を取得している	16.2%	65.7	18.1
(2) 大雨などのおそれがあるときは、携帯電話、パソコンやテレビ、ラジオなどを使って情報を取得している	77.1	14.0	8.9
(3) 特に意識して情報を取得していない	20.8	62.1	17.1

## 保健・医療や高齢者福祉について、おうかがいたします

問22 保健と医療などについて、あなた自身にあてはまるものをすべてお答えください。

( はあてはまるものすべて)

n = 1,623

1	自分の健康について心配なことがある	43.1%
2	毎年健康診断を受けている	60.6
3	栄養バランスを考えた食事をしている	44.9
4	食品の表示(添加物、消費期限など)を見て購入している	49.4
5	食品などの保管方法や調理前の手洗い・きれいな調理器具を使うなど、食中毒予防のための注意をしている	60.4
6	健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある	35.1
7	疲れているのに寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことが2週間以上続くことがある	10.6
8	現在、喫煙習慣がある	18.8
9	健康づくり、子どもの健康、感染症、医療機関などの情報が区から提供されており、利用しやすいと感じる	9.2
10	安心して受診できる医療機関が身近にある	42.9
11	その他( )	1.2
12	特にない	1.6
	無回答	1.7

## 自殺対策について、おうかがいたします

足立区では「生きる支援」として、自殺対策に取り組んでいます。自殺は本人の問題だけではなく、家族や周囲に大きな悲しみや困難をもたらします。生きたいと願いつつも自殺に追い込まれてしまう人を一人でも減らすことをめざし、今後の自殺対策の推進に役立てるため、「自殺に関する意識」についておききします。

回答に負担を感じる方は、回答していただくなくてもかまいません。その場合は15ページの間26から引き続き回答してください。

問23 あなたは、自殺についてどのように思いますか。

次のaからfについて、あなたの考えに近いものを選んでください。( は各項目とも1つだけ)

n = 1,623

	そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない	わから ない	無回答
回答例 --->	1	②	3	4	5	
(a) 自殺は、個人の自由な意思や選択の結果である	8.6%	18.6	9.7	37.3	12.7	13.1
(b) 自殺を口にする人は、本当は自殺しない	13.0	19.7	12.3	21.2	21.6	12.3
(c) 自殺は何の前触れもなく、突然に起きる	17.5	17.5	9.9	27.4	15.9	11.8
(d) 自殺せずに生きていれば良いことがある	43.2	23.2	6.1	5.5	12.2	9.9
(e) 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない	5.5	13.6	16.8	34.6	16.9	12.5
(f) 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである	13.3	15.8	10.2	33.5	15.3	11.8

問24 あなたは、これまでの人生のなかで、本気で自殺したいと考えたことがありますか。あなたの考えに近いものを選んでください。( は1つだけ)

n = 1,623

1 自殺したいと思ったことがある	18.9%	無回答	8.4
2 自殺したいと思ったことはない	72.7	問25へ	

(問24で「1 自殺したいと思ったことがある」とお答えの方に)

→ 問24 - 1 最近1年以内に自殺したいと思ったことがありますか。( は1つだけ) n = 307

1 はい	22.8%	2 いいえ	76.5	問25へ	無回答	0.7
------	-------	-------	------	------	-----	-----

(問24 - 1で「1 はい」とお答えの方に)

→ 問24 - 2 自殺しようと考えたとき、誰かに相談したことがありますか。相談した相手の方について、以下の中で該当するものを選んでください。( はあてはまるものすべて)

n = 70

1 相談したことはない	81.4%	6 カウンセラー	2.9
2 同居の親族(家族)	4.3	7 医師	7.1
3 同居の親族(家族)以外の親族	0.0	8 保健所等の公的機関の相談員	0.0
4 友人	2.9	9 民間ボランティアの相談員	0.0
5 職場関係者	1.4	10 その他( )	7.1
		無回答	2.9

問25 もしも、あなたが身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、まずはどのように対応しますか。あなたの考えに最も近いもの一つだけに をつけてください。( は1つだけ) n = 1,623

1	相談に乗らない、もしくは話題を変える	1.2%
2	「死んではいけない」と説得する	6.1
3	「バカなことを考えるな」と叱る	4.1
4	「がんばって生きよう」と励ます	7.0
5	「なぜそのように考えるのか」と理由を尋ねる	46.8
6	「とにかく病院に行ったほうがいい」と提案する	4.0
7	ひたすら耳を傾けて聞く	20.6
8	その他( )	1.1
	無回答	9.1

なお、自殺対策に関しては、本調査の結果を含め、あだち広報の特集号で詳しく報告いたします。

### 高齢者等に対する介護などについて、おうかがいいたします

問26 あなたは、高齢者の権利擁護に関する、「成年後見制度」についてご存知ですか。( は1つだけ) n = 1,623

1	内容まで知っている	12.2%	3	知らない	53.1
2	内容は分からないが、名前は知っている	31.8		無回答	2.9

問27 あなたのご家族には、ご自身を除いて介護が必要な方がいらっしゃいますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	現在、介護が必要な家族がいる	12.1%	
2	近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある	16.0	
3	いない	61.7	問28へ
4	わからない	5.7	問28へ
	無回答	4.4	

(問27で「1 現在、介護が必要な家族がいる」又は「2 近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」とお答えの方に)

→ 問27 - 1 あなたの介護が必要な方との関係はどのようなものですか。( はあてはまるものすべて) n = 457

1	配偶者	22.3%	4	祖父母	14.7	無回答	5.5
2	親	50.1	5	兄弟姉妹	3.7		
3	子ども	3.7	6	その他( )	3.3		

→ 問27 - 2 へ

(問27で「1 現在、介護が必要な家族がいる」又は「2 近い将来(5年以内くらい)にそのような状態になる可能性がある」とお答えの方に)

問27-2 あなたの介護が必要な方のお住まいの場所はどちらになりますか。( はあてはまるものすべて)  
n = 457

1 同居している	49.9%	4 交通機関を利用して30分以上	
2 徒歩圏内	14.9	1時間未満	8.1
3 交通機関を利用して30分未満	9.2	5 交通機関を利用して1時間以上	18.8
		無回答	3.5

問28 現在、あなたは実際に介護をしていますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 介護をしている	5.9%	2 介護をしていない	85.7	無回答	8.4
-----------	------	------------	------	-----	-----

(問28で「1 介護をしている」とお答えの方に)

→ 問28-1 介護をしているなかで困っていることはどんなことですか。( はあてはまるものすべて)  
n = 96

1 介護サービス事業者が希望に沿ったサービスを提供してくれない	13.5%
2 特別養護老人ホームに入所させたいが、なかなか入所できない	15.6
3 自宅で介護サービスを利用したいが、利用方法がわからない	4.2
4 介護にかかわる精神的・身体的負担が重い	46.9
5 仕事と介護の両立ができない(両立ができないおそれがあるを含む)	22.9
6 介護費用の負担が重い	28.1
7 身近に相談できる人などがいない	6.3
8 認知症などに対する周囲の理解・協力が得られない	13.5
9 その他( )	14.6
10 特になし	26.0
無回答	4.2

## 「ビューティフル・ウィンドウズ」運動について、おうかがいいたします

問29 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動( )」という取り組みを知っていますか。( は1つだけ)

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

n = 1,623

1 知っており、活動を実践している	4.2%
2 知っているが、特に何も行ってない	14.9
3 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	14.5
4 知らない(初めて聞いた)	63.8
無回答	2.6

問30 あなたは、自転車を駐車したときには、自転車に鍵をかけていますか。( は1つだけ)

n = 1,623

1	いつも鍵をかけている	68.9%
2	鍵をかけることが多い(時々鍵をかけ忘れることがあるを含む)	8.6
3	鍵をかけることは少ない	2.3
4	鍵はかけていない(錠がついていない、錠が壊れているを含む)	0.7
5	自転車を持っていない、使っていない	16.8
	無回答	2.7

(問30で「1～4」とお答えの、自転車を使っている方にうかがいます)

→ 問30 - 1 あなたの自転車に付いている錠について教えてください。( は1つだけ) n = 1,306

1	箱型の錠(鍵を入れるとワンタッチで開くタイプ)	1つ	19.2%
2	後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠 (プレス錠・・・鍵は箱型と同じでワンタッチで開くもの)	1つ	34.4
3	後輪に付いているリング(馬蹄)状の錠 (シリンダー錠・・・入れた鍵を回して開けるタイプのもの)	1つ	25.5
4	ワイヤー又はチェーン状の錠	1つ	8.3
5	2個以上の錠が付いている(錠の種類は問いません)		5.1
6	その他( )		1.5
7	錠がついていない又は錠が壊れている		0.5
	無回答		5.5

(問30で「1～4」とお答えの、自転車を使っている方にうかがいます)

→ 問30 - 2 あなたは自転車を駐車するときに、駐輪場を利用していますか。( は1つだけ)

n = 1,306

1	いつも駐輪場を利用している	48.6%	4	駐輪場を利用することはない	6.7
2	駐輪場を利用することが多い	29.7	5	その他( )	1.6
3	駐輪場を利用することは少ない	8.3		無回答	5.1

問31 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。

以下の項目について、現在は以前と比べてどのようにお感じになっていますか。

( は各項目とも1つだけ)

n = 1,623

		← 減少 →					増加 →	
		明らかに減っている	どちらかといえば減っている	以前と変わらない	どちらかといえば増えている	明らかに増えている	わからない	無回答
回答例	----▶	1	2	③	4	5	6	
(ア) ゴミやタバコのポイ捨て		13.7%	38.3	30.4	4.1	2.9	7.0	3.7
(イ) 放置自転車		12.4	36.4	27.0	5.5	3.1	10.8	4.8
(ウ) ペットの糞		9.7	31.0	31.4	8.3	5.9	9.7	4.0

		← 増加 →					減少 →	
		明らかに増えている	どちらかといえば増えている	以前と変わらない	どちらかといえば減っている	明らかに減っている	わからない	無回答
回答例	----▶	1	2	③	4	5	6	
(エ) まちなかの花や緑		5.9%	27.9	47.0	3.8	2.0	8.7	4.7
(オ) 登下校時のあいさつなどの声掛け運動		2.3	12.4	38.4	6.3	4.0	31.1	5.5
(カ) 防犯パトロール		4.9	21.4	35.4	4.4	2.2	26.6	5.2

問32 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。( はあてはまるものすべて)

n = 1,623

1	ごみと資源の分別を実行している	89.5%
2	ごみやすいがらのポイ捨てはしていない	78.6
3	マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	48.7
4	環境に配慮した製品を利用するようにしている	21.2
5	節電や節水など省エネルギーを心がけている	69.6
6	その他( )	1.8
7	特にない	1.2
	無回答	1.7

問33 消費者トラブルから消費者を守る制度に『クーリング・オフ』がありますが、この制度について  
 知っていますか。( は1つだけ) n = 1,623

1 内容まで知っている	32.5%	3 名前だけは知っている	15.2
2 ある程度知っている	40.5	4 知らない	8.6
		無回答	3.2

問34 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動  
 はどれですか。( はあてはまるものすべて) n = 1,623

内 容	この1年間に参加され た活動( はあてはま るものすべて)	引き続き、または今後参加 したいと思う活動( はあ てはまるものすべて)
(1) 町会や自治会、老人会、子ども会などの 催しや活動	24.1%	22.5%
(2) 児童・生徒を支援する活動(通学路の見 守り、放課後子ども教室、PTAなど)	9.2	12.9
(3) 地域の文化サークルや体育サークル などの活動	10.9	18.5
(4) ボランティアやNPO(民間の非営利 活動の組織)などの活動	5.1	9.6
(5) 区が主催する各種のイベントや催し物	15.0	22.2
(6) 町会や自治会の運営に関する活動	13.2	11.7
(7) まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃き、 公園の清掃など)	9.9	13.5
(8) 緑化(花壇づくり、グリーンカーテンの 設置など)や緑の普及啓発活動	4.3	11.3
(9) 登下校時のあいさつなどの声掛け運動	7.2	13.0
(10) 避難所の設営・救助訓練などの災害 対策に関する活動	3.5	9.9
(11) 防犯パトロールなどのまちの防犯に 関する活動	7.3	9.2
(12) 集団回収などの、資源のリサイクル などに関する活動	11.5	12.4
(13) 見守り、話し相手などの高齢者の支援に 関する活動	2.9	7.6
(14) 障がい者の支援に関する活動	2.2	6.8
(15) 家族・地域の健康づくりを支援する活動	3.3	9.5

内 容	この1年間に参加された活動（はあてはまるものすべて）	引き続き、または今後参加したいと思う活動（はあてはまるものすべて）
(16) スポーツ指導に関する活動	2.5	6.4
(17) 子育てアドバイザーなど子育て支援に関する活動	1.4	6.2
(18) お囃子、獅子舞など地域の伝統芸能を保護・継承する活動	0.9	5.1
(19) 特に参加していない・特になし	35.1	16.8
無回答	20.3	32.7

問35 あなたは、区政への参加・協力についてどのようにお考えですか。（は1つだけ） n = 1,623

1 積極的に参加・協力したい	5.9%	4 参加・協力したくない	2.8
2 ある程度は参加・協力したい	46.7	5 わからない	27.7
3 あまり参加・協力したくない	9.5	無回答	7.5

### 人権についてのお考えをおうかがいたします

問36 あなたは、人権について関心がありますか。（は1つだけ） n = 1,623

1 非常にある	16.9%	3 どちらともいえない	26.2	5 全くない	2.2
2 少しある	39.4	4 あまりない	11.0	無回答	4.3

問37 あなたは、社会全体において、男女の地位が平等だと感じますか。（は1つだけ） n = 1,623

1 男性のほう非常に優遇されている	6.7%
2 どちらかといえば、男性のほう優遇されている	43.1
3 平等	20.3
4 どちらかといえば、女性のほう優遇されている	9.8
5 女性のほう非常に優遇されている	1.2
6 わからない	15.3
無回答	3.6

足立区の区政について、おうかがいいたします

問38 あなたが以前と比べてよくなったと思う区の取り組みと、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを、下の表からお選びください。 n = 1,623

区の取り組み	内 容	以前と比べてよくなったこと（ はあてはまるものすべて）	今後特に力を入れてほしいこと（ は3つまで）
(1) 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	34.5%	23.1%
(2) 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	9.9	14.2
(3) 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	28.3	33.6
(4) 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	29.5	20.6
(5) 防災対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	12.6	28.8
(6) 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	19.2	33.1
(7) 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	10.1	11.0
(8) 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	9.6	14.2
(9) 子育て支援	保育サービス、子ども医療費助成や子育て相談の充実など	19.4	21.9
(10) 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	30.3	6.0
(11) 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	19.5	6.0
(12) 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	8.4	7.8
(13) 生涯学習振興	文化・芸術・スポーツ活動の支援、施設の充実など	10.8	3.5
(14) 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	7.7	1.7
(15) 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	5.7	1.0
(16) 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	4.7	2.1
(17) 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	4.4	0.7

区の実施	内 容	以前と比べてよくな ったこと（ はあて はまるものすべて）	今後特に力を入れ てほしいこと （ は3つまで）
(18) 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	19.8	2.5
(19) 要望等への対応	区民の声、担当課あてメールなどによる要望への対応など	5.7	1.9
(20) 職員の接客態度	窓口や仕事での区民対応における接客態度など	17.9	4.9
(21) 特になし		7.3	2.1
無回答		25.3	10.8

問39 次の区の実施について、あなたはどのように感じていますか。

(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。( はそれぞれ1つずつ)

(1) 快適で安全なまちづくりが進められている ( は1つだけ) n = 1,623

1 そう思う	7.9%	4 そう思わない	7.6
2 どちらかといえばそう思う	39.1	5 わからない	23.5
3 どちらかといえばそう思わない	15.2	無回答	6.5

(2) 景観・街並みが魅力的になってきている ( は1つだけ) n = 1,623

1 そう思う	6.9%	4 そう思わない	13.6
2 どちらかといえばそう思う	32.3	5 わからない	19.9
3 どちらかといえばそう思わない	20.6	無回答	6.7

(3) 区の情報容易に知ることができる ( は1つだけ) n = 1,623

1 そう思う	9.7%	4 そう思わない	8.8
2 どちらかといえばそう思う	37.0	5 わからない	20.0
3 どちらかといえばそう思わない	18.2	無回答	6.2

(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている ( は1つだけ)

n = 1,623

1 そう思う	3.7%	4 そう思わない	6.9
2 どちらかといえばそう思う	17.6	5 わからない	54.9
3 どちらかといえばそう思わない	11.9	無回答	5.1

問40 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると思いますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	そう思う	3.1%	4	そう思わない	12.8
2	どちらかといえばそう思う	19.6	5	わからない	44.3
3	どちらかといえばそう思わない	15.5		無回答	4.7

問41 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。( は1つだけ) n = 1,623

1	満 足	6.0%	3	やや不満	22.4	5	わからない	21.9
2	やや満足	35.7	4	不 満	8.6		無回答	5.4

問42 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目にどの程度あてはまりますか。

( は各項目とも1つだけ)

n = 1,623

	そう 思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう 思わない	わか ら ない	無回答
回答例 ---▶	1	2	③	4	5	
(1) 足立区に愛着をもっている	28.5%	42.7	9.1	8.1	6.4	5.3
(2) 足立区に誇りをもっている	10.5	26.4	23.5	17.9	13.6	8.0
(3) 足立区を人に勧めたい	9.1	25.6	21.1	17.2	18.7	8.3

問43 区政についてのご意見、ご要望などがありましたら、どのようなことでも結構ですでお書きください。

質問は以上で終わりです。ご協力、まことにありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、このアンケート用紙と一緒にお送りしました返信用封筒(切手を貼る必要はありません)に入れて10月26日(水)までにご投函ください。

---

## 第40回 足立区政に関する世論調査

2012年3月

発行 足立区政策経営部  
広報室長付区民の声相談課  
東京都足立区中央本町1-17-1  
電話 03-3880-5111(代表)

実施 株式会社エスピー研  
東京都千代田区飯田橋3-11-20  
電話 03-3239-0071(代表)



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでもご覧いただけます。  
ホームページアドレス<http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室長付区民の声相談課